續羣書類從

第拾輯上

東京

續群書類從完成會

續群書類從第十輯上目次

官職部

律令部

公事部

續群書類從第十輯上目次 終

續群書類從卷第二百四十四

總撿挍保己一集

男　源　忠　寶　校

官職部一

百官和秘抄

百官といふは天子にしたがふ内外の諸臣なり。かならず百の員數にてはあらざれども。百は數のおほき義なり。内裏を百敷と申も。百官の座をしかるゝゆへなり。延喜（醍醐帝）天暦（村上帝）の已往は。賢才をゑらみて官位にあげられ。それより後には重代を用ひて。その身の堪否をゑらまれず。これ末代の政の陵遲のゆへなり。賢をもちひ佞をしりぞくるを本とす。

神祇官

神祇官といふは。いまの八神殿にわたらせ給ふ神祇官の事なり。これを本官と申。神祇の人々天下の御祈を申時。此本官に候じて申なり。

伯

花山院の御子淸仁親王の子孫（今の白川家なり）。相續して他人にんぜず。

大副（權大副）　少副（權少副）

大中臣（藤波家也）。齋部。卜部（吉田家也）。この三姓の人にんず。諸社の神主は任ぜず。

祐（まへにおなじ）

史（大少あり）

太政官

太政官とは。眞實朝家の政を成敗する所なり。今官の廳なんど申此儀なり。大臣公卿政務成敗する人は。みな太政官の上官なり。辨少納言外記史も。太政官の內の官なり。

太政大臣一人

國を治め。道をろんじ。陰陽をおさむるよし。令條に見へたり。されば王佐の才をたくはへて。天子をたすけたてまつる器用の人のなるべき官也。その人なければ是をかく。このゆへに則闕の官と申也。

左大臣一人

左大臣は第一の臣下なれば。太政官の中の事を悉執沙汰する也。何事も禁中の公事は。一上參て行ずるなり。不參の時に。次の大臣（久我家のこと也三條西園寺家等也）大納言も奉行する事にて侍り。これも中院閑院の黨。重代の人々才能によりて任ずるなり。昔は文才なき人の大臣に任ずる事なき也。中古以來譜代とて。無智無能の人を任ず。まつりごとのすたるゝなりと。

右大臣一人

つかさどる事左大臣とおなじ。又任ずる人も同事也。左大臣參ぜざる時は。なに事も右大臣行べし。又左大臣なき時は。右大臣一上の宣旨をかうぶる也と云々。

內大臣一人

天智朝中臣の鎌子（鎌足公のこと也）任ず。

准大臣（正官也）これは人數さだまらす。官にあらざれば辭退といふ事もなし。これをよぶには稱號を加てよぶ。假令ば勸修寺儀同。日野儀同などよぶ。又勅撰などに儀同三司と書て。名字のかた字を下傍につくるなり。前儀同。新儀同などよぶ事もなし。

攝政關白

攝政に二の義あり。むかし堯の時。舜に世の政を攝政せさせられしなり。舜の禹に又政をせさせられしは。みな國家をゆづらんため。まづこゝろみの攝政なり。本朝にも欽明天皇の時に。聖德太子の攝政せられし。此義なり。一には天子のおさなくわたらせ給ふ時。政をあづかりて攝政する也。攝政は座を天子にひとしくならべ。天下の政を成敗する也。されば天子にひとしき義也。關白は萬機をあづかりまうさしむるゆへに。關白と申也。むかし霍光幼主にあらざるゆへに。政を宣帝にかへす時に。其人をおもんじて。萬機を關白せしむといふ故事より。始て關白の號あり。淸和天皇いとけなうして位につく。文德の遺詔を請て。外祖忠仁公攝政す。是人臣の攝政するはじめなり。執柄はかならず一座の宣旨をかうぶるゆへに。一人とも申し。一所とも申なり。

大納言十人

天子の喉舌の官なり。下の申事をば上へ申し。上の事を下へのぶる職也。又君のあしき事仰せらるゝをよき事に申よし。令條にみへたり。

中納言十人

つかさどる所は大納言におなじ。又任ずる人も大略同事也。中納言の中將と申人。たゞ一人也。執柄の臣外なし。公事上卿と申事は。大臣より納言迄是を勤むべし。

參議八人

攝家は久しく參議を經歷したまはず。淸華は今に經歷す。但直に三位の中將より中納言に任じたまふ。大中納言みな故障の時。參議公事を行事あり。これを參議行事といふ。是すなはち上卿也。陣の座にて。物をよみ。

右筆をする器なり。文才なくては任ぜざる事也。參議には執柄も諸家名家の人々もみな任ずる也。大同の御宇。參議をやめて五畿七道の觀察使をおく。觀察使とは。國司の政もの丶善惡をみせにつかはして。賞罰を行なはる丶也。弘仁の御宇に。觀察使をやめて參議とすと云々。

少納言三人

詔勅宣下などの事をつかさどる。名家の人も儒者も誰もなる也。譜代の者任ずるなり。故實なき人はならぬ事なり。少納言かならず侍從をかぬ。侍從少納言と云。令御注に見へたり。

外記大少

恒例臨時の公事。除目叙位とうの事。奉行する官也。

七辨左右大辨　左右中辨　左右少辨　權辨　中少辨之間に在之

陣の右筆諸事奉行する器也。名家の儒家殊に執す。管轄の仁。車にてはぢく丶さび也。權衡の職とは。はかりのさほ也。肝心と云義也。宮中のかんよふと云心也。

史八人

左右大史各二人一史を官務といふ。太政官の文書ことごくこれをしる。樞要の官といふ。斥のくろ丶。扇のかなめほどなる官といふ心なり。

左右少史各二人小槻一族門徒等任ずる也。

史生廿人左右

安倍氏。紀氏。小槻の長者に與力する者をなす。

官掌四人(左右)

太政官はそのよせたにことなり。仍史生官掌なを重職たり。

中務省

此省は詔勅宣命もろ〳〵の宣旨をおさむる

所也。位記なども此所へ下さるべし。

卿

親王これに任ず。臣下任せず。文官といへども帯劍之職なり。

大輔權

雲客諸大夫にいたるまで任ずる也。

少輔權

任ずる器用大輔に同じ。治部民部兵部これを執す。此省大少輔あながちしつせず。

大少丞

しかるべき。六位の侍これに任ず。

侍從令には八人也。

侍從は拾遺補闕の官たるによつて。古來これを執す。大中納言參木散二三位も兼任す。大臣も兼任之例ある歟。名家諸大夫など。近代初官に侍從拜任事。頗過分の事也。

內舍人九十人是むかしの事也。

是は童殿上人なる官也。昔は武勇をならはせける程に。內舍人をば坂東國へつかはされけるとぞ。今は元服せずして殿上の簡につくは。皆內舍人也。又下﨟も內舍人にはなる也。侍の任ずる時は。舍人を略して源內平內と號す。左右衛門尉に任ずる時。源內左衛門尉。平內右衛門尉といふ。自餘可准知。

內記大〔中〕少

和漢の才學ある人をなさるゝ也。今は儒家諸大夫などの任ずる也。詔勅宣。內記のつかさどる所也。少內記は近代六位地下史などの常に任ずる也。

監物〔大中少〕

官鑰をおさむるなり。地下の五位以下侍の官也。

主鈴すゞのつかさ。

近代あながち任ぜず。

典鎰かぎのつかさ。
　おなじ。
太皇大后宮職おほきおほひきさいのみや　帝王祖母
皇太后宮職おほきさいのみや　帝王母
皇后宮職きさいのみや　帝王妻已上これを三宮といふ
中宮職　帝王妻
大夫　權大夫
　これはその后にしたしき人任ずべし。執柄も三家の人も任ず。后宮の内を管領する也。
亮權亮
　四位の殿上人のなる也。公達も名家も任ず。時によるべし。
大進
　名家の五位任ず。　少進權　諸大夫　五位六位任ず。
大舍人寮
　宿直の事をつかさどる。節會の諸卿をめす事は。大舍人の役なり。
頭
　四位以下地下の輩。暦陰など是に任ず。
助權助
　本寮とは。大舍人頭より奏するにしたがひて任ぜらるゝ。これを本寮の奏といふ。
允大少
　六位の侍にんず。
内藏寮
　御服御膳等をつかさどる。
頭山科家に任する例也。
　天子の御服を奉行する人なれば。口傳も故實もなき人はならず。主上の御服を裁縫する用なれば。妻いやしき人をもたず。しゆじやうゑらぶべし。
助
　是も地下の五位六位任ず。賀茂祭四月中酉

日に。山城使内藏使とて騎馬にてわたる。近衛使は。内裏よりまさしき勅使にて。御社に詣て宣命を讀也。山城は賀茂大明神は當國の地主たるあいだ。其國司參詣する也。内藏使又御幣などの事によりて。同參向する歟。

縫殿寮

衣服を裁縫ことをつかさどる。

頭

地下の四位五位これに任ず。

助權助　允大少　六位任ず。

陰陽寮

天文とは日月星辰の事。暦數とは五行の次第。こよみの事をさとる。(マヽ)吉凶をうらなひかんがへ申也。天文暦風雲の氣をうかゞふ職也。天地變異を奏聞す。是を密奏といふ。

頭

陰陽道のともがら。賀茂(幸徳井)安倍(土御門)の兩家の第一の者これに任ず。さらに他人任ぜぬ官也。ことさら名譽重代の者をゑらみてなさる。

陰陽博士

當道の輩の内。しかるべき仁是に任ず。

暦博士

推古天皇十二年甲子正月戊午日。始て暦を用らる。

天文博士

密奏宣旨とて。變異を伺奏すべき由の宣旨をかうぶる。

漏刻博士

漏水のうつるを守て。時を正す職なり。

内匠寮

頭

是も地下の五位醫陰兩道などの任する也。

助權允

六位の侍任ず。

式部省
内外の官の事をつかさどる。兵部は武官をつかさどる。人の才能をゑらぶなり。
卿
第一の親王是に任ず。さらにつねの人臣は任ぜぬ事也。
大輔 権
儒者の才名ある人の任ずる事也。中納言にて式部大輔に任ずる例あり。
少輔　権少輔　権大輔ある時は任ぜず。
大丞
地下六位是に任ず。少丞六位藏人など任ず。
式部丞兵部丞を二省の丞といふ。
大學寮
儒道のともがら。道に達て名譽の者是に任ずべし。此寮には先聖先師の御影をかけてまつり。諸國よりゑらびいだされたる學生。晝夜學文をする所なり。
頭
四道の儒士出身のところなり。紀傳明經明法算道也。
助 権助　諸大夫任ず。
允大少　六位任ず。
文章博士
紀傳道の儒士の任ずる也。中納言にて兼任の例あり。
博士
明經道の儒これに任ず。大博士とがうす。
助教　直講
明教道のともがらこれに任ず。
音博士　書博士
同道のすゑの儒任ずる也。
明法博士
法曹の儒これに任ず。律令格式を宗業とす。

算博士
算術をならへり。
紀傳儒は。史記。漢書。後漢書。文選等を家業とす。明經は。十三經を家業とす。紀傳は。古來登川の人あり。明法には。昔寛平（宇多帝）侍讀（菅原家也）として。愛成（ちかしげ）升殿をゆるさる。清原良枝は。龜山。後宇多。後二條。後伏見。持明院。新院。東宮。七代の侍讀に參り。內升殿を聽されて。今皇迄十二代にあまり。仙籍をゆり。侍從の三位になさる。明鏡の義也。

治部省
もろ〳〵の祥瑞の事をつかさどり奏するなり。

卿
三位以上の公卿の任ずるなり。殿上の四位已上も任ず。名家の人々ことにこれに任ず。

大輔
四位五位可然諸大夫極官也。

權大輔
名家の人々諸大夫しかるべき輩任ず。

少輔
大輔は少輔にまさり侍れども。家にしたがひてあながちさほど勝劣はなし。

權少輔
子細同前。名家人也。地下の諸大夫も是に任ず。

丞大少
六位の侍任ず。

雅樂寮
歌舞の事をつかさどり。男女の樂人音聲をゑらびて。此寮にて稽古をせしなり。

頭
諸大夫醫陰のともがらこれに任ず。

助權

地下諸大夫これに任ずべし。

玄蕃寮

鴻臚館なり。延暦（桓武帝）遷都の始め。東西の大官〔官舎〕にこれをおかる。弘仁（嵯峨帝）に東の鴻臚館を東寺として弘法大師に給ふ。西の鴻臚館を修因僧都に給ふ。其後七條朱雀に鴻臚館をたつ。外蕃と申て。異國の人をおかるゝ所なり。

頭

地下の諸大夫諸道の輩がらこれに任ず。

助 權助

六位諸大夫任ず。

諸陵寮

天子の山陵をつかさどる。むかしより天皇の代々の御墓を奉行する也。

頭

陰陽道のともがら宿老の人を任ずべし。

助 權助

同ともがら六位これに任ず。

民部省

此省は諸國の事をつかさどる也。國々の年貢など。此省に沙汰しける也。民部省の圖帳とて。日本國指圖境などの定たるふみ數百卷。此省に昔より傳はりて。日本國の重寶にて侍る也。近頃はうせて見へ侍らず。

卿

是はしかるべき納言以上のなる事也。むかしは殊更執し侍る官也。宿老の納言なる也。諸國の事などを取沙汰して。天下の大事にいろふべきゆへなり。

大輔

殿上の四位五位。地下の人々任ずる也。名家儒道の人々皆是に任ず。

權大輔

四位五位名家諸家みなこれに任ず。

少輔權少輔
殿上地下の五位是に任ず。
丞大少
六位の侍任ず。
主計寮
諸國の年貢雜物をかぞへおさむるよし。令條にみへたり。
頭
地下五位六位是に任ず。
助權助
地下の六位是に任ず。
允大少
六位の侍任ず。
主税寮
頭　助權助　允大少
主計におなじ。
倉庫諸國の年貢の事をつかさどる。大炊寮におさむる米をも。此寮よりかぞへ入るゝなり。頭には官外記諸道の輩任ず。
兵部省
内外武官の事をつかさどる。武官の事は此省に成敗する事なり。兵器武具を此省におさめける也。又城のかまへ溝をほる事も。此省の役也。
卿
將軍などの様に武藝にたづさはる事はなし。只武官の事を奉行する也。
大輔權大輔　少輔權少輔
名家の四位五位任ず。
丞大少
六位諸大夫しかるべき侍任ず。
隼人司
行列の事をつかさどる。
正

いたく人の執せぬ職なり。地下におほく是に任ず。

佑

六位の侍任ず。

刑部省

斷獄とはうたへをことわる也。贖銅は。罪の輕重によて。銅を出して罪をあがなふ事をつかさどる。

卿

四位の人これに任ず。名家儒家など皆任ず。

大輔権大輔　少輔権少輔

名家五位。諸大夫五位任ず。

丞大少

六位侍任ず。

大判事　中判事　少判事

人の罪名を判ずる職なり。是も撿非違使の一の者。明法のともがら任ずる官也。大判事は明法の輩極官なり。他人任ぜず。人をせんじてこれを任ずる也。

囚獄司

獄門の事をつかさどる。

正　佑

近代此つかさに任ずる人なし。よび名不吉なるによりて也。

大藏省

諸國の米錢金銀珠玉よろづの雜物をおさめらるゝ所なり。天子の御藏也。

卿

四位已上任ず。

大輔権大輔　少輔権少輔

名家の殿上人。地下諸大夫ともに任ず。

丞大少

六位の侍任ず。

織部司

錦綾綺羅の風情をおり侍る職也。いとなん
どをもそめる事をつかさどる。今のおゝと(大宿直)
のなど申やう成所也。
正　地下五位是になる。
佑　六位の侍任ず。
宮內省
官田御膳様の事をつかさどる。
卿
三四位名家儒家みな是に任ず。
大輔 權大輔　少輔 權少輔
名家の殿上人。諸大夫五位任ず。
丞大少
六位侍任ず。
大膳職
諸國のもろ〳〵の食物をつかさどる。今は
朝廷の禮にたまふ饗膳をば。皆大膳職より
沙汰する也。

大夫
殿上四位五位。地下諸大夫ともに任ず。
亮 權亮　諸大夫侍ともに任ず。
進大少　六位侍任ず。
木工寮
木作の事をつかさどる。番匠の管領す。今も
內裏御修理御造作。みな此寮の沙汰なり。
頭
四位五位任ず。禁中修理以下奉行の仁た
る間。代々其人をゑらびてなさるゝ也。
權頭
是も五位諸大夫諸道の者ども任ずる官也。
いたく執せず。
助 權助
六位諸大夫任ず。
允大少　屬大少　大工　權大工　少工　權少工
みな番匠の名也。算師も有。

大炊寮
諸國の米穀并諸國の食物をおさめおかるゝ所也。後三條院大炊寮の御稲田とて。諸國に定おかれし。今に禁中第一の用脚也。近代清三位家につけらる。

頭
四位五位諸大夫任ず。

助 権助　六位諸大夫任ず。

允 大少　六位侍任ず。

主殿寮

頭
禁中殿庭を掃除して。松柴炭燎などの事をつかさどる。五位諸大夫任ず。近代壬生官務につけらる。

典藥寮

頭
醫道の極官也。ことに名譽のともがらゑらばる。

助 権助
五位六位ともに任ず。

允 大少
同輩門徒任ず。

醫博士　近代五位なり。

女醫博士 権女醫博士　女の療養す。

針博士 権針博士　四位五位これになる。

侍醫
當道のしかるべき四位五位これに任ず。

權侍醫
前におなじ。醫師六位是になる。

掃部寮
陣の座の莚。行幸の莚道なんどをしきまうくる也。むしろ風情の物をさたする所なり。

頭
諸道四位五位是に任ず。

助 権助

地下五位六位是に任ず。

允 大少

六位侍任ず。

正親司

天子したしき宮などの事奉行するなり。

正　地下の五位任ず。

佑　六位是になる。

内膳司

天子の供御を奉行する也。たとへば膳部所など申所。同じ事なり。昔は内膳の御飯ならでは。主上きこしめさぬ事なり。

別當

しかるべき大納言以下是に任ず。御膳を奉行すべきなれば。公達もしかるべき家々の人も任ず。

正

四位五位これになる。

奉膳　典膳

六位是になる。

造酒司

酒を作る所也。酒屋をかまへ。酒壺奉行する所也

正

諸道四位五位是に任ず。酒麴役とて。酒屋より公事いたすなり。

釆女司

諸國よりまいる釆女を。此所におかる。國々よりしかるべき美女をゑらびて。天子へまいらする也。

正

醫陰兩道の輩など是に任ず。

佑 権佑

六位以下是に任ず。

主水司
常もんどんといふ。
正
諸國の氷室をつかさどる。今も諸國の氷室をしる。淸三位家につけられて。他人にんぜず。
彈正臺
諸事の非法をたゞす。むかしは宮中の撿斷を行しなり。近代は撿非違使の廳にて。犯人をたゞす事になり。此臺昔のとくならざる也。
尹
三家の人どもなる官也。
大弼　少弼
殿上四位五位是に任ず。
忠
六位諸大夫侍も任ず。

左京職
大内の時。東京の事を糺彈すべき職なれども。撿非違使に糺彈をつかさどるほどに。當職昔のごとくならざる也。
大夫
殿上地下の四位これに任ず。四職の大夫は殊に執せらるゝ職にて。諸大夫の極官なり。
權大夫
四位五位是になる。
亮權亮　諸大夫任ず。
進大少　六位侍任ず。
東市司
東西の字をつけずして市正。
正　市の事をつかさどる。
佑權佑　六位以下任ず。
右京職
西の京の事をつかさどる。

大夫権大夫　亮権亮　進大少
左京職におなじ。
西市司。
西京の事をつかさどる。
正　佑権佑
東市におなじ。
東宮
唐には。東宮の下に諸官職をおけり。日本にはなし。坊官の除目とて。春宮がたの官を任ずる除目也。
傅
執柄大臣是に任ず。東宮を扶佐したてまつる職にて。殊に執する也。攝政太政大臣左右内大臣の兼官にする規模の官也。
春宮坊
春宮の御在所の名なり。春宮など申。東の方にかたどる。春のこゝろなり。

大夫
しかるべき大納言已上是になる。規模の官也。坊中の事は大夫の執権なり。
権大夫
中納言以上人これに任ず。
亮
殿上の四位しかるべき人これに任ず。
権亮
中少將これをかぬ。
大進権大進
五位以下任ず。名家の人々も何もなる。
少進権少進
五位以下これに任ず。
主膳監　正
春宮の御膳をつかさどる職也。
主殿署　首
とのもりのつかさ。春宮の修理造作を奉行

する職也。

主馬署
毎日番におりて祗候する官也。
帯刀左衛門尉　帯刀右衛門尉　帯刀兵衛尉など云侍あり。重代の侍をゑらびて。公家よりぶせらる。むかしは源平武士おほくこれにぶす。

伊勢齋宮寮

頭
四位五位の殿上人。もしは諸大夫任ず。
後三條院御代より絶たり。

賀茂齋院司
齋宮をもいつきのみやと申也。
賀茂の齋院御座の時此官あるべし。

長官
長官はことく〳〵く齋院の事をつかさどり行ふ。

修理職
內裏修理造作の事を奉行する職也。

大夫　權大夫　亮　權亮
大夫は四位已上これに任ず。權大夫は四位五位殿上人任ず。亮。權亮は諸大夫これに任ず。四職は左右京大夫。修理。大膳大夫なり。
武家には事の外これを執せらる。

勘解由使
諸國年貢をたゞし。國司の善惡をたゞす。
長官三位以上可然人皆是に任ず。近來儒者名譽人任ぜらるゝなり。

次官　殿上人地下の四位五位是に任ず。

判官
六位侍任ず。

鑄錢司
むかしは錢をゐける所なり。今此官なければ。子細しるさず。

長官　次官
判官　主典
防鴨河使
使
廷尉の佐かぬ。使宣旨とは。廷尉にかける左右衛門。左右兵衛等の權の佐にて。防鴨河使を兼帶するなり。
施藥院使
使
醫道の四位以下任ず。彼道の重職なり。
判官　主典
辨外記別當となる。諸國の藥種おさめ申所也。病人を養所なり。
撿非違使
是を使廳といふ。
別當
中納言參議の外ならず。此職に補する人は。衛門兵衛督をいたす。唐名を大理といふ。大理にぶする人は。七德をそなへざるはあるべからずと云々。
佐
左右衛門權佐たる人使宣旨をかふむる。正佐はたまさかなる事也。職事など任ず。
尉
判官とせうす。大夫とは六位尉五位になるをいふ。大夫尉源義經は。昇殿の廷尉たりと云々。源平武士これになす。
志
明法道のともがら六位の時。衛門志に任じ。使宣旨をかうむる也。
府生
奏任の官にあらず。府督よりなして。使宣旨を申くだすなり。
藏人所

別當
第一の大臣たる人これにぶす。
頭二人
殿上を管領す。辨がた（頭辨といふ）に一人。近衛司（頭中將といふ）に一人なり。公達も名家も。殊器用をゑらびて任ぜらる。
五位藏人三人
三家の人々名家。いつも重代によりて補せらる。
六位藏人四人
名家儒家諸大夫重代の者是に補するなり。禁色をきる。
非藏人員數なし
重代の諸大夫の中。藏人にいまだならざるあいだ。まづ昇殿をとぐ。これを非藏人といふ。又非職の者ともいふ。
出納
くわんにあらず。殿上の下にて諸事奉行する者也。
小舍人
出納御倉などが下にて。雜事に召使なり。
雜色
しかるべき諸大夫の子など補す。
所衆
六位侍しかるべきともがらこれにぶす。
瀧口
龜山院御在位の初。これにめしくはへらる。隨分侍の中にて執するなり。
諸國
大上中下國あり。諸國の守を受領と申。國司の事なり。當時の守護人の事なり。
守
殿上地下五位これに任ず。
權守

地下の五位六位これに任ず。參木雲客などの兼官になる事もあり。

介　權介

地下五位任ず。公卿殿上人など兼官は別事也。

大掾　權大掾

六位下品の者任ず。　少掾　權少掾同上。

大目

七位の者任ず。　權大目おなじ。

畿內五箇國

(上)山城　(大)大和　(大)河內　(下)和泉　(上)攝津つトばかり讀

東海道十五箇國

(下)伊賀　(大)伊勢　(下)志摩　(上)尾張　(上)參河　(上)遠江

(上)駿河　(下)伊豆　(上)甲斐　(上)相模　(大)武藏　(中)安房

(大)上總有太守　(大)下總　(大)常陸有太守

太守は親王のならるゝ太守なり。諸人介に任ず。

東山道八箇國

(大)近江　(上)美濃　(下)飛驒　(上)信濃　(大)上野有太守

(上)下野　(大)陸奧　(上)出羽

陸奧出羽按察使府

按察使

陸奧出羽を管領する職也。

陸奧出羽は大國にてある間。此兩國をば殊更成敗する所なり。

鎭守府　大將軍　副將軍

府國あひならびて。國の事をおこなふ。

秋田の城介

出羽の介たる人是をかぬ。

北陸道七箇國

(中)若狹　(大)越前　(上)加賀　(中)能登　(上)越中　(中)越後

(中)佐渡

山陰道八箇國

(上)丹波　(中)丹後　(上)但馬　(上)因幡　(上)伯耆　(上)出雲

中石見　下隠岐

山陽道八箇國

大播磨　上美作　上備前　上備中　上備後　上安藝

上周防　中長門

南海道六箇國

上紀伊　下淡路　上阿波　上讃岐　上伊豫　中土佐

西海道十一箇國

大宰府

此府には。醫陰兩道をおかるゝ也。

帥

親王是に任ず。臣下は任ぜず。

權帥

大納言以下是に任ず。前官の前大納言前中納言など。太宰權帥に任ずれば。帥大納言と云。

大貳

參議散二三位任ず。非參議四位又任ず。權帥あれば大貳任ぜず。大貳あれば權帥に任ぜず。いはれなしといへども。これ流例なり。

少貳　權少貳

五位任ず。

大監　少監

六位侍任ず。

大典　少典

府中有緣のともがらこれに任ず。此外博士算師大唐通事とう。上古これに任ず。太宰府は京より程遠によりて。文章に通たる博士を相副なり。又算師醫師などいふ官をもしたにおく也。

上筑前　上筑後　上肥前　大肥後　上豐前　上豐後

中日向　大隅　薩摩これを九國といふ。

壹岐　對馬是を二島といふ。

諸衞

左右近衞府

近衛府といふは。君を近く衛たてまつる武勇の職也。左右衛門。左右兵衛をば外衛といふ。これは宮城の外を警固する職也。近衛は門内を警固すべし。宿衛とは。宿直して夜をまぼるもの也。

大將

府のかみと申は。近衛大將也。執柄三家の人人殊に執する職也。大臣などよりも。大納言の兼官也。中納言の大將はまれなる也。弓箭を帯する武官也。

中少將

近衛のすけと申は。公達殿上人 四位五位これに任ず。禁中警固の職也。これ兵杖を帯すべし。

將監

五位六位任ず。助尉はなきなり。左近尉と申。將監の事なり。

將曹

随身これに任ず。府生よ(前ヵ)におなじ。

番長

随身番におりて大將の所に候じてゐるゆへに。番長と號する也。

外衛

門の外を警固する也。

左右衛門府

是も宮城守護の職也。左右衛門は弓矢を帯す。

督

大納言是に任ず。執せらるゝ官也。

右衛門督

子細左衛門督におなじ。納言三位 四位以上任ず。

佐

四位五位任ず。

權佐
五位任ず。五位の藏人辨官此佐をかね。使の宣旨かうむる。
尉
五位六位任ず。
左右兵衞府
是も禁中けいごの官なり。門外のかためをする。衞門府のごとし。
督
中納言以下四位以上。みなこれに任ず。
佐　權佐
五位の殿上人中しかるべきともがら是に任ず。
尉
六位の諸大夫侍も任ず。
志
左右馬寮
諸國の牧の馬を立おかる。延喜式にのするところ。毎年數百匹に及べり。奉行中職なり。
頭　權頭
四位五位任ず。殊に人をゑらばるゝなり。
助 權助
六位これに任ず。
允
瀧口の侍かならずなる。
兵庫寮
兵器をおさめらるゝ所なり。
頭
四位五位これに任ず。武官にてせいせんの官也。
助 權助
地下の六位任ず。
允 大少

六位侍なる。
外武の官
將帥の職とは。諸卒をひきゐるなり。大將を帥といふ。
鎮守府
將軍
陸奥出羽を管領する也。
副將軍
將軍の下づかさとみえたり。
軍監　軍曹
武勇にたへたる者なり。
征夷使
大將軍
昔は三位四位など。武勇に付て成侍にや。四夷をしづめ。邊國をおさめ。逆臣を征討し。一朝を守護の職也。四海をけいごする武將也。右大將賴朝以後執す。

親王
皇子を親王と申す。親王宣下せらる。一品より四品をは有品なり。五品にあたるをば。五品といはず無品といふ。令條に五品といふ名目なき也。
公卿
攝政關白三公を公といふ。散一位より三位已上をば卿といふなり。
諸王
親王宣下をかうぶらざるをば諸王といふ。
諸臣
四位以下初位已上を諸臣といふ。
先一人　一所とも
攝家近衞殿　九條殿　二條殿　一條殿　鷹司殿と申すなり。
公達
三家の花族なり。中院土御門流といふ。雅定大臣以後中院と号す。久我と今は云。久我の庶子に中院あり。

閑院（九條右大臣師輔公の十一男公季大臣子孫なり。後大臣を閑院太政大臣とがうせしなり。）

轉法輪三條　西園寺　徳大寺　菊亭

花山院（京極關白の息花山院としようす。家忠大臣の子孫也。）此外大炊御門（家忠大臣の弟經實大納言の子孫なり。）三家を清花と云。

諸大夫

六條修理大夫顯季餘流。四條隆房大納言子孫。名家とがうするは。大藏卿爲房餘胤。勸修寺葉室子孫。參議有國子孫。大福寺日野一門。中納言親宗子孫。平氏等也。紀傳は菅氏一流。明經は清原一流。源平兩家後胤。官務外記にいたるまで。諸大夫の一列也云々。

侍

一たび公卿の家にて侍り（仕へる者）といへるなるべし。五位侍とあり。弘安（弘安禮節と號）の比。書札の禮を定る時。五位六位下北面とかゝる。諸司官人としようする是也。

百官和秘抄。一家相傳秘中秘也。拭澁眼染禿筆。奉進献　（秀吉公也）關白殿下御前者也。

于時天正十三年十一月節大吉日

正三位清原朝臣枝賢入道

雪庵道白上

于時享保甲寅年初冬下八日夜書寫畢

速水房常

以宮内省圖書寮本加一校畢

續群書類從卷第二百四十五

官職部二

諸司職掌

交名目錄

一局務　掃部頭兼大外記又造酒正助教等兼之
一官務　兼左大史兼主殿頭中務大輔
一少外記
一左右少史
一內記局　少內記今六位外記史兼之
一史生　外記
一右史生　官　今加之　兼行事官又云行事所兼知神祇官歟
一文殿　壹人
一官掌　左二人右二人
一召使　今外記方二人官方二人
一使部七人　外記方三人官方四人

一使王
一忌部
一內膳司
一御厨子所小預
一大膳職
一內藏寮
一造酒司
一內豎　兩人兼主鈴
一戸屋主　兩人
一行事所預　藏人所下司也
一兵庫寮　頭　鼓師鉦師　兩人
一主殿寮官人有兩流　伴氏佐伯氏
一生火官人　兩人
一圖書寮
一釜殿　六人
一大藏省　兼知左近府年預

一木工寮
一布毯預內藏官人
一掃部寮兩人
一御藏小舍人
一仕人三人
一修理職兩人
一南座兩人
一主水司
一鎰取兩人
一左右馬寮兩人
一內舍人
一大舍人左右四人
一陣官人兩人
一鉾立
一四府兒部四人沙汰人壹人
一衛士左右四人
一御香水役人
一幡鉾立
一贊者兩人　院
一壺召次
一承仕預
一藏人所出兼知內藏寮年預并右近衛府驅頭
△局務掃部頭兼大外記又造酒正助教等兼之
一令曰。大外記二人。掌勘詔奏。及讀申公文。勘署文案。撿出稽失。
一西宮記曰。節會行幸公宴等。惣臨時可仰諸司事。外記所奉行也。

一禁秘御抄云。康治節會。少納言不參。以外記使部召之。藏人方ハ馬部云々。
一掃部頭兼之。乃知寮職之事。疊薦莚道以下令設之。古者御殿御簾疊等悉調進之。
一職事要略云。御更衣之節。御座以下所々疊。
一向掃部寮沙汰之云々。
一造酒正兼之。故節會勸盃執酌。天正之中頃迄。洛中酒家之公事物。廣橋殿與當司正相對而領納之。
一助教兼之。改元勘文調進之。又御卽位公卿禮服。自藏人方受之。納大學寮事奉仕之。破却之時加修理云々。今不然。
一諸節會叙位除目。恒例臨時之公事等奉行之。
一百官宣旨等。應上卿之下知書之。
△官務兼左大史兼主殿頭又中務大輔
一廣解文集曰。六辨。八史。四十史生。四官掌。八十使部。謂之上官云々。

一伊勢兩宮禰宜宣旨書之。神寳御裝束等奉行之。(少史史生官掌等)相共奉行之。

一諸社造營日時定陣儀。遷宮以下奉行幷宣旨書之。又親王家將軍家法中方等之宣旨書之。

一諸陣儀。官方辨參軾。(謂之參仕辨。)上卿仰勅宣之旨。(於床子座前。)辨退上宣之趣傳史。幷親王宣下御名字。自辨下史。又勘文吉書文書等。悉自辨下史。

一諸宣旨例。(見西宮記。)

諸司諸寺所々別當事。

外記所充申一上。史所充以大辨宣書之。

一官方宣旨之事。辨官所書。謂之大宣旨。官務所書。謂之小宣旨。因茲官方辨(參仕辨也。)與官務連署。若於職事辨者。除藏人之二字。是流例也。而近頃所書之宣旨。藏人頭中將與官務有連署。不可也。雖除藏人頭三字。中將者是羽林方也。(非官方。)既宣旨之發端書左辨官下。

一古者諸法事奉行。今者不然也。

一主殿頭雖兼之。不知寮職之事。

一中務大輔兼之。白馬踏歌之舞姬樂前大夫之役。自何頃被勤之哉。不知其來由。

式曰。凡女樂踏歌前行。擇侍從有容儀者二人令供奉。若遁隱不供。無給當日祿云々。

一孝亮中務大輔之時。知宣命之事由。令披露東照社。奉幣使發遣陣之時。宣命下輔。(孝亮勤役。)甚以非也。

諸社奉幣發遣之次第。勅使公卿之時者。次官一人必召供人。(地下諸大夫多四位參仕。)於陣座。自上卿受奉幣使宣命出陣。而於宣仁門之外授次官令持之事。古今之例也。奉幣使侍臣之時參軾。自上卿宣命給之。乃於陣外懷中。

△少外記

一令曰。少外記二人。掌同大外記。職原抄云。少外記三人云々。近代應局務諸公事奉仕之。幷

神社祭參向。
一御卽位幷諸節會。着外辨幄。催國栖。押笏紙。御酒勅使交名萬奏聞等奉仕。外任奏設之。白馬催馬。大將內辨之時。硯奉仕。文殿硯也。式兵代司申之。
一朔旦冬至表函案等舁之。
一除目筥文三合硯等。四人奉仕。
△左右少史
一掌同左大史。
一御卽位幷節會。着外辨幄。催立樂。陣指油奉仕之。於灯油者。主殿民部大夫調進之。
太神宮御造替。神寶御裝束等。大史與官掌以上相共奉行之。同遷宮參向。幷諸社遷宮神社祭等參仕云々。
△內記局少內記今六位外記史兼之
一少內記二人。掌同大內記云々。
一凡應授五位及勳六等以上者。內記執硯紙筥。昇殿上。書位記授訖。卽以位案送中務省。神階尼位案亦送。但臨時位記。中納言以上。奉勅使於宜陽殿及陣邊令書之。
一凡五位已上位記料雜物。色紙羅綾綺帛帶軸等。量其可用之數。作奏進內侍奏覽了。羅綾綺帛帶者。卽自內侍所得之。色紙者。受藏人所。赤木黃楊厚朴等軸。受內匠寮。
一凡書位記料麻紙者。上總國一百五十張。下野國一百張。每年進之。詔書料黃紙者。隨用直奏。受藏人所。
一凡納位記料華筥八合。絲絹八尺。結筥帶料。並隨損付內侍奏。受內藏寮。
一凡納贈位記料柳筥。臨時受內藏寮。
一凡從圖書寮所請。紙二百張。筆十管。月料。墨六廷。年料。
一諸公事。近年少內記參役之事。就詔勅宣命等。上卿奏聞之時奉仕之。

一叙位之位記。式兵省結之。

一神社位記幷奉幣發遣陣上卿奏聞之時追從。外記

△史生

一令曰。掌繕寫公文行署文案。餘史生准此。

一神祇式第六曰。太政官史生。謂之外記史生。

辨官史生。謂之官史生。

一式部式曰。太政官史生十一人。權一人。

左右辨官史生各十八人。各權二人。

△右史生官兼行事官又云行事

兼知神祇官歟

一令曰。掌繕寫公文行署文案。左右史生各十人云々。

式曰。各二十人云々。

一諸公事。隨官務之下知而令行事。

一諸祭贖物之事。大藏省內藏木工寮等設之。送神祇官。乃史生奉仕之。史生令調進事非也。

一太神宮御造替御裝束之事。官務以下少史史生官掌以上各奉仕之。古者諸司各所儲之具。送神祇官云々。

一日月銅烏幢幷四神幢之事。兵部內匠木工等所知之。而納兵庫寮。當庫破壞之後。預神祇官之由。又雖無當官。于今官史生兼知之乎。不知其巨細。此外之具。近頃木工設之云々。

一高御座之事。木工內匠寮等造設之。於御裝束者。內藏寮所知也。乃納當寮。見寮式。是又今官方之沙汰。不知其由來。

△文殿壹人外記之

一文殿之硯。除目被用御前之硯。叙位除目幷諸陣等被用文殿硯也。

文殿者所之名也。不知累代役者之家。定可爲兼役。今立其家事。非舊法歟。猶可被尋下南局。

一凡太政官及左右文殿雜書。不得出關外。

一凡左右文殿公文者。史一人永勾當其預。左右史生各二人。每年二月相替。見太政官式。

一西宮記云。官文殿別當史。以大史爲別當。一大臣左大辨宣之。

△官掌左右二人

一令曰。左右各貳人。掌通傳訴人檢校使部守當官府庭舖設事。

一節會諸外辨時。神社遷宮祭禮等參仕。近代南殿御掃除。史生官掌等奉仕之云々。

一左官掌太神宮御幣。自近頃調進之。不知其故。

△召使今外記方二人官方人

一員數不知之。諸公事被喚仕也。又小朝拜節會諸公事等。公卿裾奉仕之。

一神社祭遷宮等參仕。

一兩局宣旨持參之時。號副使。其宣旨扶持之。內記方副使之時者。用外記方召使云々。

△使部七人外記方三人官方四人

一令曰。左使部八十人。右使部八十人云々。

一式部省式曰。太政官使部四十三人。左右辨官使部各三十人云々。

一諸公事。隨兩局之下知。催所司官申[illegible]也。

一諸節會外辨之式筥。并神社祭之式筥等。外記使部奉仕之云々。

△使王

一伊勢太神宮四度奉幣。四姓之使。是其第一也。

一近年者。伊勢兩宮遷宮之砌奉幣發遣。御卽位由奉幣發遣之時。自上卿受宣命。參向伊勢。

△忌部

一伊勢太神宮四姓之使之內。御幣帛之役。宣命詞云。大幣令捧持云々。

△內膳司

一令曰。奉膳二人。掌惣知御膳進食先嘗事。以下文略之。

私勘。職員令无正云々。職原抄曰。今代不任正。以奉膳擬正。一流之外。他人不居云々。

一式云。供御料雜器。
朱漆臺盤四面。（二面尋常料。二面節會料。）
黑漆臺盤二面。（潔齋料。）
金銀朱漆瓷雜器。
右供御雜器。從藏人所請。但尋常料臺盤二面。帊油絁二丈五尺三寸。隨破損申請。受內藏寮。
一神社祭等。官人率膳部仕丁。供御神膳事。（見式。）
一季御讀經。（見西宮抄第三。）
仰內膳備佛供。仰大膳內藏穀倉院大炊等司備僧。仰木工修理職掃部大藏等設僧房云々。
一每月朔日幷節供朝餉供御之。
一正月御齒固供之。
一正月三節會腋御膳。當司與御厨子獻之由。（見職事要略。）
當司所申晴御膳者內膳。腋御膳者御厨子所小預云々。

一御讓位御卽位御假殿新造御殿御移徙等御膳幷朝餉供奉之。
一朝覲行幸幷將軍家行幸等晴御膳供奉之。
一中宮御所立后節會。幷御齒固臨時御膳等。依仰辨備之。
右御膳之金器幷雜具等。仰新調云々。
△御厨子所小預
一每日御膳辨備之。御齒固供之。
三節會腋御膳與內膳供御之云々。
一御卽位御前物。（六本。）臺物。（二本。）五本立。（五膳。）御獻。（三獻。）
△大膳職
一內侍所幷諸社神膳供御之。
一諸節會公卿饗膳。敘位除目衝重。燕醉等之饗。幷肴菓雜餅食料之事供奉之。
△內藏寮
一諸公事。設諸公卿饗云々。今者內侍所御神樂

幷遷座之節。神饌供御之。
一春日祭奉官幣之由申之。近代者。從大藏省御幣料。付社家之間。不審。
△造酒司
一令曰。掌釀酒醴酢事。
一天正以前。隨當司正下知。酒家公事物領納之。
一神社祭供御神酒。幷宴會燕醉酒等設之。
△內豎兩人兼主鈴
一諸公事。主上出御幷雜仕勤之。諸節會勸盃奉仕之。
一東豎取御挿鞋。御輿長等持御輿駕下相待荷。見西宮記。
一東豎着冠。六位靑色若黃衣。五位袍。供奉御後。見日記。
有私曰。內豎東豎元一種歟。東豎子者女官也。猶追可勘進。

一職事要略曰。節會式筥御笏御草鞋御靴。以上內豎儲之云々。是省略之記也。既四種共。藏人方內藏行事所等調進之。乃戶屋主預之事。連綿之例也。主上出御之砌。戶屋主役送內豎。內豎進職事。節會式筥。無沙汰歟。今四方拜式筥者。于今被用之。
一主鈴依兼之。請印被捺之時。設其雜具。內匠寮式曰。凡造位記料。板二枚。長各八尺。廣二尺四寸。厚二寸。鐵尺一雙。長一尺二寸。刀子二柄。長五寸。廣一寸。机二脚。幷受木工寮。砥一顆。受大藏省。柳筥四合。受內藏寮。隨損請換云々。
一西宮記云。請印有印櫃印机印壺丹盤印板案等幷鐵尺。見外記政廳例之所。
一主鈴式曰。凡下諸國公文。少納言奏請印狀。訖主鈴印之。但勅符幷位記。少納言印之。年料所須。朱沙十二兩。膠八兩。位記料。練絲三兩。苧二斤。貲布一丈。敷印板料。柳筥二合。納印板料。亦十一斗。年終申省請受。但銅盤二口。印板漆案

二脚。緋氈二枚。拜隨損請換。
太政官牒者。主鈴封之。勅書與內記共署之。
一無中務輔者。可奏聞用近衞。無主鈴者。又用中務錄。主殿屬爲代官。見西宮記。
一位記筥。式二。兵一。三合設之。慶長寬永敍位之時調備云々。不打任事歟。
△戸屋主兩人
一御芴御草鞋御靴等預之。 主上出御之時供御之。此外又有御挿鞋。
一當役女官也。然而天正十六戊子四月十四日。聚樂御亭行幸之砌。今出川殿左大臣晴季公。玄以法印任後權僧正。號德善院。被進御沙汰。今度之晴役。女子不可叶公平之由。依之被經上宣。所詮自今以後。可爲男子之役旨。被仰下者也。
△行事所預藏人所下司也
一掌撿挍諸國。及知貢獻雜物好惡勘收事。
一掌諸公事幷御神樂等下行之事。
一知御卽位行事所及諸工功程之事。

△兵庫寮頭 鼓師鉦師兩人
一凡元日及卽位搆建寶幢等者。預錄色目。移送兵部。前十五日。復請夫單廾人。各日米五升鹽二勺、鍬十五口。事訖返上。待官符到。寮與木工寮。共建幢柱管於大極殿前庭龍尾道上。前一日。率內匠寮工一人。鼓吹戸四十人。搆建寶幢。從殿中階南去十五丈四尺。建烏像幢。左日像幢。次朱雀旗。次靑龍。此旗當殿東頭楹。右月像幢 次白虎旗。次玄武。玄武旗當西頭楹。相去各二丈許。與蒼龍白虎兩樓南端楹平頭。訖拜返納。
一凡大儀立鼓鉦者。大極殿東南閤內大臣幄西去一丈立鉦。又南去一丈立鼓。鉦加角槌二柄。鼓木槌二柄 升在簴。下皆准之。 擊人各一人。長一人。用寮頭着朝服下皆准此。
一大儀擊鉦鼓人。着平巾冠。漆羅開頂。緋大袖袍。緣襖子帛。博帶。長五尺。廣四寸。以布爲心。以帛爲表裏。其二端各着細帶。長各五尺。大口帛袷袴。白布襪。烏舃。
一凡大儀擊鉦鼓節。群官陳列畢。閤外大臣仰兵部省。省令寮擊外辦鼓。平聲九下。諸門依次

相應。殿下鼓不應。開門畢。寮頭進申閤內大臣。令擊殿下喚鼓。雙聲九下。諸門依次相應。群官入就位。畢殿下擊褰高御座帳鉦。平聲三下。諸門鉦不應。禮畢擊下帳鉦如初。即殿下擊退鼓。雙聲九下。諸門依次相應。群官退出。訖外門擊鉦五下。諸門鉦依次相應。殿下鉦不應。然後諸衛擊退隊鼓。事見衛府式。

一慶長十六四十二御即位。兵庫頭出納中原職在兼役之。中閤內大臣。課鉦師鼓師。令擊鼓鉦。

一元和七六十八女御々方人內供奉。兵庫頭從五位下中原賢在。

一寬永三九將軍家行幸供奉。

一寬永七九十二御即位當日。中原賢在着朝衣參勤。請內辨命。課鼓師鉦師。令擊鼓鉦。

△主殿寮官人有兩流。伴氏佐々木氏

一令曰。掌供御輿輦蓋笠繖扇帷帳湯沐洒掃殿庭及燈燭松柴炭燎等事。

殿庭洒掃之事。近代無其沙汰。

一御薪。訓曰御釜木也　天武四年正月十五日戊申。百寮諸人初位以上進薪。雜令云。一位已下無位以上進御薪。有擔法。

宮內省式曰。凡每年正月十五日。辨官及式部兵部會集於省。相共撿挍諸司所進御薪。訖省丞錄各一人。率史生二人。就主殿寮撿挍御薪數并好惡。其行事諸司。給粥并酒食。

伴氏新大夫方

一伴氏方掌輿輦御湯蓋笠繖并松柴炭燎之事。

一禁秘御抄曰。恒例每日次第。早旦供御湯。主殿官人奉行。釜殿運湯云々。

一天正御撿地以前者。丹波國山林奉行之內。贄所釜殿松柴炭等。每日供御之。每月松炭。謂之月松炭。內侍所藏人所獻之　主殿司出納所亦納之。

一天正以後。松柴炭等給其料而令調進之。

一小朝拜節會御神樂。此外出御之時立明。兩官人奉仕之。

一諸公事陣儀之庭燎之松。自伴氏方設之。火炬。自佐伯氏方勤之。

一叙位除目之時火櫃。炭伴氏調進之。櫃佐伯氏設之。

一燎掃之時藁篝木。藁伴氏設之。柄南座設之。

一御髪上。松々明等。自伴氏遣衞士。

一春日祭。長松小松幷庭火之松。伴氏設之。火炬佐伯氏方勤之。

一掌帷帳斑幔灯油幷火炬之事。佐伯氏民部大夫方

一寮式曰、火炬少子。近年號火炬師、此名目不分明歟。

一所々庭燎屋令火燒事、主殿女官所職也。
但月夜不燒。見侍中群要第四。

一齋院司曰。火炬二人。取山城國葛野郡秦氏童女云々。

一凡齋王到國之日。取度會郡二見鄕礒部氏童男。卜爲戸座。其炬火取當郡童女卜用。但遭喪及長太郎替之。見神祇式第五。

一諸節會外辨幄、并諸陣儀斑幔設之。陣儀之時斑幔與之事。自天正末文祿之始興之云々。舊記無所見。

古者春冬被行公事時。大藏省懸陣大幔云云。見舊記。

一節會之時、南殿內并陣掌灯。又諸陣儀掌灯等設之。

一大嘗祭供掌燈、木工寮設結灯臺。

△生火官人兩人

一御卽位之時、守火爐掌生火之事。乃主殿官人也。從他家非可勤之歟。生火者是臨時之號也。
又同日伴佐伯之事、是亦主殿官人令勤役。預其賞給爵位。因號主殿大夫。曰新大夫。民部大夫、治部大夫。

△圖書寮

一令曰、掌經籍圖書、修撰國史、內典佛像。宮內禮佛。校寫裝潢功程、給紙筆墨事。

一凡從圖書寮所請。紙二百張。筆十管。墨[illegible]
延[illegible]內記式

一[illegible]紙二千[illegible]百張。[illegible]五十[illegible]筆一

管。

一年料所造色紙四千六百張。厚三千二百八十張。薄千三百二十張。長五十張。廣五十張。其料常陸調布三十端。十六端曝。九端紺。五端纈。紗五丈八尺。鐵二廷。砥一枚。每年差圖書長上一人遣美濃國造之。

一紙二万張。右圖書寮所進。

一凡宴會召文人者。乘輿未御之前立文臺。紙人別二枚。其紙筆墨預受圖書寮。以上見內藏寮式。

近代公事奉仕之事。

日吉祭。藏人方催之。圖書寮。

日吉社政所下色紙幣神人等

可早令催進御祭駕輿丁事。

右。任例無懈怠。來十九日。可令參勤之狀如件。

永祿五年卯月一日

禰宜祝部宿禰在判

祝々部宿禰同

神主祝部宿禰同

一御即位次第曰。主殿生火。圖書燒香云。

一四方拜火舍調進之

一諸法事御誦經之鐘。并打磬華籠等奉仕之。

一年中公用紙之事。

宿紙八千百二十五枚。藏人所職事以下之料。

緣黄宿紙各壹狀宛。大內記御料。

一位記宿紙續紙御用次第。男女叙位御料。

一大間紙續紙等御用次第。除目御料。

一茅輪之紙五十枚。六月晦日御料。送御藏小舍人。

一御曆之紙五十枚。送大經師。

一五色紙拾帖。御神樂御幣之料。

一諸社奉幣使發遣陣儀宣命之紙調進。

△釜殿六人

一每日御湯。并御神事御湯等奉仕之。御神樂庭燎之黑松遣衞士。

一天正御撿地以來。六人被相定之由申。御撿地以前者。禁裏御料所丹波小野山主殿官人爲代官。彼國供御人。謂之釜殿。每日結番運御湯。主殿官人奉行之。

△大藏省兼知左近府年預又木工寮。

一令曰。掌出納諸國調及錢金銀珠玉銅鐵骨角齒羽毛漆帳幕權衡度量賣買估價諸方貢獻雜物事。

一西宮記云。左近陣座。冬大藏省懸紺幕云々。

一太政官式曰。凡諸司當色。七位已上內藏寮行之。八位以下大藏省行之。

一神祇式曰。入大嘗宮。其道者大藏省預鋪二副布單。掃部寮設葉薦。且隨御步敷布單上。前敷後卷。宮內輔以上二人敷之。掃部允以上二人卷之。人不敢蹋。還時亦如之。

一同式卷第七。凡大祓使發記。卽差遣供幣帛於天神地祇使。太神宮諸王五位以上一人。中臣一人。齋部一人。卜部一人。五畿內一人。七道各一人。中臣忌部兩氏供之。其幣法有大所小所。略之。幷以大藏物充之。

一諸社祭鬘木綿調進之。

一太政官式曰。凡松尾祭。四月上申。辨史幷左右史生官掌各一人參行之。其幣物者。神祇官請自大藏省供之云々。

一大藏省式曰。凡懸陰陽寮漏尅臺舊幔二條。隨破損卽充行。

一同式。凡在省紺幄十一宇。五丈紺幄八字。紺幄七宇。布幔百二十四條。皆收別倉。隨事供設。若有破壞者。申官縫換。但故弊者。任充公用。

一神社祭參役諸司以下裝束料。幷祿物等設之。見當省式。

一野倉。在大藏省中。藏藥種之所也。西宮記云。藏人奏聞。仰內藏寮官人取御鎰。藏人率侍從

一人侍醫一人向野倉云々。見江次第抄。

近代被行政事大藏省

一諸公事陣儀等陣疊。幷殿上小板敷疊鋪設之。於小板敷者。上藏寮所進也。何頭當省令調進乎。不知其由來。

一節會公卿以下之祿辨備之。

一春日祭御幣料庭積奉仕之。和蔓設之。

一內侍所渡御辻々引幔辨備之。

一諸社遷宮引幔幷幄覆幔等設之。

一諸社幣帛調進之。

一諸法事幄覆幔延道布令儲之。

一御卽位由奉幣々帛辨備之。

一御卽位幄覆幔。南門代幌等設之。

左近府年預下司鉦師鼓師兩人

一左近陣旗鉾大鼓鉦鼓以下設之。

一叙位除目左近衞府奏調進之。

△木工寮

一木工寮式幷所々抄出。

伊勢太神宮幷神社等令供御雜具。鞍之具。〔二字〕卜盤。鑰。牀。大小。插幣帛木。倭文纏刀形。金裝太刀。金裝大多利。金餝壺。筥。御贖御輿形。木偶人。鐵偶人。金銀人像。火爐。棚案。別脚案。楉案。水案。八豆案。膳櫃幷案。外居案。懸案。漆案。板案。居水䑺案。盛案。中取案。轆轤干湯戶盆。圓槽。冷槽。枷椀。手洗盤。大小。抄。沐槽。浴槽。熨御衣牀。貯帖大牀。造帖牀。彫木。雜作。飛驒函。大籠。紙槽。板蔀。席抒。騎射的。埰桁。鉦簨。鼓簴。山形。位案。版位。土偶人。土牛。大小倚子。大小床子。檜床子。研案。

此外所調獻之具。不可勝計。

近代被行諸公事木工寮

一諸公事陣儀。入夜之時。結灯臺令設之。

一節會內辨外辨兀子床子。次將鉾胡床式案版等辨備之。

一四方拜案四脚。灯臺四本。供奉之。

一小朝拜結灯臺供奉之。
一春日祭御棚田子棒調進之。
一御讓位木契同函等調進之。(此外諸具如節會。)
一御卽位由奉幣之時。神祇官幄打板八足案辨備之。
一御卽位庭上之諸具。机案床子胡床標版位南門代幄骨等設之。
一諸社遷宮幄骨結灯臺設之。
一諸社奉幣八足案等奉備之。
一諸法事幄骨机案等設之。
一御神樂御棚簀橫二。灯臺二。辨備之。
一大殿祭結灯臺令設之。
一敍位結灯臺搔板等調進之。
一御卽位銅犬貳頭。
△布毯預內藏官人
一諸政事出御之時。鋪設布毯。
一御直衣出御之時者。不敷布單。莚道許鋪設之云々。(見職事要略。)
一御八講御經供養。幷造寺供養諸法事之時。御誦經物代諷誦文等設之。

△掃部寮(兩人)

一令曰。掃部司。正一人。掌薦席牀簀苫。及鋪設洒掃蒲藺葦簾等事。
內掃部司。正一人。掌供御牀狹疊席薦青簾苫鋪設。及蒲藺葦等事。
弘仁十一年閏五月五日格云。併掃部內掃部二司爲掃部寮。右二司之職。內外雖異。其所掌俱是鋪設。而至設公會幷臨時之座。
一式曰。入大嘗宮。其道者。大藏省預鋪二副布單。掃部寮設葉薦。且隨御步敷布單上。前敷後卷。(宮內輔一人敷之。掃部允二人卷之。)人不敢蹈。還時亦如之。
一江家記曰。辨少納言以下侍從內舍人內豎大舍人等昇御疊參入。掃部官人四人相副參入。(見神今食次第。上下之文略。執其要。)

近年被行政事

疊莚道薦軾等。寮頭大外記調進之。寮官人鋪設之。

一四方拜莚道半疊三帖。薦等。

一節會莚道。外辨之式。案下薦闈司座薦、古者用草藁云々。祿所薦。陣軾。白馬踏歌舞姫巡行薦。國栖座。私勘江次第抄曰。宮內式。充諸節會。吉野國栖獻御贄奏歌笛。御抄云、歌曲云々。每節以十七人爲定云々、今代設一人座。略儀歟。

一春日祭秡殿上卿座。小半疊薦。神祇官座。薦。着到殿上卿座。小半疊薦。少外記座。小半疊薦。少史座。薦。神前上卿座。小半疊薦。直會殿上卿座。小半疊薦。

一神社遷宮假殿本殿之間。莚道鋪設之。
幄辨史生官掌喚使等之座。
但辨史等。小半疊薦。以下之座。薦。

一御神樂御座。小紋一帖。上鋪半疊。小紋一狀。內侍座。兩面一狀。女官座。長床四枚。刀自座。小床二枚。祝莚。二枚。殿上召人陪從座。各小半疊薦。庭燎軾地下諸衞召人加陪從人長等座。薦。

一御讓位幷劒璽渡御莚道。

一御卽位高御座。二枚。兩面疊。四帖。同半疊。二帖。繧端薄疊。四帖。厚圓座。二枚。擬侍從座。六帖。莚道。二十枚。薦。十枚。禮服御覽之時。厚圓座。一枚。薄圓座。三枚。

一二條御亭行幸莚道。莚薦。前夜有大殿祭。
小半疊。三狀。莚。

一諸陣儀軾。

一日蝕月蝕覆御殿莚。三十枚。

一御法事幷諸寺堂塔供養公卿以下之座。又御誦經幄之內。案上莚。案下薦。

△御藏小舍人

一禁秘御抄云。六人。近代及十二人云々。坤角柱付蘇芳綱付鈴。召小舍人之時。藏人曳之。是自二條院御時事也。始用馬寮指繩云々。

一一人若君元服。自內裏遣御冠。五位藏人爲使。入柳筥。御藏小舍人着衣冠相從。次被仰昇殿事。先藏人頭召出納仰之云々。見江家記。

一江家記立太子之所云。小舍人主殿令良。殿上所召仕也。

一祈雨使事。侍中群要藏人發向大和國丹生河上雨師社。上卿着陣座。召勅使給宣命。給而罷出。瀧口小舍人等相從之云々。

一平野社之祭奉幣之次第。江家記上下略之。取其要。上卿召使於小板敷給宣命。使退出。預宣命於內藏官人。使參社頭。先掃。一人。御幣。一人。荷外居。一人。藏史生。二人。御琴。仕人追從持。小舍人一人騎馬。

一大臣大饗。藏人到中門。以家司奉蘇甘栗盛申折櫃。二合。蘇。一合。甘栗。各居土高坏。入外居一荷。小舍人二人。衣冠。相具仕人二人。着荒染持之。給祿小舍人。疋絹。侍所司取之。仕人。布二段。下家司。次給史生祿。隨給一拜退。史生。布四端。官掌召使。布三端云々。

一蘇甘栗勅使。侍中群要第八蘇甘栗等道間令持仕人。至于其所天。令持小舍人云々。

私考蘇甘栗。

民部式曰。造酥法。牛乳煎大一斗。得酥大一升。献壺國數四十五ヶ國。壺數五百九十壺云々。

本草綱目曰。牛乳冷。羊乳溫。酥乃酪之浮面所成云々。

佛書稱乳成酪。酪成酥。酥成醍醐云々。甘栗。江記抄云。平栗云々。今俗謂之打栗歟。

一侍中群要第四云。小臺盤事。小臺盤、親王大臣料也。次臺盤二脚。大納言以下六位以上料也。而近代公卿被候殿上之時。不謂上下﨟。必以下盤居小臺盤如何。大納言以下被候之時。猶可居中臺盤。親王大臣之時。可居所臺

盤也。如此之事。且又可隨便宜歟。亥二刻之後(御寢之後)。取却盤。早日可立。(主殿司小舍人等役之。)

一小舍人仕人等事。

小舍人等有可誡之事者。卽令恐申。恒例也。至于下陣者。近代之事也。仕人者令押籠。取之水棚下云々。

近年被行政事

一四方拜。(諸司掌灯。二器。庭上御拜所掌灯。四器。脂燭等奉仕之。)

一節會。(御殿自額間南長橋。至南殿北莚道之限。供掌灯幷脂燭。攝政殿御參之時。直廬掌灯設之。白馬之時。舞姬之脂燭又設之。)

一小朝拜。(淸凉殿階間。幷御前左右。結灯臺之掌灯供御之。)

一燕醉。(殿上掌灯設之。)

一男女敍位幷除目等。(淸凉殿幷殿上掌灯供之。)

一諸御修法等。(脂燭灯設之。)

一公卿御拜賀着陣等。(殿上掌灯設之。)

一四位五位六位等職事拜賀。(告使奉仕之掌灯設之。頭拜賀之時脂燭設之。)

一六月晦日茅輪供御之。(中宮東宮同之。紀氏方供御之。)

一御神樂。(自淸凉殿至于內侍所掌灯供御之。於出御者。脂燭奉仕之。)

一新田殿將軍宣下。幷太政大臣宣下等告使奉仕之。

一御八講。(御殿幷殿上掌灯。同僧名定。脂燭掌灯硯墨筆檀紙等設之。結願日。被物奉仕之。)

一內侍所幷新造御殿日時定。渡御鎭座御移徙等奉仕之。內侍所以下掌灯供御之。

一神社御造替日時定。假殿正遷宮。賀茂貴布禰八幡東照社等掌灯供之。

一佛閣堂供養御法事時。被物奉仕之。

一年中圖書寮調進之紙奉行之。(紀氏方。)

△仕人(三人)

一藏人方駈使雜仕者也。諸公事幷御神樂。近衞召人陪從人長諸司等催之。又諸法事衆僧催之。幷近年節會公卿催之事不宜歟。

△修理職(兩人)

一掌宮殿御修理事。四方拜假橋。踏歌敷舞臺。正月十五夜左義長奉仕之。

御神樂之時。內侍所徹八垣曳注連。

△南座兩人

一屬修理職云々。不知名目之故。

一御殿御格子御帳臺等奉仕之。

一諸公事夜陰打灯階。自天正年中用掛灯臺。

一御煤拂簾木柄設之。

一御神樂之時、堂上堂下召人陪從人長等座三色木鋪設之。

一三節會國栖座、下敷三色木。

△主水司

一令曰、掌樽水饘粥及氷室事。

一御卽位御手水供御之。幷諸社祭勅使御手水奉仕之。其雜具等事藏人方。

△鎰取兩人

一諸司省寮共鎰取有之、各別也。

一御卽位參役之時者、內藏主水等之鎰取之由申之。又御八講幷諸寺供養之時者。威儀師惣在廳之鎰取之由申之。兩樣共難辨之。

△左右馬寮兩人

一令曰、馬部六十人、使部二十人。直丁二人。飼丁云々。

一式曰。凡青馬二十一疋。自十一月至正月七日。二寮半分飼之云々。

一左右馬寮御監事。上卿奉勅仰下寮。官人召仰助歟、無助之時。外記仰官人。近代例也。見宮西記今白馬之時。御監事被仰左右馬允。不合舊式歟。

一今下司八人有之、號舍人。此名目不見令式歟。

一神社祭灑宮等神馬奉仕之。

一後繩官人、本府輩出納備之。申殿下。左右大將輪轉被進之。見職事要略

△內舍人

一令云　內舍人九十人。掌帶刀宿衞供奉雜使。若駕行分衞前後。

一大臣給內舍人時。參彼亭奉仕云々。

一慶長御讓位之時。漏尅奉仕。

△大舍人（今者）四人

一令集解云。弘仁十年八月二十六日官符云。定大舍人數事。（元八百人。今定四百人）右被中納言從三位兼行宮內卿藤原朝臣貞嗣宣偁。奉勅。今依舊置內竪。宜大舍人依件定。其食及時服定一百人云々。

一西宮記曰。行幸日。女官預持大刀。舁横置殿西南。豫左右將監昇殿舁之。大舍人相待舁。主殿官人取地。

一諸公事節會等驅使奉仕。今掌開門事云々。（外記方催之間。猶可被待下。）

一開門。（江記云。左右將曹率近衛八人。開承明并左右腋門。開門間。將曹磬折。立承明門壇下。左右兵衛志各率兵衛。開建禮門。）

△陣官人兩人

一諸政事候陣小庭奉仕之。

一節會內辨物喚之時答申。白馬北陣奉仕之。（職事可候陣之由。以官人仰之。而撿非違使官人催之。）

一前官人戸島吉。節會內辨尋尅限給之時。答午尅云々。

鉾立

一節會立次將之鉾役者之由申之。此名目更難意得。（奉行之間。外記方可被尋下歟。）

一每節會爲次將隨役。左右近衛府令參仕。（見職人方記之。）

△四府兄部（四人沙汰人壹人）

一左右近衛府。左右兵衛府是也。兄部沙汰人等。令下知駕輿丁云々。

一神祇式第五云。輿長八人。緋服。布帶。駕輿丁四十人。纈衫紅褶布帶布袴。頭巾脛巾黃布。衫四十領。袴四十腰。布帶四十條。

一齋王乘輿。（輿者主殿官人率史生。前鋏二日設候。）輿長十人。（黃衣）駕輿四十人。（紺布衣）以上見同第六卷。

一駕輿丁。四府兒部沙汰人等下座。四十五人。又左近府小畑下猪熊座人。三十六人。
一行幸鳳輦神社祭神輿等。駕輿丁奉舁。
△衞士左右四人
一諸公事雜仕之者也。太神宮奉幣之時。賚幣帛參向伊勢。幷餘社同之。又諸社之幣帛。仕丁持參之例多之云々。
一太元御法。後七日御修法。此外年中諸御修法等御撫物。從藏人奉仕之。
一春冬春日社祭。神馬二頭曳之。不審云々。
一御神樂庭燎炬之。自釜殿請松。
一家餅。自丹波野瀨庄。衞士持參而供御之。天正御撿地以來者給其料。衞士進獻之云々。家餅之事。自內藏寮獻之由。公事根元抄書載給云々。
一御髮上。藏人與衞士。向禁庭吉方奉仕之云々。中宮東宮同之。上古向主殿寮云々。自主殿寮受松。
一座主宣下之後。御本尊被送于其所。御使藏人小舍人衞士等相具。道之間令持衞士。至本房令持小舍人云々。
一御殿御掃除之時。御所洗奉仕之。昔日掃部主殿等之仕女奉仕之云々。是當司女孺之事也。
大永四正二十御修法之砌。御所洗衞士有故障。而女孺奉仕之。
一大永八四六七八。爲後柏原院三回御忌。被行御懺法講之砌。有御所洗。衞士依有曲事不參也。女孺勤仕之。其留方庄仕丁汲水云々以上見中原職盛日記。
一大永五年三月十日御祈始。御藏小舍人召衞士渡御撫物。衞士持參于陰陽寮。頭有泰。
一大永五年閏霜月十六日。月蝕御撫物。十五日被出之。左衞門府衞士可參(役與)後左馬寮事也。如斯觸催處。蝕十五日閏也。十六日無蝕。曲事云々。
一節分御撫物。衞士當番可參役。

△御香水役人

一左衞門府之衞士也。每年自太元法執行之前。自御用被仰付。淨御香水。每朝供御之。今非衞士之由申之。可尋其詳。

△幡鉾次

一兵庫寮式曰。待官符到。寮與木工寮。共建幢桂管於大極殿前庭龍尾道上云々。

一御卽位御時。七神幢左右近衞旗鉾等樹之。

右幡鉾立之役者。不知其名目。舊記無所見。官方之由被申間。定可爲存知歟。

△贊者兩人

一御卽位典儀稱再拜。贊者承傳。群臣再拜云々。

一諸司之中可爲兼役歟。不聞累世之家。不知其人品猶外記方江可被尋下歟。

△壺召次

一於院御壺雜仕。幷歌御會之時御硯水。令供御之由申之。

一寬永三年九月。二條御城行幸之時。女院御所供奉之者也。

△承仕預

一御八講。御懺法講。曼荼羅供。御經供養等諸法事。佛供灯油香華等。辨備奉仕之。御八講灯油者。依仰自慶長後般時。主殿寮調進之。

一院御所諸法事。令奉仕事同右。

△藏人所出納 兼知內藏寮年預 幷左近衞府廳頭

一藏人所者。弘仁年中始被置之云々。

一禁秘御抄曰。藏人方一切奉行者也云々。于今諸公事。令下知諸司催之。

一藏人所宣旨幷御牒下文。出納所書也。

安倍家書御下知家書御牒。是舊例云々。

一元日節會藏人所次侍從非侍從見參之事。出納書之。付外記局。近年無其沙汰。

一諸國御贄解文。出納付藏人。往古多經奏聞云云。見侍中群要。

一出納書宣旨。給左近陣。近代不給陣之。差御藏小舍人。一人。下部一人。召遣卽向其家云々。見同記。

一上卿被献假文時。出納付藏人。藏人雖不奏。其端書奏畢二字返給。上代大臣并大將假文。必經奏聞云々。然而近代必不奏。殿上假文留殿上。見同記九卷。

一禁秘御抄曰。倚子覆。出納日暮奉仕之。懸棹。

一藏人取御座覆。晝御倚子。小板敷乃西乃妻乃長押上有押懸之次。令殿司女孺拂拭御所并御物等。但物忌時。未上格子前。垂廂御簾。付御物忌。御物忌。早旦小舍人書也。挿小壁云々。見侍中群要。

一御湯殿。藏人承仰。召出納若御藏小舍人。見同記四卷。

一藏人所月奏事。右去月上日如件云々。但不讀別當頭藏人等署所。又小舍人上日止而不奏。直下出納。又別當不給署云々。又月奏等奏下之時。取裹紙下給出納云々。見同記第六。

一御佛名次第。差出納。催大臣。差內豎。催諸卿。差小舍人。催侍臣。小舍人二人。着衣冠。居時簡。下燃火。預公卿沓。藏人召新。僧侶退下。次名對面。侍臣等皆着座。藏人頭在上。頭若位階爲下臈者。次第至稱名。所衆着。近代衣冠。出納在末。束帶。瀧口參。布衣。見江家記。此外文略之。執其要。

一神今食。見西宮抄。當日早旦。出納書侍臣名數。差小舍人。遣神祇官云々以下略之。

一賭射。正月十八日。左右大將申障。以隨身爲藏人所令申。依不[illegible]也。當日遣內豎召之。大臣大將遣出納。右定家卿自筆之記如此。上下文略之。江家記同之。

一觸穢之寫。

石清水臨時祭飼□神樂諸司行御馬覧。二十二日庭座。二十三日歸立。各存所役。早參着。

宮主　內藏寮御幣御下行[illegible]以下

掃部寮諸司座　主殿寮

穀倉院玉瓶坏饗膳　木工寮床子[illegible]

修理職敷板以下　大藏省絹覆
造酒司　左近府
右近府同　左衛門府同
右衛門府同　左馬寮馬部
右馬寮馬部　內豎
戶屋主御笏御草鞋
　曆應四年三月　日出納前東市正中原朝臣
元日節會。存所役。任先例可令參勤者。
內藏寮　大膳職
掃部寮　木工寮
主殿寮　修理職
造酒司　內豎
戶屋主　大內藏寮
左近衛府　右近衛府
釜殿
　大永四（一本四）十二月二十五日　出納中原職盛
一追儺幷節折役人可觸人數之事。

宮主節折　內藏寮節折
內匠寮節折　木工寮節折
主殿寮　神祇官行事官也
節折命婦自內侍所出　陰陽寮
女孺　縫殿寮
修理職南座出　釜殿
衛士追儺役人也右衛門府衛士戶與兩走
衛士
一大永六年四月二十九日。被行踐祚候。可觸人
數之事。
采女　主殿司
大膳職公卿饗膳五人分調備之　木工寮
主殿寮兩人　掃部寮
南座兩人　仕人
來六日。可被行叙位儀。各存所役。可令早參
者。
掃部寮　木工寮

內藏寮　主殿寮
圖書寮　修理寮
左京職 瓦硯三十同 水入盃破　右京職 瓦硯三十同 水入盃破
筆生
正月四日　出納中原職盛
白馬節會。存所役。任先例各可令參勤者。
內藏寮　掃部寮
木工寮　主殿寮
修理職　大膳職
大藏省　左馬寮
右馬寮　內豎
戶屋主　左近衞府
右近衞府　造酒司
釜殿　釆女
內敎坊　主殿司
女嬬
正月五日

來十六日。可被行踏歌節會。存所役。各可令
早參者。
內藏寮　內敎坊
內豎　戶屋主
木工寮　修理職
主殿寮　掃部寮
大膳職　大內藏寮
造酒司　左近衞府
右近衞府　釜殿
釆女　主殿司
女嬬
正月　日
來自十九日。可被始行縣召除目。存所役。任
例各可令參勤者。
內藏寮　木工寮
掃部寮　主殿寮
內匠寮　大炊寮

造酒司　修理職
左京職　右京職
筆生　經師
圖書寮　南座
主殿司　女嬬
三月　日
來十七日辰刻。內侍所可有行幸。可令各早參者。
內藏寮　大膳職
木工寮　掃部寮
主殿寮　修理職
內竪　戶屋主
大內藏寮　衞士
圖書寮
三月十一日　散位中原朝臣職盛
來二十四日。可被行內侍所臨時御神樂。笛所作可有參勤之狀如件。

十月二十日　出納大藏大輔
安藝守殿
近江守殿 兩人別紙也
或又可被參勤。依仰執達如件。
來二十四日。可被行內侍所臨時御神樂。可被早參之狀如件。
十月二十日　出納大藏大輔
左兵衞尉殿
左兵衞少尉殿 兩人別紙
來二十四日。可被行內侍所臨時御神樂。可有各早參候也。
忠賴　忠辰
忠秀　忠淸
多忠俊　多忠常
多忠貞　多久降
十月二十日　出納大藏大輔
歌方廻文

來二十四日。可被行內侍所臨時御神樂。可有早參之狀如件。

十月二十日　　出納大藏大輔

所作陪從殿

來二十四日。可被行內侍所臨時御神樂。可有早參之狀如件。

十月二十日　　出納大藏大輔

人長殿

來二十四日。可被行內侍所臨時御神樂。可有各早參者。

內藏寮　　大膳職
掃部寮　　御藏小舍人
木工寮　　修理職
內豎　　主殿官人
戶屋主　　圖書官人
薗土　　釜殿

十月二十日　　出納大藏大輔

諸司廻文

一天正御撿地以前。地子幷公事物等領納之事。朝恩地。鷹司東洞院幷八條坊門西洞院敷地。又儲反古組小物等之公事物。撿納綸旨有之。

一同御撿地已前。自加賀國万福寺東明寺。日蝕月蝕之料撿納之內。又令下行掃部寮。中原職盛日記有之

△內藏寮年預兼之下司史生兩人

一職員令曰。掌金銀珠玉寶器錦綾雜綵氈褥諸蕃貢獻奇瑋之物。年料供進御服及別勅用物事。

一當寮式曰。伊勢太神宮以下諸社祭幣帛令調進之。臨時幣帛亦同云々。幷陵十所墓七所幷多武岑幣帛等備之。

一延喜四九十一日奉幣。內藏寮進幣料請奏。行事當入奏。中務下上卿。上卿下辨。辨下史。史仰寮。

一凡諸社幣料所用錦者。請藏人所充行之。

一侍中群要十七日。宇佐使寶之儀。內藏寮奉高

机一脚。藏人自青璅門傳所立之。其上置神寳。時剋出御。同寮奉御贖物云々。

一西宮抄云。內記付內侍所奏宣命。內藏請取云々。內藏寮進挂奏。見賀茂祭所。

一大祓。延喜元閏六月晦日有大祓。中略執要。

內藏祓。殿上人着。宮祓。大辨以下着。

一六月十二月神今食。十一月新嘗料。別插鞋一兩送縫殿寮。不御祭所之時。以羅鼻沓代插鞋。

一元正預前裝餝大極殿。鳳形。順鏡。玉幡。玉冑甲。鄣子。帳。上敷兩面。下敷布帳。錦幔。緋綱。漆土居桁柱。土敷布帳。鎮子鐵。與內匠主殿掃部等寮。共依例裝束。從小安殿至高御座之間。敷兩面為御道。其日駈使。以左右衞士各十人充之。

一同節威儀。式云。屛繖。二具。圓翳圓羽。各二十柄。横羽。十六柄。杖。如意。繩拂。各四枚。笠。四枚。挂甲。二領。刀。十六口。桙。八口。弓。十六張。胡籙。十六具。幷待省符到充。

一元日御禮服玉冠牙笏等。當日平旦。寮官人於大極後殿下持雙之。隨內侍宣進之。

一御卽位奉行之事。出納安倍親成應永之日記。

職事。五位六位。出納小舍人。

一御卽位調進事。

御禮服御束帶御直衣帛御服取物之事。式莒御笏莒御靴草鞋以上以紫裹絹之。女房禮服四十具。

裹帳二人。女王典侍。內侍二人。威儀命婦四人。

御前命婦四人。執翳女嬬十八人。

女房禮服賦事。

裹帳。女王典侍。當日早旦。以小舍人賦進之。內侍幷威儀御前命婦供奉女房等。

當日早旦。差小舍人二人於官廳渡髮上。

執翳女嬬。　當日曉天渡之。

右安倍親成日記抄出之。略前後文。執其要。去永仁御卽位之時。親景日記亦如斯。

私曰。御卽位御禮服以下御裝束。幷女官禮

服等。出納內藏辨備之訖。
後陽成院御宇。宮本被備下記。自內藏頭調進。近代之事歟。於女房禮服者。猶以近年之事也。當寮有名無實。甚所歎申也。
一大舍人寮左右兵衛府獻卯杖。訖寮頭以下率史生藏部。進庭撿收。
一凡正月七日。預前節一日。寮官人率史生藏部。裝餝舞臺云々。餘節設舞臺同之。是日兵部省所獻御弓矢等。寮官亦同進庭撿收。
一夏冬朔日改座云々。見西宮抄。
四月朔日。紫端二十五枚。
十五枚侍料。一枚長一丈餘。小板敷料。
八枚女房侍料。緑端八枚。四枚南座。四枚北座。
折薦疊四枚。二枚出納。二枚小舍人。
以上內藏寮所進。承和例云。受掃部寮云々。
同日自殿上請下納所。冬御帳帷御几帳十六。四尺十。三尺六。壁代十二條。十月返上。

一禁秘御抄云。夜御殿帳同清凉殿。東枕。疊御座敷也。御枕有二階。奉安御劒御璽。皆有覆蘇芳也。御劒東南。帳四角有灯樓云々。
一西宮抄云。殿上冬時。內藏寮南面懸紫絹幕云云。又禁秘御抄曰。春冬有垂幕云々。
一凡四月駒引及五日節。預前一日。裝餝武德殿云々。四衛府駕輿丁十二人。左右近衛四人。左右兵衛各二人。充雜駈使。式云
一凡典藥寮所獻菖蒲并艾。奏進之後。允以下參入撤之。若官人被下不足者。召加內豎。
一內宴儲料。革筥楊筥各一合。硯五口。事了返納。紙屋紙二帖。筆廿管。蘇綿三十屯。
右筥并紙筆硯。當日早朝進藏人所。
一御服料之事。并宮御服料之事。自內藏寮調備之。式云　同
一御殿燈料油六升。每月供之。
一年中所造御梳三百六十六枚。二百枚御料。百枚中宮料。六十枚春宮

料。六月十二月各半分進之。

一諸寺法會雜具布施等送之。

一江次第御神樂記云。內藏寮給腰差於人長。次殿上人頭以下給陪從舞人祿。四位褂。五位單衣重。六位單衣。衞府召人各疋絹。內藏寮官人取之。事了還御。侍臣候脂燭如前。

近年被行諸公事

一四方拜。御裝束庭御拜所諸具奉備之。并藏人方奉行之催諸司。

一小朝拜。藏人方奉行之。并諸司催之。

一三節會。出御之儀奉行之。并諸司下知之。

一殿上淵醉。藏人方奉行之。

一太元帥法。後七日。并諸御修法等。藏人方奉行之。

一公卿御拜賀着陣。藏人方書設之。

一職事拜賀。吉書續紙解文返抄等設之。

一敍位。御前硯調進之。院宮御中文沙汰之。右近府奏設之。當府硯頭兼知之故云々。諸司申文。所案論口勞帳等設之。

一女敍位。御前硯并雜具以下辨備之。女官中文等供進之。

男女敍位續紙御料紙也

一縣召除目。擬定硯并具等同備。院宮御給并當時內給奉仕之。號官奏中狀并所案論口勞帳等作進之。擬定續紙者官紙續紙者白紙也。

一諸法事。藏人方奉行之。并被物奉仕之。御八講問者之硯續紙白紙等設之。

一御即位由奉幣。并神社奉幣。內藏寮。請奏調進之。又者社御祈日時定陣儀等。諸司催之。

一御即位又新造御殿之節。清涼殿御帳臺并帷御几帳壁代等。又臺盤所并殿上御倚子臺盤已下御調度悉辨備。有記。

一御即位當日。御手水具調進。於主水司。水取者主水司設之。御笏御草鞋御挿鞋御靴等辨備之。但御笏御挿鞋近年不書進之。

一內侍所御神樂。并神社神樂等。歌方召人陪從人長諸司等。以一通遣仕人催之。

一御神樂庭燎之和琴。出納持參。自天正末之頃如斯。局務師生朝臣官務家記。和琴內豎持參云々。或時詰四辻殿。亞相季繼卿。此由語申處。其儀不然。衞府召人持參也。但爲受其祿乎與思給

云々。恥其美言而勸之。江家次第御神樂記曰。人長云。召御琴可仕者。其人把和琴。着膝突彈之。又禁秘御抄曰。藏人所雜色。東遊時持陪從和琴。是左道役也。然而付職。如此事恥思。非重代者所爲也云々。如爾記者。非出納之役歟。

一天正之始。織田家平信長公御參內。有蹴鞠御遊。又天正之末御鞠會。貓垣鋪設於庭上。其貓垣者。自賀茂調進之。出納職清朝臣奉行之。

右近衛府廳頭兼知之。右下司。

鼓師鉦師兩人

一御即位右近幄一宇。幷纛旗。万歲旗。鷹像旗。胡床。褥。鼓鉦。各童已下打人裝束等設之。

以宮內省圖書寮本及舊鷹司家本加一校畢

續群書類從卷第二百四十六

律令部一

法曹類林卷第二百廿六

公務卅四六 吏務 戸貫

假令人有子二人利而。兄ハ酒狂第一者也。弟ハ尋常已無狂氣。仍以弟爲嫡子。以之言是。酒狂之子不可用嫡子哉如何。

答。戸婚律云。立嫡違法者徒一年。疏云。嫡妻之長子爲嫡子。不依此立。是名違法。名例律云。以嫡爲庶。以庶爲嫡之類。須改正。繼嗣令云。其嫡子有罪疾。不任承重者。申牒所司。驗實聽更立。注云。罪謂荒耽於酒。及餘罪戾。將來不任器用者。疾謂癈疾。以嫡爲庶。以庶爲嫡。既存法制。雖須改正彼此。夫父沒無身。況至尋器用而簡定。未曾見禁止之典章。如此文者。縱雖嫡子。不任器用。不可爲嫡子由。已以明白也。說者云。好酒尚爲罪。然則尚其心不任器用。以爲旨耳。如此文者。好尚可爲者歟。

其子盜犯爲宗シ天。更不中用シ天云。可中將來之用。仍乍前其實子。可收養子哉如何。三議

答。戸婚律云。立嫡違法者徒一年。疏云。立嫡者本擬承家。嫡妻之長子爲嫡子者。依此立是名違法。名例律云。以嫡爲庶。以庶爲嫡之類。須改正。繼嗣令云。其嫡子罪疾。不任承重者。

申牒所司。驗實聽更立。注云。罪謂荒耽於酒。及餘罪戾。將來不任器用者。義解云。謂犯徒以上罪。若數可愆犯。量情不任器用者。雖不至徒亦是也。謂繼父承祭。祭事尤重。故云承重也。說者云。父在嫡子犯罪除名者。更立嫡子。此所謂有罪疾耳。養子立替亦同。下殊耳。無別父之故。如此父者。若成盜犯子。不可爲嫡子之由。已以分明也。

問。今有甲乙二人。甲是妾子也。乙則妻子也。今成人之時。親父貢甲以爲位子。經數年。未被叙位。父死去後。乙既成長。妻歎之。傳聞位子者可立妻子。而甲爲位子。於心不穩。申歎云。父存之日被貢。今而退政。於事多憂者。未知法意。謹請指南。

丶丶一度男女年姓名從時奏之。大藏省奏也。

丶丶男子後實子出理時ハ。雖仕度爲末子用之也。未處分ハ妻子計也。女子必可爲末子也。

一可令祈禱佛神除拂諸難事。

皇極天皇元年七月宮。蘇我大臣報曰。可於寺寺轉讀大乘經典。悔過如佛所說。敬而祈雨。庚辰。於大寺南庭。嚴佛菩薩像與四天王像。屈請衆僧。讀大乘經等。于時蘇我大臣手執香爐。燒香發願。辛巳微雨。壬午不能祈雨。故停讀經。八月甲申朔。天皇幸南淵河上。跪拜四方。仰天而祈。卽雷。大雨五日。溥潤天下。於是天下百姓俱稱万歲。曰至德天皇。

持統天皇十一年四月六日己卯。遣使者祀廣瀨與龍田。五月丙申朔癸卯。遣大夫謁者 詣諸社請雨。

神龜二年七月廿日格云。詔。攘災招福 必憑幽冥。敬神尊佛。淸淨爲先。

神護景雲元年在正月己未。勅畿內七道諸國。一七日間。各於國分金光明寺。行吉祥大悔過

之法。因茲功德。天下太平。風雨順時。五穀成熟。兆民快樂。十方有情。同霑此福。

延暦十六年。於禁中轉讀金剛般若經。以有恠異也。又行灌頂經法。是日。自去十九日東西洪水汎溢。往々沒百姓家。

同廿五年四月廿五日格云。應令十五大寺每年安居奉講仁王般若經事。右消禍長福。護持國土者。仁王般若。斯最居先。是以天竺震旦。與行此業。國家治平。災難不起。宜下知諸國分寺。安居之内。副於最勝王經。奉講件經。庶令天下安和。朝庭无事。

天長六年。僧正傳燈大法師位護命等奏偁。護命等聞。消災難致福祥。仁王法門最要。是故普明免珠足之死。帝釋權現生之車。加以畢相頻現。疫癘始起。伏乞。於五畿内有封戸田園寺。命一百講座。演說仁王般若經。然則膏雨忽零。疫癘早息。

同七年。屈百僧。於大極殿。轉大般若經一七日。爲除地震及疫癘之災。同年閏十二月甲午。請僧五口。奉讀金剛般若經。兼令神祇官解除。謝物恠也。

同八年三月己未地震。癸亥。每寺一七ヶ日。奉讀般若經。防疫癘也。

同九年五月。勅曰。仰五畿内諸國。奉轉讀大般若金剛般若經。勅。去年秋稼不稔。諸國皆飢。今茲疫旱相起。仍人物夭折。加之往々失火。或失所。宜令五畿内七道諸國。一七ヶ日。轉讀經王。轉禍爲福。

昌泰元年十二月九日格云。應勤修吉祥悔過事。右大納言正三位兼行左近衞大將藤原朝臣時平宣。奉勅。每年正月。修吉祥悔過者。爲祈年穀攘災難也。其御願之趣。格條已存。而頃年水旱疫癘之災。諸國往々言上。蓋凡伐澆薄。人情懈倦。修行御願。不如法乎。宜下知諸

國。令長官専當其事。率僚下講讀師。相共至誠。如說修行。廣爲蒼生。祈求景福。

承和三年三月廿五日格云。應每年令講仁王最勝兩部大乘事。右少僧都傳燈大法師位明福表偁。轉災成福。最般若之勝力。護國利民。是大乘之冥助。仍須每寺。夏中初一日二時。講讀仁王般若。秋首一七日間。開講最勝王經。使水旱无至。耕農得所。風霜有時。穀實豐稔。望請。下知京畿有食諸寺。選請智行者。將講件經。

嘉祥三年符偁。宜令五畿內七道諸國。修灌頂經。爲攘疫癘也。

同年七月庚辰。延屈百僧。於大極殿。轉讀大般若經。爲穀行也。

貞觀十一年。去夏。新羅海賊掠奪貢綿。是日勅。令五畿七道諸國。限一三日。轉讀金剛般若經。謝地震風水之灾。厭隣兵窺隙之寇。

同十七年六月十三日甲子。分遣使者於十五大寺。轉讀大般若經。每寺死錢。祈雨也。十五日丙寅。屈六十僧。於大極殿。限三ケ日。轉讀大般若經。十五僧於神泉苑。修大雲輪請雨經法。並祈雨也。

玄蕃寮式云。諸國起正月八日迄十四日。請部內諸寺僧於國廳。修吉祥悔過。七僧法服布施供養用正稅。同式又條云。諸國々分二寺。依僧尼見數。每年起正月八日迄十四日。轉讀金光明最勝王經。其施物用當處正稅。

又條云。國分二寺田。令三綱耕營。永充三寶之用。

又條云。天下若有旱災。令京畿內諸寺僧尼。限三ケ日。讀經悔過。

大同二年。御大極殿。祈禱名神。爲天下疫氣也。

天長八年。皇帝御大極殿。奉幣伊勢大神宮。

祈防風雨之災也。
同九年七月。奉幣五畿內七道諸國名神。祈沴
氣防風雨。
貞觀六年七月十七日辛丑。頒下五畿七道諸
國。班幣境內大小諸神、爲穀祈也。（日十六日也）八月廿五
日乙亥。奉幣伊勢以下七社。祈秋稔也。
太政官式云。九月十一日行幸八省院。奉幣於
伊勢大神宮。中務式云。奉幣大神者。九月十
一日平旦。未行幸前。錄率省掌。入大極殿。置
版位於後殿東南庭。
神祇令云。仲春祈年祭。義解云。欲令歲災不
作。時令順度。卽於神祇官祭之。故曰祈年。說
者云。祈年求豐年也。
延喜廿年六月十四日符云。應奉幣轉經攘災
異兼祈年穀事。右云々。夫如來妙力。轉禍爲
福。神明冥助。除惡成善。宜下知五畿七道諸
國。符到之後。擇定吉日。每社長官以下潔齋
奉幣。而以件事。於國分二寺并有供諸寺。屈
名僧十口限以三ヶ日。晝則轉讀金剛般若摩
訶般若。夜則勤修禮佛懺悔秘密神咒。其料用
正稅。齋會之間。下知部內。禁斷殺生矣。
天曆二年五月八日符云。應奉幣讀經攘除災
難事。右云々。夫轉禍爲福。神明之助不測。除
凶致祥、般若之力無量。宜仰諸國。奉幣轉經。
祈以件事者。諸國承知依宜行之。仍須官符到
後。官長以下潔齋敬愼。躬詣社頭。致誠祈請。
其料用正稅。又於國分二寺并有供諸定額寺。
三ヶ日。擇請名僧。轉讀般若。竭誠勤修。必顯
眞感。薰修之間。禁斷屠割。綸旨殊重。不得疎
怠矣。據撿此等例。攘厄會期豐年者。莫過於
仰佛神之感應。因茲曩代聖主每有異難。所被
修是等祈禱也。抑崇神之道。幣帛最一也。早
奉幣京畿七道諸國名神。可銷彼災也。歲中二
月六月九月十二月者。是雖爲嚴進之神。如在

之禮如闕。專致潔淸。如法可令勤行也。就中九月。及臨時重事之時。必可有臨幸之儀也。是則格式所存。明王勝躅也。又尊佛事之中。吉祥悔過者。殊勝之御願也。是以公家每國割置正稅。所死供佛施僧之營也。而爲諸國々分講師之輩。以件等用途物。併令欺用之間。請定衆僧。或有恨无實之歎。論之物議。甚非聖願。非啻忌白業之甚重。兼亦及國家之巨害。尙任格條。國司專當其事。撰定智行之僧侶。如說可令修行也。然則國土之豐平不期而來。內外之諸難不攘而止矣。

一可令下知諸國々司。且優民間疾苦。上境內裏幣。且糺察所部姧猾禁海陸盜賊事。

考課令云。强濟諸事。肅淸所部。爲國司之最。

義解云。謂盜賊不起之類。

鬪訟律云。監臨主司。知所部有犯法。不舉劾者。咸罪人罪三等。

戶令云。國守每年一巡行屬郡。觀風俗。問百年。錄囚徒。理寃枉。詳察政刑得失 知百姓所患苦者。

就此等文案之。境內興衰者。隨國司之治亂者也。故書云。能吏行縣。徐州致甘雨之喜者。禍福所起。必由國吏也。是以上古明王。分遣八使。巡行風俗。考牧宰之治否。問民間之疾苦。因茲民屬本貫之籍。無有浮宕之思。而今諸國宰吏。恣致寃凌之間。遂不堪愁吟。各以所離散也。如此之類。徒黨成群。所刧略海陸之人物也。間伍保內。雖知姧盜之意。或威力而鉗口不訴。或預餘賊而卷舌無告之所致也。法條說罪。豈敢可然乎。尙須下知諸國々司。優恕王民之疾苦。禁止所部凶賊也。

大同元年 秋。水損 七分已上戶。所奉正稅米納。悉從免除。

謹此案之。人民之愁苦者。國家之所患也。非絶苦政者。何能得困之民矣。方今造宮造殿之勤者。天下之重事。雖一方課役。所不可耐忍也。而雨滴重役。同時競起之間。諸國人民半所飢荒也。縱雖可堪不可競。况於不可堪不可競事哉。縱雖抱克身之苦。尚未遇息眉之恩。誠雖知時代之屬凋殘。理運之鍾澆季。畢竟之基由斯令然歟。抑如此因事□給復田租之恩者。有國之嘉讃也。早歸稽古隆泰之化。省黎元飢嗛之憂矣。

大唐六典云。凡祥瑞皆辨其物。大瑞上瑞中瑞下瑞皆有等差。注云。景星慶雲云々之類爲大瑞。三角獸白狼云々之類爲上瑞。白鳩白烏云云之類爲中瑞。秬秠嘉禾云々之類爲下瑞。

日本書紀云。

天武天皇四年正月丙午朔壬戌。東國貢白鷹。近江國貢白鵄。

持統天皇六年九月癸丑。越前國司獻白蛾。戊午詔曰。獲白蛾於角鹿郡浦上之濱。故增封笥飯神廿戶。八年六月癸丑朔庚申。河内國更荒郡獻白山鷄。賜更荒郡大領少領位人一級。幷賜物。以進廣貳。賜獲者刑部造韓國。幷賜物冬十月辛亥朔庚午。以進大肆。賜獲白蝙蝠者飛驒國荒城郡弟國部弟日。幷賜絁綿布。其戶課役限身悉免。

續日本後紀云。

仁明天皇承和六年五月壬辰。河内國志紀郡志紀鄉百姓志紀松取宅中所生橘樹。其高僅二寸餘。而花發者。殖于土器進之。

案之。甲令之約數篇。内律之迹繁文。偏立憲修之意。未詳瑞物之名。爰如孫氏瑞應圖。顧野王符瑞圖等者。本文已覼縷。後素亦分明。然而制作法式撰定等者之處。頗取簡要之條。間有遺漏之事。蓋是倣大唐六典之體也。今於

件異花者。彼六典中全所不見也。檢國史。不載六典之物。臨時有議多。忽爲瑞。由是言之。如此異物。縱无本文。若可賞翫。蓋爲祥瑞。但件花蘇事。渉神異妖祥之間。尙被古董而已。

右大外記主税助教伊勢守清原眞人定俊云。左大臣宣。奉。勅太宰府言上。坐管。筑後國高良上宮石硯幷高座橋瑞花生出。而硯生花。初日花蘼如銀。長七八分許。高座生花。其體如硯生花。生花莖如銀糸。蘂色似雪。長八分許也者。今可爲瑞物否。宜仰紀傳明經明法等道令勘申者。仍勘申。

應德二年九月十九日

從五位上守大判事兼行大藏少輔越中介
明法博士菅原朝臣有眞

勘申一莖三穗嘉禾可爲瑞物否事。

右大外記中原朝臣師遠仰偁。右大臣宣。奉勅。大宰府所獻一莖三穗嘉禾。可爲瑞物否。宜仰明法博士令勘申者。謹撿延喜治部省式偁。景星慶雲云々右大瑞。三角獸白狼云々右上瑞。白鳩白烏云々右中瑞。嘉禾。注云。或異畝同穎。或莖連數穗。右下瑞者。儀制令云。祥瑞應見。若麟鳳龜龍之類。依圖書合大瑞者。隨即表奏。上瑞以下。並申所司。元日以聞。其鳥獸之類。有生獲者。仍遂其本性。放之山野。餘皆送治部。若有不可獲及木連理之類不須送者。所在官司。案驗非虛。具畫圖上。其須賞者。臨時聽勅。上文義解云。木連理之類。謂草木皆是。釋云。應見謂天以瑞應人之處。故應見瑞者。賓也給也行也者。據撿此等文。瑞應草木。其類區分。或異畝同穎。或莖連數穗。皆稱嘉禾。已入瑞物。然則大宰府所獻一莖三穗之禾。乃天應聖主之德。地有嘉禾之瑞歟。仍勘申。

保安四年五月廿八日

修理左京城主典正六位上行明法博士
兼左衞門少志中原朝臣

大藏大輔兼大判事正五位下行明法博士
三善朝臣

令瑞物條。稱表奏云々〔[illegible]〕。以聞云。表奏以聞。其心万一同歟將異歟。如何。

儀制令祥瑞條。稱表奏。稱以聞。其一歟。當爲二歟者。件條云。令大瑞者隨即表奏。上瑞以下並申所司。元日以聞之。說者云〔[illegible]〕。大瑞作表而奏。故注表。但上瑞以下不造表可。公式令云。奏事式。太政官謹奏。其司位姓名等解狀云々。謹以申聞謹奏云々。件令問答云。問。表奏問表造樣何。答。不見表奏上表上啓等之式。宜改書儀之體耳者。

依此等文。大瑞物者作表奏。其體不載令條。上瑞以下稱以聞。此既見奏事式。然則表奏以聞。其意頗異。

長元七年五月十四日　明法博士令宗道成〔[illegible]〕

毛龜事。

延喜治部式云。景星慶雲云々之類爲大瑞。三角獸白狼云々之類爲上瑞。白鳩白狼云々之類爲中瑞。秬秠嘉禾云々之類爲下瑞。

據撿件文。毛龜雖漏式。修洛龜書靈龜玄龜黃[illegible]々龜左顧白龜毛龜白毛龜青毛神龜八眼龜六眼龜四眼龜一角龜白龞。皆以有所載云々。今既爲神龜之類。雖不載六典。臨時有議。盍爲祥端矣。

久安四年壬六月日

大判事兼明法博士小野朝臣有隣

父祖同位者依父位可稱事。

故殿從一位太政大臣准三宮當時。父從一位左大臣。令件若若可申蔭子哉〔[illegible]〕。爲當可申蔭孫歟。繼嗣令云。皇兄弟皇子皆爲親王。以外並爲諸王。選敍令云。蔭皇親者。親王子從四位下。諸王子從五位下。又條云。五位以上子出身者。一位嫡子從五位下。庶子正六位上。嫡孫正六

位上。庶孫正六位下者。
案此等文。父上階。祖下階之人。已稱蔭子。父下位祖上位之者。更號蔭孫。是則偏求及身蔭位之高。不依父祖官職之貴者也。而今於此若君者。殿下已一位地。祖蔭不可過斯。强猶申蔭孫。本位還可御輕。抑亦准三宮宣旨。只爲年爵季宦也。已不御座親王。其蔭雖及彼孫歟。

長元六年七月廿八日　　道成

關白殿若君七月廿七日昇殿。書御名簿之間。有蔭子蔭孫論。而蔭孫ト書了。爲决疑可問也。

出家人子孫不可稱蔭事。

令問答云。問。父若出家之後。子孫可稱其蔭乎。答。案名例律。有蔭犯罪。無蔭事發。無蔭犯罪。有蔭事發。並從官蔭法者。所謂出家以後。已無官蔭之時也。更就何失可稱其蔭乎。
今如此問答者。大殿若君猶可申蔭子也。御堂御(時、)言上如件。

年　月　　道成

父初位之間。一男他色出身。父未定位子及嫡子。父死去。今以誰可爲位子幷嫡子。(請永直、)
戸婚律云。立嫡違法者徒一年。注云。立嫡者本擬承家。嫡妻之長子爲嫡子。不依此立。是名違法。又云。卽嫡妻年五十以上無子者。得立嫡以長。不以長者盡如之。(推之。父未叙八位之前。他色出身。而預猶以嫡妻之長子爲嫡子及位子、)若無嫡妻子者。以庶子長者可爲嫡子位子。

可以嫡妻長子爲戸主事。　　直本

以宮内省圖書寮本加一校畢

續群書類從卷第二百四十七

律令部二

後妙華寺殿令聞書 一名桃蕚殘輝

應撰定令律問答私記事

令ト云ハ。天下法令也。律ト云ハ。法ヲ背ク時人ヲ罪科スル法也。各十卷アリ。本ハ問答ヲカリテ私記ヲ作レルヲ。讀ニクキニヨリテ。天長三年ニ。明法博士額田今足解狀ヲ捧テ。令律ノ注ヲ博士等ニ仰テ作ラセラルベキヨシ望申ニヨツテ。勅許有テ。令律ノ書ニ注ヲ書セラレ侍リ。今ノ律令ニ義解ト云ハ是也。

右得彼省解偁

是ハ官符宣ノ詞也。彼省ト云ハ式部省也。縱ヘバ今足ガ解狀ノ大學寮ニ付クルヲ。大學寮ヨリ式部省ニ付。式部省又太政官ニ付テ奏聞ス。是ヲ勅許アル時ノ官符宣也。解狀ノ解ハ。下タル官ヲ〔ヨリ〕上ヘ申狀ヲ解狀ト云也。式部省ハ太政官ノ下也。今足ハ大學寮ノ下ノ明法博士タルニヨリテ。上ヘアグル文ヲバ何モ解ト云也。

大學寮解偁

是ハ式部省ノ解文ノ詞也。

明法博士外從五位下額田國造今足ガ解ニ偁

是ハ又大學寮ノ式部省ヘアグル時ノ解文ノ詞也。明法博士ハ官ノ名也。法曹ノ輩今モナル官也。從五位下ヨリハ。内階外階トテ二アリ。是ハ今ノ世ノ正月五日ノ叙位ニモ。姓ニヨリテ直ニハ從五位下ニハ叙セズシテ。外從五位下ト書也。昔ハ内外階ニヨリテ。位祿位田ソト多少アルニヨリテ。外從五位下ヲバ次ニスル也。額田國ハ國ノ名也。今ノ世ニハ參河國ニ合セラレテ。參川國ノ郡ト名トナレリ。諸國ニ國司ト云ハ。其國ノ人民ヲ司ドル官也。今ノ世ノ守護職也。國造ト云ハ。其國ノ神社ノ修造ヲ司ドル官也。今ノ世ニハ紀伊ノ國造トテアルハ。日前國懸ノ社ヲ司ドル也。今足ハ此時額田ノ國ノミヤツコニテアリシ也。今足ハ名也。

讀損舊記云々

是ヨリ下ノ文ハ。今足ガ解狀ノ詞也。

年代寢遠

律令ノ書イデキタリテ。天長マデハ年序久シキ事也。

沿革隨時

沿ハ從フ心也。革ハ新タムル心也。隨舊又舊ヲ新ムル二ノ心也。

損益因世

是ハ論語ノ解也。損トハ略スル心也。益トハソヘ加フル心也。

藤原朝庭御宇

是ハ文武天皇ノ御事也。大和國ノ高市ノ郡藤原ノ宮ニ都ヲ立ラル。朝庭ハ内裏ノ事也。是ヲ御門トハ讀也。御ハ天子ヲ申詞也。宇ハ天地四方ヲ宇ト云。天下ヲ治給フニヨリテ。御宇トハ云也。サテ大和詞ニハ。天ノ下シロシメスト讀ル也。

正一位藤原太政大臣

是ハ淡海公不比等ノ事也。此ノ公勅定ヲ承テ。諸儒ニ仰テ律令ノ書ヲ作ラシム。此時ノ令ハ十一卷。律ハ六卷也。是ヲバ古律令ト云也。今ノ世ノ令律ハ共ニ十卷也。

博士正四位下毛野朝臣古麿

是ハ其時律令ヲ撰ベル諸儒ノ位署交名ドモ也。凡テ六人也。贈正四位上ハ死シテ後送ラレタル位也。下毛野朝臣調忌寸心トハ姓ト尸ト也。ヲノ〱名ノリアリ。

至于大寶、、、

古律令ハ大寶元年ニ周備シテ。天下ニ行ハレタル事ヲ云也。

平城朝庭養老年中

是ハ元正天皇ヲ申也。平城ハ大和國奈良ノ都也。元明天皇ヨリ桓武天皇マデハ。奈良ノ都ニテ有シガ。桓武ニ始テ。今ノ平安城ニハ都ヲ遷サレタル也。

同太政大臣

是モ淡海公也。此時ノ令律ハ各十卷也。今ノ世ノ令律也。

博士正四位下大和宿禰長岡

是ハ律令ノ書十卷ヲ撰定セル諸儒ノ名也。凡テ五人也。姓尸名ハ各文ニミエタル也。

自爾以來諸〔マヽ〕

文略義隱

文略スルトハ詞ノ少キ也。義隱ナルトハ義理ノカクレテタシカナラザル事也。故ニ情理ノ心難通トイヘリ。何レモ先儒ノ舊說ヲナライ傳ヘタレドモ。或ハ問答ヲカリテヌキ。或ハ私記ト名付テ各カケルユヘニ。同事モアリ。又替レル事モアル也。其ノ作者ノ名タシカナラザルニヨリテ。誰ガ作ト云事ヲツマビラカニセズトハ云リ。

毎有論決難塞

此ノ詞ハ。諸儒思ヒノ〳〵ニ相論スルニヨリテ。一決シガタキユヘニ。決シテ難塞トハ書ケリ。

夫古之刑書鐘斲鑄之金石銘之

此ノ意ハ晋書ノ杜預ガ傳ニ見タリ。鐘ニ鑄鼎ニ鑄。或ハ金石ニ銘スルハ。一度定メテ變改ヘスマジキ心也。サテ塞異端絶異理トイヘリ。又左傳云。鄭ノ子產刑書ヲ鼎ニイルヨシ見ヘタリ。刑書トハ律ノ書ヲ云也。コノ詞ハ肝要律令ノ注ヲ定ラレテ。一決セラレヨト云ヘル心也。

望請命當時ヽヽ

此ハ今足ガ所望ノ意ヲ云ヘル也。望請ノ二字ハ。上ヘアグル解狀ノ詞也。

省彼迂說ヽヽ

迂說ト云ハ枉レル說也。正義ト云ハマガラヌ說也。

與奪莫異者

コヽマデハ今足ガ解狀ノ詞也。與ト云ハユルス心。正義ヲ云也。奪ト云ハウバウ心也。上ノ迂說ヲ云也。與奪ハ二ノ心也。者ノ字ハテイレバトヨメリ。物ヲ書トヅル所ニ書也。

省依解狀謹請官裁者

是ハ式部省大學寮ノ解狀ニヨリテ。太政官ノ裁許ヲ望心也。

正三位行中納言兼右近衛大將春宮大夫良岑朝臣安世

是ハ勅定ヲウケテ奏下スル上卿ノ位署也。兼行ノ字ハ常ノ位署ノ書樣也。

宣奉　勅依請者省宜承知依宣行之

是ハ上卿ノ詞也。宣ハ上卿ノ下ニ遣ル詞也。奉勅ハ上卿ノ上ノ仰ヲウケタマワル詞也。依請勅許ノ詞也。省ハ式部省也。此仰ヲウケ給ハリ。宣旨ノムネニ任セテ。大學寮ヘ傳

ヘ御テ。今是ガ申承ルマヽニ。律令ノ義解ヲ撰バシメヨト云意也。

詔

是ハ淳和天皇ノ御時。律令ノ義解スデニ成テ。其後仁明天皇ノ承和元年ニ。天下ニ施行セラルヽ時ノ詔書也。義解ノ序ヨリ後ノ詔書ナレドモ。昔ノ端ニツク時ハ。後ニ出キタルヲ端ニ續也。與ニ續ヲバ出キ次第ニ續事也。今モ文書重書ナドニハ。カ樣ニ續事モアル也。

納諸執物王道所先

執物ト云ハ。法度ノ器也。是ハ左傳ノ文也。法令ノ昔ノ事ヲ云ハントテ。法度ノ器ヲ例ニヒク也。人ヲシテ法度ニ入ルヽハ。王道ノ初タル心ナリ。

制以度量皐猷斯在

制スルトハ造ル心也。度ハ丈尺ノ事也。量ハハカリ也。度ハ物ノ長短ヲハカリ。量ハ物ノ輕重ヲカクル器也。是モ法度心也。皐猷ハ大ナル謀ヲ云。大方ハ王道ト云同心也。

故知獨成五教

上ノ詞ニ法度ノ器ノ事ヲ云ヘリ。故ニ知スト云ハ。上ニイヘルニ付タル詞也。五教ハアマタノ心アリ。注ニヒケルガゴトシ。五教ヲタバストハ。尚書ノ皐陶謨ノ文也。又同ジキ書ノ舜典ニモ見ヘタリ。五教ハ仁義禮智信ノ五常ノ道ヲ云。又父母兄弟子ノ五器ノ教トモ云ヘリ。

銜勒万方

銜勒ハ馬ノクツハヅラナリ。クツワヅラニテ馬ヲシタガユル如ク。法度ニテ人ヲ治ム[マヽ]ル事ニ喩ヘリ。万方ノ民ヲ銜勒スト云ヘル。

垂拱而理其法令乎

垂拱シテ治ムルハ。尚書ノ文也。垂拱ト云ハ

衣裳ヲ垂テ手ヲ拱心ナリ。天下ノ理リテ。天子ノ無爲無事ナル姿也。カクノ如ク世ノ治ルモ。法令ノ德ノ至ス所ト云ヘル心也。

後太上天皇

嵯峨淳和皆太上天皇タリ。故ニ淳和天皇ニハ後ノ字ヲ加ヘタリ。此注ニ平安朝庭ノ第二ト云ヘルハ。桓武天皇ヲ平安城ノ初メノ主ニ取テ。淳和ハ桓武ノ御子タルニヨリテ。昭穆ノ次第ニ任テ第二トハ云ヘル也。誠ハ第四ノ主也。桓武。平城。嵯峨。淳和ト數フル時ハ。第四ニアタル也。此淳和天皇ノ天長年中ニ。律令ノ書ヲ注セラレシ事ヲ云ヘル也。

循機玄扈

玄扈ハ。黄帝ノ玄扈ニマシ〳〵シ時。鳳凰ノ圖ヲ銜テ。黄帝ニサヅケシ事ヲ云ヘリ。玄扈ハ石室ノ名也ト云ヘリ。機ヲ循ムルハ。萬機ノ政ヲ治ムルヲ云。淳和天皇ノ位ニ付給ヘル事ヲ云ヘリ。

比德丹陵

丹陵ハ唐堯ノ事ヲ云ヘリ。德ヲ比スルハホメ申詞也

事勤遠圖

遠圖ハ遠キ謀也。

慮在長策

長策ハ長キムチ也。ムチニテ馬ヲ從フル如ク。法ニテ民ヲ治ムルナリ。

以爲法令文義隱約難詳

隱約トハ。文字ノ義理ノカクレツヾマヤカニシテ。心エガタキ事ヲ云ナリ。

前儒註釋方圓遞執

方圓ハ四ホウナル物ト。マロキ物トヲ云也。前儒ノ註釋是ホドノチガヒ有テ。互ニヒキヒキニ論ズル心ナリ。

豈使三家異說輕重參差

三家ハ。後漢書ノ陳寵ガ傳ニ見タリ。古ヘ法令ニ三家ノ説カハリテ。輕重違イアラシムルナリ。

二門殊躅舞文弄法

後漢書ニ。刑二門ヲヒラクト云ヘル詞アリ。譬ヘバ人ヲ罪スルニ。輕重ノチガヒ有事ヲ云ヘリ。故躅殊ナリト云ヘリ。文ヲ舞スト云ハ。文ヲカザリタル也。法ヲ弄スルモ。法ヲ以テアソブ心也。人ヲ刑罰スルハ一大事ノ事ナルヲ。輕々シクスル心也。

永言於此固切震沖

言。ソレトヨメリ。我ノ心也。天子ノ御詞ナリ。震沖ハ帝ノ心ヲ云。沖ハ中心ナリ。

爰勅在朝通令討覈

在朝ハ朝庭ニアル群臣也。討覈ハタヅネ勘フル也。律令ノ義理ヲ。群臣ニ仰テ討論セシムルナリ。

稽之於典籍參之以古今

典籍ハ書也。書ニ勘テ。古今ノ道理ヲ以テ。律令ヲ注スル心ナリ。

迄于滯疑祇稟聖斷

滯疑ト云ハ疑ヒトヾコホル心也。聖斷ハ天子ノ御定也。疑シキ事アルヲバ。叡慮ヲ承ル心ナリ。

咸加辨折已盡倫通

辨折ハ辨説ヲ以テ折中スルナリ。倫通ハ道理ノ心ナリ。

裁爲十卷名令義解

裁ハ紙ニ書心ナリ。義解ハ義理ヲ以テ注スル心ナリ。今ノ令ノ十卷ノ事也。

屬屆飛龍之眇轡顧汾陽之窅然

飛龍ハ天子ノ位ヲ云。眇轡ハ馬ノクツワヅラ也。眇ハ末ノ字ノ心也。此ハ淳和天皇ノ脱屣ノ事ヲ云也。脱屣ハ御位ヲ去心ナリ。屆ス

ルノ詞ハ。飛龍ノ馬ノヽヅナヲ止ムル心也。位ヲ去心ニタトヘタリ。汾陽ハ莊子ニアル事也。汾陽ハ所ノ名。昔堯ノ姑射ノ仙人ニマミヘテ。天下ノ事ヲ忘タル事ヲ云ヘリ。仙洞ノ古事也 淳和天皇ノ太上皇トナリ給フ事ヲ云ヘリ 窅然ハ寂寞ノ心。御位ヲ去テ靜ナル、心ナリ。

未有施行藏之秘府

淳和天皇ノ御時。令ノ義解ハ出キタレ𪜈。未天下ニ施行セラレズシテ。文庫ニヲサメラレタル心ナリ。秘府トハ圖書寮ヲ云也。此寮ハ書籍ヲ治ラルヽ所也。中務ノ下ノ官寮ナリ。

朕以窅昧臨馭寰區

朕ハ我也。天子御詞也。窅昧。窅ハ徳ノ少ナキ心。昧ハクラキ心也。天子ノ御卑下ノ詞也。寰區ヽ天下ヲ云。馭ハ治ムル心也。仁明天皇ノ我ガ身徳モナクテ。天下ノ主トナリ給ヘル事ヲ云ヘリ。

思遹明謨導揚景業

明謨ハ明ナル謀。景業ハ大ナル業也。明謨景業ハ何レモ昔ノ聖主ノ事ヲノ給也。導揚モアグル心。律令ノ注ヲ作ル。昔ノ跡ニ從フ事ヲノ給ヘリ。

宜頒天下普使遵用

頒ハヒロク天下ニ施ス心ナリ。遵用ハ各コノ法ヲ守リテ從ヒ用ベキ心也。

畫一之訓垂於萬葉

畫ハ紙ニ書心也。一文字ヲ書如ク。物ノトヽノホル事ヲ云也。漢書ノ曹參ガ古事也。律令ノ義理ノ正シクトヽノホル事ヲ云也。萬葉ハ萬世也。末代マデモ殘スベキ事ヲ垂ルヽト云ヘリ。

主者施行

此ノ詞ハ。今モ詔書ノ終リニ書詞也。主者ハツカサドル物。詔書ヲ施行スル官ヲ云。心ハ中務省也。仁明天皇ノ御時。律令ノ義解ヲ天下ニヒロメラルヽ時ノ詞ナリ。承和元年ハ則仁明天皇ノ時ノ年號ナリ。

上令義解表

是ハ淳和御時。令義解出キテ後。天子ヘ上ツル時ノ表ノ詞也。下ヨリ上ヘ申事ヲバ表ト云也。

臣夏野等言

秦ノ世ヨリ天子ハ朕ト稱也。臣下ハ臣ト稱ス。後代モ皆秦ノ世ノ法ニ從フ也。夏野ハ天武天皇ノ曾孫。小倉王ノ第五ノ子也。清原眞人姓ヲ給リテ。右大臣マデナレル人也。雙岡大臣ト稱セリ。此人上卿ニテ表ヲ上レルナリ。

逖聽列辟

逖ハ遠也。辟ハ君也。列辟ハ歴代所列ノ君ト云心也。昔ノ聖王ノ跡ヲキク心ナリ。

略閲縑緗

縑ハ絹也。緗ハ淺黄ノ色也。淺黄ノ染タル絹ニ書ヲ云。絹ハ紙ノ代也。凡テ書籍ヲ云詞也。文選ニ緗帙ト云同心ナリ。

蹋歴登皇

歴ハ天ノ暦數ト云心也。天子ノ位ヲ蹋心ナリ。皇ハ三皇ノ義也。

乘圖稱帝

圖ハ河圖ノ書也。王業ノ事ヲ云也。帝ハ五帝ノ帝ニ同。

莫不發號施令張經緯而理邦

號ト令トハ共ニ法度ノコト也。經緯　絹ノタテヌキ也。國家ヲ經緯治ムル心テリ。

齊禮提刑設隄防以濟代者也

齊禮ハ論語ノ詞也。提刑ハ刑罰ノ法ヲ設テ

人ヲ畏シムル心也。隄防ハ川ノツヽミ也。水ヲフセガン爲也。禮法ヲ設テ民ニ惡ヲナサシメザルハ。隄ノ水ヲ防グガ如キ也。

雖云龍鳳異紀文質遞興

龍紀ハ伏犧ヲ云。鳳紀ハ少昊氏ヲ云。伏犧ノ時ハ龍ノ瑞アリ。故ニ龍ヲ以テ官ニ名ヅク。少昊ノ世ニハ鳳鳥イタル。故ニ以鳳紀事。左傳ノ昭公十七年ノ傳ニ見タリ。文ハ周ノ世ヲ云。質ハ殷ノ世ヲ云。文ハカザリタル心、質ハスナホナル心。此ノ二句ノ文ハ。聖人ノ世ニカザリタル事ドモ也。

至於訓俗庇人殊塗同致

俗ヲ訓ルハ民ヲ訓ル也。人ヲタスクルモ大略同心ナリ。塗ハカハレドモ。民ヲ訓ヘタスクル事。趣ヲ同スト云心也。是マデハ昔ノ聖王ノ世ノ事ヲ云ヘリ。

伏惟聖上

伏テ惟レバ。上表ノ詞也。頭ヲカタブケテ。當今ノ事ヲ思惟スル心ナリ。聖上ハ淳和天皇ヲ申也。

道光四表德被百王

是ヨリハ君ヲ美申詞也。四表ハ四方也。百王ハ昔ノ百世ノ王也。道ト云ハ行フ方。德ト云ハ心ノ德ナリ。

拱巖廊以垂衣臨寰區而作鏡

巖廊ハ高キ殿ヲ云。天子ノ御座也。拱ハ手ヲコマヌク心也。衣ヲ垂ルヽハ周易詞也。天下ノ政ハ百官ニ行ハシメテ。天子ハナス事モナキ無爲ノ姿ヲ云也。垂拱ト上ノ文ニイヘル同事也。寰區ハ上ニイヘルガ如也。天下ヲ指也。鏡ハ德ノ明ナルニ譬也。

彝倫攸叙禮樂交通

彝倫ノフル攸ハ。尚書ノ洪範ノ篇ノ詞也。彝倫ハ常ノ道理ト云心ナリ。禮樂ハ禮ト樂ト

ナリ。天下ノ政ハ禮樂ノ二ニ過タルハナシ。
故ニ交通トハイヘリ。

鴻化所覃華夷感悅

鴻化ハ大化也。大キナル鳫ヲ鴻ト云。故ニ鴻ノ字ハ大ナル心ニ用ル也。華夷ハ都トヒナト也。是マデハ今ノ淳和ノ御世ニ。天下ノ治タル事ヲ云也。

然猶宵衣宣室恐万機之有衍

然猶ノ詞ハ。上ニ云如ク天下ハ治ルトイヘドモ。主上ノ御心ニハ由斷モマシマサヌ事ヲ云ヘリ。宣室ハ殿ノ名也。宵衣キルト云ハ。漢ノ孝文帝ノ夜ノ明ザルニ衣ヲキ給ヘル事ヲ云。心ニヲコタラザル心也。故ニ万機ノ政ノアヤマリアラム事ヲ恐ルヽユヘ也。

晏食合宮念兆庶之不愜

天子ハ朝政ニヒマヽシマサヾルユヘニ。日タケテ始テ御膳ヲ進ムル事ヲ云。合宮ハ黄帝ノ宮ノ名也。兆庶ハ万民ヲ云。不愜ハ道ニ違事ヲ云。

遂降冲旨搜揚法家

冲旨ハ深キムネ也。勅定ノ旨ヲ云也。法家ハ法曹ノ人也。搜揚ハ道理ヲ搜テ申上シムル也。

以爲前儒解釋遞有乖向淺深易混輕重難詳

以爲ノ二字ハ。ヲモヘラクト讀テ。更ニヲモヘリト讀ベキ也。爰ニハ天子ノ思食御心ヲ云也。昔ヨリ前儒ノ解釋アリトイヘドモ。善惡アル心ヲ云也。乖ハ理ニ乖也。向ハ理ニ叶ヲ云。解釋ノ注ニ善惡アルヲ云。淺深ハ水ノ淺ク深ガ如也。混ジ易クト云ハ。理ノ分別シガタキ心也。混ズルハヒトツニナル心。輕重ハ量ノ輕重也。難詳モ分別シガタキ心也。是ハ昔ノ律令ノ書ノ注ニ。アヤマチアル事ヲ云也。

臣等識謝張蒼業非陳寵

識ハ智恵ノ事ヲ云也。張蒼ハ漢ノ高祖ノ臣ノ名也。法度ノ器ヲ作レル人也。謝スルト云ハ。張蒼ガ智恵ニ及バヌ心也。業ハ功業也。陳寵ハ後漢ノ世ノ人也。律令ノ道ニ明ナル人也。非ト云ハ卑下ノ詞也。

謬以庸弊叨應明詔

庸ハ常也。ヨノ常ノ人ト云心也。弊ハクラキ心也。卑下ノ詞也。叨テ明詔ニ應ズルハ。智恵モナキ身ニテ。大事ヲ仰テ承タマハル心也。故ニアヤマリ叨トハイヘリ。叨ノ字ハミダリトモ讀メリ。

或筆或削一增一損

筆削ノ二字ハ。孔子ノ春秋ヲ作シ給事ヲ左傳ニイヘリ。筆ハ筆ニテ書也。削ハケヅル也。昔ハ紙ニカヽズ。竹ノ簡板ナルニ書ルユヘニ。書アヤマル事ヲバ刀ニテ削ルユヘニ。筆削トハイヘリ。增スルハ本ノ詞ニ書添ル心。損ズルハ古キ詞ヲ略スル心。

共疑而不決聞而未明皆仰稟宸規斷之聖覽

疑ガハシクシテ臣等ガ心ニ一決セズ。聞クシテ臣等ガ心ニアキラメザル事ヲバ。皆叡慮ヲウケ。聖斷ニ任セテ書心也。宸モ聖モ天子ノ事也。規ハ謀也。覽ハ御覽也。

據時制變令古便今

チガヒタル事ヲバ。時ニ從テ改メナヲス也。而モ古人ノ心ニ稱ヒテ。今ノ世ニタヨリアル樣ニ注ストナリ。

誡可改生靈之視聽爲皇王之模範者也

生靈ハ人ヲ云也。生レテ心サトキ故ニ。人ヲ生靈ト云。視聽ハ目ト見ト耳ニ聞ト也。皇王ハ君也。模範ハ法度也。律令ノ書ハ。人ノ視聽ヲ改テ君ノ法トスベキ也。視聽ヲ改トハ。喻バ見聞事ニ付テ。惡ヲ改テ善ニナス心ナ

り。

裁成十卷名令義解星霜五變繕寫功遂拜表呈奏伏深戰越

星霜ハ年也。天長六年ヨリ十年マデヲ五變ストイヘリ。繕寫ハ書寫ノ功ナツテ。表ヲソヘテ。義解ノ書ヲ奏上スル也。戰越ハヲヂヲノヽクト云。天子ヲ恐申心也。表ヲ書詞也。

臣夏野等誠惶誠恐頓首々々謹言

是ハ禮節ノ詞。惶モ恐ルヽ心也。頓首ハ首ヲ地ニ付ル心也。頓首々々トハ。深恐タル心ニ再三云也。謹デ言ハ常ノ如也。天長十年十二月十五日ニ上ル表詞也。下ノ令義解序ニ。夏野ハ正三位ト見タリ。此表ニハ從二位ト書ケリ。天長十年ノ二月マデハ。夏野公正三位タリシガ。其年ノ三月六日ニ。從二位ニ叙スルニ依テ。十二月ノ上表ノ詞ニハ。位署ノ詞替レル也。右大臣從二位ハ相當ノ官也。相當スル時。官ヲ上ニ書。位ヲ次書。故ニ右大臣從二位ト書。左近衞大將ハ從二位ヨリ卑ニ依。行ト書。右大臣ヲ賞スルニヨリテ。大將ヲバ兼ノ字ヲ書。

令義解序

是ハ本書之序也。義解十卷序也。

正三位守右大臣兼行左近衞大將臣清原眞人夏野等奉勅撰

正三位ハ位卑ク。右大臣ハ官高故。用守字。其外ハ表ノ位署ト同也。此義解ノ序ヲバ。小野篁夏野公ニ替テ書ルナリ。本朝文粹ニ見タリ。等ノ字ハ。夏野一人ニ不限諸臣ニカケテ云詞也。勅ヲ奉テ撰スル。ヿ義解ノ事也。

臣夏野等聞春生秋殺刑名與天地俱與

聞ノ字ハ。夏野等ガキヽ知レル事也。下ニ云ヘル事共也。春ハ陽ノ時タルニヨツテ物ヲ生ス。秋ハ陰ノ時タルニヨツテ物ヲ殺。刑名

ハ文武ノ道也。天地ト倶ニ其理ヲコルト也。

陰慘陽舒法令共風霜並用

文選ノ西京賦ニ曰ク。民ハ陽ニ在テハノブ。陰ニアツテハ愁トイヘリ。上ニ春ハ生シ秋ハ殺スト云。大略同心也。風ハ草木ヲ生ス。霜ハ草木ヲ枯ス。是ヲ法令ニ譬フルナリ。

犯之必傷蠟炷有爛蛾之危

之ヲヲカセバ必ヤブルト云ハ。法ヲ犯セバ我身ヲ必ソコナフト云心也。蠟燭也。爛蛾ハ火取虫ノ名也。爛ノ字ハ。火ヲ取ントテ我身ヲタヾラカス心ナリ。是ハ法ヲ侵シ必ヤブルヽ喩也。火ヲ取ズバ我身ハ燒マジキ也。法ヲ侵サズバ身ヲ破マジキ喩ナリ。

觸之不漏蛛絲設黏虫之禍

是ニフルレバモリスト云ハ。是其法ヲ侵セバ罪ヲノガレヌ心也。蛛絲蛛ノアミ也。黏虫ハ蛛ノイトニ懸レル虫ノ事也。蛛ノイトニカヽラズバヲノレヲ失フベカラズ。法ヲフレ侵サズバ。罪セラルマジキ譬ナリ。黏ノ字ハネカイト讀リ。網ニカヽレル心ナリ。

昔寢繩以往不嚴之教易從

寢繩ハ淮南子ニイヘル事也。古ヘノ女媧氏ノ事也。繩ニイヌト云ハ。身ヲスグニシテ臥事ナリ。只往古ノ事ヲ云也。不嚴之教ハ孝經ノ詞也。其政イツクシクセザレドモ。民從テヲノヅカラ治マル事也。古ヘスナホナリシ世ヲ云フナリ。

畫服而來有恥之心難格

畫ノ字ハグワトクワクトノ二ノ聲アリ。唐虞ノ世ニ。衣服ヲ以。罪ノ輕重ニ從テ是ヲ服セシム。ユヘニ畫服ト云ヘリ。畫ハ衣ニ畫ヲ書タルヲ云。世末ニナルマヽニ。罪ヲ侵ス物出タルニヨリテ。其タメニ畫服ノマウケアル也。有恥ノ心ハ論語ノ詞ナリ。有恥ハ罪ヲ

恥ル心ヲ云。タヾシガタシト云ハ、罪ヲ侵ス物ヲ難格トイヘリ。恥ヲ知レル物上ニテモ。猶心ハタヾシクシガタキ也。

隆周三典漸増其流

隆ハサカンナル心也。周ノ世ノ隆ナルヲ云。三典トハ。刑法ニ三典ノ科アル也。注ニミエタリ。流ヲ増トハ。刑書ノ漸多クナル心ナリ。

大漢九章遂分其派

大漢ハ漢ノ徳ノ大ナル時ヲ云。九章モ法ノ事也。漢高ノ時ニ。九章ノ法ヲ定メラレタリ。其派ヲ分ツト云モ。イヨ／＼條目ニヲヽクナル事ヲ云。

雖復盈車溢閣尘市之姦不勝

車ニ盈ルトハ。五車ノ書トイフガゴトシ。閣ハタナ也。是モ書ヲ棚ニツミアマル心也。尘市ハ罪ヲ侵ス物ノ多ヲ云。尘市ハ市人ノ尘バ罪アル物ノ心也。姦トハカタマシキ物ヲ云。

鑄鼎銘鐘滿山之弊已甚

鼎鑄鐘銘スルハ刑書之事也。滿山ノ弊トハ盜人ノ事也。注ニ見ヘタリ。

降及澆季煩濫益彰

澆季ハスヘノ世ノ事也。澆ハウスキ心。季ハスヘ也。煩濫ハ罪ヲ侵ス物ノ多ヲ云也。

上任喜怒下用愛憎

上ノ人ヲ罪スル事ノタヾシカラザルヲ云也。喜怒ハ喜ビイカル也。愛憎ハ愛スルトニクムト也。是ハニクヽ思物ヲバ兄弟ヲモ重クシ。愛スル物ヲバ重罪ヲモ輕クス。上タル人ノ法ヲ守ル事ヲ云也。

朝成夕毀章條費刀筆之辭

今朝定メタル事ヲモ。夕ニハ又破ル。章條トハ法ノ事也。刀筆トハ刀ヲ以テケヅリノゾ

キ筆ヲ以書加フル也。是ハ皆上ノ人ノ行フ事ノチガヒタル事ヲ云也。法令ヲバ次ニシテ。我ニシタキマヽニスルナリ。

富輕貧重憲法歸賄貨之家

富ル物ハ貨ヲ出スユヘニ罪ヲ輕クス。貧シキ物ハ物ヲ出サヾルユヘニ罪ヲ重クス。賄貨ハ賄ノ寶ヲ云。ワイロノ多少ニヨツテ。罪科ヲ行フ事ヲソシル也。

嚴科所枉劒戟謝其銛利

嚴科ハ重罪ナリ。罪ヲ枉ルニヨツテ。頭ヲハネラルベキ物ヲモタスクルニヨツテ。劒ナンドヤイバノトキモニブクナリテ。用ニタタヌ心也。銛利ハ劒ノ刄ノトキヲ云也。謝スルト云ハニブクナルヲ云也。

輕比所假君父慙其温育

輕比ハ罪ヲ輕クシテ人ニヲモネル心也。温育ト云ハ仁愛ノ心ヲ云。罪ヲ輕ンジ人ヲタスクル事ハ。君父ノ仁恩也。物ノ敎トスルニ足ザル事也。已上ノ詞ハ。漢ノ范曄論ノ詞トイヘリ。

故令出不行不如無法敎之不明是爲樂刑

法令ヲ出サレテ。理ノ如ク行ハレザル。法ナキニハヲトレル也。敎ハ上ノ敎化ナリ。不明ハクラキ也。敎化ノ明カナラザルトキハ。罪ヲ侵ス物ヤマズ。故ニ刑ヲネガフト云。是皆上ノ法ノチガヒタル事ヲ云也。

伏惟皇帝陛下道高五讓勲劇三握

皇帝ハ淳和天皇ヲ申ス。陛ハ階也。天子ニハ直ニ物ヲ申サズシテ。恐アルニヨリ階下ノ臣ニ傳テ申也。ヨツテ天子ヲバ陛下ト申也。東宮執政ナドヲバ殿下ト稱也。大臣ヲバ閤下ト云ガ如シ。皆人ニ傳テ申ユヘ也。五讓ト云ハ。五タビ天下ヲ讓ル心也。漢書ノ文帝ノ事ニ見タリ。道高也ト云ハ。五讓ヨリモ高シ

ト稱タル詞也。三握トハ。一タビ髮ヲ洗フ中ニ。三度本取ヲ握ル事ヲ云。湯アムル內ニモ由斷ナキ事ヲ云也。是ハ周公ノ事也。劇ト云ハ。昔ノ三握ヨリモ猶マサレルト云心也。

類金玉而垂法

金玉ハ金科玉條ト云心也。法令ノ書ヲ金玉ニ比シテタトフル心ナリ。

布甲乙而施令

甲乙ハ令ノ書ニ卷ノ數アルヲ云。甲乙ハ第一ノ卷第二ノ卷ナド云ガ如也。

芟春竹於齊刑

齊ノ景公竹ヲ植テ。法ヲ出シテ云ク。此竹ヲソコナウ物アラバ。頸ヲキラント云ヘル事也。刑法ノカラキ事ヲ云也。

銷秋荼於秦律

秦ノ法ノ繁キ事ヲ。秋ノ荼ニタトヘタリ。上ニカルト云ヒ。コヽニ銷スト云ハ。今ノ聖代ニ昔ノ法ヲ改メラルヽ事ヲ云也。

孔章望斗之郊无復寃牢之氣黄神脫梏之地唯看香楓之林

此一聯ノ對句ハ。天下太平ニシテ。刑用ザル事ヲ云也。孔章ハ人ノ名也。昔干將莫邪ト云劍ヲ。土ニ埋マレテ有シガ。其劍ノ氣斗牛ノ星ノ間ニ見シヲ。望斗トハイヘリ。此劍ヲ孔章掘リ出シテケレバ。斗牛ノ間ノ氣ノ見エヌヲ。寃牢ノ氣ナシトハイヘリ。寃牢ハ獄舍ニウヅモレタル恨ノ氣ヲ云ヘル也。心ハ今ノ世ニ怨ヲ含メル物ノナキヲ云也。黄神ハ黄帝ヲ云。黄帝蚩尤ト云ヘル物ヲトラヘテ。頸カセヲ入タルヲ。後ニ其頸カセヲヌキテ捨タリシカバ。楓ノ木ニナレル事ヲ云ヘリ。今ノ世ニハ罪セラルヽ物ノ無事ヲ云也。世ヲホメタル詞ナリ。

猶慮法令製作文約旨廣先儒訓註案據非一

猶慮ハ天子ノ思惟之樣出也。昔ノ法令ノ書。文ハツヾマヤカニ略シテ。旨ハ廣ク深キヲ云。是ニヨッテ先儒ノ註釋思案スル。ヨリ所マチ〳〵ニシテ一ニアラズト云ヘリ。

或專守家素或固拘偏見

家素ト云ハ。家々本ヨリ相傳シ來レル事ヲ云。偏見ト云ハ。偏執ノ見解ヲ云也。

不肯由一孔之中爭欲出二門之表

一孔ハ一ノアナ也。二門ハ二ノ門也。註ニイヘルガゴトシ。

遂至同聽之獄生死相半連案之斷出入異科

同聽トハ同ク訟ヘヲキク人也。生死相半ナリト云ハ。十人ノ物ガ。五人ハイカスベシト云ヒ。五人ハ殺スベシト云事也。連案ハ法曹ノ輩ノ連署シテ事ツル事也。獨ハ獄ヲ出スベシトイヒ。獨ハ獄ニ入ベシト云。サテ科ストナリト云ヘリ。

念此辨正深切神襟

是ハ意見マチ〳〵ナル事ヲ。天子ノ一頭ニ正サン事ヲオボシ召ナリ。神襟ハ叡慮ヲ云也。

爰使臣等集數家之雜説擧一法之定準

是ハ數家ヲ雜説ノマチ〳〵ナル事ヲ。一法ニ決セン事ヲ云也。定準ハサダマレル法ノ事也。準ハ水ヲ以テ地ノタレサガリヲ知事也。

臣謹與參議從三位刑部卿兼信濃守南淵朝臣弘貞

弘貞〔二字省〕。此臣ノ字ハ。夏野公ノ身ニ宛テ云ヘル詞也。以下ノ十人ノ連署ノ官位相當ノ書樣也。

輒應明詔辨論執議陳家古壁之文探而無遺

明詔ニ應ズルハ。臣下仰ヲ承テ。辨論シ執議スルヲ云。陳家。漢ノ成帝ノ時。陳咸ト云物。

律令ノ道ニ明ナル人也。古壁之文ト云ハ。家ニ傳ヘタル書ヲ。壁ノ中ニ治メタルナリ。其ヲモ今探テ殘ス事ナシト云リ。

于氏高門之法訪而必盡

于氏ハ。漢ノ世ニ于定國ト云物。父于公法曹ノ道ニ明カナル人也。高門ト云ハ。門ヲ高クスル也。于公ガ陰德アルニヨリテ。我々子孫ニ宰相ニイタル物有ベシト云ヘルガ。案ノ如ク于定國ガ世ニイタリテ。宰相ニナリテ。駟馬高蓋ノ車ノ出入程ニ門ヲ高クセル也。其等ガ法ヲモ今訪テ盡ストイヘリ。

其善者從之不以人棄言其迂者略諸不以名取實

人ヲ以テ言ヲステズト云ハ。云人ニハヨラザル也。ヨクダニアレバ。言ヒテハ誰ニテモアレ取用ルヲ云也。迂ト云ハマガレル理ヲ云也。實ヲ本ニシテ名ヲバ次ニスル也。是モ人ヲ以テ言ヲステズト云。大略心ハヲナジ事也。

一加一減悉依法曹之舊云

加減ト云ハ。辭ヲソユルト。辭ヲ減ズルトヲ云也。舊云ト云ハ。法曹ノ家ニフルクヨリ云ヒ傳タル事也。

乃筆乃削非是臣等之新情

筆削ハ上ニ記セリ。新情ハ今案ノ詞ニ非ザルヲ云也。

猶有五劔雖名兩壁易似

五劔兩壁ハ。律令ノ法ニ疑ハシキコト有タトヘナリ。五劔ノ名ハ注ニ見タリ。五劔ハ越王勾踐ノ寶劔五有也。事注ニ見ヘタリ。兩壁ハ陶朱公ガ二ノ玉ノ事也。似タル物ノ譬ハニ云ナリ。

必稟皇明長質疑滯

疑ハシキ事ヲバ。勅定ヲウケテタヾス事也。

有巣在昔大壯成其棟宇網罟猶秘重離照其佃漁

此一聯ノ對句ハ。昔有巣氏穴ニヲリ巣ニスミシガ。易ノ大壯ノ卦ヲ見テ。始テ宮室ヲ作リ。棟ヲ上ニシ宇ヲ下ニセシ事ヲ云。是ハ物ニ譬ヲトル心也。網罟ハ魚ヲトル網也。是ハ易ノ重離ノ卦ヲ見テ。佃漁ニ用ル網ヲ結シ事也。是モ物ニ喩ヲトル心也。註ニミヘタリ。

今乃成之聖日取諸不遠

上ニイヘル宮室網罟ハ。各物ニ喩ヲ取テ物ヲツクル心也。今此ノ書ノ註ハ。直ニ聖日ノ勤言ヲウケテ書ナセルユヘニ。譬ヲトルニ及バザル心ナリ。故ニ不遠ニトルトイヘリ。註ニ見ヘタリ。

臣等遠愧皐虞近慙荀賈

皐ハ皐陶。虞ハ虞舜ヲ云。皐陶ハ舜ノ世ニ士師ト成テ。法律ヲ作レル物也。故ニ皐虞ヲ恥トイヘリ。荀賈ハ荀勗。賈充ノ二人ヲ云ヘリ。共律令ヲ定タル人也。

牽揺歴稔僶俛甫畢

臣等才ノ揺キニ引々テ。年ヲヘテ此經ヲカセル也。僶俛ハツトメタル心也。ツトメテ漸漸ト書ハテタル心ナリ。

分爲一十卷名曰令義解凡共篇目條類具列于左也

篇目ト云ハ。官位令職員令ト云事也。左ト云ハ奥ノ事也。

淺深水道共宗於靈海小大公行同歸於天府

水道ハタトヘ也。万水ハ皆東海ニ宗スルガ如ク。万方ハ皆天子ニ朝スルヲ云。宗ハ朝ト同事也。小大ノ公行ハ。大事小事ノ政事也。天府ハ天子ノ府庫ノクラヲ云。

諸序

下ノ第一第二ハ。令ノ書ノ目録也。天長十年ノ下ノ連署ハ。下郎ヨリ上﨟ヘ書ツラネタ

ル也。或ハ上臈ヨリ下臈ニ書事モアリ。事々ニヨル也。

官位令第一

官ハ大臣以下書吏以上ヲ云。位ハ一品以下初位以上ヲ云。註ニ云ガ如シ。官位令ニ載タルハ相當ノ官位也。相當ノ時ハ。位署ニ官ヲ上ニ書。位ヲ下ニ書ニヨッテ。官位トハ云ルナリ。相當セザル時ハ。行守ノ字ヲ用也。令ハセシムルトヨム。法令ニタガワザラシムルト云心ニ。令トハ云也。第一ハ常ノ如也。

凡一十九條

親王ノ四品ヲ第一條ニトル。諸王諸臣ノ一位以下初位以上ヲ十八條ニトル。合テ十九條也。

親王

本朝ノ法。天子ヲバ皇帝ト申。其一族ヲバ皆王ト云。其中天子ノ御兄弟御子ヲ親王ト云。二世以下ヲ皆王ト云。親ハ近キ心ナリ。

一品

品ハ位ノ心也。唐朝ニハ何ヲモ品ト云。本朝ニハ親王ニハ品トカキ。諸官ニハ位ト書也。

諸王諸臣

二世以下姓ヲ給ラヌハ。諸王ト云。姓ヲ給テ後ハ臣ト云也。

正一位從一位

正ハ定レル心也。從ハ正ノ位ニ從フ心也。

勳一等

勳位ハ戰場ニ出テ。其ノ勳功ニヨッテナサルヽ位也。一等ヨリ十二等ノ階アル也。勳一等ハ正三位ノ相當ト也。以下ハ下ニ見タリ。或ハ勳位ハ文位ヲ兼帶スル事モアリ。勳位バカリノ時ハ黄袍ヲ着スル也。文位ヲ帶スル時ハ位袍ヲ着スル也。タトヘバ勳一等ノ

七位ヲ帶セル緑ノ袍ノキテ。正三位ノ下從三位ノ上列立スル也。

正四位上正四位下

四位以下ハ。各上下階ニ分ツニヨテ。四ニナル也。

大初位

九位ヲ初位ト云也。初ハハジメ也。初位ヨリハ。始メテ位袍ヲ用ルニヨテ初位ト云。初ノ字ハ。衣ヘンニ刀ヲ書。衣裳ヲ裁心也。

四等之官 傍通

	長官	次官	判官	主典
官 神祇	伯	副	祐	史
官 太政	大臣	納言	少納言 辨	外記 史
省 八省	卿	輔	丞	錄
職	大夫	亮	進	屬
寮	頭	助	允	屬
司	正		佑	令史
臺	尹	弼	忠	疏
府	督	佐	尉	志
國	守	介	掾	目
大宰	帥	貳	監	典
郡	大領	少領	主政	主帳
東宮 監	正			令史
東宮 署	首			令史
後宮	尙侍	典侍	掌侍	女孺
家	令	扶	從	書吏

長官ヲカミト云ハ。諸官ノ上ナルユヘ也。次ヲスケト云ハ。タスケノ心也。長官ヲタスクル心也。判官ヲバ。ゼウトモ。マツリ事人トモ云也。主典ヲバ。サクワント云。タスクル官ノ心也。四等ノ名ハ諸官ニワタル也。

被接官

四等ノ官ノ外。相當アリテ其官ニ接セラレタルヲ云。

侍從　內記　監物

主鈴　典鎰　諸博士

侍醫　助教　解部
雅樂諸師　諸師　判事
典履　主醬　彈正巡察
大宰主神大工等
流外官不載官位令者無相當官也
神部　卜部　使部　直丁以上神祇官
史生　官掌　使部　直丁以上太政官
內舍人　省掌　使部　直丁以上中務官
自餘略之。職員令ニ見ヘタリ。

職員令第二

本朝ノ官職ハ。綏靖天皇ノ御宇。食國ノ大史ヲ置レテヨリコノカタ。孝德ノ朝イタツテ。八省百司ヲ置ル。大化五年ノ事也。唐高宗ノ世ト同時ナルニヨツテ。多ハ唐ノ官ヲモテ例トセル也。此令ヲ以テ官位令ノ次ニヲケルハ。其官ニ居ル物ハ。職掌ト員數トヲ知ベキト云心也。職ハ司ドル心也。員ハ數也。數ニ二ノ心アリ。神祇官ヨリ八省以下ヲアゲタルヲ數ト云也。又官每ニ四等アリ。雜任アリ。是又數也。此註コマカニ是ヲイヘバ。則司ゴトニ長官以下雜任以上ト云ヘル心也。

神祇官

天神ヲ神ト云。地神ヲ祇ト云。官ハ事也。此官ハ舍ヲ立テ。其內ニシテ長官以下其事ヲハカル故也。本朝ハ神事ヲ以テサキトス。故ニ此官ヲ第一ニヲケリ。

伯一人

伯ハ長也。當官ノ長タルユヘ也。一人ハイツユル數也。唐名ニハ大常卿ト云。掌ノ字ノ下ハイハユル職也。

神祇祭祀祝部

周禮ニ祀大神祭大祇トイヘリ。故ニ祭祀ト云。祝部ハ祭ノ主トシテ。ノト詞ヲ讀物ヲ云。註ニコトバヲタスクルトイヘリ。今モ諸

社ニ祝部トテアル是也。其ノ祝部ハ。諸國ノ司神戸ノ中ニヲイテ。其人ヲ撰トイヘリ。神戸トハ神領ヲ云。其中ニテ器用ノ物ヲ撰ブヨシ也。

神戸名籍

戸トハ五十戸ヲ云也。民ノ家ノ五十間ヲ戸ト云也。祝部ノ名籍。神戸ノ百姓ノ名籍ヲ合テ。神戸ノ名籍トハイヘリ。名籍ハ名ヲ記セル帳也。

大嘗

新穀ヲ神ニ手向ルヲ嘗トハイヘリ。毎年十一月ニ行ハルヽヲバ新嘗ト云。一代一度ノヲバ大嘗ト云。サレドモ爰ニハ。トモニ大嘗ト云ヘリ。上ノ卯日ハ相嘗ノ祭ト云。是ハ諸神ニ新穀ヲソナフル也。下ノ卯日ハ。天照太神ニ新穀ヲソナフ。此註ニ至尊ト云ヘルハ。天照大神ノ御事也。

鎮魂

是ハ神祇官ノ内ニ。八神殿トテマシマスヲ祭ル事也。是ハ人ノ魂ヲシヅムル祭也。陽魂ヲバ魂ト云。陰魂ヲバ魄ト云。陽ハ離散スルガ故ニ。シヅメ祭トハ云也。鎮魂祭ハ大嘗ヨリサキニ寅ノ日也。行ハルヽ事ナレド。大嘗ハ大儀ノ祭ナルニヨツテ。爰ニハサキニ書リ。神祇令ニハ支干ノ次ニヨツテ。下ニ連ネタリ。其子細ハ此註ニ見タリ。

御巫卜兆

巫ト云ハ女ミコ也。延喜式ニ見ヘタリ。ウラバミト云ハ。龜ノウラヲトト云。兆ノ字ハ龜ノコウノ火ニヤケタルヲ云。スベテ五兆一リ。一百三十七卦アリト云。此卦ヲ以テ善惡ノ事ヲトナウ。故ニト兆ト云フ。

惣判官事

伯タル官ハ。官中ノ事ヲコトハルニヨツテ

惣判トハ云ヘリ。下ニ糺判ト云ハ。判官ノ事也。其子細註ニ見タリ。

餘長官判事准此

是ハ太政官以下諸司八省ニ至マデ。長官タル物ハ。官中ノ事ヲ惣判スベキ例ニイヘル也。

大副一人

副ハタスクル心也。長官ヲタスクル心也。長官ナキ時ハ。次官長官ノ事ヲナス。大副ハ神祇官ノ次官也。故ニ職掌長官ニ同也。副ニ大少ノ官アリ。合テ二人也。掌事ハ大少同也。

大祐一人

是神祇官ノ判官也。又大少アリ。官中ノ政ヲタヾスニヨリテ。政事人トハイヘリ。又ゼウトモイヘリ。

糺判官内審署文案

此官ハ官中ノ事ヲ糺明判彈スルヲ云。文案ト云ハ。官中ノ書狀ヲ云。他官ニアルヲバ文ト云。其レヲウツシトムルヲバ案ト云也。審ハ見ル心。主典ノ書上タルヲ。判官タル人ハヨク是ヲ見テ。相違ナケレバ。連判スルヲ署トハ云也。署ハ名ヲ加フル事也。

勾稽失

勾ハ勘フル心ナリ。稽ハトヾコフル事ヲ云フ。施行スベキ事ヲ施行セザルヲトヾコヲルト云ヘリ。失ハアヤマリ也。此二ノ事有ヲバ。判官タル人ノタヾシ行ベキ事也。

知宿直

夜ツカワルヽヲバ宿ト云。晝ツカソルヽヲバ直ト云。宿直スベキ人ヲタヾシ行フヲ知ト云也。以上皆判官ノ職掌也。

大史一人

サクワント云ハ。タスクル司ト云心也。史ノ字ハ書ニツキタル名也。此官ニ書ベキ事ヲ

バ。大史タル人ノツカサドル也。故ニ受事上抄トイヘリ。判官以上ノ處分ヲ受テ。文書ヲカク事也。

勘署文案

文案ヲ勘ヘツクリ。則名ヲ加フルヲ署ト云ヘリ。

撿出稽失

稽失ハ上ニイヘルニ同。長官以下判官以上稽失ノ事アルヲバ。主典タル人是ヲ勘出ス。此註ニ公坐ヲ侵スト云ハ。私ナクシテアヤマリアルヲ云〔公罪〕坐ト云。公坐ハ罪セラルベキ事也。是ハ其官ノ四等ノ物一人公坐ヲ侵セバ。皆ノ咎ニナル也。其中判官公坐ヲ犯セバ。判官ヲ張本トシ。次官ヲ第二トシ。長官ヲ第三トシ。主典ヲ第四トスル也。是ヲ首從ト云。首ハ張本ノ心。從ハ同罪也。注ニ節級節ハ竹ノフシノ如ク。級ハ階ノキザミノ如シ。連坐ストイヘルハ此事也。判官ノ職ニハ勾ト云也。爰ニハ撿出ト云。主典ノ人ハワルキ事ヲ見ダス計也。判官ハ其ヲ判斷スルヲ勾ト云。其心替レルナリ。

讀申公文

公文ハ公方事ニ付タル文書也。其官ノ内ニ書ケル文ヲモ。又他官ヨリ付タル文ヲモ。主典タル物讀アゲテ。長官以下ノ官ニ聞カシムル也。是等ハ皆主典ノ職掌也。

神部三十人

是ハ神祇官ニ付タル官人也。相當ハナクテイヤシキ職也。

卜部二十人

是モ龜卜ノ事ヲ司ドル官人也。或ハ姓ニモ是ヲ名付タリ。是モ相當ハナキ官也。長上番上ト此注ニイヘルハ。長上ハ長クツカフル心。其官ニ常住祗候スルヲ長上ト云也 番ニ逐テ祗候スルヲ番上ト云也。卜部ノ長上ト

云モ。トノ事ニ長ゼル故ニ。常住其官ニ候ズルヨシ也。

使部三十人

是ハ當官ノ内ニ使ヲスル下部也。

直丁二人

男子ノ廿一ヲバ丁ト云。廿一ニナレバ。使丁ニツカワルヽ也。直丁ハ宿直ノ使丁也。

太政官

太政官ハ。天下ノ政ヲ悉ク行フ官ナルニヨツテ。太政官ト云ヘリ。是ニ三局アリトイヘリ。少納言ヲ一局トシ。左辨官ヲ一局トシ。右辨官ヲ一局トス。是ハ皆判官ノ職ニシテ。太政官ニ其局ヲマウケテ。事ヲツカサドルニヨツテ。三局トイヘリ。此官ニ四等ノ官アリ。大臣ヲバ長官トシ。納言ヲ次官トシ。少納言左右辨ヲ判官トス。外記史ヲ主典トス。万機ノ政事ヲヽイナルニヨツテ。判官以下ヲバ二ニ分テ。三局トハ云也。唐ノ官ニ准ゼバ。此官ハ尚書門下ノ二省ノ事ヲ職ドル。中務ハ中書ノ事ヲツカサドル。尚書。門下。中書ヲバ合テ三省ノ長官ト。丞相ノ官ヲバ云也。

太政大臣一人

右師範一人儀形四海

一人ハ天子ヲ云。太政大臣ハ天子ノ御師範トシテ。道ヲ敎フル名也。唐ノ開元令ノ三師ノ官ノ事ニ。一人ニ師範トシテ四海ニ儀形タリト云ヘリ。又三公ノ官ノ事ニ。經邦論道燮理陰陽トイヘリ。故本朝ノ太政大臣ハ。唐ノ三師三公ノ職ヲ合タル名也。四海ハ東夷西戎南蠻北狄ヲ云。儀形ハ德アル形ヲミセビスニシメシテ。法度ヲ敎フル心也。又國ソヲサメ道ヲ論ジテ。陰陽ノ道ヲヤワラゲヲサムル有德ノ撰ニシテ。クダ／＼シキ事ヲバ

行ハヌ故ニ。太政大臣ハ取ツキテ。公事ヲ行事ハナシ。末ノ代マデニ。太政大臣ノ職掌ノ(過)ナキ官也。節會內辨叙位除目ノ執筆モカイ(近)コウノ事也。

無其人則闕

幸ニ有德ノ人アレバ。其官ニ任ゼラル。其人無時ハ。官ヲ空クスルニヨッテ。此文ノ二字ヲトリテ則闕ノ官ト。太政大臣ヲバ云也。

左大臣一人掌統理衆務

衆務ト云ハ諸ノ政。別シテ臨時ノ大事ヲイヘリ。統理ハスベテヲサムル心也。左大臣ハ此官ノ長官トシテ。万事ヲツカサドル職也。

擧持綱目

綱ハ網ノ大ヅナ。目ハ網ノ目也。大事小事悉ク管領スル心也。

惣判庶事

庶事ハヨノツネノ小事也。官中ノ事凡ヲ司ドル心ナリ。

彈正糺不當者兼得彈之

彈正臺ト云職ヲ置テ。天下ノ非違ヲタヾサシム。モシ彈正ノ尹ノタヾス事ノチガイタル時ハ。臺ノ官人ヲ太政官ニ召テ。左大臣是ヲタヾス事ヲウル也。

右大臣一人掌同左大臣

左大臣ヲバ一上ト云。左大臣ナキ時。右大臣一上ノ事ヲ行フニヨッテ。掌左大臣ニ同ジトイヘリ。

大納言四人

大納言ハ喉舌ノ官トイヘリ。上下ノ事ヲ傳フルユヘナリ。昔ハ四人アリ。數ヲソヘテ今ノ世ニハ。正ノ大納言一人。權大納言十人ニナレリ。是ニ又中納言ヲ加フ。其數大納言ニ同。其外ニ又參議八人ヲ置。參議ハ右大臣以上ト。天下ノ諸ノ事ヲマジワリハカラフ也。

今ノ世ニハ參議ノ二字ヲ八座ノ職ニイヘリ。大納言中納言モ。太政官ノ次官トシテ。庶ノ事ヲマジワリハカラフナリ

敷奏

敷奏ハ下ノ事ヲ上ニ納ル也。

宣旨

宣旨ハ上ノ事ヲ下ニノ給也。上ノ大納言ノ註ニイヘルガゴトシ。

侍從獻替

侍從ハ君ノ傍ニ侍テ事ニ從心也。獻替ハ君ノ非アル時ニ。善事ヲ獻ジテ非ナル事ヲ止ル心也。注ニイヘルガ如シ。是ニヨッテ大納言マデモ。侍從ノ官ヲ兼帶スル也。

少納言三人

納言ノ名ハ大納言ト同ケレドモ。是ハ少事ヲツカサドルニヨッテ。少納言トハイヘリ。注ニ請進鈴印賜衣服トイヘリ。如此小事ノ事ヲ掌也。

請進鈴印傳符

鈴ハ驛路ノスヾ也。君ノ使ニ遠ク行時。鈴ヲ賜ヒ又官符ヲ給フ。其鈴ニキザミノ數アリ。其キザミノ數ニヨッテ。驛路ノ馬ニノッテ。鈴ヲ振テ遠路ヲ經ル。傳ノ符ト云ハ傳馬ヲ云也。是符ニモキザミノ數アリテ。其數ニヨッテ傳馬ノル。驛ノ馬ハ善馬。傳馬ハ次ノ馬也。是等ノ官符鈴印ナドハ。少納言奉行スル也。賜フ時モ又返奉ル時モ。ヨッテ請進トハイヘリ。

進付飛驛函鈴

飛驛ト云ハ國ニ急事ノ有時ニ。早馬ヲタッル事アルヲ云也。サテ飛驛トハイヘリ。其時モ文筥ニ鈴ヲ入テ給也。木契ト云テ木ニキザミヲシテ。其キザミノ數驛路ノ馬ニ乘也。其書函ニ木契鈴ナドヲ入ルヽ也。

兼監官印
太政官ノヲシデ用ル時ハ。必少納言奉行ヲイタス也。今モ叙位ノ位記ナドニ印ヲツク時ハ。必少納言是ヲ見也。少納言ハ必中務省ノ侍従ヲ兼也。今ノ世ニモ如此シ。サテ中書門下ノ省ハ通ゼル官也。是ハ太政官ノ判官ノ職也。

大外記二人
是ハ主典ノ職也。故ニ文書ノ事ヲ掌也。

掌勘詔奏
詔トハ上ヨリクダス文也。奏トハ下ヨリ奏スル書ナリ。何ヲモ大外記是ヲ勘タヾス也。

及讀申公文
參議以上ノ上日等ノタグヒヲ。外記少納言ニ對シ讀申ヲ云也。注ニ云ガ如シ。

勘署文案撿出稽失
是ハ主典ノ職掌也。神祇官ノ處ニ云ガ如シ。以下モ是ニ准ズベシ。

史生十人
是ハ相當ナキ官也。繕寫公文ト云事ハ。太政官ノ文書ヲトリトヽノヘ。文案ヲ寫シトムルヲ云也。行署文案ト云ハ。公文ノ中ニ。主典以上ノ位署ノ名ヲバ。此史生千(等歟)メグッテ署ヲ取事ヲ云也。余ノ官ノ史生モ此ニ准ズベシ。

左大弁一人
弁ハヲサムル心也。官中ノ事ヲ治ムル也。左弁官ハ。八省ノ中中務。式部。治部。民部ノ事ヲ管領スル也。故ニ管トイヘリ。

受付庶事
注ニ令ニ依ト云ハ。公式令ノ文ヲ云也。譬ヘバ一日ニ事ヲウケタルヲバ。二日ニ其事ヲ云付ルヲ云。

糺判官内署文案勾稽失

此ハ神祇官ノ判官ノ處ニ云ヘルト其心同也。稽失ハ宮中ノアヤマル了。又スベタル中式治民ノ四省ノアヤマリヲモ。是ヲカンガヘタゞス也。

知諸司宿直

諸司ノ宿直ト云モ。管タル處ノ四省ノ宿直也。宿ハ夜トノヘスル。直ハ晝祗候スル也。此注ニ令ニ依ト云モ。公式令ノ文也。開門ノ前ニ上レト云ハ。朝トク開門ノ皷ヲウタンサキニ參上スルヲ云。閉門後ニ下レト云ハ。夕方閉門ノ皷ウツテ後マカリ出ヨト云也。宿衞ノ官不在此例ト云ハ。其官宿直スル人ヲ云。其ハ理門トテ。腋ノ小門ヲバアケテ置也。ソレヨリ何時マデモ出入スル也。

諸國朝集

毎年ニ國司ノ使ノ京ヘノボルヲ朝集ト云。凡テノ四度ノ使トテ。四ノ使ノ諸國ヨリ京上スルヲ云。朝集ハ四度ノ使ノ一也。其等ノ事ヲモ弁官タル人ハ必知也。右弁官ナキ時ハ。左弁官右弁官ノ事ヲモ行也。下ノ令ノ詞ニ云ガ如ナリ。

右大弁一人

是ハ兵部。刑部。大藏。宮内省ノ事ヲ管ル也。（四字衍）其管ル也。其餘ハ左弁官ト同也。

左中弁一人

中弁ニモ左右アリ。少弁ニモ左右ノ小弁アリ。合テ六弁也。

左大史二人

左右ノ大史各二人。左右ノ小史モ各二人也。是モ主典ノ職也。太政官ハ事シゲキニヨリ。判官ノ職ニモ少納言ト弁ト二ヲ分テ。主典ニモ外記ト大史二ニ分タル也。

左史生十人（左辨官史生）

是ハ右弁々々ノ史生也。史生ノ職ハ前ニ云

ガ如シ。

左官掌二人

官掌ノ職ハ。通傳訴人トイヘリ。譬バ諸國ノ訴人ノ太政官ニ來ヲバ。官掌是ヲ取ツグ事ヲ云。使部ト云ハ下ニ見タリ。其使部ヲモ官掌ヨリ撿挍スル也。守當官府スルト云ハ。當官ノ藏庫ナドヲ守ルコトヲ守當ト云。廳事ト云ハ。太政官ノ廳ニ政ヲ聞所ヲ云。其所ノ鋪設ノ莚疊ノ事ヲモ。官掌司ドル也。

左使部八十人

使部ハ神祇官ニイヘルト同。

左直丁四人

直丁モ神祇官ニイヘルニ同。

巡察使

是ハ太政官ヨリ諸國ノ政ヲ巡察シテ見セシムル事也。此使ハ常ニハヲカズ。巡察スベキ事アレバ。內外ノ官人ノ中ニ。器用ノ物ヲ撰テ。巡察使ニサスヲ云ナリ。清正灼然ト云ハ。清廉ニ正直ナル事ノイチジルキ物ヲ云也。灼然ハイチジルキト云心也。巡察事ノ條目並ニ使ノ人數ハ。時ニ從フニヨツテ。臨時ニ量リ定ムトハ云ヘル也。

中務省

宮中ノ衆務ヲ掌ニヨツテ。中務省トハイヘリ。唐名ハ中書省也。此省ハ職一。寮六。司三ヲスベ司ドルナリ。下ニ見タリ。

卿一人

卿ハ章ノ心也。章ハ明ナル心也。道ハアキラカナルト云心。卿トハ名付タル也。

侍從獻替

是ハ前ニ大納言ノ所ニイヘルト同心也。

贊相禮儀

人君ノ禮儀ノタスケ導ト云心ナリ。

審署詔勅文案

詔勅ハ詔書勅書ノ二也。詔書ヲバ中務省ヨリ宣奉行シテ。署ヲ加フル事ヲ云也。勅書ヲバ勅ヲ承ル人中務省ニ申送レバ。中務省是ヲ復奏シテ。署ヲ加テ太政官ニ送ル也。此ヲ審署トハイヘリ。文案ノ二字。サキニイヘルニ同。

宣旨

侍從ノ宣命ヲ云。注ニ軍防令トイヘルガ如ク。其令ノ文ニ見タリ。譬バ治罰(征討歟)ニ使ヲタテラルヽ時。侍從ノ宣勅使ヲツトメテ。其人ヲナグサムル心ヲ云也。

勞問

勞ト云ハ。人ノ心勞ヲイタワル心也。注ニ引ル軍防令ノ凱旋ト云事(公歌歟)ハ。唐土ノ法ニ。軍ニカチ歸ル時ハ。樂ヲシ歌ヲ歌フ事アリ。凱ノ字ヲバカチウタトヨム也。大將軍ノ軍勝テ都ヘ歸ル時ハ。勅使ヲツカワシテ。此ホドノ心勞ヲトブライアル事ヲ勞トハ云也。問トイフハ。五位以上ノ人ノ致仕シテ出仕ヲイタサヌ人ノ五畿内ニアルヲバ。内舍人ヲツカワシテ。安否ヲ問事ヲ謂也。安否トハ。病ツヽガナク。無爲無事ニ有カト云事ヲ問賜事也。

受納上表

上表ト云ハ。官ニ或ハ出仕ニ付テ天子ニ申タキ事ヲ。表ノ詞ニ書テ中務省ニ付タルヲ。省奏聞ヲ致ス事也。

監修國史

國史ヲツクルトハ。天下ニアル事ヲシルシ置ヲ云也。此事ヲバ圖書寮ニ掌也。圖書寮ハ中務省ノ下ヅカサタルニヨッテ。中務不知ト云事ナシ。是ヲ監トハ云也。監トハ印判ヲオシテ治ヲク也。又陰陽寮ヨリ。悪星ナドノ事ヲ占文ニ書テ奏レルヲ。奏聞ノ國司シル

シ置セシムル也。
及女王
女王ト云ハ。王氏ノ女ノ二世以下四世以上ヲ云也。
内外命婦
女ノ五位以上ヲバ内命婦ト云。五位以上ノ人ノ女ヲバ外命婦ト云也。
宮人等
下ノ後宮職員令ニ見タリ。内侍以下十二ノ司アル也。其外ヨロヅノ女ノ司位ノ事ヲ。中務省不知ト云事ナシ。名帳ト云ハ。名ヲ記セル帳也。
考叙位記
是ハ叙位ノ時ノ位記ヲ云也
諸國戸籍
戸籍ト云ハ。民ノ數ヲ記セル帳ヲ云也。是ハ民部省ノ司ナレドモ。天子ノ御目ニ懸タル時ハ。此省ニツクルユヘニ。中務不知ト云事ナシ。租調帳ト云ハ。租ハ年貢米ノ事。調ハ公事物ノ事ヲ云也。其二ヲ記セル帳也。
僧尼名籍
出家ノ物ノ名帳モ。此省ニ掌也。
大輔一人
職掌ハ卿ニ同也。唯規諫ト云ハ。君ノアヤマチヲ申事ヲイサムトハイヘリ。不獻替ト云ハ。善事ワルキ事ヲ取替テ。君ヲタスクル事也。中務卿ニハ其事ヲ專スレドモ。輔ノ官ハ次官タルニ依テ。規諫ノ事ヲバ申セドモ。獻替マデノ事ヲバナサヾル也。是長官次官ノ替リメ也。
大丞二人掌宮人考課
宮人ノ考課トハ。女官ノ奉公ノ勞ヲタヾシ問事ヲ云。其外ノ事ハ。神祇ノ判官ト同。丞ノ字ノ心、タスクル心也。

大録一人
録ノ字ノ心ハ。物ヲ記録スル事也。是主典ノ職也。

侍從八人
常ニ天子ノ左右ニ侍テ。アヤマリアル事ヲ申ヲ規諫ト云。拾遺ハ天子ノ忘給事ヲ告申心也。補闕ト云ハ。天子ノカヽセ給事ヲ申心也。拾遺補闕ハ則侍從ノ唐名ニ用ル也。

內舍人九十人
宮中ニ近ヅキ奉ル心ニ。內舍人ト云リ。常ニ帶刀トノヰヲシテ。宮中ヲ守護スル也。又何ニヲモ雜役ノ使ヲツトムル也。行幸ノ時ハ前後ニ供奉スル也。

大內記二人
唐名ハ中書舍人。起居舍人ト云。天子ノ左右ニ候ジテ書事ヲカク也。詔勅ヲ造トハ。詔書勅書ノ二也。大事ヲバ詔書ヲツクリ。小事ヲ勅書ニ作也。其作リ様ハ公式令ニ見タリ。凡內記ハ陣頭ニ祗候シテ事ヲ記録スル也。中內記少內記モ其職同。

大監物二人
宮中ノ御物ヲ出シ納ル事ヲ掌也。又庫倉ノジャウ鎰ヲ司ドル也。諸門ノ鑰ヲバ。闈司ト云女官是ヲ掌也。此注ニ同司ト云ハ。長官次官判官主典ヲ同司ト云。是ニハ三等以上ノ親ヲバ不任也。ヒイキ方人ヲ憚ユヘ也。今內記監物主鈴典鑰ノ四ノ司ハ。同司ニアラザルニヨッテ。三等以上ノ親ヲモ憚ザル也。三等以上ト云ハ。三等一等ヲ云也。五等ノ親ノ事ハ。末ノ令ニ見タリ。

大主鈴二人掌出納鈴印
鈴ハ驛路ノ鈴也。印ハ印判也。是ハイツモ唐櫃ニ入テ置ルヽ也。鎰ノ司ノ傳符ト云ハ。傳馬ノ符也。飛驛函鈴ハ上ニイヘルガ如シ。

大典鑰二人

宮庫ノ鎖鑰ヲツカサドル也。

省掌二人

以下ノ事ハ皆上ニイヘルガ如シ。

中宮職

中宮トハ三宮ノ通稱。別シテ是ヲイヘバ。皇后ノ一名也。中古以來皇后アヒナラブ時ハ。一人ヲ中宮ト稱シ。一人ハ皇后ト稱ス。一條院御宇ニ。中宮ハ上東門院。皇后ハ定子。相ナラシデ其職ニ居ス者也。又太皇太后皇太后ヲモ中宮ト云。此注ニ云ガ如シ。太皇太后ハ天子ノ祖母也。皇太后ハ天子ノ母也。皇后ハ天子ノ妻ナリ。是ヲ三宮ト云。准三宮ト云ハ。此三宮ニ准ズル名也。此三宮ニ各大夫亮等アリ。中宮ハ后ノ居所ニ付テノ名也。

大夫一人

吐納ノ吐ハ。上ヨリ下ヘ云事也。納ハ下ヨリ上ヘ申事也。啓令ト云ハ。皇后東宮ツキタル詞也。天子ニ奏勅ト云ガ如シ。啓ハ下ヨリ申詞也。令ハ上ヨリ被仰事也。是ハ皆中宮春宮ニツカフ詞也。注ニ云ガ如シ。

亮一人

大夫ハ長官也。亮ハ次官也。大進少進（秋人）ハ判官也。大屬少屬ハ主典也。後々ノ世ニハ。大夫モ亮モ。權ノ字ヲソヘテ數ニソエル也。唐名ニハ長秋監ト云。俊成卿ハ皇太后宮大夫タルニヨッテ。歌ノ詠草ヲ長秋詠草ト云。皇太后宮ノ大夫ニテモ。中宮ノ大夫ヲバ一段執スル事也。時ノ花ヲカザス心ナリ。

舍人四百人

是ハ相當ナキ官也。番ニ分テ中宮ニ宿直ヲスル物ヲ云也。

左大舍人寮

令ニハ左右ニ分テリ。今ハ左右ヲ不分。大舍

人ト云モ。禁中ニ宿直シテ。或ハ假使ナドスル也。節會ノ日。少納言ヲ召ス使ニ。舍人ト高聲召也。内舍人ハ長上ノ官ト注ニ云ヘルハ。長上ハ不斷ニ祗候スル心也。分番ト云ハ。番ヲ逐テ祗候スルヲ云也。容儀トハ。立居振舞ノ事ヲ云。百官ノ振舞ノ非ナル事ヲ云心也。是モ頭助允屬ノ四等アリテ。八百人ノ大舍人ヲ從フル也。名帳ト云ハ。其名ヲ記セル物也。寮ト云ハ皆居所也。省モ司モ皆同事也。

圖書寮

圖ハ繪ノ事。書ハ文也。五經ト云ハ。周禮。樂書。周易。尙書。毛詩ヲ云。左傳ヲ加テハ六籍ト云。但シ今ノ世ニ五經ト云ハ。樂ヲノゾヒテ。左傳ヲ加テ五經ト云ナリ。河圖ハ易ノ八卦ヲ云。洛書ハ尙書ノ洪範篇ヲ云。是ヲ河圖ヲ出シ洛書ヲ出スト云ヘリ。龍ト龜トノセナカニ圖ヲヲヒテ出タル故也。諸史ト云ハ。史記。漢書。後漢書等ヲ云。百家ト云ハ。莊子孟子ナド百家ノ書ヲ云也。

修撰國史

昔ハ當寮ニ。國史皇代記ナドヲ撰アツメタル也。其外內典ノ經。佛ノ御像。禁中ニテ行ナワルヽ佛事等ノ事ハ。此寮ニ掌也。

校寫裝潢

校寫ハ經書ヲ寫シテ校スル事也。裝潢ハ双子ヲツクリ紙ヲ染ル事也。紙ノ切治ムルハ裝ト云。紺紙黃紙ナドニ染ルヲ潢トハ云也。功程ト云ハ。其アツラヒノ用却(脚)ノ事ヲ云也。凡テ此書寮ハ。內典外典ノ書ヲ司ドル也。故ニ紙筆墨ヲ給トハ云ヘリ。今除目ノ大間ノ紙モ。圖書寮ヨリ是ヲソナフル也。此寮ニモ四等ノ官有。其外寫書手ト云ハ。書ヲ寫ス人ヲ云。裝潢手ト云ハ。紙ヲ染ル工ヲ云。造紙

手ト云ハ。雜紙ヲスク物ヲ云也。其外筆匠墨匠ナドアリ。紙戶タリト云ハ。紙スキノ百姓ノ家ハ。此寮ニ管領スル也。

內藏寮

大藏省ハ。天下ノ庫ヲ掌テ。諸國ヨリタテマツル物ハ是ニ治ムル也。內藏寮ト云ハ。別而內裏ノ御用ニタツル物ヲ治ムルニヨリ。內ノクラノ司ト云也。金銀珠玉以下ハ寶ノ名也。寶器ト云ハ金樽玉盃ノタグヒ也。錦綾雜綵氈褥クサ〳〵ノ綵ル色々ノ染物也。氈ハ毛ニテ作レル敷物也。褥ハ虎ノ皮或ハ絹繡ヲモスル也。茵ノ事也。

諸蕃貢獻

諸蕃ハ異國ヲ云。貢獻ハタテマツル也。奇瑋之物ト云ハ常ニナキ器也。

年料供進御服

一年中主上ノ召ルヽ御服ヲ云。其外別勅ニヨツテ用ラルヽ物ヲ掌也。是ニモ四等ノ官アリ。其外鑰アヅカリ大少各二人アリ。

藏部四十人

藏部ハ御倉ヲアヅカル物也。價長ト云ハ。賣物買物ノアタヒヲ定人ヲ云。

典履二人

是ハ主上ノ召ル履ト。靴ノ履。又馬ノ鞍具足ヲツクル事ヲ掌也。

百濟手部

是等ノ工ハ。百濟國ヨリ來レル物也。撿挍トハ奉行スル心也。其科々延喜式ニ見タリ。

百濟戶

百濟ヨリ來レル工ノ百姓ニナリテ居タル家ヲ云。皆此寮ニ掌也。

縫殿寮

此司ハ衣服ヲ裁縫事ヲ掌ニヨツテ。縫殿寮トハイヘリ。女王內外命婦ノ事ハ上ニ記セ

リ。名帳ト云ハ。名ヲ記セル帳也。考課ト云ハ。女官ノ奉公ノ勞ニヨツテ。位ヲアゲ或ハ祿ヲ賜事ヲ云也。

纂組事

是ハ組スル事也。平緒佩ナドノ流也。

陰陽寮

此寮ハ天文暦道六甲ヲ占等ヲ掌也。天文ト云ハ。日月星辰等ノ變異ヲ勘。暦數ノ算ヲ置テ。暦ヲツクル事ヲ云。風雲氣色ト云ハ。大風又雲ノタヽズマヒニテ。吉凶ヲトナウ事也。寮ニ奏聞スル事ヲバ。天文寮奏ト名ヅク。有異密封ト云ハ此事也。推古天皇御代ニ。百濟ノ僧觀勒ト云物。天文暦道ヲ我朝ニ傳タリ。其後一條院ノ比ヲイ。賀茂ノ保憲ト云物。暦道ヲバ其子ノ光榮ニ傳ヘ。天文ノ術ヲバ弟子ノ安倍晴明ニ傳タリ。其ヨリ二道アヒ分テ。今ニ至マデ。賀茂氏ハ暦道ヲ傳ヘ。安倍氏ハ天文道ヲ傳フルナリ。此外陰陽道トテ。トヲシ祓ヲスル事アリ。中ニモ六甲ノ占ト云ハ。天盤地盤ヲマハシテ。吉凶ヲウラナウ事アリ。是ハ賀家安家通ジテスルワザ也。故ニ陰陽寮ト云ハ。是ニ付タル名ニシテ。賀氏安家ニ兼タルナリ。此寮ニモ四等ノ官アリ。其外陰陽師ト云ハ。相當ノナキ官也。占ト云ハ先ノ六甲ノ占ヲ云。筮ト云ハ易ノ占ノ蓍トル事也。但シ今ノ世ノ陰陽寮ニハ。蓍ノ占ハ絕タル也。相地ト云ハ。四神相應ノ地ヲ相シテ。都ヲ立家ナドヲツクル事ナリ。四神ト云ハ。東ハ靑龍。南ハ朱雀。西ハ白虎。北ハ龜也。北ハ高。南ハクダレルヲヨシトス。此平安城ヲ遷サルヽ時モ。四神相應ノ地ヲ見テ遷サレタル也。

陰陽博士一人

陰陽道ノ博士也。唐ニハ大卜令ト云。陰陽ノ

生ヲ教ル物也。
暦博士一人
是ハ暦ヲツクル博士也。暦生十人ヲ教フル者也。
天文博士一人
是天文道ノ博士也。天文生十人ヲ教フル物也。
漏尅博士二人
漏ト云ハ。水ヲ以時尅ヲハカル物也。尅ト云ハ。其時尅ニヨツテ。鐘皷ヲ打シムル事也。守辰丁ト云ハ。漏尅ノ水ノハカリヲ見テ。鐘皷ヲ打事ヲ司ドル也。其鐘皷ノ打ヤウハ。延喜式ノ陰陽寮ノ式ニ見タリ。
畫工司
畫ハ畫ノ事也。サイシキ色ドリノ事也。大同三年ニ内匠寮ニ幷ラレテ。此司ヲバ略セラレタル也。
内藥司
是ハ供御ノ藥ヲ和合スル也。是モ寛平八年ニ典藥寮ニ幷ラレタリ。故ニ侍醫モ典藥寮ニ付タル也。藥香ノ香ノ字ハ。名香ノ事ヲ云也。薫物ナドノタグヒ也。
侍醫四人
診候ノ診ハ。脉トル事也。候ハ顏色ヲ見事也。
藥生十人
擣篩ト云ハ。藥ヲ金ウスニツキテフルイニテ振事也。
内禮司
宮中ノ禮儀ヲツカサドル司也。是モ大同三年ニ彈正臺ニ幷ラレタル也。禁察非違ト云ハ。宮中ニ於テ非禮ノ事ヲタヾシ見ルヲ云也。
式部省

式ハ法也。此省ハ文官ノ法式ヲ定ムル官也。和名ニハ。ノリノツカサ。又フンノ司ト云。唐名ハ吏部。此官二寮ヲスブ。下ニモミエタリ。卿一人。唐名ハ吏部尚書。內文官ノ京官也。外文官ハ國司以下ヲ云。此名帳ノ司取也。注ニ雜色ト云ハ。四等ノ官ノ外也。

考課

考ハ百官ノ功過ヲ勘ヘ。才藝ヲ課試スル儀也。

選敍

選ハ人ヲ官ニ選ブ也。敍ハ位ヲ敍スル也。皆內外文官ノ事ナリ。

禮儀

諸司ノ官人ノ朝庭ニシテ進退禮儀ヲ云。

版位

朝賀及祭ニ。群臣百官ヲ列立スルシルシノ木ヲ掌也。版ハ木ヲキザム心也。

位記

正月七日ノ五位以上ノ位記。四月十五日成選ノ位記（六位以上ノ位記）ヲ授ル事ヲ云也。

校定勳績

勳績ハトモニ功ノ心也。下ニ論功封賞スルト云同事也。

朝集

諸國ノ朝集使郡司ヲ補任スル時。皆此省ニアツマルヲ云ナリ。

學校

大學ノ事也。下ノ寮ニ見ヘタリ。

策試貢人

貢人ト云ハ。諸國ヨリ才アル物ヲ奉ルヲ云。今ノ世ノ進士ト云ハコレ也。策試スルトハ。策ノ文ヲカヽシメテ。人ヲ試ムル事也。策ハ紙ニ書ヲ。昔ハ木竹ノ策ニ書ニヨッテ。策トハ云也。注ニ秀才ト云ハ。紀傳ノ儒ヲ云。明

經ト云ハ。今清家ニ傳タル學文也。

祿賜

位祿。季祿。臨時ニ人ニ賜祿也。

假使

假ハ百官ニ假ヲ賜事也。使ハ注ニ巡察覆囚使ナド云類也。覆囚使ノ事ハ。捕亡令ニミヘタリ。

補任家令

家令ハ下ニ見タリ。家司ノ事也。

功臣家傳

昔功臣ノ子孫ノ家傳ヲ云也。自余ノ官ハ中務省ニ云也。少錄マデハ相當ノ官也。史生以下ヲバ流外ノ官ト云ナリ。

大學寮

唐名ハ國子監。頭一人。唐名ハ國子祭酒。學生ヲ簡試ムルコトヲ掌也。又春秋ノ釋奠ノ事ヲ掌也。是ハ先聖先師ヲ祭事也。先聖、孔子。先師ハ顏回ヲ云也。釋奠ヲ共ニオク心也。釋ハ菜ヲオク也。菜ハ神供ノ事也。奠ノ幣ヲ置也。幣ハ御幣也。大學寮ノ式ニ。陳設饋享講論ノ三事アリ。陳設ト云ハ。マヘ二三日ニ大學寮ヲカザリテ。俎豆ノ器等ヲツラヌル事也。饋享ト云ハ。上丁ノ日先聖先師ヲ祭事也。是ヲ末明ノ祭ト云也。講論ハ都堂院ニシテ經ヲ講也。論義ヲスル事也。

博士一人

教授經業。課試學生ヲ掌也。

助教二人

是モ掌事博士ニ同也。

學生四百人

是ハ博士助教ニ經業ヲ習フ者也。

音博士二人

漢音ヲ人ニ教フル物也。漢音ト云ハ。四書五經ノ讀也。呉音ト云ハ。佛經ノ讀也。

書博士二人

文字ヲ書事ヲ人ニ教フル也。

算博士二人

算ヲク事ヲ教フル物也。

算生三十人

算術ヲ算博士ニ習フ物也。算ト云ハ九九ヲヨブ事也。

散位寮

是ハ寛平八年ニ式部省ニ併ラレタル也。散位ノ名帳ト云ハ。文武官ノ非職ノ人ノ名帳也。朝集ノ事ハ上ニ見タリ。

治部省

唐名ハ禮部省。此省ニハ寮二司二ヲ掌也。

卿一人

本姓ト云ハ。人ノ姓戸ヲ云也。繼嗣ハ五位以上ノ人ノ嫡子ノ家ヲ繼ベキ物ヲ云也。婚姻ト云ハ。五位以上ノ本妻ヲ云也。本妻ノ子ガ嫡子タルベキニヨツテ。母ノ衆（産カ）生ヲ注記サル丶也。祥瑞ト云ハ。治部式ニ。大瑞。上瑞。中瑞。下瑞等アリ。延喜式ニ見タリ。喪葬ト云ハ凶事也。贈賻ト云ハ。贈官贈位ナドノ事也。國忌ト云ハ。先皇ノ崩御ノ日ヲ云也。天子ニハ九廟ト云テ。九ノ國忌ヲ置カル丶也。其中ニ天智天皇ヲバ大祖ノ廟ト稱也。光仁桓武ヲバ文世室武世室ニ比シテ。長ク停ラレザル事也。昔ハ國忌ノ數不定。光孝天皇ヨリ九國忌ニハ定ラル丶也。其中ニ母后三代ノ國忌ヲバ。井ツ立ラル丶事不定也。委事ハ別ニシルスベシ。

諱

御諱ノ字ノ事也。

諸蕃朝聘事

諸蕃ハ異國ノ事也。其王ノミヅカラ來ルヲバ朝ト云。使ヲ送ルヲバ聘ト云也。

大解部四人

譜第重代ノ爭ヲキハメ問テ。人ノ族姓ノ貴賤ヲ定ムル司也。治部卿ノ所ニ。本姓繼嗣ト云ヘルニ付タル事也。此注ニ別司トシテ。不在同員ト云ヘル(他)ハ。治部省ニ付タル職ナガラ。又(ヿ歟)コロハタヲタテタル心也。假バ大内記大監物ノ中務省ニ付タルガ如シ。

雅樂寮

頭一人

文武ノ舞ト云ヘルハ。タテボコヲ以テ舞ヲバ武ノ舞ト云。タテボコヲモタザルハ文ノ舞ト云。雜樂ト云ハ。雅典正儛ノ外ヲ云也。男女ノ樂人音聲人ノ名帳ヲ掌也。試練曲課スト云ハ。舞ヲ習ハシ試ムル事ヲ云也。

歌師四人

是ハ男士(女歟)ニ歌ヲ敎フル師也。是ニ男歌人ハ(三歟)四十人。歌女ハ一百人ト見タリ。

儛師四人

是ハ舞ヲ敎ユル物也。

儛生一百人

是ハ舞ナラフ人數也。

笛師二人

是ハ笛ヲ敎フル物也。笛生ハ笛習物也。

笛工八人

是モ笛吹ノ事也。

唐樂師十二人

今ノ世ノ左ノ樂ヲ云也。

高麗百濟新羅樂師

各其國々ノ舞ヲ云也。高麗樂ト云ハ。今ノ世ノ右ノ樂ヲ云也。

伎樂師一人

是ハ吳國ノ樂ヲ云也。法會ナンドニ用ラルル舞ナリ。

樂戶

樂人ノ居タル所ヲ云也。今大和國ノ城ノ〔[illegible]〕下ノ郡杜屋ノ村ニアリトイヘリ。腰鼓ノ生ハ呉樂ノ器也。

玄蕃寮

唐名ハ鴻臚寺。爰ニテハ鴻臚館ト云ヘリ。玄ハ法師ノ事也。蕃ハ諸蕃ノ事也。外國ヲモ此ニヲ司ドル官也。

頭一人

在京諸國ノ寺及僧尼ノ名籍ヲ掌也。供齋ト禮佛等ノ事也。大極殿ノ御齋會。大元法等。此内ニ有ベシ。

蕃客辭見

外國ノ客人ノ入朝ノハジメヨリ。歸朝ノ終マデノ事ヲ掌也。在京夷狄ト云ハ。陸奥ノ戎ナドノ京ニ上タルヲ云。館舍ト云ハ。鴻臚館ヲ云。監當ハ掌事也。

諸陵司

天平元年ニ司ヲ改テ寮トセリ。正ノカミヲ頭トス。陵靈ト云ハ。延喜式ニ遠陵近陵遠墓近墓名アリ。十二月ニ〔[illegible]〕荷前ノ幣ヲタテマツル事ヲ云也。喪葬凶祀トハ凶事ノ事也。諸陵戸ト云ハ。所々ノ山陵。又山陵ニ付タル民ノ家ノ數ナド記セル帳ヲ掌也。

土部十人

是ハ日本紀ノ垂仁天皇ノ記見タルコト也。是モ喪葬ノ事ヲ掌官也。今ノ世ニハ絶タル事也。員外ト云ハ。十人ノ外ニ入事ノ有ヲ云也。

喪儀司

大同三年ニ鼓吹ノ司ニアワセラレタリ。今ノ世ニハ無司也。是モ凶事ノ儀式。人ヲ葬時ノ棺槨ノ類ナドヲ司ドル也。

民部省

唐名ハ戸部也。諸國ニ戸口ト云ハ。戸ハ家。

口ハ人也。一家ノ内ニアマタノ人有ヘシ。其家數人數ヲ記セル名帳也。注ニ京戸ト云ヘルハ。左右京ノ民ノ家ヲモ掌也。官ノ奴婢ト云ハ。百官ノ下ノ下部下女ノ事也。其名帳モ同ジク掌也。賦役ノ賦ハ。諸國ノ調庸物ヲ賦ト云也。役トハ雜役ノ事也。人夫ナドヲ出ス事也。孝義ト云ハ。孝子義夫ノ課役ヲユルサルヽ也。孝子ハ孝行ノ子ヲ云。義夫ハ節義アル夫ヲ云也。是ニヨッテ課役ヲユルサルヽナリ。優復ハ二也。優ハ勸賞ヲ行ハルヽ事也。復ト云ハ課役ヲ免ゼラルヽ事也。蠲免ト云ハノゾキユルサルヽ事也。是モ課役ヲ免ゼラルヽニ付テ。官符ヲ給事也。

家人奴婢

家ノ中ニツカワルヽ人。奴婢ハ下部下女也。

橋道津濟渠池山河藪澤

此等ヲモ皆民部卿掌也。藪ハ無水澤也。

諸國田事

是モ此省ニ掌也。

主計寮

調ト云ハ。國ヨリ出ス絹布ノ數也。雜物ト云ハ。色々ノ公事物ノ事也。支度國用ト云ハ。當年國ヨリ出スベキ物ト。用ベキ物トヲ勘定スルヲ云也。勘勾用度ト云ハ。是ヲ代ナシテ色々ノ公役ニタツベキ事ヲ勘定スル也。

算師二人

算勘ヲ以テ。國用ト用度トヲ數ヘ合スル物也。

主稅寮

頭一人。此寮ハ諸國ノ米穀ヲ掌也。倉廩ハ其ニ倉也。穀ニテ治ムルヲ倉ト云。米ニテ治ヲ廩ト云フ。出納ハ出スト納ルヽト也。諸國田租ハ年貢ヲ云。舂米ト云ハ。諸國ヨリ大炊寮ニ治ムルツキ米ヲ。主計寮ニハカリ納ル也。

延喜式ニ廿二ケ國トミヘタリ。碾磑ハ共ニ水ウスノ事也。米ヲスルヲ碾ト云。麵ヲスルヲ磑ト云。何モ水車ノ事也。

算師二人

租税ハ租帳税帳ノ二也。當年ニ治ムルヲ租ト云。後年ニ治ムルヲ税ト云。其算勘ヲ掌職也。

兵部省

卿一人。唐名ハ兵部。是ハ内外ノ武官ノ名帳ヲ掌省也。式部卿ノ文官ヲ掌ガ如シ。考課。選叙。位記。是皆武官ニ付タル事也。兵士ハ諸國ニアル武勇ノ物ノ事也。注ニ按尉主帳大毅少毅等ハ武官ノ名也。朝集トハ諸國ノ武官ノ都ヘ上ル事也。祿賜ト云ハ。事ニヨッテ祿ヲ賜事也。假使ト云ハ。カリニ召使事也。差發兵士ト云事ハ。征討ノ事アル時ニ。大將ニソヘテ遣ス兵ノ事也。治罸國也。並ニ兵士ノ人數等ハ。時ニ從ヒテ此省ニ成敗スル也。兵器ト云ハ。征罸ノ時用ル兵具也。儀仗ト云ハ。節會ナドニ用ルタテボコ也。是ハマネビ物ヲ云也。城隍ノ城ハ城閣。隍ハ堀也。烽火ハ飛火ナリ。

兵馬司

兵馬ハ軍ノ時ノ馬也。此司ハ大同三年ニ馬寮ニ幷ラレタリ。今ノ世ニ無司也。牧及兵馬ト云ハ。牧ノ馬ヲトリテ。兵馬ニアツルヲ云也。郵驛ト云ハ共ニ驛路也。公私ノ馬牛ト云ハ。公方物私物ト也。

造兵司

此司モ寛平八年ニ兵庫寮ニ併ラレタリ。此司ハ兵具ヲ調フル事ヲ掌也。工戸戸口ト云ハ。鍛治或ハ弓ヅクリ矢ハギナドノ工ヲ云也。雜工戸ト云モ。此等ノ鍛治以下ノ工ノ事也。

皷吹司
軍ノ時ニウツ皷也。吹ト云ハ大角小角ノ事。昔ハ唐ノ軍ノ如ク。本朝ニモ皷角ヲナラシテ軍ニナス也。此司モ兵庫寮ニ幷ラレタリ。

主船司
公方私ノ舟檝ノ事ヲ掌也。舟戸ト云ハ。船ヲ掌ドル百姓ノ家也。

主鷹司
御狩ノ時ノ鷹犬ヲ掌也。鷹戸ト云モ。タカカウ家ヲ云也。

刑部省
卿一人。鞫獄ハ罪科人ノ輕重ヲ委シク問事也。定刑名ト云ハ。笞杖徒流死ノ五罪ヲ定ムル事ヲ云也。罪ノ輕ヲバズワヘニテ打ヲ笞ト云。其ヨリ重ヲバ杖ニテ打ヲ杖ト云。各ウツ數ノ多少アリ。徒ト云ハ官位ヲハギテ下部ニツカフ罪也。是モ何ケ年ト云限アリ。流ト云ハ流サルヽ事也。是ニハ近流中流遠流科アリ。死ト云ハ二ノ科アリ。クビヲナワニテシメ殺スヲ絞ト云。大刀ニテ頸ヲ切リハナスヲ斬ト云。死罪ノ中ニモ。頭トムクロト別々ニナスヲ斬ト云。絞罪ハ頭ムクロツヾケル也。是ヲ五罪ト云。罪ニヨリ刑名ヲ定也。決疑獄ト云ハ。諸國ニテ未斷ナル訟ヘヲ。此省ニテ定ムル事ヲ云也。獄ト云ハ罪ヲタヾス事也。決スト云ハ決斷スル事也。良賤ト云ハ。良ハ族姓ノ善ヲ云。賤ハイヤシキヲ云。良ト賤トノ種姓ダテスルヲ。此省ニテ決斷スルヲ云也。名籍ハ名帳也。囚禁ハトラワレ人ヲ云也。債負ト云ハ。債ハ負ヒ物ヲ責ハタルヲ云也。負ト云ハ物ヲ負テ返サヌヲ云也。是ニ六贓トテ六ノシナアリ。皆名例律ニ見タリ。

大判事二人

大中小ノ三アリ。是ハウタヘヲ定ムル司ナリ。アラソヒヲ判ジテ。刑名ヲ定ムル司也。中判事ハ。今ノ世ニハ無名也。抄寫判文ト云。罪ヲ判セル書ヲ書事ヲ云也。

大解部十人

爭訟ヲ問窮トハ。訴訟人ノ申所ヲ問窮ムル也。上ニ鞫狀ト云ハ。此中ニコモルベキナリ。

贓贖司

大同三年正月ニ刑部省ニ併ラレタリ。

正一人

簿斂ト云ヘル簿ハ。文ノ事也。斂ハ資財ノ事ナリ。罪科人ノ資財雜具ヲ。公方物ニナサルルヲ沒官ト云。其財寶ヲ記セル文也。配沒ト云ハ。上ニイヘル沒官ノ物ノ。諸司ニ分配セラルヽヲ云。假バ兵部ナラバ兵庫寮ヘ渡サレ。書籍ナラバ圖書寮ヘワタサレ。財物ナラバ大藏省ニワタサレ。人ナラバ官奴司ニ配當セラルヽ事也。贓贖ト云ハ。贓ハ盜人ノ取タル寶ヲ云。贖ハ罪ヲ贖ア出セル財ヲ云。闌遺ト云ハ。道ニテ拾ヒタル主モ知ヌ寶ヲ云。此等寶ヲバ此司ニ掌也。

囚獄司

是ハ籠ノ物ヲ掌司也。徒役ハ徒罪ノ事也。功程モ其役ニツカソルヽ程ライヲ云也。配決ト云ハ。配ハ配流ヲ云。決ハ罪ヲ決スル事也。

物部四十人

諸國ノ仕丁ノ獄ヲ守ルヲ云也。主當罪人トハ。罪科人ヲ掌事也。決罰ト云ハ。死罪ナドヲ行事也。

大藏省

出納ルハ。大藏省ノ倉ニ出納ルヽ事也。諸國ノ調物錢金銀以下ノ寶帳幕ニイタルマデ。

此省ニ治ムル也。權衡ト云ハ。ハカリノ事ナリ。權ハヲモシ。衡ハ横木也。物輕重ヲ知也。度量ト云ハ。度ハ丈尺。量ハ斗ヲ云也。賣買沽價ト云ハ。賣買ノアタイナリ。時々ニヨッテ不定事也。諸方貢獻ト云ハ。諸國ヨリタテマツル雜物ヲ云也。藏部ハ藏奉行也。價長ハ物ノ價ヲ定ムル物ナリ。

典履

是ハ履工也。馬ノ鞍ナドヲツクル物也。是ハ人ニ給フラン爲ナリ。供御ノ料ハ内藏寮ニ掌也。百濟手部ト云ハ。百濟國ヨリ來レル物也。絹ナドヲ縫物ナリ。

典革一人

是ハモト高麗國ヨリ來レル物ノ。染革ナド作レル物ヲ云也。百濟戸狛戸ト云ハ。百濟高麗ヨリ來レル工ノ家ヲ云也。

典鑄司

寶龜五年三月ニ内匠寮ニ併ラル。

正一人

金銀銅ノ錢ヲ鑄コト。瑠璃以下ノ玉ヲ塗飭コトヲ掌也。工戸々口名帳ヲ掌。

掃部司

弘仁十一年ニ。掃部司内掃部司二司ヲ併テ。掃部寮トナシテ。宮内省ノ被官ニナサレタリ。

正一人

敷設御簾疊等ノ事ヲ掌也。又洒掃ノ事ヲモ掌ナリ。

漆部司

大同三年ニ内匠寮ニ幷ラル。

頭一人

ウルシヌル事ヲ掌ナリ。

縫部司

大同三年ニ縫殿寮ニ併ラル。

正一人
衛士等ニ給衣服ヲ裁縫事ヲ掌也。
織部司
正一人。錦綾以下ノ織事ヲ掌也。
挑文師四人
物織時ニ文ツクル事ヲスル也。
染戸
物染ル事ヲ掌民ノ家也。
宮內省
此官ニ職一寮四司十三ヲ掌也。タテマツル雜物舂米ノ事。供御ニソナフル官田ノ五畿內ニアル物。御食產ト云ハ。官田以下ニ奏スル事ヲ掌也。諸方ノ口味ト云ハ。御調ノ外。諸方ヨリ別シテ奉ル珍味ノ物ヲ云也。
大膳職
唐名ハ光祿司也。大夫一人。諸國ノ御調ノ雜物諸ヲ食物ツクル事ヲ掌也。膳羞ヽヽヽハ食物ノ名也。其外醢ケイハシヽビシホ也。葅ハ醋ヅケノ菜也。醬ハヒシホ。豉ハクキ。末醬肴菓色々ノ餅等ヲ掌。主醬以下ノ名ハ。其事ニ付タルヲ名トスル也。
膳部百六十人
色々ノ食物ヲ掌也。
雜供戶
江ニ鵜飼ト云ハ。鵜ヲツカヒテ鮎ヲトル也。江人ト云ハ。是モ魚トル物也。網引ト云ハ。網ヲ引テ魚ヲ取物ヲ云也。
木工寮
造作ノ事。材木トル事ヲ掌也。
大炊寮
諸國ノ舂米雜穀ヲ。諸司ニ分給事ヲ掌也。又諸司ノ食料事ヲ掌也。大炊部トハ飯カシグ物也。
主殿寮

御輿輦蓋笠繖扇帷帳ノ事。湯沐ノコト。庭掃コト。燈蠟燭薪炭等ノ事等ヲ掌也。

典薬寮

頭一人。諸薬物療疾病及薬園事等掌也。

醫師十人

掌療諸病及診候ト云ハ。脉ヲトリ氣色ヲ見事也。

醫博士二人

薬方脉經ヲ覺テ。薬生ニ教事ヲ掌也。

醫生三十人

醫療ヲ博士ニ習物也。

針師五人

針タツル事。補寫ト云ハ。虚シタル物ヲ補ヒ。實〔二〕物ヲ寫セシムル事ヲ云也。

針博士十人

針生ニ針タツル事ヲ教也。

案摩師二人

人ノ身ノチガヒタル。撫スリ腹トル事ヲ掌也。

呪禁師二人

此ハ呪ヲ呪シテ病ヲイヤス事ヲ云也。

薬園師二人

薬ノ性色目等ヲ知事也。種採諸草薬。

薬戸乳戸

薬戸トハ。薬ヲ採事ヲ掌民也。乳戸ト云ハ。牛ノ乳ヲシボル事ヲ掌民也。

正親司

二世以下四世以上ノ王氏ノ名帳ヲ掌也。

内膳司

奉膳二人。御膳ノ事。又供御ニソナヘントキハ。先食ヲ嘗ル事。

典膳六人

御膳ノ事。又味ヲ調和スルコ。注ニ云ヘルガ如也。

造酒司
酒醴酢ノ事ヲ掌也。
鍛冶司
是ハ大同三年ニ木工寮ニ併ラル。
正一人
銅鐵ノ器ヲツクルコトヲ掌。
官奴司
官戸奴婢ノ名帳ノ事。又口分田ノ事トハ。人毎ニ給分田ノ事也。
園池司
諸ノ苑池供御ニソナフベキ所也。蔬菜樹菓ハウヘタル菓木也。是モ寛平九年ニ内膳司ニ併ラレタリ。
土工司
土ニテツクル器瓦等ヲヤク事ヲ掌也。
采女司
采女ト云女ヲ撿挍スルヿヲ掌也。

主水司
樽水ハ樽ニ入タル水也。粥等ノ事。及氷室ノ事ヲ掌也。
主油司
寛平八年ニ主殿寮ニ併ラル。
正一人
諸國ヨリタテマツル油事。膏油ハ肉ノ脂也。油ノ油ハゴマ也。
内掃部司
弘仁十一年ニ掃部寮ニ併ラル。是掌モ鋪設簾疊等ノ事ヲ掌也。
筥陶司
陶ト云ハ土器事也。器皿ト云ハ木ニテ作レル皿也。
内染司
弘仁十一年ニ掃部寮ニ併ラル。供御ニソナヘル諸ノ染物ヲ掌也。

彈正臺

唐名ハ御史臺ト云。又霜臺トモ云也。

尹一人

唐名ハ御史大夫。肅清風俗ヲ掌也。風ト云ハ。水土ニ就テ。氣ノ緩急アリ。聲ニ高下アリ。是等ヲ風ト云也。俗ト云ハ。其所々ニ習付タル事ヲ云也。此注ニ。信濃國ノ俗ハ。夫死スル時ニ。其婦ヲ死ニ從テ埋ム事アリ。此類ヲ國ノ俗ト云也。カヽル淺增キ事ヲ。教ヘテ改メシムルヲ。肅シテ清ムルトハ云也。シヅメキヨムルハ。ワルクシ付タル事ヲ教ヘナヲス也。彈奏内外非違。内ト云ハ都ノ事也。外ト云ハ諸國ノ事也。非違ト云ハアヤマレル事也。如此事ヲ。彈正尹是ヲタヾシテ奏聞スルヲ。彈奏トハ云也。

大忠一人

爰ニ内外ト云ハ。宮城ノ内ト。都ノ外トヲ云也。サキノ上ニ云ヘル内外ヨリセバク云也。故此注ニ。遠近既ニ異トイヘリ。大忠タル物ハ。是ヲ巡察シテ。タガヘル事ヲ糺アラタハル也。

巡察彈正十人

此官ハ。内外ノ諸司ヲ巡察シテ。非違ヲタヾス職也。

衞門府

昔ハ是ヲ衞士府ト云ヘリ。後ニハ靫負府ニ改ム。今ノ世ニ衞門府ト云テ左右ニアリ。唐名金吾也。

督一人

内裏ノ諸門ヲ守護スル事ヲ。禁衞ト云ヘリ。出入禮儀相違ノ事ヲ巡撿スル也。隼人門籍ノ事ト云ハ。隼人ハ下ニ見タリ。門籍ハ名帳也。門牒ト云ハ。人ノ名也(ヲ歟)載タルフダヲ門ニ打タル事也。

門部二百人
門守ヲ云也。（三十紙）
物部四十人
是ハ罪人ヲ決スル物ヲ云也。今ノ世ニハカワラノ物ナドヲ云也。人ヲ殺ス事ヲバ。河原物ニ云付ル故也。
衛士
ミカキモリト云也。大内ノ御墻ヲ守ル物也。
隼人司
武勇ノ武士ナレバ。鷹ノ隼ニ譬フル也。今ノ世ニハ。此司ヲバ兵部省ニ寄ラレタリ。
正一人
隼人ノ名帳ヲ掌ル。歌儛ト云ハ。大嘗會ナドノ時。隼人ノ儛ヲ儛フ事アル也。竹笠ト云ハ。隼人タル物ハ。竹笠ヲ造ル事ヲバスル也。
左衛士府
此府ハ今ノ世ニハ止ラレテ。衛門府ニ幷ラレタリ。
督一人
宮掖ヲマモルト云ハ。正門ノ傍ノ小門ヲ掖ト云ナリ。隊仗ト云ハ。戈モチタル衛士ヲ云也。以時巡撿ト云ハ内裏ヲマワル事也。衛士ノ名帳ト云モ。名ヲ記セル帳也。差科ト云ハ。此衛士ヲ分テ。兵庫幷大藏省ノ倉ヲ守護セシムル事也。大備陣設ト云ハ。大ニ禮儀ヲソナヘテ。兵仗ノ陣ヲハル事ヲ云也。車駕出入ト云ハ。行幸ノ事也。前駈ト云ハ前陣ヲ云也。後殿ト云ハ後陣ヲ云也。行幸ノ時。衛士等前後ニ供奉スル事ヲ云也。
左兵衛府
兵衛ト云ハ。是モ兵士ノ事也。閤門ト云ハ。大門ノ掖門也。大略上ノ衛士府ノ職司也。唐名ハ武衛也。

番長四人

是ハ下ニ兵衛四百人ト云ヘル中ニ。カレラ〔シ朴〕ヲ取テ番長トハ云也。今ノ世ノ隨人ノ事也。

左馬寮

唐名ハ典廏也。是ハ御廐馬ヲ掌職也。左ノ馬屋右ノ馬屋アルニヨッテ。左右ニ分タリ。調習ト云ハ。馬ヲ乘シヅムル事也。養飼ト云ハ。馬ヲ飼事也。供御乘具ト云ハ。鞍具足ノ事也。下ニ穀草。ヌカワラノ事也。飼部ト云ハ。馬屋ノ物ノ事也。

左兵庫

左兵庫ト云ハ。武具ヲ治メラレタル倉ヲ。兵庫ト云也。是モ左右有也。唐名ハ武庫也。安置ト云ハ。棚ヲカキテ武具ヲナラベ置事也。曝涼ト云ハ。日ニホシ風ニアテ、サラス事ヲ云也。受事ヲ覆奏セント云ハ。兵庫ノ事ニツキテ。被仰事ヲ歸リ奏スルヲ。覆奏ト云也。

内兵庫司

是ハ大同三年ニ兵庫ニ付ラル、也。

左京職

大夫一人。唐名ハ京兆也。東京西京部民ノ家居其人數ヲシルセル文也。字養ト云ハ。字モ養事也。民ヲ養事也。糺察所部ト云ハ。左右京ノ中ノ事ナリ。貢擧ト云ハ。才人ノアルヲタテマツル事ナリ。孝義ト云ハ、孝子義夫ノ事也。田宅ト云ハ。京職ニ付タル田家也。雜係ト云ハ。色々ニ役ヲスル事也。良賤ト云ハ。衆生ノヨキト賤シキト也。其等ガ訴訟ヲモ掌也。市廛ト云ハ。東西ノ市ダテナリ。度量ト云ハハカリ也。倉廩ハクラナリ。租調ハ御調物也。兵士器仗ノ事トハ。器仗ハタテホコノ事也。道橋過所ト云ハ。行人ノトホル事也。闌遺雜物ト云ハ。京中ノ道ニ拾ヒタル物

也。京中ノ僧尼名帳マデモ掌也。坊令ト云ハ。東西京ヲ各四坊ニ分テル也。是ニヨッテ坊門ト云門モアル也。

東市司

左京ニ有ヲ東ノ市ト云。右京ニアルヲ西ノ市ト云。財貨交易ノ交易ハ。物ヲ賣買ヲ云。禁察非違ト云ハ。市ノ價人ノチガヒタル事ヲタヾス事也。

攝津職帶津國

是ハ攝津國ニ。大夫以下ノ四等ノ官ヲ置テ。津ノ職ト名付テ。シカモ攝津國ノ國司ノ事ヲモ取行ニヨッテ。津國ヲ帶ストハ云ヘリ。今ノ世ニハ津ノ職ハナシ。津ノ國司計也。祠社ハ其國ノ神也。戸口ハ人ノ家人數也。字養ハ民ヲ養也。農桑ハ田ヅクリ蠶ガヒノ事也。所部ト云ハ。管領スル領内ヲイヘリ。貢擧ハ人才ヲスヽムル心也。是ニヨッテ進士トモ貢士トモイヘリ。孝義ハ。父母ニ孝行兄弟ニ義アル者也。良賤ハ貴賤也。雜傜ハ人ヲ仕事ナリ。器仗ハ兵具ナリ。闌遺ハ道ニテ拾フ物也。

大宰府帶筑前國

攝津職ノ津國ヲ帶セルニ同。大宰府ノ官ハ。筑前ノ國司ガタヲモ知也。今ノ世ニハ大宰府ノ官モアリ。筑前ノ國ニモ四等ノ官アル也。大同三年ヨリ二ニ分テ。大宰府ト筑前國トニ官ヲ置レタル也。

主神一人

大宰府ノ祭ヲ掌也。

帥一人

大宰府ノ長官也。其職大略津ノ大夫ニ同位也。皷吹ハ軍ノ時用ル皷笛也。烽候ハ飛火ノ事也。蕃客歸化トハ。異國人ノ筑紫ヘ來レル事ヲ云也。權帥ハ中古ヨリ是ヲ置ルヽ也。大

臣ノ左遷ノ時權帥ニ任ズル也。饗讌トハ。蕃客ヲモテナス事也。大監ハ判官。大典ハ主典ノ事ナリ。大判事ハ罪科ノ事ヲ定ムル官也。大令史。少令史。判事ニ付ラル職也。大工少工ハ。作事番匠ノ事也。博士ハ書典ヲ人ニ教フル職也。陰陽師醫師ハ。別ニ大宰府ニ置レタル醫陰ノ兩道也。算師ハ算ヲク官也。防人正ハ兵士ヲ掌也。主船ハ舟ヲ掌官也。主厨ハ食物ヲ掌ナリ。

大國

此内ニ守介掾目アリ。其職掌ハ上ニイヘルニ同。陸奥出羽越後ノ國ハ。夷狄ノ用心ヲ致ス國也。壹岐對馬等ノ國ハ。異國ノ用心ヲ致ス國也。三關ノ國ハ。伊勢ノ鈴鹿。美濃ノ不破。越前ノ有乳ノ關ヲ云也。

上國中國下國

國ノ大小ニヨツテ。守介ノ員數ノ多小有也。

大郡

國ノ中ノ郡也。大領ハ郡ノ中ノカシラ也。栗栖野ノ大領ナドモ此事也。是モ大領。小領。主政。主帳。コレモ四等ノ官也。中下郡ニ依多小有也。

軍團

其國ノ兵士ノ事ヲ云也。兵具馬以下ノ事ヲ掌也。校尉ト云ハ。二百人ノ兵ノ首也。旅帥ト云ハ。百人ノ首也。隊正ト云ハ。五十人ノ首也。委ハ延喜式ニ見ヘタリ。博士。醫師。學生。國ノ大小ニ依テ人數不定也。

後宮職員令第三

是ハ女官ノ職ト員トヲ云也。

妃夫人嬪

是ハ女御ナドノタグヒ也。故ニ職掌ナキ也。

宮人

此下ニ十二司アル也。

内侍司
是ニ内侍ノカミスケ掌侍女孺四有。宮ヅカヘノ女ノカシラ也。
藏司
以下皆四等ノ官アリ。是ハ男官ノ内藏寮ト同也。
書司
是ハ男官ノ圖書寮ニ同也。
藥司
是ハ男官ノ典藥寮ニ同也。
兵司
供御ノ弓矢等ヲ掌也。
闈司
カドマブリ也。節會ノ時召ルヽ物也。
殿司
男官ノ主殿寮ト同也。
掃司
男官ノ掃部寮ト同也。
水司
男官ノ主水司ト同也。
膳司
男官ノ内膳司ト同也。
酒司
男官ノ造酒司ト同也。
縫司
男官ノ縫殿寮ト同也。
諸官掌以上
上ニ十二司ノ掌ノ字ヲ付タル官也。是ハ掌コトアルニヨッテ職掌トス。自餘ノ散事ト云ハ。女孺ノ事也。是ハ職掌ナキヲバ散事ト云也。休暇三日ヲ給ト云ハ。月ノ半月ゴトニ三日ノ暇ヲ給テ。洗濯ヲスルナリ。東宮方ノ女官モ此ニ准ズル也。
凡内親王女王ヽヽ

是等ハ其身官位アルニヨッテ。行列ノ次第定ル也。外命婦ト云ハ其身ニ官ナキ故。夫ノ位ヲ以テ上下ヲタヾス也。親王及子ニハ乳母ヲ給ト云ハ。乳母ヲ給テ子ヲヤシナフ事也。

凡諸氏ノ氏ゴトニ貢女ト云ハ。女ノ十三以上三十以下ノ。宮ヅカイスベキ物ヲ奉ルヲ云也。

東宮職員令第四

東宮ハ太子ノマシマス所也。

傅一人

是ハ東宮ヲタスクル官也。大臣或ハ大納言獻〔マヽ〕之。

學士二人

是ハ東宮ヘ物ヲヽシヘ申官也。

春宮坊

是ハ東宮方ノ諸事ヲ司ドル也。坊ト云ハ居所也。

大夫一人

太子ヘ申事。太子ヨリ仰ラルヽ事掌官也。是ハ長官也。亮ハ次官也。大少進ハ判官也。大少屬ハ主典也。使部直丁ハ四等ノ外ナリ。

舍人司

是ハ東宮ニ番ヲ逐テ祗候スル物也。舍人ハ六百人アリ。正佑令史ハ舍人ヲ成敗スル官也。

主膳監

是ハ東宮ノ御膳ヲ司ドル官也。

主藏監

是ハ東宮ノ御倉ヲ司ドル官也。

主殿署

是ハ東宮ノ御湯殿。又掃ノゴヒ。簾疊ノ事ヲ司ドル也。首ト云モ正ト同也。

主書署

是ハ東宮ノ書薬筆硯ナドヲタテマツル官也。

主漿署
是ハ東宮ノ御粥白水菓子ナドヲ奉官也。

主工署
是ハ東宮方ノ御造作ナドヲ掌官也。

主兵署
是ハ東宮兵仗ヲ司ドル官也。

主馬署
是ハ東宮ノ御馬鞍ヲ掌也。

家令職員令第五
是ハ私ノ家司ヲ云也。親王内親王ノ家司モ同也。タヾシ文學ノ官ハ親王ニナキ也。

一品
一品親王也。

文學一人
親王ニ物敎フル官也。

家令一人
家司ノ長官也。家扶ハ家司ノ次官ナリ。大從ハ家司ノ判官也。書吏ハ家司ノ主典也。

二品三品四品ハ同上。無品親王ハ令ニ載セル〔ナ脱歟〕ナリ。

職事一位
職事トハ官ノアル一位ヲ云也。是ハ諸臣ノ事也。令掖從書吏ハ親王ニ同也。

二位
正從二位同也。

正三位
從三位以上公卿ノ職アルヲ云也。

神祇令第六
天神地祇ノ事也。

凡天神地祇者
神祇官ノ祭ル所也。常典ト云ハ。年中行事ノ事也。下ニ見タリ。

仲春祈年祭

二月ノ祭。今ニイタルマデ是アリ。

季春鎮花祭

大神三輪ノ明神。狭井ノ神。各大和ノ國ニアリ。神名帳ニ見タリ。疫癘ヲトヾムル祭也。花ノ散時祭ニヨリ。花シヅメノ祭ト云也。

孟夏神衣祭

是ハ神宮ノ祭也。神衣トハ神服ノ事也。和妙ノ衣ト云ハ絹ノ神服也。服部氏コレヲ掌也。荒妙ト云ハ布ノ神服也。麻續(績カ)氏是ヲ掌也。敷和ノ衣トモ云也。三川ノ赤引ノ神調ノ糸ヲモテ。此神服ヲ織ニヨッテ。神衣ノ祭トハ云ヘリ。

大忌祭

廣瀬龍田ノ社ノ祭也。年穀ヲ祈祭也。

三枝祭

率川ノ社ノ祭也。率川ノ社ハ春日山ニアリ。春日ノ明神ノ遷座以前マシマス神也。三枝ノ事ハ注ニ見タリ。

風神祭

是モ廣瀬龍田ノ祭也。田麥ニ旱水風損ヲヤメン爲ノ祭也。注ニ見タリ。

季夏月次祭

神祇官ニテ今モ行ルヽ也。

鎮火祭

火事ヲヤムル祭也。

道饗祭

是モ惡鬼ノ都ヘ入ルヲトヾムル祭也。

孟秋大忌祭

上ニ同也。

季秋神衣祭

是モ上ニ同也。

神嘗祭

今ノ世ノ九月ノ例幣也。

仲冬上卯日相嘗祭
十一月ノ祭也。諸神ヲ祭ヲ云。注ニ見タリ。
下卯大嘗祭
一代一度ハ大嘗會ト云。毎年ニハ新嘗祭ト云。大嘗ト云ヘドモ新嘗祭ノ事也。
寅日鎮魂祭
玉シヅメノ祭ト云。魂魄ヲシヅムル祭也。
季冬月次祭
以上上ニ同也。
皆依別式
別式トハ。延喜式以下委キ次第有ベシ。
其祈年月次祭者
此祭ハ神祇(官說歟)ニテ祭也。中臣祝詞ヲ申。祝ト云ハ神ニ申詞也。
忌部班幣帛
幣帛ハ諸社ニタテマツル幣帛也。是ハ忌部氏掌也。

凡天皇即位惣祭天神地祇
是ハ一代一度ノ大嘗會ノ事也。
散齋一月
十一月中神事ヲスル事也。
致齋三日
丑ノ日ヨリ卯日ニ至マデ三日。トリワキ神事ヲスル也。散ト致トノ文字ノ心替ル也。
其大幣者
是ハ諸神ニ供スル幣帛ノ事也。三月ノ内ト云ハ。九月ヨリ十一月マデ。用意ヲ致ヲ修理ト云也。修理ハ新ニツクル心ナリ。
凡散齋之内
弔喪ト云ハ。死タル人ヲ弔ハヌ事也。病ヲ問ト云ハ。病人ヲ見ザル事也。食宍ト云ハ。猪鹿ノ類ヲ食スルヲ云。如此事ヲバヤムル也。
不判刑殺
死罪ナドノ事ヲイロハヌ事也。決罰罪人ス

ト云ハ。罪人ヲ杖ニテ打事ナドヲセザル也。不作音樂。管絃歌舞ノ事ヲヤムル也。穢惡ノ事トハ。不淨ノ事ヲ云也。大嘗會ノ年十一月中ハ。是等ノ上ニ云事共ヲ不行也。

致齋唯爲祀事

三ケ日致齋ノ時ハ。祀ノ事許ヲ沙汰シテ。他事ヲヤムル事ヲ云也。

凡一月齋爲大祀

祭ニ大祀中祀小祀ノ三アリ。大祀ト云ハ大嘗會ノ事也。其外ハ三日神事也。或ハ一日神事スル祭モアル也。

凡踐祚日

踐祚ト云ハ。天皇御卽位ノ事也。昔ハ御卽位日。中臣氏祝詞ヲ申。注ニ見タリ。忌部三種ノ神器ヲタテマツル也。近代ハ。辰日ノ節會ノ日此儀アル也。但三種神器ヲ上ル事ハ是ナシ。其ヨシ許也。

凡大嘗者每世一年

大嘗會ノ年ハ。悠紀主基ノ國司事ヲ行也。其外ハ每年所司是ヲ行也。所司ト云ハ神祇官ナリ。

凡祭祀所司預申官

官ハ神祇官ヨリ太政官ニ申事ヲ云也。

凡供祭祀幣帛

是ハ祭ニ用ベキ幣帛以下。神祇伯奉行スベキ事ヲ云也。今ノ世ハ必シモ不然。

凡常祀之外

臨時ニ諸社ヘ幣帛ヲ獻ズル使ヲバ。五位以上ノ物ヲト食シテタツル也。ト食ト云ハ龜ノト也。此注ニ先墨畫龜ト云ハ。龜ノ甲ニ吉兆ノヤケメヲ墨ニテ書テ。ソノ墨ヲハヽカノ木ニテ火ヲ以テヤク也。墨ノマヽニヤクルヲバ。ト食ト云也。食ト云ハ。火ガ墨(墨脫歟)ノママニヤクルヲ食ト云也。每年伊勢幣ノ使ヲ

バ如此ト合スル也。今ノ世モ此諸社ノ使ハ。アナガチ今ノ世ニハト合セザル也。

凡六月十二月

是ハ六月十二月ノ晦日ニ祓スル事也。其時中臣祓麻ヲ上ル也。東西（東西ヲバ。ヤマト河内トヨム也。）ノ文部氏。祓ノ刀ヲ上テ祓詞ヲヨム也。今ノ世ニハ其マデノ事ハナシ。其後百官神祇官ニシテ祓ヲナス。卜部氏祓ノ事ヲ掌也。

凡諸國須大祓者

是ハ六月十二月ノ大祓ニ用ル物ノ色目。諸國ヨリ上ル事也今ノ世ニハ此事無也。

凡神戸調庸

神戸ト云ハ。神領ノ民ヲ云也。其ヨリ上ル御調物五穀以下ハ。神宮ヲ作リ。神ニ供スル事ドモニ用事ヲ云也。其税ト云ハ米穀ノ事也。義倉ト云ハ。人ニ借テ利ヲトラザル事ヲ云也。注ニ出擧ト云ハ。人ニ物ヲ借事也。是等ヲバ國司ツカサドリテ。神祇官ニ申送也。

僧尼令第七

唐ノ開元令ニハ僧尼令ナシ。唐ノ道僧格ト云書ヲ以テ。僧尼令ニツクリナス也。

凡僧尼上觀玄象、、、

上玄象ヲ見ト云ハ。上天文ヲ見ヲ云也。玄ハ天ノ色。象ハカタチ也。二字ハ天文ト云同也。假說災祥ト云ハ。イツワリハ虚言也。災祥ハ吉凶也。天ノ月星ニ付テ。イツワツテ天下ノ吉凶ヲ說事ヲ云也。語及國家。國家ト云ハ。天子ノ御事也。天文ノ吉凶ヲ以テ。天子ノ御身ノ上ノ事ニ云ナス也。妖惑百姓ト云ハ。聞人ヲ驚キマドワス事ヲ云也。是マデノ一クダリハ。一言ノ心ヲ云ヒクダスナリ。

并習讀兵書

兵書ト云ハ。六韜三略呉子孫子ナンドノ書也。僧尼ニシテ兵法ノ書ヲ讀ムハソルキ事

也。

殺人奸盗

人ヲ殺ス事一。奸ト云ハ男女ヲヲカス事也。盗ト云ハ盗賊ノ事也。此三ノ事ハ。又僧尼ノ罪也。詐稱得聖道〔二脱字〕ハ。詐テ我ガ身悟道得法ノ四果ノ聖者ナリタリト云事也。僧尼ノ已上ノ罪ヲ侵スヲバ。俗律ノ法ニヨツテ。官司ニ付テ罪科ヲ致スヲ云也。僧〔尼脱〕俗ヲ罪科セントテハ。先還俗セシムル也。道僧格ニ見タル事也。還俗ト俗人ノ除名ト同也。除名ト云ハ官位ヲ悉クハグ事ヲ云也。悉ク注ニ見タリ。

凡僧尼卜相吉凶

トナフト云ハ。龜トノ事也。相ト云ハ。地形ノ吉凶ヲ云也。此外陰陽道ノトヲバ占ト云。易ノトヲバ筮ト云。皆ト云〔三字衍歟〕。皆ト方ノ事也。及小道ト云ハ。マジナヒ事也。巫術ト云ハ。ミコカンナギヲ云事也。療疾ト云ハ。已上ノ事ヲナシテ違例ヲナヲス事也。違例ノナヲルハヨケレドモ。スマジキ事ヲシテナヲスヲ咎ト云也。故ニ佛法ノ力ヲ以テ。咒ヲ稱ヘ加持ナドヲシテ病ヲナヲスハ。咎ニナラザル也。

凡僧尼自還俗者

是ハ我ト俗ニ還ヲ云也。カヽル物ヲバ。三綱其貫屬ヲシルストイヘリ。三綱ト云ハ。上座。寺主。維那。是ハ僧尼ヲ掌物也。今ノ世ニハ三綱ト云也。貫屬ト云ハ。俗姓居住ノ在所ナドヲ云ナリ。三綱是ヲシルシテ。京ノ寺ナレバ僧綱ニフル。僧綱ト云ハ。僧正。僧都。律師ノ事也。鄙寺ノ物ナレバ。國司ニ告ル也。其ヨリシテ治部省申之シテ。除附事ヲス。除ト云ハ。僧尼ノ帳ヲ除テ。俗名ノ帳ニツクル也。師主ト云ハ。出家ノ時ノ師ノ御房也。此還俗ノ事ヲ。三綱及師主カクメ治部省ニ申

サヾル時ハ。三十日隱シタラバ。五十日三綱師主ヲ僮ニシテ使也。六十日隱シテアラバ。百日苦ミ使フ也。還俗ニ咎ハナシ。隱シタル物ノ咎ニナル也。

凡僧尼將三寶物餉遺官人

三寶物ト云ハ。其寺ニヲキテ三寶ノ用ニタツル物也。主ハナキ公界物ナリ。是ヲ吾物ニシテ。俗人ノ官人ニ送ルヲ咎トスル也。此注ニ同居卑幼用財ノ法ト云ハ。假バ俗人ノ同宿シタル内ニ。卑シキ物ガ其財寶ヲ用イタル罪ニ准ズル也。若合構朋黨ト云ハ。徒黨ダテヲシテ衆僧ヲ驚シ擾亂スル事也。罵辱三綱ト云ハ。サキノ上坐寺主等ノ三合ヲノリ放言スル事也。凌突長宿ト云ハ。長宿ト云ハ。其寺ノ長老ヲ云也。凌突ト云ハ。長老ヲ放言スル事也。以上ノ事ヲナス僧尼ヲバ。百日クルシミ使也。集ニ論事辭狀正直ニシテ。道理ヲ以テ人ヲイサメタル事ヲナサバ。此例ニ不在ト云ハ。咎ニナラザル也。

凡僧尼非在寺院別立道場

僧居(尼歟)ノ本寺ニ住セズシテ。私小寺ヲ立テ。人ヲアツメテ說法教化スル事ソルキ也。妄ニ說罪福ト云ハ。タトヒ寺院ニ住スト云トモ。口ニマカセテ罪福ヲトクハワルキ也。罪福ハ善惡ノ二也。及毆擊長宿ト云ハ。長老宿老ナドヲ打事也。以上ノ事ヲスル僧尼ヲバ。還俗セシムル也。國郡ノ官司知而制禁セザルハ。官司ノ咎ニナリテ。律ノ法ニヨッテ罪セラルヽ也。其有乞食者ト云ハ。是ハ僧尼ノ頭陀ノ行ニ出ルヲ云。惠心ノ僧都ノ樣ナル事也。カヽル物ヲバ三綱連判ヲシテ。國郡司觸テ精進練行スル事ヲ知セシムル也。判許ト云ハ。僧尼ノワザナルニヨッテユルサルヽナリ。京内ハ經玄蕃寮知セシムル也。頭陀ノ

行ノ姿ハ。鉢ヲサヽゲテ食物乞也。是ニカコツケテ。衣服ノ如ナル余ノ物ヲバ乞ベカラザル也。

凡僧聽近親鄕里、、、

近親ハ三等以上ノ親類也。鄕里ト云ハ其里也。此内ニ志ノアル童子ヲ取テ使也。年十七ニ至レバ本色ニ還ルト云ハ。近親鄕里ニカヘスヲ云也。尼ハ女ノ同宿ニシタガルアラバ。コレヲユルス也。

凡僧尼飲酒、、、

僧尼ノ酒ヲノミ。魚鳥ヲクヒ。五辛ノクサキ物ヲ乞ヲバ。咎トスル也。五辛トハ注ニ見タリ。カヽル事ヲスル僧尼ハ。三十日クルシミ使ナリ。若爲疾病藥分所須ト云ハ。服藥ニ五辛ニ肉ヲクウ事ヲ云也。其時ハ寺ノ三綱日限ヲ定テ。三十日トモ五十日トモユルス也。酒ヲノンデ醉亂シ人ト闘打セバ。又還俗セシムル也。

凡僧尼有事須論、、、

事アリト云ハ。寺家ノ事ニ付ノル事也。所司ハ治部玄蕃ヲ云也。治部玄蕃ニヨラズシテ。表啓ヲ直ニ上ル事ヲ禁ズル也。擾亂官家ト云ハ。官家ト云モ治部玄蕃ヲ云也。屬請ト云ハ。人ノ沙汰ヲウケトル事也。或ハ表啓ヲ上ルト屬請トヲ一度申ヲ。再犯トハ云也。委キ事ハ注ニ見タリ。モシ官司或ハ僧綱ノ。事ヲタヾス事マガリタル事アラバ。僧尼直奏スル事トガナキ也。

凡僧尼作音樂及、、、

僧尼ノ音樂ヲナシ。バクチ打事ヲ罪セラルル也。碁ウツ事。琴ヒク事ハユルサルヽ也。

凡僧尼聽着、、、

僧尼ノ衣裳ノ色ハ。木蘭ノ色以下ヲユルサルヽ也。壞色ト云ハ。スソウ柴ノ色ヲ云也。

此外ハナヤカナル色。綾羅錦綺服スベカラズ。違フ時ハ十日苦使セラル。又俗衣ヲ着スルヲバ。百日苦使スル也。

凡寺僧房丶丶

僧房ニ女ヲトメ。尼ノ房ニ男ヲトメ。一宿二宿ヲヘタラバ。トメタル僧尼十日苦使セラルヽ也。五日十日以上ハ。若使ノ日數ソレニ從フ也。若寺ノ三綱知テユルサバ。トメタル僧尼ト同罪也。

凡僧不得入丶丶

僧ハタヤスク尼寺ニ入ルベカラズ。尼ハタヤスク僧ノ寺ニ入ベカラズ。モシ師匠ニ逢ンタメ。或ハ死病ナドヲトブラヒニイタリ。齋會ノ日功徳ヲ修スルニツキ。物ナライニ入ル事ハユルサルヽ也。

凡僧尼有丶丶

僧尼ノ禪行ノ爲ニ山籠リシ。五穀ヲタチナドスル事ヲモ。三綱其子細ヲ奏聞スル也。サテ山居スベキ所ヲ。其國郡ノ司ニウケテ知ラシムル也。注ニ金嶺籠ハ。吉野ノ郡ノ司ニ仰スル事也。山籠リシナガラ。他所ヘアルク事ヲバユルサレザル也。

凡任僧綱丶丶

僧綱ト云ハ。僧正。僧都。律師等也。是ニハ徳行アテ道俗タットビアヲギ。法務ヲモヨク掌ルベキ物ヲ撰テ任ゼラルヽ也。カヽル徳アルヲバ。其門徒等連署シテ。治部玄蕃ニ付テ申也。阿黨朋扇ト云ハ。徳モナキ物ヲヒイキシテ申事也。其申タル物ヲバ。百日苦使スル也。一タビ補任セラレテ後ハ。タヤスク替ヘラレズ。但シ罪料アリ。或ハ老病ニシテ法務ニ叶ズバ。替ヘラルベキ事ヲ云也。

凡僧尼有犯丶丶

其苦使セラレル僧尼ヲバ。功徳ヲ修營スト

云テ。或ハ經ヲ書セシメ。佛ノカザリナドヲセサシムル也。又料理佛殿ト云ハ。丹ヲヌラシ。白壁ヲヌラスル事ヲナサシムル也。其外掃ノゴヒナドノ事ニツカフ也。僧尼ノ苦使セラルヽト云ハ。如此ノ事ヲナス也。若三綱顔面使ベキ事ニ使ワズバ。其ユルセル日數ノ程。三綱ヲ苦使スル也。有事故ト云ハ。身ノ病ナリ。又父母ノ死シタル時ヲ云也。其時ハクルシメ使フ事ヲユルサルヽ也。如此ノ事ナクシテ。三綱ノユルシテ不使ハ。ユルセル三綱ノ罪セラルヽ也。

凡僧尼詐爲ヽヽ

僧尼ノ我ガ公驗ヲ以。俗人ニアタヘテ。我名ヲ人ニユヅラバ。其僧尼ヲ還俗セシムル也。公驗ヲ受トル俗人モ。俗律ニヨッテ。一年ノ徒罪行ルヽ也。所由ノ人トハ。俗人ノ公驗ヲ受タル物ヲ云。同罪タルニヨッテ。俗人ニ還俗ノ罪ニ准ジテ。一年ノ徒罪ニ行ハルヽ也。

凡僧尼有私事ヽヽ

僧尼ノ私ノ訴訟ニヨッテ。玄蕃寮ニイタリタラバ。カリソメニ俗人ノ衣裳ヲキスル也。參事ニト云ハ。對論スル事ヲ云也。其佐官ト云ハ。僧綱ノ錄事也。錄事トハ。僧綱ヲタスクル僧也。佐官及三綱。衆僧ノ事ノタメ或ハ功德ノタメニ玄蕃ニイタリタラバ座敷ヲマウケテタツトブル也。

凡僧尼不得ヽヽ

僧尼タル物ハ。私ニ園宅トテ。田園屋宅財寶ナドヲタクワヘズ。人ニ借シテ利分ヲトル事ヲセザル也。興販ト云ハ。ヤスクカウテタカクウル事ヲ云。出息ト云ハ。借物ニ子ヲクワスル事ヲセザル也。

凡僧尼於道ヽヽ

僧尼タル物ノ路頭ニシテ。三位以上ノ人ニ

行アヒタラバ。傍ニカクルヽ事ヲスベシ。隱所ナクバ。馬ヲソバヘ引タテヽ傍ニ居テ。三位以上ノ人ヲトヲス也。五位以上ノ人ニ逢タラバ。タガイニ馬ヲトメテ禮ヲシテ。五位以上ノ人ヲトヲスベキ也。カチナラバ傍ニ立隱ルヽ也。

凡僧尼ヽヽ

僧尼ノ死タラバ。三綱タル物。月ゴトニ國司ニ其仔細ヲ告也。國司年毎ニ。朝集使ニ付テ太政官ニ申也。京中ノ僧尼ノ死タラバ。僧綱春秋ノ季ゴトニ。玄蕃寮ヘ觸テ。又年ノ終ニ官ニ申也。

凡僧尼有ヽヽ

僧尼ノ罪ヲ侵ス時。格式ニ准ズルニ。一年ノ徒罪ニアタラバ。還俗セシムル也。先告牒ヲ召カヘシテ。一年ノ徒ニアツル也。告牒ト云ハ。僧尼ニナサルヽ時ノ。得度ノ公驗ヲ云也。若餘罪アラバト云ハ。一年ノ徒罪ヨリ以上ノ罪アル時ハ。律ノ法ニヨテ更ニ罪セラルヽ事ヲ。科斷スト云也。クワシキ事ハ律ニ見タリ。又俗人ノ百杖以下ノ罪ヲ侵シタラバ。杖十ウツベキ事ヲ略シテ。十日苦使セシムル也。還俗マデノ罪ニ及バズ。還俗スベキトイヘドモ。イマダ決斷セザル間ハ放チ。召人ニテ置也。散禁ト云ハ。放召人ノ事也。モシ苦使ノ罪ヨリ外ニ又罪ヲ侵シテ。還俗ニイタルマデノ罪ニアラズバ。三綱ニ限テ。佛法ノ法ニマカセテ罪ヲ行ソシムル也。其還俗セラレ罪セラルヽ人ハ。本寺ノ三合及ビ衆僧ニ其仔細ヲ告ザル事也。若謀大逆謀叛ノ罪ハ重科也。妖言感衆ト云ハ。大ナル虚言ヲ云テ。三人以上ヲマドワス事ヲ云也。不在此例ト云ハ。本寺ノ三綱等ニ告ルヲ云也。

凡有私度ヽヽ

私度ト云ハ。公方ノユルサレモナクシテ。自出家スルヲ云也。冒名相代ト云ハ。死タル僧尼ノ名ヲ借テ。我身ゾト僞イフ事也。次ニ。已ニ還俗スベキニ定タル人ノ猶法服ヲ着ルヲハ。律ノ法ニヨッテ罪セラルル也。師匠并寺ノ三綱。同宿ノ僧尼ナド。知リナガラ不申バ。同罪ニ行ワレテ還俗セラルヽ也。同宿ニアラズトイフトモ。知ナガラユルシテ。一宿以上ノ宿ヲカシタラバ。百日苦使セラルヽ也。又僧尼タル物ノ。心ヲ知ナガラ浪人ニ宿ヲ借タラバ。是モ百日苦使セラルヽナリ。

凡僧尼ヽヽヽ

僧尼ノ俗人ヲヤトヒテ。經佛ヲサヅケテ。在家ノ門ヲメグラシテ說法セシメバ。其僧尼ヲ百日苦使セラルヽ也。俗人ヲバ。律ノ法ニヨッテ罪セラルヽナリ。

凡家人ヽヽヽ

家人奴婢ト云ハ。イヤシキ物ヲ云也。其等ヲユルシテ出家セシメ。後ニ又還俗シ。或ハ自カラ還俗シタラバ。其本主ノ方ニ返シテ。モトノ家人奴婢ニナス也。其私度ノ人自出家シタラバ。タトヒ其身經業アリトモ。得度ヲユルサレザル也。

凡僧尼有犯ヽヽヽ

百日ノ苦使ヲ犯シタル僧尼。モシ三度マデ苦使ノ罪ヲ侵シタラバ。京ノ僧尼ナラバ。外國ノ寺ニツカワシテ是ヲ置也。五畿內ノ寺ニハ入ルベカラザル也。

凡齋會ヽヽヽ

齋會トハ。佛事ノ事ヲ云也。奴婢ノヤツコ牛馬兵具ナドヲバ。僧ノ布施ニスベキヲサル（カラ歟）也。其僧尼モ。タブトモ不可受也。

凡僧尼不ヽヽヽ

僧尼ハ身ヲヤキ身ヲ捨テタリナドスル事ヲ

ユルサレザル也。佛法ノ戒律ノ法ニモ。身ヲヤキヒヂヲタク事ヲバ。罪ニ行事也。モシカクノ如クノ事ヲナス僧尼ヲ。又ユルシテ沙汰セシムル師匠ナドヲモ。同罪ニ行事ナリ。

此抄博陸冬良公。御抄也。禪閤兼良公。御法名覺惠。有御講釋。博陸令聽聞之給。被遊留云々。此道之珍璧。末代之明鑑。輙以不可及他見。非塞學路。依恐怖紛失也。相憑菅相公入道顯長卿。令書寫之。最以可秘之。可貴之而已。

延德四年壬子正月下旬記之

亞相藤隆量春秋六十四

〔櫛笥家本奥書云〕

右一冊者。候桃花閣下冬之間得一見。遂以拜借之。然戶令以下無之。尤可惜也。于時元祿甲戌南呂初七。松堂北窓下間校了。

左將郎藤定基廿六才

奥書考

禪閤兼良公

一條系圖曰。兼良公。文明五年六月二十五日。於南京剃髮。號覺惠。號後成恩寺。

博陸冬良公兼良公男

公卿補任曰。後土御門院長享二年八月二十八日關白。延德四年當職。明應二年辭退。

菅相公入道顯長卿

菅原系圖曰。參議正三位顯長。文明十三年剃髮。秀長曾孫。長政子。

亞相藤隆量

公卿補任曰。延德二年五月十一日。前權中納言正三位藤隆量。任權大納言。藤原系圖云。魚名流末茂孫。四條隆親八代。隆盛子。權大納言隆量云々。

延寶七年己未正月十二日　鵞峯林叟勘之

右令諺解。以奥書之趣見之。則兼良公口說。冬

良公筆抄分明也。一條家累世之秘本也。余有故竊得見之。乃早々寫之。以爲家藏。可堅禁他借也。一校次考奥書所載。以附卷尾。新立題名。曰桃蕚殘輝。取諸兼良號桃華坊之義。據花蕚相輝古語。

延寶己未孟春十二日　鵞峯林叟記之

繕寫成題名定後。以令義解校之。則此一帖。惟抄令足解。承和元年詔。夏野表序。官位職員令神祇僧尼令而已。戸令以下者闕焉。全部十卷之內。纔一卷半存。蓋兼良所講止於此乎。若雖講全部。第二卷之末至十卷。失於兵亂乎。

己未正月十四日　鵞峯林叟再記

文化九年十一月　日以或家所藏秘本書寫校正而納和學所文庫　溫古堂識

以宮內省圖書寮本加一校畢

續群書類從卷第二百四十八

公事部一

年中行事御障子文

年中行事

正月

元正。朝拜天地四方屬星及二陵事。
同日平旦。所司供屠蘇白散事。
同日。受羣臣朝賀事。
同日。小朝拜事。
同日。宴會事。
同日。諸司告朔公文進辨官事。
同日。式部省進國司秩滿帳事。
同日。式兵兩省補任帳進太政官事。
同日。中務省七曜御暦事。
同日。宮內省奏氷様及腹赤御贄事。
同日。治部省威儀師已上并從儀師。及諸國講讀師補任帳各一卷進太政官事。
同日。中務省女官補任帳進太政官事。
同日。太政官進參議以上上日事。
同日。諸衞進當番歷名事。
立春日。主水司獻立春水事。
上卯日。獻御杖事。
二日。皇后宮及東宮拜賀事。
三日。奏者月月奏事。

同日。行幸事。
四日。諸司申要劇文事。
五日。始叙位議事。
七日。節會及叙位事。
八日以後。式部省進五位已上歴名帳事。
八日。大極殿御齋會始事。
同日。太元帥法始事。
同日。諸國吉祥悔過事。
同日。女叙位事。
同日。賜女王祿事。
九日。始議外官除目事。
十日。兵部省應供奉內射五位以上歴名。置侍
從所事。
十一日。除目事。
十三日。三省申秋冬馬料目錄文事。
十四日。大極殿御齋會竟事。
同日。殿上論議事。
十五日。進御薪事。
同日。兵部省手結事。
同日。主水司献七種御粥事。
同日。奏給諸司秋冬馬料目錄文事。
十六日。踏歌事。
同日。三省進冬季帳事。
十七日。射禮事。
十八日。賭射事。
二十日。內宴事。
同日。給馬料官符下大藏省事。
同日。諸司年給帳進太政官事。
廿二日。於大藏省給馬料事。
晦日。神祇官奏御麻事。
同日。御巫奉御贖事。

二月

朔日。旬事。
上丁。釋奠事。

明日。大學寮獻昨日之胙事。
上申日。春日祭事。
同日。鹿島祭使立事。
上酉日。率川祭事。
上卯日。大原野祭事。
三日以前。京官除目事。
四日。祈年祭事。
十日。三省申考選及春夏季祿等目錄事。
十一日。列見選人等事。
位祿事。
中丑日。園幷韓神祭事。
十五日。奏給諸司春夏祿及皇親時服目錄文事。
廿二日。於大藏省給春夏季祿事。
御讀經事。
式部省行一分除目事。
同省行文章生試事。

中弁史之所々文事。

三月

朔日及十一日。着朝座事。
三日。御燈事。
七日。藥師寺最勝講會始事。
中午日。石淸水臨時祭事。
十一日。射禮事。
十二日。賭射事。
十七日。國忌事。
廿一日。國忌事。
鎭花祭事。
授戒事。

四月

朔日。着朝座事。
同日。主水司始貢氷事。
同日。掃部寮撤冬御座供夏御座事。
同日。旬事。

同日。近衞兵衞進御扇事。
同日。定應向廣瀨龍田祭五位事。
上卯日。大神祭事。
上巳日。山科祭事。
上申日。平野祭事。
同日。松尾祭事。
同日。杜本祭事。
上酉日。當宗祭事。
同日。梅宮祭事。
二日。中務省申宮人夏衣服文事。
同日。左右衞門府壞射場堋事。
四日。廣瀨龍田祭事。
五日。中務省申妃夫人嬪女御夏衣服文事。
同日。式部省請印准蔭位記事。
七日。二省奏成選短冊事。
八日。灌佛事。
十日。中務省奏給後宮幷女官春夏時服文事。

差賀茂齋內親王禊日前駈奏聞事。
十一日。式部省請印成選位記事。
十二日。內馬場造埒事。
十三日。兵部省請印成選位記事。
中午日。齋院禊事。
中未日。御覽左右馬寮女騎料御馬事。
先賀茂祭一日。警固事。
中申酉日。賀茂祭事。
戌日。解警固陣事。
中子日。吉田祭事。
十五日。授成選位記事。
十六日。三省進春季帳事。
廿日以前。奏郡司擬文事。
任郡司事。
廿日以前。五位以上申不堪進五月　五日　走馬
狀事。
五月五日。走馬結番事。

廿八日。駒引事。
神衣祭事。
三枝祭事。

五月
二日。小五月事。
三日。六衞府獻菖蒲幷花事。
四日。奏走馬結番幷毛付事。
五日。節會事。
同日。内膳司獻早瓜事。
六日。競馬事。
十日。申源氏夏衣服文事。
京中賑給事。
雷鳴陣事。
解陣事。

六月
朔日。内膳司供忌火御飯事。
同日。造酒司始獻醴酒事。
同日。神祇官始奏御贖事。
同日。旬事。
三日。奏侍臣幷出納夏等第文事。
五日。中務省申親王幷乳母夏衣服文事。
七日。同省申諸司夏衣服目錄事。
九日。同省奏給諸司春夏時服文事。
十日。奏御卜事。
十一日。月次祭事。
同日。神今食祭事。
明日。所司供解齋御手水御粥事。
式兵兩省補任帳進藏人所事。
廿五日。任左右相撲司事。
道饗祭事。
鎭火祭事。
任郡司事。
晦日。東西文部奏祓刀事。
同日。縫殿寮奉荒世和世御服事。

同日。神祇官奏荒世和世御贖事。
同日。大祓事。
施米事。

七月

朔日。視告朔事。
同日。式兵兩省補任帳進太政官事。
同日。中務省女官補任帳進太政官事。
同日。定應向廣瀬龍田祭五位事。
四日。廣瀬龍田祭事。
八日。文殊會事。
十三日。三省申春夏馬料文事。
相撲人入京事。
相撲人違期遲參事。
十四日。盆供事。
十五日。七寺盂蘭盆供事。
同日。奏給諸司春秋馬料目錄文事。
廿二日。於大藏省給馬料事。
廿四日。山階寺長講會始。卅日間修之事。
廿八日。相撲召合事。

八月

上丁。釋奠事。
明日。博士引得業生等參入內裏。論義幷給祿事。
同日。大學寮獻昨日之胙事。
三日。贈太政大臣淡海公不比等御忌日事。
五日。有申文。式部請印准蔭幷設位記事。
同日。北野宮祭事。
七日。牽甲斐國勅旨御馬事。
十日。三省申秋冬季祿目錄文事。
十一十二兩日。定官中考事。
十三日。牽武藏國秩父御馬事。
十五日。牽信濃國勅旨御馬事。
同日。奏給諸司秋冬季祿及皇親時服目錄文事。

十七日。牽甲斐國穗坂御馬事。
廿日。牽武藏國小野御馬事。
廿二日。於大藏省給秋冬季祿事。
廿三日。牽信濃國望月御馬事。
廿五日。牽武藏國敕旨牧幷立野御馬事。
廿六日。國忌事。
廿八日。牽上野國敕旨御馬事。
駒牽事。
御讀經事。

九月

朔日及廿一日。着朝座事。
同日。奏可釀新嘗黑白二酒事。
三日。御燈事。
四日。山階寺長講會終事。
七日。奏諸國言上當年不堪佃田解文事。
不堪佃田事。
九日。節會事。
十一日。奉幣伊勢太神宮事。
十五日。東大寺大般若經事。
卅日。山階寺法華會始事。

神事

一踐祚。大嘗祭爲大祀。祈年。月次。神嘗等祭爲中祀。大忌。風神。鎭花。三枝。相嘗。鎭魂。鎭火。道饗等祭爲小祀。
一風神祭以上。幷諸司齋之。鎭花祭以下。唯祭官齋之。
一賀茂祭爲中祀。諸司齋之。園韓神。平野。春日。大原野等祭爲小祀。祭官齋之。
一小祀祭官齋者。內裏不齋。其遣敕使者齋之。

御服事。

一大小諸神。及季冬奉幣諸陵。帛衣。卽位及元正受朝賀。袞冕十二章。
一朔日受朝賀同聽政。受蕃國使表幷幣。及大小諸會。黃櫨染衣。

一爲本服二等以上親喪。錫紵。外祖父母亦同。爲三等以下親及諸臣之喪。除帛衣之外。通用雜色。

御畫事。

一詔書敕書及敕符等用畫日。詔書敕書等復(覆歟)奏文幷畫可。論奏及諸衞擬舍人奏幷畫聞。皇太子令旨用畫日。

廢朝事

一太陽虧。有司預奏　皇帝不視事。

一皇帝二等以上親。外祖父母。右大臣以上。若散一位喪。三日。

一國忌日。三等親。百官三位以上喪。一日。

雜穢事

一人死忌者三十日。産(婦歟)七日。

一改葬及四月以上腸胎。幷忌三十日。其三月以下。忌七日。

一六畜死忌五日。産三日。

一喫宍及弔喪問病。忌三日。弔喪問病。及到山作所遭三七日法事者。雖身不穢。而當日不可參入內裏。

一六月十二月月次。十一月新嘗祭前後齋之日。僧尼及重服奪情從公之輩。不得參入內裏。雖輕服人。致齋之前散齋日。不得參入。餘諸祭皆同此例。

一緣無服殤請假。未滿限日。被召參入者。不預祭事。

一宮女懷胎。散齋之前退去。有月事者。祭日以前退出宿廬。不得上殿。其三月九月潔齋。預前退出宮外。

一甲處有穢。乙入其處。乙及同處人皆爲穢。丙入乙處。只丙一身爲穢。丁入丙處。不爲穢。

一宮城內一司有穢。不可停廢祭事。

十月

朔日。十一日。廿一日。着朝座事。

同日。視告朔事。

同日。掃部寮撤夏御座供冬御座事。
同日。旬事。
同日。主殿寮進御殿炭及殿上侍料炭事。
同日。諸司畿內考選文進辨官事。
奏發皷吹聲日事。
二日。中務省申宮人冬衣服文事。
同日。奏可供新嘗祭官田稻粟卜定文事。
初亥日。內藏寮進殿上男女房料餅事。
三日。左右衞門築射場堋事。
三日以前。點定五節舞姬事。
四日。死刑斷罪文申官事。
同日。中務省申妃夫人嬪女御冬衣服文事。
五日。射場始事。
六日。法華會終事。
十日。中務省奏給後宮幷女官冬時服文事。
同日。興福寺維摩會始事。
十六日。三省進秋季帳事。
十七日。奏維摩會文事。
廿日以前。典藥寮進生地黃樣事。
廿一日。競馬負方獻物事。
同日。大歌始事。
治部省申諸國講讀師簡定事。

十一月

朔日。內膳司供忌火御飯事。
同日。旬事。
同日。中務省奏御曆事。
同日。神祇官始奉御贖事。
同日。諸國考選文雜公文進辨官事。
上巳日。山科祭事。
上申日。平野祭事。
同日。春日祭事。
同日。杜本祭事。
同日。當麻祭事。
上酉日。率川祭事。

同日。梅宮祭事。
同日。當宗祭事。
十三日。三省申位祿文事。
中子日。大原野祭事。
同日夜。五節舞姫調習事。
中丑日。園并韓神祭事。
同日。宮內省奏御宅田稻數事。
中寅日。鎮魂祭事。
同日夜。試五節舞事。
中卯日。新嘗祭事。
中辰日。節會事。
巳日。東宮鎮魂祭事。
同日。賜女王祿事。
中申日。吉田祭事。
十六日。奏給位祿目錄文事。
中旬。陰陽寮擇定元日童女年衣色奏事。
廿二日。於大藏省給位祿事。

下酉日。賀茂臨時祭事。

十二月

朔日。內膳司供忌火御飯事。
同日。神祇官始奏御贖事。
同日。諸補任帳入外記事。
上卯日。大神祭事。
三日。國忌事。
同日。奏下等第文事。
五日。奏親王衣服文事。
九日。中務省奏給諸司秋冬時服文事。
諸司同衣服文辨官申大臣奏聞事。
午日。御髮上事。
十日。奏御卜事。
同日。陰陽寮勘錄來年御忌進內侍事。
十一日。月次祭事。
同日。神今食祭事。
十三日。豫點定元日侍從及奏賀奏瑞事。

同日。點定荷前使參議以上奏聞事。
御佛名事。
廿三日。國忌事。
荷前事。
道饗祭事。
鎭火祭事。
廿日以前。式部省諸國主典以上。幷史生博士
醫師秩滿帳。進藏人所事。
勘申諸國受領吏功課事。
朝拜若止宣旨下諸司事。
下旬。朝拜習禮事。
陰陽寮大寒入日。立土牛童子像事。
晦日。奏瑞有無事。
同日。宮內省率典藥寮進御藥事。
同日。東西文部奉祓刀事。
同日。縫殿寮奉荒世和世御服事。
同日。神祇官奉荒世和世御贖事。
同日。大祓事。
同日。差分物聞使事。
同日。追儺事。
月中行事
每朔日。內侍所御供事。
每朔日幷十一日。內藏寮進旬御菓子事。
每六齋日。御精進幷殺生禁斷事。
每十八日。二間觀音供事。
奏去月公卿官外記幷殿上諸陣所々上日事。
七瀨御祓事。
每晦日。御祓事。
六月十二月晦日。神祇官奉仕御麻。幷御巫奉
御贖事。
每晦日。中重掃除事。

以宮內省圖書寮本加一校畢

續群書類從卷第二百四十九

公事部二

年中行事 賀茂氏人保隆所傳

正月

元日。四方拜事。

追儺之後。藏人召仰諸司御裝束。掃部寮清涼殿東庭當第三間。去石階七尺許鋪葉薦。其上鋪長莚。南北行。其上立廻大宋御屏風八帖。其中設御座三所。一所拜屬星座。西北角。一所拜天地座。東北角。其上敷褥。座前立高机。置香花燃燈。一所拜山陵座。南邊。自御屏風西到階下鋪莚道。上晝御座南第三間格子。爲御出之道。藏人置御笏幷式御筥於屬星座前。但近代御笏者。於御屏風外。入御間奉之。主殿寮供御湯。寅刻御出。黄櫨。近衛次將候御劍。先着屬星之座。正笏向北。稱所屬星名字。七遍。次再拜。次稱咒。賊寇之中過度我身。毒魔之中過度我身。危厄之中過度我身。毒氣之中過度我身。五兵口舌之中過度我身。五鬼六害之中過度我身。百病除癒。所欲隨心。急々如律令。次着拜天地座。向北再拜天。次向西北再拜地。次各再拜四方。東西南北。次着拜陵座。兩段再拜。若有二陵者。各兩段再拜。次入御。

同日早旦。供御齒固事。

御厨子所付女房供之。土高坏六本在折敷。陪膳女房一人。抓釵子供朝餉之西邊。御覽之後撤如初。

二三日同供之。

同日早朝。供御藥事。

藏人御裝束畢之後出御。御直衣上。着御生氣之御直衣。陪膳并女房着座。陪膳女房共裝束如常。上着生氣方唐衣。役供女房着泥繪唐衣纐纈裳。次得選二人。上髮各捧御臺一本。自鬼間障子口進之。女房取授陪膳。陪膳取之。供御座東西。一御臺上有小土器箸。次采女二人。入自青璅門。供御膳。次藥子着座。次後取着座。次供御酒。先令飲藥子。主上向生氣方飲御。屠蘇也。給後取。次二獻。藥子後取如初。次三獻。入自夜御殿南戸。向東戸乍立飲御。次着本座。藥子後取又如初。次後取退出。次撤御膳。鬼間。次入御。

第三日。供膏藥。

三箇日間。供御膳於朝餉。元日朝膳供南殿。節會無御出時朝夕供。

同日。小朝拜事。

殿上王卿以下。於弓場邊着靴。令藏人頭奏候由。其詞云。其大臣小朝拜候不。雖親王在上。大臣奏事由。卽奏仰奏仕御裝束。其儀下母屋御簾。撤晝御座。同間敷二色綾毯代。其上立殿上御倚子。出御。出自額間母屋御簾。經御椅子南着御。藏人頭奏仰。（出脫歟）御由示於上卿以下。入自仙華門列庭中。王卿一列。四位五位一列。六位一列。拜舞畢退出。

同日。節會事。

大臣着陣。奏外任奏。仰令候列。若非一上者。先可仰內辨。其詞云。內辨爾候。內弁令奏可付內侍所由。次藏人頭召外記於南階西掖。給殿上見參。

時刻御南殿。內侍二人。持劍璽相從。劍在御後。命婦藏人各四人扈從。藏人持御靴式等。又在御後。近仗陣階。王卿着外弁。天皇出御。着御靴。入自御帳北方。經御倚子東頭着御。內侍置劍璽於東机。劍南璽北。藏人置式於西机。近仗稱警。次內弁着宜陽殿兀子。次內侍臨東檻。次內弁謝座昇着座。次開門。次闈司着座。二人。次內弁召舍人。二聲。次少納言就版。大臣宣喚侍從。末不千君達召才。少納言稱唯退出召之。王卿就標下。內弁仰云。敷居爾。群臣再拜。訖造酒正授空盞。群臣再拜。訖造酒正受盃退還。王卿參上着座幄。中務錄點檢。酒部所。（令脫歟）采女撤御膳帊。次內膳正以下供御膳。此間群臣諸仗共起。次就西階

供殘物。次給臣下餛飩。次御箸下。（以御扇所置馬頭盤御箸所檢鳴）也。臣下應之。次供鮑羹。次供御飯。次供進物所御菜。次供御厨子所御菜。次給臣下飯汁菜。次御箸下。臣下應之。次供三節御酒。次一獻。次給臣下。次國栖奏風俗。次二獻。次給臣下。次御酒勅使。次三獻。次給臣下。次立樂。次縫殿寮立祿衾辛櫃。次内弁着陣。見參宣命等。次大臣奏見參宣命等。主上取之置而（西）（撥見了）机。一々覽畢置東机。内侍取之内弁。内弁給之退下。還杖昇着座。次召參議一人給宣命。次内弁以下々殿列立。次宣命就版。（宣制一段。群臣再拜。又宣制一段。群臣拜舞。）次宣命昇着座。次王卿着座。次天皇還御。近仗蹕。（近代必王卿不待退下。仍在座大將以下蹕。）

同日。内藏寮給酒肴於殿上男女房及藏人所事。

立春日。主水司進立春水事。（謂之若水。）

主水司。舊年土用以前。擇御生氣方宮中幷京内井祭之。不可他用。立春早旦。令牟義部首人姓也。一汲盛之於白土瓶居臺。件臺以日蔭卷之。【房奥】官人以下令昇付女官。女官盛調付女宮。女官（着釵子。不髮上。）於朝餉御座供之。主上向生氣方飲御。（件水者盛土器。居折敷。有押白綾。居土高坏。二本各居一所。）

上子日早旦。内藏寮供若菜。其儀。若菜十二種。各入折櫃。居土高坏。相副解文。（白木杖。）付御厨子所供之。

上卯日。献卯杖事。

作物所献御杖四枝。造御生氣方禽獸形。置洲濱上。令持御杖。即居高机二脚。彼所別當相扶。經侍所庭。（一宮本）入自仙華門。立長橋上。糸所女孺傳取。孫廂御前。御覽之後。取之結付於晝御帳東兩柱。但机者返給彼所。

舊年行事藏人成内藏寮請奏。々下之。春宮坊令坊官献御杖。付藏人奏事由。同昇立於孫廂。給坊司祿。（大掛。内藏寮進之。）

同日。内侍所献御杖幷御體杖事。

其儀。女史付臺盤所献之。女房執御杖。立於夜御帳四角。女□□〔所御カ〕體杖梅千萬歳衛之。女房立於夜御殿內。（件杖大舍人所献也。）

二日。二宮大饗事。（在別。）

五日。叙位議事。

御裝束了。藏人承仰召公卿。大臣以下着座。（參議一兩着座爲期。女不參議敷。）　主上召大臣。（其詞曰。古奈太仁。）　大臣着御前圓座。奉仰召次々大臣。次大臣着座。次　主上被仰云。（早久。）　次大臣奏十年勞帳。次被仰云。（早久。）　承仰召人。（男共。）　五位藏人參進。仰可進續紙之由。此間自御前下給申文。次持參續紙。次　主上仰云。（早久。）　大臣染筆。先書從五位下。（可叙從五位上以上之程紙置。）　次藏人。（自御所以詞被仰之。）　次式部丞。次民部丞。（以上有省奏。）　次大臣奏事由。遣取院宮御申文。次叙王氏。（書藏人之上。）　次撿非違〔使脫歟〕。外記史。諸司。外衛。氏爵。參議。院宮御申文。大臣取之奏覽。御覽了返給。一々叙之。次大臣奏可召入內弁一加階勘文由。奉仰令殿上弁召。隨勘進叙之。次書加階。逆上至上階。叙位畢書年號。奏聞返給復座。返□〔給歟〕申文外記勘文等。取副叙位於笏退下。於殿上授入眼上卿退出。上卿給之着陣。入眼畢參射場殿。奏聞返給。（仰令〔云歟〕請印與。）　請印畢奏聞返給。仰云。令次第與。次第了。書下名。差夾式部筥上。奏聞退出。依仰□〔取歟〕之。置〔御歟〕置物御厨子上。

七日。宴會事。（二省立標。掃部立位記案。大臣奏外任奏。藏人頭渡見參如元日。）

天皇御南殿。內侍給下名於大臣。大臣着宜陽殿兀子。次召內豎。稱唯參入。大臣宣。式乃省左兵省左召。稱唯退出。二省丞立大臣前。大臣宣。式乃省左。稱唯進。搢笏屈行給下名。大臣宣。兵省。稱唯給下名如初。二省退出。大臣起座。暫入陣。近衛陣階下。內侍置位記筥於內弁座前大盤。王卿着外弁。　天皇出御。（近仗警蹕。）　內弁又着兀子。內侍臨檻。內弁謝座昇着。次

開門。內弁奏宣命。覽畢返給。內弁返杖復座。次召內豎。稱唯參入。立櫻樹東。內弁宣。式乃省左兵省左召才。稱唯出。召省輔。丞代參入。列立櫻樹東。內弁宣。式乃省左。輔稱唯參進。大臣給位記筥。降自東階授丞代。次大臣召兵省。給筥如初。丞等以筥置案上。內弁召舍人。少納言就版。內弁宣。刀稱召セ。少納言稱唯出召之。王卿立標。內弁宣。敷尹。群臣再拜。造酒正授空盞。王卿着堂上。二省引叙人。立東西標下。內弁召宣命使給宣命。王卿下堂列立。宣命使就版。宣制一段。群臣再拜。又宣制再拜。宣命使復座。王卿復座。式部輔召給文官位記。兵部召給武官位記。了覆筥退出。次叙人拜舞退出。次二省丞取筥。次掃部寮撤案。次王卿下堂拜舞。次左右御監奏白馬。次左右近府取標札。次左近將監取版。次左近陣度。次左右馬頭。次御馬七疋。次左右允。次御馬七疋。次左右屬。次御馬七疋。次左右助。次左近陣度。次供御膳如元日。三獻畢。內教坊別當奏舞妓奏。次樂人於射場殿發音聲。次舞妓出。次王卿拜舞。次掃部寮立祿臺。大藏省積祿物。大臣奏宣命見參日祿。覽畢返給。次召參議給宣命。又召參議給見參。次內弁以下下堂列立。宣命使就版。（宣制一段。群臣再拜。又一段拜舞。）次宣命使復座。次王卿復座。次　宸儀還御。

還御本殿之後。白馬度清涼殿東庭。先藏人〔垂脱歟〕東廂御簾。供御座於廂第三間。（圓座。）白馬度殿上前。經神仙無名仙華等門渡東庭。自瀧口戶出。行列同南殿儀。

八日。御齋會始事。

同日。給女王祿事。

同日。女叙位事。（隔年行之。御裝束如官奏議。御座間又庇北柱下敷關白圓座。）

時刻出御晝御座。大臣依召參上。着圓座。依仰召人。（五位藏人。）仰可持參紙筆由。卽入 柳筥硯

筆一雙。翠小刀續紙二卷。翠小刀本方以紙裹之。紙屋紙各五枚許。經
簀子敷。自大臣後進之。大臣取之。先叙藏人。
次奏可遣取院宮御給名簿由。奉仰召殿上次
將。仰其由。或召藏人頭仰之。若此中有后宮御名者可返給。但近代遣母后幷當時后宮御名。此
間給申文於關白。年入御硯筥給之。外記勘文有此中。關白起座進
御座。指笏給之復座。每叙一々撰出給執筆。
執筆給之。叙畢懸勾入柳筥。采女御匣殿每度給之。闈司東豎主水輪轉給之。
之。此間持參院宮御申文。加階者以可被奏。大臣取之。
插笏進御前奏之。還復座。拔笏候之。一々覽
畢返給。但懸紙留御前。大臣給之。次第並置叙之。但東宮無女
爵。若有可入內者。仰外記令進勘文叙之。次
自從五位上。至上次第叙之。叙畢奧書年號。
暫撤入柳筥之硯筆等。入件文插笏。就御座奏
之。返給如元。返入硯筆等。取副下名於笏退
下。給入眼上卿。上卿給之着陣。令作位記。令
持內記參上令奏之。若男位記自加者。各入一筥。乳母位記狀異他云々。仰令
請印。請印畢文奏。即留御所。但位記者返給。所司不具之時。

封給內記。若無內記者給外記云々　後日內
——書御座分遣於本所　以髮上女史爲使。但內親王女御大臣妻等類。以近衛次將爲使。

同日。太元御修法事。治部省。

入御衣一領於御衣筥。給藏人。藏人給之。以緋
綱結之。付封置御衣机。有紫覆。令持內藏官人送
法所。七日畢。藏寮官人受取返上。

同日。眞言院御修法事。

入御衣一領於御衣筥。給藏人。藏人給之。以緋
綱結之。付封置御衣机。□□。令持小舍人。
藏人相具行向法所。七日畢。藏人行向。受取
御衣返上之。

以上御衣　主上着御。

十四日。御齋會終事。

王卿着大極殿行事。

內論義事。

王卿經陰明門着右陣。陣次將着膝突勸盃。上

卿召外記史。令着陣座。仰外記可令入僧等之由。僧等入自月華門。立射場邊。藏人向右近陣召王卿。出居就座。王卿着座。次僧侶參上。次眞言僧綱進立。加持香水。次顯宗僧綱進立。讀結番。次上﨟顯宗僧綱召立番僧。次當講着座。次問者着座。竟番僧一人留隨喜。次王卿取祿。次威儀師布施咒願。次僧侶退下。次公卿出居等退下。

若當御物忌。於南殿有此事。

十五日。主水司供七種御粥事。（薑子。栗。小角豆。大角豆。粟。稗。米。）早旦主水司盛備粥。（用様器。）居於御臺一本。付於女房。（件御臺上亦有小土器一口。其上置木箸一雙。）女房取之。供於朝餉御座西邊。（件女房陪膳一人。役供一人也。各挿釵子。）

同日。內藏寮給殿上男女房及藏人所酒肴事。

同日。宮內省御薪事。（弁一人着行之。三省輔丞錄以下參入。）

同日。兵部手番事。

上卿一人行之。若不參者。錄（藏人所奏其由。藏人奉仰。令內豎催。射手不足時。遣殿上侍）臣。

十六日。踏歌宴事。（內弁奏外任奏。藏人頭渡殿上見參。）天皇御南殿。近衛陣階下。王卿着外弁。天皇出御。（近仗警蹕。）內弁着兀子。內侍出。內弁謝座。畢開門。闈司着座。內弁召藏人。少納言就版。內弁宣。召大夫達。少納言稱唯。王卿立標。內弁宣。敷居（爾）。群臣再拜。造酒正授空盞。群臣再拜。王卿着堂上。內膳供御膳。給臣下。御箸下。供三節。一献。（給臣下。）國栖奏。二献。仰御酒勅使。三献。立樂。內教坊別當奏圖。左右近府取標札。舞妓出。王卿下堂拜舞。內弁下殿見々參。內弁奏見參宣命。返給復座。召參議二人。給見參宣命。王卿降立。宣命使就版。（宣制二段。）宣命使復座。王卿復座。　天皇入御。

十七日。射禮事。（上卿以下建禮門前幄行事。有射遺者。差遣參議一人。令行件事。）

十八日。賭弓事。

[illegible]□府射手着座。次 箭奏。　主上出御　晝御座。

先近次將執書杖。自木、使年中行事御障子北頭。　主上目給。次將稱唯進奏文。覽畢返給。次右近左右兵衞如此。次渡御射場殿。（內侍二人執劔璽。命婦藏人各二人扈從。□□□衣。紫末濃裳。）次出居着座。次出御。（出自北門西中央。經御倚子北。內侍置劔璽於南机。）次出居聲蹕。次召王卿。（上□次將依天氣立座召他將替着。）次王卿着座。次左大將取奏。　主上取之。置給南机。次右大將如此。左右大將着座之後。取奏文一々覽之。左右兵衞矢取奏。留置給南机。次日（名謁）第一上卿給奏文。（置給御座前板敷也。）次召左右的。付將々給文。（右奏給左。左奏給右。）次出居仰云。的懸與。次木工寮懸的。次兵部省掌着床子。次近衞籌刺府生着座。次近衞矢取十人。經堋前西渡。若此間射手申障。次左右近射手立弓場。次繼手各一人立其後。一度射間給衛重。近衞射畢籌刺着座。次兵衞矢取渡。（七人。）次兵衞射手參射。次二度。（自左始之。）近衞未射畢前。被仰付停兵衞由。此間供御膳。（射手居。）二度未畢間。入

御□座中。（射手□□。）內侍取劔璽。置於大床子上。次以□□被仰上卿。射手可奏仕由。□事次將以的付之奏上卿。取硯等退出。上卿令藏人奏聞。（於御所。）勝方奏樂。次還御。

除目事。（可遣御覽日并仕傳人奏日。）

前一兩日召仰。以藏事。於可參大臣。被仰其日可候由。大臣奏　勅。仰外記并辨。（一大臣於里第仰之。）當日早旦奏申文。仰撰（續）。御裝束畢。藏人奏仰召上卿。　大臣着御前座。　納言以下取筥文。主上召大臣。（其詞云。古奈太仁。）參議一兩着座爲期。上薦大臣稱唯着圓座。奉仰召次々大臣。　主上被仰云。早久。奏闕官帳。御覽畢返給。　主上被仰云。早久。大臣繆置大間。　主上被仰云。早久。大臣奏四所可取之由。依　天許。二三人許。（內大進。）次遣取院宮御申文。次下給申文。四所者任畢。先內給。此間參議持參御申文。大臣奏覽返給。次任公卿當年給。次書令參議下勘

未給。可勘給不。名替國替更任。可勘給不。內官未給。可勘給不。親王當年給。可勘巡當不。公卿二合。可勘二合年。夜漸深間。候氣色。卷大間加表紙。以㕝攙結。其結目上引墨。次成文以紙攙結中。其結目上引墨如初。入筥奏聞。次返進申文。次退下。

次日。召公卿奏筥文如昨日。大臣以下着座。

　主上召大臣如昨日。大臣着座之後。給大間筥。畢申文。次　主上被仰云。早久。次大臣縿大間。次〔マヽ〕　主上被仰云。早久。次參議昨日進被下之々文。大臣取之。次第任。次文章生。次內舍人。次諸道舉。次諸院舉。次召使。次親王參議以下無國。仰殿上弁令進勘文。次令進轉任宿官勘文。又仰弁。勘進之後又任。次藏人式部民部任權守。外記史撿非違使任介。次出納兼國。次藏人所瀧口勞帳。以藏人頭召之。次令公卿舉顯官。外記史式部民部左右衞門尉等也。申文被下。次大臣奏大間如昨日。

竟日。與初日不異。正官有闕時。權任之人轉正。漸欲竟之間。令諸卿舉受領。諸卿書舉。付大臣奏聞。留御所。舉間任受領。先書大間。懸紙移入。事畢年號下書竟日。奏大間。不加表紙。不給下。入筥。不入成文。封入次筥。御覽畢返給。次返進申文。以成文入加於大間筥退下。於殿上授淸書公卿。若功過申文被相加者留御所。

二月

上丁。釋奠事。當日鈎幷祈年祭者用中丁。不用下丁。

明日大學寮獻昨日之胙。給祿。頭給支子染衾一帖。若六位官人參時。給同色袍一領。藏人二人。一人取胙步進。候朝餉欄邊。一人相從問云。何曾乃物曾。持胙人稱申云。大學寮乃進禮留昨日乃釋奠乃胙。即奏御簾內。有殿上料。

上申日。春日祭事。

未日早旦。主殿寮供御浴。次使次將率舞人陪從參內。於射場殿。發歌笛聲。依喚參上御前。其儀。下東廂御簾。南第三間簾中。敷圓座一枚爲御座。使用大床子圓座。長橋東端。敷圓座一枚爲使

座。謂打橋西也。次出御。藏人頭奏仰。仰次將可參由。次將入自仙華門着座。次殿上六位居衝重。次五位藏人勸盃。六位取瓶子。已上出自殿上々戶。次陪從等入自同門。立露臺南第一間。絃歌儛人等入自同門。於東庭儛畢出。求子。次陪從等歌大比禮曲。畢退出。次牽餝馬。入自瀧口戶。次牽々馬。但府生相替牽之。番長以下不入。次將賜祿。紅打袙一襲。五位藏人取之。出自殿上々戶給之。次將纒頭。進東庭拜舞。當河竹東頭。向乾。畢從仙華門退出。

次舞人陪從給祿。作布者召內藏寮絹給官人。內侍率女官參社頭。召祈左渡布給舞人。番長各三端。近衞各二端。若無。

同日。發遣鹿島使事。未日上卿於使座覽官符。令藏人奏事由。令持官符。參射場奏聞。覽了返給。還着使座。行請印給外記。

同日。平岡祭事。

上酉日。率川祭事。

上丑日。園幷韓神祭事。若有三丑用中丑。

上卿着宮內省行事。內侍參仕供神膳。

上卯日。大原野祭事。

上卿以下參社頭。內侍參仕供神膳。近衞府使率舞人陪從等先參仕。次參社頭。

四日。祈年祭事。廢務。

上卿以下着神祇官行事。

十一日。列見事。

上卿以下着座人。於官廳行之。

十九日。圓宗寺最勝會事。

仁王會事。

大臣定僧名撿挍。納言參議以下奏聞。如日時勘文。次咒願可作由。召仰作者。前一兩日。上卿奏咒願草。藏人給內御書所令書之。渡行事所。藏人書堂童子。押殿上柱。當日。大臣着陣座奏事由。仰弁令打鐘。次公卿參上候殿上。但宰未納言參議者留南殿。次出居次將着座。次公卿着御前座。次諸僧昇。威儀師率衆僧入仙華門。立長橋南。次僧昇自長橋着座。但北座僧經簀子敷。入自第五間着之。次威儀師昇南庭東頭。次講師讀師着禮盤。禮佛之後。各登高座。講師西。讀師北。次唄師發音。次堂童子着座。南者入自

殿上戸。北者昇自昆明池障子東頭。次堂童子引花筥。次散花師起座。散花等畢後復座。次堂童子收花筥退出。次講說畢。僧侶退下。次公卿退下。次出居退下。

結願時剋。上卿奉仰。又令打鐘。召殿上弁。於小板敷仰之。出居王卿等參上。同朝座講說畢。講師下高座。次咒願三禮着禮盤。次行香。威儀師着散花机頒香。公卿解釼置笏受香。行香行事藏人取火蛇相從。威儀師前行。僧侶退下。次王卿出居等退下。

季御讀經事。

上卿奉仰。定僧名奏聞。相加日時勘文。前一日。藏人書堂童子。押殿上柱。

當日。上卿着陣。定御前僧。開永安門。右近者〔マヽ〕督使一人着胡床。制濫入。剋限上卿仰弁令打鐘。出居昇。王卿昇。衆僧昇。仙華門。次御導師着座。次堂童子着座。次唄師發音。次堂童子引花筥。次法用畢收花筥。次近衞次將仰御願之趣。次發願。次讀經。次行香。次咒願三禮。次威儀師起座進佛前。〔請歟〕左始自夕座至明日朝座導師咒願等。次僧侶退下。王卿出居退下。

第二日。有引茶事。秋無此事。

第三日。夕座有御前論義事。秋無此事。

第四日結願。其儀同初日。但佛供机前立机一前。置佛布施。法用後。次將仰度者。次行香事訖後。大臣以下着陣饗。大弁着於陣腋床子。史見申文。卷數也。歸着陣。史繆卷數。上宣申給へ。史退居。付內侍所。

官所充事。列見以後。

定位祿事。其後殿上分書出渡藏人所。

三月

一日。奏御燈御卜事。

宮主插奏文於杖。白木。付御厨子所。藏人取之奏聞。留御所。若當子日。二月晦日卜之。天德四年子日奏之。

三日。御燈事。

當日早旦。主殿寮供御湯。御裝束畢出御。位袍。
藏人頭獻御笏。盛御笏宮蓋上舉之。次內藏寮獻御贖物。
次宮主進御麻。　主上一撫一吻之後返給。不取
給杖。宮主着座。讀祝詞畢退出。次撤御贖物。次
御拜。三度。延喜十年再拜。不被奏御燈時。御拜可尋。
雖當御物忌。猶有簾外出御。御禊畢後供魚
味。僧尼服者不參入。

同日。內膳司供御節供事。

同日。內藏寮賜酒肴殿上男女房事。

七日。藥師寺最勝會始事。

中午日。石清水臨時祭事。若有二午者用下午。

前卅日定使以下事。

次始行調樂事。桂芳坊。
舞畢舞人陪從發歌笛。參殿上口。次歌大比禮
曲。次荒田爾生留曲。畢退居。經承香殿北。

前四日。覽神馬。

試樂事。
御裝束畢出御。御直衣。次藏人頭奉仰召公卿。次
公卿着座。次侍臣着座。仙華門。次喚人。男共。藏人
頭奉仰。出瀧口戶召舞人。次陪從等立瀧口庭
南砌吹調子。次發一歌。次漸步進發二歌。此
間被仰一舞。　主上召藏人頭。參進如初。奉
仰々出其人。次舞人等進出。駿河舞。次求子。
□退出。陪從等唱大比禮曲退出。次入御。次
公卿以下退下。

當日早旦。賜裝束舞人陪從事。
次主殿寮供御湯。次藏人奉仕御裝束。次出
御。位袍。次御禊如御燈。但使入自仙華門着座。
次舞人牽御馬。瀧口戶。御禊畢牽出御馬。次撤御
贖物。次使取幣三捧立。次　宸儀兩段再拜。
次使置幣退出。次奏宣命。次上卿返給。召使
於小板敷給之。次撤御禊御裝束。立御倚子。
次出御。麴塵御袍。櫻御半臂。下重。藏人頭獻御草鞋。　次藏人頭奉仰召
公卿。公卿着座。次一獻。侍座。藏人頭。〔此間恐有脫文〕次三獻。次陪

從發哥笛。次藏人頭二人取挿頭花螺盃銅盞。居長橋東妻。次四獻。次五獻。次敷重盃圓座。（一枚脱歟）勅使前。一枚第六舞人前。雜色。一枚陪從座前。所衆。次殿上四位二人取盃着舞人座前圓座。次五位一人着陪從座前。兩（所歟）衆各取瓶子。畢各勸之。次廊下公卿退出。次五位藏人一人進就挿頭花下。次大臣以下進長橋內。取挿頭花。挿使以下冠。舞人右。陪從左。次使以下退出。次入御。乍着御草鞋。暫御簾中。次所司撤庭中座。次敷公卿圓座。納言簀子。參議長橋。次出御。次藏人頭奉仰喚公卿。次公卿着座。次侍臣着座。次　主上喚人。藏人頭奉仰召使以下。次使以下參進。歌舞退出。其儀同試樂日。

明日。使以下着射場殿座事。

三獻後發歌笛。次給祿。次使以下退出。

十七日。國忌事。

廿一日。國忌事。

四月

一日早旦。改冬御裝束事。

同日。旬事。

時刻御南殿。內侍二人執劍璽扈從。命婦藏人各四人相從。着薄色裳。冬紫末濃。纐比禮。次出御。御着靴。內侍置劍璽。藏人置式。次開門。次大舍人叫門。闈司就版奏。勅答。令申與。闈司退出。次大監物就版奏。勅答。取禮。次大監物退。次閇門。次內侍臨東檻。次大臣着陣見文。次大臣取奏。昇自東階。立於簀子敷。向西。主上召之。大臣稱唯。經東庇入母屋北間。膝行奉之。主上取奏文。置於西置物机。大臣執文杖。右廻立障子戶西邊。主上取奏解結緒。開懸帋。置於西置物机。一々覽之。如本卷。其上以本紙擦（結歟）給。片結。置於東置物机。以文下方當東置之。大臣進給。（闕文）文開結申。隨　天許。稱唯退。立軒廊如初。史給奏。差夾文差。立小庭東邊。大臣着陣。乍着靴踞陣座。史進奉奏文。此間大弁進着座。大臣傳奏報。出居次將着座。王卿。次出居侍從着

座。次內膳正以下舁御臺盤。到西階一御臺。到北第二之間。出居次將召內豎。內豎稱唯。內豎參入。立於櫻樹良。次將仰云。御飯給。內豎稱唯退出。次采女立酒器於南廂。次內豎立臣下臺盤。次酒番着座。次供四種。次給臣下四種。次索餅。下器度。次下器過度版位之間。供索餅。次給臣下索餅。次御箸下。臣下應之。次侍從厨進御贄。次供鮑羹。撤索餅。次供御飯。次給臣下飯。次供進物所御菜。銀器。次供御厨子所御菜。次給臣下菜汁物。次御箸下。臣下應之。次供御酒。給臣下。次下物下器度。次供御菓子干物。次給臣下。次開門。次闈司着版奏。勅答。令申與。次闈司退。次六府將佐進。列立於庭中。次左近次將奏云。左右乃近以衞乃府申久。卯月乃上津番比仕ヘ奉ルベキ帶刀乃舍人乃名簿。簡進津樂ト申給トハ久申須。次左衞門左兵衞如此。勅答。置斗。將佐等同音稱唯。次闈司二人受簡。〔至歟〕等橋樹下之比。將佐等退出。闈司昇自西階付內侍。內侍二人。一人取左近簡。一人右近簡。就御帳束。簡頭懸於東置物机。令御覽之。殘四枚不奏之。次供御酒。二獻。給臣下。次闈司取內案杖就版奏。勅答。將來。闈司昇自南階。入自西階。奏天皇。天皇執之御覽間。闈司執空杖。立西廂西第三間。天覽畢。勅答。令申與。闈司揖退出。次掃部寮立案於版南。少納言入自同門。立案南奏。勅答。取禮。少納言立長樂門橋下〔主鈴〕北面。取印就案。少納言披文。主鈴捺印。々々退立。少納言倚〔西歟〕南向案印〔々〕。印捺ッ。勅答。給ヘ。少納言稱唯立本所。主鈴進就案疊文。少納言主鈴納印退。次掃部撤案。次開左掖門。次供御酒。三獻。給臣下。次左右近衞發亂聲。次遞奏音樂舞。次大臣就陣。外記獻見參。見畢奏聞如節會儀。大臣就陣。外記進見參等。大臣召少納言給見

參。召弁給目錄。大臣復座。少納言入自日華
門。立版巽召唱。公卿下殿列立。拜舞退出。
天皇入御。警蹕。
　無御出儀。
以藏人被仰上卿。其詞曰。無御出。依例行。
上卿承仰。着宜陽殿座。事訖就御所。奏見
參目錄。返給。
同日。主水司初供氷事。
同日。四府進檜扇事。
三日。左衞門壞堋事。
四日。廣瀨龍田祭事。
上卯日。大神祭事。若有三卯用中卯。以近衞府監爲使。
上巳日。山科祭事。
上申日。平野祭事。
以殿上五位爲使。御禊儀同御燈。但東庭敷葉
薦。立案二脚。其上置幣。每案二捧。早旦。主殿寮
供御湯。上卿奏宣命。次出御。御禊畢。兩段再
拜。次陪從發歌笛。次入御。上卿召使於小板
敷給宣命。上卿以下內侍參社頭。
同日。松尾祭事。
弁以下內侍參社頭。其冬弁不參。神祇官奉幣帛之。
同日。當麻祭事。
同日。杜本祭事。
上酉日。當宗祭事。
已上午日使立。朔日當日。(中脫歟)三月使立。
同日。梅宮祭事。
上卿以下內侍參社頭。內藏寮進請奏。
同日。中山祭事。
七日。擬階奏事。
上卿着陣。令藏人奏擬階奏候由。仰。無御出。
依例行略。
若當御物忌之時。籠文書奏文之次申其由。
八日。御灌佛事。
御裝束畢出御。次出居着座。次王卿取自布

施。置机着座。出御以前。藏人取御布施物。紙卄帖。盛折敷居高坏。內藏寮進之。立東廂南第二間。次侍臣置布施。次女房布施置南邊。次御導師弟子僧等着座。瀧口戸。次御導師唄散花畢。執御料金銅杓。入合五色水於中央大鉢。捧御杓。三度讚嘆。入水復座。次公卿灌佛。次侍臣。御導師每人讚嘆。藏人頭若五位藏人給布施物。僧綱白大褂。凡僧紅褂。導師咒願畢退出。次公卿出居等退下。次女房灌佛。下御簾。

定齋院御禊前駈事。十日以前。
大臣着。上卿着陣。令參議書奏聞。返給。次上卿參本院。定出車出馬事。

定藏人所前駈事。雜色二人。所衆四人。

行事藏人定可勞女騎殿上人事。廻文。

巳日。差定垣下事。

午日。齋王禊事。

早旦。覽肥牛事。齋王料關白進之。出車料山城近江進之。

御裝束畢出御。御直衣。次藏人頭候於簀子敷。次出納引關白家牛。次小舍人十人。布袴。引兩國牛。御覽畢遣本院。

覽所前駈事。
出御如初。次藏人頭候於簀子敷。次雜色以下跪於東庭。次頭仰云。東龍向介。次馬向介。次馬取天參鞚。三廻之後。仰可下之由。次雜色以下歸於藏人所。行事藏人分給帖紙。次參本院。

未日。警固事。
上卿付殿上弁若藏人。仰可警固之由。勅許之後。仰外記召內竪。上卿仰云。諸衞召。內竪稱唯出召之。諸衞將佐入自日華門。立出軒廊南。上卿北面仰云。跡乃任固女守利奉禮。諸衞稱唯退出。若及暗上卿問之。諸衞稱姓名。

同日。點女騎等馬事。

同日。松尾社司獻葵事。給祿。

中酉日。賀茂祭事。廢務。
早旦。主殿寮供御湯。召内藏寮使於上御壺。
〔於歟〕稱北部之前。内侍給宣命。件宣命内侍付内侍所。
覽所前駈事。其儀同禊日。麴塵袍。給青色帖插。
女使參入事。
典侍命婦藏人等。於朔平門外。付藏人奏事由。給祿。典侍白大褂。藏人執之。命婦藏人黃衾。出納執之。次近衞府使率舞人陪從等。發歌笛。參於射場殿。依召參御前。其儀如春日祭。給祿。紅打御衣。或不召之。
戌日。解陣事。
大略如警固。但諸衞將佐帶弓箭列立。上卿仰云。陣解介。諸衞稱唯退出。
中子日。吉田祭事。若有二子用下子。
早旦。供御湯。上卿以下内侍參社頭。
廿九日。國忌事。
五月
三日。六衞府獻菖蒲并花事。
早旦。六衞府舁菖蒲輿。立出紫宸殿前。去南階三許丈。頗東云。左近立之。南々北行立花十捧。件花盛少兗。作三足臺居之。其東去一許丈。左衞門立之。其南立花如上。其東去一許丈。左兵衞立之。西亦准之。名書奏之。挿杖之於輿北面。内侍所取奏文奏挿杖挿之覽之。留御所。臨晚内藏寮撤之。以其中荷立於朝餉西壺。藏人所雜色以下舁之。入自後涼殿馬道立之。五日晚頭亦撤之。
四日晚。主殿寮葺菖蒲殿舍事。
五日。圖書寮供菖蒲事。
書司女官。孫庇南第四間敷小筵二枚。其上立鷺足圓机各一脚。各居大花瓶。一日立菖蒲。臨晚撤之。
同日。絲所獻藥玉事。
藏人令持藥玉於絲所女官。結付於晝御座南北母屋柱。又結付於南殿帳南面柱。
同日。典藥寮獻菖蒲輿事。
二脚者。立於南廊壁下。二脚者。立於下侍西邊。
同日。内膳司供早瓜事。山城國御園進之。

内膳官人取之。入自殿上口。居之於御膳棚オモノダナ上。入於折櫃居土高坏。若實未成者。献花幷根。即遣内竪。送之於常住寺。

同日。内膳司供御節供事。

同日。内藏寮給酒肴於殿上男女房及藏人所事。

最勝講事。

前十四日。定僧名事。其儀同臨時祭舞人定。

當日早旦。御裝束畢。時刻公卿候殿上。奉仰。仰弁令打鐘。次出居着座。次王卿着座。次衆僧着座。次講讀師起座。就禮盤禮佛着座。次堂童子着座。次唄師發音。次堂童子分花筥。次散花師起座進佛前。次衆僧起座。散花畢收花筥。次散花師於本座申對揚。次藏人頭仰御願趣。次講師表白。此間威儀師就御經机。取經置講師花机上。次講師說經。次論議。次咒願三禮。次行香。如常。次衆僧退下。次公卿出居退下。次奉仰打夕座鐘。次出居公卿等着座。次衆僧着座。講說論議如朝座。至于第五日。立机一脚於佛前。置佛布施。朝座畢打夕座鐘。出居公卿僧等着座。法用之後。近衞次將就講師高座。仰賜度者之由。講論畢行香。次賜祿。次衆僧退下。於射場殿邊給布施。次公卿出居等退下。

六月

一日。内膳司供忌火御飯事。

早旦。藏人上晝御座南第三間御格子。殿上四位一人。上古布袴。近代束帶。藏人一人。舁御臺盤一脚。不警蹕。立出大床子東。其上居小土坏一口。置木御箸一雙。次供御四種。土器。次供御飯。盛中坑。次供御汁。蚫羹。盛中坑。次供御菜。干鯛。薄蚫。鯵。鮨。已上盛小土器。藏人付女房奏供畢由。主上出御。其道如常。三箸嘗給。御飯了。立箸於飯上。入御。陪膳召藏人。稱唯撤御膳如供時。觸穢時猶供之。

同日。造酒司始供醴酒事。至七月卅日。但御物忌時不供。

同日。神祇官始献御贖物事。至八日。

神祇官令御巫子奉御贖物四折敷。藏人差脂燭相從。釆帶。女房取献之。宸儀毎折敷放入口氣給三度。但御巫者以御指刿破其上紙。放口氣返給。至于八日。給祿於御巫。疋絹。

觸穢時猶供之。但神祇官人不入陣。御物忌之時。雖外宿供之。

十日。奏御體御卜事。

上卿着陣。神祇官人奏案。上卿起座進御前。付藏人奏聞。留御所。

禁中有穢時。立案於左衛門陣外。外記申事由。上卿令藏人奏其由之後。令外記付内侍所。御物忌時。亦奏聞付内侍所。今日以前。無封戸奏。十二月同之。

十一日。月次祭事。

早旦。主殿寮供御湯。上卿以下就神祇官行之。

同夜。神今食事。

十二日曉。大殿祭事。

同日早旦。供解齋御粥事。

已上見新嘗祭所。

施米事。侍從行之。

大臣着陣。付殿上弁若藏人奏勘文。覽畢返給。

晦日。大祓事。

上卿以下着朱雀門行之。

同日。神祇官供御贖物事。

同夜。神祇官供荒世和世御贖物事。東庇北第二間。

御裝束畢。節折藏人着座。次中臣宮主璩酉文人着座。次出御。御直衣。自此以後供御手水。次縫殿寮官人舁荒世和世御服參入。置於簀上。女官傳取。授於中臣女供之。謂節折也。天皇加氣息返給。次中臣官人奉御麻。天皇取之。摩御體返給。次文人進劍。加氣息返給。次神祇官及荒世和世

宮主等進。置竹夜於庭中簀上。中臣官人卜部等解之。先以竹一筋授於中臣女。中臣女取之參入。　天皇起立。與中臣女量御體給。自御頂至御足量之。是量御身長也。取其程授中臣。次中臣又進竹二筋。中臣女傳取。自御兩肩至御足量之。給中臣。又進竹二筋。先以一筋。自御胸中至左手指末量之。又以一筋。自御胸中至右手指末量之。給中臣。次進竹二筋。自左右腰至御足量之。給中臣。每度授中臣。中臣授宮主。宮主折棄其餘。次卜部捧壺。授中臣官人。官人付中臣女供之。件壺中入鐵人形二枚。黃皮人形二枚。以紙裹其上。結其上。　天皇放口氣於壺中三度。了中臣女返授中臣。中臣授宮主。宮主密祝畢。次進和世如荒世儀。事訖相率退出。臨河解除。

其後節折於臺盤所方給祿。單御衣。

雨儀。東庇南第一間。觸穢時猶供奉。御物忌時。供奉官人節折等籠候。

七月

四日。廣瀨瀧田祭事。

七日。曝御物事。

同日。內膳司供御節供事。

同日。內藏寮賜酒肴於殿上男女房幷藏人所事。

同夕。乞巧奠事。

掃部寮鋪長筵於東庭。當南第三間。內藏寮立朱漆机四脚。東南机居菓子酒肴。東北机如此。西南机居火爐幷花。西北机如此。次藏人取箏御琴置西机。次插金銀針各一枚〔マヽ〕於楸葉。置西南西北机。件針有七孔。以五色絲貫之。次立燈臺九本。東西各三本。南北各一本。中央一本也。次召內侍所粉。散机幷筵上。

雨儀。奠仁壽殿西砌。觸穢時猶奠。

八日。文殊會事。

十四日。御灸事。

早旦。供御湯。御裝束畢。雜色以下舁長櫃立筵上。一寺四合。次侍臣以下取灸。居長櫃蓋上。次

御拜。三度。若被奉二寺者六度。其後撤之送其寺。
若當神事者。自內藏寮送本寺。若內藏寮有
觸穢時。於他所可弁備。
相撲。
召仰事。
上卿奉仰。令鋪膝突二枚。仰外記令召左右近
衞次將。次將着座。上卿仰云。其日左右相撲
乃召合可聞食ス。其年乃跡爾依候ヘ。次將稱唯
退出。次各始內取事。
內取事。
時刻出御。御直衣。次左相撲等參上。本府官人捧
交名前行。府下部舁水桶相從。次召大將。次將傳。
次大將經簀子敷着圓座。或自南妻昇。次次將奉手番
文。大將捧文刺。衞府督公卿〻、之。次將執手授之。非參議自執參上。次相撲人等鴈行
於御前。立定之後。大將仰云、東向介。次仰云。
北向介。次仰云。罷入禮。次相撲人等着本座。
次相撲。左始自下。右始自上。大將以爪注勝者。

前一日夜。相撲人等撰吉方。籠宿於可然所。
召合事。
早旦。相撲人等撰吉時。入相撲屋。有返閇。
次式(或職)右近衞府進擬近奏。覽畢。年號與吉開字
返給。次可召侍從由。被仰上卿。
時刻御南殿。內侍二人取劍璽。命婦藏人各扈從。尋常唐衣薄色裳。經御帳東。
着御大床子上。內侍置劍璽於大床子東頭。內侍臨東檻。次大
臣大將先昇。若無大臣大將者出居次將先參上。次王卿着座。次出
居次將率侍從着座。次酒番侍從着座。次大將
降殿取奏。參上跪御簾下。付內侍着本座。次
召左大將。出御後給右奏改番。次內侍進東簾
下。召公卿。次上卿起座。着簀子敷座。次左近
將監取版位。次左右相撲長各二人執圓座。置
於幕前壇下。次左右將着床子。次左右立合進
立。次左右籌刺者着座。次相撲。一番左先出。各執劍衣出。置圓座上。一二三番間。內豎羞王卿及出居饌。大臣、次將、次
次將勸盃。次供御膳。藏人頭爲陪膳。內膳供大床子上、御厨子所御膳供平敷御座。

次五位藏人取關白料衡重。十七番畢。勝方奏亂聲。次奏舞。(左拔頭。右納蘇利。右勝時納蘇利先奏。)

御覽。

天皇御南殿。内侍臨檻。出居以上大臣。依召候簀子敷。次左右相撲長各一人。取圓座出。置北第一間壇上。次出居次將着座。次左相撲人進。列立庭中。北向而立。上卿候氣色。仰云。南へ向ケ。次仰云。西向介。次仰云。罷入禮。次相撲歸入。次右相撲如此。(但東向介。)次相撲人等歸入。次上卿奉仰。遙向左右屋。仰出居次將。某進禮。次仰右。次二三番。次上卿仰云。白丁進禮。左右進追。相撲十四番畢。上卿仰云。陣直進禮。次左右進。追相撲寂手。次出居退入。次上卿復本座。次左右亂聲遞奏樂。臨晩者王卿移候南檻。殿上將佐以酒熟瓜等〔マヽ〕賜王卿。(出自母屋簾下。)左舞最末□〔右歟〕舞還城樂。次右進狗。次散更。右吉干。舞畢還御。

八月

上丁。釋奠事。

明日。大學寮献昨日胙事。(已上見二月。)

同日。内論議事。

五日。北野祭事。

早旦。主殿寮供御湯。

七日。牽甲斐國眞衣野相前勅旨神馬事。(廿疋。)

若逗留者。左馬寮進逗留解文。留御前。

十一日。定考事。

上卿以下就官廳行之。

十三日。牽武藏秩父御馬事。(廿疋。)

十五日。石淸水放生會事。

當日早旦。主殿寮供御湯。次上卿奏宣命。覽畢返給。(御直衣。供御手水。)上卿着陣。召内藏寮使賜之。發遣之。

十六日。牽信濃勅旨諸牧御馬事。(六十疋。)

上卿着左衞門陣。三献之後。上卿着御所奏解

文。覽畢返給。引分被仰。上卿以下着大庭。取御馬。上卿以下就射場殿奏慶由。次將歸仰聞食之由。上卿以下各拜舞退出。

十七日。牽甲斐穗坂御馬事。廿疋。

廿日。牽武藏小野御馬事。卅疋。

廿三日。牽信濃望月御馬事。廿疋。

廿五日。國忌事。

廿八日。牽上野勅旨御馬事。五十疋。

季御讀經事。

臨時仁王會事。

大極殿。講師百人。先請僧綱。次散位。次已講。次東大寺。延曆寺。園城寺。法成寺。圓宗寺。法成寺。興福寺講師一人。

南殿。講師。讀師。呪願。三禮。唄。散花。

清涼殿。同上。

諸院宮。各三僧。

諸社。

大屋寺　石清水　感神院　北野講師以上一人。

賀茂上下　松尾　平野　稻荷以上神宮寺各三僧。

九月

一日。差定地黃煎使事。

同日。奏可釀新嘗會白黑二酒文事。若當子日。或二日卜之。

宮內省付內侍所奏聞。覽畢返給。內侍召殿上弁下之。

三日。御燈事。廢務。同三月儀。

五日。不堪佃申文事。大臣着陣。覽奏文畢退居。

七日。不堪佃奏事。

大臣着陣見文。令殿上弁奏々由。弁參於朝餉方申云。某乃大臣奏候。退候於殿上。召藏人被仰曰。宜奏御裝束。藏人奉仰。御裝束畢。主上出御。御直衣。次令藏人召奏申弁。弁參候年中行事御障子北邊。　主上日給不。弁稱唯歸着陣。召大臣。大臣起座渡階下。立軒廊西二間。史跪其南邊。捧文杖。大臣搢笏取奏杖。昇自右青璅門。經年中行事障子南邊。自御障子

東跪北邊（一本）揖候。宸儀目給不。大臣稱唯進。
自孫廂當御前間。跪於長押下。膝行奉奏文。
主上執之置給前。膝行退下。左廻着圓座。
其後　主上解結緒。懸紙解中結緒。押寄文
於懸筥右邊。一々覽畢給於懸紙左邊。如元結
之。以懸筥裹之。結其上。片結。置給於御座東
緒。但以下り當東置之。大臣揖。置杖於右方起座。就長押
下。膝行昇。給文。膝行退（一本）。左廻就圓座。置文
於座前。解結緒。押遣於懸筥右。取文領左開
文。見畢押合當前。又開結申。　主上目給不。
大臣稱唯卷文。置於懸筥左邊。一々結申裹結
文。取杖加文上起座。經御障子西退下。次入
御。次大臣着陣。史挿文於杖相從。大弁着陣。
史着膝突奉奏文。大臣取之。置前開文。給懸
筥於史。史給之置前。大臣給文。史給之。開目
錄候氣色。大臣仰奏報。史退出。
後朝。書奏報付藏人。藏人奏之。

九日。平座事。
王卿着陣。令藏人奏可給侍從菊酒由。仰。依
例行へ。
同日。書司獻菊花事。
早旦。書司女官立鷺足圓机二脚於御座間孫
廂。各其下敷小筵。其上居大花瓶各一口。差菊花。以綿掩花
上。臨昏撤之。
同日。典藥寮獻茱萸事。
早旦。藏人撤晝御座間母屋南北柱藥玉。結付
其跡。次到南殿。撤御帳南面柱藥玉。同結付
其跡。
同日。內膳司供御節供事。
十一日。奉幣伊勢大神宮事。
當日。遣內侍於八省。令裹御幣。次主殿寮供
御湯。次御南殿。無文御冠。帛御裝束。無文玉純方御帶。白挿鞋。內侍二人
執劔璽。直衣裝束。先是掃部一官（々歟）舁契櫃。置西第二
間簀子。次出御□帳前。次右近次將經階下日

華門。次左右近引陣。次王卿立於前庭。次少納言進。立於長樂門前。次左右近將監昇自西階。昇契櫃授番長。次掃部寮敷筵於額間簀子。次寄御輿。（葱花。東向。）次主殿寮撤軿。次　宸儀乘御輿。（置劒璽如常。）次開承明門。出御入自昭慶門。於小安殿壇下々御。〔北歟〕北闈閇昭慶門。近衞次將取劒璽。授內侍如常。　主上入自北戶御馬道以東御所。　次主水司供御手水。　次上卿奏宣命。次藏人頭獻御笏。　次出自中隔御屛風。着御々拜座。（巽面。）次御拜。（兩段再拜。）次召舍人。（二聲。）大舍人四人。於東南幔外稱唯。少納言相代跪版。　勅曰。　中臣忌部召セ。　少納言稱唯退出。次中臣忌部後取（用卜部。）三人。參入立版。　勅曰。忌部參來。忌部稱唯。經中臣前。昇自東第二間石階。膝行拍手取外宮幣。（件幣在外。）歸下自石階授後取。後取進立於階下取之。歸復本列。忌部又進。膝行拍手取內宮幣。退下立於版。次勅云。中臣參來。中臣稱唯。昇自同階。膝行候於東第一間西柱下。　勅曰。如常久能久申天奉禮。中臣稱唯退下。次第退出。（奉入時先中臣。次忌部。次後取。退出時先忌部。次後取。次中臣也。）　次入御。此間上卿着東福門座。召使王給宣命。次還御。（使出待賢門之後。寄御輿於壇上。近代壇下。）神祇官奉大殿祭。（〔マヽ〕小安殿者行幸以前。本投〔マヽ〕者還御以前。）

廿九日。國忌事。（〔後脫〕醍醐天皇。）

十月

一日。供掃部寮冬御座事。

同日。旬事。（見四月。）

同日。兵庫寮始發鼓吹聲事。

同日。主殿寮進御殿及殿上炭事。（至于明年三月晦日。）

亥日。內膳司供餅事。

二日。奏可供新嘗祭定田稻粟御卜事。

神祇官付內侍。覽畢返給。內侍下殿上弁。

三日。左衞門府築堋事。

五日。射場始事。

御裝束畢。御射場殿。近衛次將取御座劔行。次出居着座。次出御。經御障子北着御。出居稱警蹕。次次將召右近將監名。二聲。稱唯後。次將仰云。的懸介。午居仰之。次將監懸的。次次將喚王卿。依御氣色。王卿着座。次置御射席。次矢取內豎着座。渡御前。次次將仰云。的替與。次能射。公卿侍臣中四人許。次上卿召所掌。殿上將佐。若五位藏人。所掌入硯等於柳筥。置弓於筒上。右廻居上卿前。上卿令藏人奏度數幷募物事。次仰所掌。令書度數募物射手念人等。次所掌進御前。經叡覽。次右廻到於本所。次召射手。其詞曰。前後某々。次仰云。裝。次讀度數募物等。次唱前後念人。次所掌取副弓筒。射場殿東砌着圓座。次藏人二人舁射分机。置於殿巽角。次懸物懸於同柱南面。次懸后宮所獻之懸物。女裝束。次射手進至於射場殿。一度射之間。給饌於王卿。藏人頭勸盃。次供御饌。次三度畢。的付退出。次勝方拜。射場東庭。次入御。

十日。興福寺維摩會始事。七ヶ日。

廿二日。始大歌所事。

十一月

一日。供忌火御飯事。

同日。神祇官始供御贖物事。

同日。奏御曆事。

上卿着陣。外記申御曆候由。次上卿付藏人。奏御曆候由。仰。不御出。付內侍所。上卿召外記仰此由。

上巳日。山科祭事。見四月。

上申日。平野祭事。見四月。

同日。春日祭事。未日使立。見二月。

同日。杜本祭事。午日使立。

同日。當麻祭事。午日使立。

上酉日。梅宮祭事。

同日。率川祭事。

同日。當宗祭事。朔日當酉日時。可用中酉。見應和元年十月廿八日御記。

同日。松尾祭事。不載儀式。

同日。中山祭事。庁冷泉院内。

中子日。大原野祭事。

中丑日。園并韓神祭事。用新嘗會前丑。

定可献五節舞姫人々事。

其儀。出御晝御座。御直衣。藏人頭參進書定文。同定臨時祭使以下。書畢奏覽。御覽畢返給。藏人頭下於行事藏人。次舞妓献請奏。五通。次舞師請奏。大歌。大歌所献請奏。十二通。

中丑日。帳臺試事。

五節舞姫參於朔平門外。殿上侍臣相迎引導。參集之後。渡御常寧殿。御直衣。御指貫。紅出袿。淩履。殿上侍臣差脂燭。近習公卿等扈從御後。次舞姫等參入。次藏人頭懸戸匙。次大歌小歌發聲。舞畢還御。

同日。卜小忌納言參議少納言事。

中寅日。卜殿上侍臣事。

藏人御少納言。殿上侍臣交名送神祇官。卜合不。但藏人頭。可奉仕理髮之人。可奉仕御湯殿之人。御厨子所別當不卜之。

同夜。鎭魂事。

上卿以下着宮内省廳行之。内侍率女藏人御匣殿藏人女嬬洗人御巫猿女等。令持御衣入衣莒。參入。

同夜。御前試事。

御裝束畢出御。御直衣。次舞姫等參着御屏風中座。次主殿寮立東庭供炬火。次大歌着座。次藏人所明酒肴。次殿上侍臣勸盃。次大歌發歌笛。舞姫舞畢後御笛。大歌稱姫名退出。次舞姫退下。

御物忌時。大歌人候於壁外。不返御歌。不問名謁。

卯日早旦。令卜女房事。無行幸時者不卜之。

主殿寮供御湯事。其儀如常。稱大忌御湯歟。

同日。御覽童女事。

御裝束畢出御。用大床子上圓座第三間簾下。近習公卿候廣庇。次童女參進。次下仕參進。依御置扇〔脫字歟〕於各退下。

同日。新嘗祭事。（內膳司着中院廟殿。弁備神饌。）

中院行幸事。

大忌王卿着幄。小忌王卿着當色着陣。入夜殿司炷替忌火御燈。（此後不合卜之人不昇殿。）主殿寮備御輿。出日華門。次昇立契櫃於南殿西第二間簀子。戊刻　天皇御南殿。內侍執劔璽相從。命婦藏人各二人相從。（尋常唐衣。叢濃裳。）次出御於御帳前。（內侍在左右。）次右近次將向日華門。次小忌王卿列立於南庭。次左右引陣。次少納言立於長樂門橋前。次左右近將監昇契櫃。次掃部寮敷小筵。次寄御輿。次主殿撤御輿帊。次乘御。（置劔璽如常。）王卿前行。女房下自西階扈從。殿上侍臣在其後。經月華門入御自中和門。左右近衞開門。大忌王卿立於幕北。小忌王卿列立於西炬火屋北。寄御輿於神嘉殿南階下。次降御。入自南庇西戶母屋南面戶。御於西隔寢所。次近衞陣階下。（左西。右東。）次小忌王卿着座。次近衞開門。次主殿寮供御湯。女官取下湯。次張蓋。次取御湯。（主殿官人讀歟。入手□一口。三度。）次取蓋。次御湯殿人（四位五位中一人。六位一人。用由歟卿後。）以右手攪合。次奏御湯取畢由。次縫殿寮供天羽衣。次下御。（并着御替下御。）次捫御背。次上御。次奉御明衣。（以綃本御明衣於布中。）次供御唐匣御泔坏御裝束等。（理髮人取之。入自殿西北戶供之。件御裝束生絹也。縫司人御前道之。又縫殿寮入御前近代命婦御袍中臂下襲。）次內藏寮供御帷。（入御帳居土高坏。）主上取之。（理髮）引廻於御巾子。結於其後。（件結。）次供御手水。（理髮人供之。）次開門。次大舍人叩門。次闈司奏。（無勅答。）次近仗陣階下。次上卿以下供神座。（左右將裝束。）次掃部寮官人二人入自南戶。取御座置殿內。（以北置南。）次掃部官人先以六尺帖四枚。敷於殿中央。（南北妻二行並鋪之。但南二枚有緋裏。）次以一丈二尺帖二枚。重鋪於

其上。二行並之。有裏。　次以九尺帖四枚。重敷於其上中央。上二枚有裏。下二枚無裏。以上帖十枚者短帖也。短帖者席一枚。薦一枚也。以其上中央敷八重帖一枚。八重帖者席一枚。薦七枚白布爲緣。也。　次供坂枕。挿於八重帖南端下也。　次供几。入柳筥。件几者置於八重帖。東一行置之。次鋪短帖於神座東。頃巽向。　次鋪半帖於其北。上イ　件半帖豫設於東戸外。　次閇神殿戸。次內侍率縫司。入自殿北戸。供寢具。件御衾入韓櫃。候於北戸外。臨時同蓋取出。開置於神座上。　次采女付內侍奏時。亥一。　次開中戸。執柄人開之。有故障之時。內侍開之。

次　宸儀執御笏入御。次閇中戸。經神座北。着御東半帖。東面小巽。次供神膳。次八人采女并高橋等。捧神食薦。更北行向南列候。次陪膳采女第一也。取神食薦。鋪於短帖上。東西妻短帖南端敷之。　留候於戸內。邊イ東。　次後取謂第二采女也。取御食薦。傳授於陪膳。出イ陪膳取之。敷於短帖上。南北妻短帖西端敷之。　次采女取於御箸筥授陪膳。陪膳取之。居於御食薦上西方南第一。次采女取葉盤筥授陪膳。〔ママ〕取之居於御箸筥北。次取御飯筥。置之於御食薦上西方南第一。次取鮮物筥。置之於御筥之北。次取干物筥。置之於鮮物筥之北。次取菓子筥。置之於干物筥之北。次取和布羹坏。置之於平手筥之北。次取鮑羹坏。置之於和布坏之北。次采女等右廻歸。列居於戸外。次陪膳始自御汁物。及于御箸筥。一々解木綿開蓋。件蓋者置於御食薦之北之八重帖上。汁物高器北。皆重置之。汁物器蓋相同重之。　次陪膳取御箸。立於御飯并鮮物干物菓子汁物和布羹。之上。次陪膳以兩手。取平手一枚奉之。　天皇以左手受之。以右手取箸盛飯。三箸畢給陪膳。陪膳取之。置於神食薦上。二行。自東置之。先北。次南。　次陪膳亦取平手奉之。但第二度以後。陪膳以左手受　天皇所給之平手。以右手奉。如此十度。毎度三箸。御飯置之。二重置之。但御飯今度五度。　次陪膳又奉平手。　宸儀取之。取生物上所立之箸盛鮮物。毎種各三箸。　次取干物上所立之箸。各盛加給如初。〔了〕可給陪膳。陪膳取之。毎度取汁物器所立箸。次加盛汁物。先汁物。次盛加生汁。　重

置於神食薦上。御飯葉盤如初。惣十度。神今食五度。次陪膳又奉平手。　宸儀取之。取菓子莒上所立箸盛菓子。有物三箸盛之如初。凡十二度。神今食六度。陪膳取之。直置神食薦上。御菜平手如初。但六度葉盤。第十二度葉盤者中央。次陪膳目第二姫。令供酒。第二姫執瓶子來。授陪膳。陪膳執本柏。盛御酒奉之。　宸儀取之。灑於神食上。其本柏者。使置於神食薦上。惣四度。度別易瓶。自二度。神今食二度。次第二姫取御粥坏參入。授陪膳。米也。陪膳取之。置神食薦上所置之葉盤東邊。次亦御粥坏授陪膳。陪膳取之。並當於先粥南邊。次陪膳取先所立之御飯莒以下之五箸。收之於本莒。次又取所殘之箸一。立於小雀手御飯之上。　宸儀拍手。唯執件箸背給二箸。飯汁不嘗御。次采女日第二嬪。第二姫於戶外取陶器。入御酒參入。授陪膳。陪膳取之奉之。　天皇度別拍手。唯頓位頭飲御。惣八度。神今食自四度。黒四度。次陪膳取先所開置

之蓋。各如本掩給如初。自平手至御粥。一々授後取。後取手轉如初。授於次々采女。次陪膳取御食薦。授於後取。次又陪膳取神食薦。推捲左右端。捧持退出如供儀。陪膳欲取神食薦之間。私祈曰。先可挾給之物乎。後爾挾給比。及諸乃穀有トモ。神直保比大直保比爾受給へ。次二姫供御手水如初儀。此間采々等待御手水。畢北向而候。次采女退出如初儀。次　主上起座。右廻歸於寢所給。次到丑一刻。采女奏時。其儀同夕。次供御手水如夕。次入御於神殿。次采女供御手水。次供神膳。其儀同夕。畢還御於寢所。次采女進於南戶下申云。采女參入時。藏人頭開戶。采女水取夕曉乃神乃御膳無事久無故久供奉ト申。新儀式無無事字。又無無事無故之字云々　勅答云。好。采女稱唯。還御。無行幸時。采女於朝餉西緣奏之。宸儀可着直衣給。次內侍率縫司撤寢具。次改着御衣帛。次闈司就版奏。次開門。次王卿參入。撤神座。次寄御輿。其儀如初。壇下。

出御自中和門之間。大忌王卿立幄前。左次將問曰。誰曾。暫可停御輿乎。王卿各稱名。經本路至南殿。左右近衛終夜神樂。猶副御輿。不休唱神樂歌。千歲千歲歌。留於月華門。倚御輿於南殿。小忌王卿列立於庭前如初。下御之後。左次將問曰。誰曾。小忌王卿稱名。次入御。內侍取劔璽。候前後如常。

同曉。還御以前。大殿祭事。雖無行幸猶祭之。

同日平旦。主殿寮供解齋御手水事。雖無行幸猶供之。

主殿女孺二人入自御湯殿戶。御盥。大床子南頭立白木小机一脚。其上置白木手洗一口。無手。其南立白木二階机一脚。其上居敷調布。置御巾。入黑葛筥。粉一坏。盛小土器。其上居蘭履一足。無裏皮。其南立白木八足机一脚。其上居缶一口。盛御手水。杓一柄。　主上着御大床子。御直衣。女房二人着[illegible]了。供之。御盥畢。着蘭履三步。畢脫之。先右。次左。次右。

次主水司供解齋御粥事。

其儀。先上書御座南第三間格子。有行幸時及午日時。不下格子。仍皆上之。次采女二人自御膳宿。舁御臺盤一脚。立鬼間格子西如例。次居馬頭盤。有御箸一雙。近代用土器。可尋。次四位一人。六位藏人一人相共舁之。立於大床子前。件役近代束帶。上古或布袴云々。有行幸時。侍臣脫小忌供奉之。近代例也。可尋之。次藏人供御粥一坏。盛土器。是堅粥也。居於御臺盤西端。頗北寄。御汁物一坏。藏人付女房。令奏供畢由。　主上自御帳後着御大床子。三箸嘗之。畢立御箸於粥。入御。陪膳撤如常。但不仰撤。

同日。宴會事。

其儀同元日節會。三献後大歌別當下。下自東階。出自軒廊二間。出自承明門東扉。於壇上仰左兵衛。令召歌人。此間左兵衛獻盃。而大歌先是候永安門西。聽發聲。大歌人曳鼓鉦。列立承明門內壇下。掃部寮立床子於承明門內壇下。別當及歌人進着門內床子。別當床子在舞臺巽。大歌發物聲。內弁奏可召別當由。起座奏之。歌節一曲畢後召之。勅許後。召參議仰之。參議起座。稱唯立於大臣後去七尺。奉仰左廻。出南檻召之。畢。左廻。右廻。或下自東階。令近衛官人告其由。別當參上。如出儀。

次掃部移床子於舞臺東頭。寬弘抄北頭。歌人進着床子。發歌笛以下小忌臺盤。〔此間恐有脫文〕作臺盤本自在東第三間。令內竪下之於第二間。

次舞姬出。出自北障子西戶經母屋西一間進於南廂。先是舞妓各候御後。髮上一人各相副殿司。女官四人添於南廂柱南邊。捧大脂燭。舞妓舞。上萬二人在南廂額間。下萬二人在左右間。青摺唐衣白染裳。

舞畢退出。大歌退出。次掃部撤床子。次王卿下堂拜舞。西面北上。異位重行。謝之樂拜。諸仗起。王卿着堂上。諸仗居。內弁下堂着陣。見々參。大臣以下散位以上一通。仔因一通。卷重於散位中。左近衛陣進之。祿法一通內記退。[illegible]宣命以上插一枚。外記以祿法宣命橫插之。立案於舞臺左右。大藏積祿。弁奏目錄。內弁奏見參目錄。覽畢返內弁給之。返杖於外記。參上着座。召參議一人給之。宣命使右廻復座。見參人左廻下殿。斜行着祿所。次見參弁下。內弁以下下殿列立。北上西面。異位重行。諸使立。宣命使着版。宣制一段。群臣拜舞。宣命使昇堂。王卿復座。諸使居。式部輔召唱。王卿下取祿。天皇入御。近代不待王卿下殿入御。仍在座大將警蹕。

中巳日。給女王祿事。

同日。東宮鎭魂事。

中申日。吉田祭事。

同日。日吉祭事。

下酉日。賀茂臨時祭事。

其儀同石淸水臨時祭。但儲御座於孫廂第三間。立案二脚。置幣六捧。事訖差遣垣下於社頭。四位五位各四人。

御神樂事。

社頭事畢。使以下歸參。次出御。御直衣。紅打御袙。御插鞋。次召公卿。次侍臣着座。次　主上召人。藏人頭稱唯進。行於年中行事御障子北頭。奉仰出自瀧口戶。召使以下。次使舞人陪從着座。次藏人頭以下相分勸盃。人長執榊木。進於南東頭候。法(マヽ)畢各乃試才。次人長仰御笛可奉仕由。次使以下進着本座。次召人着座。次牙(マヽ)歌遊。次至韓神人長起舞。次人長起。才乃男召須。次大左爲波利。次小左爲波利。次星。次朝倉。召人不歌之。次其駒。人長起舞。此間內藏官人執疋絹。

插於人長腰。次給祿於使以下。白褂。殿上侍臣執之。次使以下退出。次入御。次王卿退下。

十二月

一日。供忌火御飯事。

同日、神祇官始供御贖物事。

上卯日。大神祭事。寅日使立。若有三卯者用中卯。

三日。國忌事。

陰陽寮進明年御忌勘文事。

十日。奉御體御卜事。

十一日。月次祭事。

同夜。神今食事。

十二日曉。大殿祭事。

同日。供解齋御手水幷御粥事。

十三日。定元日擬侍從幷荷前使事。

大臣着陣。令參議書定文。奏覽返給。

荷前事。

前一日。行〔事歟〕幸藏人內侍着縫殿寮裹幣。

當日上卿下着陣。奏參集由。仰。無御出シ。依例行ヘ。

下午日。御髮上事。用立春以前。

當日夕。行事藏人給御髮等。入衣莒掩絹。以綱結其上。置八足机。令舁內藏官人四人。向主殿寮。典侍奉女藏人供奉。到寮堀坑燒之。

內侍所御神樂事。

主殿寮供御湯。亥刻供神膳。典侍一人。掌侍一人參溫明殿。大膳職供御膳。高坏六本。次內藏寮供神膳物。折櫃廿合。次納殿奉色紙御幣四帖。自臺盤所被奉上番御幣一帖。內藏寮奉御幣絹二疋。同刻 宸儀渡御。位已入御於溫明殿之後。藏人頭獻御笏。宸儀取之。入自御屛風南妻。着御於御拜座。此間近衞次將執御劒。候於御屛風外。宸儀兩段再拜。此間女史進。鳴御厨子鈴。三聲。申祝詞。次 宸儀出自御屛風。着御於第三間圓座。次近衞次將授御劒於內侍退下。次殿上侍

臣着座。次召人着座。次御神樂。（同臨時祭。）

十九日。御佛名事。

前一日。藏人頭奉仰。定御導師次第僧。其儀同定最勝講僧名。定畢給內藏寮。令成請書。以校書殿衆爲使催之。亥刻藏人頭奉仰。差遣藏人。仰御導師。藏人出射場殿。仰圖書寮。令打鐘。次出居次將着座。次王卿參上。出居問曰。誰ソ。各跪稱名。若有後參上卿者。每度問之。次僧侶參上。此間近衛申時。次御導師着禮盤。次堂童子着座。次御導師當願衆生。次堂童子授花筥。次散花畢。堂童子收花筥。次〔マヽ〕御童子唱佛名。次居火桶〔櫃歟〕。次御導師復座。次半夜。御導師着禮盤唱佛名。次後夜。御導師着禮盤唱佛名。畢錫杖。次僧侶退出。次名謁。近衛次將候侍臣座。問曰。誰々加侍留。王卿侍臣。藏人所衆。瀧口次第稱之。

第二夜。今夜。左近陣羞柏梨於王卿侍臣。

第三夜。錫杖後。五位藏人率六位藏人。受取內侍所出綿。被於御導師弟子僧等退出。結願畢行香。次給僧祿。次僧侶退下。次名謁。次侍臣取內藏寮酒肴著〔箸歟〕預卷賜王卿。次王卿退下。次出居退下。三間日間。供御膳於朝餉。

廿三日。國忌事。

土用初日。主水司撰御生氣方宮中若京中井。至于立春日供之。

晦日。藏人令書元日後取。押殿上北柱事。

同日。大祓事。

同日。神祇官進御贖事。（給祿。）

同日。荒世和世御裝束事。（同六月。）

同夜。竈御藥事。（生氣方。）

南。下侍。　西。後涼殿東面中央戶前。

東。仁壽殿西南渡殿。　北。黑戶上。

同夜。以屠蘇漬御井事。

同日。追儺事。

午刻藏人書分配。押於殿上小壁。内匠寮追儺木振鼓。儺木入折櫃居高坏。其上置振鼓。闈司付藏人。藏人取之。置於石灰壇上。件儺木振鼓。臨追儺剋。令給殿上男女房。木工寮進弓矢。女孺傳取。入自仙華門。置石灰壇上。左近進白木束。中務以分配文。付内侍奏之。亥一刻。王卿着長樂門東廊座。西上對座。上卿北面。衞府人帶弓箭。但大將撿非違使別當不帶胡籙。自今壺胡籙。中務省進諸門分配簡四枚。上卿見畢。授於次人。次第返下。自侍從座如本返上。上卿返給。次祿取簡一。長樂門前召五位以上。次史生召六位以下。次陰陽寮以桃枝弓葦矢分王卿以下。次近仗陣階下。兵衞陣承明門外。近衞開承明門。王卿起座。立於承明門興壇上。挿笏取弓矢。次闈司着座。陰陽寮於門壇上。付桃弓葦矢於闈司進。方相參上。立於版南三許丈。主殿八人執燭前行。振子八人在後。王卿率侍從大舍人等。列立於方相從。出承明門三許丈。兩儀立壇上。西上北面。寮率各部人。自月華門。奠祭讀呪文。方相揚聲。以戈擊楯三度。群臣相和呼追之。藏人下東廂御簾。方相經明義仙華門度東庭。出自瀧口戸向北陣。分配人々從方相度。　御前節折御裝束畢後。主殿寮打燈臺於前庭。南殿庭。御殿東庭。朔餉壺。臺盤所壺。殿上前。近衞司可監臨之。御殿所々立白木燈臺供燈。

右年中行事一卷者。借得賀茂社氏人保隆摸寫之。秘而不許他見者也。

明和二年四月上浣　内膳司高橋等庭

以宮内省圖書寮本加一校畢

續群書類從卷第二百五十

公事部三

口言部類

年中行事一　春上（稱口言部類中右記部類也）

正月上

元日節會（付小朝拜）　拜禮（已上有次第）

二宮大饗　臨時客（後宮攝關有次第）

叙位（有次第）　女叙位（有次第）

元日（付小朝拜所々拜禮節會）

康和三年正月一日壬戌。天陰。時々小雨。午剋參右大臣殿。（東三條東對。大后御也。）執柄之後。必可有拜禮。依庭濕。於西透廊有拜禮。二位中納言。（經實。）中宮權大夫。（能實。）右兵衞督。（師頼。）右大弁。（宗忠。）大藏卿。（道良。已上一列。）殿上人頭弁重資以下十餘人。（一列。）諸大夫之一列之末。六位上官列立。（依廊中狹少也。）二拜。若大納言被參者。可有答拜由。雖有其儀。不被參入也。令渡南庭。右大臣殿出御從東門。奉公卿令參大殿給。（枇杷殿。）此間小雨。仍無拜禮。次令參院御所給。（鳥羽北殿。）内大臣以下列立中門前。天顏晴。仍有拜禮。先令院司國明朝臣奏事由。兩大臣以下公卿一列。殿上人顯季朝臣以下五十餘人一列。六位判官代藏人一列。拜舞之人々暫候殿上。次參内。此間及秉燭。有小朝拜。頭弁奏事由。當

御座間孫庇。供御殿油。(燈臺二本左右、後日民部卿被申云。小朝拜時。長押上可供之。)次節會始。右大臣着給陣奥座。(左大臣不被參。)頭弁來仰云。內辨。(右大臣內覽宣旨後初內弁。)移着端座。召官人。令置膝突。召官人。召大外記定俊。眞人參間。諸司具否之次。外任奏被尋。外記入莒進覽。召官人。召頭弁被奏之。次諸司奏事。取御氣色。頭弁歸來。返給件奏。令結申給。可候列由仰之。次諸司奏可付內侍所由宣下。次召官人。召外記。還給外任奏之。次諸司奏可付內侍所之由被仰下。此間天皇出御南殿。近仗引陣。出御警蹕。內辨着兀子。公卿着外弁。內侍出。內弁參上。不見其儀。外弁內大臣召外記。少外記廣俊參。(着淺履。奇恠也。)仰云。大舍人候哉。侍從列候哉。國栖候哉。式部彈正候哉。(式部彈正今日強不問歟。)外記每度申候之由。奉仰退歸開門。內弁召舍人。少納言實明代參入。此間外弁公卿列立。內大臣。民部卿。(俊。)權大納言。(家。)新大納言。(公。)權中納言。(經。)左衞門督。(雅。)右衞門督。(宗。)大宮權大夫。(季。)新中納言。(保。)右宰相中將。(仲。)右兵衞督。(師。)左宰相中將。(顯。)右大弁。(宗忠。)新宰相。(能。)新宰相中將。(忠。)大藏卿。(道。)謝座酒了。着殿上座。采女撤御大盤覆。供御膳。賜餛飩。御箸鳴。群臣箸下。供御飯。賜臣下。一献。二献。右大臣起座。着軒廊兀子。召外記令催國栖。令着本座給。(密々尋申云。國栖近代一献之後也。如何。右大臣殿示給云。自大殿下給笏呑。二献後也。仍所行也。)御酒勅使。(新宰相。)三献。(樂。)內弁着陣。御覽宣命。內弁奏宣命見參。宣命使右兵衞督。公卿列立。(東面。)宣制。先一拜。次舞踏。宣命使還登。入御。右大臣令稱警蹕給。公卿向西中門。取祿一拜。(經殿頭傳奉。)天皇還御。及亥時令退出(人々イ)

天仁二年正月一日丙午。或陰或晴。時飛雪。但不及庭濕。午時許參攝政殿。(東三條寢殿大北政所御也。東對一條殿御。夜前令渡給也。)未刻有拜禮。先殿下立給東對南階西頭。(黃孔雀縫。紫淡緒。)民部卿。(俊。)右大將。(家。)權大納言。(經。)右衞門督。(能。)源中納言。(國。)下官。治部卿。(基。)右宰相中

將。忠。別當。能。左大弁。重。已上一列。殿上人播磨守長
實朝臣以下十餘人。一列。地下右少弁資光在此列。諸大夫惟信朝
臣以下十人許。廿八。一列。大外記大夫史在此列。六位外記史再拜。了
殿下頗令揖讓給。昇從南階給。右少將宗能朝臣取御沓。民部
卿。左兵衞佐能明取沓。右大將。藏人少將忠宗取沓。已上二人昇從南階。權大納言以
下從中門廊被昇。或又徘徊中門邊。則殿下出御東御門。公
卿連車扈從。令參院御所給。西六條殿。則有拜禮。
內大臣。左衞門督。按察中納言。皇后宮權大夫。右宰相中將被參加。公卿一列。殿下以下。殿上
人一列。下五十人許。頭爲房朝臣以舞踏了。歸昇殿上。依召殿下令參御前給
不經幾程。人々參內。皇居大炊御門殿。此間及秉燭。左大
弁被聽內還昇。去年叙三位也。有小朝拜。殿下於弓場
殿。令頭爲房朝臣奏事由。有御出。御束帶。先供御裝束。中殿南面
庇西第二間立御倚子。供燈臺。如何。可立左右也。主殿寮立明南殿。庭イ
一列。殿上人。頭爲房。實隆。通季。忠通。已上四位。藏人。有成。藏人二
人。顯隆。忠宗。已上一列。舞踏了。諸卿內大臣以下着左近陣
座。頭爲房仰內大臣云。內弁。此次仰云。音樂并
國栖笛可停者。先例被停音樂時。今日被仰內弁云。村上。三條院。後冷泉院。後三條院御時。此月御

忌月也。被停音樂。如此。是又累代爲規也。內大臣移着端座。令敷膝突。召
大外記師遠。進外任奏。付頭爲房被奏之。次諸
司奏候之由被申歟。外任奏還給。仰云。令候列
與　諸司奏可付內侍所者。內弁被結。召大外記師遠。
還給外任奏之次。被仰下其由。諸卿民部卿以下
着靴。被着外弁。依座狹少。七人許也。六　右少弁實光。少納言
時俊。外記定政。史致遠同着之。民部卿以召使
被下式莒。召外記被問云。大舍人候哉。侍從列
候哉。國栖候哉。式部彈正候哉。今日强不問式部彈正歟。此間
近仗陣引。內弁內大臣着兀子。內侍出。內弁昇
開門。闈司分居。內弁召舍人。少納言時俊召外
弁。民部卿以下十四人列立。入從東中門。謝座着堂上
座。依無御出。垂母屋御簾。不供御膳。居昆屯。箸下。居飯汁。箸下。
一獻。國栖。不發笛聲。只奏風俗也。二獻。御酒敕使。左大弁。三獻。
內弁出仗座。被見宣命見參後。進弓場殿被奏
之。後歸昇。召左兵衞督能俊。給宣命。公卿列立
庭中。西面。異位重行。宣命使付版。宣制。一段再拜。一段拜舞。又　內弁

歸登。人々於東中門給祿。一拜。縫殿寮祿。退出。于時亥四點也。

大治二年正月一日辛卯、内會。朝間天陰。午後雲晴。午刻先參攝政殿。東三條。未時有拜禮。予。右兵衛督。伊。殿上人左中弁實光。右中弁師俊。地下。右中將重通。諸大夫。行盛朝臣以下廿人許。六位上官等二拜了。則殿下出御。令參三院御所給。三條烏丸第。入從西御門給間。諸卿列立西中門外。令院司伊與守基隆朝臣奏事由。敕許之後。入從西中門。列立南庭。攝政。左大臣。家、左大將。内大臣。有、右大將。藤大納言。經。下官。治部卿。能、民部卿。忠、已上大納言。源中納言。顯、左兵衛督。實。已上中納言。左宰相中將。宗、皇后宮權大夫。師、右中將。大貳。長、散位。左京大夫。經、同。左大弁。爲、右兵衛督。伊通、已上殿上人伊與守基隆朝臣已下五十人歟。五位在後列。東上。舞踏了出東中門。次新院拜禮。先令奏院司播磨守家保朝臣。敕許之後又列立。西上。舞踏了出西中門。次女院拜禮。又令家保朝臣申事由。列立。東上。舞踏如初。出從中門。人々被參新院殿上。臨申時皆參内。皇居土御門烏丸第。公卿座在右仗。人々暫被候殿上。御裝束間歟。頃而殿下令頭中將忠宗朝臣奏事由。敕許之後列立東庭。治部卿不被參。依所勞歟。殿上人頭中將。忠、頭弁。雅兼。藏人少將。教長、藏人。盛國、兩三人殿上人不然。如何。舞踏了着仗座。此間秉燭。右府申所勞由被退出。頭中將來。仰内大臣云。内弁。則移着端座。令置膝突。召大外記師遠。被問諸司具否幷外任奏諸司奏歟。外任奏師遠持參。内弁被披見。頭中將被奏之。次諸司奏不具由被奏歟。頭中將下給外任奏。仰云。令候列ヨ。諸司奏可付内侍所。外任奏不被結申。召大外記下給外任奏。仰云。令候列與。諸司奏令付内侍所與。外記稱唯退歸。主上渡御南殿。陣引。内府起座着靴。被着兀子。藤大納言以下着外座。少納言忠成。右少弁宗成。外記史等着床子。大納言召召使。令下式莒。召外記問云。大舍人候哉。侍從列

候哉。國栖候哉。新外記大江景傘。初度。早者參由稱唯。不知作法歟。令召留敎訓。開門。闈司分居。內弁召舍人。少納言參入。諸卿列立。內弁宣。群臣謝座酒了。着堂上座。采女撤御大盤覆。陪膳着座。內膳供御膳。諸卿起座。賜臣昆屯。內弁氣色。天皇御箸鳴。群臣箸下。供御飯。賜臣下。內弁氣色。天皇御箸鳴。臣下箸下。供三節。一獻供了。主上入御。群臣下箸起座。內大臣警蹕。內侍二人出來取劒璽。進御本殿。侍臣取指燭前行。次賜臣下。一獻。被催國栖。左大弁以下從催之。二獻。召參議右近中將師時。仰御酒敕使。三獻。被催樂。雅樂寮發春庭樂。進參舞。左右各二曲。萬歲樂。賀殿。地久。此間內弁向仗座。被見宣命。舞了奏長慶子。退出之後。內弁進射庭被奏。御覽了返給。內弁復座。召參議左中將宗輔給宣命。群臣下殿列立。西面。宣命使就版宣制。先二拜。次舞踏。宣命使復座。內大臣不被昇。直向中門取祿。一拜退出。縫殿頭家榮取之奉給。

內弁猶可被歸昇歟。于時戌四點。人々歸家。

私云。右卷裏書如此。仍今書寫之。

小朝拜

諸卿着靴。貫首人令藏人頭奏候之由。供御裝束。主上着御倚子之後。藏人頭來。仰聞食之由。諸卿入自仙華門。列立東庭。北上西面。公卿一列。殿上人一列。拜舞了歸出。

雨儀。公卿仁壽殿砌。殿上人南廊內。東上或西上。御物忌時。或止之或有之。依御卜之輕重也歟。

元日節會

上卿參仗座。藏人頭仰內弁由。一上參時不仰。次人參時可仰。移着端座。先召官人令敷膝突。召外記問諸司具否。外記進外任奏。入莒。付職事奏覽之。次諸司奏具由奏聞。氷様腹赤七曜御曆等奏之。返給外記奏之次仰云。候列與。此次仰云。諸司奏付內侍所與。內弁召外記。返給外任奏之次。諸司奏可付內所由

被仰之〔下イ〕。天皇御南殿。近仗陣引。天皇出御。近仗稱警。內辨着兀子。諸卿着靴。着外辨。
貫首人召々使。令下式筥。大臣不下。又召々使。仰云。外記召セ。外記參入。問云。大舍人ハ候哉。侍從列候哉。國栖ハ候哉。外記每度申候由。仰云。令候ヨ。
內侍召內辨。謝座昇開門。闈司分居〔近イ〕。內辨召舍人。少納言參入。內辨宣。大夫君達召セ。少納言進歸。諸卿列立。內辨宣。諸卿謝座謝酒。諸卿着堂上座。采女徹御大盤覆。陪膳采女着座。供御膳。內膳司供之。賜臣下。天皇御箸鳴。群臣箸下。一獻。賜臣下。國栖奏。二獻。御酒勅使。三獻。樂。左右各二曲。參入退出、有樂。內辨着陣。見宣命見參奏。了返給。內辨着本座。召參議給宣命。諸卿下殿列立。西面北上。異位重行。宣命使就版。宣制。群臣先再拜。次舞踏。宣命使復本座。諸卿昇向祿所。縫殿寮給祿。一拜退出。天皇還御。或先還御給。

无御出時。不供御膳。不取御氣色。仰御酒勅使。又宣命見參進射場。付職事奏。返給復座。
召參議給宣命如常。

二宮大饗中宮東宮御內裏時所被行也。或一宮時行之。

康和五年正月三日乙未。有中宮大饗。公卿參藤壺。先有拜禮。右大臣。內大臣以下公卿一列。西上北面。殿上人兩貫首以下一列。二拜了向玄輝門着靴。被着饗座。玄輝門西掖一間懸簾、爲內侍候所、其次至徽安門東、立大盤并兀子、床子、爲公卿坐。次四位殿上人廊南壁、引軟障供燈、北庇儲五位殿上座、幄南北行、其東立酒部所、幄北庭皆引廻幔、右大臣殿端座、內大臣奥座、以下人々左右相分着。一獻。權大納言家忠。權大夫能實。懸下襲尻於劔指笏、於徽安門前持盃、殿上人五位二人瓶子。內端座相分酌酒、唱半擬人。突左膝飲了起、又勸酒巡流至最末人。如節會內竪儀也、二獻。新大納言。左衛門督。居餛飩。殿上五位二人陪膳。地下五位益送。三獻。源中納言。左兵衛督。居饌汁物等。及深更被止。次盃酌。亮實朝臣付內侍候所簾前取祿進。公卿一々起座取之。一拜退出。今日止樂。依故陽明門院御忌月也。是中宮母儀也。

后宮臨時客

寬治八年正月二日。關白臨時客。了諸卿參中宮

御方。有臨時客。東廊東廂。初献如例。二献。權中納言基忠卿。瓶子藏人兵部大輔道輔。大納言拍子。催馬樂朗詠之後。已及音樂新曠關其曲。淵醉之甚。不勝歡樂也。漸及亥刻。事了退出。

大治六年正月三日辛寅。天晴。未時許。關白殿拜禮。人々參内。中宮御方有臨時客。御所女房打出。二色。南廂三間敷指莚高麗端疊。居饗饌。机各一脚。東西對座。西庇之押下。敷紫端爲殿上人座。机六前一行。關白殿。西座。中宮大夫。治部卿。民部卿。源中納言。皇后宮權大夫。左大辨。頭中將。頭辨以下。及藏人爲基。各着座。右大臣追參。加端座上。權亮重道朝臣献盃。居折敷。重通取肴。巡流至左大辨。傳殿上座。二献。頭中將宗能。藏人爲基取瓶子。右府受盃。次居飯。次居海老汁。左大辨氣色立箸。三献。左大辨。侍從憲俊瓶子。次居汁物。箸下。依殿御氣色。下官朗詠。佳辰令月句。德是北辰。兩三度。治部卿又朗詠。東岸西岸之句。人々乘輿被肩脫。下官拍子。安名尊。席田。庭生。又朗詠。四献。皇后宮權大夫師時卿。俊雅瓶子。師時卿勸盃之間。歌更衣。居菓子。五献。下官依爲本宮大夫也。依殿下御奉右府。少納言忠頼取瓶子。此間掌燈。乘輿人々及醉舞。始自殿上人。舞万歲樂。至大納言座止之。居薯蕷粥。其後人々退出。此間右大臣隨身給腰指。本宮屬等取之。

執政家臨時客

寬治八年正月二日甲戌。朝間天晴。午後雪飛。殿下有臨時客。申時尊者左右内府參來。左府白重。右府梅下襲。内府紅梅下襲。公卿列立南庭。兩貫首以下雲客一列。二拜之後。頗有揖讓。三丞相昇自南階給。次々人人昇自中間廊。初献。家主令取給。行房献盃。二献。頭辨。藏人左衛門尉永實。三献。皇太后宮權大夫公定。少將有賢取瓶子。居汁飯。地下四位不足。權左中弁基綱勤殿下陪膳。次民部卿取拍子。歌催馬樂。此殿伊勢海。庭生。又朗詠。依爲新所。被寄此殿。尤可然有事也。四献。右大辨通俊。少納言家俊瓶子。居汁物。令淵醉乘輿。五献。左兵衛督。民部大輔基兼瓶子。欲居菓子

署黃粥之間。人々起座。有引出物。御馬三疋。人三料。各一疋。左右內府自南階下立。取馬綱有拜。爰殿下召左府隨身府生下毛野敦久。右府前駈參河權守盛雅二人。於南階前纏頭。欲脫御衣間。內大臣。中納言。中將左右進寄。令終出御衣給。命日勝事。萬人感歎。所脫御袙單衣等。中納言。中將傳取給之。敦久御單衣盛雅紅打袙 是不勝盛興。雖有此事。且又前規云々。則引公卿令參內給。

天永四年正月二日乙卯、天晴。參殿下。有拜禮。又有院拜禮。申時內大臣以下參東三條。人從東門。東對南面被儲座也。殿下。紺地緒。令立對南階西頭給。內府以下入從東中門。列立前庭。少民部卿被申云、今日公卿甚敷可參人也。仍東上ニ可列立也、是常事也、若西上ニ列者、下﨟人々已可列中門外故也、殿下命云、然者只可依民部卿命由。以予答々先々被仰也。內府當庭中之橋南被立也。人々過其後。東上北面。藤大納言經實一人不被參、有其故也、留殿上人兩貫首以下皆參列。立其後。六位藏人一人不參。二拜了。拜間飛雪紛々。不及衣濕、殿下二ヶ度令揖讓給。內府進寄前橋南被立之後。殿下獨昇給。右中將宗輔朝臣取御沓、令着座後。內府被昇。右少將雅定朝臣取沓。大納言以下。從中門廊方被昇。民部卿着座之後。則被退出。是依有小所勞也。又左大辨。藤宰相。依無座早以退出。兩貫首以下着座。先居尊者饌。陪膳仲實朝臣。五位等益送。次居主人饌。陪膳惟信朝臣。一獻。家主。惟信朝臣獻盃。二獻。頭中將通季。瓶子有業、无藏人也、依居飯汁。瓶子雅雲、立箸。次三獻。新宰相中將實隆。瓶子資信、令尊者。相公取村杓。居汁物。雄四獻。源中納言能俊卿。瓶子成、此間肩脫。按察大納言拍子。尊名。安名尊歟、席田。青柳。萬歲。予朗詠。萬歲千秋句。德是北辰。東岸西岸之句等也。又更衣。鷹子。居菓子。五獻。藤中納言仲實。瓶子師俊。此間及秉燭。供御燈。下部御隨身立明。引出物。御馬一疋。左衛門尉家季。殿御隨身右府生公胤共引之。諸大夫二人取松前行。內府被出。

永久四年正月二日丁卯。漢天遠晴。太陽甚明。春之可樂。蓋有此時。午刻許。先參院御所。次依有臨時客。參東二條。人々未被參之間。於御出居

方。萬事執申之。(寢殿女房打出色々衣。)已及申刻。尊客右大臣被參。諸卿下立。殿下立給東對南階西頭。(紺地緒。)(櫻下襲。)右府被進出庭中。內大臣殿立中門內北腋令加給。(火色下襲。黑半臂。紺地緒。)右大將。藤中納言。源中納言。民部卿。右衛門督。下官。治部卿。右兵衛督。源宰相中將。藤宰相。左宰相中將。大貳。右新宰相中將。左新宰相中將。左大辨。(一列。西上。)頭中將宗輔朝臣以下殿上人十餘人。(一列。)二拜了。大貳。藤宰相俊忠退出。家主頗令揖讓給。右府進寄前橋北之間。殿下先令昇給。(飼波〔マヽ〕忠長取御沓。)次右府又頗讓。內大臣進出。互揖讓。右府先昇。右中將雅定朝臣取沓。內大臣殿昇給。侍從宗成取御沓。內府昇階。居簀子殿下御後。令着奧座給。右大將以下昇自中門廊南。中納言以下出從中門更昇進。次第着座了。依仰頭中將以下殿上人着座。(南〔齊イ〕座)庇。先居尊客右內府饌。(重仲爲陪膳。五位各三人取高坏三本。)次居主人饌。(惟俊陪膳。五位三人役送。)大納言以下座。兼各居高坏三本。新宰相遲參。則退出。次一獻。泰仲朝臣居盃於折敷。進主人。地下五位一人取瓶子相從。主人取盃給泰仲〔　〕。取瓶子巡流。此間五位一人勸盃殿上座。二獻。頭中將宗輔朝臣。瓶子藏人左衛門尉資兼。五位一人勸盃殿上人。次居尊者以下飯汁。(海雲。)居殿上人汁物。(殿上座兼居飯也。)箸下。次三獻。左新宰相中將信通。瓶子丹波守忠隆。五位一人勸盃殿上人。次居汁物。(雉。)頭中將依仰着上達部末。依仰予取拍子。安名尊。(二反。)席田(二反。)四獻。朗詠。青柳。(二反。)左宰相中將實隆。瓶子侍從宗成。於座上宰相中將被肩脫。四位勸盃殿上人。家主以下滿座同之。此間及秉燭。供御殿油。(公卿座上下。殿上人座上下。[illegible]中門廊。御隨身立明庭中。)羞菓子。(高坏一本。)五獻。治部卿忠綱卿。瓶子兵部少輔資信。四位一人勸盃殿上人。居署預粥。次牽出物馬各一疋。右府退出。內大臣殿於中門內取綱。未令一拜給。依及深更。殿下無御出。但內大臣殿令參院給。

私云。右卷裏書今書寫之。

臨時客

尊客引諸卿列立南庭。殿上人在後。
家主降立御前二拜。
主客座定。何〔宿德〕德大臣被參時。追敷座云々。殿上人着庇座。
先居尊者饌。陪膳四位。役供五位三人。折敷土高器三本。
次居主人饌。次一獻。四位持參。主人勸盃。殿上人座。勸盃五位。
次二獻。藏人頭勸盃。殿上人座。五位。
次居尊者飯汁。飯高器。居海雲汁。役二人。
次居納言以下飯汁。一折敷。次居殿上人汁。
次三獻。公卿勸盃參議歟。殿上人座。五位。
次汁物。雉羹。次催馬樂。朗詠。或肩脫。
次四獻。公卿勸盃中納言歟。殿上人座。四位。
次菓子。
次五獻。公卿勸盃中納言歟。殿上人座。四位。
次署蕷粥。
次引出物。
大臣馬二疋。若及夜陰。五位二人取松前行。大臣不參時。大納言各一疋。

叙位議

康和五年正月五日乙酉。今日御衰日也。明日又滅日也。被問人。而滅日凡世間之忌也。至衰日者。限一人有其忌。可被避御衰日之由。自院依仰。今日延引六日。丙戌滅日。晩景參内。左内府以下參集左仗座。左府命云。議前裝束了哉否由被問。下官相尋大夫史之處。申上具了由。左府以下經宜陽殿壇上并日華門向議所。左大臣入從南間。内大臣以下入從東面北間。相分南北着之。但依所狹少人々不被多着。但大辨必候座之由。依左府命。下官着參議座。其他陣北間敷座。爲辨少納言座。以召使被催萬事。大臣座邊南北敷膝突。一獻。右中辨時範。右少辨俊信。相分勸之。次第

巡流被止。次々盃酌。依弁少納言不參也。藏人盛季出自日華門。居膝突召諸卿。左大臣以召使召外記。而外記三人參來。右府命云。先一人可參也。三人參失也。但於今者何爲哉。早可取筥文者。三人取筥文。筥文本設議所南座前程。列立日華門東庭。北上西面。左大臣以下一々起座。經日華門幷宜陽殿壇上。從南殿階下。立給階下。列立弓場殿。左內府參上之後。權大納言二人。家忠、經實。左兵衛督能實。取筥文參上。右大臣殿於殿上。令加給大臣次第。依召着圓座。左大辨執筆。召藏人左少將顯國召續紙。入柳筥持參。左大臣召參議。令進院宮御申文。左宰相中將顯通持參。次有功過定。權大納言奉之。基綱朝臣。下官讀大勘文。源宰相能俊見合。右宰相中將忠教。書定文。事了奏定文。夜半事了。歸中納言。源宰相入眼。經忠朝臣息男給爵。追被加定。曉更事了。

永久二年正月五日壬午。午後雨初下。申時參內。叙位議於御前初被行也。民部卿。右大將。藤大納言。源大納言。左衛門督。右衛門督。予。中納言中將。治部卿。右兵衛督。右宰相中將。左宰相中將。左大辨。大藏卿。藤宰相。新宰相中將。右大辨。今朝被免。內大臣追被參。一度被着端座。兼被奏執筆歟。但先着奥座。仰之後可被渡端座歟。頭辨實行着膝突。仰召御事。內大臣仰大外記師遠。次藏人辨雅兼。固仰下。次頭辨召諸卿。家前々召藏人頭也。內大臣召外記。六位參小庭。被仰筥文事。外記三人取筥文。列立小庭前。內大臣以下進弓場殿。西中門北廊西面假庇也。內府、右大將、藤中納言。源中納言、予、中納言中將、東上北面。右宰相中將、大藏卿。左大弁、右大弁、東面北上。依所狹少。人々不被立也。外記三人取筥文。立納言後。關白殿御座殿上。內大臣昇殿下。內府被着御前座。以西對爲御殿。仍東庇五間爲其座。垂母屋御簾。右大將。家。藤大納言。經。源大納言雅。取筥文進御前。人々着座之後。關白殿依召着給圓座。以御簾動爲召也。內大臣又依召着圓座。被奏十年勞。八人召人藏人左少辨雅兼。可進紙之由被仰。則持參。叙一兩人。次召右宰相

中將。（顯雅。）院宮御申文。出殿上尋取則進。（合八通。后宮三通。准以五通。）內府被奏。五位六位居火櫃衝重。（殿下御前居。五位藏人也。）頭辨實行之勸（マヽ）盃。（藏人侍從成通取瓶子。）今夜依爲最初。無功過定。予刻許事了。內大臣叙位出殿上。授入眼上卿左衛門督能實卿。先於殿上披見之。從三位藤俊忠。正四位下長忠。（已上二人宰相勞。）此外任勘文被叙歟。丹波守忠隆叙從五位上。是院當年御給也。左衛門督相具左大辨重資向仗座。行入眼事。叙人卅九人也。仍入眼之間。追被加諸司勞一人（云云）。右大辨相公長忠叙正四位下位記。入公卿筥。雖四位依爲宰相也。

圓融院。（天祿四年正月。叙位於御　初被行、御年十五、）

一條院。（正曆五年正月。除目於御前初被行。御年十五、）

後一條院、（寬仁五年正月。除目於御前初被行。御年十四、）

堀川院、（寬治二年正月。除目於御前初被行。御年十四。）

今上。（今年初於御前被行叙位。御年十一、）

從去年有議。被念行也。叙位初被行。圓融院御時例也。

天治二年正月五日丁丑。天晴。召使來云。今依殿下御衰日。叙位議延引。明日可被行者。六日戊寅。戌剋參內。雖私物忌。依殿下仰所參仕也。新中納言。（雅。）左宰相中將。（宗。）皇后宮權大夫。（師。）左大辨。（爲。）右兵衛督。（伊。）此外他人不被參。大奇恠也。藏人少將忠基來仰云。今日可有叙位儀。召仰諸司者。予揖移着端座。召官人令敷膝突。又召官人令召外記。六位外記師元候小庭。予目來膝突。今日可有叙位儀。文書令候歟。稱唯歸入了。（六位只作小庭可仰歟。近代令召寄仰也。）以官人召辨。左少辨能忠來。仰云。可有叙位議。召仰諸司歟、能忠歸了。次議所裝束具否、尋左大辨。申云。大略具了。人數甚少。已及深更。强不可着歟。與人々相議之間。藏人少將忠基來云。人々此方へ。予揖。以官人召外記。仰云。筥文候へ。外記三人取筥文。列立南庭。入從日華門。參殿下御直廬。攝政着東帶出給資莚。

下官以下着其座。左中辨實光。藏人少將忠基。左少辨能忠置筥文。殿下令氣色給。左大辨着圓座。覽十年勞歟。次召忠基召續𤭖。此間居火櫃饗膳。（諸大夫役送。）頭中將忠宗勸盃。（藏人取瓶子。）予給盃巡流。置笏。殿下被仰云。大外記師元任日勝。少外記盛賢上日勝也。以何人給爵哉。但師元勘申云。延久之比。廣宗爲外記時。依任日給爵者。如何可定申者。人々被定申云。於上日之所。依上日可給爵歟。但廣宗名家也。依名家可給者。師元當時大外記師遠男也。且又可在御定歟。其後召左少辨。召入內一加階勘文。予時事了。侍從中納言參加。依入眼上卿巡也。給敍位。於休所披見。敍人卌一人也。正三位藤原實隆。（入外記勘文也。）此外無別事。入眼侍從中納言。（實隆。）左宰相中將。（宗輔。）予時事了。人々退出。

私云。右卷裏書今如此書寫之。

敍位議（付功過定）

大臣以下着左仗座。職事來召仰。召外記仰召仰事。又召辨仰下。

次上卿奉仰移着端座。召官人令置膝突。以官人召外記辨仰下也。或只仰外記許也。次議所裝束具否問大辨。（大弁不參時問中弁歟。）

大臣以下起座。出自日華門着議所。

一大臣入自布幕。

右大臣以下自東面。（大納言爲上﨟時。尙可入東面。）

大臣東面。（南上。）納言以下對座。（上官候北壁外。）

辨少納言勸盃。（近代一獻。）

藏人來召諸卿。（近代居召之。）

大臣召外記。仰云。筥文ニ候ヘ。外記唯退歸。

外記三人出來取筥文。列立日華門東庭。（北上西面。）

或於仗座召時。仰外記云。筥文候ヘ。入自日華門。列立軒廊南庭。（雨日立宜陽殿南壇上。）

次諸卿經日華門宜陽殿西庇。到射庭列立。

大臣立北廊西二間。（西上南面。）納言立射庭東砌

下。（北上西面。）參議立南砌下。（北面東上。）外記立納言後南殿西壇下。（史生者居後。）雨日。公卿經宣仁左青瑣門并南殿北庇明義門等。到射庭。納言參議立屋內。向方如晴。外記經南殿下。立東砌下。

關白并大臣出自殿上之戶。着御前。納言以下

取笏文。（三合。）離列進立。北廊西二間南面立。外記進跪納言前進笏。（取直進之。五位外記不跪。）納言插笏取之。外記退還後。納言取笏揖。（以下答揖。）昇右青瑣門。列宰相座末。副御簾北行。到御前膝行。以硯筥置執筆座前。（置時又使取直。）逡巡拔笏左廻起。經本道并簀子着座。次人又如初。進立取之。（他上﨟退歸間。宰相座之後長押下板敷蹈沓。進寄取之。）作法如始。史生取笏時。外記退歸。傳取進之。納言以上不參之時。參議取之。外記不跪。不取笏文之人。經殿上次第着座。又立列人追參進如此。

關白依召着圓座。次依召執筆着圓座。次大臣如此。

依御氣色奏十年勞。

依仰召五位藏人進續紙。（二卷。入柳筥。）

次召參議。令進院宮御申文。參議歸殿上。尋行事藏人取之進執筆。居火櫃衝重。（藏人頭勸盃。）叙位事了。執筆取叙位出殿上。授入眼上卿。（宿德大臣召御前給之。）於殿上人々披見之後。取副笏着陣端座。召官人令敷膝突。召辨仰令敷座由。掃部寮敷座於小庭。召官人令召內記。仰云。位記持參。大內記。予。少內記等着座。令入眼了返上。（位記入二筥。若神位記。親王位記。公卿位記時及五筥。）以內記內覽進弓場。付藏人奏聞。返給。仰云。令請印。上卿歸本座。召云。近衞司。將監出小庭。仰云。印。將監歸入。仰諸司令立案於軒廊。少納言將監主鈴等取印來。召云。中務省。輔來膝突。下給位記置案上。少納言請印返上。（若臨時位記請印者。横入置之。奏聞之後。留

之給内記。
又内覽如初。奏聞。返給云。令次第。給内記令次第。以參議書下名二通。（文武各一通、皆悉書之、）差筥上。
又内覽奏聞留御所。
上卿歸本座。令撤座幷案後退去。（近代職事中執柄三ヶ度内覽被免、）
若中務輔不參時。奏事由。以近衞次將爲代官。又敍人加時。令書下名。（七日加時、作白紙位記取加之、）
敍位之間。若有功過定時。大臣示之。上臈大納言召職上辨。令進受領文。辨取功過文幷硯筥。置參議座前。召藏人令立切燈臺。以參議二人令定。（ヌイ）上臈宰相見合。先讀上合否申文本解。次人書定文。大辨多讀大勘文。每條讀當任（アシイ）踰帳氣色。大納言與奪。令注付了。大勘文一　書定文人讀上。一一見上。大納言取之奉大臣。入筥被奏。留御所。
參議二人下藤中納言見合。或又見合事。書定文一人相兼常事也。但可隨大納言也。
攝政時。於直廬有敍位議。大辨宰相爲執筆。中少辨取筥文。但入眼上卿中納言如［常。］

女敍位

寬治六年正月十日癸巳。於殿下御直廬。有女敍位。執筆左大辨匡房。左大臣。內大臣被參續紙硯筆等。加入柳筥一合。五位藏人依召持參之。（往年入二筥、五位藏人二人持參之、近代不然、）諸宮御申文。頭辨季仲依召被獻。近衞司所役也。如何。頭辨陳云。先々執筆召近衞司被尋時。次將持參。召頭被尋時。則頭持參常事也。可尋知歟。
於御前被行時。執筆大臣一人參仕。於攝政直廬被行時。大臣多被參也。
保安三年正月十三日癸酉。有女敍位。而可勤仕請印上卿由。依有別催。入夜參內。主上出御晝

御座。關白令候給。藏人左衞門權佐顯賴依御氣色。召左大將。令着圓座。召顯賴令進續紙硯等。依御叙之歟。召近衞次將。右中將忠宗參上。召諸宮御申文。出殿上尋取。行事藏人持參。六通。大將被奏歟。又召顯賴。召小輪轉勘文。出陣邊尋大外記奉之。大將暫被起座。此事如何。予聞事了。大將取叙位。出殿上給下官。先披見之處。正五位下十七人也。此中外階二人。予取副於笏。着陣端座。召官人令敷膝突。召辨。只今辨不候。召史仰可令敷座之由。掃部寮敷座於南砌下。以官人召內記。內記一人先參。上卿可持參位記之由。六位內記三人。入位記於筥持來。予召內記。大內記有所勞不參、可副上叙位也、上卿見合奏時可留也、而召六位上﨟、給叙位。令入眼人筥持來。下聞上可侍。令持內記。進射場殿內記暫起座。付藏人奏聞。內覽可免給由。殿下被仰也。御覽了還給。藏人不加仰詞。如何。可請印由可仰也。內記置位記筥。予召云。近衞。唯歸入了。可立案之由。相催諸司。立案於軒廊東二間。少納言宗成。今夜初參也。主鈴將監等人從日華門。取出印列立案南。予召云。中務省。少輔忠宗來。下給位記筥置案上。披位記。少納言宗成請印。了中務輔取位記筥置座前。一々披見了。召內記令持。內記申云。令結緒。以緒結筥上也、此事雖不審隨之。進射場。付藏人奏聞。不返給。置御厨子之。後日以女官分給也。歸本座。令撤案幷座退出。若此次男位記請印時、筥二合奏進之。

女叙位 隔年被行

大臣・人并入眼上卿中納言一人參仕。

大臣候殿上。主上御晝御座。關白着圓座。以藏人頭召大臣。大臣着圓座。依御氣色。硯續啚五位藏人料筥持參。令進院宮御申文。殿上次將進之。事了出殿上。入眼上卿取笏着仗座。入眼請印之後。內奏聞。留御所。或後日請印。

後日以女官分給之。无次第。

或此次有男叙位。

私書云

建暦二年八月六日書寫之。　散位藤原國俊

(舊鷹司家本奥書云)

以富小路永貞朝臣本摸寫比校了　花押

朝覲行事

嘉保二年乙寅正月戊戌　天晴。依例有行幸上皇御所六條殿。(郁芳門院御此處也。)其儀。先午四點。御出南殿。掌侍一人(候璽劒。)左次將等(少將有家。忠敎。)俊相具御輿長隨身等渡階前。向西中門。(主計頭道言朝臣候反閇。)公卿列立。藤大納言。新大納言。民部卿。右衞門督。左大將。藤中納言。治部卿。江中納言。二位宰相中將。左宰相中將。三位侍從。右宰相中將。左大辨。新宰相中將。(マヽ)爰大將離本列。進南階東頭。闈司奏畢。少納言家俊鈴奏寄御輿。(鳳輦。)二位宰相中將置璽劒於御輿。宸儀御輿之間。次將等稱警。於西中門邊。左大將仰可張御綱之由。其路經大炊門洞院東大路。至院御西門。關白殿騎馬供奉。(瀧口十二人爲御馬副。調度懸相具御隨身。御馬副調度懸列立。)又大殿供奉。(唐車。)兩殿下供奉之儀。未有如此事。珍重之事也。此間發亂聲。令院司中宮大夫師忠卿奏事由。(中宮大夫參會此(於)六條也。自熊(野)還向之後。今日初出仕。)其後寄御輿於西中門。(宰相中將經實保實候璽劒。)先西小寢殿。頃而上皇(赤色。)御出南面。宸儀依御旨進寢殿。有御拜。

以宮内省圖書寮本及同寮本中舊鷹司家二十一册本之内

並舊松岡文庫本加一校畢

續群書類從卷第二百五十一

公事部四

師遠年中行事

正月

於清涼殿東庭有此儀事等。束帯如常。

元日。平旦拜天地四方拜。寬平二年正月拜四方云々。向乾方拜后土及五星。見御記。

(朱)御物忌之時尙御拜。雨雪之時。於弓場殿被行之。

供御藥事。平旦

同日。所司供屠蘇白散事。(朱)後取束帯如常。御厨子所供御齒固。

法成寺十齋堂修正事。

同日。受羣臣朝賀事。關白家拜禮。

諸陵寮御藥事。三ケ日

同日。小朝拜事。大臣以下殿上六位已上。於東庭拜舞。巡方魚袋着靴。螺鈿劍。但六位衞府丸鞆帶絲鞋。野劍水豹尻鞘。各取笏。

(朱)永久元年正月元日止之。依堅固御物忌也。

節會事。

同日。宴會事。今日節會。依天曆九年十二月十三日論奏。不擧音樂。

同日。中務省奏七曜御暦事。

件事。近代御出前奏事由。付内侍所。

同日。宮内省奏冰樣及腹赤御贄事。若遲參者。七日奏之。

内藏寮酒肴事。諸節日供之。件事等。近代御出以前奏事由。付内侍所。

同日。中務省進侍從幷命婦歷名補任帳事。

内侍所御供事。餘ケ日同。

同日。諸司告朔公文進辨官事。

同日。式部省進國司秩滿帳事。

同日。式兵兩省進內外官補任帳事。一通藏人所。一通內記局。
同日。治部省進威從幷諸國講讀師補任帳事。
同日。太政官進參議以上々日事。
同日。諸衞進當番歷名事。
立春日。主水司獻立春水事。居瓺二本各一坏。女官傳之。於朝餉方。向生氣方飲御。女房稱之若水。
上子日。內藏司供若菜事。內膳司傳之。
上卯日。獻御杖事。東宮。大舍人。近衞。作物所。若當節會。則諸司奏聞。付內侍所。
二日。視告朔事。拜覲上皇母后事。或二宮大饗事。於玄暉門廊行之。
東宮朝覲事。
關白家臨時客事。
同日。皇后宮及東宮拜賀事。
三日。奏去月上日事。近代官外記月奏。去年幷今年正月等奏。二月奏之。
四日。國忌事。東寺。太皇大后。嘉承三年省除。太皇太后宮藤穩子。天曆八年正月四日崩。昭宣公女。朱雀村上兩帝之母后也。
法成寺阿彌陀堂修正事。
同日。童親王拜覲事。

同日。諸司申要劇文事。每月申之。但二四七月五日申之。
法性寺御八講事。講師八人。
五日。始敍位議事。或用六日。依日內云々。
六日。法成寺五大堂修正事。法勝寺修正事。
七日。節會事。今日節會。依天曆九年十二月十三日奏。停音樂事。白馬渡御殿前。雖御物忌猶度。御弓奏事。件事。近代御出以前奏事由。付內侍所。
嵯峨天皇弘仁二年四月七日始御覽白馬。
同日以後。式部省進五位以上歷名帳事。
法成寺金堂修正被始行。七日。敍位有之。
圓宗寺金堂修正被始行。七日。
法勝寺金堂修正被始行
八日。大極殿御齋會始事。
同日。女敍位事。延喜十年以往。不必有此事。隔年行之。或擇吉日行之。近代之例也。
延引例。承保三年。無綿不給。
同日。賜女王祿事。參議弁官各一人行之。
同日。太元帥法始事。治部省。七日。
九日。始外官除目議事。勅任及親王兼國黃紙。參議以上兼官雖非勅任。別書白紙。

十日。諸司申親王以下月料文事。

同日。三省申諸司秋冬馬料文事。十五日ニ奏。廿二日ニ給。

同日。兵部省應供奉内射五位以上歷名置侍從所事。

十一日。眞諦三藏忌日。

十一日。除目事。

同日。戒賢和尙忌辰。

十三日。三省申秋冬馬料文事。

十四日。御齋會竟事。先日申上之。內論議御物忌之時南殿。宜命使王大夫公卿以下束帶。

十四日。慈覺大師忌日。諸寺進卷數於藏人所事。圓宗法勝法成寺修正竟事。

同日。殿上論議事。

同夜。踏歌（アラレハシリ）（アラレマシリ）事。

十五日。主水司獻七種御粥事。付女房。（朱）內藏寮給酒肴於殿上男女及藏人所事。

圓乘寺御八講始。四ケ日。講問共八人。

同日。於宮內省進御薪（カマギ）事。長七尺。廿株爲一擔。宮內省弁着行之。

同日。兵部省手番事。上卿參入行之。

同日。奏給諸司秋冬馬料目錄文事。

十六日。踏歌事。依天曆九年十二月十三日論奏止之。今亦有之。明日射禮於建禮門被行時。不開件門。依御裝束也。

聖武天皇天平元年正月十四日。始有踏哥。

（朱）十六日。陽明門院御國忌。

同日。三省進去年冬季祿（キロク）文事。春秋准之。

同日。民部省進諸司大粮（カテ）文事。十一日本司移省。廿二日給之。

代始射禮。多於豐樂院行之。燒亡以後無沙汰。延文元年。中納言忠家於建禮門行之。不尋前例。經長卿咨了。

十七日。內射事。依天曆九年十二月十三日論奏止之。今亦有。但三月有云々。於建禮門行之。

（朱）尙可有沙汰明日射遺差遣參議一人。右衞門左衞門所射也。

十八日。賭射事。於弓場殿射之。公卿以下束帶。

仁壽殿觀音供事。餘月六日。

東寺長者勤之。里內裏時。於眞言院修之。

同日。國忌事。圓乘寺。後朱雀院。今案。依遺詔不置國忌。只有御八講。

國史云。嵯峨天皇弘仁三年。幸神泉苑覽花樹。會文人賦詩。花宴之節始於此云々。

廿日。內宴事。廿一二三日間。有子日行之。長元以後久不被行。若有內宴年。三月有殿上賭射。

廻廊之抱賊、

同日。給馬料官符下大藏省事。

廿一日。文武官進去年々終帳事。

同日。諸國一分除目事。諸司奏給郡。申省之數。不過十枚。是故實也。故左丞相時平、所奏。

廿二日。於大藏省給馬料事。

廿五日。國忌事。贈后。贈皇太后苡子。鳥羽院母后。東宮。是日於轉輪院行國忌事。

晦日。神祇官奉御麻事。每月奉之。中臣官人奉之。

同日。御巫子進御贖事。

撰吉日事。

火災祭事。

代厄御祭事。

已上二事。餘月亦同。

七瀨御祓事。川合。一條。土御門。近衞。中御門。二條末。

件御祓。後冷泉院御時。隔月被行。

始外記政事。御齋會終日。外記令撰吉日申。殿下披露云々。

大臣奏吉書奏事。近代必無此事。

除目事。三ケ日。避御衰日并執柄衰日。攝政之時於直盧行之。大辨宰相執筆。

院修勝多羅尼供養。或二三月行之

大臣家饗事。

新任大臣明年行之。已爲近例。上古四日左大臣饗。五日右大臣也。而貞信公依避殺生。御齋會間設饗。被設精進色饗。其後無式日。

以藏人遣廿栗蘇等。

二月

朔日。旬事。

文武天皇五年二月丁未始之。

上丁。釋奠事。當新年祭及日蝕用中丁。八月准之。若重延引時停止。不用下丁。寬治八年用下丁。正月十六日依陽明門院薨去事也。

明日。獻胙事。孝。禮。詩。書。論。易。輪轉講之。齊信卿行晴儀之後不行之。彼之時世不請云々。於大學寮。上卿以下參之。

關白家神馬立事。

上卯日。大原野祭事。當日使立。

二宮使事。

關白家神馬立事。

上申日。春日祭事。未日使立。十一月准之。未日使參內。內藏寮近衞府馬寮不參內而下向。

二宮使事。

(未)平岡祭。坐河內國。

（朱）平岡祭。坐河内國。

同日。鹿島祭使立事。未日陣覽官符。以氏院差文被奏。勸學院別當弁加符署。

上酉日。率川祭事。未日使立。用春日祭明日。（朱）座大和國。

上丑日。園并韓神祭事。若有三丑。用中丑。座宮内省云々。春日祭後丑。上卿以下并掌侍參入。

二日。行基菩薩忌日。

同日。天親菩薩忌日。

同日。宇治殿御忌日。

同日。白川新阿彌陀堂修二月行之。

三日以前。京官除目事。式部省例云。十三日以前京官除目云々。

三日。妙樂大師忌日。

四日。祈年祭事。廢務。有前後齋。於神祇官行之。上卿已下參入。

六日。玄弉三藏忌日。

八日。法勝寺常行堂修二月事。

中旬以前。始石清水行幸行事所事。上卿參入。勘申日時。

十日。三省申考選目錄事。

十一日。官列見選人事。於太政官行之。着座公卿以下。弁少納言外記史等參上。

十二日。圓融院御八講始事。四日。請僧八人。件日圓融院御國忌也。

十三日。後宇治殿忌日。四條大殿也。

十三日以後。官所充事。於朝所設小膳。厨家大夫史以下定之。弁史等申文一上。史生以下文直。弁見之不申大臣。

十五日。奏給諸司春夏祿及申皇親時服目錄文事。

十五日。興福寺常樂會。

（朱）十七日。轉輪院修二月事。

十九日以前十日許。定僧名事。（朱）延久五年修之。

十九日。圓宗寺最勝會。二十三日會竟事。

廿二日。於大藏省給春夏季祿事。但女官廿五日給之。

廿二日。聖德太子忌日。

廿五日。北野御忌日。

位祿事。中旬以前奏行。或三月一上行之。

是月。式部省行一分除目事。

同省行文章生試事。

季御讀經事。或三月行之。四日。第二日有引茶。第三日有論義。

結願日。史持卷數申上。即返給付内侍令奏。或留付殿上。并召藏人令奏。但臨時不付内侍。覽畢即返給外記。

撰吉日事。
新年穀奉幣事。廿二社。前十日許上卿奉仰事。
臨時仁王會事。或三月。有先一[illegible]可定日時僧名[illegible]行程[illegible]。
位祿定事。或三月。
定臨時祭使事。先祭三十日程。
〔朱〕擬文章生試。近代無定期。或間三年行之。
〔朱〕外記所充事。大夫外記申行之。

三月

朔日及十一日。着朝座事。是月毎旬着之。但廿一日廢務。
同日。於兵庫寮試諸生事。
一日。差遣茶使事。
二日。具坊和尚忌日。
三日以前。僧尼重輕服人不參內事。
三日。御燈事。起一日迄三日潔齋。但三日廢務。若御卜不合者。有其由御禊。
御節供。〔[illegible]〕內藏寮酒肴事。
四日。諸司要劇文事。
七日。始藥師寺最勝會事。十三日畢。源氏弁若氏人行之。〔朱〕寬勅使云々。
始位祿事。

七日。惠成大師忌日。[illegible]
十日。國忌事。興福寺。件國忌。依康保二年三月十日論奏省除。猶被天慶御時。始以允可[illegible]
使。即亡仍止之。
又安和始之。
十日。法勝寺不斷念佛始事。三ケ日。公卿以下[illegible]
中辰日。石清水臨時祭試樂事。或巳日。
中午日。石清水臨時祭事。若當國忌用下午。若無下午用上午。
明日。使等歸參事。
〔朱〕十四日。東大寺花嚴會事。[illegible]人。
石清水臨時祭明年所雜色等差定前駈事。
〔朱〕十五日。西大寺成道會事。
十七日。國忌事。西寺。桓武天皇。柏原。[illegible]。延曆廿五年三月十七日崩。葬柏原陵。
廿一日。國忌事。東寺。仁明天皇。深草。[illegible]。嘉祥三年三月廿一日崩。葬深草陵。
廿一日。弘法大師忌日。
同日。法金剛院忌日。
鎮花祭事。（シヅメハナ）〔青〕（ハナシヅメ）
授戒事。
今月十一日。兵部手番事。

同十三日。射禮事。依天暦九年十二月十三日論奏止正月七日所言上也。

同十四日。賭射事。

廿四日。尊勝寺灌頂事。東寺長者若門徒爲導師。一宗導師二年勤之、長治二年始之。

晦日。仁和寺理趣三昧事。敦實親王忌日。

同日。鎭花祭事。神祇官。（朱）謂大神狹井二祭也。

撰吉日事。

京官除目事。今月三日以前可行之。近代例動及歳暮。

東大寺授戒事。三年一度。

眞言院孔雀經修法事。

四月

賀茂祭以前僧尼重輕服不參内事。有灌佛自九日。

或記云。御禊以後可忌佛事云々。古人說云々忌之。不讀（青）カウサク

朔日。視告朔事。（青）七十月准之。

（押紙）孟夏旬宴。　續日本後記可考。

延暦十二年始見。　天長十年四月戊午朔。宴紫宸殿。

（押紙）孟冬旬宴。

天武帝五年始見。

同日。旬事。十月准之。無御出時。宜陽殿平座事。自御所被仰。無御出。依例可行。

同日。掃部寮撤冬御座供夏御座事。

同日。主水司始貢氷事。起今日盡九月卅日。

同日。近衛兵衛府進御扇事。起今月上旬。盡六月下旬。

同日。定應向廣瀨龍田祭五位事。七月准之。式部點定、遣官、外記。

不知。

一日。道遂和尚忌日。

二宮使立事。

上卯日。（青）オ、ワ大神祭事。丑日使立。（朱）近衛將監爲使也。若有三卯用中卯。

東宮使必用六位各[illegible]

上卯日。宗像祭事。無官幣。氏人祭之。

（朱）上卯。稻荷祭。不付此官幣。本等不審也。

上巳日。山科祭事。

關白家神馬立事。

上申日。平野祭事。當日使立。十一月准之。遣近衛將監、令取見參。是藏人等所承行。

二宮使立事。

同日。松尾祭事。或年中行事云、上酉日松尾祭。（朱）弁以上參向。但冬祭不參。

同日。杜本祭事。午日使立。（朱）座河内國。

同日。當麻祭事。同上。（朱）座大和國。

（青）上申日。春日臨時祭事。臨時祭於御前被立使事、其使殿上五位中帶劔者奉之、衛府者闕腋等、或用縫腋白重繪者、隆親等例。

（朱）同日
上酉日。當宗祭事。同上。當宗祭幣付杜本祭使。（朱）座河内國
閑白家神馬立事。
同日。梅宮祭事。當日使立。仁明天皇母。文德天皇祖母。太后。橘氏神也。
二宮使立事。
二日。中務省申宮人夏衣服文事。
三日。國忌事。東寺。件國忌省除云々。
左右衛門壞弓場埒事。上酉ノ時ニ壞之。以是之故也。近代後忌。不可然。
二日。京極殿御忌日。
四日。廣瀨龍田祭事。廢務。
五日。中務省申妃夫人嬪女御夏衣服文事。
同日。二省（式兵）請印准樣蔭位記事。
七日。同省奏成選短冊事。謂之擬階奏也。
（押紙）和銅四年擬階奏始。年中行事[illegible]
八日。灌佛事。當神事止之。承和七年四月始之。布施紙。大臣五帖。大納言四帖。參議三帖。四五位二帖。六位一帖。
諸院宮御灌佛事。
安居始事。彈正向東西寺事。檢察也。七月十五日。
初齋院御禊年。八日雖不當神事。灌佛被停止云々。
十日。中務省奏女官春夏時服文事。廿二日給之。
奏聞賀茂齋王禊日前駈事。前十日差之。大臣定申。若有障。行齋院事上卿定日。
十一日。式部省請印成選位記事。
十二日。內弓場破埒事。
十三日。兵部省請印成選位記事。
十四日。法成寺阿彌陀堂御八講始事。四日。講問各八人。
終日後一條院御忌日。
（朱）十四日。伊勢神衣祭。
（朱）中卯。齋王御禊點地事。
（朱）中巳。定垣下事。
中午日。齋內親王禊事。今朝覽齋王以下料事。前後次第使等。使近代例不差。自志轉[illegible]之人。
末日。警固事。祭使雖止。猶有警固。藏人頭令點女騎馬事。
（朱）六府參仕之。雖停止祭之事。依有國祭。猶可行警固云々。
同日。御覽左右馬寮女騎料御馬事。
（朱）中未日。賀茂行幸事。自承保三年。在位之間被行幸中日也。
閑日賀茂詣事。
中申日。賀茂國祭事。當時攝政殿依宿願始被立神馬。雖非當祭以吉日被立。年中一ヶ度。

同日。日吉祭事。件社長久四年六月八日。被下毎年立内藏寮幣宣旨。(朱)延久六年三月十九日。始令預官幣。
中宮春宮使立事。
中酉日。賀茂祭事。酉日廢務。(朱)内藏寮近衞府當日使立。若朔日當酉日者。下酉行之。依用國祭後酉也
同日。覽男女被馬事。可陪從内覽。
中山祭事。座冷泉院石神也。自後冷泉院御時預官幣。天喜元年始。
齋王還野宮事。
中戌日。解陣事。齋王遷本宮後。大臣令内侍奏解陣之由。若内侍不候者進御所。付藏人若殿上弁令奏。
獻桂(大イ)葵事。藏寮。
立東寺授戒使事。安居以前立云々。
十五日。授成選位記事。齋座弁爲宣命使。若無齋座弁。小納言代之。近代久絶。
又當賀茂祭者。十七日行之。
十五日。十五大寺安居事。
(朱)十五日。延暦寺授戒事。
十六日。三省進春季帳事。
關白家神馬立事。宮中宮東使立事。
中子日。吉田祭事。當日使立。若有二子用下子。

(朱)上卿以下内侍等參之。山蔭中納言始奏行之。
十六日。東北院八講始事。四日。八講各八人。
十七日。後一條院御國忌。
十九日。後冷泉院御國忌。
廿日以前。式部省奏郡司擬文事。外記申一上。定其日。
任郡司事。廿日同上。
廿四日。傳大士忌日也。
廿五日。走馬結番事。先十日下兵部省。
五位已上不堪進五月五日走馬事。
廿八日。牽駒(朱)(コマヒキ)事。小月八廿七日。
廿九日。國忌事。西寺。皇后。安和母后云々。皇后藤安子。康保元年四月廿九日崩。
冷泉圓融兩母后也。
神衣(カンミソ)祭事。十四日歟。
三枝(ミキクサ)祭事。
大忌(オホイミ)祭。神祇令有之。
風神(カサカン)祭。仝。

五月

三日。六衛府献菖蒲幷花事。（[illegible]）紫宸殿前献之。

四日。奏走馬結番幷毛色事。

四日。入道九條殿右大臣忌日。（[illegible]）

四日。主殿寮内裏殿舍葺菖蒲事。

左近騎射眞手番事。

五日。節會事。節會久絕。就中承保聖代已當御忌月。但未被下停件節會詔。如何。

五日。圓宗寺御八講事。（後三條院、延久五年五月七日崩、講師各八人、以五卷日充國忌日、〔朱〕辨務）

典藥寮供菖蒲事。

御節供事。

內藏寮酒肴事。

內膳司供早瓜事。（[illegible]作早瓜山城御料所供也。而御園相武天皇所被給也。又常住寺僧[illegible]也。仍[illegible]）

縫所司供藥玉事。（先是進請奏。）

五日。內匠寮進瓜刀事。

五日。書司供菖蒲事。

六日。競馬事。

六日。鑒眞和尙忌日。

七日。圓宗寺御八講事。國忌。依遺詔被停國忌也。後三條院。

七日。御齋會事。

五日。不斷念佛事。（七日[illegible]）

十日。大藏省申源氏夏衣服文事。

十五日。嘉祥大師忌日。

廿二日。左右近衛府申供奉六月神今食裝束事。

廿五日。村上天皇崩日事。（宮中謂之有事日、雖非廢務、無政幷結政。）

京中賑給事。大臣參陣先定使。寅申日及欠日不賑給云々。中旬以上差使。

晦日。伊勢齋王禊事。

撰吉日事。

主水司供水事。（或說自四月一日可供之。而近代[illegible]）

最勝講事。（五日、從數日被[illegible]、於御前行之。公卿已下[illegible]）

着鈦政事。（選別當吉日。）

〔朱〕撰吉日。最勝講。一條院御宇。長保四年五月七日始之。

六月十一日

十一日以前重輕服人幷僧尼不參內事。（此事起自後朱雀院御時云々。見行記。）

十一日以前官奏不可必候。（十二月同之。）

內藏寮進櫛事。

朔日。內膳司供忌火御飯事。（司度進物所。所調供之。陪膳束帶。）十一月准之。未明供

同日。中務省奏御曆事。

同日。造酒司始献醴御酒事。（サケツカサ　タンノミキ〔書〕レイシュ　上字不讀之只サケツカサト云ヒトヨザケ）起今日盡七月卅日

同日。神祇官始進御贖事。迄八日奉之。御巫子持參。
三日。奏夏等第文事。嗣月奏之。
四日。傳敎大師忌日。（朱）六月會是也。延暦寺自去月二十八日至于今日七ヶ日修之。園城寺自今日七日修之。
五日。中務省申親王幷乳母夏衣服文事。
七日。中務省申諸司夏衣服目錄事。
八日。良諸和尙忌日。
九日。中務省奏諸司春夏服文事。
十日。神祇官奏御體御卜事。十二月准之。
同日。申諸司官人以下衞士以上衣服文事。
今日以前。不奏封戸文事。十二月同之。
十一日。月次祭事。廢務。十二月准之。十六日度會宮。十七日大神宮。（朱）於神祇官行之。
（頭書）靈龜二年六月。始修神今食。公事根元。
同日。神今食祭事。十二月准之。昨作人簡令卜之。廢務。（朱）有前後齋。無行幸之時。於石灰壇有御拜。或於中院行之。有行幸。
後曉。大殿祭事。神祇官奉仕之。
式兵兩省補任帳進藏人所事。
十二日早旦。供解齋御手水幷御粥事。主水司供御手水。
十二日。有後齋云々。近代非云々。左大臣令預給也。

十二日。供解齋粥。何有後齋乎。
十五日。感神院走馬勅樂等事。
近例十四日。稱祇園御靈會。貞觀年中。雖被下停止人馬宣旨。猶參會。
（朱）祇園御會。
十五日。感神院臨時祭。使殿上五位。天治元年始行。此事雖入近衞府生番長。
十五日。感神院走馬勅樂等事。天延三年始被奉幣。依大年御疫疾也。
十五日。關白家祇園神馬立事。
十五日。不空三藏忌日。
廿日。行滿座主忌日。
廿日。任相撲司事。
廿一日。國忌事。白川院母后。贈皇太后藤原茂子。康平五年六月廿一日卒。（朱）東寺。
廿一日。法性寺御八講。去十八日始之。（朱）茂子國忌日歟。
廿二日。圓敎寺御八講始事。諸廳各八人。一條院御國忌。
廿二日。南岳大師忌日。
廿五日。任左右相撲司事。
廿八日。後二條院御忌日。法興院御十講始事。五日請僧九人。
晦日。國忌事。東大寺。仲國忌仁和母后。贈太皇太后澤子。天曆八年廢除。
同日。神祇官進荒世和世御贖事。十二月准之。縫殿神祇。

同日。縫殿寮進同御服事。(古)同上。(古)拳本

同日。東西文部進祓刀事。(古)神祇官。

月次祭。神祇官有之。

道饗祭事。宮城四隅。

節折事。於御殿二間被行之。藏人爲行事。

(朱)齋院御禊事。

同日。大祓事。十二月准之。服者忌之。古人之口傳也。

鎭火祭事。宮城四隅祭之。陰陽寮勤之。

施米事。大臣參陣先定申。延引及七月。攝吉日事ニ一大臣參陣先定申。

(朱)有封戸寺不入施米之由見經信記。故實云々。不忘貢日云々。

七月

朔日。祝告朔事。

同日。官政事。近代不行。然而上官參結政。近代於官東門滿刻限云々。

同日。定應向廣瀨龍田祭使五位事。

同日。中務省女官補任帳進太政官事。

同日。式兵兩省進内外官補任帳事。

一日。龍智忌日。

二日。法興院御八講終事。[illegible]

二日。鳥羽院御忌。最勝寺御八講竟。四日。

四日。廣瀨龍田祭事。廢務。

四日。傳禪大師忌日。

七日夕。乞巧奠事。於御殿庭藏人行之。

織部司織女祭事。

御節供事。内膳司。

内藏寮酒肴事。

拂拭御調度事。

七日。白河院御忌日。法勝寺御八講竟。四日。

八日。文殊會事。

十日。三省申春夏馬料文事。

十日以前。相撲人入京事。

十四日。盂蘭瓮供事。(朱)於御殿有御拜。或又只遣寺歟。

(寺)[illegible]天平五年七月始之。

同日。奏給諸司春夏馬料目錄事。

十四日以前。給女房女官等衣料事。

十四日。侍醫等申間給米事。

十五日。孟蘭盆事。
十五日。定光菩薩入滅日、（法成寺[illegible]事、）
天平五年七月。始備孟蘭盆供於大膳職。（聖武天皇御時。）
（朱）彈正撿察東西寺事

十六日。三省進夏冬季帳衣服文事。
十六七日間。相撲召仰事。兩日間以吉日被仰下之。
十九日。堀川院御忌日。尊勝寺御八講始事。（四日、（朱）當日廢務。）

廿二日。於大藏省給馬料事。
廿三日。近衞院御忌

廿五日。相撲節事。（スマフノセチ）（（朱）スマイノセツ）（召合大月廿八九日、小月廿七八日。近代當內會欠日用次日、或有卅日召合。）

後日。御覽相撲人事。（（朱）スマイ）
廿六日。相撲內取事。（小[illegible]二十五日、）
廿八日。二條院御國忌、
廿九日。相撲拔出事。（小[illegible]二十八日。）
撰吉日事。
新年穀奉幣。（[illegible]、二十二社）
仁王會事。（或八月。）

大忌祭。風神祭。（已上神祇令有之）

八月

上丁日。釋奠事。明日獻胙事。
上丁當觸若國忌者。改用中丁。若重延引者停止、不用下丁。近代用下丁。可見私記。（朱）若重延引者停止。不用下丁。帥大臣記海凉說云々。善說歟。
一日。相撲拔出事。
（朱）一日。勸修寺御八講始事。（四日　終日二條右大臣定方忌日也、）

明日。博士引得業生參內裏論議事。（雖無論議、上卿參陣。博士參入。令奏事由。藏人給祿（朱）長元以後久絕。不被行之、）

三日。牽甲斐國御馬事。
四日　北野祭。（元五日也　有官幣、）

五日。有申文式部請印准蔭幷設位記事。（兵部省請印）

（朱）四日
同日。國忌事。（承保二年有之。）
（朱）（[illegible]）五日。北野祭事。
後冷泉院御時。永承元年、依當母后國忌、改用四日、當時被停國忌。而未被下依舊可用五日宣旨歟。可尋。近例四日祭。五日御靈會。（朱）可用五日之由宣旨。永久五

年八月。盛仰宿禰中院。

七日。牽甲斐國勅旨御馬事。

御馬逗留解文事。甲斐勅使牧。件解文留御前。

七日。郁芳門院御國忌。六條院。

（朱）七日。章安大師忌日。

十日。三省申秋冬季祿事。如七月十日儀。

（貞信公御忌日也）十日。法性寺御八講始事。五日。十人。件講上卷日。十二日。外記史等參。

十日。別當大師御忌日

十一二兩日。宮定考事。明日小考定事。用近江國早米。無炊料時。或延引。

十三日。牽武藏國秩父御馬事。二十疋。

御馬逗留事。武藏秩父。

十五日。牽信濃國勅旨御馬事。六十疋。依朱雀院國忌。近代十六日云々。天曆六八十五崩。三十。

同日。奏給諸司秋冬季祿及皇親時服目錄文事。

關白家御馬立事。

同日。石清水放生會事。

（朱）後奏事。

延久二年始加之。被立奉幣使。弁上卿以下參向。諸衛帶弓箭如行幸儀。上卿雖衛府。不帶弓箭云々。或帶。養老四年。依宇佐宮託宣。諸國放生會始之。

（押紙）放生會始。水鏡及公事根元可考。

牽甲斐國御馬事。

十五日。金剛智三藏忌日。

十七日。牽甲斐國穗坂御馬事。三十疋。

廿日。牽武藏國小野御馬事。三十疋。或四十疋。

廿日。羅什三藏忌日。

廿二日。於大藏省給秋冬季祿事。可尋。

上野諸牧御馬。五十疋。

（法皇）廿二日。仁和寺御八講始事。六人

廿三日。牽信濃國望月御馬事。二十疋。

廿五日。牽武藏國勅旨牧幷立野御馬事。

廿六日。國忌事。西寺。仁和。[illegible]光孝天皇。仁和三年八月廿六日崩。葬小松陵。

廿七日。國忌事。西寺。文德。延久八年省之。

廿八日。牽上野國勅旨牧御馬事。近代動逗留。五十疋。

季御讀經事。或七月行之。或九月。

撰吉日事。

季御讀經事。

諸院宮御讀經事。

九月

十一日以前僧尼重輕服人不參內事。此事起自後朱雀院御時。見江記。

朔日。着朝座事。廿一日亦同。是月每旬着。但十一日廢務。

奏御燈御卜事。

一日。差定地黃煎使事。（朱）黑白

二日。新嘗會酒料文事。

附內侍奏之。主上召殿上弁下給。弁不必下上卿。唯作官符。仍有兩說。

三日。御燈事。廢務。

七日。奏諸國當年不堪佃田解文事。其後有定并奏。

不堪文。八日以前申宮。有閏月時。其月七日可奏與。見延長奏報。

一日申大弁七日不堪申文事。

不堪奏事。

九日。重陽節會事。節會久絕。就中當御忌月也。

御節供事。有損年被停止。

書司供菊事。

內藏寮酒肴事。

無節會年宜陽殿平座事。上卿令奏可給侍從菊酒由。依節有假着粉熟。

藥司獻茱萸事。

（朱）典藥寮獻茱萸事。御帳東柱結付之。

十一日。奉幣伊勢大神宮事。廢務。十六日度會神宮。十七日大神宮。

或有行幸。奏下幣料宣旨之次。示其由於上卿云々。此奉幣一上必被奉行。

十三日。東北院念佛始事。

（押紙）釋氏往來云。九月十三夜。東北院念佛者。佳期與北觀一時計會。都人士女莫不競赴。

廿二日。中宮御崩日事。賢子。

廿二日。法勝寺御念佛始事。

廿四日。法勝寺御念佛終事。

十一日。有齋王群行年。至十八日齋事。

近代群行及中[illegible]有時。一月內忌佛事。

廿九日。國忌事。西寺。後山科。醍醐天皇延長八年九月廿九日崩。陵山科。

晦日。齋宮禊事。

撰吉日事。

眞言院孔雀經御修法事。

神衣（カンミソ）祭。神嘗（カンニヘ）祭。已上神祇令有之。

十月

朔日。視告朔事。

同日。掃部寮撤夏御座供冬御座事。

同日。諸司及畿內考選文進辨官事。

一日。主殿寮進御殿及殿上炭事。

鼓吹發音事。

旬事。天皇出御宜陽殿。平座事。（朱）當日蝕之時。次日行之。

初雪日。祿事。

上亥日。藏人所進餅事。中下亥日亦同。

（朱）前中宮忌日事。篤子。永久二年十月一日。

兵庫寮奏發鼓吹ツヽミフエ（音）モノヽコスイ聲事。子弁官豫仰陰陽寮。擇定其日。然後奏之。

二日。奏可供新嘗祭官田稻粟分定文事。其作法同。

九月二日御酒文。

同日。中務省申宮人冬衣服文事。

三日。法成寺東北院御八講事。上東門院御忌日。

三日以前。左右衞築弓場埒事。

三日以前。點定五節舞姬事。定預事。定大召事。

四日。刑部省進年終斷罪文事。

法勝寺大乘會始事。五ケ日。准御齋會。永保二年改定二十四日。

五日。妃夫人嬪女御冬衣服事。

同日。射場始事。（朱）御出弓場殿。公卿以下侍臣等爲射手。口傳云々。或人秘說云。出御青色御袍靴。往年着御直衣出御。近代不然。幼主御時着直衣御。

六日。興福寺法花會事。內贈大臣忌日。忠仁公始之。

七日國忌事。中務。崇道天皇。件國忌近代公家以下不被向。

八日。一行阿闍梨忌日。

十日。中務省奏給後宮并女官冬時服文事。

同日。興福寺維摩會始事。十六日結。七箇日。

（朱）十日。白居易忌日。

十七日。仁海和尙忌日。

十八日。龍樹菩薩忌日。龍猛也。

十七日。吉祥院御八講。菅公忌日。

十三日。東寺灌頂事。永久三年十月七日被仰下。

廿日。中務省申宮人成選位記事。

廿一日。競馬負方獻物事。或注廿二日。

定臨時祭使以下事。先祭三十日。

大粮申文事。一上着陣被行。

大オヽタノハジメ（高）ウタ所ハジメ歌始事。新嘗會之料。

廿二日　八幡一切經會。大治三年始之。
准齋會
廿四日。法勝寺大乘會始事。
五ケ日。前後幷第四日政官參。華嚴大乘大品法華涅槃。(朱)承保二年十月八日始行之。
治部省申諸國講讀師簡定事。

十一月新甞會以前僧尼重輕服人不參內事。近代例。
朔日。着朝座事。朝廳燒失之後。絕不被行之。
同日。內膳司供忌火御飯事。司度進物所。幷進同六月。
同日。中務省奏御曆事。付內侍所。曆給諸司。分曆絕久無之。[illegible]左府被行之。
同日。神祇官始奏御贖事。八日訖之。
同日。諸司進諸國考選文事。
(朱)一日。典藥寮進地黃煎事。所衆爲使。
上卯日。相甞祭事。
齋王遙拜事。
明日。齋院神樂事。
宗像祭事。
上巳日。山科祭事。當日使立。
關白家神馬立事。
上申日。平野祭事。同上。被立臨時祭使事。殿上五位。
中宮春宮使立事。

關白家神馬立事。
同日。春日祭事。未日使立。參內。近衞府。馬寮。內藏寮。
二宮使立事。
同日。杜本祭事。午日使立。
同日。當麻祭事。同上。
上酉日。率川(イサカハ)祭事。當日使立。用春日祭明日。
關白家神馬立事。
同日。梅宮祭事。當日使立。
二宮使立事。
同日。當宗祭事。午日使立。大和。
同日。中山祭事。
(朱)關白家神馬之事。
同日。松尾祭事。
(朱)中宮使立事。
七日。奏諸國當年損田解文事。
七日。善无畏三藏忌日。
十日。三省申位祿目錄事。如七月十日儀。
同日。申源氏冬衣服文事。
十一日。靜觀大師忌日。
十三日。慈恩大師忌日。
關白家神馬立事。
中子日。大原野祭事。當日使立。若有二子用下子。
二宮使立事。

中丑日。園幷韓神祭事。用新嘗前丑。

同夜。五節舞姫調習事。參入幷帳臺試事。

同日。宮內省奏御宅田稻數事。[illegible]

中寅日。鎭魂祭事。中宮同令卜明日侍臣小忌合不事。中宮鎭魂事。皇后雖懷妊猶有之。

雖御服時猶有之。

五節舞姫於御前試事。御覽五節童女事。(朱)於常寧殿行之。宿老人獻之時不[illegible]童子。

中卯日。新嘗祭事。殿務。中卯大殿祭事。[illegible]卜女[illegible]事。早旦供解齋御手水幷粥事。

同夜。試五節事。

朔旦冬至年。叙位儀事。

丑日。有叙位儀。

中辰日。節會事。豐明賜宴。早旦供解齋御手水幷粥。

辰日。節會給位記。

中巳日。東宮鎭魂祭事。東宮鎭魂。內裏爲神事。依遣勅使歟。內侍參。又上卿參。

御服時猶被行。御衣遣白衣云々。宮內省。

同日。賜女王祿事。

大嘗會年。雖午日行節會。於女王祿者。猶巳日於宮內省行之。

午日。有女叙位。

中申日。吉田祭事。當日使立。

關白家神馬立事。

中宮春日使立事。

同日。日吉祭事。

十五日。奏給位祿文事。

中旬。陰陽寮擇定元日童子女年衣色奏聞事。廿日以前イ　イ无

廿日。出野倉[illegible]事。

下卯日。東三條御神樂事。

下未日。試樂事。

下酉日。賀茂臨時祭事。寛平始之。右中將時平爲使。有障若依雨無御神樂時。於弓場殿給祿。

當日使立。

同夜。御神樂事。

廿二日。於大藏省給位祿事。

廿三日。美福門院御忌。

廿四日。天台大師忌日。(朱)延曆寺霜月會是也。件會自十四日始。十ケ日修之。

十二月十一日以前僧尼重輕服人不參內事。(朱)[illegible]

朔日。內膳司供忌火御飯事。（寄頭）司度進物所。所謂備。起今日訖八日奉之。

藏司追櫛事。

同日。神祇官始奉御贖事。八日訖之。

中宮春宮使立事。

上卯日。大神祭事。寅日使立。若有三卯用中卯。但立春在中旬時用上卯。用荷前以前日故也。

三日。國忌事。崇福寺。廢務。天智天皇。天智天皇十二月三日崩。山科陵。自餘國忌隨時廢之。此國忌長不廢。

同日。奏冬等第事。

四日。法成寺御八講竟日。自去月晦日行之。講師一人。聽衆四十人。第二日（今月一日）南京竪義。（同二日捧物）第四日（三日）。天台竪義。第五日（同四日）法花倘時。作日入道殿御忌日。

五日。中務省奏親王冬衣服文事。

同日。諸司進權官同衣服文事。

（朱）五日。定荷前日事。

七日。中務省申諸司冬衣服文事。同六月七日儀。

七日。三國傳燈大師忌日講。

九日。中務省奏給諸司秋冬時服文事。

十日。奏御體御卜事。如六月十日。

同日。陰陽寮勘錄（寄）來年御忌進付內侍所事。中宮東宮同之。

十一日。月次祭事。廢務。（朱）上卿參神祇官。十二日有後齋云々 近代之例云々。

同日。神今食祭事。

同日大殿祭事。

十一日。惠標大師忌日。

十二日早旦。供解齋御手水幷粥事。

十三日。（朱頭）豫點定朝拜侍從及奏賀等奏聞事。

同日。點定荷前使參議以上奏聞事。若十四日大神臨時祭者。今日不定申。

十五日。惠果阿闍梨忌日。

同日。香象大師忌日。

下午日。御髮上事。藏人內侍向宮內省勤之。用立春以前午日或中午。

荷前事。中務省擇日。前五日申官。大神祭後立春前行（用イ）之。

朝拜若止。宣旨下諸司事。

十八日。作物所請申明年卯杖料物事。

御佛名(ブツミヤウ)事。十九廿廿一日間始之。作式日不見。(朱)寳龜五年始修之。

中夜。藏人定明年分配事。

十九日。慈德寺御八講始事。五日　講問各八人。若有閏月。其月修之。

(朱)終日東三條院御忌日。長保二年閏十二月廿二日崩給也。

承和五年十二月十九日始之。

道饗(ミチアヘ)祭事。

鎭火祭事。

廿日以前。式部省諸國主典以上幷史生博士醫師秩滿帳進藏人所事。式部省進藏。

(朱)廿一日。出野倉藥事。

(朱)同日。進物所請雜具出事。

廿三日。國忌事。東寺。光仁。廢務。

始延曆寺御修法事。

廿九日。進物所請御器事。典藥進龍御藥幷封屠蘇井事。

先立春廿日。定立春御井事。

給女房女官節折事。(裏)トキウドウジノ條

大寒日。立土牛童子事。

晦日。宮内省進御藥事。

同日。奏瑞應有無事。

同日。東西文部奏祓刀事。謂東西者大和河内。是奈良都之時事歟。

同日。縫殿寮奏荒世和世御服事。

同日。神祇官奏荒世和世御贖事。

同日。大祓事。

同日。追儺事。選長六尺以上人。中務式之弓矢。就木工寮受之。今案。陰陽寮作送之。慶雲三年始之。

(朱)土用以前日。主水司撰御生氣方井祭。立春供之。閏不用。

晦日。節折事。

後取事。

晦日。夜籠御藥事。御生氣方無便ハ用其者御方。南下侍、西後涼殿。東面中央戸前、東仁壽殿、北黒戸上。

撰吉日事。

荷前事。立春以前。大神祭以後云々。

一院后宮幷東宮御佛名事。一院后者内裏以前。東宮者内裏以後。

内侍所御神樂事。一條院御時始之。年來隔年行之。而承保以後每年行之。

此月圓宗寺被修法花會。不被置式日。只以吉日被定僧名日時。被准御齋會歟。(朱)延久四年十月廿五日始修之。

着鈦政事。

年中行事御障子之外多加之。（件御障子在南廊小板敷壁下。）
（朱）以或人本近注入之。朱注是也。仁安三年五
月十二日。於泉殿御所註加之。
（上正六六十四）黑點事。以後押小路內府（三條公忠）手跡本大概加之畢。
點無之處數多有之。

藤花押

永曆元年十一月十六日辰刻。爐下灸龜手書
畢。嚴親入道。御往年（永久二年六月廿五日晡時、）以大外記中
原師遠本。御書寫畢。今所書寫也。（式部大夫敎經。）而
仁安三月廿日申刻令書寫畢。雖被秘藏。枉所
令書寫也。以同本校點畢。

大法師良嚴

年中行事裏書云
殿上年中行事障子事。
仁和元年五月二十五日。太政大臣（昭宣公。）獻年
中行事障子。今案。彼年始被立年中行事障子
歟。（見小野宮記云々。）

小朝拜。
明日當御物忌或止之。堅固之時止之。永久元
年正月一日。無小朝拜。依堅固御物忌也。

廢務廢朝差別事。
西宮文云。廢務諸司不政云々。但廢務有三日
例。口傳云。廢務ハ一日被行也。不及數日。是
萬機之政。數日不可被棄置之故云々云々。仍
限一日云々。
廢朝諸司政如常。但天子不臨朝期云々。輟朝
同之。口傳云。廢務雖及數日。不可有擁怠云
云。是諸司不停政事之故也。

元日宴。
或本。今日節會。依天　九年十二月十三日論
奏。不舉音樂。今亦無之。

服赤尺寸。（九尺九寸。載太宰府解文。見行天台）
本朝月令曰。昔大足彥天王誅球磨噌唹。還駕

之時。於肥後國玉名郡長渚國釣此魚。帝問左右。吉備國朝勝見之。未知其名云々。帝曰。今俗見多物。卽云爾陪佐爾云々。委見月令第一。

參叙列人。帶劒人螺鈿劒魚袋。

永久二年正月七日。侍從實能參叙列。螺鈿魚袋。

七種菜。薺。蘩蔞。芹。菁。御形。須々代。佛座。

十二種若菜。若菜。薊。苣。芹。蕨。薺。葵。芝。蓬。水蓼。水雲。松。上皇供御相具松云々。若菘。コヲホネ歟。

七種粥。小豆。大角豆。黍。粟。箟子。署預。米。

七種粥。白穀。大豆。小豆。粟。栭。箟子。代大角豆。

八日。大極殿御齋會始。

淸和天皇貞觀元年正月八日。承和元年十二月。依大師之上奏。被始行之。

賭弓射禮。兵部手番。

正月御忌之時。三月行之。後冷泉後三條兩院今上之例也。今上六鳥羽院也

三月一日。兵部手番。十三日。射禮。十四日。賭弓云々。件日々大略爲式日云々。抑射禮可用三月十四日之由。見天曆九年二月廿五日公卿論奏。

二所大神宮年中御祭式日。

朔日。十一日。廿一日。

每月此三日。謂之旬日云々。參會宮司禰宜。宮中晝番直禰宜內人等云々。

二月九日祈年祭。四月十四日神御衣祭。六月十六日豐受宮祭。九月十二月同之。

同六月十七日皇太神宮祭。九月十二月同之。

別宮祭式日。

六月十七日。多賀祭。

十八日。荒祭宮祭。

十九日。朝瀧祭宮祭。

十九日。朝夕月讀宮祭。

伊佐奈岐宮祭。

廿　日。朝熊宮祭。
廿三日。瀧原宮祭。
並宮祭。
廿五日。伊雜宮祭。
九月十二月同之。
七瀨御祓。後冷泉院御時隔月行。火災御祭事。二條末、代厄御祭事。以上二事、除九月。
靈所祓。耳敏川。東瀧。川合。松崎。石影。西瀧。
大井川是也。
春日祭。
有穢延引之時。以中申日被行之。寬治七年十一月例。
諸院御讀經事。四ヶ日。第二日有引茶。第三日有御論義。
已上秋無之。仍官進例文。副天台興福寺竪義交名幷寺々輪轉文等秋不進。
三月
神祇官。
卜吉凶事。
問。天皇以今月三日。令奉北辰御燈給。無不淨氣。吉哉。卜不合。

推之有不淨氣。不吉也。
治曆元年九月一日　宮主權大副□兼親
奏覽之後。可置々物御厨子。但近來不必奏之。
曲水宴。
本朝月令曰。韓詩章句云。溱與洧方渙□万。謂三月桃花水下之時。鄭國俗。三月上巳日。此兩水上招魂。雄略天皇元年三月上巳幸後苑。
曲水宴云々。
中午日。石清水臨時祭事。天祿元年始祭之。
若有二午者用下午。但雖有二午。當國忌之時。尙可用上午。長治元年例也。
定臨時祭使等事。先祭三十日程。
石淸水臨時祭。使殿上四位。次第賀茂同之。使裝束如春日祭。公卿束帶。舞人陪從給當色。
代始依日次。雖非午日被行例。長曆元年三月廿二日庚子也。
依當國忌。用他午日事。
今案。若當十七日國忌者。可用廿九日。下午。
若當小月者。以五日被行之。若又當廿一日國

忌者。用上午歟。大月時以廿九日被行例。長保元。同二。長元六年也。小月時以五日被行之例。萬壽三。同四。長元三。康平三等也。寬治七年三月小。中午日〈十七〉當國忌。仍以五日被行之。

四月

十四日。東寺華嚴會事。

中午日。齋內親王禊事。

〔本〕今朝覽齋王以下之料牛幷所前驅事。〈齋王御料關白被引。自余山城國近江國獻之。〉

位記召給事。

近代久絕。大夫外記必可申行之云々。此事嚴親初度大外記。康平年中申行之後不行之。

廿四日。尊勝寺灌頂事。

兼日定僧名。東寺慈覺智證門徒。爲阿闍梨有論。慈覺智證門徒。遞爲導師。胎藏金剛界。兩年講之。一宗導師二年勤之。

五月

三日。左近騎射荒手結。　四日。右近同事。

五日。左近同眞手結。　六日。右近同事。

〔本〕二日。小五月事。延喜十七年有定停止。其後花山院御代有草代。

〔朱〕五日。圓宗寺御八講事。後三條院依遺詔。雖被停止國忌山陵。依當時國忌也。

着鈦政事。〈避別當衰日。佐以下於東市行之。東帶。或衣冠。〉〔以下〕

月令云。靡草死。可御行薄刑。〈四月。〉須孟夏行之也。而依神事難行廳政。仍仲夏行之。此又後漢書文畢。〔十二〕

後漢書和帝紀。十五年。有司奏。以爲夏至微凉起。靡草死。可以決小事。註曰。禮月令云。孟夏之月。靡草死。麥秋至。〔斷薄刑〕薄刑決小罪。鄭玄註云。靡草薺亭歷之屬也。臣賢按。五月小凉又生。可以言微凉起。今月令云。孟夏乃是純陽之月。此言夏至者。與月令不同也。

賑給事。小野宮記云、賑給コフト讀之云々。給字コフノ音。尤可謂。法律ニ供給ヲ供コフト續云々。無給音。此音津島歟。

六月

〔[illegible]〕大祓事。參議以下於朱雀門行之。十二月准之。有閏六月之時。其月行之。經信卿康保三年六月晦日記云。在後六月。今日祓可在後六月。諸無此事云々。可尋之。又服者猶可行之。作法如常云々。

〔[illegible]〕施米事。待仰可行云々。又天祿元年九月八日永宣旨。以年料米內。十一月以前令重納云々。備前百五十石。尾張五十石。鹽九十八石一斗四升五合。大膳職下之。

七月

〔[illegible]〕四日。延曆寺修禪大師忌日。

〔[illegible]〕七日。乞巧奠。觸穢之時停奠之。

〔[illegible]〕十九日。先帝御國忌。當時廢務。自今日於尊勝寺有八講事。件八講。以十六日可爲初日之由被定畢。而天永元年。依改元政始以前。自十九日行之。同三年。上卿以下所司存此由。自十九日行之。仍自今年。以十九日可爲初日之由。上皇被改畢。以十六日可爲初日之由。見院御本年中行事。

仁和寺理趣三昧。寛平法皇御國忌。

十九日。國忌。

堀河院。尊勝寺。宇多院。仁和寺。猶可尋之。

〔[illegible]〕廿四日。興福寺長講始事。冬嗣大臣忌日。

相撲人召合日。近衞將出居佐。闕腋。御覽之日同前。近衞司或用縫腋。

八月

〔[illegible]〕十六日。信濃勅旨馬六十匹。

〔[illegible]〕十五日。石淸水放生會。內裏依神事忌僧尼等。承和四年例。

九月

〔[illegible]〕十一日。大嘗祭事。章子。小安殿行幸以前。大殿

還御以前祭之。件行幸有雨ハ。可延引之由見舊記云々。此由寛治三年。故大殿被仰故經信卿云々。

（朱）十五日。東寺灌頂事。

（朱）十七日。二院御國忌。

十九日。玄朗大師忌日。

（朱）廿三日。弘景律師忌日。

廿九日。興福寺法花會事。七ケ日。

十月（朱）亥日餅。或秘記云。盛朱盤立紙。四枚。居御臺一本。女房取之。供於朝餉。次召藏人所鐵臼。入其上分持（摘）。令爲亥子形。以錦裹之。插於夜御殿帳臺四角。但臺盤所殿上之料。内藏寮進之。各人折櫃云々。

（朱）弓場始事。

（朱）十三日。東寺灌頂。永久元年。以阿闍梨次第被任僧綱。依長者權僧正寛助申請也。同年十月（朱）八日。智證大師忌日。十月會是也。園城寺修之。宣旨云。十月十三日。永可爲式日。元式日九月十五日也。

承和十年。依實惠上表。於東寺被始行二季結緣灌頂云々。

十一月五節有二丑時。用上丑例。

仁平二年十一月十一日辛丑。上丑。五節舞姬參入。同廿三日癸丑。下丑。五節不參。然者有二丑之時。可用上丑歟。

五節。

本朝月令曰。五節舞者淨御原天皇之所制也。（裏書）相傳云。天皇御吉野宮。日暮彈琴有興。俄示之間。前岫下ニ雲氣忽起。（非參文也）疑如高唐神女。髣髴應曲而舞。獨入瞻。他人無見。擧袖五變。故謂之五節云々。楚襄王宋玉遊高唐觀。

下酉日。賀茂臨時祭事。

（朱）今案。用五節後酉日云々。必五節以後。可有件事云々。

十二月
荷前事。立春近々之時。式日定之。當申日侍從定後日云々。又使立日事。無日次。陰陽寮雖撰申十三日。猶可用後日。其故前一日裏幣物事。當神今食後齋之故也云々。見村上御記云云。今按。十三日被立使事。間有先例歟。

元日侍從事。
口傳云。奏瑞可用經少納言者云々。又左上藹有親王者用之。大臣於陣定之。

(朱)御佛名事。
或人云。承和初有勅修之。(衍ヵ)或十九日御佛名。自今日至廿一日。但三ヶ日之間。撰吉日始修之。承和十三年十月廿七日格。自十二月十五日迄十七日三ヶ夜云々。仁壽三年十二月十三日格。改定從十九日迄廿一日三ヶ夜云々。貞觀十三年九月八日格。應安置一万三千畫佛像七十三(三ヵ)鋪事。元興寺大法師賢灌奏狀云。先師故律師靜安。承和年中。奉勅爲國家禮佛名內裏。漸遍天下云々。但內裏之料。納圖書寮。太政官一鋪。圖書寮一鋪。各廣六幅。高一丈六尺。行事二藹藏人奉仕云々。

或人云。比良山住僧靜安。勤修恒時。禮拜十六佛名經。聲聽禁中。入上皇御耳。即招請令禮佛名。其行遙聞之聽。(天暦)仍始修佛名於禁中。及七道諸國如此。

內侍所事。
內侍所者神鏡也。本與主上御同殿。(後三條院)故院被仰云。帝王冠巾子。左右有穴。是內侍所御同殿(脫字歟)之時。主上夜不能放冠給。御眠屢落。仍以插頭花。自巾子穴通御髻也。

垂仁天皇世。始御別殿。故院被仰云。內侍所神鏡。昔飛上欲上天。女官懸唐衣奉引留。是依此緣女官所守護也。

天德燒亡。飛出着南殿前櫻。小野宮大臣驚譽稱。神鏡下入其袖。寬弘燒亡。始燒給。雖陰圓

却不闕。諸道進勘文。被立伊勢公卿使。行成。宸筆宣命始於此。長久燒亡。件夜以少納言經信爲使奉出。女官誤先出太刀。次欲出神鏡之處。火已盛不可救。後朝灰有光。集之入唐櫃。自一條院御時。始十二月有御神樂。代始被奉四十合御供。內藏寮每月一日被奉例幣。御供二十合。大盤所紙二帖。內藏寮絹五疋。爲定幣料。幣串八筋。黑塗半文也。

年中行事頭書中依文字多別書之事

二月上丑日。園韓神祭事。二月朔日。當申日有春日祭。六日十八日晦日幷丑日也。以何日可祭園韓神哉。先例不定。或曰。以用春日祭後丑。以六日可祭。或曰。以中丑祭之。以十八日可祭云云。然而承平年中。以十八日祭。時稱神祇官過。已進過狀。猶以六日可祭。春日祭有故延引。以下申祭之時。至園韓神祭者。以何日可祭哉。寬治七年以上丑祭之。

七月十日。三省申春夏馬料文事。少納言辨輔。外記丞錄。參入就版。大臣宣。召。五位同音稱唯。六位次稱唯着座。若有四位。雖在下刑先得升。辨起申云。司々申セル政申賜と申。了着座。式部錄讀申目錄。兵部次之。中務次之。大臣惣判曰。縱。輔共起稱唯。丞錄之此。畢自下退出。然後辨官申政如常。

十一月中寅日。鎮魂祭事。內裏有穢之時例。延喜二十一年十一月廿一日見御記。內侍女藏人皆用代官。御衣縫殿寮以大藏省帛忽調之。宮內省有穢之時。於神祇官行之。天慶八年十一月廿三日之例也。諒闇年行之。天曆八。康保四例也。無倭舞。遣白御衣。但延長八年不行之。

廿四日。以中卯行新嘗祭。但至賀茂臨時祭者。若以中酉行之者。雖當十八日。撿前例以十二月一日被行。是康平元年例也。若依可有新嘗會祭後歟。

永正六年春之比。以左衛門督基督卿。本書寫之畢。

神事

一踐祚大嘗祭爲大祀。祈年。月次。神嘗。每年新嘗等祭爲中祀。大忌。風神。鎭花。三枝。相嘗。鎭魂。鎭火。道饗等祭爲小祀。

一風神祭已上。並諸司齋之。鎭花祭已下。唯祭官齋之。

一賀茂祭爲中祀。諸司齋之。園韓神。平野。春日。大原野等祭爲小祀。祭官齋之。

一小祀祭官齋者。內裏不齋。其遣勅使者齋之。

御服事

一大小諸神。及季冬奉幣諸陵。帛衣。卽位及元正受朝賀。袞冕十二章。

一朔日受朝賀。同聽政。受蕃國使表幷幣。及大小諸會。黃櫨染衣。

一本服二等以上親喪服。給錫紵。外祖父母又同。三等以下親及諸臣之喪服。除帛衣之外。通用橡色。

御畫事

一詔書勅書及勅符等。並用畫日。詔書勅書等覆奏文。並畫可。論奏及諸衛擬令人奏。並畫聞。

皇太子令旨用畫日。

廢朝事

一太陽虧。有司預奏 皇帝不視事。

一皇帝二等以上親。及外祖父母。右大臣以上。若散一位喪。三日。

一國忌日。三等親。百官三位已上喪一日。

觸穢事

一人死忌三十日。 產七日。

一改葬及四月以上傷胎。並忌三十日。其三月以下忌七日。

一六畜死忌五日。 產三日。

一喫宍及弔喪問病忌三日。弔喪問病。及到山作

所遭三七日法事者。雖身不穢。而當日不可參入内裏。

一六月十二月々次。十一月新嘗祭。前後散齋之日。僧尼及重服。觸情從公之輩。不得參入内裏。雖輕服人。致齋之前散齋之日。不得參入。餘諸祭皆同此例。

一緦無服觸。請假未滿限日。被召參入者。不得預祭事。

一宮女懷姙者。散齋之前退出。有月事者。祭日以前退出宿廬。不得上殿。其三月九日潔齋。預前退出宮外。

一甲處有穢。乙入其處。乙及同處人皆爲穢。丙入乙處。只丙一身爲穢。丁入丙處。不爲穢。

一宮城内一司有穢。不可停廢祭事。

月中行事

毎朔日。内侍所御供事。

毎朔日并十一日。内藏寮進旬御菓子事。

毎六齋日。御精進并殺生禁斷事。

毎十八日。二間觀音供事。

奏去月公卿宮外記并殿上諸陣所々上日事。

七瀨御祓事。

毎晦日。御祓事。

六月十二月晦日。神祇官奉仕御贖。并御巫奉御贖事。

毎晦日。中重掃除事。

日中行事

日給事。

日次御贄事。四衛府

朝候事。

日記事。

朝間。石灰壇御拜事。

辰一刻。上格子事。

辰四刻。主水司供御御盥并御粥事。

同刻。供乳事。

巳刻。供朝干飯事。
同刻。給侍臣食事。
同刻。御讀書事。
午一刻。供朝膳事。
未刻。供朝干飯事。
酉一刻。供夕膳事。
同刻。給侍臣食事。
日入時。主殿司奉御燈事。
戌一刻。下格子事。
亥一刻。瀧口文籍事。
同刻。供朝干飯夜侍事。
同刻。侍臣名對面事。
從同一刻至子四刻。左近官人夜行事。
從丑一刻至寅四刻。右近官人夜行事。
　右神事以下。月中行事。日中行事者。以右少辨賴繼本書寫之。前々年中行事點少々。以彼本點加之。青色是也。數家之點有之。且者可爲秘事而已。
　永正九年二月下旬　權中納言藤宣花押

（押紙）
師任　師平　師遠　師安　師元　師尙　師綱　師重　師季　師兼　師光　師宗　師蔭

　中原師遠
寛治二年十二月廿五日　任權少外記。
同三年正月　日　轉任少外記。
同四年正月　日　轉任大外記。
大治五年八月　卒。

　中原師元
保安二年正月廿三日　任權少外記。
同年十二月　日　轉任大外記。
安元元年五月　卒。

　中原師尙
仁平元年二月五日　任權少外記。
同年十月廿八日　轉少外記。

同三年正月廿三日　轉大外記。
建久八年　卒。

年中行事以廣橋殿藏本中御門大納言宣秀卿眞蹟寫之

寛政二年庚戌仲春　左京　藤原貞幹印

中原師遠
寛治二年十二月廿五日任權少外記。同三年正月轉任少外記。同四年正月轉任大外記。大治五年八月卒。

年中行事障子銘一册。中御門大納言宣秀卿眞筆也。予於堀川書店得之。其價鳥目十七。則加裏打着表紙。尤可爲秘本矣。愚勘載左。

御厨子所預若狹守紀宗直

禁秘鈔云。年中行事障子。向上戶立之。春東与也。一人路程置テ立ツ。

禁掖秘鈔云。かみの戶のまへに。年中行事の障子をたつ。春は東おもてにたつ。正月をとへむくるなり。

榮花物語云。玉のむらきく。此御時。御そくゐ。大嘗會。御はらへなどのほどの事ども。すべてめづらしくやむ事なきよ。かならず年中行事の御障子にも。かきそへられたるとども。いとおほくなむあなる。

玉葉云。承元四年九月一日丙戌。仲基來談云。(今、)事松殿御時。出居障子被書年中行事。被寫內裏事又殿中年中行事同書歟。是先例云々。

以宮內省圖書寮本加一校畢

續群書類從卷第二百五十二

公事部五

師元年中行事

正月太簇

元日平旦。拜天地四方事。寅刻於清涼殿東庭有此事。束帶如恒。寛平二年正月朔四方拜云々。

拜觀上皇女后事。

東宮朝覲事。皇太子成人時例。

御厨子所供御齒固事。早旦。

内侍所平旦御供事。除月勤之。二三日同之。

所司供屠蘇白散事。金谷云、一人飲一家無病。一家飲一里無病云々。

諸宮御藥事。三ケ日。

供御藥事。平旦。三ケ日。

御節供事。三ケ日。

受群臣朝賀事。神武天皇元年正月朔起。

院拜禮事。

小朝拜事。

宴會事。起于天照太神代。始于天平元年正月。

中務省奏七曜御曆事。

宮内省奏冰樣及腹赤御贄事。景行天皇御時始之。

式兵兩省進内外官補任帳事。

中務省進侍從并命婦歷名補任帳事。

治部省進威儀并諸國講師補任帳事。

進太政官參議以上々日事。
法勝寺十齋堂修正事。
内藏寮酒肴賜殿上男女房事。諸節日同之。
内侍所御供事。
院宮幷關白家拜禮事。
拜覲上皇母后事。
東宮朝覲事。皇太子成人時事也。
立春日。主水司獻立春水事。居折敷二枚。各一枚。於朝餉方向生氣方飮御。女房謂之若水。江師次第云。飮御若水之時有咒。萬歲不變水。急々如律令云々。
上子日。供若菜事。内藏。内膳。
上卯日。獻御杖事。持統天皇三年正月乙卯。大學寮獻杖八十枚云々。東宮。大舍人。作物所。若當節會。混諸司奏。同付内侍所。
關白家臨時客事。
二日。視告朔事。
三日。葛□正忌日事。
中宮大饗事。
東宮大饗事。

三日以前。奏官外記幷所々上日事。他月准之。近代官外記月奏。去年十二月幷今年正月十一日(十一日三字[illegible])奏。二月奏之。
四日。法成寺阿彌陀堂修正事。
同日。法性寺御八講事。四ヶ日。講師八人。聽衆十六人。
五日。始叙位議事。或用六日。依日之吉凶。推古天皇十一年。始行叙位事云々。
諸司申要劇文事。
六日。法勝寺阿彌陀堂。法成寺藥師堂等修正事。
七日。白馬節會及叙位事。[illegible]天武天皇十年正月七日。御小安殿宴。
白馬事。件奏事近代御出以前奏。イ中旦付内侍所（タラシノ）
兵部省御弓奏事。
圓宗法勝尊勝法成等寺修正事。各七ヶ日。十四日結之。
八日。大極殿始御齋會事。天武天皇九年。始說金光明經於宮中及諸寺。
修眞言法事。謂之後七日御修法。
修太元帥法事。常曉律師入唐傳來。承和二年始行於承香殿。[illegible]七日御修法イ。
女叙位事。隔年行之。或撰吉日行之。イ近代之例也。
賜女王祿事。參議弁官各一人行之。

圓宗法勝尊勝最勝法成寺等金堂修正事。
九日。始外官除目議事。
十日。諸司申親王以下月料文事。
三省申諸司秋冬馬料文事。
十一日。眞諦三藏忌日。
同日。戒賢和尚忌日事。
十一日。除目事。天武天皇四年三月始任官云々。イ三ヶ日。避御衰日并執柄衰日。
十三日。昭宣公御忌日。寛平三年薨。
十四日。御齋會終事。諸寺進卷數於藏人所事。
殿上論義事。弘仁四年正月。始有此事。御物忌之時南殿イ。
男踏歌事。近代不被行之。
諸寺進卷數於藏人所事。
最勝光院御八講始事。四ヶ日。高倉院御國忌。
十四日。慈覺大師忌日。於前唐院修之。二日八講也。
圓乘寺御八講。四ヶ日。講問共八人。後朱雀院御國忌也。
十五日。主水司獻七種御粥事。付女房。
宮內省進御薪事。天武天皇白鳳二年癸酉。始供御薪。イ宮內省弁着行之。

奏給諸司秋冬馬料目錄文事。
內藏寮酒肴給殿上男女房事。
兵部省手番事。上卿參入行之。イ依本省申差殿上人。
圓乘寺御八講始事。四箇日。後朱雀院御國忌。
每月十五日。法勝寺集會事。
十六日。踏歌節會事。天武天皇三年正月。拜朝大極殿。詔男女無別踏歌。イ明日射禮於建禮門被行時。不開件門。天平元年正月十四日。始有踏歌。聖天武天皇御宇。
三省進去年冬季祿事。春秋准之。
民部省進諸司大粮文事。
十七日。射禮事。天武天皇九年正月。大射宮門內。於建禮門行之イ。弘仁二年正月。御豐樂院觀射禮。
明日。射遺事。
仁壽殿觀音供事。他月同。東寺長者勤之。
十八日。賭弓事。貞觀二年正月十八日。車駕幸豐樂院觀之。
仁壽殿觀音供事。餘月亦同。東寺長者勤之。里內裏時於眞言院修之。
廿一日。內宴事。廿一二三間。有子日件日行之。長元以後久不被行。イ若有內宴年。三月有殿上賭射。
國史云。嵯峨天皇弘仁三年幸神泉苑。覽花樹。令文人賦詩。花宴節始於此。

諸司進去年々終帳事。

諸國一分除目事。

廿五日。國忌事。イ廢務。贈皇太后苡子。今上母儀。東寺。

晦日。神祇官奉御麻事。每月奉之。

御巫奉御贖事。他月同之。仲哀天皇御時始之。

撰吉日事。

外記政始事。

大臣候吉書奏事。近代必無此事。

除目事。三箇日。

大臣家饗事。御齋會之間用菜。不用魚味。又十四日行例。小野宮九條殿近代每年不行。新任大臣明年行之。上古四日左大臣饗。五日右大臣饗也。貞信公依避殺生。御齋會間精進饗。其後式日。(此下恐脱文)

七瀨御祓事。餘月同之。

火災御祭事。餘月同之。

代厄御祭事。同。

法勝寺季御修法事。

一院尊勝陀羅尼供養。

大臣候吉書奏。

二月夾鐘。新年祭以前。僧尼重輕服人不可參内事。

上丁日。釋奠事。當祈年及日蝕用中丁。八月准之。若重延引時停止。不用下丁云々。イ孝經[illegible]論語[illegible]傳論語講之

明日。獻胙事。

上卯日。大原野祭事。當日使立。園韓神祭者。何日可奏哉。延喜御記云々。上卿掌侍參向。

二宮使立事。

關白家神馬事。

上申日。春日祭事。未日使立。イ内藏寮。イ近衞馬寮藏馬使不參内下向。

二宮使立事。

關白家神馬事。

鹿島祭使發遣事。イ未日陣覽官符。勸學院別當弁加符者。長者以院差文被奏。

平岡祭事。イ河内國。

上酉日。率川祭事。用春日祭明日。

上丑日。園并韓神祭事。イ若有三丑者用中丑。但春日祭後丑云々。イ春日祭有故延引。

以下申祭之時定。

行基菩薩忌日事。

白川新阿彌陀堂修二月。

イ二日。平等院御忌日事。

天親菩薩忌日事。
三日以前。京官除目事。
四日。新年祭事。廢。有前後齋。於神祇官行之。
八日。祇園御八講事。五箇日。
十日。三省申考選(カウゼン)目錄事。
同省申皇親時服目錄事。
十一日。列見選人事。於太政官行之。公卿以下弁少納言外記史等皆參。
十二日。圓融院御八講始事。四箇日。請僧八人。件日圓融院御忌日也。
十三日以後。官所充事。於朝所設小膳。大夫史以下定之。弁史等文申一上。史生以下文申直弁覽之。
十五六日。興福寺常樂會事。
十七日。轉輪院修二月事。
十八日。安樂心院御八講始事。五箇日。後鳥羽院。寬元二年二月十九日始行之。
十九日。圓宗寺最勝會始事。五ケ日。イ定僧名事。延久五年始修之。
廿二日。於大藏省給春夏季祿事。

廿五日。北野御忌日事。自天仁二年。依夢告於吉祥院修之。諸儒參入。
撰吉日事。
祈年穀奉幣事。廢務。前十餘日。上卿奏仰定申サル。
臨時仁王會事。或三月。但先一月餘。可定日時僧名等。禁殺生符可給諸國行程歟。
定臨時祭使之事。先祭三十日程定之。
位祿定事。或三月。近代動及歲暮歟イ。一上行之。
季御讀經事。四ケ日。或三月。僧名定等兼日被行。仍官進例文。
擬文章生試事。イ近代隔兩三年行之。
諸院宮御讀經事。四ケ日。
定臨時祭使等事。
二月廿八日。八月廿二日。於大藏省可給春夏秋冬季祿事。每季充給。

三月 沽洗。

二日以前。僧尼重輕服人不參內事。又官奏不可候。九月同之。
一日。奏御燈御卜事。
差定造茶使事。
三日。御燈事。廢務。若御卜不合者。有其由御禊。藏人以下束帶。イ曲水宴。雄略天皇元年上巳幸後苑。曲水苑云々。

御節供事。內膳司。
內藏寮酒肴事。給殿上男女房及藏人所也。
四日。諸司要劇文事。
七日。惠威大師忌日。
七日。始藥師寺最勝會事。七ケ日。源氏弁若氏人行之。
九日。長講堂御八講始事。五ケ日。後白河院御國忌。
十日。法勝寺不斷念佛始事。三ケ日。公卿以下不必束帶。於阿彌陀堂被行之。
イ十一日。白川熊野祭事。
十四日。東大寺華嚴會事。
十五日。西大寺成道會事。
中辰日。石清水臨時祭試樂事。或巳日。
八日(マヽ)。高雄法花會事。
後朝。所雜色等差定祭前駈事。
中午日。同祭事。若當國忌。又有二午者用下午。自天祿元年始之。
明日。使以下歸參射場殿事。
同日。所雜色等差定祭前駈事。

十五日。清水寺長講會事。
十七日。國忌事。廢務。桓武天皇。西寺。
廿一日。弘法大師忌日。
廿一日。國忌事。廢務。仁明天皇。東寺。
同日。法全阿闍梨忌日。
廿四日。尊勝寺灌頂事。
晦日。鎭花祭事。神祇官。
授戒事。東大寺授戒事。イ三年一度。
撰吉日事。
京官除目事。近代及歲暮。
東大寺授戒事。三年一度。
觀音院灌頂事。
眞言院孔雀經御修法事。イ勸學會事。
天台舍利會事。慈覺大師始行。貞觀二年始行。總持院。無定日。用山花盛時。

四月中呂。
賀茂祭以前。僧尼重輕服人不參內事。有觸佛。自九日忌之。
一日。道遂和尚忌日。
一日。改御裝束事。イ朔日。所司供夏御座事。

定廣瀨龍田祭使事。イ定可向廣瀨龍田祭使五位事。

朔日。視告朔事。

同日。旬事。無御出時。宜陽殿平座事。自御所被仰無御出依例可行之由。

宜陽殿平座見參。

掃部寮撤冬御座供夏御座事。

主水司始貢氷事。イ近代五月供之。起今日盡九月晦日供御。

近衞兵衞府進御扇事。

上卯日。大神祭事。丑日使立。有三卯時用中卯。

二宮使立。東宮必用六位進。冬屬。

稻荷祭事。有三卯時用中卯。

宗像祭事。イ官幣不立。

上巳日。山科祭事。當日使立。寛平十年依宣旨初之。

上申日。平野祭事。當日使立。其使殿上五位中帶劍者差定。衞府着闕腋等。或有用縫腋白重蒔繪劍者。[illegible]

上酉日。松尾祭事。當日使立。

二宮使立。

關白家神馬事。

杜本祭事。午日使立。

當麻祭事。午日使立。

當宗祭事。午日使立。仁和五年始之。

梅宮祭事。當日使立。元慶始之。

二宮使立。

關白家神馬立事。

二日。中務省申宮人夏衣服文事。

イ三日。擬階文進事。

三日。國忌事。

左右衞門壞弓場埒事。土用之時不忌之。以草築之故也。近代被忌。不可然。

四日。廣瀨龍田祭事。廢務。

五日。中務省申妃夫人嬪女御夏衣文事。

同日。二省請印准蔭位記事。

七日。同省奏成選短册事。慶雲四年正月。天皇御大極殿授之。イ十一三日請印。十五日授。

擬階奏事。

八日。灌佛事。イ若當神事停之。承和七年始之。於淸涼殿行之。公卿以下束帶。

諸院宮御灌佛事。

彈正撿察東西寺事。七月十五日亦同。

十日。中務省奏女官春夏時服物文事。

十日以前、定齋王前駈事。大臣定申。若有障、行齋院事上卿定也。

十一日。式部省請印成選位記事。

十二日。内弓場造埒事。

十三日。兵部省請印成選位記事。

十四日。伊勢神衣祭事。

法成寺阿彌陀堂御八講始事。イ四日。講問各八人。

十五日。召給位記事。若當賀茂祭。十七日行之。イ着座弁爲宣命使。若無着座弁少納言。近代邑。近代久絶。大夫外記各可申行也云々。此事大外記師平康平年中申行之後不被行云々。

十五日大寺安居事。

延暦寺授戒事。

十六日。新東北院八講始事。イ四日。講問各四人。終十九日後冷泉院御國忌也。

十九日。後冷泉院御國忌事。於法成寺有御八講。

中卯日。齋王御禊點地事。

中巳日。定垣下事。

中午日。齋内親王禊事。イ今朝覽齋王以下料事。藏人頭合並女騎馬、御前裝束如節會。不付魚袋。禁色所聚爲前駈。

中未日。警固事。

御覽女騎料馬事。

中申酉日。賀茂祭事。酉日廢務。當日使立。

中酉日。覽男女被馬事。

中申日。賀茂國祭事。

日吉祭事。件社。長久四年六月八日。被下毎歲立内藏寮幣宣旨。

關白賀茂詣事。

賀茂松尾社司獻葵桂事。

中酉日。賀茂祭事。廢務。若朔日當酉日者。下酉行之。

中山祭事。イ座冷泉院給石帯也。自後冷泉院御時預官幣。

獻桂葵事。

中戌日。解陣事。

齋王還野宮事。

十七日。後一條院御八講修事。法成寺。
十九日。後冷泉院御八講修事。新東北院。
中子日。吉田祭事。有二子用下子。若有三子者用中子云々。當日使立。上卿以下掌侍參。
二宮使。
關白家神馬。
立東大寺授戒使事。
廿日以前。式部省奏郡司擬文事。
任郡司事。
廿四日。傳大士忌日。
五位以上不堪進五月五日走馬事。
廿五日走馬結番事。
廿八日。牽駒事。近代不被行之。小月廿七日。
晦日。新日吉祭事。
神衣祭事。
三枝(サイグサノ)祭事。
五月蕤賓。
三日。六衞府獻昌蒲幷花事。騎射事也。有裏書。

四日。奏走馬結番(ツガヒ)幷毛色(ケツケ)事。
晩。主殿寮葺內裏殿舍廻廊諸門昌蒲事。
五日。節會事。近代不被行之。五日節會事久絕。就中承保聖代已當御忌月。但未被下停止件節詔。如何。
書司供昌蒲事。
絲所(イトシドコロ)供藥玉(クスダマ)事。イ先是進請奏結付御帳。
典藥寮供昌蒲事。立明義門幷殿上前。
內膳司供早(ハツ)瓜事。差內豎遣常住寺。件早瓜依山城御園所供也。而件御園桓武天皇所建給也。又常住寺(ワサ)被御願也。仍遣之歟。
內匠寮進瓜刀事。
御節供事。
內藏寮酒肴事。給殿上男女房及藏人所也。
圓宗寺御八講始事。四ケ日。後三條院御國忌。
同寺常行堂不斷念佛事。
六日。驗眞和尚忌日事。十五日。嘉祥大師忌日。廿六日。大師忌日。惠廬和尚也。
六日。競馬事。

七日。國忌事。後三條院。圓宗寺。以七日充五卷。講問八人。五日始之。依遺詔不被置廢務。不被立山陵使。仍上日不休日也。

九日。三條院崩御事。

九日。新日吉小五月會事。

廿日。安樂光院御八講始事。七ケ日。後高倉院御國忌。

京中賑給事。

廿五日。村上天皇崩日事。謂有無日。イ宮中謂之有無日。雖非廢ニ無政ナ結政。

晦日。伊勢齋王禊事。

撰吉日事。

主水司供氷事。或云。自四月一日可供之。近代待御始之。

最勝講事。イ五ケ日。於數日被定僧名等。於御殿行之。公卿以下束帶。最勝講ニ。服者不可參內。

賑給事。伍參陣定使。寅申日及欠日不賑給云云。ノ野ノ說云。賑給アウト讀云々。

着鈦政事。

六月林鐘。

十一日以前。重輕服人幷僧尼不參內事。此事起自後朱雀院御時云々。見江記。

一日。內膳司供忌火御飯事。イ未明供之。

中務省奏御暦事。

造酒司始獻醴酒（レイシユ）事。イ起自今日盡七月卅日。

神祇官始奏御贖事。イ迄八日御巫子持參。

イ內藏寮進櫛事。

三日。奏侍臣幷出納夏等第（トウダイ）文事。副月奏奏之。

イ四日。傳教大師忌日事。六月會是ナリ。以今日充第七日。

十一日以前。官奏不可必候。十二月同之。

十日。神祇官奏御體御卜事。イ上卿立弓場殿云々。今日以前不奏封戶文。十二月同之。太政官式曰。一日始齋。九日卜竟。十日奏之。

十一日。月次祭事。於神祇官行之。十六日度會宮。十七日大神宮。イ廢務。イ十二日有後齋。近代事也。

同日。神今食（シンコンジキ）事。廢務。

後曉（ゴヤニ）。大殿祭事。イ神祇官奉仕也。

十二日早旦。供解齋御手水幷御粥事。イ主水司供御手水也。

十四日。祇園御靈會事。

イ十五日。不空三藏忌日。

十五日。感神院走馬勅樂等事。天延三年始被奉幣。

十六日。感神院臨時祭事。イ使殿上五位。天治元年始之。又東遊音樂。

被調獻。有官命。

新熊野六月會事。

廿日。任相撲司事。

廿日。行滿座主忌日。

廿一日。國忌事。イ廢務。贈皇后茂子。東寺。一説母儀贈皇后茂子。

法性寺御八講。始自十八日。

廿二日。南嶽大師忌日。

廿二日。圓教寺御八講始事。一條院御國忌也。

廿八日。法興院御十講始事。來月二日終。大入道御忌日。

廿九日。最勝寺御八講始事。四ケ日。鳥羽院御國忌。

晦日。道饗祭事。宮城四隅。

鎭火祭事。

晦日。國忌事。東寺。

同日。神祇官奏荒世和世御贖事。十二月准之。

縫殿寮獻同御服事。イ本奉荒世和世御服事云々。

大祓事。

東西文部奉祓刀事。

節折事。於御殿二間被行之。

齋院禊事。

今夜。神祇官供荒世和世御裝束事。

撰吉日事。

施米事。一大臣參陣定申。

七月夷則。

朔日。視告朔事。

同日。定應向廣瀨龍田祭五位事。(使脱歟)

同日。中務省進女官補任帳事。

同日。式兵兩省進內外官補任帳事。

官政事。近代不行。然而上官參結政。近代於官東門滿刻限。

二日。鳥羽院崩御事。

法興院御八講事。入道大相國。

二日。鳥羽院御國忌事。於鳥羽御塔有此事。

三日。法勝寺御八講始事。五ケ日。白河院。

四日。修禪大師忌日。

四日。廣瀨龍田祭事。廢務。

七日。御節供事。內膳司。

（イ）內藏寮弁備節會事。

內藏寮酒肴給殿上男女房事。

（イニ）掃拭御調度事。

乞巧奠事。於御殿庭。藏人行之。

織部司織女祭事。

（イ）法勝寺御八講事。

白河院御國忌事。

八日。文殊會事。捧物絗文。兼日差當任受領十人。各絹二匹。遣於東西寺行之。

最勝光院御八講始事。五ケ日。建春門院。

十日以前。相撲人入京事。

十四日以前。給女房女官等節料事。

侍臣等中間給米事。

十四日。盂蘭盆供事。

御盆事。於御殿御拜。或只遣寺家。

十五日。盂蘭盆事。天平五年七月。始備盂蘭盆饌供於大膳職。

彈正撿察東西寺事。

十六七日間。相撲召仰事。

十八日。大多勝院御八講始事。五ケ日。贈后通子。

十九日。堀河院御國忌事。尊勝寺御八講日。不斷念佛始事。件御忌日十六日也。而天永元年改十九日。廿日修之。忠仁公始行。（考）幹按疑錯簡。

尊勝寺御八講始事。四ケ日。堀河院。

仁和寺理趣三昧事。

廿三日。近衛院御國忌事。

廿五日。相撲節事。垂仁天皇七年戊戌。始有相撲事。

後日。御覽相撲人事。

廿六日。相撲內取事。小月廿五日。

廿八日。相撲召合事。小月廿七日。

廿九日。同拔出事。小月廿八日。

撰吉日事。

祈年穀奉幣事。（イ）變格。廿二社。

仁王會事。或八月。

八月南呂。

上丁日。釋奠事。上丁當日當國忌用中丁。若重延引停止。不用下丁。

明日。献胙事。大學寮行之。當北野祭可延引云々。

明日。博士引得業生等參內裏論義事。冊經論義事。雖無論義。上卿參陣。博士參入。令奏事由。藏人給祿。

一日。勸修寺八講始事。四ケ日。三條右大臣定方忌日也。

四日。國忌事。

北野祭事。元者五日也。有官幣。後冷泉院御時。依當國忌。母后。改用四日。當時被停止被國忌。而未被下依舊可用五日宣旨歟。可尋。但近代四日祭。五日御靈會也。

關白家神馬。

五日。安樂光院御八講始事。二ケ日。後堀河院。

六日。御國忌事。

七日。牽甲斐國イ穗坂御牧御馬事。延期之時。進逗留解文。他效之。

郁芳門院御國忌事。六條院。

十日。法性寺御八講始事。五ケ日。十二日上官參入。貞信公御忌日也。

十日。別當大師忌日。光定。

十一日。官定考事。

明日。小考定事。イ秩父弁一人行之。用近江早米。無欵料時或延引。

十三日。牽武藏國御馬事。

十四日。法性寺八講竟事。貞信公。十日始。

十五日。金剛智三藏忌日。

十五日。石清水放生會事。內裏依神事忌僧尼等。承平四年例。自後三條院御時被立奉幣使。弁上卿以下參下。諸衛帶弓箭如行幸儀。上卿參議雖衛府不帶弓箭云々。或帶之云々。

關白家神馬。

後奏事。

十五日。牽信濃勅旨諸牧御馬事。イ近代十六日。

十六日。信濃駒牽事。勅旨諸牧六十疋。

十七日。牽甲斐國御馬事。斐穗坂卅疋。或廿疋。

十九日。玄朗大師忌日。

廿日。牽武藏國イ小野御牧御馬事。

廿二日。法皇仁和寺御八講始事。

待賢門院御國忌事。イ三日

廿三日。牽信濃國御馬事。廿疋。諸牧六十疋。

廿三日。弘景律師忌日。

成勝寺御八講始事。四ケ日。崇德院。

廿五日。牽武藏國勅旨牧并立野御馬事。諸牧卅疋。立野

廿七。
廿六日。國忌事。廢務。光孝天皇。西寺。
廿八日。奉上野國勅旨御馬事。近代勅逗留。
撰吉日事。
季御讀經事。或九月。
諸院宮御讀經事。

九月無射
十一日以前。僧尼重輕服人不可參內事。
一日。奏御燈御卜事。
差定地黃煎使事。
二日。奏可釀新嘗會白黑二酒料文事。付內侍所奏之。
三日。御燈事。廢務。有群行年可停止歟。
イ七日　奏諸國言上不堪田解文事。
七日。不堪田奏事。二日申大弁。五日不堪申文事。其後有定并奏。
九日。重陽節會事。近代不被行之。
書司供菊事。
典藥寮獻茱萸事。結付御帳東柱。
無節會年。宜陽殿平座事。上卿令奏可給侍從等菊酒由。依節會儀着粉熟。

御節供事。內膳司。
內藏寮酒肴事。
十一日。奉伊勢大神宮幣事。廢務。十六日度會宮神甞會。或有行幸。奏下幣料宣旨之以前。示其由於上卿云々。此幣一上必被奉行。
十二日。有後齋如六月云々。近代例也。
例幣云々。有群行年。至十八日齋事。
大殿祭事。
十五日。東寺灌頂事。
廿二日。中宮御國忌事。賢子。堀川院母后。法成寺。御佛事三ケ日。
法勝寺御念佛始事。

〔以下至十月五日原本闕〕

六日。興福寺法花會事。內麻呂忌日。
七日。國忌事。廢務。崇道天皇。件國忌近代公家以下不被向。
坊城殿御八講始事。五ケ日。土御門院。
八日。一行阿闍梨忌日。
十日。中務省奏給後宮并女官冬時服文事。
十日。白樂天忌日。

同日。興福寺維摩會始事。七ケ日。十六日竟。氏弁行之。
十三日。東寺灌頂事。永久三年十月七日被仰下也。
十七日。吉祥院御八講事。清公御忌日。
十八日。龍樹菩薩忌日。
廿日。中務省申宮人成選位記事。
廿一日。競馬負方献物事。
同日。大歌所始事。
廿四日。法勝寺大乘會始事。五ケ日。前後并第四日上官皆參。中間行事被參。公卿侍臣猶可皆參歟。華嚴大乘大品法華涅槃日別講也。法華日有捧物。
廿九日。智證大師忌日事。園城寺十月會是也。
撰吉日事。
定臨時祭使以下事。先祭卅日。
大粮申文事。一上著陣行之。
十一月　黄鐘。新嘗會以前。僧尼重輕服人不參內事。近代例。
朔日。內膳司供忌火御飯事。同六月。
同日。中務省奏御暦事。付內侍所。
暦給諸司事。

同日。神祇官始奉御贖事。迄八日。
同日（イ上卯日）。諸司進考選文事。
有朔旦冬至年。旬事。
典藥寮進地黃煎事。豫定使。
上卯日。相嘗（アヒンヘ）祭事。神祇。
賀茂齋王遙拜事。
宗像祭事。官幣不立。
明日。齋院神樂事。
七日。善無畏三藏忌日。
上巳日。山科祭事。當日使立。
十一日。靜觀大師忌日。
上申日。平野祭事。當日使立。
二宮使。
關白家神馬。
十三日。慈恩大師忌日。
同日。春日祭事。未日使立。
同日。杜本祭事。午日使立。

同日。當麻祭事。午日使立。用春日祭明日。
上酉日。率川祭事。用春日祭明日。
同日。梅宮祭事。當日使立。
　二宮使。
　關白家神馬。
同日。當宗祭事。午日使立。
中山祭事。
松尾祭事。冬弁不參云々。
十日。三省申位祿目錄事。
同日。申源氏冬衣服文事。
中子日。大原野祭事。當日使立。若有二子用下子。
　二宮使。
　關白家神馬。
中丑日。園幷韓神祭事。用新嘗會前丑。
同日。宮内省奏御屯田(トンテンタノカムタ)稻數事。
五節儛姫參入幷帳臺試事。
卜小忌納言以下事。

中寅日。鎮魂(タマシツメノ)祭事。雖御服尚行之。
令卜明日侍臣小忌合(カノノ)否事。
中宮鎮魂事。皇后雖懐妊尚有之。
五節儛姫於御前試事。
有朔旦冬至年。議叙位事。
中卯日。新嘗祭事。廢務。若有卯二者可用下卯歟。
御覽五節童女事。
大殿祭事。
卜女房合否事。
中辰日。宴會事。
早旦。供解齋御手水幷粥事。
朔旦冬至年。有叙位事。
中巳日。東宮鎮魂祭事。東宮鎮魂内裏爲神事。依遣勅使歟。内侍參入。又上卿參。御服時猶被行。
同日。賜女王祿事。大嘗會年雖午日行節會。至女王祿者。猶巳日於宮内省行之。
中申日。吉田祭事。當日使立。若有二申若用下申。
　二宮使。

關白家神馬。

日吉祭事。

五十日。奏給位祿文事。

中旬。陰陽寮擇定元日童子女衣色奏スル事。

下卯日。東三條神樂事。

下未日。臨時祭試樂事。

下酉日。賀茂臨時祭事。當日使立。

同夜。御神樂事。有障若依雨無御神樂時。於弓場殿給祿。

廿四日。天台大師忌日事。

晦日。法成寺御八講始事。五ケ日。四日上官參入。

十二月大。十一日以前。僧尼重輕服人不參內事。揭自從朱雀院御時見江記。

朔日。內膳司供忌火御飯事。

內藏寮進櫛事。

神祇官奉贖事。

上卯日。大神祭事。寅日使立。若有三卯用中卯。但立春在中旬時用上卯。用荷前以前日故也。

二宮使。

三日。國忌事。廢務。崇福寺。天智天皇。自餘國忌者隨時廢之。此國忌者長不廢之。

但參議以下不參時。寺家行之。

奏冬等第文事。

四日。法成寺御八講終事。始去月晦日。入道殿御忌。二日上官參入於寺。講師一人。聽衆卅人。

五日。奏親王冬衣服文事。

定荷前日事。

九日。中務省奏衣服事。

十日。奏御卜事。

同日。陰陽寮勘錄來年御忌進內侍事。

十一日。月次祭事。廢務。

同日。神今食事。延久三年十二月十一日辛酉。今日依當衰日并物忌。不出中院。神今食付所司令行之。寺刻於石灰壇上。奉拜太神宮。

大殿祭事。

十二日。早旦供解齋御手水并粥事。

十三日。預點定朝拜侍從及奏賀事。及立春時也。長和元年。同四年例也。又當申日時。擬侍從定。後日行之。

十五日。惠果阿闍梨忌日。

十五日。最勝寺灌頂事。

十八日。作物所請申明年卯杖料物事。

荷前事。大神祭以後。立春以前。

十九日。御佛名事。三ヶ日。

慈徳寺御八講始事。四ヶ日。十九日始。東三條院。

道饗祭事。

鎮火祭事。

廿日以前。式部省諸國主典以上幷史生博士醫師秩滿帳進藏人所事。

進物所請物事。

出野ノ倉ノ藥事。

下午日。御髪上ミクシアゲノ事。或中午。立春以前。

廿三日。國忌事。廢務。光仁天皇。東寺

廿九日。進物所請御器事。

先立春廿日。定立春御井事。

典藥寮進龍(疑衍)御藥幷封屠蘇井事。

給女房女官等節折事。

大寒日。立土牛童子事。

土用前日。主水司撰御生氣方井祭事。イ宮中省只中并

晦日。宮内省奏御藥事。

同日。東西文部奉祓刀事。

同日。縫殿寮奏荒世和世御贖事。

荒世和世御裝束事。

同日。大祓事。

同日。追儺事。長保二年十二月廿八日記云。女院崩御。今年不可追儺鬼歟。但東師儺之。延曆八年十二月廿八日。太皇太后崩。無儺鬼事。

大寒日夜半。諸門立土牛童子事。

節折事。

今夜。典藥寮寵御藥事。

以屠蘇白散漬御井事。在典藥寮異井也。但近代無件井。仍用后町井。

定後取事。

撰吉日事。

荷前事。

着鈦政事。

一院后宮幷東宮御佛名事。

一院后宮幷東宮荷前事。

御齋會先奏事。

內侍所御神樂事。

圓宗寺法花會事。五ケ日。其日上卿被定申僧名。廿日。日時近代及歲末也。

同最勝會事。

始延曆寺御修法事。

道饗祭事。

鎭火祭事。

觀音院灌頂事。

最勝寺灌頂事。

東寺灌頂事。

〔原本此間有闕脫〕

晦日。藏人令昔元三後取押殿上北柱事。元日四位。二日五位。三日六位。但近衞次將有差。

次籠御藥事。生氣方無便者。用養者方。南下侍。西後涼殿東面戶前。東仁壽殿西渡殿。北黑戶上。

經賴卿記云。長元二年十二月廿七日辛亥。參御前。奏着鈦政之案內。頃之右衞門權佐雅康。令藏人資通奏云。佐無別當。〔依政〕未行着鈦政。爲之如何。仰。佐以下依例可令行者。雅康退出。今日着鈦政云々。

同卿記云。寬仁元年五月廿九日。有著鈦政云々。大外記文義云。依故三條院崩御事。廢朝之後。未被始外記政。近代之例。始外記政之日。始撿非違使廳政也。而外記政以前着鈦政云々。如何。就中院御四十九日未畢間。所行如何者。

追儺刻限事。

寬德元年十二月卅日記云。今日追儺也。上卿權中納言資平卿以下參入。以左少弁資仲奏云。刻漸到。早申行。如何。仰云。天下之動靜。唯依追儺遲速。而近年不待刻限。急行退出。故災孽頻發。人民不安。於今年者。慥守刻限可申行者。上卿資平以下。深所畏申也。

內侍所事。

內侍所者神鏡也。本與主上御同殿。故院仰云。帝王冠巾子。左右有穴。是內侍所同殿之時。主上夜不能放冠給。御寢之時。御冠應落。仍以插頭花。自巾子穴通御髻也。

垂仁天皇世。始御別殿。故院仰云。內侍所神鏡。昔飛出欲上天。女官懸唐衣奉引留。依此女官所守護也。

天德燒亡之時。飛出着南殿前櫻。小野宮大臣稱警。神鏡下入其袖。

寬弘燒亡。始燒給。雖陰圓規不闕。諸道進勘文。被立伊勢公卿使。行成。宸筆宣命始於此。

長久燒亡。件夜以少納言經信爲使奉出。女官誤先出太刀。次欲出鏡之所。火已盛不可救。

後朝灰有光。集之入唐櫃。自一條院御時。始十二月有御神樂。代始被奉四十合。內藏。每月〔註二〕所被奉例御供二十合。大盤所紙二帖。內藏寮

絹五疋。爲定幣料。幣串八箭。墨塗平文也。

奥書

文治五年二月之比。申請大納言殿御本。自所書寫也。同二月廿八日書。

此書本書云

此年中行事。師元朝臣所鈔出也。裏書勘物等同之

亞將藤原花押

〔註〕圖書寮本。是ヨリ以下貞幹奥書ノ前迄ヲ正月ノ前ニ置ケリ。

障卷紙注字

年中行事御障子本ト云ニ二樣アリ。一ハ昭宣公ノ奉リ給シ御障子ノ文ヲ。其儘ニ寫タルヲ云。一ハ行成卿書傳ラレシ年中行事ニテ。是モ御障子本ト云。其故ヲシラズ。

年中行事御障子。往古ハ筆者ヲ撰レシコトモキカズ。サレバ昭宣公ノ奉リ給シ御障子モ。誰書シトモミエズ。後ニ行成卿ノ寫シ置レシ年中行事ヲ御障子本ト云テ。ソノナガレニ傳テ。

ソレヲ手本トシテ。御障子ヲ書ル丶ナリ。此御障子本燒失ス。今ハ傳ラズ。寫ノミヲロ〱殘レリトゾ。御障子本ヲ手本トセヌ已前ハ。能書ヲ撰テカ丶サレシヿモナシ。タトヘバ新加ノ行事ヲ書入ラル丶ニ。藏人シテカ丶シメラルルガ如シ。

新加ノ行事アレバ。假ニ書加ラル。廢セラル丶行事ハ點ヲカケラル。國忌モ廢置ニシタガヒ此ニ同ジ。修覆ノ日本行ニ書入ラル。

攝籙家ノ御障子ハ。禁中并院宮共家ノ行事マテヲ書載ラル。以下十餘字許裂テ不分明。

禁中ノ御障子。表六月晦日マデ。裏七月ヨリ九月ノ下ニ。神事以下ノ事ヲ書入ラル。昭宣公ノ奉ラレシ御障子ノ體ナリ。御調度拂拭ノ日カエシ立ラル。攝籙ノ家ノ御障子ハ。神事以下ノ文モナク。十二月ノ公私ノ行事ヲ。兩面ニ書ツメルナリ。カヘシ立ルコトハナシ。

幹按。師緒年中行事曰。彼裏ニ注スルト同文ナリ。而メ彼レハ第二條及第五條ノ文ナシ。

〔新闕〕

及諸臣之喪服。除帛衣之外。通用雜色。

一詔書勅書及勅符等。並用畫日。詔書勅書等覆奏文。並畫可。論奏及諸衛擬舍人奏。並畫聞。皇太子令旨。用畫日。

廢朝事。

一太陽虧。有司預奏。皇帝不視事。

一皇帝二等以上親。及外祖父母。右大臣以上。若散一位喪。三日。

一國忌日。三等親。百官三位以上喪。一日。

廢朝廢務差別事。

一廢務。諸司不政。但有三日五日例。

廢務者一日可被行也。不及數日。是萬機之政。數日不可被棄置之故云々。仍限一日也。

一廢朝。諸司政如常。但天子不臨朝政。輟朝同

之。

廢朝者雖及數日。不可擁忌云々。是諸司不停事之故也。

雜穢事

一人死忌三十日。産七日。

一改葬及四月以上傷胎。([illegible])並忌三十日。其三月以下忌七日。

一六畜死忌五日。産三日。

一喫宍及弔喪問病忌三日。弔喪問病。及到山作所遭三七日法事者。雖身不穢。而當日不可參入内裏。

一六月十二月月次。十一月新嘗祭前後散齋之日。僧尼及重服奪情從公之輩。不得參入内裏。雖輕服人。致齋之前散齋日。不得參入。自餘諸祭。皆同此例。

一緣無服殤。([illegible])請假未滿限日。被召參入者。不得預祭事。

一宮女懷妊者。散齋之前退出。有月事者。祭日以前退出宿廬。不得上殿。其三月九月。潔齋預前。退出宮外。

一甲處有穢。乙入其處。乙及同處人皆爲穢。丙入乙處。只丙一身爲穢。丁入丙處。不爲穢。

一宮城内一司有穢。不可停廢祭事。

殿上年中行事障子事。

仁和元年五月二十五日。太政大臣(昭宣公)獻年中行事障子。

今案。彼年始被立件障子歟。(見小野宮記。)

師元年中行事以或藏本傳寫之(壬子秋日)　貞幹

追儺刻限事以後以弘賢藏本補之此本吉野吉水院所傳而一名□傳寫也(甲寅端午前一日)　貞幹

中原師元。保安二年正月廿三日。任權少外記。同年十二月日。轉任大外記。安元元年五月卒。

以宮内省圖書寮本加一校畢

續群書類從卷第二百五十三

公事部六

年中行事抄

年中行事抄第一。

仁和元年五月廿五日。昭宣公進年中行事御障子。（于時太政大臣。）今不載彼本事。勘諸家年中行事舊記等。至當時注之。

正月

元日。四方拜事。（寅刻。御障子本平旦。清涼記鷄鳴。西宮記追儺之後。天德之比或及卯時。）於清涼殿東庭有此儀。雨雪之時。用弓場殿。幼主雖儲御座不拜。

儀式云。拜屬星咒云。賊寇之中過度我身。毒魔之中過度我身。危厄之中過度我身。毒氣之中過度我身。五兵口舌之中過度我身。五鬼六害之中過度我身。百病除愈。所欲從心。急々如律令。

應和三年。延久二年。治承四年。內裏雖穢。有四方拜。

延久元年。依穢中非代始九坎日。無四方拜。

同日。典藥寮供御藥事。（平旦。迄于三日。延喜之比或及巳刻。天德之比及未刻。）宮內輔率寮供之。

北山抄云。元三之間有節分者。藥子衣用兩年御生氣方色。

金谷園記云。屠蘇藥酒名。正朝以桃皮及諸

藥。於酒中屠蘇和而飲之。先從小起。一人飲一家無病。一家飲一里無病。

同日。內膳司供御齒固事。三箇日。

御藥之次供之。

同日。同司供御節供事。迄于三日。

節會有出御之時。於南殿供之。無出御之時。付女房供之。

同日。內藏寮賜酒肴於殿上男女房及藏人所事。迄于三日。

延喜例云。殿上男女房及所節食。

藏人式云。二三日。女房所料不儲之。

同日。朝賀事。

去年十二月下旬習禮。

未得解由。皆聽朝拜。

貞觀式云。元日朝賀。依有滯故。延用二三日者。宣命之辭。猶稱朔日。

行成卿抄云。若前三日雨雪停之。

神武天皇元年正月庚辰朔。都橿原宮。肇即皇位也。宇摩志麻治命奉獻天瑞。乃竪神楯。合四方之國以觀天位之貴。俾率土之民以示朝庭之重者也。于時皇子大夫率群官等。朝賀禮拜。凡厥即位賀正。御都踐祚等事。並發此時矣。

大寶元年正月朔。天皇御大極殿受朝。於正門樹馬形幢。左日像青龍朱雀幡。右月像玄武白虎幡。蕃夷使者陳列左右。文物之儀。於是備矣。

晉書志云。漢儀有正會禮。公侯以下執贄來庭。二千石以上升殿。稱萬歲。

同日。小朝拜事。

皇太子於孫庇拜舞。親王以下六位已上。列立東庭拜舞。

藏人式云。若無朝賀。有小朝拜。或雖有朝賀。猶有小朝拜。

朔日當御忌者。或停或否。堅固之時止之。永久

元年。

清涼記云。若有朝賀之時。還宮之後。亦有斯事。延喜五年。仰左大臣。止小朝拜。同十九年。依左大臣申復舊。

同日。節會事。

未得解由受領吏。舊例不預節會。近代聽之。無朝賀之故歟。所謂外任奏是也。

雜令云。正月一日七日十六日。三月三日。五月五日。七月七日。十一月大嘗日。皆爲節日。

雜式云。公宴賜酒食。親王以下皆列庭中再拜。（謂之謝座。）訖行酒人把空盞。授貫首者。跪受盞再拜。（謂之謝酒。）

清涼記云。內裏式。御豐樂院。而近代於紫宸殿行之。

弘仁五年二月宣旨云。臨時宴會預定其日。凡厥臣下理須早參。而或遲參。苟貪祿物。事之體豈合如此。宜自今以後。點見參者。午時爲限。以後參者。莫預祿例。

李部王天暦元年十二月廿九日記云。節會。巳刻以前可參。

天暦元年十二月論奏。止音樂。依御忌月也。安和復舊。長和亦止樂。同六年後復舊。

匡房卿次第云。元日踏歌重陽謂之小節。七日節會謂之大節。

同日。中務省奏七曜御暦事。

同日。宮內省奏氷樣事。

氷室事。起於仁德天皇六十二年五月。

宮內式云。元日明旦。群臣未喚之前。省輔已上將本司入奏。並進氷樣。

同日。同省供腹赤御贄事。

魚長九尺九寸。太宰府解文載寸法。

宮曹事類云。腹赤魚。筑後肥後二國所出。（天平十五年正月四日始任）委見兩國風土記。

已上三箇事。節會之次。於庭中奏之。近代出

御以前。內弁奏事由。依勅付內侍所。（謂之諸司奏。）其內腹赤若遲參者。七日節會之次奏之。

天德四年。七曜御曆氷樣等。左大臣小朝拜以前。於御殿奏之。次有節會。

同日。式兵兩省進內外官補任帳事。

太政官料今日進之。藏人所料十二月廿日進之。但式部省加進諸國一分已上秩滿帳。（藏人式云。藏人所料十二月廿一日進之。）

同日。中務省進侍從并命婦歷名補任帳事。（或四日）

同日。式部省進諸國郡司補任帳事。

同日。治部省進從儀師已上及諸國講讀師補任帳事。

同日。外記覽敘位勘文於執柄事。

近代又以一本進院。

同日。一院四方拜事。

同日。同拜禮事。（若雨降者二日。）

同日。同御節供事。

同日。諸院宮御藥事。

同執柄家四方拜事。

加先聖先師。

同日。同家拜禮事。

同日。同家節供事。

同日。法成寺十齋堂修正事。

治安元年始行之。

立春日。主水司獻立春水事。

女官傳供之。於朝餉向御生氣方飲御之。咒云。万歲不變水。急々如律令。

女房稱之若水。

上子日。內藏寮內膳司等供若菜事。（十二種。）

付御膳宿供之。舊例藏人取解文奏聞。近代不然。

荊楚歲時記云。正月七日。俗以七種菜作羹食之。令人無万病也。

十節記云。正月七日。採七種之羹。嘗甘味。

是除邪氣之術也。

上卯日。献御杖事。

去年十二月十八日。作物所請申料物。

東宮。大舍人。作物所。兵衞等献之。朔日七日若當卯者。混諸司奏。付內侍所。

持統天皇三年正月乙卯。大學寮獻杖八十枚。

仁壽二年正月己卯。諸衞府獻椴杖。逐精魅也。

天慶依雨無卯杖奏。

漢官儀云。正月卯。以桃枝作剛卯杖。厭鬼也。

漢書注服虔云。剛卯以正月卯日作佩之。長三寸。廣一寸四方。或用玉。或用金。或用桃。著革帶佩之。今有玉石者。銘其一面曰。正月剛卯。

晉灼云。剛卯長一寸。廣五分。

同日。一院卯杖事。

同日。執柄家卯杖事。

上厭日。鎮害氣事。

陰陽式云。新年鎮害氣者。預前勘錄害氣在處幷所須鎮物申省。（東流水沙云々。）正月上厭日遲明。官人率陰陽師。設鎮處於害氣之地。宮門內外各一處。坑方深三尺。訖申內侍。犹亦移告諸司所々。五位已上及宮人等。取杵讀咒曰。害氣消除。人無疾病。五穀成熟。築二七杵。其外鎮處。庶人已上取杵築之如內鎮。御忌當害氣在所者。不行內鎮。

雜式云。諸國鎮害氣者。於國郡鄉邑。每年正月上厭日作坑。方深三尺。取東流水沙三斛置坑內。以醇酒三舛灌沙。然後以土覆之。大小各踏其上。以杵築之。各二七杵。咒曰。害氣消除云々。如上。

二日。視告朔事。

儀式告朔篇注云。案承和日記。前一日。所司

裝束如元會之儀。但無褰帳命婦。其御帳在先褰之。

清涼記云。寛平以後不被行。仍不記。

行成卿抄云。正月一日。四孟告朔事。注云。若有朝賀者。二日諸司進告朔文於弁官。自餘月朔日進之。

論語云。告朔之餼羊。注云。人君毎月告朔於廟有祭。謂之朝享。

同日。朝覲上皇母后事。藏人式。清涼記等三日。或擇日次。

朝覲行幸。舊例於外門下御。中古以來於中門下御。

清涼記云。来到其宮一許町。停警蹕。

仁明天皇嘉祥三年正月四日。朝覲母儀太后。還御之時。依太后仰。於前庭御輦。或說淳和天皇。

延喜十七年正月廿四日。行幸亭子院。於東門下輿。依院仰乘手輿。到黑木橋。更下上殿。還御之時下殿。歩到東門召輿。

同年三月十六日。行幸六條院。於東門下御。着釣殿。以手輿可着寢殿之由。雖有法皇仰不然。庭中敷筵道。還御之時。於近所可乘輿之由。又雖有仰不然。於東門乘御。

史記云。舜之踐帝位。載天子之旗。往朝父瞽叟。夔唯々謹。如子道。

又云。漢六年。高祖五日一朝太公。如家人父子禮。太公家令說太公曰。天無二日。土無二主。今高祖雖子人主也。太公雖父人臣也。奈何令人主拜人臣如此。則威重不行。後高祖朝太公。太公擁篲迎門却門。高祖大驚。下扶太公。太公曰。帝人主也。奈何以我亂天下法。於是高祖乃尊太公。爲太上皇。

北史云。後魏獻文皇帝。禪位皇太子。群公上尊號太上皇帝。太上皇帝後御崇光宮。國之大事咸以聞。孝文皇帝毎月一朝崇光宮。

同日。東宮朝覲事。或擇日次。延典三年。改崇光宮爲寧光宮。
成人之時。參小朝拜。於東廂舞踏。幼稚之時。別有行啓。
中宮式云。中宮受皇太子朝賀事。常寧殿南庭。
禮記云。文王之爲世子。朝於王季日三。雞初鳴。至於寢門外。問內豎御者曰。今日安否何如。內豎曰。安。文王乃喜。及日中又至。亦如之。及莫又至。亦如之。其有不安節。則內豎以告文王。文王色憂。行不能正履。
同日。中東兩宮大饗事。
御坐大內之時。於玄輝門廊被行之。先進宮庭。拜禮之後。各有饗事。
貞觀十七年正月二日。親王以下次侍從已上。參皇后東宮賜宴。雅樂寮奏樂。賜衣被。凡每年正月二日。親王公卿及次侍從以上。參三宮賜宴。例也。而年來不書。史之闕也。
同日。中宮受女官朝賀事。
中宮式云。內親王已下女官命婦已上。以次入立殿上。闈司引六位以下。以次入立於庭。爲首者常御前跪賀。訖饗宴賜祿。
同日。執柄家臨時客事。
三日。中宮給宮內省典藥寮等官人已下酒肴幷祿事。
四日。童親王拜覲事。
於東庭拜舞。於御前賜酒肴祿等。
同日。法性寺御八講始事。四箇日。今日太后穩子忌日。
太后者昭宣公四女。朱雀村上二代母儀也。天曆二年崩。執柄家行之。院廳造布施。
同日。法成寺阿彌陀堂修正事。
治安元年始行之。
五日。敘位議事。五六日之間。依日次。

舊例隔年被行之。近代每年。但有大故之時無之。除目之次有之。號拔出。

官式云。正月七日。賜宴於五位已上。若有叙五位以上者。前二日。大臣及參議以上。於御前擇定應叙位人。即令書位記印之。

寬平御誡云。七日叙位者。不可必每年行之。若隔二年。隨狀行之。其成業無疑。治國有効。吏幹堪用。才能可褒。及諸司判官以上。勞高年老。爲第一第二者。並可臨時加階新叙。

又云。左右近衞將監叙位之事。追昔例。左右遞隔年叙之。而今叙位之事。不必每年。宿衞之勤。殊倍他府。始自舍人至于判官者。積四五十年。殆難待其運。今須復近代之例。每有儀式之叙位。左右共叙之。將勵宿衞之人。

行成卿抄云。年來之例。五日大臣家饗。仍六日行之。

推古天皇十一年十二月。始行冠位。

大寶元年三月甲子。始依新令改制官位。始停賜冠。易以位記。

天德五年正月五日御記云。此日有叙位議。年來六日行之。而或及曉更。七日節會自闕。仍如年中行事。以此日行之。

嘉承元年始行之。

六日。法成寺藥師堂修正事。

同日。法勝寺阿彌陀堂修正事。

同日。尊勝寺阿彌陀堂修正事。

七日。節會事。今日有叙位

當御物忌。雖無出御。白馬猶渡東庭。

內裏式。豐樂殿儀也。

行成卿抄云。白馬同參中宮。給酒祿於寮宮（官歟）。

天武天皇十年正月七日。天皇御南（向歟）小殿宴。此日親王諸王引入內安殿。諸臣皆侍于外安殿。共置酒賜樂。則大山上草香部吉士大形。授小錦下位。

寳龜六年正月七日。天皇御楊梅院安殿。設宴於五位已上。中納言石上朝臣進就版位宣命。其詞曰。令詔久。今日ハ正月乃七日乃豐明聞食日爾在。是以圖爾登遊止云々。青馬見多米倍氏退止云云。

承和元年正月七日。天皇御豐樂殿覽青馬。助陽氣。

貞觀十四年正月七日。無節會。去九月太后崩。心喪中也。召左右寮御馬。於內殿前覽。朧人不裝束。

天曆九年十二月十三日論奏。停音樂。依御忌月也。又長和御時。同停音樂。但無論奏。不當御忌月之時。行之如常。

十節錄云。正月七日看白馬。馬性以白爲本。天有白龍。地有白馬。是日見白馬。卽年中神氣遠去不來也。

皇世記云。高辛氏之子。以正月五日。恒登東嶺。命青衣人。令列青馬七疋。調青陽之氣。馬者主陽。青者主春。嶺者萬物之始。人主之居。七者七曜之淸徵。陽氣之溫始也。

同日。兵部省進御弓事。

近代節會。出御以前。內弁奏事由。付內侍所。

同日以後。式部省進五位已上歷名帳事。

式部式云。五位以上歷名帳。每年正月。待叙位宣符。卽奏內裏。寫一通進太政官。

八日。大極殿御齋會始事。七箇日

或有行幸。近代只公卿已下參行。

玄番式云。每年起正月八日迄于十四日。講說金光明最勝王經。

承和六年十二月勅。以維摩講師爲宮中最勝會講師。永爲恒例。

寬平御誡云。正月八日。可參八省。

天曆八年正月八日。停御齋會。廿二日丁酉。初修之。

同日。修眞言法事。七箇日。

東寺長者於眞言院勤修。謂之後七日御修法。

甲年金剛界。乙年胎藏界。輪轉行之。

承和元年符云。大僧都空海表。擇眞言宗僧二七人。沙彌二七人令修法。護持國家。成熟五穀。

同日。修太元帥法事。七箇日。

於治部省修之。師資相承僧。依別勅行之。近代於宮朝所修之。遣御衣。

昔元曉律師入唐傳來。承和三年。始行於承香殿。

二年之間。毎年行之。其後于今不絕。

同日。給女王祿事。

清涼記云。内裏式。於紫宸殿行之。而近代於殿庭。參議一人行之。

北山抄云。謂之若月自。

永保三年。依無綿不給。

同日。女敍位事。或擇日次。

隔年行之。大嘗會必有女敍位。仍自彼年計之。

内裏式云。於紫宸殿。敍内親王以下。

齊光卿獻天聽書云。内親王女御更衣幷大臣家等位記。雖非近衞次將。或有以藏人頭等分遣之例。

同日。法成寺金堂修正始事。七箇日。

治安三年正月七日始行之。

同日。圓宗寺金堂修正始事。七箇日。

延久三年始行之。

同日。法勝寺金堂修正始事。七箇日。

承曆二年始行之。後白河院御宇有行幸。

同日。尊勝寺金堂修正始事。七箇日。

康和五年初行之。

同日。最勝寺金堂修正始事。七箇日。

元永二年始行之。

同日。成勝寺金堂修正始事。七箇日。
〔欠行〕同日。延勝寺金堂修正始事。七箇日。
〔欠行〕十一日。外國除目事。近代擇日次。或用式日。自九日有議。
式部式云。除目奏者莫過當日。若日暮不堪書者。明日早朝奏。
藏人式云。自九日議。
寬平御誡云。任官之日。所々勞人。必任好處。莫令人々之給妨之。又陸奥出羽太宰管國近江等。二三年來不任人給。傳聞。親王公卿偏以嗟嘆。今須諸有給者。若申件等國。依次許之。莫去今年令同人給之。不得一年兩三人轄任一國人。件等國掾目。通計三分之二任公人。其一分許人給。隨秩滿可處分。又公卿合兩二分給一三分之例。其始近在今年之春。今復舊。混一二分。可給三分。須隔四五年許之。至舉其子或許。任內外官判官次官。不立年限。令以知公卿之爲憲。又公卿時々給。內舍人幷申二合。只許中納言以上。不及參議。但以二合申其子者。參議亦得之。又莫以內官充人々之給耳。
又云。諸國雜任長官。請申任用者。或掾或目。醫師博士等。惣不可許之。唯諸司諸所有勞之中。爲他人被遍知堪其用者。量狀許之。若不分明者亦忌之。
清涼記云。請書畢。御紫宸殿。召式兵下之。
西宮記云。攝政大臣者於直廬行之。參議執筆。或於直廬行之。
同日。圓勝寺金堂修正事。
十四日。御齋會終事。
同日。內論義事。
公卿以下自八省率參着右近陣。依召參御前。殿上居饗膳。用魚味。但養和元曆等御宇用精進。依爲高倉院御國忌日也。其後復舊。御國忌日。內論義有無有沙汰。壽永元年停止。同

二年以後。猶有議被行之。
代始日次不宜之時。幷御物忌之時。於南殿東廂行之。
天長十年正月。天皇御紫宸殿。啒延曆寺僧圓澄及僧正已下威儀師已上論義。施御被也。
同日。持參加持香水事。
東寺長者參入。
執柄家同獻之。
天慶八年。眞言宗僧綱依病不參。以一定法師令加持香水。近代不聞事也。
同日。諸寺進卷數於藏人所事。
同日。男踏歌事。
前二日。於中院試樂。當日於淸涼殿東庭有此儀。御前事畢參宮々。訖歸參。有盃酌等。其後三月以前有後宴。事見藏人式等。
廣相卿傳云。仁和五年。蒙勅造撰踏歌記一卷。件記仁壽以後四代。中絕不行。今年尋承和舊風始行之。
天武天皇三年正月。拜朝大極殿。詔男女無別闇夜踏歌事。
天平二年正月辛丑。天皇御大安殿。宴五位已上。晚頭。移幸皇后宮。百官主典已上陪從踏歌。且奏且行。召入宮裏。以賜酒食。因令探短籍。書以仁義禮智信五字。隨其字而賜物。仁者絁也。義者絲也。禮者綿也。智者布也。信者段也。（段當布也。）
仁和五年正月十四日踏歌記云。議者多稱。踏歌者新年之祝詞。累代之遺美也。宜依承和故實。以作每歲長規。
同日。最勝光院御八講始事。（四箇日。高倉院。）
天曆御宇。依御忌月止之。天元一度行之。
壽永二年正月十九日始行之。元曆元年。改爲十四日。
同日。高倉院御忌事。

治承四年二月廿七日遁位。養和元年晏駕。春秋廿一。

十五日。於宮內省進御薪事。

雜令云。文武官人。毎年正月十五日。並進薪。長七尺。以廿株爲一擔。凡進薪之日。弁官及式部兵部宮內省共撿挍。貯納主殿寮。

式部式云。正月十五日質明。輔以下就宮內省。撿收諸司畿內進薪。

宮內式云。遭穢之人御薪者。過穢限令進。

天武天皇四年正月。百寮諸人初位以上進薪。

同日。兵部省手番事。

當御忌月之時。三月行之。

自省催諸卿。不參之時。省錄申藏人所。

弘仁省式云。簡五位已上能射者廿人。不足取六位以下。

於省家前踏弓庭寛處令調習云々。

延喜省式云。十七日大射。前月廿日。省點親王以下五位以上廿人〔卅イ〕。前簡定能射者廿人。若不足者。通取六位以下。於省南門射場令調習云々。

同日。主水司献七種御粥事。

主水式云。中宮亦同。聖神寺常住寺料煮〔眞イ〕備。付女房供之。

早旦令水部送之。

月舊記云。正月十五日祭。日本博士中臣丸連張弓。林連佐比物。田邊史淨足等。去天平勝寶五年正月四日勘奏云。昔黃帝伐蚩尤之時。以此日伐斬之。其首者上爲天狗也。其身者伏成地靈也。是以風俗此日亥時煮小豆粥。而爲天狗祭於庭中案上。則其粥上凝時取。東向再拜。長跪服之。終年無疫氣也。

世風記云。正月十五日亥時。煮小豆粥。爲天狗祭於庭中案上。則其粥凝時取。東向再拜。長跪服之。終年無疫氣。

同日。內藏寮給酒肴於殿上男女房及藏人所事。

同日。中宮給粥并酒肴於內侍已下事。

節給酒肴等准之。
同日。一院供粥事。
同日。執柄家供粥事。
同日。圓乘寺御八講始事。四箇日。後朱雀院。
十六日。節會事。
稱之女踏歌。
常例明日有射禮。裝束建禮門之間。今夜不開件門。
當御忌月之時停止。
內裏式云。畢樂儀也。
行成卿抄云。天曆九年論奏止之。安和詔依舊行之。長和又止。同六年以後復舊。
天平十四年正月十六日。天皇御大安殿宴群臣。酒酣奏五節田舞。畢更令少年男女踏歌。又賜宴天下有位人幷諸司史生。宴畢賜祿。
寶龜五年正月十六日。天皇御楊梅院安殿豐樂。五位已上參入。儺訖賜摺衣幷饗。喚蝦夷于御所。賜位幷祿。即於閤門外樂。賜饗及樂訖而女嬬世人分頭奏踏歌。五位已上奏踏歌。
朝野僉載云。唐先天二年正月十五日。十六日。夜不開坊門。於京安福門外作燈。高廿丈。衣以錦綺。飾以金銀。望之如花樹。宮妓千餘。衣羅綺曳錦繡。燿珠翠施香粉。妙簡長安万年少女婦千餘人。於燈下踏歌。三日三夜。歡樂之極。未始有也。
同日。三省進去年冬季徵免課役帳事。
式部式云。四孟月十六日。一通進外記。二通進左弁官。
同日。陽明門院御忌事。
寬治八年崩。春秋八十。
十七日。射禮事。
內裏式載人式等。行幸豐樂院。或幸建禮門。近代於建禮門。上卿已下着行。代始於豐樂院行之。延久元年。中納言忠家卿於建禮門行

之。
當御忌月之時。三月行之。
天智天皇九年正月。詔士大夫等。大射宮門內。
天平十二年正月。天皇御大極殿南門觀大射。五位已上射畢。依令渤海使己珍蒙等射焉。
大同二年。止正月爲九月節。依三節聞食雜事繁也。
天曆九年十二月論奏止。同月廿五日宣旨定。三月十三日行之。天皇晏駕之後。復舊而行。長和又以三月行之。六年以後復舊。
十節記云。正月十七日結射。傳云。蚩尤與黃帝爭天下。蚩尤銅頭鐵身。弓矢不能害其身。爰黃帝仰天誓云。我必王天下殺蚩尤。時玉女自天降。持式　卽返閇禹步。此時蚩尤武身如湯沸顚死也。蚩尤天下怨賊也。故歲首射其靈。以鎭國家。凡村里皆可射結。邪氣不起也。的者面目也。毬者首也。因射蹴也。

十八日。賭弓事。
去年不行射場始者無賭弓。但又有例。
當御忌月之時。三月十四日行之。若有內宴之年。又三月行之。麴塵袍之次歟。
清冷記云。於弓場有此儀。此日甚雨。十九日行之。
天武天皇五年正月。賞祿射于西門庭中。則給祿有差。
貞觀二年正月十八日。車駕幸豐樂院觀賭射。

同日。後朱雀院御忌事。
寛德二年正月十六日遁位。同十八日崩。春秋廿七。

同日。蓮華王院修正事。
仁安元年正月廿二日始行之。

十九日。射遺事。或十八日。
射禮翌日。差遣參議一人右衛門左兵衛所射

也。或昨日不參府遣之。

廿一日。内宴事。一二三日間有子日者。件日行之。藏人式。清涼記等廿日。注云。廿一二三日之間。若有子日便用之。

弘仁四年。始有内宴。唐太宗之舊風也。

承和元年正月。主上内宴於仁壽殿。内教坊奏態。中貴陪歡。殊喚五位已上詞客兩三人幷内史等。同賦早春花月之題。是夕勅授正六位上大戸首淸上外從五位下。淸上能吹儀笛。故鍾此恩(賓イ)非。

仁壽二年正月。帝觴近臣。命樂賦詩。其預席者。不過數人。此復弘仁遺美。所謂内宴者也。

延喜十年。依承和故事。令奏絃歌。師親王聽佩釼。親王下殿拜樂舞云々。還淸涼殿。更出侍所。奏哥舉酒。以定方朝臣釼。令帶轉頓親王。卽召藏人所釼。令佩定方朝臣。

同十五年。奏舞間。召大納言藤原朝臣。仰右大臣男實賴依院仰可叙事。從五位下。作位記令奏之。樂畢右大臣下殿。於舞臺前拜舞。

延長六年。事訖召王卿。奏絲竹。后宮給祿有差。二一城王敦教同親王二男。有殿上之勞。叙從四位下。左兵衛少尉大石岑吉。雅樂大屬勝道成外從五位下。

同七年。大外記伴久永預之。故大藏善行爲大外記之時例也。

承平二年。左大弁扶幹。式部少輔在衡勸盃。依有秀句。同八年明日内宴。樂人太不調。仍召集試練一兩曲。畢給小祿。

天慶六年正月廿四日。昨欲被行此宴。而就忠行勘文可塡給。仍忽延引。

同十年。雨儀。舞臺上立幄。其下張苫云々。春鶯轉曲欲吹。笛聲誤吹序二聲。式部卿咎之。行罸坊別當卿。

天曆依御忌月。三月行之。

應和二年二月廿一日。卯剋還淸涼殿。廿二日

出侍所。令侍臣不改昨服猶候。賜酒奏音樂。
給疋綾公卿。
康和三年云々。文人退下。有御遊事。左右大臣供御酒。了淵醉。令兼通朝臣舞。甚得體骨。給祿(大臣御下襲。親王納言白褂、參議紅染褂。)之後。主上餘興未盡。被御可御覽殿庭紅梅之由。起御座。右大將取御劔前行。右中將延光朝臣取璽莒候御後。鼓琴吹笛之者。皆取管絃候之。至清涼殿前。立梅樹之下。發時立御倚子。召爲平親王令候座。令宰相中將持花插王卿冠。延光朝臣執盃立。令各讀和歌。左兵衛督兼明卿書之。今日佳遊。往古來有(〔未〕)。在座群臣悉感歎矣。已尅入御。
長元以後。絕不被行。
保元三年、平治二年等又行之。
唐曆云。太宗貞觀三年春正月甲子。上內宴。貴臣中書侍郎于志寧不預。上怪之。左右奏曰。勑召三品已上。志寧非三品。所以不來。因特令預宴。

同日。諸司進去年々終帳事。
廿二日。給諸司去年秋冬馬料事。(十日三省申官。十五日奏目錄文。今日於大藏省給之。)
凡諸司馬料者。起正月盡六月計上日。一百廿五以上給料。中務式部兵部等省錄人物數。七月十日。弁率三省申太政官。十五日少納言奏之。廿日官符下大藏。廿二日出給。秋冬准此。
廿五日。國忌事。(廢務、轉輪院。贈皇太后苡子。鳥羽院母后。)
康和五年崩。(春秋廿八。)嘉承二年六月。始置國忌、
儀制令云。國忌日。謂先皇崩日。依別式令廢務。
清涼記云。國忌前一日。少納言進國忌奏。當日事畢。治部玄蕃奏僧幷讀經數。式部奏諸司見參。幷付內侍。
大寶二年十二月。勑曰。九月九日。十二月三日。先帝忌日也。諸司當此日。宜爲廢務。

撰吉日事。

始外記政事。

外記先申一上。仰陰陽寮令擇日次。郎中執柄之後。御齋會之間披露。大略十六七日程歟。

舊例内宴以後定日次云々。

撿非違使廳政始事 與外記政同日

吉書奏事。

大臣擇日奏聞。大臣有障者。大納言依別勅候奏。近代動及秋冬。

院尊勝陀羅尼供養事。

康和元年四月六日始行之。

法勝寺季御修法事。或二月。

自院被渡御衣。

同千僧御讀經事。

大臣家大饗事。

新任大臣。明年正月必行之。近代絕畢。上古四日左大臣饗。五日右大臣饗也。昭宣公三日間被行。貞信公四日被行。或時十日十餘日被行。若當御齋會之間。用精進饗。依禁殺生也。

近代無式日。

二月

一日。大懺法院修二月事。

上丁日。釋奠事。

孝。禮。詩。書。論。易。傳。輪轉講之。

當日蝕若祈年祭者。中丁行之。若重延引者停止。不用下丁。但禮記進人如禮序云。今茲下丁。式修其奠。蓋故也。秀才甚貞作年紀。可尋外記日記。以下不見

若當園韓神祭。同日行之。

若當列見。上藺行釋奠。

學令云。大學國學。每年春秋二仲之月。上丁釋奠於先聖孔宣父。注云。謂釋々菜也。奠々幣也。禮其先聖以示敬道。宣父是孔子謚也。

大學式云。享日在園韓神幷春日大原野等祭之前。及當祭日。停用三牲及兎。代之以魚。

大寶元年二月丁巳釋奠。釋奠之禮。於是始見。

天平神護三年二月丁亥。大學寮行釋奠禮。此日天皇御之。

延喜廿年八月。大内丙穢。不停釋奠。

延長五年八月。依大内穢停之。

吉備大臣傳云。先是大學釋奠。其儀未備。大臣依禮典。器物始修。禮容可觀。

明日。大學寮獻胙音

執柄家同獻之。

切韻。胙音祚。祭之餘食也。

上午日。大宮賣祭事。或本正月。

座造酒司也。

神祇式云。二月十一月上午日祭。

上申日。春日祭事。未日使立。

中東二宮立幣使。

執柄家獻幣馬十列。攝籙人不參春日社以前。不被立只社祭幣馬云々。貞信公延喜十六年二月十日乙未日幣。但今年始奉走馬神馬等。今案。以前長者不被奉。保安二年。吉田大原野春日神馬。博陸内府不被立。執柄之後。未被參春日之故也。

上卿不參之時。并依別勅爲上卿代。流例也。

衛使不參。用代官之時。餝馬以下雜色等。皆悉調出。渡南都大路。以氏大夫爲代官

年祭同日不憚。但使參内之時。無歌舞

祝詞云。天皇我大命爾坐世。恐岐鹿島坐建御賀雷命。香取坐齋主人命。枚岡坐天之小屋根命。今賣坐比賣神。四柱乃皇神等乃廣前爾白久。大御神等乃宗賜比乃任爾。春日乃三笠乃山乃下津石根爾宮柱廣敷立。高天原爾千木高知天云々。

貞觀八年十二月。詔以藤原朝臣須惠子。爲春日大原野齋女。同十年閏十二月。宣詔内外曰。春日大原野兩社齋女藤原朝臣可多子。太政官貞觀八年十一月廿五日下所司符。注藤原朝臣須惠子。今追改焉

天德五年十二月。依禁中穢。使不參内。

應和二年十一月。供奉諸司觸内裏穢。仍以後申可行。

同日。鹿島使發遣。(常陸國。)

遣勸學院學生一人。内藏史生一人。

社本緣見春日祭所。

同日。平岡祭事。(河内國。)

社本緣見春日祭所。

同日。伊都伎島祭事。(亥日使立。)

上申若在十日以前者。正月使立。

上酉日。率川祭事。(春日祭明日。)

神祇式云。大和國添上郡率川坐大神々御子(之誤)神社三座。率川阿波神社一座。

藤氏南家氏人口傳云。率川社者。故右大臣藤原是公所建立也。其後每二季之祭日。有公家御幣使々。(云々歟)其社南又有社。號三枝名神。即大(〔illegible〕)神名御子。

件二社同在一村。相去不幾。世俗共稱率川。此爲據其所本號也。新案。是公卿是南家始祖大臣武智麻呂之孫。參議乙麿之子也。因茲南家苗裔掌行此祭。

上丑日。園并韓神祭事。(若有三丑用中丑。但春日祭後丑。)

二月大時。朔日當申日有春日祭者。六日十八日卅日並丑日也。以何日可祭乎。先例不定。或用春日祭後丑。(六日。)或用中丑。(十八日。)承平七年二月十八日祭時。神祇官進過狀。猶六日可祭歟。(寬治七年。以上丑祭之。)

口傳云。件神元來坐此處。延曆年中遷都之時。造宮使可奉移他處云々。神託宣云。猶坐此處奉護帝皇。依公家鎮座宮内省裏。

齋衡二年九月。列於名神。

天慶二年二月十七日。外記貞用申云。今日祭。參議以上有障不參。(進脫歟)大原野祭。無上卿可行之由仰畢。十八日。貞用申告治部卿令參事。是任意招取。有病老卿也。

上卯日。大原野祭事。

二宮立幣使。

執柄家獻幣馬等。

明日爲卯之時。若當日蝕者中卯。

上卿不參之時。以弁爲上代。有例。又氏弁有障不參者。他弁參入。異春日祭。

內膳式云。大原野祭。一物已上同春日祭。

行成卿抄云。仁壽元年二月二日。右大臣宣。據春日祭式。以平野梅宮祭式。彌縫而行之。

二日。蓮華藏院修二月事。

永久二年二月廿一日始行之。

三日。延曆寺修二月事。

四日。祈年祭事。廢務。九日有祭。

有前後齋。

若依穢延停之時。於建禮門行大祓。

神祇令云。仲春祈年祭。注云。祈猶禱也。欲令歲災不作。時令順慶。卽於神祇官祭。故曰祈年也。

天武天皇四年二月甲申。祈年祭。

弘仁十四年宣旨云。辰二點以前。庶事弁備。三點。參議以上始行事。

貞觀十八年。公卿幷外記史等。皆觸內裏穢。仍於門外行事。不着齋院。

延喜十二年。依內裏穢止祭。

天德五年二月。左馬寮申馬十一疋內不堪引進狀。仰以野御馬令宛。

周禮曰。祈年求豐年也。

五日。最勝四天王院修二月事。

六日。寶莊嚴院修二月事。

八日。祇園御八講始事。五箇日。

院廳致沙汰。

同日。法勝寺常行堂修二月事。

十日。巡撿諸陵事。

諸陵式云。諸陵墓者。每年二月十日。差遣官

人巡撿。若有損壞者。令守戶修理。
十一日。列見選人事。
官式云。其成選應叙位者。式兵二省各率諸司主典已上。十一日列見大臣。
式部式云。二月十一日。諸司長上成選人。列見太政官。
同日。進列見儀饌事。
十二日。圓融院御八講始事。四箇日
同日。圓融院御忌事。
永觀二年八月廿七日讓位。正曆二年崩。春秋卅三。
十三日以後。官所充事。
十四日。勝光明院修二月事。
同日。金剛心院修二月事。
十五日。最勝光院修二月事。
十五六日。興福寺常樂會事。
行成卿抄云。十五日涅槃會。涅槃會今稱常樂會。十六日法華會。爲熱田明神所行也。

十七日。轉輪院修二月事。
同日。法金剛院修二月事。
十八日。金剛勝院修二月事
同日。東北院修二月事。或擇日次。
執柄家行之。
十九日。圓宗寺最勝會始事。五箇日
僉日定僧名。近代式日延引。動及秋冬。仍定日時。延久四年。雖被始置。其儀未之（脫字歟）。答以晏駕。永保二年二月十九日被遂行。即以今日永爲式日。
廿二日。給諸司春夏季祿及皇親時服事。十日二省申官。十五日奏目錄文。今日於大藏省給之。
祿令云。皇親年十三以上。皆給時服料。注云。謂二世王。其親王者不見令條。可有別式。若皇親任官及叙五位以上者。不可重給。但季祿與王祿。從多合給。
繼嗣令云。自親王五世。雖得王名。不在皇親

之限。
天平元年八月五日格云。勅。五世嫡子已上。娶孫王生男女者。入皇親之限。
寛平御誡云。諸司諸家等所申季祿大粮衣服月料等。或入官奏。或就内給申。不動正税等。雖令勘申。國用帳遺（遣）或年帳難爲實。今須不動者。一切禁斷。正税者隨狀處分。若必用不動者。後年令令奏愼。當時執政所可進止也。雖然存於内心。補方分之一。
廿四日。西北院修二月事。（或擇日次）
執柄家行之。
廿五日。給女官春夏季祿事。十日三省申官。今日於大藏給之。
同日。北野天神御忌事。
自天仁二年。依夢告。於吉祥院修八講。諸儒參入。今日雖非國忌。不可被行公事。
天神左降之後。延喜三年薨于西府。其後度々有贈官位事。

託宣文云。右近馬庭者興宴地也。欲移坐此馬庭之邊。遇虚横之禍。被左降鎭西之後。遠雖思得報。中心結恨之報。還作焦肝之燼。得涼無期。適潛謁彼馬庭之時。胸炎頗有薄。既得天神之號。有鎭國之思。須早進發彼處。所結構我禿倉。令得潛寄使者。天曆元年歲次丁未六月九日。奉移件處。
天德三年。九條右大臣造增屋舍。奉供寶物。
廿九日。新東北院修二月事。
執柄家行之。
擇吉日事。
祈年穀奉幣事。（祈年祭、或二月）
前十許日。定日時使等。
齊光卿獻天聽昔云。奉幣諸社時。忽上卿有障。若不可延日之時例。亦寛平年中。以非參議右大弁藤原省穗朝臣。（後爲中納言）爲上代被行。是希有例也。

禮記云。孟春之月。以元日祈穀于上帝。注云。謂以上辛郊祭天也。春秋傳曰。夫郊祀后稷所以祈農事也。是故啓蟄而后郊。郊而后耕。上帝大微之帝也。今案。祈穀之文。雖起於此。天帝神明和漢之違也。孟春仲春。又以不同。撿禮記上文曰。東風解凍。蟄虫始振。注云。夏小正。正月啓蟄。魚陟負氷。漢始亦以驚蟄爲正月中云々。撿暦曰。驚蟄者二月節也。今注。啓蟄而后郊。郊而后耕云々。我朝祈穀之幣及十一月。非無所據歟。

臨時仁王會事。或三月

先會卅餘日。定日時僧名。殺生禁斷官符遣諸國之間。計行程也。

季御讀經事。或三月。四箇日。初後日無政。

兼日定日時僧名。第二日引茶。第三日御論義。第四日朝座結願。

清涼記。紫宸殿儀也。或於大極殿修之云々。

和銅元年十月十七日勅旨。起自今年。年別一度讀大般若經。月日臨時處分。布施用內藏寮物。

貞觀元年二月。請六十四口僧於東宮。讀大般若經。今日起首。限三日訖。凡貞觀之代。每年四季轉大般若經。元慶元年三月。請百廿口僧於紫宸殿。限以三日。轉讀大般若經。今上踐祚之後。二季修之。纔貞觀四季之例也。

定臨時祭使等事。先祭卅日。

藏人頭於御前定申之。頭故障之時。五位藏人又得。

位祿定事。中旬可行歟。或二月。

近代動及歲暮。

仁和書云。慶雲年中。以京庫物初給位祿。于時在外國之五位者。便以國物准給。

慶雲二年十一月有詔。加親王諸臣食封各有差。先是五位有食封。至是代以位祿。

外記所充事。

擬文章生試事。

近代無定期。隔兩三年行之。

式部式云。擬文章生者。春秋二仲月試之。試畢。喚文章博士及儒士二三人。省共判定其等第奏聞。即補之。

清涼記云。當日早旦。召輔一人。加封給御題。

神龜五年。始有進士試。

式部省行諸國一分除目事。（御障子本正月廿一日。）

清涼記云。前一日。下給諸司奏內給幷人々給文於上卿。上卿喚省輔給之。宣旨有例。

西宮記云。卿參省行之。丞一人乘結唐尾馬奉引。卿乘庇指糸毛車云々。（或於里亭行之。）

行成卿抄云。先經奏聞。

三省政申事。

西宮記云。近代不行。

院最勝講事。

諸院宮御讀經事。

鳴雷神祭事。（大和國添上郡。）

神祇官遣中臣一人供祭。

法性寺修二月事。

執柄家行之。

祇園百講事。

執柄家行之。

執柄家石塔事。

同家季讀經事。

近代久絕。

三月

御燈以前。僧尼重輕服輩不參內。

一日。奏御燈御卜事。

神祇官人於御厨子所卜之付藏人。藏人奏聞。

置々物御厨子。

清涼記云。朔日若當子日。二月晦日卜之。

同日。院御燈由御祓事。

同日。執柄家御燈由祓事。

出河原行之。

同日。差定造茶使。

藏人所雜色非雜色内。撰定上勞者。

同日。内膳司供粉熟事。迄八月卅日。

内膳式云。起三月一日。盡八月卅日。

上巳日。御祓事。

陰陽寮進御撫物。大炊寮下行用途。以殿上五位爲使。

後漢書禮義志云。明帝永平二年三月云々。是月上巳。官民皆絜於東流水上。自洗濯祓除。去宿垢疢爲大絜。絜者言陽氣布暢萬物訖出始絜之矣。注曰。謂之禊也。風俗通曰。周禮女巫掌歳時。以祓除疾病。禊者絜也。春者蠢也。蠢搖動也。蔡邕曰。論語暮春者春服既成。冠者五六人。童子六七人。浴乎沂。風乎舞雩。詠而歸。自上及下。古有此禮。今三月上巳。祓禊於水濱。蓋出於此。一說曰。後漢有郭虞者。三月上辰産二女。上巳産一女。二日中並不育。俗以爲大忌。至此月日諱上家。皆於東流水上爲祈禳。自潔濯。謂之禊祠。引流行觴。遂成曲水。韓詩曰。鄭國之俗。三月上巳。之溱洧兩水之上。招魂續魄。秉蘭草祓除不祥。漢書八月祓灞水。亦斯義也。後之良吏亦據爲正。臣昭曰。郭虞說良爲虛誕。假有庶民旬内夭其二女。何足驚彼風俗稱爲世忌乎。

晉書禮志云。漢儀。季春上巳。官及百姓。皆禊於東流水上。洗濯祓除去宿垢。而自魏以後。但用三日。不以上巳也。晉中朝公卿以下至于庶人。皆禊洛水之側。

宋書云。後漢有郭虞者。三月上辰産二女。上巳産一女。二日之中産三女。並不育。俗以爲大忌。至其日諱。皆於東流水上爲祈禳

也。
切韻。陸法言云。祓音敷物反。釋氏云。除不祥祭。三月上巳臨水祓飲也。韓知十云。除災求福。孫愐云。亦方吠反。今案。周禮女巫掌歳時祓除。鄭玄曰。謂若今三月上巳。如上之類也。

上午日。石清水行幸事。或擇日次。

承保畢代。依勅願有此儀。其後隨時。

三日。奉御燈於北辰事。廢務。

於北山靈巖寺邊奉之。延暦遷都之後始有此儀。又見清涼記。西宮記云。仁和以往被奉園城寺。同裏書云。寛平始用月林寺。後用圓成寺。天暦依舊用靈巖寺。

御卜若有不淨之氣者。於御殿有由御祓。近代稱之御燈。

代始日次不宜者停止。

穢時雖無御祓。猶有廢務。

后宮懷妊之時。無御祓。長暦一年。

廻自一日迄于三日。御淨食者雖不被奉御燈。猶有淨食。內藏奏申奉御燈畢由之後用魚味。

仲齋間。不可必忌僧之由。見康保四年御記。

延喜十九年三月。依內裏穢雖停御燈。輕服人不參。三日。諸司廢務如常。

同日。內膳司供御節供事。

同日。內藏寮酒肴事。

同日。一院御節供事。

同日。執柄家節供事。

同日。平等院一切經會事。

延久元年五月廿九日始行之。執柄家行之。

同日。曲水宴事。

顯宗天皇元年三月上巳。曲水宴之起。自此時也。或云。雄略元年云々。但日本紀不見。

和銅五年三月三日。御幸春日山宮 宴五位已上八十八人。賜飲食及祿。

神龜五年三月三日。天皇御鳥〔島〕池塘。宴五位已上。賜祿有差。又召文人。令賦曲水之詩。

天平二年三月三日。行幸松原宮。豐樂賜祿。五位已上賜雙六局。令爲博戲。又喚文章士四十二人。作詩幷賜祿。

寶龜三年三月三日。幸靭屓御井。宴五位已上。令侍幄下。賜綵幷祿。又文人賦曲水。

大同三年二月。詔曰。三月者先皇帝及皇太后登遐之月也。在於感慕。最所不堪。三日之節。宜從停止。

寬平御記云。二年三月三日。依御燈事。諸司廢務。太政大臣參入。終日有宴飲事。子時有詩興。其題三月三日於雅院賜侍臣曲水飲、被召文人。前讃岐守菅原朝臣。北野。典藥頭島田忠臣等、殿上藏人堪文之者。相交其中。

晉書云。武帝問摯虞。三日曲水之義、虞對曰。漢章帝時。平原徐肇。以三月初生三女。至三日俱亡。村人以爲怪。乃相攜之水濱洗祓。遂因水以泛觴。其義起此。帝曰。必如所談。便非好事。束晳進曰、虞小生不足以知。臣請言之。昔周公城洛邑、因流水以泛酒。故逸詩云。羽觴隨波。又秦昭王以三日置酒河曲。有金人。奉水心之劍曰。令君制有西夏。乃霸諸侯。因此立爲曲水。二漢相緣。皆爲盛集。帝大悅。賜晳金五十斤。

同日以前。不可有官奏事。

匡房卿次第云。此事延喜有宣旨。

四日。崇福寺傳法會事。

天平勝寶八年二月五日、橘奈良麻呂始行。

七日。藥師寺最勝會始事。六箇日。

源氏長者行之。以氏五位爲使。又不足米聽衆等事被宣下。法會與維摩會不殊。興福寺維摩會。八省御齋會、藥師寺最勝會。稱之三會。維摩會結願日。會參僧綱擧申明年講師。長者撰其人被奏聞。奉勅許。於其家召外記被仰。講師登講座之後。任次第任僧綱。

天長七年八月。令藥師寺每年設最勝王經之會。中納言兼中務卿直世王奏俾。此寺淨御原天皇爲皇后而所建也。皇后近江皇帝之女也。

八日。貞觀寺常樂會事。

寺家行之。講涅槃經。

厨家送料物。元慶二年。分弁。少納言。外記。史。內記。史生。官掌等作料布送之。

同日。高雄法華會事。

九日。長講堂御八講始事。五箇日。後白河院。

建久五年三月廿九日被修之。

同六年改九日。

十日。內膳司供粽事。迄五月卅日。

內膳式云。從三月十日。迄五月卅日。

同日。法勝寺阿彌陀堂御念佛始事。三箇日。

十二日。蓮華王院阿彌陀堂御念佛事。

十三日。後白河院御忌事。

保元三年八月十一日遜位。建久三年晏駕。春秋六十六。

同日。蓮華王院阿彌陀堂御經供養事。

十四日。東大寺華嚴會事。

十五日。西大寺成道會事。

同日。淸水寺長講事。

明經道行之。

同日。祇園一切經會事。

中巳日。石淸水臨時祭試樂事。或巳日。

中午日。同祭事。若有二午用下午。

先祭卅日行調樂。十三度必可行歟。俗謬也。

若當十七日國忌者。可用廿九日。下午。若爲小月者。五日被行。若又當廿一日國忌九日。上午。

大月時。以廿九日被行例。長保元年。同二年。長元二年。

小月時。以五日被行例。萬壽三年。同四年。長元三年。康平三年。寬治七年。

代始依擇日次。不必用午日。

天慶五年四月廿七日。有石淸水臨時祭。依將門亂逆祈賽也。以允明源氏。爲使。卽亡卒。仍停之。安和又立之。自天祿元年又始之。

石清水宮略記云。大安寺僧行教。俗姓紀氏。欲奉拜大菩薩。以貞觀元年。參拜宇佐宮。一夏之間。祇候寶前。九旬已畢。欲歸本都之間。以七月十五日夜半。於行教示仰宣。吾深感應汝修善。敢不可思忘。須近都移座。鎮護國家。汝可祈請者。行教卽始自彼十五日。晝夜六時奉祈請。以同廿日京上。八月廿三日。到來山崎離宮邊寄宿之間。更倍信心。祈願中云。伏蒙示現者。同廿五日夜被示云。吾移坐近都。爲鎮護王城也者。卽撰何處可奉安置寶體。願垂示現給云々。卽夜示宣。可移座之處。石清水男山之峯也。吾將現其處者。驚奇以夜中向南方。百餘遍奉禮拜大菩薩之間。山城國巽方山頂。和光垂瑞。宛如月星光。昭耀遍滿。以明曉參詣件山頂。三箇日夜祈申之間。隨御示現。點處結草。且先以法味奉莊。且錄上件事由。參上公家令奏聞。以同九月十五日下勅使。令實檢點定。次下宣旨木工寮。造立六宇寶殿。三宇正殿。三宇禮殿。奉安置三所御體。其間靈驗日施。感應非一。以同十一月八日。依左大臣召參候。仰云。依舉人奏狀。下宣旨差使。令奉造大菩薩御殿之由。如何。但未經奏聞以前。天皇勅宣云。所示現之夢。其想自男山之峯立登紫雲。覆於王城。及遍滿天下也者。以之推之。更非輕忽事。定有天下慶賀哉者。又皇后所見給。及臣家所見之夢。已以同想也。而今奉此奏狀也。仍驚貴所令造御殿也。

大安寺緣起云。東室十間內二間行教和尙坊。其邊有石井。謂之石清水。口傳云。八幡石清水之根本是也。

明日。同祭使等歸參事。

於弓場殿賜饗祿。若當國忌者。不發物音。只參弓場。奏事由退出。

同日。所雜色等差定賀茂禊祭前駈事。

十七日。國忌事。慶務。西寺。近代移東寺。桓武天皇。
天皇延曆廿五年晏駕。春秋七十。

同日。觀音院灌頂事。
近代動及歲暮。或云。無式月。只用尊勝寺灌頂以前云々。兼日定僧名。
灌頂之起。承和十年十一月十六日格云。少僧都實惠牒偁。灌頂法門。是詣極之夷途。爲入佛之正立。頂謂頭頂。表大行之尊高。灌謂護持。明諸佛之護念。超昇出離。何莫由斯。
保延六年三月廿五日庚子始行之。去年女御藤原朝臣美福門院。御產之間。覺法々親王令修孔雀經法。賞申請之。

中旬。嘉祥寺地藏悔過事。
大炊式云。每年三月十月中旬修之。

廿一日。國忌事。慶務。東寺。仁明天皇。
天皇嘉祥三年晏駕。春秋卅一。

同日。金剛峯寺年分度者事。
行成卿抄云。元九月廿四日也。受戒之後。六年出山。

廿三日。藥師寺万燈會事。
寺僧律師惠達所始也。

廿四日。尊勝寺灌頂事。
兼日定僧名。近代動及歲暮。仍同定日時。
長治元年始之。有行幸。慈覺智證門徒等互爲導師。一宗各三年。

晦日。仁和寺理趣三昧事。敎實親王忌日。
執柄家行之。

撰吉日事。

京官除目事。
今月三日以前雖可行。近代動及冬節。
令云。仕官大納言以下。左右大弁。八省卿。衞府督。彈正尹。太宰帥。勅任餘官。奏任主政主帳及家令等。判任舍人史生使部帳內資人等。式部判補。

寛平御誡云。京官權任不可輙任。至于弁一人及主計主税供奉諸司六衛府馬寮等官人。量時務之閑繁。臨時任之。莫專弁。又陰陽寮雅樂寮等。爲取其藝。年來有例。隨宜處分。自餘諸司一切停止。公卿正員者。太政大臣左右大臣各一人。大納言二人。中納言三人。參議八人。合十六人。其中太政大臣。無其人則闕之官也。定十五人。雖有件十五人員。天安以往。其員至多時僅十二人。貞觀以後當十四人。令須大納言以下莫過十二人。若有權任納言者。隨置參議之闕。雖任大臣又置納言參議之闕。勿過十四人。又大納言勿過權正三人。

又云。衛府舍人以上。陣直超倫。聲譽通聞者。其昇轉叙位及兼國賞物。勿物常例。唯忠依婦人之口少人之舉耳。

東大寺授戒事。

三年一度行之。不申戒狀。受戒畢。三司進奉狀。

御障子本云。四月立東大寺授戒使。（安居以前。）

延暦寺申戒狀事。（次下旬）

官付別當弁。弁申拔按大臣下之。

貞觀十一年四月十六日格云。弘仁十四年二月廿七日格偁。傳燈大法師位最澄表偁。天台法華宗年分度者二人。每年春三月。先帝國忌日。於比叡山令得度受戒。自今以後。准舊例令受戒。但進辭文二紙。一紙留官。一紙下寺。以爲長例。

眞言院孔雀經御修法事。

鎮花祭事。（或當日。）

神祇令云。季春鎭花祭。注云。謂大神狹井二祭也。在春花飛散之時。疫神分散而行癘。爲其鎭遏。必有此祭。故曰鎭花。

春宮帶刀歩射事。

〔此間闕文〕

同日。定廣瀨龍田祭使事。
五位方之。武部差進。
上卯日。大神祭事。有三卯用中卯。丑日使立。
倭迹々日百襲姫命。與大物主神之本緣。三輪明神也。
二宮立幣使。
延喜四年四月七日。依穢大神祭使自途中召返。犬死穢云々。
行成寬弘六年二月十一日列見記云。遠祭者。以使立日爲齊限
同日。宗像祭事。
官幣不立。氏人祭之。
寬平五年十月廿九日格云。被社氏人左少辨兼大學頭高階眞人忠岑等解狀偁。件神坐大和國城上郡。與坐筑前國宗像郡從一位勳八等宗像大神同神也。舊記云。是天照大神之子也。大神勅曰。汝三神降居道中。奉助天孫。爲天孫所祟祭者。今國家毎有禱請奉幣。件神是其本緣也。
同日。稻荷祭事。若有三卯用中卯。可用松尾祭後卯云々。
上巳日。山科祭事。
寬平十年始之。
延喜十一年正月六日格云。太政官符。神祇官應附官帳坐山城國宇治郡山科神二前事。右得宮道氏人内藏少允宮道良連等。去年八月七日解偁。件氏神。依去寬平十年三月七日宣旨。初尋公家春秋之祭祀。雖然未附官帳。歲月稍久。望請特蒙天裁。准杜本神。被附官帳。預四度幣者。中納言兼右近衞大將從三位行春宮大夫藤原朝臣忠平宣。奉勅依請者。
上申日。平野祭事。
二宮立幣使。
執柄家獻幣馬等。
舊例皇太子參上。

貞觀十四年十二月十五日格云。應充正一位平野神社地一町事。東限云々。右得彼社預從五位下卜部宿禰平麻呂解狀偁。謹檢舊記。延暦年中。立件社之日。點定四至。奏聞既畢。而社預等不詳事意。無領件地。因之嵯峨院去承和五年十月。割取八段。賜時統宿禰諸兄。其後加野地二段。轉給典藥寮。本自有藥園地。重請神地耕作畠畝。今除件地之外。四方被限禁地。無有行神社并走御馬之處。又會集諸司。貴賤車馬。塡塞社邊。無道出入。望請被早返給。永爲社地。謹請官裁者。右大臣宣。奉勅依請。

神祇祝式云。天皇我御命爾坐世。今木與利仕奉來流皇大御神乃廣前爾白給久。皇大御神乃乞志給乃麻々爾。此所乃底津石根乃宮柱廣敷立。高天乃原爾千木高知天。天御蔭日乃御蔭止定奉天云々。稱辭竟奉久止申。久度古開。天皇我御命爾坐世。久度古開二所乃宮爾天之。供奉來流皇御神乃廣前爾白給久。

貞觀式云。平野久度古開三神。今案平野是惣號。非一神名。可注今木久度古開。更加相殿比賣神一座。

貞觀六年七月遣使者。進平野從一位今木神階。加正一位。

應和二年十一月。供奉諸司觸內裏穢。仍以後申可行。

同日。同臨時祭事。

寬和元年始之。以殿上五位爲使。用帶劍人。文官又有例。

同日。松尾祭事。

辨已下參入行事。

先代舊事本紀云。次大山咋神。此神者坐近淡海國之比叡山。亦坐葛野郡之松尾。用鳴鏑神也。

秦氏本系帳云。正一位勳一等松尾大神御社

者。筑紫胸形坐中部大神。戊辰年三月三日。天下坐松埼日尾。又云日埼岑。大寶元年。川邊腹男。秦忌寸都理。自日埼岑更奉請松尾。又田口腹女。秦忌寸知麻留女。始立御阿禮乎。知麻留女之子秦忌寸都駕布。自戊午年爲祝。子孫相承。祈祭大神。

同日。當麻祭事。大和國。午日使立。

同日。杜本祭事。河内國。午日使立。

仁和年中始之。

延喜九年七月七日格云。河内國解偁。杜本當宗二社。相去其間不遠。

上酉日。當宗祭事。河内國。子日使立。

仁和五年始之。

應和元年十月廿六日外記々云。來月上申酉。杜本當宗等祭也。勘年々記。十一月朔日當酉日。件兩祭例不分明。內藏寮勘申云。十一月朔日當酉日。件兩祭延引。以次申酉祭之例也。可依件勘文之由被議定畢。十一月一日辛酉。當宗杜本祭。可用次申酉之由被仰下畢。依無上申也。

延久二年四月一日辛酉。當宗祭也。去月廿七日戊午使立。抑內藏寮請奏。來十三日云々。去年用次酉例也。而依宣旨用今日。

同日。梅宮祭事。

二宮立幣使。

執柄家獻幣馬等。

元慶二年始之。

同三年十一月六日辛酉。停梅宮祭。梅宮者仁明天皇母文德祖母 太后橘氏之神。歷承和仁壽二代。以爲官祠。今永停廢。

光孝天皇同八年以後又祭。寬平又止。寬和二年十一月廿一日宣旨云。梅宮祭停廢之後。已經數代。而新依御願。初復舊基者。宜仰氏人。以今月廿五日。早如舊例將令勤仕。但自明年

可用式日者。

三日。左右衞門府壞弓場垜事。

舊例不憚土用。以草築之故也。近代憚之。不可然歟。

同日。進擬階文事。

四日。廣瀨龍田祭事。廢務。朔日定使。

神祇令云。大忌祭。謂廣瀨龍田二祭也。令山谷水變成甘水。浸潤苗稼。得其全稔。故有此祭。風神祭。亦謂廣瀨龍田二祭也。欲令沴風不吹。稼穡滋登。故有此祭。

神祇式云。大忌祭一座。廣瀨社。風神祭二座。龍田社。

天武天皇四年四月。祠風神于龍田立野。祭大忌於廣瀨河曲。

延暦十八年六月十五日符云。廣瀨龍田祭。所以鎭彊風災禱祈年穀也。

天德四年。依穢五月三日行之。

康保三年。左大臣令申右馬寮無繋飼馬不牽神馬由。仰以野放馬令充。

五日。二省請印准蔭位記事。

六七日。大安寺大般若會事。

昔上宮太子熊凝村道寺。舒明天皇御時。百濟河邊移立日。百濟大寺造寺司伐神社木用之。神怒燒寺。皇極天皇時營造之。天智天皇造丈六釋迦。和銅三年。移作奈良京。聖武天皇天平元年。改作此寺。道慈律師云。此寺始燒事。依高市郡子部明神社樹也。此神雷神也。怒心出炎也。

七日。奏二省成選短冊事。內裏式十一日。

稱之擬階奏。列見延引之時。後日行之。

官式云。式部兵部二省。進成選擬階短冊者。各預造簿。三月內入外記。外記惣造奏文。請參議以上署。四月七日。大臣以下共奉奏聞。

清涼記云。於紫宸殿有此儀。

八日。灌佛事。

若當神事者停之。

承和七年四月八日。請律師靜安於清涼殿。始

行灌佛事。

初齋院御禊年。雖不當神事停之。長曆元年。寛治四年。大治四年。長承四年。

近代多又如此。或不停。康和三年四月八日灌佛。同十二日初齋院入御紫野。天永元年四月八日灌佛。同十二日初齋院入御紫野。

當遣社祭使立日停之。長德三年。寛治元年。天治元年等。依當大神祭也。

內裏穢間。不止灌佛。永長二年。

延長四年。當杜本當麻等祭使立日。而有明日可立仰。猶被行之。當大神使立日。又有此例。承保元年。大嘗會以前有灌佛。依仁和四年。天祿元年例也。

灌佛形像經云。十方諸佛。皆以四月八日誕生。春夏間。万物普生。不寒不熱時調。

浴像經云。我今說浴像法諸供養中爲殊勝。若欲浴佛。諸妙香入水。浴將誦偈。我今灌水佛如來。淨智功德莊嚴聚。五濁衆生令離垢。願證如來淨法身。

宿命本起經云。四月七日。夫人出遊。邊流〔マヽ〕民樹家〔梨イ〕花開化。明星出時。夫人攀樹枝。便從右脇生。天地大動。三千大刹土。莫不大明。龍王兄弟。左雨溫水。右雨冷泉。天降瑞應。風霽雲降空。

同日。一院諸院宮等灌佛事。

天治元年。依當大神祭。院宮灌佛同以停止。

同日。執柄家灌佛事。

同日。彈正撿察東西寺事。

彈例云。四月八日。七月十五日。京中諸寺齋會之時。遣巡察彈正等。糺彈非違。

〔此間二行闕文〕

同日。諸寺安居始事。

諸本自今日始之。而玄蕃式十五日云々。仍又十五日載之。

同日。下野國藥師寺齋會事。

十日以前。定齋王禊前駈事。

大臣定申。若有障者。行齋院事上卿定之。近代皆如此。

十一日。式部省請印位記事。

同日。馬寮始飼青草事。迄十月十日。

馬寮式云。細馬十疋。中馬五十疋。下馬廿疋。牛五頭。毎年四月十一日。始飼青草。其飼丁馬別一人。以衛士充。但苅青草丁幷飼牛丁。田イ惣七十八人。並充仕丁。其飼秣者。[illegible]

十二日。内馬場造埒事。

十三日。兵部省請印位記事。

同日。崇福寺悔過始事。三箇日。

玄蕃式云。毎年四月十二月悔過。各三日。

十四日。伊勢神衣祭事。四月十三日。十二月三日始行。

神祇令云。孟夏神衣祭。注云。謂伊勢神宮祭也。此神服部等。齋戒潔淸。以參河赤引神調絲。織作神衣。又麻續連等。續麻以織敷和衣。以供神明。故曰神衣也。

神宮式云。和妙衣者服部氏。荒妙衣者麻續氏。始從祭月一日織造。至十四日供祭云々。是日笠縫内人等。供進蓑笠。預前一月晦日祓除。

同日。法成寺阿彌陀堂御八講始事。四箇日。後一條院。

長暦二年四月十七日被始修之。

十五日。授成選位記事。

著座弁爲宣命使。若無者必少納言爲代。近久絶。五位外記必申行。此事爲善師平康平年中行之。

行成卿抄云。謂之位記云給。〔之缺〕

若當賀茂祭。十七日行之。

慶雲四年正月。天皇御大極殿。詔授成選人等位。

同日。十五大寺安居始事。

玄蕃式云。十五大寺安居者。起四月十五日。

盡七月十五日。分經講說。東大寺法華。最勝。仁王般若經各一部。理趣般若。金剛般若經各一卷。興福。元興。大安。藥師。西大。法隆。新藥師。本元興。招提。西　。四天王。崇福等十二寺。法華。最勝。仁王般若經各一部。弘福寺法華。最勝。維摩。仁王般若經各一部。東寺法華。最勝。仁王般若。守護國界主經各一部。

同日。諸國々分寺安居事。

延暦廿五年四月　日格云。十五大寺安居講仁王經事。國分副最勝王經。令天下安和。朝廷無事。諸國分准此。

同日。延暦寺授戒事。

三月下旬申戒狀。

〔此間一行闕文〕

十六日。三省進春季徵免課役帳事。

同日。新東北院御八講始事。四箇日。後冷泉院。

長元九年晏駕。春秋廿九。

十七日。後一條院御忌事。

長元九年晏駕。春秋廿九。

十九日。後冷泉院御忌事。

治暦四年晏駕。春秋卌四。

廿日。式部省奏銓擬郡司領〔[illegible]〕文事。御障子本。北山抄等廿日以前。

官式云。諸國銓擬言上郡司大少領者。式部對試造簿。先申大臣。

式部式云。郡司有闕。國司銓擬。歷名附朝集使申上。其身正月內集省。若二月以後參者隨返却。

藏人式云。御南殿。無出御之時。上卿於弓場奏之。

貞觀七年四月廿五日。式部省奏諸國銓擬郡司擬文。

元慶八年四月。天皇御紫宸殿。式部省奏諸國銓擬郡司擬文。

〔此間闕文〕

任部司事。
外記申一上。定其日。
式部式云。部司補任之後。皆移民部省。
〔此間二行闕文〕
申巳日。定齋院垣下事。
〔此間一行闕文〕
中午日。賀茂齋王禊事。中卯日有點地事。
今朝齋王以下料牛幷所前駈等。若朔日當
酉〔忌〕祭用下午酉。
寛平御識云。齋院者。種々雜物。式例雖具。用
途不是十分之一。特加相勞不可怠之。大略仰
菅原朝臣季長朝臣畢。可令彼兩人撿按之。
延暦十二年癸酉。〔恐有脱一字〕北野山中天皇行幸。而諸臣
卿各其也。于時遭大火給。新申。始奉鴨上
下兩社大祭事。率供奉諸司幷奉齋内親王。
又説云。嵯峨天皇與平城天皇有隙不穆。于時
嵯峨天皇祈禱有感。祠奉齋王云々。

中未日。御覽女騎料馬事。
〔此間一行闕文〕
同日。警固事。北山抄中日。
祭雖停止。猶有警固。依有國祭也。
官式云。祭日前一日。大臣侍殿上。召諸衞府
次官已上於殿前庭。而仰警固事。後日解陣亦
准此。
〔此間一行闕文〕
同日。賀茂行幸事。
永保聖代。依勅願有此儀。其後隨時。
中申日。賀茂國祭事。
同日。日吉祭事。
日吉名神者。元是大和國三輪名神也。依傳敎
大師之語。移住叡岳云々。興福寺林懷僧都說。
長久四年六月八日。始立官幣。或云長久四年。或云延久六年。
〔此間二行闕文〕
同日。賀茂松尾等社司獻桂葵事。内藏寮式中酉日。

執柄家同獻之。

秦氏本系帳云。楓山之葵插頭。當日早朝。松尾社司等令費插頭料參候。內藏寮祭使既來。置楓山葵於庭中。詔戸申使等。各插頭出立。禰宜祝等賜祿物。

〔此間三行闕文〕

同日。執柄賀茂詣事。

宇治贈大相國長者之時。以穢中遂參社。人不知由緒、

中酉日。賀茂祭事。廢務。

使立如春日祭。

若朔日當酉。下酉行之。依用國祭後酉也。

當日。於南殿覽使々餝馬。

祭雖停止。猶有廢務。

齋王雖輕服。准齋宮例參祭。延喜九年。

秦氏本系帳云。正一位勳一等賀茂大神御社。

賀茂者日向曾之峯天降坐神賀茂建角身命也。宿坐大倭葛木山之峯。自彼漸遷。至山代國岡田之賀茂。隨山代河下坐。葛野河與賀茂河所會立坐。見迥賀茂川而言。雖狹小。然石川清川在。仍號曰石川瀨見小川。自彼川上。定坐久我國之北山基。從爾時名曰賀茂也。建角身命娶丹波國神賀古夜日賣。生子。曰玉依日子。次曰玉依日賣。於石川瀨見小川遊爲時。丹塗矢自川上流下。乃取插置床邊。遂感孕生男子。至成人時。外祖父建角身命。造八尋屋。竪八戸扉。釀八腹酒。而神集々而。七日七夜樂遊。然與子語言。汝父將思人。令飲此酒。即舉酒坏。向天爲祭。分穿屋甍而升天。乃因外祖父之名。號賀茂別雷命。

又云。初秦氏女子出于葛野河。澣濯衣裳時。有一矢。自上流下。女子取之還來。刺置於戸上。於是女子無夫懷姙。既而生男子也。父母惟之責問。爰女子答云。不知。再三詰問。雖經

日月。遂云不知。父母以謂。無夫而無生子之理也。我家往來近親眷族隣里鄕黨之中。其夫應在。因茲辨備大饗。招集諸人。令彼兒執盃。祖父母命云。父止思人爾可獻之。于時此兒不指衆人。仰觀行指戸上之矢。即便爲雷公。拆破屋棟。升天而去。故鴨上社號別雷神。鴨下社號御祖神也。戸上矢者松尾大明神是也。是以秦氏奉祭二所大明神。而鴨氏人爲秦氏之聟也。秦氏爲愛聟。以鴨祭讓與之。故今鴨氏爲禰宜奉祭。此其緣也。鴨祭之日。走馬。近衞二人捧謝幣。與禰宜祝供參松尾神社。是乃父母子愛之義。芬芳永有之心也。

又云。欽明天皇御宇。天下擧國。風吹雨零。爾時勅卜部伊吉若日子令卜。乃賀茂神祟也。撰四月吉日。馬繫鈴人蒙猪。影而馳驅。以爲祭祀。能令禱祀。因之五穀成熟。天下豐年。乘馬始於此也。

右官史記云。天武天皇六年二月。令山背國營賀茂神宮。

承和十一年十一月四日。禁制汚穢鴨上下大神宮邊河格云。彼神宮禰宜賀茂廣友等解偁。鴨川之流經二神宮。但欲清潔之。豈敢汚穢。而遊獵之徒就屠割事。濫穢上流。經觸神社。因茲汚穢之祟。屢出御卜。雖加禁制。曾不忌避。仍申送者。大納言正三位兼行右近衞大將民部卿陸奥出羽按察使藤原朝臣良房宣。奉勅。神明攸祟。不可不愼。宜仰當國俾禁斷之。

弘仁十年三月勅。山城國愛宕郡賀茂御祖并別雷二神之祭。宜准中祀。

延喜元年十二月廿八日。太政官符云。得神祇官解偁云々。件河合神。是御祖別雷兩神之苗裔之神也。加之此神靈驗顯然。貴賤歸仰。奉大神宮幣帛之時。先奉此神云々。或云。天安二年八月七日。太政官符預大社。

天暦四年四月四日辛未。仰云。今年賀茂祭當十七日。而内裏有穢。來十八日可滿。已齋内也。先例齋内有穢之時。從停止之。有御卜。停止與以下申酉令祭吉凶事也。五日壬申。召鴨下社禰宜是秀。上社禰宜祝部春里。仰云。今年祭當十七八日。而内裏依有穢停彼日。但下申酉當廿九卅日。神祇官卜云。延引可宜。若臨彼期有不淨之氣歟。件事於明神社。各致誠可祈申者。廿七日甲子御禊。卅日丁酉祭也。

同日。中山祭事。

冷泉院内石神是也。自天喜元年立官幣。内藏寮申云。或用上酉。

中戌日。齋王遷野宮事。或酉日。

同日。解陣事。

中子日。吉田祭事。若有二子用下。

二宮立幣使。

執柄家立幣馬等。

寛和二年十二月十七日。以吉田祭准大原野祭々之。

永延元年十二月十七日。准大原野社。行二季祭。元者山蔭中納言一家祭之。

廿二日。給後宮并官人時服事。十日中務省申官。今日於大藏省給之。

同日。給女官春夏餝物料事。同。

廿八日。駒引事。小月廿七日。

清涼記。於南殿有此儀。

行成卿抄云。或延引。用五月三日。稱小五月。

而延喜十七年有定停止。今則不行。

廿九日。三枝祭事。

社本緣見率川祭所。

神祇令云。三枝祭。注云。謂率川社祭也。以三枝花餝酒罇祭。故曰三枝也。

晦日。新日吉祭事。

擇吉日事。

〔是ヨリ下卷トス〕朱

〔以下下五月公事首缺歟〕

五月走馬結番事。

先十日。下兵部省。

摠持院舎利會事。

〔此間闕文〕

清涼記云。小五月事。延喜十七年有定停止。今則不行。但天皇服尋常御服。昌蒲鬘。〔御鬘絲所未明〕之獻。　幸武德殿。

〔此間一行闕文〕

四日。主殿寮葺内裏殿舎廻廊諸門菖蒲事。〔晩頭。〕〔菅蕃年預守時申云。小野山供御人參入葺之云々。〕

新造宅不憚葺之。

荊楚歲時記云。五月五日。荊楚人皆蹋百草。採艾爲人懸門戶之上。以禳毒氣者也。

同日。右近騎射荒手番事。

同日。奏走馬結番并毛色事。

五日。節會事。

官式云。五月五日。天皇觀騎射并走馬。弁及史等撿校諸事。所司設御座於武德殿。是日内外百官皆着昌蒲鬘。諸司各供其職。

内裏式。於武德殿觀馬射。諸衛服中儀。供昌蒲續命縷等。

西宮記云。昌蒲鬘如日景鬘。

天平十九年五月。天皇御南苑。觀騎射走馬。詔曰。昔五日節。常用昌蒲縵。比來已停此事。從今而後。非昌蒲鬘者。勿入宮中。

天平寶字二年二月。詔云。去勝寶八歲五月。先帝登遐。一准重陽。永停此節。〔謂先帝者聖武天皇也。〕

天長元年三月詔。五月四日。是太后昇遐之日也。五日之節宜從停止。同二年九月九日。臨射宮觀馬射。依憚御忌月也。

同日。典藥寮供昌蒲事。

無節會之時供之。以輿供之。御料立明義門廊。人給料立殿上前。

東宮執柄家等同獻之。
同日。書司供菖蒲事。
西宮記云。近代不見。
同日。糸所供藥玉事。
無節會之時。於清涼殿供之。結付晝御帳柱。
撤去年茱萸。
近衛式云。五月五日藥玉料。菖蒲。艾。惣盛一輿。雜
花十捧。盛居臺。
三日平旦。申內侍司。諸衛准此。
內裏式云。續命縷。此間謂藥玉。
行成卿抄云。結付晝御座間母屋南北柱。
風俗通云。五月五日。以五色絲繫臂。攘惡氣。
令人不病。俗謂五絲爲百索。一名長命縷。一
名續命縷。一名辟兵繒。襲イ帶之辟兵刀。
同日。左近眞手番事。
近代無節會。有此儀。
若本府弁緣所有穢之時。後日行之。

康保元年五月十七日。左近騎射手番也。式日
去三日荒手番。五日眞手番也。而依皇后安子。
御事去月廿九日有事。延引。今日一度行兩事。
永保二年五月五日。廿一社奉幣。左近騎射延
引。七日行之。
保安三年五月八日。左近騎射也。是件間雜物
納置小屋。有穢之故也。
長寛元年五月六日。伊勢幣。右近騎射延引。
八日行之。
同日。內膳司供御節供事。
風土記云。五月五日。以菰葉裹黏米煮熟。
謂之角黍。
續齊諧記曰。屈原五月五日。自投汨灘。楚
人哀之。每至此日。以竹筒貯米。投水祭之。
十節記曰。五月五日茭纏。昔高辛氏子乘船
渡海。急逢暴風。五月五日沒海中。其靈成
水神。令漂失船。或人五月五日以五色絲茭

纏投海中。茎纏變化成五色鯁龍。蛟イ海神惶隱。敢不成害。後世相傳。

同日。同司供早瓜事。

官人持參。置御膳棚上。

差內竪遣常住寺。件早瓜山城御薗所供也。件御薗桓武天皇所建給也。又常住寺彼御願也。仍遣之歟。

行成卿抄云。若不實者獻花根。

同日。內匠寮進瓜刀事。

進藏人所。

內匠式云。五月一日。七月一日兩度。盛楊筥進之。

西宮記云。六月一日。七月一日兩度進之。廿柄。

同日。內藏寮酒肴事。

同日。一院御節供事。

同日。執柄家節供事。

同日。內藏寮送諸寺菖蒲佩事。

西宮記云。糸所獻藥玉。又差內竪送諸寺。

行成卿抄云。東西梵釋。崇福。常住。東名。出雲。聖神。法觀。廣隆。東薬珊。皇佐比。嘉祥。寶皇等寺也。

同日。山城國供青槲事。迄十一月四日。

內膳式云。山城國所進供御料青槲。每日一荷。五十把。始五月五日。終十一月四日。

同日。圓宗寺御八講始事。四箇日。後三條院。

承保二年五月七日始之。

同日。同寺御念佛如事。三箇日。

六日。競馬事。

於武德殿有此儀。

清凉記云。天皇御武德殿。諸衞無儀服。但着青摺。

同日。右近眞手番事。

近代競馬久絕。唯有此儀。

七日。後三條院御忌事。

延久四年十二月八日遜位。同五年晏駕。春秋四十。依遺詔不被置廢務。不被立山陵使。仍政官不賜日。

八日。宇治離宮祭事。

九日。新日吉小五月會事。

後白河院永曆元年。始被奉崇。〔崇イ〕

同日。紫野今宮祭事。

十日。奏源氏夏衣服文事。

廿五日。村上天皇御忌事。

康保四年晏駕。春秋卌二。依遺詔不置國忌山陵〔日脱〕口。於雲林院有御態事。但雖非廢務。無政幷結政。官中謂之有無日。

廿八日。延曆寺六月會始事。七箇日。小月廿七日始之。結願日傳教大師忌日。

建保二年五月七日宣旨云。宜准御齋會者。

去年衆徒蜂起之時。可遣使之由被下院宣。仍權右中弁平經高朝臣參向。持笏召具弁侍。諸司不登山。綱所參向。

晦日。伊勢齋王禊事。

寬平御誡云。齋宮者出在外國。用途雖繁。料物不足。隨其申請。量宜進止。唯寮司能々可選任之。

撰吉日事。

最勝講事。五箇日。

長保二年五月七日始之。

〔首書一代要記公事根源始修最勝講並作四年五月五日〕朱

御講之間。服者不參。康平。

主水司供氷事。

或意。自四月一日供之。〔可行迄九月也〕可迄九月也。而近代最勝講日供之。至相撲節。

賑給事。

中旬以上差使。

寅申及坎日不賑給。

小野宮說賑給。此說尤有謂。法律供給之讀供給云々。

着鈦政事。

〔當職〕去別當裝日。擇日次。

最勝講中先例有議。近代不憚。

禮記云。孟夏之月。靡草死。麥秋至。斷薄刑。決小罪。出輕繫。注云。祭統曰。草艾則墨。謂立秋後也。刑無輕於墨者。今以純陽之月。斷刑決罪。與毋有壞墮自相違。似非。後漢書云。和帝永元十五年。有司奏。以爲夏至則微陰起。靡草死。可以決小事。注云。禮記月令曰。孟夏之月。靡草死。麥秋至。斷薄刑。決小罪。注云。靡草薺亭歷之屬也。臣賢案。五月小陰爻生。可以言微陰起。今月令云孟夏。乃是純陽之月。此言夏至者。與月令不同也。私儉禮祭統云。祭有四時。春祭曰礿。夏祭曰禘。秋祭曰嘗。冬祭曰烝。禘者陽義也。嘗者陰義也。嘗之日。發公室示賞也。草艾則墨。未發秋政。則民弗敢草也。注云。發公室出賞物也。草艾謂艾取草也。秋草木成。可芟艾給爨亨時。則始行小刑也。今案。如禮記者。四月可決小罪也。而我朝四月。依神事齋離行斷罪。仍及五月歟。且困准後漢書也。切韻。鈦音太。鉗也。案鉗以鐵爲之。徒罪所着也。

春宮帶刀騎射事。

六月

十一日以前。僧尼重輕服輩不參內。自後朱雀院御宇有此事又不可有官奏。

一日。神祇官始奉御事。入夜。迄于八日。

御巫子持參

內裏有獻之時不獻之。

西宮記云。女房着侍臣供之。着服并月事人不候。

保安三年六月廿七日。中宮御産也。件穢雖觸禁中。神祇官獻御贖物。本宮東子細云々。但中宮職不獻之云々。

同日。內膳司供忌火御飯事。未明。

清涼記云。內裏雖有穢猶供之。
高橋氏文云。大足彥忍代別天皇五十三年。天皇行幸於葛餝野。是時上總國安房大神乎御食神止坐奉天。豐日連乎令火鑽天。此乎忌火止爲天、伊波比由麻閇天、供御食幷大八洲爾像天。八乎止古八乎止賣定天。神嘗大嘗等供奉始。
但云。安房大神爲御食神。今大膳職祭神也。今令鑽忌火大伴造者、始豐日連之後也。
同日。造酒司始獻醴酒事。迄七月卅日
執柄家同獻之。
切韻。醴音力弟反。甜酒也。一宿熟也。
東宮切韻。今案。韓詩日以酌醴。天子飮酒日酌醴也。甜而不濟。少麴多米。
同日。中務省奏御贖事。
諸本無之。唯載御障子本。
同日。內豎寮進御樀事。
同日。官厨家分氷於執柄家以下公卿幷官外記事。

初午日。獻御酒事。北山抄記。
三日。奏侍臣幷出納及女房夏等第文事。同月奏之。西宮記七月。
上日百六十已上爲上等。百四十已上爲中等。百廿爲下等。但女百日以上爲上等。未必滿日數云々。其祿法。夏上等四疋。中等三疋。下等二疋。冬上等六疋。中等四疋。下等三疋。或御乳母幷三位各五疋。博士命婦三疋。得選五位三疋。六位二疋。
同日以前。奏封戶文事。
十日。奏御體御卜事。
禁中有穢。供奉所司不穢時付所司。所司又穢者延引也。
神祇式云。卜御體。辭云。於宮內省。宮內式同之
清涼記云。內裏式載御南殿儀。若不出御。大臣若納言已上。於弓場殿奏之
西宮記云。內裏有穢之時延引。或於陣外奏

之。又當御物忌幷臨時廢務者。可付內侍所云
云。
九條右丞相年中行事云。此日不可有官奏。
元慶五年。納言以上申障不參。太政大臣於式
曹司。令友于朝臣奏。付內侍所獻。
同八年。御南殿奏之。後無出御之例。
十一日。月次祭事。廢務。十六日度會宮。十七日大神宮。
神祇令云。季夏月次祭。注云。謂猶神祇官祭
與祈年祭同。卽如庶人宅神祭也。
弘仁十四年宣旨云。卯四點以前。庶事弁備。
辰一點。參議以上始行事。
延長四年十二月。同七年十二月等。外記史觸
內裏穢。仍用代官。
同日。神今食事。廢務。
舊例於中院行之。近代於神祇官行之。有行幸
之時。卜小忌侍臣。於上卿參議弁等者。每年
卜之。
近代有後齋云々。或人云。供解齋御手水粥畢。
何可有後齋哉。
寬平御誡云。神今食日。必可幸八省中院。以
行其儀。
弘仁十四年宣旨云。戊一點御齋院。寅二點還
宮。
後曉。大殿祭事。
神祇式云。神今食。明日平旦。中臣忌部宮主
等。自宣陽門入。候於內裏。共入至殿東簀子
敷上。卽御巫等各取筥。中臣忌部御巫等。以
次入御殿。御巫人進紫宸殿散米。亦一人進承明門散米。忌部取玉。懸殿
四角畢。次御巫等散米酒切木綿殿內四角退
出。中臣侍御殿南。忌部向巽。微聲申祝詞畢。
次至湯殿。懸玉四角。次懸廁殿四角。次懸御
廚子所四角。次懸紫宸殿四角。御巫等以次散
米酒如初。御巫一人進承明門內散米酒。從陰明門退出。次引宮
主忌部。至御炊殿。懸木綿散米酒如初。畢內

藏寮賜祿有差。

史記云。孝文皇帝卽天子位。使大僕夏侯灌嬰與東年〔年脫〕侯興居清宮。卽日入未央宮。應劭曰。舊典天子行幸所至。必遣靜室令先案行。淸靜殿中虞非常。

同日。忌火庭火祭事。

神祇式云。大殿祭畢。宮主於內膳司行事。

十二日。供解齋御手水并粥事。早旦。

雖無神祇官行幸猶供之。

十四日。祇薗御靈會事。

執柄家獻幣馬等。

貞觀年中。雖被下停止人馬宣旨。猶參會。

康平二三。應德二等年。御靈會路用四條。

師平記云。雖祇薗御靈會。强不可用神事。度度被行佛事畢。

十五日。同臨時祭事。

以殿上五位帶劍人爲使。文官又有例。

天延三年六月十五日丙辰。公家自今年。於感神院被奉走馬。勅樂。東遊等。依去々年皰瘡事也。依上卿不參。參議源惟正卿參入。行事右少將藤原理兼爲使。左右御馬各五疋。左右近官人已下供養〔宰カ〕。走馬音樂每年可被奉。東遊今年。

天治元年。始被立臨時祭使。殿上五位。中納言實隆卿參陣。有宣命。又東遊音樂被調獻。其後爲年事。

同日。本元興寺万花會事。

同日。新熊野六月會事。

同日。給無品親王及乳母時服事。五日中務省申官。九日奏聞。今日於大藏省給之。

十八日。法性寺御八講始事。四箇日、贈皇后茂子。白河院母后。

廿一日。國忌事。廢務。贈皇后茂子。

茂子。康平五年薨。延久五年五月六日。贈皇太后。

廿二日。圓教寺御八講始事。四箇日。一條院。

同日。一條院御忌事。

寛弘八年六月十三日遜位。同廿二日晏駕。春秋卅二。

同日。給諸司春夏時服事。七日中務省申官。九日奏聞。今日於大藏省給之。

廿四日。國忌事。廢務。東寺。贈皇太后懷子。二條院母后。

平治元年。始被置之。

廿五日。任相撲司事。御障子本廿日。

大臣着陣行之。

廿八日。法興院十講始事。五箇日。小月廿七日。結願日大入道忌日。

兼家公正暦元年薨。執柄家行之。

廿九日。最勝寺御八講始事。四箇日。小月廿八日。鳥羽院。

保元三年十二月十四日始置之。平治元年以後。七月二日爲終日。

晦日。大祓事。

官式云。六月。十二月晦日。於宮城南路大祓。大臣已下五位以上。就朱雀門。百官男女悉會祓之。

延喜元年。長和四年。長元七年。永保三年。久安四年。閏六月行之。

天永二年六月卅日大祓也。去十一日。大炊有卅日穢。件穢及于内裏并院中。然而參議顯雅卿參朱雀門庭行事。

保安三年六月廿七日御産也。件穢雖及禁中。有大祓事。參議宗輔朝臣參朱雀門庭行事。但中宮職無御祓事。

服者忌之。

同日。節折事。

東西文部進祓刀事。

神祇官奉御贖事。

縫殿寮奉荒世和世御服事。

重服人無節折。保安二年六月卅日。中宮職依撫物返給。無節折事。

神祇令云。六月。十二月晦日大祓者。中臣上御祓麻。東西文部上祓刀。讀祓詞。訖百官男女聚集祓所。中臣宣祓詞。卜部爲解除。

義解云。釋曰。大祓。謂祓者解除不祥也。東西文部。謂東漢文直。西漢文首也。讀祓詞。謂文部漢音所讀者也。

學令云。大學生取五位以上（謂諸王諸臣皆是。唯親王者不在此限。別有文學故也。）子孫及東西史部（謂居在皇城左右。故曰東西也。前代以來奕世繼業。或爲史官。或爲博士。因以賜姓。惣謂之史也。）子爲之。

神祇式云。東西文部等上大祓大刀者。

又云。御贖。晦日。卜部各着明衣。其一人執御麻。二人執荒世。二人執和世。二人執壺。宮主史生神部等。左右分頭前驅。次中臣官人。次御麻。次東西文部。（各執橫刀。）次荒世。次和世。（並着木綿鬘。）

進候延政門。

清涼記云。內裏式雖載南殿儀。近代於御在所行之。

弘仁十四年宣旨云。未四點。宮內神祇縫殿等。候延政門外。申四點始祓。

應和二年十二月。御物忌之時。神祇官雖不籠參入。

同日。齋院禊事。

雷鳴陣事。

西宮記云。大聲三度以上。雖無仰。大將以下帶弓箭參候。入秋節者。依宣旨參候。昌泰三年七月一日。兩度立之。

行成卿抄云。兵衞陣紫宸殿前。內舍人立清涼殿西廂。

北山抄云。后宮御別殿者。分近衞陣遣之。

擇吉日事。

施米事。（或七月。）

鎮火祭事。（或晦日。）

神祇令云。鎮火祭。注云。謂在宮城西方外角。卜部等鑽火而祭。爲防火災。故曰鎮火。

道饗祭事。（或晦日。小野宮年中行事廿五日。）

神祇令云。道饗祭。注云。謂卜部等於京城西隅道上而祭之。言欲令鬼魅自外來者。不敢入

京師。故預迎於路而饗遏也。
已上二祭。宮城京城四角四堺祭也。陰陽寮
進勘文。瀧口爲使。
執柄祇薗詣事。
舊例不必每年。近代無之。
東大寺千花會事。
年中行事抄第三
七月
一日。視告朔事。
同日。定廣瀨龍田祭使事。
同日。官政事。
同日。式兵兩省進內外官補任帳事。藏人所料六月廿日進之。
近代不行。然而上官參官東門。滿尅限。
同日。中務省進侍從幷命婦歷名補任帳事。
二日。鳥羽院御忌事。
保安四年正月廿八日遜位。保元元年晏駕。五十四。春秋

三日。法勝寺御八講始事。五ケ日。白川院。
天承元年始修之。
四日。廣瀨龍田祭事。
七日。內膳司供御節供事。
十節記云。七月七日索餠何。昔高辛氏小子。
以七月七日死。已其靈爲無一〔二〕〔[illegible]〕足鬼神。於人致
瘧病。其存日常喰麥餠。故當其死日。以麥餠
祭其靈。後人是日食麥餠。其年中無瘧病。
同日。內藏寮酒肴事。
同日。乞巧奠事。
重服人不憚。
產婦百日內憚之。中宮元永二年被憚。
觸穢時不憚。延長□□。康保二年。貞元四年。永祚二年。
風土記云。七月七日夜。酒掃於庭露。施机
筵甘菓酒脯。兼散香粉於筵上。以請河鼓織
女。此二星歡會之夜也。俗人候之。或〔有イ〕見天
漢中有奕々白氣。光輝五色。以爲徵應。見

者便拜。而乞富乞壽乞巧。唯得求一。不得兼求。三年乃得。

同日。拂拭御調度事。

荊楚歲時記云。漢崔寔曰。七日曝經書及衣裳。習俗然也。穆天子傳蠹書於羽陵是也。

同日。織部司織女祭事。

同日。白河院御忌事。

應德三年十一月廿六日遜位。大治四年晏駕。春秋七十七。始奉號鳥羽院。後改號白河院。

同日。一院御節供事。

同日。同乞巧奠事。

同日。執柄家節供事。

同日。同乞巧奠事。

八日。文殊會事。

史於東西寺行之。式部彈正參入。

天長格抄云。贈僧正傳燈大法師位勤操。元興寺僧傳燈大法師位泰善等。畿內郡邑。廣設文殊會。弁飯食等。施給貧者。此則文殊涅槃經云。若有衆生聞文殊師利名。除却十二億劫生死之罪。若禮拜供養者。恒生諸佛家。爲文殊師利威神所護。若欲供養修福業者。卽化身貧窮孤獨。苦惱衆生至行者前者也。每年七月八日。令修其事。兼修理堂塔經敎破損等。當彼會日。同供養之。

天長十年七月。先是傳燈大法師泰善設文殊會。公家相助而行之。至是甫造文殊影像。備之瞻仰。會事畢便安置綱所。臨會開諸。永爲恒例。

同日。最勝光院御八講始事。五ケ日。建春門院。

治承二年始行之。

同日。建春門院御忌事。

安元二年崩。

上旬。圖書寮曝涼佛像經典事。迄八月上旬。

圖書式云。起七月上旬。盡八月上旬。

十日以前。相撲人入京事。
官曹事類云。相撲人事。諸國二三人云々。蘭試部内上手。毎年限六月卅日以前進上。其宛給食馬者。並依舊例。
元慶八年八月五日格云。相撲人入京之期。改五月下旬。以六月廿五日。必令到京。
十四日以前。侍醫等申請給米事。
同日以前。給女房女官等節折事。
十四日。御究事
內藏寮勤之。近代雖無御拜。只奉送寺家。
同日。一院御究事。盆イ
同日。執柄家究事。
同日。仁和寺理趣三昧事。
〔此間闕文、以下八月公事〕
同日。給女官秋冬季祿事。十日三省申官。今日於大藏省給之。
廿六日。國忌事。西寺。光孝天皇。
天皇仁和三年崩。春秋五十八。
同日。崇德院御忌事。
永治元年十二月七日遜位。保元元年七月廿三日。奉遷讃岐國。長寛二年。於彼國遷化。春秋卅六。
廿八日。上野勅旨諸牧駒牽事。
引進御馬之時。於南殿有此儀。近代勤逗留。
彼岸間。成菩提院御念佛事。
藏人依宣旨向東西河。令飼鶴鵜供御事。
賜瓜於侍從所事。
延喜廿年。南庭給之。
撰吉日事。
季御讀經事。或九月。
諸院宮御讀經事。
所充事。

九月

二日。奏下新嘗會悠紀主基官料文事。悠紀也、主基也。北山抄等一日。
付內侍奏之。召殿上弁給之。弁直下官。或下

上卿。可作官符之故也。
宮内式云。内侍奏畢下官云々。
三日。御燈事。廢務。
延暦十八年九月。禁京畿百姓奉北辰燈。以齋内親王入伊勢齋宮也。
貞觀元年。元慶八年。仁和四年等。停御燈祓齋。以有大嘗會也。或不停。
同日以前。不可有官奏事。
延長二年。左大臣仰云々。
天台灌頂事。
嘉祥元年。慈覺大師奏行。
畿内境祭事。

年中行事抄第四

十月

一日。所司改御裝束事。
同日。視告朔事。
同日。旬事。
近代無節會。以下不見。
同日。主殿寮進御殿及殿上炭事。迄明年三月。
同日。兵庫寮始發鼓吹音事。
迄于明年二月。毎日早且晩頭發之。鼓吹謂征鼓也。
同日。諸司畿内考選文進弁官事。
同日。初雪見參目錄事。
上亥日。内藏寮進餅事。中下亥日同之。藏人式。只初亥云々。
俗號亥子餅。
或記云。盛朱漆盤四枚。居御臺一本上。女房取之。供於朝餉。次召藏人所鐵臼。入其上分搗。令爲猪子形。以綿裹之。插於夜御殿帳臺四角。但臺盤所殿上料。内藏寮進之。各入折櫃云々。
雜五行書云。十月亥日食餅。令人無病。
二日。奏新嘗會長田稻粟卜定文事。
付内侍。召殿上弁給之。如御酒文。

三日以前。點定五節舞姬事。北山抄近例九月。
藏人式云。召仰公卿。但殿上舞姬者。召仰四位五位有女子之者。
又云。后妃女御尚侍同獻。或被仰親王又殿上舞姬。或無之。
清涼記云。或親王獻之。及后妃女御尚侍。別遣中使令仰示。
同日。定同預事。
同日。定大歌召人事。清涼記。行成卿抄等。廿日以前。
三日。左右衛門府築弓場堋事。
切韻。堋音朋。射－堋也。射垜也。又的也。
垜音墮。聚土也。又云女牆也。
同日。上東門院御忌事。
承保元年崩。春秋八十七。
同日。蓮華王院惣社祭事。
五日。射場始事。
藏人式云。七日云々。五日有菊花節會之故歟。

殘菊節會事。
藏人式云。五日菊花節會。御南殿。
天暦四年九月廿六日。詔曰。望五雲而穿眼。汾水之遊不歸。攀九霞而摧心。荆岫之駕彌遠。九月者先帝昇遐之月也。故九日之節廢而經年。丹萊無驗。徒傳禦寒之方。黃菊失時。空綴泣露之夢。朕之長恨。千秋無窮。爰洛水春遊。昔日閣筆。商飇秋宴。今時卷筵。鹿鳴再停。人心不樂。詞客才子。漸吞吟詠之聲。詩境文場。已爲寂寥之地。孔子曰。文王已沒。文不在茲乎。宜開良讌於十月之首。以翫餘芳於五美之聚。凡厥儀式。一准重陽。主者施行。
六日。法勝寺捧物事。
八日。最勝光院御念佛始事。
十日。興福寺維摩會始事。七箇日。結願日大織冠忌日。
齊明天皇二年。大織冠爲祈病。始講維摩經。其病即愈。四年。於山階陶原家修維摩會。經

十二箇年。天智天皇八年十月十六日。大織冠
薨。其後此會不行三十五歲。慶雲二年五月。
淡海公有病。驚祈先靈。病又平復。即以同三
年。大會復舊。始自十月十日。終于十六日。是
即大織冠之忌辰也。和銅二年四月。皇都遷於
平城。法會隨復移。同三年。初占勝境。建興福
寺。七年。移法會於此寺。養老四年八月三日。
淡海公早世。大會中絕。經十三年。時世遷易。
講所頻改。或講南都 法華寺。或修長岡 神足
家。延曆廿年。殊有勅旨。如本修興福寺。自爾
以後。永留此地。不復遷轉。講師表白云。會留
興福。名聞大唐。

十一日。馬寮始飼乾草事。迄明年四月十日。

十三日。東寺灌頂事。
元九月十五日也。永久三年十月七日。改爲今
日。近代動及歲暮。
自永久元年。依長者權僧正寬助申。以此阿闍
梨。追次第被任僧綱。

同日。西北院御念佛始事。

十六日。三省進秋季徵免課役帳事。

十七日。吉祥院八講始事。四箇日。第三日從三位清公忌日。
清公承和九年薨。

同日。奏維摩會文書事。

中旬。嘉祥寺地藏悔過事。

廿日。競馬負方獻物事。御障子。本行成卿抄本廿一日。
清涼記云。近代不行。
貞觀六年十月廿一日。御南殿。右三府及馬寮
獻物。去五月六日競馬走馬之輸物也。音樂備
擧。百戲皆作。極醉罷宴。賜祿有差。

同日。中務省申宮人成選位記事。

同日以前。刑部省奏年終斷罪文事。御障子本四日。行成卿抄同前。
或又廿日以前云々。
大臣參上奏之。
北山抄云。是論奏也。見弘仁式。

廿一日。大歌所初事。（北山抄廿日。）
廿二日、給後宮并宮人時服事。（十日中務省申官。今日於大藏省給之。）
同日。給女官秋冬餝物料事。
廿四日。法勝寺大乘會始事。（五箇日。）
承曆二年十月八日始之。其後以今日爲式日。
講五部大乘。以第四日法華。稱五卷。有捧物。
撰吉日事。
定臨時祭使以下事。（先祭廿日。）
大粮申文事。
近代動及歲暮。

十一月

新嘗會以前。僧尼重輕服輩不參內事。（近代例。）
一日。神祇官供御贖事。（迄十八日。）
同日。內膳司供忌火御飯事。（早旦。）
同日。典藥寮進地黃煎事。
同日。中務省奏御曆事。
雜令云。陰陽寮每年預造來年曆日。十一月一日申送中務省。省奏聞。內外諸司各給一本。
弘仁式云。進曆者具注御曆二卷。（六月以前爲上卷。七月以後爲下卷。）納漆函、安漆案、頒曆一百六十六卷。納漆櫃置臺。十一月一日。至延政門外候。
淸涼記云。若不御南殿。及降雨之時。付內侍所奏。
推古天皇十年十月。百濟僧觀勒來貢曆本。
天長十年十二月。陰陽寮進御曆并頒曆。恒例在十一月。而曆博士刀岐直淨濱卒後。忽無相繼之人。遣召識曆術者。遠江介大春日良棟令造之。所以于今延引。承和元年三月。授良棟從五位下。褒造曆之才也。
（裏書）承平元年。依日蝕不奏御曆。
同日。諸國進考選文及雜公文事。
朔旦冬至年。旬節會事。
神龜二年十一月。天皇御大安殿。受冬至賀。親王及侍臣等。奉持奇翫珍贄進之。卽引文武

百寮五位已上及諸司長官大學博士等宴飲。終日極樂乃罷。賜祿有差。

天平四年十一月丙寅冬至。御南苑宴群臣。賜親王已下絁及高年者綿有差。又曲赦京及畿內。

延曆三年十一月戊戌朔。勅曰。十一月朔旦冬至者。是歷代之希遇。而王者之休祥也。

貞觀二年閏十月廿三日。文章博士菅原是善等奏議曰。朔旦冬至者。曆數之始。帝王之休祥也。

同十九年閏十月廿三日。勅云。今年一章十九年。准據先例。當有朔旦冬至。

史記云。黃帝得寶鼎神筴。是歲己酉朔旦冬至。得天之紀。終而復始。黃帝迎曰。推筴復率廿歲。得朔旦冬至。漢武帝又得辛巳朔旦冬至。

上卯日。宗像祭事。

官幣不立。氏人祭之。

同日。齋院相嘗祭事。

神祇令云。仲冬上卯相嘗祭。謂大倭。住吉。大神。穴師。恩智。意富。葛木。鴨。紀伊國日前神等類是也。神主各受官幣帛而祭之。

明日。齋院御神樂事。

上巳日。山科祭事。

上申日。平野祭事。

二宮立幣使。

執柄獻幣馬等。

承平元年。依日蝕可用中申之由。被宣下之。

同日。同臨時祭事。

以殿上五位爲使。

同日。春日祭事。未日使立。

二宮立幣使。

執柄家獻幣馬等。

朔日當申時。十月晦日使立。久安二年。

西宮記云。內裏有穢之時。使不參內。
承平元年。依日蝕可用中申之由。被宣下之。
應和二年。三度有穢延引。仍止祭。
同日。杜本祭事。午日使立。
同日。當麻祭事。午日使立。
同日。伊都岐島祭事。亥日使立。
上酉日。率川祭事。用春日祭明日。
同日。當宗祭事。午日使立。
同日。梅宮祭事。
二宮立使。
執柄家獻幣馬等。
万壽元年。寬治元年。朔日祭之。
同日。松尾祭事。
弁史不參。只社家祭之。
同日。中山祭事。
五日。丹波國供干槲事。迄明年五月四日。
十日。奏源氏冬衣服事。

中子日。大原野祭事。
二宮立幣使。
執柄家獻幣馬等。
無氏后之時。氏一人祭之。
中丑日。園幷韓神祭事。用新嘗會前丑。
若有三丑。下丑行之。但一日當寅卯之時。尙以上丑可用也。一日當寅。十二日行園祭。十四日行新嘗祭。定例也。永承四年。天永三年。
押紙云
園韓神祭者。春日祭後丑也。而春日祭延引之時。猶可用式日之由。度々被宣下之。
延長元年十三日癸丑。園韓神祭。依犬死穢延引。十五日乙卯。新嘗會。十六日丙辰。豐明節會也。廿五日乙丑。行園幷韓神祭。
同日。宮內省奏御宅田稻數事。御障子本長田稻云々。
宮內式云。營官田者。省奏聞。其詞曰。宮內省申久。四畿內今年供奉三宅田合若干町。穫稻若干束云々。

清涼記云。內裏式。雖存其儀。近代不行。

同日。五節舞姬參事。

同日。同帳臺試事。

朔日當寅日者。十二日可有舞姬參入事。賀茂臨時祭。可爲五節以後丙之故也。

老相獻五節之時。不獻舞姬。

藏人式云。中子丑日。於舞殿調習舞姬。

寬平御誡云。每年五節。無人進出。追彼期日。經營［　］卿之中。令貢二人。雖非其子。必令求貢。殿上一人選之召之。當代女御又貢一人。公卿女御依次貢之。終而復始。以爲常事。須入十月節召仰。各身在前令用意。忽有故障。臨時取替。比年朕之所煩。只在此事。

清涼記云。子日入夜。舞姬於常寧殿調習。

西宮記（秘抄）云。五節參內。先例或子夜。

寬平九年十一月七日。五節舞姬。公卿可進上之由被仰下之。

康平元年十一月有二丑。廿二日己丑。五節參內。（次第祭等用次支干。）

同二年十一月有二丑。廿二日癸丑。五節參內。

保延四年十一月有二丑。十九日辛丑。五節參內。

同日。下小忌納言以下合否事。

中寅日。鎭魂祭事。

內裏有穢之時。內侍女藏人用代官。御衣縫殿寮。以大藏省帛忽調之。（延喜廿一年十一月廿一日。）

宮內省有穢之時。於神祇官行之。（天慶八年十一月廿三日。）

先代舊事本紀云。宇麻志麻治命。十一月朔庚寅。初齋瑞寶。奉爲帝后。鎭祭御魂。祈請壽祚。其鎭魂之祭。自此而始者也。又云。詔宇麻志麻治命曰。汝先考饒速日尊。自天受來天璽瑞寶。以此爲鎭。每年仲冬中寅爲例。有司行事。永爲鎭祭矣。所謂御魂祭是也。凡厥鎭祭

之日。猿女君等主其神樂。擧其言本。謂一二三四五六七八九十。而神樂歌舞尤緣瑞寶。蓋謂斯歟。

神祇令云。仲冬寅日鎭魂祭。（或云。寅日鎭魂祭者。謂上卯後寅日也。）

職員令云。鎭安也。人陽氣曰魂。魂運也。言招離遊之運魂。鎭身體之中府。故曰鎭魂也。

古語拾遺云。鎭魂之儀者。天鈿女命遺迹也。

弘仁十四年宣旨云。酉一點庶事弁備。二點參議以上行事。

同日。中宮鎭魂祭事。

　皇后雖懷姙時猶有之。

同日。於御前試五節舞姫事。

同日。卜明日小忌侍臣合否事。

同日。有朔旦冬至年議叙位事。

中卯日。御覽五節童女事。（或寅日。）

同日。新嘗祭事。（有三卯用下。）（廢務。）

舊例有行幸於中和院被行。近代只上卿己下參入。於神祇官行之。有前後齋。

新嘗會停止之時。新穀御飯。十二月神今食之次供之。（延喜十五年例。此年天下疱瘡流行。家別有死穢。）

無新嘗祭之時。白黑御酒。御膳之次供之。（仍式日延引歟。長保三年十二月十二日記。）

五節事。不依丑只依卯。數被行也。賀茂臨時祭。必用新嘗會後也。

無行幸之時。釆女於朝餉。申御膳無事供奉由之時。主上可着直衣。

神祇令云。仲冬下卯大嘗祭。注云。謂若有三卯者。以中卯爲祭日。不更待下卯也。

同義解云。謂嘗新穀以祭神々也。朝則諸神之相嘗祭。夕則供新穀於至尊也。

寛平御誡云。新嘗日必可幸八省中院。以行其儀。

弘仁十四年宣旨云。酉一點御齋院。卯二點還

宮。
同日。大殿祭事。
雖無行幸猶祭之。
中辰日。供解齋御手水幷粥事。早旦。
雖無行幸供之。
同日。節會事。
朔旦冬至年有叙位。或丑日。
五節舞者。天武天皇之所制也。相傳曰。天皇御吉野宮。日暮彈琴有興。俄爾之間。前岫之下。雲氣忽起。疑如高唐神女。髣髴應曲而舞。獨入天矚。他人無見。擧袖五變。故謂之五節。或云。白鳳天皇二年冬十一月始之。
內裏式云。遲明。皇帝廻自神嘉殿。大殿祭畢。幸豐樂院。諸衞服中儀。宣命云。今日波新嘗乃直相乃豐樂聞食日爾在。故是以黑岐白岐乃御酒。赤丹乃穗爾食惠良岐罷止爲弖奈毛云々。
清涼記云。內弁若供奉昨夜小忌。更改着位袍行事。
貞觀十四年。依去九月太政大臣薨停節會。王卿着左仗飲酒。逢日給祿。
康保三年十一月新嘗會。左大臣被聽。不立朝列。不行內弁。昇殿着座。右大臣行內弁事。
中巳日。東宮鎭魂祭事。西宮記午日。
內裏同爲神事。依遣勅使歟。
御服之時猶被行之。御衣遣白色。
十五日。最勝寺灌頂事。
〔此間闕文、以下十二月〕
同日。給無品親王及乳母時服事。五日中務省申官。九月奏聞。今日於大藏省給之。
十九日。御佛名事。三箇夜。近代一日。擇日次。
當神事時。一夜行之。延長二年。
當荷前時。近衞不奏。近代奏之。
承和十三年十月廿七日格云。自十二月十五日迄十七日三箇夜云々。

仁壽三年十二月十三日格云。改定從十九日迄廿一日。三箇夜云々。

李部王記云。初夜早始速終。中夜遲始速終。後夜遲始遲終。

（寶）管鷄五年十二月。請僧十口沙彌七口。設方廣悔過於宮中。宮中方廣自此始也。

弘仁十四年十二月。請大僧都長惠。少僧都勤操。大法師空海等。於清涼殿。行大通方廣之法。終夜而畢。

承和二年十二月。聖上始於清涼殿。限三日夜禮拜佛名。

同五年十二月。天皇於清涼殿。修佛名懺悔。以三日三夜。律師靜安。大法師願安。實敏。願定。道昌等。遞爲導師。內裏佛名懺悔。自此而始。

昌泰元年。御導師老耄。乘手輿參上。

延喜十九年十二月廿一日。以御導師雲晴任律師。有和歌。有御製。法師獻歌。

天曆三年十二月廿三日。御佛名。終夜錫杖之間。簾中調琴。事畢有御遊。或云四年。

同九年。入道親王依召參上。賜盃酌。親王依仰彈和琴。

長曆三年閏十二月十九日乙巳。物忌。今日始佛名。殿上裝束如例。但地獄變御屛風。內裏火災夜燒亡。仍以大宋御屛風立之。故實也。

承曆。長承閏十二月行之。

同日。慈德寺御八講始事。四ヶ日。東三條院。若有閏月。其月行之。

廿日。出野倉藥事。

匡房卿次第云。十二月十九日。藏人奉諸司。向大藏省野倉出藥。近代無此事。

同日。進物所請雜物事。

下午日。御髮上事。或中午。用立春以前午。星不見以前行之。

新式云。午日上御髮事。大寒後立春前午日用

之云々。如件文者。神今食以前。不可有其忌歟。

長暦二年十二月八日庚午。御竈上也。中下午依當春日行幸也。安和二年例也。

長久二年十二月七日壬午。御竈上也。可用神今食以後立春以前午。而依當行幸日。問左大臣。申神今食以前不可忌狀。安和二年例也。

保安三年十二月廿一日丙午。中宮御竈上。上用間也。

廿二日。東三條院御忌事。

長保三年閏十二月廿二日崩。春秋四十。

同日。給諸司秋冬時服事。七日中務省申官。九日奏聞。今日於大藏省給之。

廿三日。國忌事。廢務。東寺。光仁天皇。

天皇天應元年崩。春秋七十三。

同日。始延暦寺御修法事。

民部式云。延暦寺。從十二月廿三日迄正月十四日。合三七箇日修法料。白米一十石云々。

廿九日。進物所請御器事。

同日。給女房女官等節料事。

先立春廿日。主水司定立春御井事。戌上用初日。

擇御生氣方宮中若京中井。其間不他用。

主水式云。御生氣御井神祭。中宮准之。 隨御生氣。擇宮中若京内一井堪用者定。前冬土王。令牟義都首漑治卽祭之。至於立春昧旦。牟義都首汲水。付司擬供奉。一汲之後。廢而不用。

大寒日。陰陽寮立土牛童子像於諸門事。夜半。

陰陽式云。土用童子等像。請内匠寮。大寒之日前夜半時立於諸門。陽明。待賢青色。美福。朱雀赤色。郁芳。皇嘉。殷富。達智黃色。談天。藻壁白色。安嘉。偉鑒黑色也。 立春之日。前夜半時乃撤。

慶雲三年。天下諸國疫疾。百姓多死。十二月。始作土牛大儺。

金谷園記云。禮云。季冬之月。磔出土牛。以示農耕之早晩也。若立春在十二月望。則策牛人近前。示其農早也。立春在十二月晦及

正月初。則策牛人當中。示其農平也。若立春在正月望。則策牛人近後。示其農晩也。
禮記云。季冬之月。命有司大儺。旁磔出土牛。以送寒氣。注云。儺陰氣也。爲厲鬼害人也。旁磔於四方之門。磔攘也。出作也。作土牛者。女爲牛字可牽牛也。送猶畢也。

節分日。祇園心經會事。
院廳致沙汰。

晦日。大祓事。
養老五年始之。

同日。節折事。

東西文部進祓刀事。

神祇官奉御贖事。

縫殿寮奉荒世和世御服事。
弘仁十四年宣旨云。未二點。宮內神祇縫殿等候延政門外。申二點始祓。

同日。典藥寮進鑪御藥并漬屠蘇白散於御井事。
御生氣方無便宜者。用養者方。南下侍。西後凉殿東面中央戶前。東仁壽殿西南渡殿。北黑戶上。御井在典藥寮巽井也。但近代無件井。仍用后町。
宮內式云。十二月晦日早旦。輔已上率典藥寮。奏進年料御藥。
清凉記云。式載南殿儀。

同日。同寮獻藥於執柄家事。

同日。奏瑞有無事。

同日。差分物聞使事。

同日。追儺事。
長保三年閏十二月廿二日。東三條院崩。仍今年不追儺。依延曆八年十二月廿八日大后崩時例也。但京中儺。
寬德元年十二月卅日。追儺。上卿權中納言資平卿已下參入。以左少弁資仲奏云。剋限漸到。事行如何。仰云。天下之動靜。唯依追儺之

遲速也。而近年不待尅限。忩行退出。故災孼頻發。人民不安。於今者慥守尅限可申行者。資平卿已下深所畏申也。相待宣旨之間。及曉事畢。

金谷園記云。爲其陰氣將絕。陽氣始來。陰陽相激。化爲疾癘之鬼。爲人家作病。黃帝使防相氏。黃金四目。身著朱衣。手把棒楯。口作儺々之聲。以駈疾癘之鬼。

又云。歲終大儺之時。振疫之子有万僮。皆執丹斧彫戈。以驅除癘鬼者也。

十節記云。十二月晦。夜厭儺鬼何。昔高辛氏子。十二月晦夜死。其靈成鬼。致疾病。奪喰人祖靈祭物。驚祖靈。因之以桃弓葦矢逐疫鬼。靜國家。世以記云顓頊氏子云々。

此外禮記有三儺。季春之月儺陰氣。仲秋之月儺陽氣。季冬之月儺陰氣。其意皆追疫癘之鬼也。今隨俗諺。只載除夜而已。

同日。執柄家追儺事。

擇吉日事。

荷前事。

使立日事。依無日次。陰陽寮雖擇申十三日。猶可用後日也。其故。前一日裏幣物事。當神今食後齋之故云々。見村上御記。但十三日被立使事。間有例歟。

早旦。於大藏省班幣。

神祇式云。辭別伊勢爾坐天照大神乃大前爾白久云々。荷前者皇大御神乃大前爾。如橫山打積置豆。殘乎者平聞食云々。

官式云。季冬獻幣於諸山陵。及墓皆用當年調物。中務省擇日。用大神祭後立春前吉日。十二月五日以前。申官奏聞。又式部點散位五位已上。進其夾名。當日參議已上。少納言弁外記史等。向供幣所及大藏省行事。

藏人式云。行幸建禮門前幄。雨降時宜陽殿西廂。

天安二年十二月。詔定十陵四墓。獻年終荷前之幣。

元慶七年十二月廿三日。奉荷前幣於諸山陵墓。公卿奉勅。於建禮門前發使。此日國忌也。陰陽寮言。行荷前之禮。避忌多端。除今日之外。更無吉日。故用此日焉。延喜七年又如此

延喜七年。雖有內裏之穢。依例尙行幸。

天德二年。不忌犬產穢。

長保三年十二月十六日癸丑。定荷前事。閏十二月十日丁丑使立。

內侍所御神樂事。

一條院御宇始之。舊例隔年行之。承保以後每年有之。

資房卿記云。長曆三年閏十二月十四日庚子。今夜內侍所御神樂也。先日仰云。件事非每年之例。聊有所思食。此兩三年。每年十二月。選日所行也。主上於石灰壇御拜。

着鈦政事。

御煤拂事。

院宮歲末御修法事。

院宮歲末法。伴僧八口。不必年內結願。無延修之例云々。

久壽二年。結願日當坎日。仍一日延行。次年七月。有鳥羽院御事。

春日般若會事。或八日。

院廳致沙汰。

稻荷般若會事。

院廳致沙汰。

圓宗寺法華會事。五箇日。

延久四年十二月廿五日始之。兼日定日時僧名等。圓宗寺最勝會。法華會。稱之三會。延久聖朝。爲講師之者。准三會之例。追年任僧綱。承保聖代。加法勝寺大乘會。稱之北三會。以本三會號南三會。僧綱補任如前。

法金剛院一切經會事。
院廳致沙汰。
道饗祭事。
鎭火祭事。
一院。后宮。東宮等御佛名事。
一院者内裏以前。諸宮者以後。
同荷前事。
〔以宮内省圖書寮本加一校畢〕

續群書類從卷第二百五十四

公事部七

師光年中行事

〔舊圖一〕

節會事。

宴會事。日本書紀云。神代既天照大神（卷十一）云々。
持統天皇三年正月己卯。公卿百寮拜朝。如元
會儀。丹比島眞人與布勢御主人朝臣。奏賀騰
極。庚辰宴公卿於内裏。
聖武天皇天平元年正月朔。孟春正月。万物和
悅。宜給京畿官人以下酒食價直。并休一日。

蝦夷參上事。見靈龜元年正月朔國史。

□曆事。子細見本朝月令文御曆奏所。

氷樣事。見日本書紀仁德天皇六十二年五月。

腹赤贄事。天平十五年正月四日。大宰府依例
所貢也。自今以後。附驛傳進之。（官曹事類。腹赤魚事。）
（自大足彦天皇御代貢。）筑後肥後風土記。於長渚濱得之。掉
人釣之。其名曰鰚魚。

國栖御贄事。應神天皇十九年十月戊戌朔。幸
吉野宮時。國樔人來朝之。因以醴酒獻于天皇
而歌云々。歌畢。打口仰咲者。夫國樔者。其爲
人甚淳朴也。每取山菓食。亦煮蝦蟆爲上味。
名曰毛瀰。其土自京東南之隔山。而居于吉野
河上。峯嶮谷深。雖不遠於京。本希來朝。然自

此之後。屢參掛以獻土毛。其毛者栗。菌。及年魚之類矣。

內藏寮酒肴事。諸節日同之。

內侍所御供事。餘月亦同。寛平年中始之。

院拜禮事。

攝關家拜禮事。

法成寺十齋堂修正事。

立春日。主水司獻立春水事。居折敷二本。各二杯。於朝餉方向生氣方飲御之。一イ女房稱之若水。

日本書紀曰。仁德天皇六十二年五月。是歲額田大中彥皇子。將來其氷。獻于御所。天皇歡之。自是以後。每當季冬必藏氷。至于春分始散氷也。

江帥次第云。飲御若水之時有咒。万歲不變水。急々如律令云々。

上子日。內藏司供若菜事。內膳司同供之。

醍醐天皇延喜十八年正月七日辛巳。後院進七種若菜。

村上天皇天曆四年(三歟)一月廿九日。李部王記云。是日。女御安子朝臣獻若菜云々。

十二種若菜事。若菜。薺。苣。芹。蕨。薺。葵。[illegible]芝。蓬。水蓼。水雲。松。

白河院仰云。松字如何。師遠申云。若菘コウホネ歟。上皇被仰云。相具松進上。僻事也。

七種菜事。薺。蘩蔞。芹。菁。[illegible]御形。須々代。佛座。俗名コハラケ

金谷園記云。正月七日。以七種菜作羹食之。令人無万病。

十節記云。採七種羹嘗味何。是除邪氣之術也。

又云。正月子日登岳。遙望四方。陰陽靜氣觸耳目。除憂惱之術也。

上卯日。御杖事。東宮。大舍人。兵衞。作物所。

若當日節會。混諸司奏。同付內侍所。

日本書紀云。持統天皇三年正月乙卯。大學寮獻杖八十枚。

國史云。仁壽二年正月。諸衞獻卯杖。逐精魅也。

造物。洲濱上作奇巖等。其中作御生氣方獸形。〔宮本〕令合卯杖。生氣在寅者作馬之謂也。

二日。中宮大饗事。

東宮大饗事。

天長五年正月己未。皇太子已下奏賀。後宮賜物有差。

同七年正月戊寅。群官拜賀。皇后賜被衣。又賀太子。宴賞如常。

拜觀上皇母后事。

朝覲行幸事。嵯峨天皇大同四年八月癸卯。帝朝于太上皇。

仁明天皇天長十年八月癸巳。天皇謁覲前太上天皇及太皇太后於冷泉院。

周禮云。春曰朝。秋曰覲。漢高皇帝五日一朝太公。

東宮朝覲事。皇太子成人時例。

禮記云。文王爲世子之時。朝王季日三。

攝關家臨時客事。

三日。奏去月上日事。他月同之。近代官外記同奏。去年十二月幷今年正月等日〔月〕奏。二月奏之。

拾遺抄云。一日云々。或註四日。弘仁式。每月晦日勘錄。每月四日進奏。又錄參議以上少納言上日送弁官。又參議已上一枚。少納言外記一枚。弁史一枚。已上付內侍所。左近陣進出居侍從內記上日文。同付內侍所。近代不進。所々上日。殿上陪膳。藏人所瀧口幷一結。藏人奏之。不論上下次第奏之。六陣。內御書所。御厨子所。已上一結。近代御書所。御厨子所分爲一結。樂所。外御書所。近代不進之。

四日。法成寺阿彌陀堂修正事。

治安元年正月一日丁丑。被始法成寺阿彌陀堂修正。七箇日。

法性寺御八講始事。四箇日。講師八人。職衆十六人。

天暦九年正月四日甲戌。太后登遐日也。仍天

皇染宸筆。奉書法華經。於弘徽殿有御八講。
其後移法性寺。永爲年事。

五日。議叙位事。或六日。依日吉凶云々。

推古天皇十一年十二月壬申。始行冠位。大德小德。大仁小仁。大禮小禮。大信小信。大義小義。大智小智。并十二階。

天智天皇十四年正月丁卯。諸王諸臣等。增加爵位。

國史云。大寶元年三月甲午。對馬島貢金。建爲大寶。依新令改制。下官名位號。始停賜冠。易以位記。

選叙令云。內外五位以上勅授。內八位外七位已上奏授。外八位及內外初位。皆官判授。

以五日可行叙位事。御記云。天德五年正月五日。此日有叙位議。年來六日行之。而或及曉更。七日節會及懈怠。仍如年中行事。以此日行之。

諸司申要劇文事未。

六日。法成寺藥師堂修正事。

法勝寺阿彌陀堂修正事。

承曆二年正月八日癸未。被始法勝寺阿彌陀堂修正。

尊勝寺阿彌陀堂修正事。

嘉承元年正月六日□。被始尊勝寺阿彌陀堂修正。

七日。節會及叙位事。白馬事。御弓（ミタラシ）奏事。

天武天皇十年正月七日。天皇御向小殿宴。（小安殿歟）此日親王引入內安殿。諸臣皆侍于外安殿。共置酒賜樂。則大山上草香部吉士大形。授小錦下位。仍賜姓難波連。

仁明天皇承和六年正月庚申。天皇御紫宸殿。覽青馬宴百官。

白馬事。禮記云。迎春於東郊。以青馬七疋。註云。七小陽之數也。時改正月。小陽也。青春

也。馬爲陽。故用七疋也。
十節記云。馬性以白馬爲本。天有白龍。地有白馬。是日見白馬。卽年中邪氣遠去不來。
八日。大極殿御齋會始事。七个日。
天武天皇九年五月。始說金光明經於宮中及〔并〕朱諸寺。
修眞言法始事。七个日。於眞言院修之。甲年金剛界。乙年胎藏界。輪轉行之。謂之後七日御修法。
修太元法始事。七个日。於治部省修之。
嘉祥四年正月八日辛巳。於治部省。令修太元法。限七箇日。爲備外國所修之秘法也。唐朝稱衞國菩薩云々。律師常曉入唐歸朝之後。奏聞所始修也。小栗栖法琳寺。尤足修大法。仍令安置彼靈像也。
立眞言院事。天長六年。弘法大師准大唐內道場奏聞。中立眞言院於宮中。
女敍位事。隔年行之。或擇吉日行之。近代之例也。
給女王祿事。
事起見于本朝月令。又在位祿所。
法成寺金堂修正始事。七个日。
治安三年正月八日癸酉。被始法成寺 金堂修正。
圓宗寺金堂修正始事。七个日。
延久三年正月八日甲午。被始圓宗寺 金堂修正。
法勝寺金堂修正始事。七个日。
承曆二年正月八日癸未。被始法勝寺 金堂修正。
尊勝寺金堂修正始事。七个日。
康和五年正月八日戊子。被始尊勝寺 金堂修正。
最勝寺金堂修正始事。七个日。
元永二年正月八日乙卯。被始最勝寺 金堂修正。
成勝寺金堂修正始事。七个日。

保延六年正月八日甲申。被始成勝寺金堂修正。
延勝寺金堂修正始事。七个日。
久安六年正月八日丙戌。被始延勝寺金堂修正。
朱十日。諸司中親王以下月料文事。
朱三有中諸司秋冬馬料文事。
朱十一日。除目事。
十一日。圓勝寺修正事。
大治四年正月十一日庚寅。被始圓勝寺修正。
十四日。御齋會終事。内論議事。御物忌之時。於南殿行之。
内論議事。日本書紀云。孝德天皇白雉三年四月。請沙門惠隱於内裏。使講無量壽經。以沙門惠資爲論義者。以沙門一千爲聽衆。
國史云。嵯峨天皇弘仁四年正月。始有此事云々。
淳和天皇天長十年正月廿四日。天皇御紫宸殿。屈延暦寺僧圓澄及僧正以下威儀師已上論議。布施御被也。
諸寺進卷數於藏人所事。進上皇宮事又如此。
最勝光院御八講始事。四个日。高倉院御國忌。
壽永二年。被始修御八講歟。自文治元年。以十四日爲始。以十七日爲終。此後每年如斯。
十五日。主水司獻御粥事。付女房。
孝謙天皇天平勝寶五年正月四日勘奏云。黃帝伐蚩尤之時。以此日伐斬之。其首者上爲天狗也。其身者伏而成地靈也。此日亥時煮小豆粥。而爲天狗祭於庭中案上。則其粥上凝時。取東向再拜。長跪服之。服者終年無疫氣也。十節記云。高辛氏之女。心性甚暴惡。正月十五日巷中死。其靈爲逑神。於道路憂吟。遇路人相逢。卽失神。人々令盜火。此人生時好粥。故以此祭。其靈無咎害。凡作屋產子。移徙有怪。則以粥灑於四方。災禍自消除矣。

七種粥。白穀。大豆。小豆。粟。栗。柿。薑子。代大角豆。

御記云。寛平二年二月卅日丙戌。仰善曰。正月十五日七種粥。三月三日桃花餅。五月五日五色粽。七月七日索麪。十月初亥餅等。俗間行來。以爲歲事。自今以後。毎色弁調宜供奉之。于時善爲後院別當。故有此仰。

延喜主水司式云。正月十五日。供御七種粥。米一斗五升。粟。黍子。䅄子。薑子。胡麻子。小豆各五升。

又云。白穀。大豆。小豆。粟。栗。柿。薑子。代大角豆。

此事見九條殿御記幷外記日記。

御薪事。於宮內省弁着行之。

日本書紀云。天武天皇四年正月十五日戊申。百寮諸人初位以上進薪。

兵部省手番（ツガヒノ）事。上卿參入行之。依本省申差遣殿上人。

正月十七日大射。以前廿日。（於省）省點親王以下卅人。前一日簡定。令省南門射場令調習之。

圓乘寺御八講始事。四个日。毎問共八人。十八日後朱雀院御國忌也。

法勝寺樂集事。毎月十五日有此事。

十六日。節會事。女蹈歌事。

正月十六日被行事。無所見歟。今案。正月十五六日月明時。京中士女踏歌云々。見朝野僉載。

天武天皇三年正月。拜朝大極殿。詔。男女无別。闇夜有踏歌事。

聖武天皇天平元年正月十四日。始有踏歌事。

同十四年正月十六日。御大安殿宴群臣。酒酔奏五節田儛。畢更令少年童女踏歌。歌琴歌曰。新年始邇何久社供奉良米萬代摩提丹（アタラシキトシノハジメニカクシコソツカヘマツラメヨロヅヨマデニ）。賜祿有差。歌詞七言也。如絶句詩。以平聲韵字爲韵。

明日射禮。於建禮門行之時。不開件門。依御裝束也。

十七日。射禮事。於建禮門行之。正月爲御忌月之時。三月行之。代始射禮。多於豐樂院行之。諒闇年無之。

日本書紀云。仁德天皇十二年七月。高麗國貢鐵楯鐵的。八月集群臣及百寮。令射高麗所獻之楯的。諸人不得射通。唯的臣祖盾人宿禰射鐵的通焉。時高麗客等見之。畏其射之勝工。共起拜朝。明日美盾人宿禰。賜名曰的低〔戶〕田宿禰。

天智天皇九月正月辛巳。詔士大夫等。大射宮門內。

清和天皇貞觀二年正月十八日。幸豐樂院觀賭射。

若射禮可爲三月者。可用十三日之由。見天曆九年十二月廿五日公卿論奏。

明日。射遺事。差遣參議一人。右衞門左兵衞所射也。或昨日不參府遣之。

賭弓日。二度下之後。遣宰相一人於弓場。令行射殘事。外記奏事由。

弘仁二年正月。御豐樂院觀射禮。畢後勅諸親王及群臣。各以次射。

左右衞門手結事。

射禮之前行之。正權佐參入。此間書手結。舊手結上以紙押之。正權佐爲前後頭。

十八日。賭射事。於弓場殿射之。四府。公卿已下束帶。正月御忌月之時。三月行之。代々例也。

國史曰。貞觀二年正月十八日。車駕幸豐樂院觀之。勝方將行罰酒於負方。近代無之。勝方舞。左羅陵王。必舞廣序。又亂聲一返。

兵部省手番。賭弓。射禮。正月御忌月時。三月行之。十一日兵部手番。十三日射禮。十四日賭弓。件日々爲式日歟。

仁壽殿觀音供事。餘月亦同。

東寺長者勤之。里內裏時。於眞言院修之。

觀音像事。應和二年六月十八日申剋。安置觀音像二體仁壽殿。令權僧正寬空開眼供養。去天德四年。件堂持佛已燒亡。仍造白銀白檀觀音像一體〔二體〕。各居佛殿。如舊安置聖觀音也。以白檀奉造。高七寸。梵天帝釋六寸。

又延久四年三月十日御記云。依長暦仁海勘文奉造。

後朱雀院御國忌事。

蓮華王院修正事。近代十八日。

仁安元年正月廿二日丁卯。被始蓮華王院修正。太上皇修御之。

廿一日。内宴事。廿一二三日間有子日者。件日行之。長元以後又不被行之。保元被興行之。若有内宴年。三月有殿上賭弓。麹塵之欠歟。

平城天皇大同四年正月戊戌。曲宴。奏樂。賜四位已上被。

仁明天皇承和元年正月。主上内宴仁壽殿。

廿五日。國忌事。廢務。贈皇后宮苡子。東寺。

天仁元年七月七日乙卯。廢正月四日穩子國忌。置廿五日。母儀贈后苡子。國忌。

禮記曰。忌日不樂。

律云。國忌日作樂者。杖八十。

轉輪院御國忌事。

晦日。神祇官供御贖物事。他月同之。

古事記云。仲哀天皇御豐島宮之時。始御贖物云々。

舊事本紀云。天富命率天日鷲命。播殖穀麻。更求沃饒地。分殖麻木綿。永奉麻大嘗會緣也。

每日御贖物。起自後朱雀院御時之由。見匡房卿記。

撰吉日事。

始外記政事。御齋會終日。外記令撰吉日。申殿下之後披露之。十六七日間歟。避御衰日幷執柄衰日。

撿非違使廳政。同日行之。

大臣候吉書奏事。近代必無此事。動者及歲暮。

除目事。三个日。避御衰日幷執柄衰日。號之縣召。

景行天皇五十一年八月壬子。令武内宿禰爲棟梁臣。

天武天皇四年三月。諸王栗隈王爲兵政官。大伴御行爲大輔。

大臣家饗事。新任大臣明年行之。已爲近代例。上古四日左大臣饗。五日右大臣饗也。而貞信公依避殺生。

御齋會間設饗。被用精進。天慶二年。其後無式日。

近代每年不行之。

七瀨御祓事。餘月亦同。

川合。一條。土御門。近衛御門。中御門。大炊御門。二條末。

後冷泉院御時。〔東記〕隔月被行靈所七瀨御祓。

耳敏川。川合。栗瀧。松崎。石影。西瀧。大井川。已上是靈所也。

火災御祭事。餘月亦同。范仲舒祭書曰。有防解火災法矣。

代厄御祭事。餘月亦同。同書曰。賜母法云々。此祭歟。又有小褰〔襄イ〕解祭法。大厄小厄可同歟。

二月。月令云。仲春。日在〔奎婁〕斗。建卯之辰也。律中夾鐘。

祈年祭并前後齋日。僧尼重輕服人不可參內事。

上丁日釋奠事。孝。禮。詩。書。論。易。傳。轉論講之。

明日。獻胙事。

國史曰。文武天皇大寶元年二月丁巳。釋奠禮始之云々。

釋奠當日蝕及國忌若祈年祭者。中丁行之。若重延引時停止。不用下丁云々。但外記日記有下丁例。諒闇年雖從吉服。尙停之。

禮記王制云。釋菜奠幣。禮先師也。

月令云。孟春命樂正。入學習舞。爲仲春將釋菜。又上丁命學正。〔上丁以下月令仲春之條也〕入學習舞釋菜。中丁又命學正。入學習舞。

荆云。八月社日祠社。其供張者。盛於仲春之節。以社之餘胙。悉以貢饋村里。

古者以周公爲先聖。以孔子爲先師。唐太宗貞觀二年。詔停周公爲先聖。始立孔子廟堂於國學。以仲尼爲先聖。以顏子爲先師。

弘仁格曰。神護景雲二年七月卅日。改孔宣父爲文宣王云々。

上申日。春日祭事。未日使參內。〔使之裝束同鹵簿〕內藏近衛馬寮不參內向。

清和天皇貞觀元年十一月九日庚申。祭春日神云々。

中臣記文云。神護景雲年中。天降三笠山給之

後。被造立御寶殿於同山下津石根。令奉遷。
口傳云。使近衞司代官事。餝馬已下雜色等。皆悉調立。渡南都大路。司不參之時事也。又府饗祿摺袴已下。雖不參使送府云々。

二宮春日祭使立事。

攝關家春日祭神馬立事。

以藤〔陪從〕氏五位爲使。以諸衞官人十人爲乘尻。從座柿葉御牧佐保殿等沙汰之。

貞信公記云。延喜十六年二月十日乙未。春日奉幣如恒。但今始奉走馬神馬等。今案。以前長者不被獻歟。

鹿島使發遣事。未日陣覽官符。以氏院差文被奏。別當加署。

上申日。平岡祭事。河内國。

本緣見于春日祭所。

上酉日。率川祭事。春日祭明日。或三枝祭云々。如神祇式者。酉月祭之。仁和年中。六十町勅旨田爲用祭料。

藤氏南家口傳云。件社右大臣藤原是公之所建立也。二季祭日。公家有幣。

又其社南有社。號三枝名神。大神名神御子神云々。件兩社在一村。相去不幾。

上丑日。園幷韓神祭事。

若有三丑者用中丑。但春日祭後丑云々。春日祭有故延引。以下申祭之時。至園韓神祭者。以何日可祭哉事。見延喜御記歟。二月大時。朔日當申日。有春日祭。六日十八日卅日並丑日也。以何日可祭園韓神事。先例不定。承平六年二月朔日庚申春日祭。十八日丁丑園韓神祭也。依可用春日祭後丑。神祇官進奏狀。

口傳云。件神者從來坐此處。延曆遷都之時。造宮使可奉移他處云々。神託宣曰。坐此處奉護帝王者。

延喜神祇式云。園神一座。韓神二座者。

上卯日。大原野祭事。當日使立。

文德天皇仁壽元年二月乙卯。別制大原野祭儀。當日使立。一准梅宮祭。

二宮大原野祭使立事。

攝關家大原野祭神馬立事。
二日。蓮華藏院終二月事。
永久三年二月二日壬寅。被始蓮華藏院修二月。
（朱頭書）三日以前京官除目事。
（朱）三日。寶莊嚴院修二月事。
（朱）已上院別當公卿。并四位已下參入行事。
四日。新年祭事。廢務。有前後齋。
桓武天皇延曆十七年九月癸丑。定可奉新年幣帛神社者。
貢白猪。近江國進。白雞。左京職進。
法性寺殿仰。前後齋許也。承安三年。殿下仰又如此。大外記賴業申狀同之。
五日。寶莊嚴院修二月事。
八日。法勝寺常行堂修二月事。
十一日。官列見事。於太政官行之。着座公卿已下。弁少納言外記史等皆參之。
天武天皇十一年八月癸未。詔曰。凡諸應考選者。能撿其族姓及景迹。方後考之。若雖景迹行能灼然。其族姓不定者。不在考選之色。
桓武天皇延曆十四年六月辛亥。勅。定額散位及雜色等有藝能者。式兵二省各加簡試。率將其身申太政官。官准選人列見。一定之後。不得輙替。
淸和天皇天安三年四月七日壬辰。式兵二省奏擬階文。
（朱頭書）（朱）十日。三省申考選目錄事。
同省申皇親時服目錄事。
十二日。圓融院御八講始事。四个日。請僧七人。是日圓融院御國忌也。
十三日以後。官所宛事。
於朝所設小饌。厨家。大夫以下定之。弁史等文申一上。史生以下文。七弁見之。不申大臣。
十四日。勝光明院修二月事。
保延三年二月十七日。被始鳥羽勝光明院修二月。

十五六日。興福寺常樂會事。

十七日。轉輪院修二月事。

永久二年二月十七日癸亥。自今年始有轉輪院修二月事。

朱十八日。安樂心院御八講事五ヶ日。廿二日。鳥羽院御忌日。寬元二年二月十九日。始行之。第四日當聖忌。

十九日。圓宗寺最勝會始事。五ヶ日。□□寺本名圓明寺。七月七日始修之

延久四年十月廿五日庚子。行幸圓宗寺。始修二會八講。置天台講師。

永保二年二月十九日辛未。被始圓宗寺最勝會。自後三條院御時。可被行二會之由。有綸旨之故也。

慈覺知證門徒。相替爲講師。二月十九日爲式日。

廿二日。於大藏省給百官春夏季祿事。八月廿二日。同給秋冬季祿。每季宛給之。

廿五日。北野御忌日事。

天仁二年二月廿五日庚子。北野御忌日也。依夢告於吉祥院修之。諸儒參入云々。修八講。

擇吉日事。

祈年穀奉幣事。廢務。〔廿二社〕朱前十許日。上卿奉仰定申日時使等。

孝德天皇大化四年七月庚辰。蘇我石河麿大臣奏曰。先以祭鎭神祇。然後應議政事。是日供神之幣。

天武天皇四年正月戊辰。幣諸社。

臨時仁王會事。或三月。大極殿講師百人。紫宸殿講師。讀師。咒願。

齊明天皇六年五月。有司奉勅。造一百高座一百納之袈裟。設仁王般若之會。

聖武天皇神龜六年庚申。講仁王經於朝堂及畿內七道諸國。先一月餘。可定日時僧名等。

禁殺生符可給諸國行程事。

位祿定事。或三月。本朝月令云。一上行之。或十一月十五日。

文武天皇大寶元年八月丁未。撰令所處分。職事官人賜祿之日。五位已下皆參大藏受其祿。

若不然者。彈正糺察焉。

己酉。皇親年滿者。不論官否。皆入賜祿之額。

慶雲二年十二月庚辰。詔。親王諸王諸臣食封各有差。是五位有食封。至是代以位祿也。

季御讀經事。或三月。日時僧名定事。兼日有之。四个日。

〔兩書〕天平九年四月八日始之。貞觀御時。每季行之。元慶天皇踐祚之後。二季修之。

天平元年四月八日官符云。起自今年。年別一度。讀大般若經。同日臨時分布施。用內藏寮物。

四个日行之。第二日有引茶。第三日有論義。

已上秋無之。仍官進例文。副天台興福寺竪義交名幷寺々輪轉文等。秋不進之。

諸院御讀經事。

定臨時祭使等事。先祭三十日程定之。

擬文章生課試事。近代无定期。隔兩三年行之。式部省。

聖武天皇神龜五年十二月始之云々。

三月　月令云。季春。日在胃。斗建辰。律中姑洗。金谷園記云。清明之氣節也。修禊百和、考神納賓納、

御燈以前。僧尼重輕服人不可參內事。

一日。奏御燈御卜事。

差定造茶使事。

三日。御燈事。廢務。

延曆十五年三月。勅禁祭北辰。

有御禊。藏人頭已下束帶。若御卜不合者。有共由御禊。

御記云。延喜二年三月二日。內藏寮請被定可奉御燈寺。依不憶舊例。召右大將問之。奏曰。貞觀以來於靈巖寺被奉。寬平初用月林寺。後用圓城寺。故因舊例。於靈巖寺可奉狀仰了。

三日云々。御禊畢拜之。二度。

御燈拜不同事。二度。延喜二年例。再拜兩段。見延喜九年九月三日御記。

三九月御燈事。代始年。雖因會九坎沒滅日。不被忌避之。依爲恆例神事也。代々例也。

御忌月御燈。猶有御禊。

三日以前。官奏不可候事。九月同之。

御節供事。内膳司。
内藏寮酒肴事。
曲水宴事。
雄略天皇元年三月上巳。幸後苑曲水宴云々。
顯宗天皇元年三月上巳。幸後苑曲水宴。群臣頻稱万歳。
漢書志曰。三月上巳。間人皆潔於東流水上。自洗濯祓除。
宋書云。自魏以後。皆用三月三日。至今不用上巳云々。
三月三日草餅事。周幽王淫亂。于時設河上曲水宴。向幽王或人草餅貢。王嘗之。其味美也。可献宗廟。周世大治。遂致太平。後人相傳。以草餅三月三日進于祖靈。其心悦无咎。草餅之(マヽ)興從此。
四日。諸司要劇文事。
七日。藥師寺最勝會事。七个日。源氏弁若氏人下向行之。

國史云。天長七年九月乙酉。於藥師寺毎年設最勝王經會。此寺者淨御原天皇爲皇后所建立也。
九日。長講堂御八講始事。五个日。十三日後白河院御國忌也。
建久五年三月廿九日庚寅。被始行長講堂御八講。五个日。
十日。法勝寺不斷念佛始事。三个日。公卿已下不必束帶。
承德元年三月十一日。法勝寺御念佛被始之。
中辰日。石淸水臨時祭試事。或巳日。
近代々始之外多略之。
中午日。石淸水臨時祭事。明日使歸參。
若有二午者用下午。但雖有二午。下午當國忌之時。尚可用上午。
天慶元年四月廿七日始之。天祿二年三月八日以後毎年祭。去年宣命。
天慶五年四月廿七日庚辰。有石淸水臨時祭事。是依去年將門亂逆新賽也。使播磨權守從

四位上源允明朝臣。舞人十人。歌人十人。
歌云。
祈クル八幡ノ宮ノ石清水ユクスヱトホク
ツカヘマツラム。
前後齋有無事。承安三年三月。聊有此沙汰。
而殿下仰云。試樂日以後。使歸參以前。禁中
爲御神事。當日御潔齋爲定事云々。賴業師尙
等。各不可有前後齋歟之由申之。但師尙朝臣
申云。使歸參以前。重輕服人不可候御前歟云
云。
十三日。後白河院御國忌事。
十四日。東大寺華嚴會事。
十五日。西大寺成道會事。
十七日。國忌事。廢務。桓武天皇。西寺。
廿一日。國忌事。廢務。仁明天皇。東寺。
仁壽三年三月十三日符云。除贈皇太后藤原
旅子五月四日國忌。置仁明天皇三月廿一日
國忌。
廿四日。尊勝寺灌頂事。兼日定僧名。
慈覺智證門徒爲阿闍梨講論。遞爲導師。胎藏
金剛界兩年講之。一宗導師二人勤之。
晦日。仁和寺理趣三昧事。敎實親王忌日。
鎭花祭事。神祇官。
延喜神祇式曰。三月鎭花祭二座云々。
撰日次事。
京官除目事。
今月三日以前雖可行。近年例動及歲暮。或近
來二月三日以前可行之由注之。
東大寺授戒事。三年一度。
孝謙天皇天平勝寶六年。鑒眞和尙到竹志太
宰府。四月。東大寺建戒壇。天皇受戒。菩薩戒。
眞言院孔雀經御修法事。
春間仁和寺觀音院灌頂事。年中行事正月晦日注之。然而近代載之。三月爲常例。
保延六年三月廿五日庚子。初行之。去年女御

從三位得子產間。覺法々親王依令修孔雀經法。賞申請之。

四月（月令云。孟夏。日在畢。斗建巳之辰。律中呂。夏者假也。寬假萬物。使其長也。）

加茂祭以前。僧尼重輕服人不可參內事。（有灌佛年。自九日忌之。）

一日。改御裝束事。

朱視告朔事。和銅七年。制告朔之日。

旬事。（無御出時。宜陽殿平座事。自御所被仰無御出依例可行之由。）

天武天皇五年十月乙未朔旦。酒宴群臣。

同十二年十二月。詔曰。諸文武官人及畿內有位人等。四孟月必朝參。

桓武天皇延曆十二年四月己酉朔。曲宴。賜五位已上衣。

十九年四月己巳朔。拜大極殿視朝。

儀制令。逢雨失容及泥潦幷停。

弘仁式云。天皇御大極殿。

不御南殿之時。於宜陽殿有平座事。（里內用陣座。）〔裏書〕

近衛兵衛進扇事。（迄九月盡。）

定廣瀨龍田祭使事。

上卯日。大神祭事。（若有三卯者用中卯。丑日使立。）

崇神天皇十年九月。倭迹々日百襲姬命爲大物主神之妻。然其神常晝不見而夜來矣。倭迹迹日姬命語夫曰。君常不得視其顏者。大神對曰。吾明旦入海而居。〔海、汝櫛笥イ〕願無驚吾形。爰倭迹々日姬命密見之。有美麗小蛇。則驚之時。大神忽化人形。

二宮大神祭使立事。（東宮使必用六位進、冬屬。）

稻荷祭事。

件神社立始祭始之由。慥無所見。但彼社禰宜祝等申狀云。此神和銅年中。始顯坐伊奈利山三个峯平處。是秦氏祖中家等祓來殖蘇也。則彼秦氏人等爲禰宜祝。供仕春秋祭等。依其靈驗。有被奉臨時御幣。相次延喜八年。故贈太政大臣藤原朝臣修始件三个社祭者。

宗像祭事。
上巳日。山科祭事。
醍醐天皇寛平十年三月七日丙子。奉勅定始
山科祭云々。
上申日。平野祭事。
延喜格云。延暦年中立件社。貞觀十四年。宛
神社地一丁。
又號今來。久度。古關(開歟)。相殿皆(比歟)賣神等。大江相
加禮由緣。
太政官式云。凡平野祭者。桓武天皇之後王
□改姓爲臣。有□同□。及大江和等氏人弁預見參。
被立臨時祭使事。殿上五位。
花山院寛和元年四月十日甲申。始有平野臨
時使。左衛門權佐藤原惟成勤之。
其儀。於御前被立使。殿上五位中。帶釼人差
之。衛府闕腋。或用縫腋白重蒔繪釼云々。
二宮平野祭使立事。

攝關家平野祭神馬立事。近代無此事。
松尾祭事。當日使立。貞觀年中始之。
舊記云。大寶元年。秦都理始造立神殿。立河
紀居齋子供奉。天平二年預大社者。
先代舊事本紀云。此神者坐近淡海國之比叡
山。亦坐葛野郡松尾云々。
杜本祭事。午日使立。河内國。仁和五年四月給之。
延喜九年符云。左右馬寮廳。以一寮御馬。互
供奉兩社祭云々。
當麻祭事。午日使立。
上酉日。當宗祭事。午日使立。
御記云。仁和五年四月十四日乙亥。朕外祖父
當宗氏神社在河内國。今年始可祭之狀仰事(畢歟)。
本朝世紀云。寛平五年四月七日戊辰。是日始
奉遣河内國志紀郡當宗氏神祭幣帛使。國司
一人專當其事云々。
梅宮祭事。

元慶三年十一月六日。停此祭。祭者(梅宮祠者(秘抄))仁明母儀橘太后氏神也。承和仁壽二代。以爲官祠。今永停廢之。

寛和二年十一月廿一日宣旨云。新依御願。初復舊基。以今月廿五日令勤仕之。但自明年可用式日。

二宮梅宮祭事。

(朱)攝關家梅宮祭神馬立事。

二日。中務省申中宮人夏衣服文事。

三日。左右衞門壞弓場埒事。

土用之時不忌之。以草築之故也。近代被忌之。不可然事歟。

四日。廣瀨龍田祭事。(廢務。大和國。上一日定使。)

龍田風神。廣瀨大忌神。

日本書紀云。天武天皇四年四月。祠風神於龍田立野。祭大忌神於廣瀨河曲。

舊記云。天武天皇四年癸未。遣少紫美濃王。(上脱歟)少錦下佐伯連廣足。祠風神于龍田立野。又遣少錦中間人連大蓋。大山中曾禰連韓犬。祭大忌神於廣瀨河曲者。

(朱)五日。中務省妃夫人女御夏衣服文事。

(朱)二省請印准蔭位事。

(朱)二省奏成選短冊事。

七日。擬階奏事。

子細見于列見所。

國史云。慶雲四年正月。天皇御大極殿授之。

八日。灌佛事。(當神事時止之。公卿以下束帶。)

推古天皇十四年四月。銅繡丈六佛像。坐於元興寺金堂。卽日設齋。自是年每寺四月設齋會。

聖德太子傳云。太子自此事始。每四月八日七月十五日設齋。

國史云。承和七年四月八日癸丑。請律師靜安於淸涼殿始行之。若當神事停之。(公卿已下束帶。)

金谷園記云。釋迦如來。以四月八日降生。前生爲摩納仙人。將金錢於婦人邊買花。供養燃燈。（錠歟）燈仙約爲夫婦。仙人者佛也。婦人者羅喉也。今人毎至四月八日。買花供養幷浴佛者。

諸院宮灌佛事。

安居始事。彈正向東西寺事。

持統天皇四年五月。於内裏始安居講說。

十日以前。定齋王前駈事。大臣定申。若有障。行齋院事上卿定之。

朱中務省奏女官春夏時飾物文事。

十一日。式部請印位記事。

十三日。兵部請印位記事。

十四日。伊勢神衣祭事。

法成寺阿彌陀堂御八講始事。四个日。講問各八人。

後朱雀院長曆二年四月十七日癸未。被始法成寺阿彌陀堂御八講。

十五日。召給位記事。授成選位記事。

着廳弁爲宣命使。若無着廳弁者。少納言代之。當賀茂祭者。十七日行之。但近代久絕。大夫外記必可申行之云々。

此事。故師平朝臣初度大記外。康平年中申行之。後不行云々。

十六日。新東北院御八講始事。四个日。講問各四人。

十七日。後一條院御國忌事。法成寺。長曆元年修之。

十九日。後冷泉院御國忌事。

中卯日。齋王御禊點地事。

中午日。齋王禊事。御前裝束如節會。不付魚袋。雜色所衆爲前駈。

今朝。覽齋王已下料牛事。

藏人頭令點女騎馬事。

中未日。警固事。

中申日。賀茂國祭事。

日吉祭事。

長久四年六月八日。被下毎年可立内藏寮幣之宣旨。今日奉幣。初奉加廿二社。

延久四年四月廿三日壬申。今日比叡祭也。自

今年始被立官幣。

攝關家賀茂詣事。初度撰日次。

天祿二年九月廿六日戊午。攝政右大臣謙德公。賀茂詣也。是攝關賀茂詣始歟。

天延元年四月十三日丙申。關白內大臣忠義公。賀茂詣也。

賀茂松尾社司獻葵桂事。

中酉日。賀茂祭事。廢務。使立同春日祭。

若朔日當酉日者。下酉行之。依用國祭後酉也。當日使參內藏寮近衞府。左右隔年用之如春日。

元明天皇和銅七年四月廿日。詔曰。賀茂祀祭日。自今以後。國司撿察(祭歟)。常爲年事。

嵯峨天皇弘仁十年三月甲午。勅。山城國愛宕郡賀茂御祖并別雷二神之祭。准中祀者。

舊記云。貞觀元年十一月九日。祭件社云々。

川合社神。天安二年八月七日太政官符。預大社。又寛平五年九月十五日。預相嘗祭。

延喜元年十二月廿八日太政官符。依神祇官解。奉大神幣帛之時。先奉此神云々。

御記云。延長二年四月十七日祭也。出御南殿覽使等。

二宮賀茂祭使立事。

中山祭事。

坐給冷泉院石神也。自後冷泉院 天喜元年四月預官幣。

齋王還野宮事。

獻桂葵事。藏寮式。

舊記云。昔葵楓蘰。嚴餝侍(待歟)之。吾將來也。御祖神即隨夢敎。令彼神祭用走馬并葵蘰楓蘰。此之緣也云々。

中戌日。解陣事。

中子日。吉田祭事。若有二子者用下子。上卿已下掌侍參之。

二宮吉田祭使立事。

攝關家吉田祭神馬立事。
廿八日。駒牽事。近代不行之。小月廿七日。貞觀年中始之。
朱廿九日。國忌事。廢務。皇后安子。
晦日。新日吉祭事。
永曆元年十月十六日庚申。太上天皇被奉渡日吉御體於東山新宮。件社去七月廿二日。被始土木云々。
應保二年四月卅日丙申。被修東山新日吉祭。上皇御沙汰也。
朱撰吉日事。
朱三枝祭。朱此祭二月率川祭同事歟。可尋。
五月月令云。仲夏。日在東井。斗建午之辰也。律中蕤賓。
一日。法勝寺卅講始事。十个日。
天永二年五月廿一日壬申。上皇幸法勝寺。於阿彌陀堂被修卅講。本學生。興福寺十日。延曆寺十日。園城寺十日。各有學題三日。
三日。六衞府獻昌蒲花事。南殿供之。
天平十九年五月庚辰。天皇御南苑。觀騎射走馬。此日詔曰。昔五日節。常用昌蒲爲蘰。比來已停此事。從今而後。非昌蒲蘰者勿入宮中。
弘仁近衞式云。藥玉料昌蒲蓬艾雜花。三月平旦申內侍司。設南殿前。
昌蒲花事。南史十二云。梁文獻張皇后云。常聞見昌蒲花者當富貴。自取呑之。是月生武帝。
朱四日。主殿寮葺內裏殿舍昌蒲事。不吉家或葺之。或不葺。奏走馬結番幷毛色事。
五日。書司供昌蒲事。先是進請奏。結付御帳。
糸所供藥玉事。
典藥寮供昌蒲御輿事。立明義門幷殿上前。
內膳司供早瓜事。
差內竪遣常住寺。件早瓜山城國御園所供也。件御園桓武天皇所建給也。常住寺又彼御願也。仍遣之歟。
內匠寮進瓜刀事。

御節供事。
昔高辛氏惡子。乘船渡海逢暴風。五月五日沒死。成水神令漂失船。或人五月五日。以色絲茎纏昌蒲。投海中。茎纏變化爲五色蛟龍。海神憚隱不成害。後人相傳。
五月五日節事。近代不被行之。
推古天皇十九年五月五日。藥獵於菟田野。取鷄鳴時。集于藤原池上。以會明乃往之云々。諸臣各着髻花。
節會久絕。就中承保聖代。已當御忌月。仍未被下停止節詔之。
內藏寮酒肴事。
圓宗寺御八講始事。四(五或本)个日。宛五卷日。講問八人。
白河院承保二年五月五日乙巳。自今日限四个日。於圓宗寺始有御八講事。
同常行堂不斷御念佛始事。三个日。
騎射事。

三日。左近荒手結。　四日。右近荒手結。
五日。左近眞手結。　六日。右近眞手結。
小五月競馬騎射事。
文武天皇大寶元年五月丁丑。令群臣五位已上出走馬。天皇臨觀焉。
聖武天皇神龜元年五月癸亥。御重閣中門。觀獵騎。
奏蹴鞠事。
國史云。大寶元年五月五日。奏蹴鞠云々。
七日。後三條院御國忌事。後三條院。圓宗寺。廢務云々。
九日。紫野今宮祭事。
長保三年五月九日庚辰。於紫野始有疫癘神御靈會事。
寬弘三年五月九日庚辰。於紫野有疫癘神祭事。件祭長保年中所始也。世號今宮祭。
新日吉小五月會事。
嘉應二年五月九日戊子。是日太上法皇。於今

比叡神。始有七番競馬事。

朱十日。安樂光院御八講始事。五箇日。後高倉院御國忌。

朱廿五日。村上天皇御事。宮中謂之有無日。雖非廢務。無政幷結政之故歟。

晦日。伊勢王禊事。

撰吉日事。

主水司供氷事。

式言。自四月一日可供之。而近代待仰始供之歟。

最勝講事。五个日。

兼數日被定僧名等。於御殿被行之。公卿已下束帶。

寬弘四年八月十四日庚寅。始有最勝講事。

賑給事。大臣參陣。先定日時使。小野宮說云。賑給コフト讀云々。寅申及坎日不賑給云々。

欽明天皇廿八年。郡國大水饑飢。或人相食。轉傍郡穀以相救。賑給始自此。

月令云。季春月。天子發倉稟。〔賜貧窮歟〕貧賜窮振乏絕。

着鈦政事。避別當衰日。佐以下於東市行之。束帶。

元明天皇和銅五年五月乙酉。詔諸司主典已上幷諸國朝集使等曰。制法以來。年月淹久。未熟律令。多有過失。自今以後若有違命者。准其犯依律科斷云々。

月令云。五月純陽用事。薺麥始死。故其王趣民收穫。如寇盜之至與時競。

六月　月令云。季夏。日在柳。斗建未。律中林鐘。中央土。

十一日以前。僧尼重輕服人不可參內事。或月次神今食以前。僧尼重輕服人。不可參內之由注之。此事起自後朱雀院御時云々。見匡房卿記。

十一日以前。官奏不可必候事。十二月同之。

一日。神祇官始奉御贖物事。迄八日。御巫持參。

舊記云。弘仁五年六月。依不豫。同月七日己丑。行御贖祭。其後每年六月。從一日至八日。御巫行事。每日供奉。仍謂御贖者。

弘仁神祇式云。委細見于正月晦日御贖物所。

內膳司供忌火御飯事。未明供之。

舊記云。垂仁天皇御代。倭姬皇女爲伊勢大神

御杖代。于時依隨大神託宣。從大和國向伊勢國。到壹志郡齋斤樋宮。發從彼宮。乘三便船。向佐志津御。暫留。爰夜鳴鳥聞於葦原。倭姬皇女遣人令見。（覔イ）有一隻鶴。守八根稻穗長八握。可謂瑞憑。倭姬皇女使人苅採。欲供大神之御食。卽折木枝刺合出火。炊彼稻米。供奉大神給。從此時神嘗祭發。故每至神態。鑽火炊爨。謂之忌火。良有以也者。

天平三年正月。神祇官奏。進火御竈。四時祭祀。永爲常例。

天安元年四月。內膳司忌火庭火神。奉授從五位上。

造酒司始献醴酒事。迄七月卅日。

日本書紀云。神吾田麻葦姬。以卜定田號狹名田。以其田稻。醴天甜酒嘗。嘗祀天皇御給之

朱 中務省奏御曆事。

內藏寮進櫛事。

三日。奏侍臣幷出納夏等第文事。副月奏云々。

中務省奏給諸司夏冬時服文事。

弘仁式云。六月九日云々。

四日。延曆寺六月會事。傳教大師忌日。稱之天台六月會。

康保四年。延曆寺始廣學竪義。

十日。御體御卜事。

古語拾遺云。至于難波長柄豐前朝。白鳳四年。小花下齋部首作賀斯拜祠官頭。令掌叙王族宮內禮儀婚姻卜筮之事。夏冬二季御卜之式。始此時。作賀斯之胤不繼其職。陵遲衰微以至今云々。

弘仁官式云。凡御體卜者。神祇官中臣率卜部等。六月十二月一日。始齋卜之。九日卜竟。十日奏之。

淳和天皇天安〔長歟〕二年十二月十日丁酉。神祇官所奏御體御卜。大臣奏之。

元慶八年六月十日。天皇御紫宸殿。神祇官大

副大中臣有本 昇殿。讀奏御卜。左大臣 融行事。

今日以前。不奏封戸文事。十二月同之。

十一日。月次祭事。十六日度會宮。十七日大神宮。

神祇令曰。與祈年祭同。

神今食事。廢務。昨日作人簡合卜云々。或於中院行之。有行幸。

桓武天皇延暦九年六月戊申。於神祇官曹司。行神今食事。先是頻屬國（喪歟）喪。諒闇未終。故避內裏而外設焉。

清和天皇貞觀元年 六月十一日乙未。月次神今食祭。幷於神祇官行事。

大殿祭事。曉神祇官奉仕之。

十二日。供解齋御手水幷御粥事。早旦供之。主水司供御手水。

十二日有後齋。近代事云々。供解齋粥。何有後齋哉云々。解齋御粥。主上出御。聞食三箸。次入兩手於袖令念給。

同御手水。陪膳女房奉御手水。三度沃之。次主上着御尻切。御行三步。

十四日。祇園御靈會事。

十五日。感神院走馬勅樂等事。

天慶五年六月廿一日。主上使右近衛 少將良岑義方。奉走馬十疋於感神院天神。賽先年兵亂之祈。左右近衛各五疋。陪從亦兩府五人。裝束同賀茂祭。

天延三年六月十五日丙辰。公家自今年 祇園御靈會。始被奉幣帛走馬勅樂東遊等。使右近少將藤原理兼。依去年御疱瘡事云々。

東遊歌云。

神カゼノ八坂ノ里ト今日ヨリゾ 君ガ千世ハ計始。

祇園臨時祭事。使殿上人五位。又被調獻東遊音樂等。有宣命。

天治元年六月十五日庚申。被始祇園臨時祭。

攝關家祇園臨時祭神馬立事。

十八日。法性寺御八講始事。四个日。廿一日茂子國忌。

廿日。任相撲司事。
廿一日。國忌事。廢務。贈皇太后茂子。
（八講）承保二年六月十八日戊申。廢贈皇太后嬉子□月五日國忌。置贈后茂子國忌。
廿二日。圓教寺御八講始事。四个日。講聽各八人。一條院御國忌。
長和二年六月廿二日壬午。於圓教寺被始行御八講。依一條院御國忌也。
廿四日。國忌事。廢務。贈太后懿子。西寺。
平治元年五月廿九日壬午。廢皇后宮安子四月廿九日國忌。置贈后懿子國忌。
廿八日。法興院御十講事。五个日。請僧十人。
廿九日。最勝寺御八講始事。四个日。小月廿八日始之。
保元三年十二月十四日庚子。自今日限四个日。於最勝寺被始行御八講。七月二日御國忌也。而初度依日次不宜及今月。
晦日。御贖物事。縫殿。神祇。文部。
子細見于正月晦日御贖物所。

鎮火祭事。
神祇式云。於宮城四隅祭之。
道饗祭事。
子細同鎮火祭。
（朱）裏書。縫殿寮獻同御服事。
大祓事。
天武天皇五年八月辛亥詔曰。四方爲大解除。元正天皇養老五年七月己酉。始令文武百寮。率妻女姉妹。會於六月十二月晦日大祓之處。令義解云。謂祓者解除不祥云々。祓詞文部漢音所讀也。
節折事。於御殿二間被行之。重服人無節折云々。
神功皇后九年九月。命諸國集船舶練兵甲。神有誨曰。和魂服玉身而守壽命。荒魂爲先鋒而導師船。卽得神教而拜禮之。仰御修法壇所等。暫止御加持。
齋院禊事。

撰吉日事。
施米事。一大臣參陣。先定申之。
七月 月令云。孟秋。日在翼。斗建申。律中夷則。秋有緒也。迫品物(マヽ)使時成也。
一日。官政事。
近代不行。然而上官參結政。於東門滿刻限。
定廣瀨龍田祭使事。
朱 中務省進女官補任帳事。
朱 式兵兩省進內外官補任帳事。
二日。鳥羽院御國忌事。
於最勝寺行之。又於鳥羽安樂壽院。有御佛事等。又今日當最勝寺八講結願。
三日。法勝寺御八講始事。五个日。七日白河院御國忌也。
天承元年七月三日丁酉。自今日於法勝寺阿彌陀堂。限五箇日。奉爲白河院。被始修御八講。
四日。廣瀨龍田祭事。慶務。
七日。御節供事。內膳司。

昔高辛氏小子。以七月七日死。其靈無一足。成鬼神。於人致瘧病。其存日常食麥餅。故當死日。以麥餅祭靈。後人此日食麥餅。年中無瘧病之惱。後世流其□矣。
織部司織女祭事。
內藏寮酒肴事。
拂拭御調度事。藏人行之。
乞巧奠事。於御殿庭。藏人行之。偏禳之時猶被行之。
金谷園記云。七月七日。二星歡會之夜也。俗人候之。或有天漢中奕々白氣。光耀五色。以爲徵應。便拜而願。乞富壽乞子孫。若有所乞巧。唯得求一。不得兼求。三年乃得。自古皆有其驗。
荊云。七月七日。牽牛織女會天河。此則其事。家々婦結綵縷。穿七孔針。或金銀鍮石爲針。設瓜菓於庭中。
風土記云。七月七日。牽牛織女會天河。俗重

此夜。洒掃庭露。施机筵云々。祈河鼓。河鼓謂之牽牛。

七夕節事。近來無之。

天平六年七月丙寅。天皇觀相撲戲。是夕徙南苑。命文人賦七夕之詩。賜祿有差。

白河院御國忌事。

八日。文殊會事。於東西寺行之。捧物絁文。兼日差當任受領十人。各絹二疋。

仁明天皇天長十年七月丙戌。大法師泰善始設文殊會。公家助行之。

每年七月八日。可令修其事由。見格。

最勝光院御八講始事。五个日。建春門院御國忌

治承二年七月八日己巳。自今日限五个日。於最勝光院被始行御八講。自今年於此寺被行之。

十日以前。相撲人入京事。

延喜格云。以七月廿五日爲節日。相撲人入京。改五月下旬。以六月廿五日〔祈事〕云々。

十四日以前。給女房女官等節祈事。

侍醫等中間給米事。

十四日。御盆事。於御殿有御拜。或只遣寺家。

聖武天皇天平五年七日。始備盂蘭盆於大膳職。

童帝時無御拜。未令着御國忌齋會給之故也。

十五日。諸寺盂蘭盆事。彈正檢察〔察字〕東西寺事。

推古天皇十四年。自是年初每寺四月八日。七月十五日設會。

齊明天皇三年七月辛丑。作須彌山像於飛鳥寺西。且設盂蘭盆會。

法勝寺自恣事。〔家〕

大治五年七月十五日。被始法勝寺盂蘭盆。

法成寺自恣事。

朱 十六七日間。相撲召仰事。兩日間以吉日被仰下之。

十八日。國忌事。後務贈皇后。

朱 寬元二年六月置之。

朱 龜山殿御八講事。贈皇后通子。正日。

朱 寬元四年七月十五日。於坊城殿始之。而後年

自今日被始之。今日當。
十九日。寛平御國忌事。
尊勝寺御八講始事。四个日。講司各八人。堀河院御國忌。
天仁二年七月十六日己未。自今日四个日。於尊勝寺被始修御八講。於陣定僧名。
同不斷御念佛始事。
廿三日。近衛院御國忌事。於延勝寺行之。
廿四日。興福寺長講始事。
廿六日。相撲内取事。小月廿五日。
垂仁天皇七年七月乙亥。左右奏言。當麻邑有勇士。曰當麻蹶速也。强力以能毀角。天皇聞之。詔群卿曰。若有比此人耶。一臣進言。出雲國有勇士。曰野見宿禰。召之。當麻蹶速與野見宿禰令捔力。野見折蹶速之腰砌殺之。故奪蹶速之地。悉賜野見。是以其邑有腰折田之縁也。
神龜三年。令諸國始進相撲人。

貞觀四年七月。相撲節改六月十五日。定七月上旬内云々。
弘仁中務式云。凡相撲司。六月九日。任堪事者。其儀如除目。
廿八日。相撲召合事。小月廿七日。近代當凶會坎日者用次日。或有廿日召合。八月一日拔出例。
二條院御國忌事。於香隆寺御堂行之。公家不知行。
廿九日。相撲拔出事。
相撲事。雖無樂年。府内取始日。尚可有勝負。樂多納曾利云々。依宇治殿仰。長久比有此事歟。
相撲事。御忌月之時。八月行之。
撰吉日事。
祈年穀奉幣事。廢務。廿二社。
子細見于春季奉幣所。
仁王會事。或八月。
子細見于春季仁王會所。

八月月令云。仲秋。日在角。斗建酉。律中南呂。

上丁日。釋奠事。

上丁當日蝕若國忌者用中丁。若重延引者停止。不用下丁。帥大臣記。海淳記云々。善澄(澄善)歟。

內論義。後朱雀院御時以後久絕。弘仁六年。始內論義。

後冷泉院御時。雖當母后御忌月。猶詩筵。四條院御時。雖先帝御忌月又如此。

明日。獻胙事。

內論義事。雖无論義。上卿參陣。博士參入令奏事由。藏人賜祿。

弘仁六年二月戊申。延大學博士及學生等。於殿上立義。賜祿有差。天長二年八月。召大學博士等。於紫宸殿令論義。

朱一日。勸修寺御八講始事。四个日。右大臣定方公忌日。

四日。北野祭事。一條院寛字始之元五日也。元者五日也。有官幣。

後冷泉院御時。依當國忌。母后。改用四日。永承元年□月被下宣旨也。當時被停彼國忌。而未被下依舊可用五日宣旨歟。可尋之。但近例四日祭。五日御靈會也。

攝關家北野祭神馬立事。

朱六日。安樂光院御八講始事。五个日。後堀河院御國忌。

七日。御馬逗留解文事。甲斐勅旨牧。

郁芳門院御國忌事。公卿參六條院。院司以下殿上人參入行之。

十日。法性寺御八講事。五个日。十二日上官等參入。十四日貞信公御忌日也。

天祿元年八月十日己卯。此日。攝政右大臣於法性寺。自今年限五个日。被始修八講。是祖父貞信公在世之時。每年修之。仍相傳被行之歟。

十一日。官中定考事。

明日。小定考事。弁一人行之。用近江國早米。無炊料時延引。

十三日。御馬逗留事。武藏秩父廿疋。承平三年四月二日始之。

十五日。石淸水放生會事。內裏依御神事忌僧尼等。永保四年停諸衛帶弓箭如行幸儀。但公卿或不帶之。

淸和天皇貞觀元年七月十五日庚寅。傳燈大法師位行敎。依宇佐宮未見。□

八月廿三日丁卯。京上奏聞公家。九月十九日

癸巳下宣旨。十一月始移坐石清水男山。今月
十五日丙辰。始石清水祭。
天延二年八月十一日丙戌。有宣旨。石清水八
月十五日會。宜仰雅樂寮。准諸節會。音樂官
人引唐高麗樂人舞人等。自今年永供奉彼會。
又宜仰左右馬寮。十列御馬各十疋。自今年永
隔年令供奉彼會。但乘尻者近衞等也。
同十五日庚寅。臨時御幣使。左近中將源正清
云々。
石清水放生會者。依舊御願被行由。載延光卿
記。
延久二年八月十五日癸酉。石清水放生會也。
自今年殊有宣旨。差上卿。宰相。弁。外記。史。
幷六衞府左右馬寮等。次將已下供奉其事。是
依儲貳之時御願也。
放生會後奏事。
攝關家石清水放生會神馬立事。

十六日。駒牽事。信濃勅旨諸牧六十疋。
本八月十五日也。而依朱雀院御國忌。改十六
日云々。
古事記云。百濟主背古〔照古〕王。以牧馬一疋牝馬一
疋。附阿知吉師以貢上云々。
十七日。御馬逗留事。甲斐穗坂。
廿日。武藏小野御馬逗留事。四十疋。
中酉日。粟田宮祭事。
建久三年十一月十六日乙酉。始有粟田宮祭
事。
同四年八月十五日己酉。粟田祭也。自今日以
後。以今月中酉可爲祭祀日之由。被宣下畢。
廿二日。仁和寺御八講始事。五个日。廿六日光孝天皇御國忌也。
廿三日。信濃望月御馬逗留事。廿疋。
成勝寺御八講始事。四个日。廿六日崇德院御國忌也。
治承元年八月廿三日庚寅。於成勝寺限四个
日。始有御八講事。

廿五日。武藏立野御馬逗留事。

廿六日。國忌事。廢務。光孝天皇。西寺

國史云。寬平元年八月五日官符。定光孝天皇國忌。同廿六日。始於西寺修御國忌。

崇德院御國忌事。

廿八日。上野駒牽事。勅旨諸牧。近代勤逗留。五十疋。

撰吉日事。

季御讀經事。或九月。

諸院宮讀經事。

九月月令云。季秋。日在房。斗建戌。律中無射。

十一日以前。僧尼重輕服人不可參內事。或例幣以前僧尼輕服人不可參內事。近代注之。

一日。奏御燈御卜事。

子細見于三月御燈所。

差定地黃煎使事。

二日。新嘗會酒析文事。付內侍所奏之。主上召殿上弁下給。弁等不必申上卿。唯依官符賦。有兩說。

三日。御燈事。廢務。

件事。有齋宮群行年。依爲一月齋被停止之。

大嘗會年。不被止之。已爲代々例。

御燈拜事。延喜九年九月三日。戌一尅供湯殿。宮主光澤供奉御禊。以奉御燈。已訖有拜。把笏兩段再拜。子細見于三月。

七日。不堪田奏事。其後有定幷奏。

八月以前申官。一日申大辨。五日不堪申文。

日本書紀云。素盞鳴尊之爲行之。甚無狀。何則天照大神。以天狹田長田爲御田時。素盞鳴尊春則重播種子。且毀其畔。秋則放天斑駒。使休田中。

九日。節會事。無節會之時。宜陽殿平座事。上卿奏可給侍從等菊酒之由。依節會儀着粉熟。有損年者被停止之。

金谷園記云。九月九日。月與日俱應陽數。故曰重陽。陽九陰六也。

宴會事。

日本書紀云。天武天皇十四年九月壬子。宴于舊宮安殿之庭。皇太子以下至忍壁皇子。賜布各有差。

弘仁式部式云。凡九月九日菊花宴。應召文人者。前一日。省簡定文之〔章歟〕生幷學生。諸司官人堪屬文者。造簿預令宣。

日本後紀云。天長元年三月乙亥。公卿覆奏云。九月九日者。所謂重陽也。龍沙廣宴之辰。馬臺高賞之序。風至時涼。馬肥人暇。古之王者。多以玆日有觀馬射。伏望乘此良辰。以臨射宮。臣等請奉詔。付外施行。

書司供菊事。御殿東孫庇。

金谷園記云。桓景隨費長房。謂桓景曰。君家九月九日。當有火災。登高作絳嚢。盛茱萸繫臂。及採茱萸以挿頭。折菊花泛酒。祭享飮之。攘此災。果如言。

藥司獻茱萸事。結付御帳東柱。

舊記云。折之房挿頭。避惡氣而御〔禦歟〕初寒也。

御節供事。內膳司。

魏文帝七歲。卽天子位。仙人來王前。持菊花云。是浮酒今日可飮。我得仙身。爲食是花。感仙言。浮酒飮兒小還。盛壽五百歲。是長壽之法也。

西京雜記云。九月九日。佩茱萸。仍泛酒飮之。令人長命。

內藏寮酒肴事。

十一日。伊勢奉幣事。廢務。

十六日。度會宮。神嘗祭。　十七日。大神宮。

十二日。有後齋如六月。近代例云々。

養老五年九月十一日。天皇御內安殿。以少納言男人爲舍人。引中臣忌部等。伊勢幣附忌部。群行事見之歟。

有齋宮群行年。至十八日齋事。近代群行及中下旬時。二月內忌佛事。

朱十三日。東北院念佛始事。
十四日。天王寺一乘會事。於念佛堂行之。院司參向。
朱十五日。東寺灌頂事。
十八日。藻壁門院御國忌事。
廿日。天王寺結縁灌頂事。於五智院行之。
城南寺祭事。
廿二日。法勝寺御念佛始事。三个日。中宮賢子忌日也。
應德三年九月廿二日丁丑。於法勝寺限三个日。被始不斷御念佛。是依中宮賢子御忌日也。
廿九日。國忌事。廢務。醍醐天皇。西寺。
承平元年八月十九日宣符。定醍醐天皇國忌九月廿九日。於西寺被始修之。
晦日。齋宮禊事。
撰吉日事。
眞言院孔雀經御修法事。
十月　月令云。孟冬。日在尾。斗建亥。律中應鐘。
朱一日。改冬御裝束事。
朔日。掃部寮徹夏御座。供冬御座事。
旬事。無御出時。宜陽殿平座事。
其儀同四月。
主殿寮進御殿及殿上炭事。自今日進之。
兵庫寮始發鼓音事。
始自今日至于明年二月。每日早旦晩頭發之。
但鼓吹之〔音歟〕謂鉦鼓也。
天武天皇十年三月。天皇居新宮井上。試發鼓吹之聲。仍令調習。
上亥日。內藏寮進餅事。中下亥亦同。殿上幷女房。
亥子餅事。或記云。盛朱漆盤立紙。四枚。居御臺一本上。女房取之供朝餉。次召藏人所鐵臼。入其上分擣。令爲猪子形。以錦裹之。插於夜御殿帳疊四角。但臺盤所殿上料。內藏寮進之。
群忌隆集云。十月亥日作餅。食之無病。

齊民要術云。十月亥日食餠。令人無病。

本朝月令云。雜五行書曰。十月亥日食餠。令人無病。

二日。內侍所奏新嘗會稻粟文事。其作法。同御酒文。九月二日長田稻粟卜定文也。

三日。左右衞門築弓場事。

蓮華王院惣社祭事。

安元元年十月三日庚辰。被始行蓮華王院惣社祭。

四日。刑部省進年終斷罪文事。

五日。射場始事。

月令云。天子命將帥。講武習射御角力。爲仲冬將大閱簡習之。

口傳云。無射場始者。明年不可有賭弓。無賭弓者。不可有相撲節云々。

殘菊宴事。近代不行之。

玉燭寶典孟冬篇云。十月五日。仙人于此日道館悉位靈寶齋云々。

六日。興福寺法華會事。長岡大臣御忌日。忠仁公始之。

七日。國忌事。廢務。崇道天皇。公家不知行之。延暦廿四年四月九日預之。于時自十二日始之。而後年自今日被始。十一日罷忌。

十日。興福寺維摩會始事。七个日。十六日大織冠御忌日。氏[illegible]行之。

慶雲二年十月十日。藤原不比等於宮東庭。設維摩會。十六日訖。

天平寶字元年閏八月壬戌。紫微內相藤原仲麿等奏。今山階寺維摩會者。是內大臣所起也。願主乘化。三十年間無人紹興。此會中廢。以每年十月十日始之。至內大臣忌辰爲終者。可依請之由有勅報。

延喜格云。立義者九人。元在聽衆十人內。而今僧綱奏狀。始自今年。置聽衆之外。加請天台宗一人。諸宗八人。立爲恒例。

大織冠御事。天智天皇七年戊辰十月十六日辛酉。內大臣薨。春秋五十六。

朱中務省奏給後宮幷女官冬時服文事。
十三日。東大寺灌頂事。十年十一月十六日宣下。同十一年三月十九日始行之。保延五年五月十八日丁酉。被改觀音院。同六年三月廿二日庚子。始行彼院灌頂。
承和十年十一月十六日戊子。始行東寺灌頂。
嘉祥元年六月十五日格云。可修灌頂云々。入唐請益傳燈法師位圓仁表云。桓武天皇延暦廿四年。勅先師。今傳教大師。於淸瀧峯高雄寺。修灌頂法。授眞言教。
十七日。吉祥院御八講事。
貞觀四年八月卅日辛亥。參議刑部卿菅原是善薨〔之觀〕。六十九。臨終之夕言曰。命絕恨不及孟冬悔過以期。今日雖死。至彼月爲吾修功德。延暦以來。十月修吉祥悔過。父淸公十月十七日薨。五年十月十二日丁酉。菅家奉供養吉祥院給。
朱廿日。中務省中宮人成選位記事。
廿一日。大歌所初事。
廿四日。法勝寺大乘會始事。五个日。莭後幷第四日、上官皆參。公卿侍臣倘可皆參歟。
華嚴。大乘。大品。法華。涅槃。日別講之。法花日有捧物。
廿九日。智證大師忌日事。謂之園城寺十月會。
寬仁元年十月廿九日戊午。依智證大師忌日。於三井寺修法華十講。始置傾學竪義。
撰吉日事。
定臨時祭使以下事。先祭卅日。
大粮中文事。一上參陣行之。
點定五節舞姬已下事。三日以前被定之。定大歌召人等事。藏人頭書定文。
十一月月令云。仲冬月。日在斗。律中黃鐘。黃鐘律之始也。
新嘗會以前。僧尼重輕服人不可參內事。近代例。
冬至事。
金谷園記云。冬至朝賀禮。如元日之儀。
又云。魏晋冬至日。百寮稱賀。其儀亞於歲朝。
一日。供忌火御飯事。同六月。

供御贖事。迄八日。

奏御暦事。付内侍所。頒暦給所司事。

欽明天皇四年六月。別奉勅貢暦。

持統天皇四年十一月甲申。奉勅始行元嘉暦與儀鳳暦。

弘仁式云。其注御暦二卷。六月以前上卷。頒暦一百六十六卷。十一月一日。至延政門外候。七曜暦。正月一日。候承明門外。

有朔旦冬至年旬事。

國史云。神龜二年十一月己丑。天皇御大安殿。受冬至賀辭。

朱 諸司考選文事。

朱 典薬寮進地黄煎事。

上卯日。相嘗祭事。

神祇令云。神主各受官幣帛而祭云々。

朱 宗像祭事。

賀茂齋王遙拜事。

明日。齋院神樂事。

上巳日。山科祭事。

上申日。平野祭事。

臨時祭事。

二宮平野祭使立事。

攝關家平野祭神馬立事。近代(紙缺)立之。

春日祭事。未日使參向。近衞府。内藏寮。

二宮春日祭使立事。

攝關家春日祭神馬立事。

杜本祭事。午日使立。

當麻祭事。午日使立。

上酉日。率川祭事。用春日祭明日。

梅宮祭事。當日使立。

二宮梅宮祭使立事。

攝關家梅宮祭神馬立事。

當宗祭事。午日使立。

中山祭事。

松尾祭事。（冬祭内侍弁不參云々。）
二宮松尾祭使立事。
攝關家松尾祭神馬立事。（近〔代書〕衞不被立之歟。）
（朱）十日。三省申位錄目錄事。
（朱）申源氏冬服文事。
中子日。大原野祭事。（若有二子者用下子。）
二宮大原野祭使立事。
攝關家大原野祭神馬立事。
中丑日。宮内省奏御宅田稻數事。
始譽田天皇朝庭。又見弘仁宮内省式。
園韓神祭事。（用新嘗會前丑。）
五節舞姬參入幷帳臺試事。（於常寧殿行之。）
本朝月令云。五節舞者。淨御原天皇之所製〔制〕也。相傳云。天皇御吉野宮。日暮彈琴有興。儀〔試歟〕樂之間。前岫之下。雲氣忽起。疑如高唐神女。髣髴應曲而舞。獨入天矚。他人無見。擧袖五變。故謂之五節云々。其歌曰。
乎度綿度茂筥度綿左備須茂可良多万乎多茂度邇麻岐底乎度綿左備須茂。
五節舞事。國史云。天平十五年五月癸卯。宴群臣於内裏。皇太子親舞五節云々。
中寅日。鎮魂祭事。（雖御服時猶有之。）
宇麻志麻治命十一月朔庚寅始之。
貞觀元年十一月十五日丙寅。於神祇官修鎮魂祭。（天安二年被止之今日始行之。）
令卜明日侍臣小忌合否事。
弘仁式云。大臣以下赴祭所。（中宮亦同。但東宮用巳。）
中宮鎮魂事。（皇后雖懷姙猶有之。）
先代舊事本紀云。宇麻志麻治命。十一月朔庚寅。初齋瑞寶。奉爲帝后鎮祭御魂。祈請壽祚。其祭自此而始者也。
五節舞姬於御前試事。
有朔旦冬至年議叙位事。（近代多丑日有叙位。）
御覽五節童女事。

中卯日。新嘗祭事。廢務。五節事不依丑。只依卯數被行之。賀茂臨時祭。必用新嘗會後也。

清寧天皇三年十一月戊辰。二年十一月始之宴臣連於大庭。賜綿帛。

皇極天皇元年十一月丁卯。御新嘗。是日皇子大臣各自新嘗。

稱德天皇神護景雲二年十一月壬辰。設新嘗豐樂於西宮前殿。

職員令云。謂嘗新穀以祭神祇也。朝則諸神之相嘗祭。夕則供新穀於至尊也。

大殿祭事。

中辰日。節會事。號之豐明節會。朔旦冬至年有叙位事。

高橋氏文云。六鴈命七十二年秋薨。天皇宣命云。十一月ノ嘗□〔新嘗〕會モ。膳職ノ御膳ノ事モ。六鴈命ノ勞始成流所ナリ。是以六鴈命ノ御魂乎バ。膳職爾伊波比奉天。春秋ノ永世ノ神財止仕奉志米牟。

早旦。供解齋御手水幷粥事。

解齋御粥堅粥也。仍頗高盛云々。

朱朔旦冬至叙位事。

無新嘗會時。白黑御酒事。

長保三年十二月十三日。小野宮右府記云。御膳。次白黑酒。依無新嘗祭也。是見九條相府記。左府所命歟。

中巳日。東宮鎭魂祭事。

東宮鎭魂。內裏爲神事。依遣勅使歟。內侍參入。又上卿參。御服時猶被行之。御衣遣白衣云々。

給女王祿事。

大嘗會年。雖午日行節會。至女王祿者。猶巳日於宮內省行之。

中申日。吉田祭事。當日使立。有二申者用下申。

二宮吉田祭使立事。

攝關家吉田祭神馬立事。

日吉祭事。

日吉臨時祭事。
建保元年十一月十八日甲申。日吉臨時祭也。始被立殿上使。是去八月。延暦寺衆徒於長樂寺。爲宮兵有事。彼時以後御願也。自今以後。每年冬祭日。可被立殿上使云々。

朱
十五日。奏給位祿文事。

廿日以前。陰陽寮擇定元日童女衣色事。或本中旬。

廿四日。天台大師忌日事。號之十一月會。

下卯日。東三條御神樂事。近年以吉日被行之。

下未日。賀茂臨時祭試樂事。同石清水儀。

下酉日。賀茂臨時祭事。用新嘗會後酉云々。有二卯時。必用十二月一日酉。

寛平元年十一月廿一日癸酉。初有賀茂臨時祭事。是依受禪以前之託宣云々。右近中將藤原時平爲使。

昌泰二年十一月十九日己酉。自內裏奉遣鴨使。是朱雀院上皇恒例奉遣臨時使也。今上相傳。始自今追年被行也。

祭儀同石清水。前卅日定使已下。又舞人半臂下重。用蒲萄染。

同夜。御神樂事。有揮若依雨。無御神樂者。於弓場殿給祿。

晦日。法成寺御八講始事。五个日。上官參入。

長元二年十一月卅日甲申。關白左大臣奉爲故入道大相國。於法成寺無量壽院。被始修御八講。

撰吉日事。

御厨子所御神祭事。

十二月月令云。季冬。日在婺女。斗建丑。律中大呂。

十一日以前。僧尼重輕服人不可參內事。子細同六月。

一日。供忌火御飯事。

神祇官奉贖事。迄八日。

內藏寮進御櫛事。

上卯日。大神祭事。寅日使立。

若有三卯者用中卯。但立春在中旬時用上卯。

用荷前以前之故也。
延久元年十二月。有三卯。而用中卯。立春以後。大外記爲長進勘狀。
長承元年十二月五日辛卯。大神祭也。十七日癸卯。諸司案之。而依宣旨五日行云々。
四月者曉祭也。仍丑日使立。十二月者夕祭也。仍寅日被立使。代々例也。
二宮大神祭使立事。春或六位進爲使。冬屬爲使。
三日。國忌事。廢務。天智天皇。崇福寺。朱云三年十二月始置之。
諸國忌隨時雖廢置。於此國忌者。永不廢除之云々。但參議以下不參行。付寺家被行之。
奏冬等第文事。
四日。法成寺御八講終事。
自去月晦日行之。此日入道大相國御忌日也。二日上官參入。講師一人。聽衆四十人。第二日。今月一日。南京堅義。第三日。二日。捧物。第四日。三日。天台堅義。第五日。四日。法華例時。

朱五日。定荷前日事。
朱奏親王冬衣服文事。
朱九日。中務省奏衣服事。
十日。御體御卜奏事。
子細見于六月。又西宮記勘物云。天曆三年七月十七日。右大臣令陰陽寮勘申神今食日時。依穢延引。其次外記是遠。令勘御體御卜七月以後奏仕例。勘申云。貞觀以後無此例。十二月御卜不及立春由。先年神祇官有勘文。
陰陽寮明年御忌勘文付內侍事。或本云。上旬陰陽寮進明年御忌勘文幷藥子勘文。
十一日。月次祭事。廢務。
神今食事。廢務。
延久三年十二月十日辛酉。今日依當衰日幷物忌。不（出）於中院神今食。付所司令行之。酉剋於石灰壇。奉拜大神宮。
大殿祭事。

十二日。供解齋御手水幷粥事。早旦供之。
有後齋。近代例也。
十三日。點元日擬侍從事。
口傳云。奏瑞可用綱少納言者云々。又左上﨟
有親王者用之。又公卿以下荷前定文之輩。不
可入侍從定文。當諒闇時。不定侍從。依不可
有朝賀也。近代例也。朝賀雖久絕。必有此定。
諒闇之年停止之故也。
點荷前使事。
若當大神祭幷臨時祭者。今日不定事。立春近
時式日定之。當中日者。侍從定後日云々。又使
立日事。依無日次。陰陽寮雖擇申十三日。猶
可用後日也。其故前一日裝幣物事。當神今食
後齋之故也。見村上御記。天曆四年也。今案。十三日被立使
事。有先例歟。若立春在中旬者。不待此日。十三
日。十一日以前定之。至擬侍從者。尚十三日可
定之。

辰日忌之。但延久四年十二月十八日壬辰。被
立荷前使。此外不見歟。
十五日。最勝寺灌頂事。上卿已下參入。保安三年十一月十五日庚子。被始行之。
十八日。作物所請申明年卯杖料物事。
十九日。御佛名始事。三个日。若有閏月。閏月行之。
淳和天皇弘仁十四年十二月日癸卯。請大僧都
長惠。少僧都勤操。大法師空海等於淸凉殿。
行大行太通方廣之法。終夜而畢。
〈重書〉寶龜五十二月始之。或天長七年始之。
天長十年（三代）閏十二月戊寅。延名僧十口於禁中。
三个日夜。懺禮佛名經。
貞觀十三年格云。應安置一萬三千畫佛像七
十二鋪事。
御佛名日次。本者十二月十五日始。十七日終
也。而仁壽三年十一月十三日格。改定從十九
日迄廿一日三个日。十九廿廿一。擇吉日。
中夜。藏人定明年分配事。件日見格云々。

當神事時。或一夜被行之。（延長二年。）
當荷前時。近衞不奏時。（近代奏之。）
三个日間。供御膳於朝餉云々。
佛名間可禁殺生事。承和十三年十月廿七日格云。諸國毎年自十二月十五日迄十七日。三个日夜修之。齋會之間。禁斷殺生。
慈德寺御八講始事。（四个日。講問八人。若有閏月者。其月修之。廿二日。東〔三歟〕條院御國忌也。）
長保四年十二月廿二日辛未。於一條院。公家奉爲東三條院。被始行御八講。（寛弘以後。於慈德寺被移行之。）
廿日。出野倉藥事。
進物所請雜物事。
下午日。御髮上事。（用立春以前。或中午。或有三午之時用中一〔午歟〕。）
藏人給御髮等。向主殿寮燒之。
新式云。午日上御髮事。大寒後立春前午用之。如件文者。神今食以前。〔不審〕可有共忌歟。
廿二日。東三條院御國忌事。（長保四年修之。）

廿三日。國忌事。（廢務。光仁天皇。東寺。）
（延暦元年修之）元慶七年十二月廿三日。此日國忌也。荷前之禮。避忌多端。今日之外。更無吉日。故用此日。
始延暦寺御修法事。
廿九日。（或本無日）進物所請御器事。
先立春廿日。定立春日御井事。
土用初日。主水司撰御生氣方。宮中若京中井祭事。（立春日供之。）
典藥寮進罷御藥幷封屠蘇井事。
女房女官等節折事。
卅日。御贖事。
藏人令書元三後取。押殿上北柱事。
元日四位。二日五位。三日六位。但近衞次將不差。
（朱）宮內省奏御藥事。
（朱）東西文部奉祓刀事。

大祓事。如六月。

折（節イ）節事。如六月。

荒世和世御服事。如六月。

竈御藥事。

生氣方無便者。用養者方。

南。下侍。　西。後涼殿東面中央戸前。　東。仁壽殿西渡殿。　北。黑戸上。

屠蘇漬御井事。在典藥寮巽井也。但近代無件事。仍用后町。

追儺事。

慶雲三年十二月。此年天下諸國疫疾。百姓多死。始作土牛大儺。

天安二年十二月卅日丁巳。大祓大儺如舊儀。

月令云。命有司大儺。旁磔出土牛。以送寒氣儺陰氣。始於此。

金谷園記云。陰氣將絕。陽氣始來。陰陽相激。化爲疾癘之鬼。爲人家作病。黃使防相氏。黃金四目。身着朱衣。手把桙楯。口作儺々之聲。以驅疫鬼。

昔高辛氏子。十二月晦夜死。其靈成鬼。致疾病。奪人祖靈祭物。驚祖靈。因之以桃弓葦矢逐疾鬼。靜國家。又河邊幷道路散供之解除。除咎矣。

長保三年十二月廿八日。女院崩給。今年不可追鬼歟。但京中儺云々。

延曆八年十二月廿八日。太皇大后崩。無追鬼事。

追儺剋限事。寬德元年十二月卅日記云。今日追儺也。上卿權中納言資平卿已下參入。以左少弁資仲奏云。剋限漸到。其申行如何。仰云。天下之動靜。唯依追儺之遲速。而近年不待剋限。忽行退出。故災孽頻發。人民不安。於今者慥守剋限可申行者。上卿資平以下。深所畏申也云々。相待宣旨之間。及曉聞事畢。

大寒日。夜半諸門立土牛童子像事。

陽明。待賢門。青。

美福。朱雀門。赤。
郁芳。皇嘉。殷富。達智門。黃。
安嘉。偉鑒門。黑。
談天。藻壁門。白。
弘仁陰陽式云。凡土牛童子等像。請內匠寮。
土用前日。主水司撰御生氣方井祭事。
近衞等聞見夜中變異事。
貞觀式云。凡十二月晦日。差近衞四人。令聞見夜中變異。其名簿午剋以前進內侍。酉剋候陣。隨召帶兵仗參入。近衞陣頭退出。元日平旦。錄夜中見聞之事。進近衞陣。
撰吉日事。
荷前事。立春以前大神祭以後云々。朱鳥元年始之。
弘仁式云。天皇御便殿。禮拜奉班。
國史云。天安二年十二月九日丙申。詔定十陵四墓。獻年終荷前幣使。使不憚念誦。
着鈦政事。佐以下著行之。

子細見于五月。
一院后宮幷東宮御佛名事。一院者內裏以前。諸宮以後。
一院后宮幷東宮荷前事。
御齋會先奏事。一日云々。然而及歲暮可奏。
內侍所御神樂事。
年來隔年行之。而承保以後。每年行之。
資房卿記云。長曆三年閏十二月十四日庚子。今夜內侍所御神樂。先日仰云。件事非每年。十二月撰日所行也。主上於石灰壇御拜。
圓宗寺法華會事。五个日。備卅口。延久四年十月廿五日始之。兼日上卿被定僧名卅口。日時。
後三條院延久四年十月廿五日庚子。被始圓宗寺法花會。仍天皇行幸。無式日。但十二月被勘日時。
圓宗寺最勝會事。
觀音院灌頂事。
延曆寺御修法事。
最勝寺灌頂事。二日。

（朱）東寺灌頂事。

（朱）道饗祭事。

（朱）鎮火祭事。

清涼殿行事

一每日平明奉御梳。次奉御盥。豫先時水司弁備。藏人撿挍。巳剋奉御膳。午一剋御紫宸殿。政訖還幸。未申之剋召侍讀。預先時裝束。日未入前奉御膳。夜一更下格子。

一御有行步。則侍臣三四人已上。其貫首者捧御劒陪奉焉。其御紫宸殿。則內侍女藏人捧御劒持璽筥。

一每有出入。近衞少將已上稱警蹕。

一殿中東南隅有地爐。自冬初燒火。至夏初覆蓋。

一殿庭東北有庭燎高。每夜有守殿女奉庭燎。唯月明時不須。

一朝（主イ）殿司朝々掃拭。暮々燈燭之時。藏人相共撿察。

一雷鳴時。遠（近イ）裝束殿上召近仗。又召內藏寮雷（震或本）攘麻。

一霧朝置霧酒。此事古來□知人歟。江帥匡房卿不知之。之稱云々。

一每諸節。藏人持內裏式祗候。

一元日。侍臣奉拜賀事。元日有障則三日以前行之。

一正月四日。童親王奉拜賀。豫仰酒殿御厨子所儲酒。御匣殿藏人所儲祿物。

一正月太元法（帥或本）修法時。御衣付內藏事。

一正月。豫候進止。儲踏歌後宴事。

一四月八日。灌佛事。

一賀茂祭日。御南殿覽餝馬事。

一八月。令給釋奠內論義六位已下祿事。

一每犬獵日。殿上人相共追御在所犬事。

一每掃部寮（諸本無）進退張莚。藏人相共撿挍。

一神態停止時。仰宮主及內藏寮（僚イ）。備奉御祓事。

一十二月。藏人所調習新年踏哥事。

一大儺夜。殿上人分配諸殿事。

一六月十二月晦日。未剋前裝束殿上。召節折女。
一殿雑物者。男女藏人各隨其所掌。分番交撿護。
一殿上童部中。置博士令教習經書。毎休日試懲勸。
一主上降殿遊覽庭中之時。殿上人候　大床子倚子御座事。
一隨献物來。殿上之人參上。高聲奏之事也。（聲イ）
已前累代行事。與天地相共不易之道也。
光孝天皇仁和元年五月廿五日。太政大臣（昭宣公。）献年中行事障子。
今案。彼障子□年始被立歟。（見小野宮記。）

本云

文永元年九月廿九日（疑誤）。以大外記中原師光朝臣本染老□畢。自按點畢。（同十月十一日。於有馬温泉同加一見之處。不審事□□付首注了。）

權大納言藤原在判

二本奥書云

寛元元年九月十八日抄寫訖。師主中書之而已。

大外記中原在判

一同表紙云

此抄依近衛殿之仰。抄寫進之。爲被備　天覽歟。一本亦所書寫進也。尤可秘。可比禁方而已。

師光

文永五年五月之比。以大外記師弘　流之點本按點之。（以朱墨書入件本也。）同比以　或本（後堀川院御本也。親範卿勘注下歟。）按點之。（以線書入之件本也。）

御本奥書

建治元年仲秋下旬。以内相府　自筆本書寫校合了。數本之相違。雖異字色。後日之了見。如不分明事等有之。仍本了。字之大小。行之遠近。偏任本所寫留也。但大卷爲披閲有煩之間。今度分兩卷而已。

明應丁巳孟夏之天以大相國御本令書寫畢

藏人中務丞藤原資直

圖書寮本云。一交　朱墨之點　不違御本具寫之訖　（花押）

〔以宮内省圖書寮本加一校畢〕

續群書類從卷第二百五十五

公事部八

元亨四年歲次甲子年中行事

正月小

一日戊子。
四方拜。　小朝拜。　供御藥。三箇日。　節會。
御節供。三箇日。　內藏寮酒肴。　內侍所御供。每月。　若菜。　院拜禮。　御齒固。　關白家拜禮。　法成寺十齋堂修正。

二日己丑。
中宮大饗。　春宮大饗。　關白家臨時客。

四日辛卯。立春。
主水司獻立春水。　御杖。　法成寺阿彌陀堂修正。

六日癸巳。
敍位議。　法勝寺尊勝寺阿彌陀堂修正。　法成寺藥師堂修正。

七日甲午。
白馬節會。

八日乙未。
御齋會始。　眞言太元法始。　女王祿。　圓宗。法勝。尊勝。最勝。成勝。延勝寺金堂修正始。七日。　法成寺金堂修正始。七日。

十日丁酉。

圓勝寺修正。
十四日辛丑。
御齋會終。　内論義。　最勝光院御八講始。
四日。　高倉院御國忌。
十五日壬寅。
御粥。　御薪。　兵部省手番。　圓乘寺御八
講始。四日。
十六日癸卯。
踏歌節會。
十七日甲辰。
射禮。
十八日乙巳。
仁壽殿觀音供。每月。　賭弓。　射遺。　蓮華
王院修正。　後朱雀院御國忌。
廿一日戊申。
内宴。
廿五日壬子。

國忌。廢務。贈皇后苡子。　轉法院國忌。
廿九日丙辰。
神祇官供御贖物。每月。　熾盛堂修正。
今月事。　外記政始。使廳同日。　吉書奏。　除目。
七瀨御祓。每月。　大臣家大饗。　火災祭。每月。
代厄祭。同。　尊勝陀羅尼供養。或二三月。　月
奏。每月。　御幸始。

二月大
祈年祭幷前後齋日。僧尼重輕服人不可參内
事。
一日丁巳。
釋奠。孝經。　大成就院修二月。
二日戊午。
献胙。　蓮華藏院修二月。
三日己未。
春日祭使立。　春日神馬事。
四日庚申。

新年祭。廢務。　春日平岡祭。
五日辛酉。
率川祭。　寶莊嚴院修二月。
八日甲子。
祇園御八講。　法勝寺常行堂修二月。
九日乙丑。
園并韓神祭。
十一日丁卯。
列見。　大原野祭。　大原野神馬事。　蓮華壽院修二月。
十二日戊辰。
圓融院御國忌。　圓融院御八講始。四日。　歡喜光院修二月。
十三日己巳。
十三日以後官所充。　大多勝院御八講始。五日。
十四日庚午。
勝光明院修二月。　金剛心院修二月。
十五日辛未。
興福寺常樂會。　最勝光院修二月。
十七日癸酉。
轉輪院修二月。　後嵯峨院御國忌。　蓮華心院修二月。
十八日甲戌。
安樂心院御八講始。五日。　金剛勝院修二月。
十九日乙亥。
圓宗寺最勝會始。五日。
廿一日丁丑。
安樂心院修二月。
廿二日戊寅。
後鳥羽院御國忌。
廿五日辛巳。
北野御忌日。
今月事。　新年穀奉幣。　位祿定。　季御讀經。
京官除目。三日以前雖可行。近代及歲暮。　定石清水臨時祭使

等。　臨時仁王會。或三月。用大仁王會以後可被行之。
三月小
御燈以前。僧尼重輕服人不可參內事。
三日己丑。
御燈。廢務。　御節供。　內藏寮酒肴。
七日癸巳。
藥師寺最勝會始。七日。
九日乙未。
長講堂御八講始。五日。
十日丙申。
法勝寺不斷御念佛始。三日。
十二日戊戌。
蓮華王院阿彌陀堂御念佛。
十三日己亥。
後白河院御國忌。
十五日辛丑。
祇園一切經會。
十七日癸卯。
國忌。廢務。桓武。
十八日甲辰。
石清水臨時祭試樂。
廿日丙午。
石清水臨時祭。
廿一日丁未。
國忌。廢務。仁明。
廿四日庚戌。
尊勝寺灌頂。
廿九日乙卯。
鎮花祭。　仁和寺理趣三昧。
春間。仁和寺觀音院灌頂。
四月大
灌佛以後賀茂祭以前。僧尼重輕服人不可參
內事。
一日丙辰。（頭書）日蝕。十五分之（十脫歟）二半弱。

改御裝束。　官政。　旬。今日可有日蝕云々。正現者廢務。明日有平座見參。
近衞兵衞進扇。
二日丁巳。
山科祭。
三日戊午。
左右衞門壞弓場埒。　當宗。杜本。當麻祭使立。
四日己未。
廣瀨龍田祭。廢務。
五日庚申。
松尾。平野。杜本。當麻祭。
六日辛酉。
梅宮。當宗祭。　梅宮神馬事。
七日壬戌。
擬階奏。
八日癸亥。
灌佛。

十日乙丑。
大神祭使立。
十二日丁卯。
大神祭。　稻荷祭。
十四日己巳。
法成寺阿彌陀堂御八講始。四日。
十六日辛未。〔[illegible]〕月蝕。十五分之十二半弱。
警固。　新東北院御八講始。四日。
十七日壬申。
日吉祭。　關白賀茂詣。初度。撰日次。　後一條院御國忌。
十八日癸酉。
賀茂祭。廢務。　中山祭。
十九日甲戌。
解陣。　後冷泉院御國忌。
廿一日丙子。
吉田祭。　吉田神馬事。

卅日乙酉。
新日吉祭。
今月事。　御神祭。
五月小
一日丙戌。
法勝寺卅講始。十日。
三日戊子。
六府献菖蒲花。
四日己丑。
主殿寮葺內裏殿舍菖蒲。
五日庚寅。
藥玉。　御節供。　內藏寮酒肴。　內膳司供早瓜。　左近騎射。　圓宗寺御八講始。四日。
同不斷御念佛始。三日。
六日辛卯。
右近騎射。
七日壬辰。
後三條院御國忌。
九日甲午。
紫野今宮祭。　新日吉小五月會。
十四日己亥。
後高倉院御國忌。
廿五日庚戌。
村上御事日。宮中謂有無日。
今月事。　最勝講。　賑給。　着鈦政。
六月大
月次神今食以前。僧尼重輕服人不可參內事。
一日乙卯。
神祇官始供御贖物。　內膳司供忌火御飯。
造酒司献醴酒。
三日丁巳。
奏夏等第文。
四日戊午。
延曆寺六月會。

十日甲子。
御卜奏。
十一日乙丑。
月次神今食。廢務。
十二日丙寅。
解齋御手水并粥。
十四日戊辰。
祇園御靈會。
十五日己巳。
祇園臨時祭。　今熊野六月會。　祇園神馬事。
十八日壬申。
法勝寺御八講始。四日。
廿一日乙亥。
國忌。廢務。贈皇后茂子。
廿二日丙子。
圓教寺御八講始。四日。　一條院御國忌。
廿六日庚辰。
安樂壽院御八講。　蓮華心院御念佛。
廿八日壬午。
法興院御八講始。五日。
廿九日癸未。
最勝寺御八講始。四日。
卅日甲申。
大祓。　節折。　鎭火道饗祭。　御祓事。
今月事。　施米。

七月大
一日乙酉。
官政。
二日丙戌。
鳥羽院御國忌。
三日丁亥。
法勝寺御八講始。五日。
四日戊子。

廣瀨龍田祭。廢務。
七日辛卯。
乞巧奠。　御節供。　內藏寮酒肴。　拂拭御
調度。　白河院御國忌。
八日壬辰。
文殊會。　寂勝光院御八講始。五日。　建春門
院御國忌。
十五日己亥。
諸寺盂蘭盆。　法勝寺自恣。　法成寺自恣。
十六日庚子。
十六七日間相撲召仰。　後深草院御國忌。
十七日辛丑。
六條院御國忌。
十八日壬寅。
國忌。廢務。贈后通子。　淨金剛院御八講始。五日。
十九日癸卯。
宇多御國忌。　堀河院御國忌。　尊勝寺御八
講。四日。　同不斷御念佛始。
廿三日丁未。
近衞院御國忌。
廿六日庚戌。
相撲內取。
廿八日壬子。
相撲召合。　二條院御國忌。
廿九年癸丑。
相撲拔出。
今月事。　祈年穀奉幣。　臨時仁王會。或八月。但大仁王會以後可被行之。
八月小
三日丁巳。
釋奠。禮記。
四日戊午。
北野祭。　献胙。　內論義。　北野神馬事。
六日庚申。

後堀河院御國忌。
七日辛酉。
郁芳門院御國忌。
九日癸亥。
京極院御國忌。
十日甲子。
法性寺御八講始。五日。
十一日乙丑。
定考。
十二日丙寅。
小定考。
十五日己巳。
石清水放生會。　石清水神馬事。
十九日癸酉。
粟田祭。
廿二日丙子。
仁和寺御八講始。五日。　粟田宮御八講。　待賢門院御國忌。
廿五日丁丑。
成勝寺御八講始。四日。
廿六日庚辰。
國忌。廢務。　崇德院御國忌。
今月事。　季御讀經。

九月大

例幣以前。僧尼重輕服人不可參內事。
三日丙戌。
御燈。廢務。
七日庚寅。
不堪田奏。
八日辛卯。
桂宮相撲。
九日壬辰。
平座。　御節供。　內藏寮酒肴。　法成寺惣社祭。

十一日甲午。
例幣。廢務。
十三日丙申。
天王寺一切經會。
十四日丁酉。
天王寺一乘會。
十五日戊戌。
龜山院國忌。
十八日辛丑。
藻壁門院御國忌。
廿日癸卯。
天王寺結緣灌頂。　城南寺祭。
廿二日己巳。
法勝寺御念佛始。三日。　中宮賢子。
廿九日壬子。
國忌。廢務。醍醐。
十月大

一日甲寅。
改御裝束。　官政。　旬。　自今日至明年二月。每日早旦晚頭。兵庫寮發鼓吹音。
三日丙辰。
左右衞門築弓場垜。　蓮華王院惣社祭。
五日戊午。
弓場始。
六日己未。
興福寺法華會。
七日庚申。
國忌。廢務。崇道天皇。　淨金剛院御八講始。五日。
八日辛酉。
最勝光院御念佛。
十日癸亥。
興福寺維摩會始。七日。　今日亥日內藏寮進餅。
十一日甲子。

土御門院御國忌。
十三日丙寅。
東寺灌頂。
十五日戊辰。（頭書）月蝕。十五分之二十二半弱。
十七日庚午。
吉祥院御八講始。四日。
廿一日甲戌。
大歌所始。
廿四日丁丑。
法勝寺大乘會始。
廿九日壬午。
杜本。當宗。當麻祭使立。
卅日癸未。
春日祭使立。
今月事。　大粮申文。　定賀茂臨時祭使等。
定五節舞姫。
十一月小

新嘗祭以前。僧尼重輕服人不可參內事。
一日甲申。
忌火御飯。　御贖物。　御暦奏。　平野。春日。杜本。當麻祭。
二日乙酉。
松尾。梅宮。中山。率川。當宗祭。　梅宮神馬事。
八日辛卯。
相嘗。　春花門院御國忌。
十日癸巳。
山科祭。
十三日丙申。
吉田。日吉祭。　吉田神馬事。
十七日庚子。
大原野祭。　大原野神馬事。
十八日辛丑。
園幷韓神祭。　五節參內。

十九日壬寅。
鎮魂祭。
廿日癸卯。
新嘗祭。廢務。 東三條御神樂。近年以吉日被行歟。
廿一日甲辰。
豐明節會。
廿二日乙巳。
女王祿。 春宮鎮魂祭。
廿三日丙午。
歡喜光院御八講始。五日。 美福門院御國忌。
安樂壽院理趣三昧。
廿四日丁未。
賀茂臨時祭試樂。
廿六日己酉。
賀茂臨時祭。
廿七日庚戌。
日吉神馬事。

廿九日壬子。
法成寺御十講始。五日。
今月事。 御神事。
十二月大
月次神今食以前。僧尼重輕服人不可參內事。
一日癸丑。
忌火御飯。 御贖物。 內藏寮進御櫛。
三日乙卯。
國忌。廢務。天智。 奏冬等第文。
八日庚申。
春日般若會。
十日壬戌。
御卜奏。
十一日癸亥。
月次神今食。廢務。
十二日甲子。
解齋御手水幷粥。

十三日乙丑。
定荷前幷擬侍從。
十四日丙寅。
大神祭使立。
十五日丁卯。
最勝寺灌頂。　大神祭。
十九日辛未。
御佛名。三日。　慈德寺御八講。四日。
廿三日乙亥。
國忌。廢務。光仁。
廿八日庚辰。
大成就院舍利會。
卅日壬午。
追儺。　大祓。　節折。　御髮上。
今月事。　內侍所御神樂。　荷前使。　院宮荷前。　着鈦政。　圓宗寺法花會。　院宮佛名。
歲末御修法。　同御懺法。　稻荷般若會。
法金剛院一切經會。　節分。　心經。

右元亨四年具注暦所記月儀寬政元年歲次己酉夏日以一友人藏本抄出爲一卷今以朱合點者本書所載首書也

左京藤原貞幹識

元亨四年具注暦曰甲子歲

正月小

一日戊子。四方拜。　小朝拜。　供御藥。三箇日。　節會。　御節供。三箇日。　內藏寮酒肴。　內侍所御供。每月。

若菜

(首書)院拜禮。　御齒固。　關白家拜禮。　法成寺十齋堂修正。

二日己丑。

(首書)中宮大饗。　春宮大饗。　關白家臨時客。

三日庚寅。

四日辛卯。立春。主水司獻立春水。御杖。

(首書)法成寺阿彌陀堂修正。

五日壬辰。叙位儀。

六日癸巳。白馬節會。

（頭書）法勝寺尊勝寺阿彌陀堂修正。　法成寺藥師堂修正。

七日甲午。御齋會。眞言太元法始。女王祿。

八日乙未。

（頭書）圓宗。法勝。尊勝。最勝。成勝。延勝寺金堂修正始。七日。
法成寺金堂修正始。七日。

九日丙申。

十日丁酉。

（頭書）圓勝寺修正。

十一日戊戌。

十二日己亥。

〔此間闕文〕

廿六日戊寅。

廿七日己卯。

（頭書）大成就院舍利會。」

廿八日庚辰。

廿九日辛巳。

卅日壬午。追儺。大祓。節折。御髮上。

今月事。内侍所御神樂。荷前使。院宮荷前。着鈦政。圓宗寺法花會。院宮佛名。歳末御修法。同御懺法。稻荷般若會。法金剛院一切經會。節分。心經。

元亨三年十一月一日

散位從五位上　賀茂朝臣在仲
散位從五位上　賀茂朝臣在名
散位正五位下　賀茂朝臣在茂
散位正五位下　賀茂朝臣在阿
散位從四位下　賀茂朝臣在朝
散位從四位下　賀茂朝臣在種
從四位下權行暦博士賀茂朝臣清平
散位從四位下　賀茂朝臣在峰
從四位下行暦博士　賀茂朝臣在實

〔以宮内省圖書寮本加一校畢〕

年中行事大概

正月

四方拜。

元日寅刻に行る。御殿の東庭に御屛風をたてめぐらして。このうちに机をたてゝ。花香燈などを供し。御座をしきて。 天子まづ北へむかはせ給て。屬星の名を七反となへ給ふ。屬星とは本命星の事なり。次にいぬゐ（戌亥）に向て天を拜し。ひつじさる（未申）に向て地を拜し。次に東西南北を拜し給ふ。これによりて四方拜とはいへり。 天子のみならず。執政大臣も四方拜をば行へり。それは伊勢八幡以下の諸神。先聖先師をも拜せる事あり。

供御藥。

元三のあいだ。屠蘇白散の藥をたてまつる事なり。屠蘇は一人これを飮ば。一家に病なく。一家これをのめば。一里に病なしといふ功能の侍る藥なれば。としのはじめにこの藥を酒に入て用るなり。この酒をば。童女にまづのましめて。のちにのむといふ本說あるによて。くすり子とて。いまだいとけなきわらわをめし出して用せしむるなり。

朝賀。

これも一日（ツイタチ）に行る。又は朝拜ともいへり。大極殿の高御座（タカミクラ）に出させ給て。百官みな禮服を着す。一代一度の御卽位の儀式に同じ。神武天皇元年。かし原の宮にしてはじめ行て。 一條院の御宇まではありしかども。大儀なるによて。そのゝちはとゞめられ侍り。武官萬歲の旗をふりて。賓祚をいはゐたてまつる事あり。又奏賀奏瑞とて。二人庭にすすみ出て申す事あり。奏瑞とは。過にしとし諸國より醴泉連理木などの嘉瑞を申あげたるを。けふこれを奏聞すれば奏瑞といへり。こればかり卽位の儀には加はれり。

小（コ）朝拜（ハイ）。

これも正月一日に。清涼殿の東庭にしてある事なり。朝賀には百官こと〳〵く　龍顔を拜したてまつるを。小朝拜には昇殿の人ばかり拜するによて。小朝拜とは名づけ侍り。されば　天子にはわたくしなしとおほせ事あり。延喜の御門は停止せしめ給へるを。臣下おの〳〵申うくるによりて。延喜十九年に。又もとのごとくおこなはる。いまの代にいたるまでたへざる事になれり。

節會。

一日。七日。十六日。南殿に出させ給ておこなはる。三節會とはいふなり。元日には陰陽寮七曜の御暦をたてまつる。主水つかさ氷の様を奏す。氷のためしとは。ひむろにおさめたるこほりのあつさうすさの寸法まで。かはらなどのわれをたてまつればひのためしとはいへり。又宮内省より腹赤の贄をたてまつる。ますといふ魚は。そのはらあかきによてかくいへり。むかしつくしの長濱にて。釣いだしてたてまつりしより。たへざる事になれり。三節會にはよしのゝくず人まいりて。笛をふきうたをうたひし事あり。今の世にはたゞそのよしばかりにて。その實なし。七日にはあを馬を御らんぜ給ふ。あを馬とはあしげのむま。その色しろきによりて。白馬の節會とも名づけ侍り。又兵部省御弓奏をつとむ。御弓はじめに用させ給ふ御弓をたてまつるによて。御たらしの奏といへり。十六日には舞姫庭にすゝみ出て舞事あり。これによて女踏歌の節會といへり。

卯杖。

上の卯の日。つくも所よりたてまつる。漢の王莽の世より事おこれり。御生氣の方のけだものゝかたちをつくりて。卯杖にあはせ

しむといへり。

御齋會。

八日より十四日まで。大極殿にして金光明經を講ぜらる。これを御齋會といへり。又治部省にして太元法を修せらる。又眞言院にして。東寺の長者後七日の法を修す。これらはみな息災のため。年のはじめに行るゝものなり。

射禮(シャライ)。

十七日に。建禮門のまへにして。四府の舍人(トネリ)どもに弓を射せしむる事也。あくる日は射のこりとて。昨日まいらざる府にいさせしむる也。

賭弓(ノリユミ)。

十八日に。弓場殿にて弓を射る。かけ物あり。天子も出御ありて。公卿なども弓矢を身づからこれをとるなり。

內宴(ナイエン)。

廿一二三日のあひだ。子の日あればこれを行はる。仁壽殿に出御ありて。詩をつくりて講ぜらる。主上と關白とは。あか色のうへのきぬを着せらる。そのほかはあゐ色をきるなり。後一條院の御時まではありしが。そのゝちたへにたるを。保元に信西が申行しのちは。又そのきこへなし。

二月

釋奠(シャクテン)。

上のひのとの日。大學寮にして行る。先聖先師をまつる事なり。孝經以下の七經を輪轉して講ぜられて。やがてその書の中のこと葉を題として。儒者ども文をつくる事あり。あくる日は胙(ソ)とて。釋奠に供したる菓子などを。大學寮より內裏へたてまつりて。諸卿にもくばるなり。これを食すれば。利根にな

ろと申つたへ侍て。聰明ともなづけ侍るなり。いにしへは牛羊等の三牲を用たるにや。

春日祭。

上のさるの日。春日の神をまつらるゝなり。まつりの使は近衞つかさつとむ。かざり馬にのりて。隨身はすり袴といふものをきるなり。上卿は公卿これをつとむ。

園韓神祭。

上のうしの日。そのゝやしろ。から神の社をまつらる。この二社は宮内省にまします神なり。

大原野祭。

上の卯の日まつりの事あり。春日の社と同禮にてまします。藤氏のきさき行啓のため。いはゐたてまつられたる御社なるべし。

祈年祭（キネンサイ）。

二月四日に。神祇官にして三十餘座の神をまつりて。年穀をいのるによりて。としごひのまつりとはいふなり。しろきいのしゝ。しろきには鳥をもちゐる事なり。いまの世にはそのさたなし。

祈年穀奉幣（キネンコクホウヘイ）。

この月に吉日をえらみて用らる。神祇官にして廿二社へ官幣をたてまつりて。これも豐年をもとむるよしなり。

三月

御燈。

三月と九月との三日に行はる。北辰といふ星をまつらせ給ふよしにて。たかきみねにて燈を供するなり。北山の靈岩寺にしてこの事あり。あるひは月林寺。圓城寺などにてたてまつらるゝ例あり。ちかごろはまさしく御燈の儀はなくて。よしの御祓をおこなはるゝなり。

石清水臨時祭。

中のむまの日この事あり。平の將門が亂逆を八幡の宮にいのりましくて。そのしるしにはやく滅亡せしその報賽のため。天慶五年四月より。はじめてこのまつりはあり。使舞人かずあまたあり。あをずりといふ裝束をきるなり。もとめ子するが舞などいふ舞をまふ事あり。

鎭花祭。

やよひのする花のとびちるころは。疫癘といふ事のはやるによりて。そのわざはゐをしづめとゞめんがため。神祇官にして大神(オホカ)狹井(サイ)の二のやしろをまつる事之。これによりて花しづめのまつりといふなつけ侍り。

四月

旬。

四月十月の一日。衣がへにつきて行はるゝ事あり。旬の儀を略する時は。平座(ヒラザ)とて宜陽殿にして行る。いまの代には平座のみなり。紫宸殿にして行はるゝ時は。兀子(コツシ)といふものに着するを。宜陽殿にては平しきの座なるによて。ひらざとはいふ。

稻荷祭。

中の卯の日にまつるなり。いなり山上のやしろをまつる事なり。

平野祭。

上のさるの日行はる。このほか臨時の祭とて。帯劒の人使をつとむる事あり。

松尾祭。

これもさるの日のまつり之。この神はあふみの比叡の神と同體にてましますこ。

梅宮祭。

上の酉の日にまつらる。

廣瀨龍田祭。

四日の祭なり。龍田の社の〔は歟〕風の神なり。

灌佛。

四月八日。淸凉殿にて佛にうぶ湯をかけたてまつる儀あり。山形とてつくり物をして。鉢に香水を入。ひさごをそへたり。佛布施をば舟褁(フナツヽミ)となづけて。鵝眼を紙につゝみ。白木の枝につけて。公卿以下次第に持參して。佛前にをく事あり。

齋王御禊(サイワウノゴケイ)。

賀茂の齋院まします時は。中の午の日。むらさきの、齋院より。かもがはにて御はらへの事ありて。かもの神館(カウダチ)といふ所にとゞまり給ふ。式子内親王のあふひを草に引むすびなどよみ給へるは。この時の事なり。

賀茂祭。

中のとりの日。一條の大路をわたる事あり。內裏よりの御使は。近衞中少將これをつとむ。そのほか院。東宮。中宮の御つかひなどありて。かざり馬にのり。かざり車をひきつづけ。とり〲のみ場にてなんありける。いまの代にはかたのやうに。近衞使ばかりぞつとむる。いと無念なる事ゝ。

吉田祭。

中の子の日に行る。

五月

右左近騎射。

三日は左近のあら手つがひ。四日は右近のあら手つがひ。五日は左近のまてつがひ。六日は〔[illegible]〕右近のまてつがひとて。近衞のとねりとぞ左近右近の馬場にて。かさがけをいる事なり。古今集のこと葉にひをりの日といへるは。この時の事をいへるなり。

紫野今宮祭。

疫癘の世にはやりしによりて。一條院の長

保三年五月九日より。はじめて紫野にて疫神をまつられし。それよりいまにたへざる事なり。

最勝講。

當月に日をえらび。僧名などをさだめられて。清涼殿にして五ケ日。最勝王經十卷を講演せらる。これも天下息災のためなり。後朱雀院のおほん時。四天王のまさしく影現し給へる事ありて。それより四天の座をまうけらるゝ事ありき。

賑給（シンキウ）。

これもその日はさだまらず。大臣參陣して。日時ならびに使らをさだめ申て。京中洛外のまづしきたみに。よねをひかせられし事をいふなり。

六月

献醴酒（コサケ）。

この月の一日より七月卅日まで。さけづかさよりこざけとて。さけを身ながらたてまつる。一夜にかもし侍るゆへに。ひと夜ざけとそ（ち歟）いふなり。

御體御卜（ゴタイノ）。

十日に神祇官の官人等參內して。玉體につつしませ給べき事を。うらなひ申す事をいふなり。

神今食（シンゴジキ）。

十一日月次祭とて。まづ諸神をまつらる。その夜中和院に行幸なりて。　天照大神をまつらせ給ふを神今食といふ。八重たゞみ。さふすま。さか枕などいふは。神座のまうけにつきての事なり。としに二度あり。この月と十二月十一日となり。いづれもみなまづはじめの月をもてしるし侍り。

供解齋（ゲサイ）御手水。

十二日には御神事をとかせ給ふよしにて。主殿寮御てうづをたてまつる事あるをいふなり。

祇園御靈會（ゴリヤウヱ）。

むかしは人長とて。馬にのせたるひとつ物を。諸家よりたてまつりしなり。いまは地下のともがら山がさをつくりて。その面影をのこせるばかりなり。十五日には公家より幣帛の使をたてゝ。はしり馬。あづま遊などのありし事も侍るにや。

大祓。

晦日に。百官建禮門にむかひてはらへをして。不祥をのぞくよしの事あり。

節折（ヨオリ）。

これも卅日に。神祇官の宮主まいりて。御はらへをつとむるなり。よおりの命婦とて。竹の杖をもちてまいりて。玉體の寸法をとりてもちて出れば。神官のとを串て。はらひつとむるなり。竹にて寸法をとれば。よおりとはなづけ侍るなり。

七月

乞巧奠。

七夕に。御殿の庭にむしろをしき。つくえをたてゝ。七孔の針。かぢの葉などをおきて。二星をまつる事あり。又織部司にも。織女の祭といふ事あり。織部といふは。大とのへのあやなどおる所をいふなり。

相撲節。

すまひの事はたび〳〵あり。廿六日は内取といふ。廿八日はめしあはせといふ。廿九日は抜出といふ。　主上南殿に出御ありて。大臣以下御前の座につきて。さま〴〵の儀式どもあり。たとへば内取といふは習禮の心え。召合はまことのすまひの正日え。ぬきで

は昨日のすまひにかちたるものをめしぬきて。賞せらるゝよし也。諸國へ使をつかはして。供御人をめしのぼせらるゝをば。ことりづかひといふ也。萬葉集にかくよませ侍り。すまひとる日にいたりて。ひさごばなといひて。ゆふがほの花をつくりて。すまひのもとどりにさす事あり。その本緣いまだかんがへみ侍らず。

八月

釋奠。

二月におなじ。かさねて注に及ず。

放生會。

十五日は。石淸水の放生會なり。放生の因緣は。最勝王經の流水長者の事よりおこれり。きぬ屋殿より宿院へ神幸の時。上卿。宰相。弁。外記。史。六府。左右馬寮など供奉して。行幸の儀を撰せられし事は。後三條院の御別願によりて。延久二年よりはじまれる事なり。法會の儀式は御導師あり。還幸はひきかへひろ〳〵として。世間無常のことはりをしめし給へるとかや。

駒牽(コマヒキ)。

十六日に。信濃の國勅旨の牧の御馬みやこへ入侍るを。あふさかの關へゆきむかひて。これをうけとりて。大内の大庭にして。上卿など列立して。おの〳〵これを給り。あるひは院東宮などへまいらせらるゝをば。近衞の中少將これをひかせてまいるを。引分(ヒキワケ)の使といふなり。定家卿の又露わくるもち月の駒とよみ侍るも。ひきわけの使をつとめし時の詠也。

又御馬逗留の解文を奏する事あり。それは御馬事のさはりありて。路に逗留して。その日は京へまいらぬよしを。解文にして申事

之。この月七日には。甲斐の勅旨の牧の御馬逗留のよしを申す。十三日には。武藏秩父御馬廿疋逗留のよし申す。又十七日には。甲斐の穗坂の御馬逗留のよし申す。廿日には。むさしの小野の御馬逗留のよしを奏す。廿三日には。しなのゝもち月の御馬逗留のよし申す。廿五日には。むさしの立野の御むま逗留のよし申す。廿八日には。上野の勅旨の牧の御馬五十疋逗留のよし申す。ちかごろは十六日のこまびきの儀しき。かたのごとくおこなはれて。左右馬寮より一二疋たてまつるばかりにて。さらにその實なし。此牧々の名所は。駒引のたいなどには。いづれをもよみ侍るべきなり。

九月

重陽宴。

むかし九日の宴には。御前の瓶に菊の枝をさして。文人をめされて詩をつくらせ。披講せられしなり。近代はその儀はたえはてゝ。平座とて。宜陽殿に上卿參着して。侍從等に菊のさけを給ふべきよし奏して。勸坏の儀あるばかりなり。

例幣。

十一日に。伊勢大神宮へ奉幣の使をたてらる。ことなる事なし。

十月

旬。

一日の旬四月におなじ。これを二孟の旬となづく。近代は旬の儀はなくて平座なり。

進亥子餅。

上の亥の日。内藏寮より朱漆盤にもちゐをもりてたてまつる。十月の亥の日餅を食すれば。諸病なしといふ本文よりおこれり。源氏物語のねのこのもちゐは。あくる日の事

なれば。子のことはいひ侍る之。

射場始。

この五日。内裏のゆみば殿にて。ゆみはじめの事あり。これは明年の賭弓のため之。このゆへに射場始なきとしは。あくるとしの賭弓はおこなはれず。のり弓なければ。相撲の節なしといへり。

維摩會。

十六日は。藤氏の始祖大織冠の御忌日たるによりて。この十日より七ケ日。興福寺にして維摩經を講ぜらる。この事を北野天神の四言詩につくらせ給へり。名開三國。會留興福。朝之爲朝。蓋是會力云々。やごとなき法會にて。攝關家より講師の布施物などおくる事あり。

十一月

奏御暦。

一日に。陰陽寮より明年の御暦をたてまつる。又頒暦とて。臣下に給ふべきために。百六十六巻そへてたてまつるとかや。これはみなむかしの事なり。今日冬至にあたるとしは。朔旦冬至といひて。旬の儀式をおこなはる。この時は庭中にすゝみて御暦を奏す。よのつねは内侍所につけて。内々たてまつるなり。

諸社祭。

この月のまつりどもは。二月四月におなじ。いづれもはじめをとりて。歌連歌などにはその季をさだむべし。こと葉をくはふれば。秋冬にもわたるなり。

五節。

中の丑の日。五節の舞姫參入して。天子常寧殿に出させ給て。これを御覽ぜさせ給ふ。それをば帳臺の試となづけ侍り。大嘗會の

としは五人の舞姫あり。毎年はたゞ四人なり。いにしへきよみはらの天皇。天武天皇御事也。よしのゝ宮にまし／＼て。琴をひかせ給へる時。御前の山のみねより。たちまち雲わき出る事あり。そのくもの中に天女現じて。御門の御ことのしらべに應じて舞を奏す。五たび袖をひるがへし侍るによて。五節とはなづけ侍り。たゞ御門の御目にのみみ給りて。他人はみる事なし。その天女のうたひしうたは。をとめどもをとめ〔さび〕たひすもからたまをたもとにまきてをとめ〔さ脱〕たびすも。か様にうたひけるとなん。古今歌に。雲のかよひぢ吹とぢよとよみ侍る。この心なるべし。

鎮魂祭。（チンコン）

中の寅の日おこなはるゝ事之。人の魂魄の散亂するを。身體の中にしづめおさむる心に。たましづめの祭とはいふなり。

童御覽。（ワラハゴラン）

これも寅の日の事也。五節の舞ひめのめしぐしたるわらはを。御かどの御前へめされて。御覽ぜさせ給ふよし之。きぬばかま。くしあふぎなど。結構の事あり。ちかごろは大嘗會のとしにおこなはるゝのみなり。毎年の儀は中絶せり。

新嘗祭。（シンジヤウノ）

このまつりは當年の新穀を。天子の御身づから天照大神にたてまつらせ給ふ事之。一代に一度おこなはるゝをば大嘗會といふ。とし／＼にあるをば新嘗祭といふ。いづれも中の卯の日の事之。

豊明節會。（ホウメイ）

中の辰の日おこなはるゝ。これも大嘗會のとしは。辰の日の節會。巳の日の節會とて。兩日おこなはるゝによりて。豊明の節會は

午の日にのぶる也。節會といふ二字をば。日本紀にはいづれもとよのあかりとよませ侍れど。十一月の節會をとりわきて。豐明(トヨノアカリ)の節會と申ならはし侍り。小忌(ヲミ)の衣といひて。ぬのを藍摺にしたるをきる。冠には心葉(ココロバ)とて。梅をかねにてゑりてさす。日かげのかづらとて。いとをさぐる事あり。これは神事の裝束のよし也。

賀茂臨時祭。

下の酉の日の事之。おほかたは石清水の儀におなじ。還立(カヘリダチ)に御神樂あり。これはいはし水にはかはれる之。

十二月

月次祭。

神今食。

六月十一日におなじ。

御佛名。

十九日より廿一日まで。三ケ日この事あり。過去現在未來の三千佛の名をとなふるなり。たけのともしびといふは。竹にて燈擡をうちて。火をともすなり。のふしのかづけわたといふは。導師をのふしとはよむ。祿に綿を給ふ事あり。

追儺(ツイナ)。

十二月卅日。おにやらひとて。疫病の陰氣に乘じて世にはやるをおひはらふ事之。方相氏といひて。鬼の面に金にて四のまなこをつくり。身にはあかき物をきて。手にたてほこをとりて。疫病をおふ也。いまの世には大とのへの物このやくをつとむるにや。又ついなにまゐる公卿は。桃の弓あしの矢をとる之。この弓矢をば。疫病のおそるゝ本緣あるゆへ之。

御本云

此本一條殿兼良公。御筆也。可秘々々。

桑門御判

以宮内省圖書寮本加一校畢

續群書類從卷第二百五十六

公事部九

樗囊抄

年中行事

相撲。七月廿八九。但小月廿七八日也。

興行。中絶後。

保元三。保安三以後久絶。七八月依忌月。今月始例也。　幸大内。十六日國忌日。永承元四之外未詳。

召仰。六月六日。

内取。廿二日。　試樂。廿五日。

新制。廿六日宣下。二ヶ日不可改裝束。　宸手官府。同日。

召合。廿七日。南殿。太子參。内府宰中長實取奏。十七番。左拔頭。右納蘇利。右初止之。

拔出。廿八日。如昨日。五番。

承安四。保元以後二代絶。　來月幸院又有之。

召仰。五月五日。　事始。八日左近府。十三日右近大將辭退間延。

内取。七月廿五日。關白以下。　宸手官府請印。廿六日。

召合。廿七日。左右大臣以下。十七番。舞如恒。右博井元眞用家云々。

拔手。廿八日。左三人。右五人不參。

縮式日召合。

延喜十九七廿六。

承平三七廿四。仁壽殿前。來廿八日依御物忌。

天曆九七廿六。　應和三七廿六。

天延二七廿六。　貞元二七廿五。

寛弘四七廿六。　万壽四七廿六。

治曆三七廿六。　延久四七廿六。

廿九日召合。

延喜六。　同十一年。
承平四。　天慶七。
天暦元。　同三。
同七。廿一日上卿仰外記云。依公卿物忌。被定廿九日。
天德二。　應和元。
天元々。　同五。
永祚元。　長和二。
萬壽元。昨日依雨。　長元四。
同六。　永承三。昨雨。
同六。　康平七。
延久元。　承保三。依關白霍亂。
寛治五。　同六。
卅日例。
寛平三。　延長五。
安和元。　長德三。
寛治七。　嘉保二。
八月例。但鳥羽天永二八廿。保安三八十九等。依避七月聖忌也。

寛平八八五。
七月十五日召仰。
寛治二。上權大師忠。　長治元。上權中仲實。
追相撲隔日。
昌泰二七卅。去廿七日召合。　延喜十一七廿九。一昨日同。
同廿一七卅。同。依雨。　應和元八一。一昨日。有日依物忌。
安和元八二。去卅日合。　永祚九八二。去廿九日合。
長元七七卅。昨雨。　長暦元七廿九。一昨日合。
治暦三七廿八。一昨合。　延久二七廿九。同。
同四。雨。物忌。　保安三八廿一。同。
疾疫疱瘡旱水等年例。
延喜十五。疱。　同廿二。旱。
延長七。風。水。　天暦三。疾。
同十。旱。　天德二。疾。飢。
天延二。疱。　正暦四。疾。
長德二。飢。　永承二。旱。
應德元。疾。　承暦二。旱。

三合甲子。
正曆四。三合。　萬壽元。甲子。
寬治六。三合。

停止。
延喜廿。依病。　天延三。依三合。
寬弘八。代始未始政。停止由七月廿宣下。
長和五七十七。召仰後廿二日止。依去廿日攝政小南第火事。
寬仁四。皰瘡。　長曆四七廿六。外宮大風顚倒。
長久三七十四。召仰後。依上東門院御惱。
寬德九七。右府於里第召大外記師任、仰止由。
康平六。旱。　治曆二。旱。
承曆元。皰瘡。　永保二。依三合。
嘉承元四。依疾疫止使。

內取以後召合停止。
康和四七廿七。內記〔取〕十九日。召合止。依件日齋宮火事。
永久四八十六。內記〔取〕十七日。大炊殿火事間止召合。

雨儀。
應和元七廿八召合。昨日左府御外記。

當日雨止用晴儀。
寬弘六七廿七召合。御南殿。雷雨甚。左右大臣候簾中。侍臣帶弓箭同候簾中。申時雨止。
儀始。

御物忌。
仁和元七廿五召合。南殿。垂御簾。
長久四七廿四。明日內取相撲合〔令歟〕籠之。但依雨延。

清涼殿前庭例。
天元五七廿七內取。年來仁壽殿也。依御物忌也。

仁壽殿東庭。
寬平三七廿〔世歟〕召合。　同四七廿八。
同十七廿七。　承平三七廿四召合。
天曆九七廿六召合。　同十七廿七。

武德殿。
延喜十三七廿六。廿七日同。廿八日追。南殿。

綾綺殿前。
昌泰二七廿七召合。[illegible]同六七廿九召合。

延喜三七廿四內取。八月五日召合。綾綺殿前。
同六七廿九合。　同十一七廿九合。
試樂於他所行。
寛和三七廿一。左近府始之。而依爲初齋宮行事。點左兵府。
里內。
長保二七廿七合。一條。
永承四。京極殿。　同六。冷泉院。
康平四。高陽院。　同五。同。
同七。同。　治曆三。同。
延久元二。〔[illegible]〕同。　承保三。
同三。四條宮。　應德元。三條殿。
寛治二。堀川院。　同五六七。同。
嘉保二。大炊御門。　天永二。土御門。
追相撲於他所。
昌泰二七卅。朱雀院。綾綺殿。去廿七日召合。
別當宣下。
永延元七廿一。式部卿爲平左。兵部卿具平右。

定念人。
天德三七七。右府已下。被定相撲節代念人親王諸臣等。
㝡手次勝負。
延久三八三。臨時五番。
相撲給獄。
長久四二七。陸奧相撲人是村。依去年不參。
同於途中逃脫。
寛仁元正十一。陸奧相撲逃了。使攝政隨身更歸。今日搦進。
美乃百姓於陽明門申請守遠資延任事中召相撲人等。
永延九〔[illegible]〕七廿八。容體長大者三人。
新制。
長久二七十八宣。節日公卿侍臣美服停止。
保元三六廿六宣。雨日不可改裝束。
太子參入。
長曆二七廿八。　永承二同。廿九日同。
延久三七廿八。御覽日。　同四七廿六。

保元三。
關白御簾中。
承暦二七廿九。御覽。
攝政候直殿。
天祿二八廿七召合。御淑景舍。不着仗座。大納言以下候。
人々不參。
承平六七廿八召合。天時（ママ）不參。仍十三番以後止之。
正暦五七廿召仰。外記不參。代右少史常陸晴九。
寛弘二七十一召仰。右將不參。代將監。
長久二七廿八召合。大臣大將不參。宰中兼賴兼經取奏。
長久四七廿七合。大將不參。左右衞督取奏。
承保三。大將不參。
雜藝童樂等。
安和元八二。拔出幷雜藝。
天祿二七廿八。追相撲。童樂雜藝。
長暦二七廿九。同。
止樂。

延喜廿二。甲。（旱歟）
承平二七廿四。始亂聲之間。依奉幣前齋。大外記久永止之。
天慶七七廿二。明日幣前後齋內。今日三ケ日止樂。右府召仰本府。承平例也。
天暦元。
同九。
天德二。疾。飢。
同三。依女院御腦。
同三。
長暦元。
同三。
天喜五。
同七。
延久四。
承暦二。旱。
永保二。
應德元。病。
舞人賞。

延長七。依大風水。
同七。依上皇御服。
同十。無立合幷孤花樂等。旱。
長德二。飢。
万壽元。依甲子。
長元四。
永承二。旱。
同四。
康平四。
治暦三。
承保三。
同四。
寛治七。
天喜五。右近府樂器解鐙。

康平五七廿七。高季。
弓場始十月五日。
九月例。
長德二九七。
延引。
天曆十十一。　天祿元十七。
天延元閏十十五。　長德三十十一。
寬弘三十十六。　同四十廿八。
寬仁四十二卅。有閏十二月。　長元七十八。
長久元十二十六。　寬德九十二十七。
永承五十十七。　天喜五十廿七。
康平元十十。　同二十六。
同五十十三。　同六十八。
延久元閏十十九。　同三十十九。
同四十十八。　寬治元十二廿六。
同四十一九。　承曆元閏十二廿八。
承德二十二十三。　天仁元十二廿二。

天永三十十一。
永久三十二廿七。遷宮以前、依無其所及今日。
保安三十卅。　同四十二十三。代始。
天治二十二七。　文治二十二十九。
休日。
寬仁四十二卅。　康平二十十六。
穢中。
永保三十一十。去月十三日。中宮御產。卅日穢、
駒引八月十六日。元十五日也。朱雀天曆六八十五崩。依聖忌爲十六日、諸牧御馬他日也、近年無之。
於陣奏解文。
天曆三八十四。信濃。諸卿就左陣奏解文、延喜十五例也。
永祚元八十九。
出御。
天曆五八十八。信濃、六十二疋。諸卿移着左陣饗、御南殿、
天德二八十六。信濃。依御讀經不御南殿。
同三八廿九。同。御南殿。公卿賜之拜解。〔譯興〕
閏月例。

寛弘元閏九一。出御。仁壽殿。甲斐御馬。
長元四閏十十七。
連々例。
長元四二廿。上野。　四月三日。武藏。
十月十三日。甲斐。　閏十十七。
十一月五日。　十二月十七。
延引。
天元々八十七。依昨承香殿御遊。
寛仁元九十三。穗坂。去十一日依例幣。同日不奏解文。
萬壽四九廿三。依御物忌。一昨日籠宿解文。
長暦二八十七。昨延。　寛德元八廿一。依特不參及今日。
天喜二。昨延。　同五八十九。
康平二八十九。依水逗留。　永保三八十七。依昨洪水。
寛治六九五。依洪水逗留故也。　長寛元八十八。依洪水御馬遲參。
仁安三八十六。蝕。正現。依上卿不參延。
治承四。依御馬遲々延。　養和元。依兵亂望月牧不通闕延。
建久八八十八。依公卿初使及今日。

建保二。依洪水延引。十七日有之。
承久二。同廿四日行之。大外記師重給御馬。近例希也。
停止。
壽永元。依兵亂。　同二。依踐祚以前無之。
伊世幣前後齋。
建長八。例幣次日也。
他事同日。
神事。
長久三二七。祈年穀定。望月。眞衣野。
佛事。
天慶七九十四。季御讀經定。　天德六十十六。依御讀經。不御南殿。
長元元三五。臨時仁王會。
諸事。
應和三八十七。定考。　治安元十五。弓場始。甲斐眞衣野。
康和二八十六。自内裏幸高陽院。
雨日。
延久二。

廢務日。
延喜十五。例幣行幸後。奏上野解文。
承平四八廿六。國忌。武藏。　天暦二八十五。諸社幣。延喜十五例。
永觀二九三。御燈。覽左右御馬。　久安元。祈年穀。
還宮以後擇日次。
寛仁二八廿。去十七日。信濃勅旨進之。依欠日爲今日。
穢中例。
承平三八十七。内裏死穢。上卿於侍從所覽解文。於左衛陣以藏人奏之。於建禮門給左右。甲斐御馬。
萬壽二。去五日。尙侍嬉子卒。觸穢人乍立行事。
康和三。以詞奏解文。犬死穢間也。於陣外行之。
蝕。
寛弘二十一十五。宣衣野。依蝕上卿已下退出。
仁安二八十六。正現。依上卿不參延。
同三。蝕。不正現。如例。　嘉應元。同。不憚之。
於承明門。
長元三十十九。　天元々九十三。望月。

於官廳。
寛德二。雖裝束建禮門。依關白仰。遷官南殿行之。准建禮門歟。
別進御馬。
陽成院。延喜十七九七。武藏小野御馬被獻之。出御仁壽殿。使淸蔭。給祿。
大貳菅輔正進。寛和元九廿。置鞍御覽之後。於南殿令乘之。
陸奧守平貞威。貞元々十二廿一。卅三疋。石淸水行幸料。交易進不動穀三千二百廿石。
伊與守賴義貢。康平七四十三。陸奧交易。出御南殿。
引分不依馬次第依馬體。
長和五五二。穗坂第四。攝政第三。依瑞弱。可依馬體之故也。
置鞍御覽。
天慶二八廿。武藏小野。卅疋。
父馬賜御牧。
天暦五十一六。二疋。依申請被下秩父御牧。
解文不內覽例。
寛仁九十一。　萬壽四。上中頭(鎮數)降以詞奏。御物忌也。
康和三。以謝天(大雙)死間也。　治承元。御物忌。無解文內覽。
無解文。

長暦二正廿二。秩父去年引殘。有國解無解文。依關白命。不奏返給之。

解文無國司署。

寛治四。　長治二。

御馬於途中斃幷紛失。

寛仁二八廿三。信乃一疋斃。

永承三二廿二。甲斐御馬。權分給監牧。他給獄。數日逗留。五疋紛失。

大臣奏解文大納言分給例。

天慶七九十四。右府季御讀經定間奏之。大納言師輔於建禮門分賜之。

弁官爲引別使。

萬壽元十二一。穗坂。左少義忠爲東宮引別。

人々不參。

延喜十二八廿四。依休日上卿不參。於淸涼殿前御覽。參議定房候殿上奏解文。

承平元八七。甲斐。監牧不參。付右兵志之貫。無例事也。

天慶七十一。上卿不參。參議在衡奏解文。

天暦七八十八。甲斐穗坂。馬頭助不參。延長八例。

同十八廿。武藏立野。仁壽殿。右將不參。天暦八例。

天元々九十二。信濃望月。將不參。去八月相撲三イ違濫。依進怠狀。寮官以下參。

寛弘六年五一。弁、少納言不參。

長久三。少納言。

康平六八十六。參議不參。長德四。馬和三。永承三例。

延久五八十六。弁。少納言不參。

寛治四。少納言、

康和三。左將不參。右將爲代。

永暦元八十七。依上卿近衞將等不參昨延。

天養元。將不參。無引別。

仁安二。依上卿不參延。今日御正現。

文治三。右將馬頭助不參。

公卿殿上人給御馬。

承平二九十四。上野諸牧。卅疋。公卿殿上各一疋。

依他事在宜陽殿公卿次日給御馬。

天慶七九十五。大納言師輔御外記。昨右府參議在衡定季御讀經。候宜陽殿。不向建禮門。宜仰左右。各一疋給彼兩人。

遲參將給御馬。

長和三八十七。左少將好親。

大外記賜御馬。

承久二八廿四。師重。近例希歟。

馬頭依營飼御馬昇殿。
長和二九十七。左保昌右賴親。
御馬使。
左近番長兼國〔頭書〕。貞元三始之。
右馬不橘賴輔。承保二。
武藏秩父。八月十三日式日歟。
天曆二十三。御南殿。　天德元八十三。御仁壽殿。
應和元八十九〔〓〓〕。武藏。御南殿。　長元三二十三〔〓〓〕。
長九四四三。　長九七十一廿一。武藏。
長曆二正廿二。去年引殘。無解文。依關白命。不奏返給之。
甲斐穗坂。八月十七日式日歟。
延喜四八十七。御南殿。　應和三八十七。定奏同日。
康保元八十七。御南殿。　長元々十二十。
同三十二二。
信濃望月御馬逗留。八月廿三日式日歟。
天德元八廿五。於建禮門。　長久元十一二。
上野駒引。八月廿八日式日歟。

長元々。　同四二廿二。
甲斐眞衣野。
寛弘二十一十五。依蝕止。上卿已下退出。
長元々十廿。　同二八廿一。
同四十十三。
長曆三十二廿七。眞衣野。穗坂。六十疋。
陸奥交易。
長保元五九。廿疋。出御。　長元四十二十八。出御。
同六十一十四。　長曆三十二廿六。卅疋。出御南殿。
永承四十二八。使右近番長下公武。出御南殿。卅疋。
康平七四十三。伊與守賴義貢陸奥交易御馬。出御南殿。
承保三二六。陸奥交易。使右馬允橘賴貢。出御南殿。翌日於東馬寮。令府生以下騎之。
御曆奏十一月一日。
二日例。
延喜十二。依蝕。　承平二。同。
承曆元閏十二二。
保元三。代始。依因會。十月節爲二日。長元九亥日歟。十月節奏之。

永万元。依代始擇日。
三日例。
承平元。一日蝕。二日上卿不參。
治安三。一日大后犬死。諸卿觸之。內裏宇佐使間。件人々不參。仍今日付內侍所。
十二月一日。
天慶元。依曆奉(奏歟)不定并寮解忌。天長十例。
穢中。
永保三。內裏穢。天慶四例。
蝕。不憚。
貞元二。陰陽不告。外記付內侍所。爲違例。
大臣參例。
康平七。左。
上卿不參。
天元々。付內侍所。　嘉保元。同。
內侍不候藏人奏。
長和二。藏人登仁。
他事例。

神事。
康平五。宇佐使。
荷前十二月十三日定。
縮例。
天曆四十二八定。來廿一日。立春以前日次不宜之故也。
寬治二十二五定。
依他事延引。常事也。
天慶五十二十五定。去十三日依除目。
同八十二十四。昨伊世幣。
應和元十二十四定。依大神祭定。侍從不定荷前。
正曆二十二。依大神祭。　延久三十二十六定。同。
寬治元十二十八定。式日依除目入眼也。
康和三十二廿二定。式日右府依向宇治也。
閏月例。
應和三閏十二十二。　承曆元閏十二二。
十三日使立。
天延二。　寬治二。

長元四。
十二月卅日。
永保二。　應德元。
重復辰午申戌寅等日例。
昌泰二十二廿五。申日。　永祚元十二廿七。戌。
寛弘五十二廿八。寅。　治安二十二廿八。重。
長久二十二十七。辰。　天喜二十二廿一。戌。
同三十二十六定。重。復。延久四十二十八。辰。
寛治元十二廿八。午。　康和三十二廿八。寅。
天永三十二廿一。辰。　久安三十二廿八。復。
使兼班幣。
治曆元十二廿一。顯家。
新任公卿神態以前勤使。
應保二十二廿三。參議隆季。
御衰日。康平二十二十四定。依御衰日延。被尋例處。寛仁天喜例。猶式日也。仍不用之。
長治元十二廿六。
休日。

延喜六。　長曆三十二廿四。
伊世幣前後齋例。
天曆四十二十二。幣畧日次後。
延久四十二十八。昨御卽位由幣。（[illegible]）
仁安三十二廿八。廿九日被公卿勅。（[illegible]）
國忌日。
元慶七。　延喜十五。
承平七十二廿三。　承保元十二廿三。
應保元十二廿三。
擬侍從各別定。
天曆元。七日荷前。十三日侍從。　應和元。十四日侍從。依大神祭。今日不定荷前。
康平二十二十六定。不定擬侍從。依無大極殿。去年火事。
寛治五。五日荷前。十六日侍從。
永萬元十二十四。荷前。依吉書奏。不定侍從。他日侍從。
他事同日。
神事。
長元四。初齋院里第指堅木。　寛治八十二十八。去十四日。字佐使立間也。

安元元。去月廿五日。宇佐使立間也。

佛事。

承平七十二廿三。佛名。

長保三十二十六定。臨時仁王會。

寛仁三十二十四。仁王會定幷政。　治安元定。季御讀經定。

長曆三十二廿四。佛名。　長久元定。季御讀經。

天喜元十二十九。佛名。　同三十二十六。南殿大般若。

承保三十二十九。佛名。　寛治三十二廿二定。同。

長治元十二廿六。法花會和(幷歟)仁王會定。

諸事。

康保四十二廿六。自襲芳舍遷麗景殿。卽位後初度。

長久二十二十六定。除目初。

長久二十二十三定。官奏。

永承七十二十四定。直物殿上所宛。

寛治元十二廿八。内侍除目。

康和四十二十三定。官奏。

穢中。

延喜廿十二十五定。出御南殿。内犬死。

治承三十二廿六定。昨五體不具。

御物忌日。

天應四定。付藏人明日奏下復奏之。

輕服人入定文事。

治安二。十二月十九日。右府仰大外記賴隆云。去十六日除左衛督兼隆卿。延喜天曆顯忠朝忠内裁之。依被可入者。

康平七。顯房卿。

幄顚例。(到武)

天祿元十二廿七。上官幷上卿幄顚倒。

出御。

延喜廿十二十五。南殿。天曆十(十カ)廿二廿六。御建禮門。

貞元元十二廿八。

不出御。

天祿元十二廿七。依御物忌。

中納上卿。

長久三十二十四定。經通。

文治元十二廿七定。六歳定能。
同四十二廿三。頼實也。去廿二日右府行定事。
神宮上卿定申。
長治二十二廿。内府。　長寛二十二十三。右府。
人々不參。
永暦元。弁不參。
長和二十二十九定。參議不參。左少弁經頼書之。
永保三定。弁不參。外記内覽。
應保元十二廿二。弁不參。五位史問幣物。
重服使。
康平四十二一四。天暦三小野宮左府行事之由。外記注申。
不仕人科。
天慶七閏十二廿九。闕新甞小忌幷荷前事。侍從大夫十一人。不入除目。
天暦元十二廿。次侍從六人解官。去十六日使闕如。
應和三三九。助教氷間有隆解却。侍從依去年荷前闕如。
天元三十二廿一。幸官聽間。參議重光去十九日。荷前闕如事也。
長久二七廿三。荷前節會不參諸大夫。敍位除目不可進申文之由宣下。

御髮上十二月下午日。
土用間例。上古有沙汰。近來無沙汰。
保安三十二廿一。
追儺
無追儺事。
長和五。兩京無追儺事。古老成恠。
人々不參。
承平二。上卿不參。參議爲代。　天暦九。上卿不參。參議有相朝臣爲代間。中納師尹參。
康保元。參議不參。　寛仁三。上卿不參。參議資平行事。
嘉應二。參議少納。　治承二。參議不參。
不仕科。
長治二正一。權大納經實已下公卿四人勅勘。
尅限事。
寛德元。權大兼頼仰云。天下之動靜。唯依追儺之遲速。於今者守時剋可申行。
新内裏追儺。
長久二。去十九日遷宮。
雨儀。

康保元。　嘉保二。
穢中。
天暦元。去十九日内裏觸穢。
不法年。
寛德二正一。去夜二條以南不追。以北少々追。奇怪也。
大祓
閏六月例。
長元七。去月依内會宣下。　承保三。
不參。
延喜十九十二月。弁不參。式少輔江千古爲代。
長和四三十八。仁王會。上卿不參。　寛仁二二六。内侍不參。
同三三十四。仁王會。弁不參。　寛仁三九四。伊世遷宮祓。二省彈正不參。
永承四二四。新年延。上不參。右少弁師家爲代。
寛治五六。弁不參。　應和元六廿九。外記不參。史爲代。
依諸司穢被行。
承平元三六。大炊寮犬昨入死。七日建禮門祓齋月。
依無見馬以代給。

寛平九五廿二。依疾未在門。以直物後日可給之。
穢中
天暦元七七。仁王會。去十七日。宮中卅日穢。
天永二六卅。去十一日。大炊頭卅日穢中。無憚之由有沙汰。
穢史乍立行。
永保三例幣延引。依内裏犬死。
撰日次。
天喜元八十五。晦依欠日。朱雀門。
朔日。
承保元十一。大甞祓。晦依國忌延。
大祓當日。
寛仁四二廿三。仁王會。
同日二箇所。
治暦四八十九。朱雀門大甞會。建禮門大奉幣。
寛治元六。同兩門。恒例并大甞會等祓。
同日臨時佛事。
寛治二十二廿九。一代大仁王。
〔以宮内省圖書寮本加一校畢〕

續群書類從卷第二百五十七

公事部九

執政所抄上目錄

正月

一日四方拜　殿中御疊　同掃[除]　供御齒固三ヶ日付供御菓子事　進腹赤給祿　御手水　上達部殿上人參入　御[西]儀　御節[供]　藏人所弁侍御隨身所等饗所々節酒各三箇[日]　法成寺五大堂御修法二七日　諸寺二七夜御燈[明]　十齋會修正　中堂藥師供付每日御誦[經]禮堂帖　日吉八王寺法花講　平等院修正料布綿事　上午日宮咩祭付北政所

二日臨時客

四日法成寺阿彌陀堂觀音堂修正　[御][燈]明弁吉書日次

六日臨時御修法日次　法成寺藥師堂修正

七日御菓子御干飯付七種若菜　節會御出

八日法成寺金堂修正　八省加供

十四日修正結願法咒師布施　五大堂御修法布施

十五日諸寺進御卷數給祿　粥御節供付兩方所々粥

京極殿修正

撰日次事

內大臣殿御祈尊星王供

春季日吉大宮大般若讀經

除目御修法

二月

上申日春日神馬（付近衛使中舞人陪從半臂下重春使立）

二日上中堂三番頭雜物　宇治殿御忌日

八日法性寺修二月

上卯大原野神馬（付社頭事）

十三日故大殿御忌日（宇治）　平等院阿彌陀堂

護摩

廿四日酉北院修二月

廿九日新東北院修二月

撰日次事

心經會　十座仁王會

今月公家仁王會

三月

一日御燈御出

巳日御祓

三日平等院一切經會　御節供（兩方）

十三日藥師寺最勝會（如布施）

十四日春日御神樂

十五日春日御塔唯識會

晦日仁和寺理趣三昧

撰日次事

季御讀經

御賀茂詣雜事

粉熟　松柏　粉餅　正三七九月餅同之

初居　時菓子同　五月粽　三月草餅

汁　干物　唐菓　十二本始自粉熟終唐菓

四種　干物　同　栗栖野樣器御節供也

執政所抄

正月

元日。未明□拜天地四方御事。

南庭供御座。（四角立燈。旬出納勤之。）

弘莚二枚。小莚一枚。（政所。）

〔要書〕御裝束々帶行事衣冠
御座一帖。(御倉町。近代別沙汰。)
御手水桶杓。(檜物御庄進雜器內。昨日進藏人所。)
御隨身二人。(褐冠。)
下家司。出納。(布衣。)
件事。下﨟職事參□被勤行之。先敷弘莚二□。供御座一帖。隨御所體有莚道。
供御座事。(元御倉町。)
莚。(紡賀。福頼。)
薦。
信達卅枚。　宮田卅枚。
(作行事宰定法)今泉卅枚。　吉田卅枚。
穴太六十枚。　長曾禰卅枚。
山內四十枚。　梠原卅枚。
垂氷東五十枚。　同西卅枚。
榎並百五十枚。　平田五十枚。
掠橋東六十枚。
件薦。舊年御庄々爲例進々納畢。任御庄員□〔數歟〕進之。隨供御所幷所々。御所今朝御裝束。行事職事着衣冠剛之。藏人所恪勤者參御淸目。(四月十月。更衣同上之。)
保安元年十二月。多被召加他御庄〔　〕。(長門守奉云々。)
掃除事。
主殿所政所舍人。不謂都鄙。皆參御門外四面。撿非違使奉行之。殿內舊年掃淸立砂。今朝散砂執纖埃。下部等攢庄賀肩。(省イ)
御齒固三筒日事。(膳部一人調備之。料米。)
腹赤貢進事。(篠絹一疋。納殿給之。)
御菓子事。(御料幷北政所。姫御前。內大臣殿。)年預下家司。甞美善色數調備之。(盛栗栖野樣器五寸。)長櫃樸子新造之。赤衣仕丁爲扶持。□出納觸贄殿備進之。
御手水役事。(御手水具。舊年自御倉町調進藏人所。近代年預所。)
件事。四位陪膳。五位六位役送。(家司職事衣冠。)

上達部以下參賀事。或時无拜。

御出事。

前駈。四位二人。五位六位廿人。左右近衞府將監。將曹。小舍人府生。番長。行事所司舊年分催之。右府差文。催之。

移御馬。仰御藏。（酉書、藏人所可召仰候）

御隨身狩袴。夜部給之。所司請取。召御隨身雜仕女分給之。

假御隨身。左右將監將曹各一人。仰本府令差進。并十六人也。府生以上束帶。番長以下染狩袴給之。

小舍人所。

已上藏所々司。以雜仕女下知之。

御車副。牛飼。政所催之。

御牛綱。自納殿。出納請之調備之。

件事。元三御裝束職事所司奉行之。

元三行事職事。三ヶ日等前駈。候藏人所。令注參入人見參。

御前供事。

殿下御料。朱器。

懸盤六前。盤。

打敷。用舊。

菓子八坏。

四坏。柘榴。棗。柏。松。

四坏。甘子。橘。梨。栗。

粉餅八坏。

唐菓八坏。梅枝。桃枝。餲餬。桂心。黏臍。饆饠。鎚子。團喜。

干物八粉。干鳥。楚割。蒸鮑。蝦燒。干鮭。干鯛。押鮎。白干。

粉熟。在小角豆汁。

御盞。

四種坏。

御酒臺酒五升。

已上家司御所課。舊年以御所宛旨令催申之處。請取御朱器被調進之。朱器御倉開闔家司下年預下家司。

御殿油。何出納勤之。

北政所御料。栗栖野様器。居様圖在端。

打敷一帖。六尺四幅。繧甲文。

打敷十二枚。在面。

御箸。

四種坏。

粉熟。加小豆汁。

時菓子八坏。同前。

粉餅八坏。同前。

唐菓子八坏。青四。赤四。

干物八坏。同前。

　件御料。居同土高坏供之。

女房衝重。廿前。

　已上舊年以所宛旨。重催申所課。家司令勤仕之。

御殿油。旬田納。

　兩方御節供。四位陪膳。五位幷諸司官人役送。件事元三御裝束行事所司令催之。

藏人所三箇日饗。諸國。

侍所三箇日。　下姓五位六位巡役。

　已上職事所司。舊年致沙汰令取奉。

御隨身所三箇日饗。　下家司重役。

　件饗去年八月御所宛。任巡役宛定畢。

毎日廿前。深草四寸盤盛之。

追物廿種。撰江海魚。稱盛鮭孔燒。　交菓子二外居。撰時菓子云々。

大鯉。二尺五寸。尙有不足。　毛鳥。　雜仕饗。

所々三ケ日節酒。

小舍人所。　御厩。　御車副。　牛飼。

　件節酒。年預下家司任長案給下文歟。

法成寺五大堂二七箇日御修法事。

淨衣五領。　壇敷淨衣布六段二丈。

大幕一帖。　米四十三石貳斗八升。

油貳斗五升。

　已上年預沙汰。舊年成下文。□□淨衣壇敷沙汰畢。

蘇。　蜜。　贊殿。
沉。　丁子。　白檀。　龍腦。　薫陸。　納殿。
檀。寺家沙汰歟。已上舊年皆沙汰了。　阿闍梨。
諸寺二七夜御燈明油三斗三升八合。
法成寺一斗。　鞍馬寺一升四合。
吉倉一升四合。　隣隆寺一升四合。
園城寺一升四合。　興福寺一升四合。
感神院一升四合。　法性寺一升四合。
□輪寺一升□□。　平等院一升四合。
根本中堂一升四合。　六角堂一升四合。
行願寺一升四合。　石山寺一升四合。
無動寺一升四合。　長谷寺一升四合。
清水寺一升四合。　淨妙寺一升四合。
已上副送文。家司加判。　舊年晦日可取進彼寺々
〔之歟〕
々請文之由。仰仕丁等畢。土瓶兩三斗歟。
年預沙汰。
北政所。　姫御前。　内大臣殿。同。但除淨妙寺歟。北政所興福寺不入歟。可有増減之。

十齋會修正事。
佛供乃米九石四斗。　同薪□〔直錢〕例米九斗四
升。
〔頭書〕修二月舊年有定文
已上年預下家司。以長案成下文下知之。
油壹石。諸國。　諸事所催。〔司歟〕
香水覆絹三丈。大褂一領。所司以行事出納諸〔請歟〕納殿云々。
已上分配。家司職事所司參勤之。
根本中堂藥師堂。下文五枚。　近代御領。〔願イ〕
米四石五斗。請僧三口。各一石。佛供承仕一石五斗。
日吉八王寺法花講。下文九十貳枚。　近代御領。
米拾壹石。
油六升。
已上紀伊國田仲御庄。御祈下家司成御下
文。今月分舊年分行之。恒例事。爲毎日勤
之。仍毎月晦比。致沙汰下知之。
同中堂毎日御誦經麻布毎月卅段。日別一段。

近代疋絹仲麻布。舊年中請納殿。副送文付番□阿闍梨房。彼房請取。被取進中堂後戸請文之。恒例事。爲每日勤。當月料去晦日御祈下家司觸請納殿。无致懈怠之。

同中堂禮堂疊事。

紫端四帖。　僧綱料。長押上。

黃端四帖。　長押下。帖別可敷國莚二枚歟。以國莚六枚續一帖也。

件疊舊年被調進之。納□使。而此御時絕畢。事緣年首御祈。任先例每事必可被調進歟。

上午日。宮咩奠事。

供物六前。　在高坏。正目折敷前別四坏。飯。餅。魚。菓。

餅六坏。　坏別六枚。坏別上置橘一果。

飯六坏。　坏別一升。

菓六坏。　合盛。

大根。菁。蔓。芹。薺。蘗菜。芥子。

件六種合盛。坏別上置槽。〔橘歟〕

魚六坏。同。

生鯛。鰐。鰡。鮑。鯯。堅魚。

件六種合盛。坏別上置蟎。

已上料米三石。下家司任御所宛旨勤之。

北政所六前。色目同上也。

繳料。

四丈絹一疋。各二疋。　綿子二枚。各六枚。

糸貳兩。各兩。

納殿請之。

裝束男女形五具。自御臺盤所下給之。

北政所　同之。

八節竹五本。

砥一果。

斗一。

已上旬出納進之。

件事。政所厨女請勤之。張蓋懸絹糸人形。連八□□竹備束。向御妻戸前。家令存而着衣冠。以祭文祝申。但近代政所加催其期。殿下御方給備藏人所。北政所御方給備侍所。藤氏懸手之後。給松出納。令塊請取之。

平等院修正料。布五十段。綿百卅兩。納殿。舊年副送文。出納一人爲御使持參之。恒例事。政所存而催出納之侍。納殿仰之。近代付本家。但□苑越後所進反二百餘兩。

二日。

御手水役。如元召。

臨時客。早旦有御装束事。

上達部御料廿前。栗栖野様器。同高坏。

主人御料四本。

尊者大臣時四本。〔朱書〕以左注以舊記相考各三本也依仍三本了 納言二〔三歟〕本。

〔頭書〕主人尊者御料着座了居之

居物。干物。本物。海松。保夜。荏嚢。梨。菜。〔蘇歟〕生物。腹赤。用〔鳳歟〕蕪。鳩。立物。

追物菓子。土高坏。

殿上人十前。黒柿机。兼居飯。深草盤。

居物。干物。生物。

〔頭書〕居居飯以前居之

已上。此外可有用意。

御料次第。

一献。主人。

二献。居飯。海雲汁。零餘子焼。

三献。焼羹。追物。生蚫。浮海松。鳩足。酢坏。无海松時用白根。

四献。進栗草様器。乳垸酒盞。追物菓子。廿栗。枝柿。小柑子。獼猴桃。蘇。上達部居土高坏。殿上人居折敷。

五献。署預粥。但古有心盞之時献蟆蛦。

〔頭書〕勧盃之度數無定事

六献。蕪汁根笋可用意。近代否之歟。

尊者引出物。有御馬〔用歟〕口取行事。所司イナシ儲之。

御厩司召仰案主。兼有意械轡也。籠頭差縄等事。

件事每度御料貢備之間。次第有相違。當時奉行人申下日記。可致沙汰。又尊者二人之時。大臣各三本歟。

二宮大饗被行之時。三日有此事歟。
三日。
御手水。如元二日。
御出。
已上三箇日御出裝束。職事所司行之。
修正事。大治三年正月。有被付寺家事。子細沙汰。可被問案主爲成歟。
四日。
阿彌陀堂修正事。
佛供料能米六石六斗。同薪直例米六斗六升。
件佛供等。年預成下文。以見下所付進寺
家。
油壹石。諸國行事所。香水覆三丈。大褂一領。所司納殿請之。行
事出納請之。今夜殿下參御。庇御車。料。前駈。衣冠。御隨
身。冠。褐。脛巾。但日次不宜之時。兼以吉日召始
此御車。上達部以下殿上人皆參。近代藥師
堂金堂等。依法勝尊勝最勝等寺修正。僅不
（過脱歟）二三人。家司職事皆參歟。但請內許歟。諸
司官人同之。
御湯漬御菓子。御料并上達部御前供之。僧同備之。塗高坏納寺家。不足行事借用之。
上品紙十四帖。任例請納殿具之。今日并入日以後并七ケ日。
所司進見參之。
件修正事。舊年行事下家司以例文。搏穴（六歟）百
（本ノマヽ）□鐵三百廷。出雲國。折敷三百枚。周防。安藝。申成而（御歟）
下文。下知之後。催取宛行。棚炭蓋等用畢。
虵舌料八丈絹。行事勤之。
近年被付寺家了。輪燈（[illegible]）背額同上。
觀音堂修正事。
佛供乃米五石四斗。薪直例米五斗四升。
件下文同前。進寺家了。佛供外無別沙汰
歟。
今月被問吉書并吉方御燈明日次事。
件事以陰陽寮勘文。被仰下政所。守日次勘
（頭書）依日次無式日
文。儲吉書承返抄。衣冠下家司申之。加賀美作歟。御

燈明五萬燒燈。出納等調進之。年預下家司下知之。布施毎寺五疋。紙裹。納殿。使出納赤衣仕丁持參之。

五日。

叙位議御出事。檳榔御車。

近年召褻御車。參御直廬。有御裝束事。

御衣櫃仕丁政所催之。可隨被仰下之。

六日。

被問臨時御修法日時事。近代別御願。

〔頭書〕非定事 件事以陰陽寮勘文。被下政所之時。御祈下家司守日次致沙汰。阿闍梨蓮藏院歟。

壇所。御念誦堂。

壇具。如常。又小壇二面。已上修理所。美麗可造進之由被仰下了。

半帖三帖。紫端疊六枚。已上御倉町。

近年外記大夫沙汰云々。

赤淨衣九領。加芥子袋。八丈絹三疋六丈。大幕布四段以裁縫之。筒貫以色皮結之。壇敷布淨衣布六段二丈。種々五寶五藥名香等。任支度裹之。已上納殿。五穀政所出納等進之。

能米廿五石九斗四升。油一斗九升六合。一七日料。

閼伽桶杓。手水桶。杓。爐桶等料物。給捨物勤之。

御長櫃一合。被召御庄。

黑器。

期日前有日數之時。下知楠葉御牧。若又期日近之時。成料下文。被付壇所歟。一石與。

件御修法三七日之間。殿内上中下淸淨潔白之。輙不參〔行歟〕不參仕御念誦堂邊。布施畢。他納殿存而裹之。

藥師堂修正事。

佛供乃米九石。同薪直九斗。

件下文同進寺家事。

油壹石。諸國。行事所令催勤之。

香水覆三丈。大褂一領。納殿。

件絹褂等。行事所司以出納請渡之。

七日。

御菓子事。

幷北政所。姫御前。内大臣殿。盡美麗善色數。

早旦年預下家司調進之。元日同之。

御干飯幷七種御菜事。

御飯。　御炊上。

御菜。

葑。荳。萩。薺。芹。蘩蔞。紫苑。菅艸。味噌。

鹽。糟。

件御菜。出納等任例調進之。年預下家司兼日放廻文。政所厨女當日早旦請取之。

御料備折櫃。(句出納進之)　居菓栖　野土高坏。進上御臺盤所。同所料副之。

藏人所。　侍所。　政所。　御隨身所。　小舍人所。　御廐。

已上。彼所々雜仕女請之。又宣旨殿政所雜仕女持參。

節會御出事。

檳榔御車。　前駈。　御隨身。　雜色。

御車副。　御牛。

件御出始。例隨藏人所仰。前駈御隨身等。小舍人所外催之。但近年无儀式御出。早旦召褻御車。(若人車歟。)參御於御直廬。有御裝束。還御及深更。同御車御衣櫃仕丁待仰催之。

八日。

法成寺金堂修正七箇夜事。

能米三石四斗。　佛供料。　薪直米三斗四升。

乃米拾貳石貳斗五升。　七箇夕御湯漬御飯料。(加去四日阿彌陀御料定。薪直一石二斗五升五合。)

乃米拾四石。　同唐菓子料。(夜別二石。加同阿彌陀堂定。)

米拾五石八斗。　土器直料。

十貳石。御湯漬土器四千五百重直。貳石八斗。御明坏七百重直。

米貳石八斗。　御湯漬所薪直料。
米拾貳石。　同炭三千籠直料。
米三斗。　同御出箸木直料。
米八斗。　雜役仕丁間食料。
米六石五斗。　公食料。
米卅五石。　酢酒并物盛甕料。
米拾石。　火桶卅口。鉢卅口直料。
米貳石。　鐵二百廷。釘炭直料。
　已上佛供料乃米等。榎並御庄年貢內歟。將又北陸道御封例米。諸國御封歟。舊年々預成下文。下知出納等。令致其勤也。
油。
丹波貳石。美作貳石。播磨壹石。伊與壹石。
備中貳石。備前壹石。讃岐一石。阿波六斗。
備後壹石。安藝八斗。周防六斗。
鐵折敷傳佛供餠精進物菓子等。
　已上油等。舊年成下文下知之。僧名行事同被定行。
自今夜七箇夜。殿下參御。上達部殿上人家司職事皆參也。
近代法勝尊勝(最勝脫カ)三箇寺修正之間。上達部僧綱不參仕之。僅一兩歟。今夕以後。御湯漬御菓子。六箇夕供之。行事下家司出納等被候之。於油者每夜壹石者。
八省伽供事。
割置御封。　播磨七拾石。伊與六拾六石八斗貳升。
　件事任御所宛。兼日催分配。家司行事。下家司召長案於預出納。成下文。申分配家司判。十四日分行之。書奏付行事所。
十四日。修正結願事。
件事行事所司召取僧名於寺家。付納殿。納殿付目錄裏調之後。行事出納目錄共請取持參之。所司行事等分行之。今日无御湯漬。

御菓子事。
法咒師布施事。〔夜脱〕
已上相加被修正御布施。仍同分行之。
十五日。
早旦諸寺社進二七夜御祈卷數。件使祿事。凡絹百五拾疋許。所司請下納殿歟。但可隨見參之。
粥御節供事。
殿下御料十二本。栗栖野樣器。同高坏。
御粥七前。白小豆。大豆。粟。〔要脱〕黍。栗。皂子。
盛飯。塗彼色物。折敷一枚。居一坏。
〔頭書〕次第白粥一前。[illegible]三日〔置御箸〕次四種。次粥七前。次松柏。次時菓子。次海松。青苔。次生物。最前折敷。
御菜二前。
一折敷。海松。青苔。牛房。河骨。
一折敷。瓜。昆布。蓮根。蕪。
御菓子二前。
一折敷。松。柏。棗。柘榴。
一折敷。栗。甘子。橘。獮猴桃。
四種一折敷。
折敷面押白生絹供之。　打敷一帖。六尺六幅。
〔頭書〕北政所同前
北政所御料十二本。　同樣器。高坏。
色目同前。但打敷折敷面龜甲文唐綾。千壽鶴松巢之。件事秉燭行事所司行之。四位陪膳。五位諸司官人益送之。御殿油出納勤之。
所々粥。
藏人所。
粥二桶。白小豆。杓二柄。　交菓子二外居。
菜八種。　酒一瓶。
鴙一羽。　鯉一隻。
御臺盤所。
粥二桶。同前。　交菓子二外居。盡美膳。
菜八種。
侍所。
粥二桶。同前。　菜八種。

政所。同前。
御隨身所。
粥二桶。白小豆。杓二柄。　鴾一羽。
鯉一隻。　交菓子一外居。
菜八種。　酒一瓶。
御讀所。　贄殿。
小舍人所。　御車副。
御牛童。　主殿所。
政所舍人。　御厩舍人。
釜殿仕丁。
已上各白粥一桶。小豆粥一桶。杓一柄。
菜三種。
件粥等。早旦所課家司調進之。使以例文
分行之。
京極殿御堂修正事。
僧名行事被定下了。請僧廿口。
布施納殿。行事所司以僧名付納殿。

雜事以例文勾當高倹申事由。下知所課御庄
庄。年預下家司。殿上御殿油二升。令成沙汰
歟。行事家司職事所司下家司出納參勤之。
每月內大臣御祈尊星王供七ヶ日事。米五石七斗。油七升。御祈下家司御下文。
淨衣一領。布二段。紙五帖。于菜布施。
名香納殿。蘇密贄殿。在御前。
春季日吉大宮大般若御讀經七箇日事。
佛供僧供米九石五斗六升。　大津御厩地子。
五斗六升佛供承仕料。　九石請僧六口料。口別一石五斗。
油壹升五合。　大津御厩地子。
件御讀經。〔頭書〕近代々遊坊沙汰也。先被問日時之後。僧名青蓮阿闍
梨被下政所。奉行下家司成上請書。幷供下
文等申御判。請書於山上。賜下文於成房。
大津御厩沙汰人。以御所計可下行之由下
知之。

第六日布施七裹。一裹。佛布施一疋。六裹。請僧料各五疋。
副送文遣成房許。召講文。
除目御修法事。件僧六口。僧綱勤修之。
淨衣七領。白。　壇敷布。六段二丈。
大幕一帖。四段。　閼伽桶杓。
米廿八石二斗四升。　油一斗五合。
已上政所。　年預沙汰。
壇一面。　禮盤一脚。　脇机二脚。
燈臺四本。　閼伽棚一脚。
已上修理所。　奉行下家司兼日下知之。
蘇。密。　贄殿。
沉。丁子。白檀。龍腦。薫陸。　納殿。
僧房裝束。
高麗帖三枚。　紫端帖六枚。　布緣疊二枚。
弘莚二枚。　長莚二枚。　屏風一雙。
幔二帖。　楾手洗。　足桶。
几帳一臺。在帷。

已上藏人所々司沙汰。當時奉行人召所司
下知之。催小舍人(闕字)制國解文。當日付壇所。
行事出納相沙汰。結願後觸藏人所々司。令
召結本國雜掌。
爐桶壇土。　行事沙汰。
件御修法於宿房被修之時。阿闍梨被申僧
房裝束。第六日年預裹調布施。召行事出納
爲使。令渡壇所。近年納殿。
晦日。御祓事。　殿藏人所。　北政所。　姬御前。
內大臣。　侍所。
件事所司兼催使。政所儲仕丁。松出納進松
之。

二月

春日祭御幣神馬事。上申日。未日被立之。
御幣五捧。
幣紙五帖。　裹布四丈。白細。
膝突麻布五段。　仕丁襌布一段。二人料。

已上政所年領勤之。

志氏上品紙四十枚。　納殿請之。　放請文。

串五支。　修理所。

褁薦八尺。　御座所請文。

件御幣料。出納任年預下家司命。兼日請之。

神馬一疋。

御厩存而引之。但兼日右毛付被仰下之。

摺袴布五段。

同腰國絹一疋。六丈。

墨一廷。

粉米一斗。下文。

已上年預下家司。任藏人所仰。兼日渡御厩。御厩請取。摺調進藏人所。乘尻參入給之。

乘尻十人。

使五位。

陪膳四位。

已上藏人所々司兼日催之。

陰陽師。　小使。

御禊具。出納。　役下家司。

饗。

乘尻料十二前。料米三石。　下家司勤之。

御厩舍人。料米二石。　出納。

已上政所。且任藏人所仰。且存而催之。

但下家司饗。任御所宛旨催之。

同近衛使舞人陪從半臂下襲十二具事。

藏人所々司兼日請取之。六丈絹十二疋。於納殿分付諸大夫。令裁縫調備。當日昧頭催小舍人。召取職事一人衣冠。爲御使。被向彼使出立所。出納（他本）一人。赤衣仕丁一人。政所催儲之。令從其役之。

根本中堂三番頭事。二日被上也。

佛供白米十石。

件白米御庄年貢歟。將又北陸道御封歟。年預下家司成下文。出納等兼日舂精進之。

供養米卅五石。

同成下文。付行事出納。

油三斗。

以法成寺修正油用殘行之歟。

大褂一領。　紙三百帖。

已上納殿。但於紙者年預沙汰。然而近代被付納殿了歟。

件事兼日致沙汰。期日調進送之。送文執行家司加判。行事出納請取色々物參上之。白米出納等各以少出納運上之。供養米近年無見下質歟。

二日。宇治殿御忌日布施役人事。

件役人召家司職事見參。令御點被仰下之間。當時奉行人召仰所司。所司催之。但行幸并臨時大事之時。若達等參仕。奉行人以消息令催之歟。

八日。法性寺修二月事。

佛供飯三石。　富田御庄。

餅三百枚。

措次具。小野。神野。水邊。中家。山上。蜂屋。

已上各五十枚。但近年被減而歟。

件事式日八日。而被御庄々期日無進究之間。十四日可被延行之由。寺家所司申上也。藏人所々司以寺家申旨下知政所。但去正月下旬。式日八日以前可進納之由。年預下家司。將又句案主放廻文。難令催御庄々預等。乍進奉曾无令期之勤。難公家進奉不勤之。勘責每年式日懈怠之條。預下家司之間。可有其誡歟。餅究濟之由。寺家申旨觸告吉田御庄預。令致飯勤。

香水覆絹事。　凡絹卅一疋。

件絹停納殿沙汰。近年被付御寺也。

油二斗五升。
件油近年以法成寺修正用殘宛之。
油坏三百。
年預下家司成句所下文。下知深草作手等。家司職事所司下家司參向行之。燈心行事出納持參之。
大原野祭御幣事。　上卯日使。
御幣四捧。料物色目如春日御幣。但可減一捧料也。
神馬十烈。　御廐同之。
摺袴布。　乘尻使六位。
陪膳。　陰陽師。　小使。
御禊具。　役下家司。　饗。
近來中宮無沙汰也。可勤之
社頭事。氏后不御之時。長者殿有沙汰也。
鋪設裝束。
屛風一雙。　弘筵五枚。　絹幔十帖。
高麗帖三枚。　紫端十枚。　長筵五枚。
楾手洗。

已上藤氏家司御所課。以所宛旨兼日催申。
下家司參申。
神供物米五石。下文兼日付社。又神人參行之。
濫僧供米五石。下文行事下家司付分配。撿非違使行之。
饗。
着到殿廿前。可有諸司饗料米拾一石。
氏人廿前。可有撿非違使饗料米拾一石。
弁史廿前。可有使々饗料米九石。
近衞廿前。可有所々下部饗料米九石。
已上鹿田御庄割置米内。年預下家司。以長案申成下文分行之。淀邊梶取被下行之。
長大盤二脚。侍所歟、
切大盤一脚。御隨身所上臈料歟。
件臺盤等近年借用。件所々彼料可被割儲歟。着到殿料云々。
東京茵一枚。上卿料。
大褂三領。

納殿請之。
麻布五拾六段。　凡絹十五疋。
年預沙汰。
已上臺盤以下雜物。行事出納請取之。運送社頭。任家司職事所司仰致沙汰。下家司同之。但於饗者四人下家司以目錄勤之。行事下家司存而行之。緣事所司行之同之。
十三日。故攝政入道殿御忌日事。宇治。
阿彌陀佛一鋪。御等身。軸用貝。存彼寺也。
法花經七部。
色紙一部。　紫表紙。　同紐。　赤木軸。
銀泥外題。
例帋六部。　燒表紙。　香紐。　塗軸。
机經紙十枚。
御誦經物卄疋。紙裹。於御寺置案。觸所司預。
布施。
佛布施一裹。一疋。　講師一裹。十疋。

題名僧九口。各五疋。　所司三裹。上座五疋。寺主都維那師各三疋。
別當權別當三裹。各十疋。
綾被物一重。入平裹。
切机覆布二丈。白細。　於御寺付僧前人。
已上納殿。以例文兼有沙汰。出納一人。當日早旦任目錄請取之。持參進御寺後戶。
御誦經案一脚。　切机一脚。方三尺。(二寸)
已上修理所。兼日下知之。昨日催取之。
唐菓子佛供一前。　御明油。
出納豪兼日催調進之。但持參宇治殿了。
御誦經文。
當日奉行下家司書之。中上﨟家司 御判付
預。同小莚年預下家司沙汰進之。
御時物一前。十二合。衝重。栗栖野様器。
唐菓子二合。赤一合。青一合。
粉餅二合。同。
木菓子二合。

一合。松。柏。栢榴。菓。〔蕭歟〕
一合。米。橘。柑子。梨子。
生物一合。昆布。蓮根。蕪。蕗。若芹歟。
飯一合。
窪坏物一合。
箸汁一合。
　已上家司所課。打敷面用白生絹之。〔色歟〕
大僧前一前。四種物。深草。六寸盤。
唐菓子四坏。梅枝。桃枝。
干物四坏。海松。青苔。牛房。河骨。
生物四坏。昆布。蓮根。漬瓜。蕗。若芹歟。
飯三斗。盛同尻高坏。方一尺。
追物八種。盛同例樣春日坏。
同菓子八種。同前。
已上下家司所課。方尺切机敷布二丈備之。
件御時物僧前等。任行事仰。院家所司行事出納等。相具送僧房也。御講後沙汰。

同阿彌陀護摩一壇事。七日夾。
蘇。　密。　贄殿。
赤色淨衣三領。　壇敷淨衣布六段二丈。
名香。　納殿。
件雜物等。同行事下家司出納請取持參。觸申執行所司。送勤修房。
能米拾石七斗四合。
油一斗五合。
件米油。北殿御地子內。當時奉行下家司。以例文申成御下文持參之。相副淨衣雜物同送之。
　但結願布施不給歟。
殿下當日入御事。
庇御車。　前駈君達諸大夫。布衣。
御隨身。布衣。　移御馬。　御車副。
御牛四頭。殿。　九條口。　木寺。　揚〔補イ〕木。
替軸御衣櫃。

御共下家司。出納。舍人。御前松。
已上隨被御下。前駈御隨身移御馬之外。旬
案主勤行之。人夫廿人召近邊御庄也。御牛
蒙兼催皆以參。但以舍人三人自夜部催具。
令祇候被引替所歟。
廿四日。西北院修二月。
佛供料能米七石二斗。
飯八坏料八斗。　粉餅六十四坏料　六石四
斗。
同薪直米七斗貳升。
燈心直料米三斗。
已上年預沙汰。
御明油。
近年以法成寺修正月〔月忌〕殘令勤歟。
件事家司職事所司等。寺分配參勤之。香水
覆三丈。大褂一領。布施絹五十七疋。已上
絹一停了。納殿沙汰。被付院家了。布施請
納殿歟。
今日內修心經會令兩祈御息災延命所々。
侍。
下家司。　於行願寺行之。
御佛一鋪。　法花經一部。已上眞義之時。奉安置彼寺也。
心經各十卷。　石塔。仕丁。　少出納勤之。
灌頂。少出納。佛供一前。旬出納勤之。
布施。各三疋。僧前八前之中。四種物一前。導師
料。
件事每年差定饗頭一人。僧前八前。居饗廿
前。令勤行之。破子廿荷。御厩舍人牛飼釜殿仕丁年預下家司以下從料。
同會頭人行之。自餘下家司心經十卷。布施
絹三疋。人別勤之。年預下家司
御衰日外撰吉日曜行之。
御隨身。同寺行之歟。
出納。
舍人。於每月藥師講寺行之歟。

御厩舍人。
小舍人。
已上修勤雜事。不注及。
廿九日。新東北院修二月事。
佛供御明本自院家沙汰歟。但香水覆三丈。大褂一領。布施絹五十八疋。停納殿沙汰。近年被付院家了。
舊臣家司奉行之。
公家仁王會事。
大極殿堂莊嚴事。官行事所沙汰。
佛供御明。
出納勤之。但官行事所米一石。油一升。成下文所付進之歟。請僧七口。公請三口。法用僧四口。殿下請之。御堂預申當時御 祈僧請之歟。
布施十四疋。納殿申請之。
小安殿鋪設裝束。家司二人御所課歟。

絹幔十帖。　高麗帖三枚。　紫端帖十六枚。
弘莚五枚。　長莚拾枚。　椋手洗。
屛風一雙。
已上件鋪設裝束。不被定宛御所宛。然而以遠(近)彼次第催申令勤之。皆悉辭退之時。注役遠近申事由。隨被仰下被勤之。
僧前七前。
二種物。　美麗。　居懸盤。
諸大夫十前。
二種物。
件僧前下家司二人所課也。而近年僧 前計一人勤之。所司催提諸大夫 諸司官人參勤之。下家司 一兩人同參役。衣冠。
十座仁王講事。
御佛十鋪。　御經十部。
已上御倉。
佛具。

別納。外記大夫沙汰。

請僧十口。

當時奉行人定申僧名被下之。政所成上請書。申御判分之。

佛供御明十前。出納。　別進沙汰歟。

布施百廿疋。　納殿任僧名調裹之。

件事春二月中以吉曜被行之。近年可被行之。

三月

一日。御燈御祓御出事。　升□得今日時イ

前駈。布袴。御隨身。褐衣。雜色。

御共撿非違使。冠。壺脛巾。

已上藏人所々司沙汰。但雜色停藏人所雜色イ仕催。近年被付政所歟。

檳榔御車。　御牛。　御車副六人。

已上政所催之。

件事凡任藏人所仰致沙汰。

河原御祓所事。

掃除事。依職仰下知撿非違使事。

輕幄并諸國幔事。

大藏。木工。主殿。掃部。

件事。旬案主仰裝束官掌令催具。

御祓具。

御手燎洗。申請藏人所。

御手巾紙。申納殿。

已上出納調具。寅時參之。

陪膳。四位布袴。

藏人所催之。

陰陽師。

役下家司三人。衣冠。

已上政所加催。自未明祇候。裝束使官掌。諸司下部等同祇候。掃除撿非違使日了。

巳日。御祓事。陰陽師進解物。已上次巳亥也。

御。北政所。姫御前。内大臣殿。

已上藏人所侍所催使。政所催召仕丁。赤衣。
　松出納召松也。
三日。御節供事。
　御幷北政所姬御前內大臣殿御菓子事。
　　年預下家司調種々珍菓。盛栗栖野六寸樣
　　器。早旦進上御臺盤所。如正元日。
平等院一切經會事。
御節供。
　殿下御料。朱器。亓日如元日。
件御料。節供家司所課如常歟。但藏人所御隨
身所饗等。近代絕了。尤人被改行之。
北政所御料。栗栖野瓷器。色目同前如元日。
件御節供。北政所家司所課如常。但女房御料
衝重廿前所被調副也。而近代年或勤或不勤。
　事參差也。
　　已上兩方陪膳役送如常。
十三日。藥師寺最勝會御加布施綿八屯事。
　北政所沙汰。氏人時事。
　六兩屯歟。
　件御加布施。自官行事所。兼日催之。年預下
　家司進奉了後。申北政所年預家司之處。任例
　可調進之由。被仰下納殿云々。以紙調裹之間。
　當日年預請取送文。申家司判。以出納爲御
　使。付行事官掌云々。
十四日。春日御神樂事。
　雜事在別。　垂水東御牧相折。
十五日。春日御塔唯識會始事。
　佛供能米三石四斗八升。
　初後二箇度料二石四斗。日別二。
　次三ヶ度料貳石四斗。同廿四日。
　油四升。代米六斗。升別一斗五升。
人供。
　十石。　　　　長吏大僧正御料。
十石。　　　　證誠法印料。

七石。　講師少僧都料。
六十三石。　凡僧講師九口料。各七石。
五十石。　問者十口供料。各五石。
三石。　所司料。
二石。　勾當料。
一石。　預二人料。日別二斗。人別一斗。
六斗。　承仕六口料。
三斗。　花摘二人料。
六斗。　主殿四人料。
三斗。　大炊二人料。
一斗五升。　鐘打童子料。

已上方上御庄年貢内。百五十二石三升。庄家運御塔下。結願十九日下行畢。敢无糠粃。行事下家司歟。如然之沙汰。加撿覆計被定置了。始年濫僧供十石。放生會料一石。自次年被停止了歟。件供米行事下家司成下文分配。家司加判。以美紙結願日十九差布施。

所司寺家所司等。相共令分行之。但佛供御明油了。十四日下行了。藏人所司自次年不參歟。

被物廿二重。之中綾二重。
始年證誠大僧正御料。香染織物掛一重。自次年被用綾被物歟。又問者料單重也。自次年被用被物歟。

布施。
佛布施十二裹。各一疋。
二裹。各廿疋絹裹。　證誠二日御料。始年大僧正御料卅疋歟。
十裹。各一疋。　講師料。
十裹。各五疋。　問者料。
一裹。五疋。　所司料。
一裹。三疋。　勾當料。
預二人各三疋。次年雖令賜之。有沙汰被停歟。樂人祿凡絹三百疋。卷。宇佐太宮司進之。

件被物絹等。募美濃國川椅御庄年貢。左中
弁雖被勤行有沙汰。自次年被付納殿歟。御
庄相折所課。
御誦經布百端。納殿歟。　又諸國召之歟。見布。
案二脚。　修理所。
御誦經文。
行事下家司。書中上﨟藤氏家司判。
小莚二枚。政所。
纐纈幔十六帖。
件幔始年廿帖。自納殿雖請渡。相定所用。被
定置十六帖了。殘四帖返上了。
用幔所々。
樂人座。　役諸大夫座。
僧集會所。　承仕宿。
樂器。
大鼓一面。　鉦鼓。在臺。　鞨鼓。
三鼓。　楷鼓。

始年相摸守雅職調進之。被納寺家了。
饗。
樂所。
初日卅五前。　喜殿。
終日卅五前。　長川。
件饗以生料可下行由。保安元年給政所下文
了。是依舞人申請被裁下歟。
家司以下五ヶ日饗。　手田。
裹飯二百五十裹。　同。
葛秣。　吉田。
件饗裹飯葛秣等。永爲例可勤行之由。被下
知御庄畢。
件會〔[illegible]〕藤氏家司一人。下家司出納參向〔[illegible]〕。所令勤
行之。行事下家司。十三日請調布說被物御讀
經物等。催取案等莚。十四日向之。饗裹飯葛
秣。兼日下知所課御庄々畢。又兼日大僧正御
房。令申定僧名給歟。但藤氏家司裁御所宛之

可被定也等被定載。御誦經布不可用代小莚。次年以後無沙汰歟。御塔年中相折米。四百卅三石七斗二升八合。（手田三百四十三石三斗八升。方上九十石三斗四升。）油三石七斗八合。手田。二季衣服。長絹十三疋六丈。綿十二屯。（已上供僧以下勾當以上料。）布廿八端。（預以下大炊料。）白納殿給之。

件事以末寺童廳寺所出被宛之。

季御讀經事。

御所宛雖定分配。家司近年无沙汰歟。

晦日。仁和寺理趣三昧事。

殿上饗廿前。（二種物。盛深草六寸盤盛形。）

飯盛固大乳垸。（坏別一斗五升歟。）　家司御所課。

件饗用僧前居物。（懸盤。）酒追物幷同菓子湯漬粥。着座之時。無煩分送房々之時。不誤種々物相送之間。爲大事也。

諸大夫饗廿前。（二種物。深草三寸盤。居机。飯盛栗栖野様器也。）下家司職事所司參勤之。諸大夫。諸司官人。蒙小舍人催參役。事畢行事進見參。

寛元四七廿九書之。

右一冊以實敎卿本令書寫數遍加挍合了

慶安元年仲冬下旬

執政所抄下目錄

四月

上酉日梅宮神馬（使六位）　平野祭奉幣（北政所源氏時）

三日京極殿北政所御忌日

八日灌佛布施　安居始

御禊前日松尾賀茂社司進葵桂

中申日御賀茂詣　祭日遣內侍手振裝束

中子日吉田祭神馬（社頭事）

十九日冷泉宮御忌日

撰日次事

御神樂

今月兩社割置米

五月

五日菖蒲　兩方節供

八日離宮祭

□□京極殿御懺法

六月

十五日祇薗神馬御幣 被　天神供

廿七日法興院御八講

廿八日二條殿御忌日

晦御祓

七月

七日節供兩方　乞巧奠

十四日瓮供

十五日盂蘭瓮供

十六日熟瓜會

十九日堀川院御國忌

八月

上丁後朝釋奠胙

四日北野祭神馬

十日法性寺御八講

十五日八幡神馬

十六日駒引分使參入

今月諸寺社寄附

撰日次事

所宛

九月

一日御燈御出

九日節供　法成寺惣社祭

同日東北院御八講

今月季御讀經

十月

亥日進餅　十三日間岌維摩會布施

廿三日進法勝寺大乘會袈裟

十一月

上申日春日神馬　近衞使中將比下重
七日高倉殿忌日
中子日大原野祭神馬
中申日吉田神馬
廿七日々吉神馬社頭事
晦日法成寺御八講
今月東三條殿御神樂

十二月

二日御八講五卷
四日結願
上午日宮咩祭雨方
十九日慈德寺御八講
廿八日冷泉院殿御忌日
勸學院衆徒衣服料事
內豎召使女官節料
晦日追儺
今月荷前　歲末御修法

修正定　日吉大宮冬季大般若

執政所抄

四月

梅宮祭奉幣事。上酉日。
御幣四捧。
紙四帖。　裹布三丈二尺。　仕丁褌布一段。
摺袴布五段。加縮料一段定。　膝突麻布四端。
已上年預。
忌氏紙卅二枚。納殿。裹薦五尺。御庄所。
幣串四捧。修理所。
件幣料。兼日守年預命。於出納致沙汰。調備之如常。
神馬十列御馬。　御厩。　使。六位。
使。乘尻。　陪膳。　藏人所。
陰陽師。　御禊具。　小使。　役下家司。
饗。乘尻十二前御厩舍人　下家司出納。　仕丁一人。

已上政所催行之如常。

平野祭奉幣事。上申日。北政所氏人時事也。

御幣四捧。雜物用途如梅宮幣。年預募御封內勤之歟。

陪膳。布衣。若達歟。　執幣。布衣。六位。

件役奉行人觸催近習人之(マヽ)令勤仕也。

陰陽師。布衣、仕丁二人褌布。年預同募御封給之。

已上政所催具之。

三日。京極殿北政所御忌日事。

御佛經。　布施。　被物。　御誦經。　覆布二丈。

已上納殿。

御誦經案。　切机案。已上修理所。　佛供御明。出納。

御誦經文。　小莚。

僧前一前。下家司。

四種物。深草六寸盤。　居切机。有覆布二丈。

干物。海松。青苔。薑餅。河骨。　生物。荒布。牛房。瓜、蕗。　窪坏物四種。

四種。　飯。深草。尻高。口徑八寸。　追物菓子。　追物。

已上政所。

御時物。上家司。

衡重十二合。　菓樟野樣器。

唐菓子二合。赤。青。　粉餅二合。　木菓子二合。松。栢。栗。柘榴。棗。[illegible]甘子。

干物一合。海松。青苔。煎餅。河骨。　生物。昆布。蕗。牛房。瓜。　窪坏物一合。

飯一合。　四種一合。　箸汁一合。

已上打敷用生白絹。折敷面同之。

件事勾當高俊。去月下旬申定僧名之。上達部殿上人家司職事被參仕之。家司職事奉行之。

八日。御灌佛布施事。

內裏。　院。　太皇大后宮。　皇后宮、中宮。

件御布施爲恒例事請納殿。御藏町裏調之。令能書(マヽ)之關白若攝政二字、御隨身爲御使、赤衣

仕丁持之。盛御硯筥蓋。又近年太皇太后宮職
御使。下家司勤之。參宇治之間。遼遠之故歟。
神社佛寺安居事。
供米七十六石。
春日社。十一石。加運賃一石定。 石淸水。 鴨御祖。
加茂。 感神院。 松尾。 北野。已上各十石。
行願寺。五石。
油貳斗。
春日。 行願寺。以上各一斗。
件安居師。去三月下旬。以去年僧名。先
奉行下家司召沙汰舍人。相尋闕否。有闕
之時。仰本社司召僧名。無闕之時。以舊
僧名被仰下之。卽日放請書。但春日御社
一所。以長者宣被請定歟。四月朔日比。
以長案付僧名。申成下文。承未米イ油納所注所
付。昨日分遣之。近年春日御社一所供米
油等。被分行平田長河庄別米內歟。

御禊前日。松尾賀茂下上社司葵持參事。
葵桂人折櫃。居土高杯。
祿。疋絹納殿。 松尾二人。賀茂下上十餘人。
保安二年以後。今日有御奉幣。九捧。加松尾一捧定。
御禊已後。以三捧有御拜。使五位。
御賀茂詣事。中申日。
御賀茂詣定事。
恒例大事也。
被始神寶。
上達部。殿上人。家司。職事被參仕之。
神寶事。
金銀幣五枚。各二枚。 納平文置口筥二合。在唐錦折立。
一尺御鏡三面。付緖入帷。 納平文置口筥二合。同折立。
野劍三腰。在赤平緖平文。 赤漆御弓三張。
箭十二隻。比木日六。鴨俣六。在鏑。
麻筒一口。在平文簧一口。 線柱一本。在平文瑠璃居玉。
錦蓋三流。在金物三所。 御幣串六本。在平文金物。

御鉾三本。作緋錦比禮鉾。

作物注文。任追支度下行。

金六兩。　銀六兩。

白鑞十二斤八兩。　金薄五拾枚。

銀薄七百枚。　白織物一丈二尺。錦。

青地唐錦一丈五尺。　赤地錦一丈五尺。

紫小綾一丈五尺。錦蓋。

青地小紋綾一丈二尺。御鏡緒料。

赤革三枚。劒三腰料。　鷲羽卄四枚。箭十隻料。

村濃糸三隻。絃卷料。　生糸二兩二分。玉貫箭後料。

鮫皮三枚。　麻一斤。絃。

朱沙十兩。御弓塗料。　上品紙六帖。油單料。

荏油貳升。雨皮料。　細美布二帖。長櫃御[illegible]禮櫃敷布。

四丈絹一切。白青赤黃各一丈。　造花卄四支。檜十二支。欵冬十二支。

神寳用途料納殿沙汰。或見下薄銀直准下之。

又鮫皮荏油。奉行人被沙汰歟。

革。召諸國歟。

漆五升。　御倉町。　大島御庄下。

御倉町沙汰。被成渡下文。

鐵百五十廷。　御劒鉾料。

出雲國召之。奉行下家司申成召下文下知

之。御藏鐵納時被下之。

銅拾五斤。　御鏡三面料。　召採銅所。

篦卄筋。　金漆一升。

已上藏人所被申請之。行事遣消息於納殿

藏人許。

米卅二石。加増物細工食料二石充。

件米年預沙汰。但无物之時。奉行人致沙汰

歟。

追支度。

金物方五百七拾五疋。加元永元年六十一丈充。

百五十疋。錦蓋三流料。　九拾疋。御鉾三納料。

卅六疋。箭十二隻料。　十五匹。御弓三張料。

二疋。線柱一基料。　十二匹。御幣串六本料。

七拾二匹。錦蓋上玉筒三十六枚。如元永元年。
六疋。同蓋額十二料。　六疋。鈴三口直料。
九疋。錦蓋鏡面料。
百卅三疋。色々吹玉五千六百七十六口料。錦蓋三流蓋額。如永元三年四月定。
玉蓋百九十三疋。
十二疋。蓋筥十二料。　卅六疋。錦蓋四角擧卷吹玉直。
卅六疋。同用玉卅六口料。　廿四疋。同四角居玉十二丸料。
十五疋。薜比禮栖繪瑠璃蓋三口料。　二疋。綠居玉十九直。
十八疋。蓋額居玉卅六口。　四十八疋。擧卷頂須イ加利玉廿四丸。
卅疋。朱砂直。　八十五疋。金銀薄直。
卅六疋。丸文六丈直。　十二疋。銅薄糸金等直。
七疋。金銀薄百枚直。各五十枚。
前件雜物等。以之准下。
長櫃二合。
横板四枚。長一丈二尺。弘一尺五寸。　尻板二枚。長八尺五寸。弘二尺二寸。
蓋板二枚。長八尺五寸。弘二尺五寸。　鼇木榑二寸。各一丈一尺。弘五寸。厚三寸。
小豆木八支。長二尺。厚二寸。弘三寸。

大豆木二支。長五尺。弘五寸。厚
箄木六支。大二支。長八尺五寸。弘五寸。厚三寸。小四支。長二尺五寸。弘三寸。
杒二支。長一丈二尺。口徑二寸。
外居二荷。
杠板四枚。長八尺五寸。弘一尺五寸。　尻蓋板四枚。方四尺。
鼇木榑二寸。長八尺五寸。弘五寸。厚二寸。
足榑六寸。長六尺。弘四寸。厚三寸。
杒二支。
已上檜物御庄採進之。餘日下知下文了。於京作調之。
藁苓。
依行事仰。下知撿非違使了。
仕丁。
退紅十領。　襷料六丈。　白布五段。
襖袴十腰。　烏帽子八頭。
行事家司勤之。
冠二。　御倉町請之。

布帶二筋。　菓脛巾二足。
今月召作物所者。始神寶了。次日神寶御幣料。色々雜物注文。行事下家司召副道々支度申上。奉行人隨御請下納殿。材木副長案。成上御下文。下知檜物御庄了。自餘雜事。任例下知之中行之。但金銀無納殿之由。奉行人勒進了。抑近年月內有御定同之。神寶營造無程間。疎荒無双。雖蒙勘責。日數依不幾。陳不美之由。
裝束。
舞人。　三ヶ國所課。
青摺十領。（加赤紐。）　下襲十領。（二藍。加半臂。）
青摺袴十腰。（加下袴。）
有御神樂之時。加召人長料也。
陪從。　三ヶ國所課。
下襲十四領。（青朽葉。加半臂。）
末濃袴十四腰。（加重袴。）

祿。
大褂四重。（弁少納言四位社司料。）
白褂二十八領。（外記史五位社司等料。外記史六位之時。給單衣重歟。）
單重卄六領。（舞人陪從料。）　布百卅段。（上下神人料。下六十人。上卅人。）
絹百疋。（神殿守膳部官掌召使御琴持御隨身腰差料。）
已上褂布絹等。置用殘召之。　定員召之時者。有不足故也。
件裝束祿等。且依先例。且分注大小國々。任御定被宛召之歟。但裝束國一兩。（今缺）命夜必給御教書召請文。殘國之沙汰之後。放御教書。成召下文下知之。臨期行事下家司給祿法請之。
兼日召社見參。
社頭饗。（上御社。）
上達部。殿上人。　內藏。
舞人。陪從。　大膳。
前駈六十前。　穀倉。
官掌。召使。御隨身。　官厨家。

有御神樂之時。下上有衝重。

御前松四千把。所出御庄々召之。在長案。人夫百七十餘人。山城御庄々散所野口御牧下知之。在長案。折松三百餘荷。垂水東西散所富家殿人原仟丨手。

已上例文在政所。任件旨成上御下文下知之。掌燈行事褐冠。請御倉町。行事出納請之。篝鵜飼等相具。付松可參役之由。兼下知眞木島桂贄人等也。

行事。

神寶。　白妙御幣九捧。

知家事。案主出納二人。

御裝束。

殿上。

案主。　出納。

社頭。

下御社。

案主。　出納。

上御社。

案主。　出納。

饗。

案主。　出納。

祿。

案主。　知家事。　出納。

篝。

知家事。　出納。

件行事定後差定了。各廻文進奉之後申上了。但殿內修理掃除事。別沙汰。將又殿上御裝束行事沙汰歟。掃炭弘莚召諸國。小莚下知平田長川兩御庄事。年預若案主中行事歟。例文在政所也。

諸寺社御祈。

平安可令遂行之由。長吏社司等賜御教書。或被召仰之。或賜御幣料。　當時奉行人下知之。

扈從上達部。
遣御使職事若侍歟。或奉行人內々尋聞之。
前三ヶ日被行御祓。下家司一人調備禊具儲候之。
陰陽師催參之。職事一人奉行其事。
當日早旦御祓之後。御出於弘庇。御覽神寶。先敷小莚。其上置長櫃蓋。次第運安神寶。下家司傳之。衣冠。御覽了後。賜舞人陪從祿裝束。家司職事傳給之。執事人賦給插頭華。事了殿下入御。家司職事退出。
午剋上達部。殿上人。地下君達。諸大夫皆參。
未剋出御。
行列次第。
前拂仕丁二人。着冠。布帶。脛巾。藁沓。退紅襷。持白杖。
白妙幣仕丁二人。三捧一人。四捧一人。但近年被加一捧。然者各四捧也。
神寶長櫃二合。
御阿禮横一荷。　御琴持。
已上八人。立烏帽子。退紅襷。凡長也。
神馬二疋。御厩舍人爲鑣。着褐衣。冠。布帶。藁脛巾。藁沓。
出納二人。白帽子。布狩襖。襖袴。張單衣帷。着藁沓。渡南庭之時北上﨟。渡大路之時上﨟渡南。
小使。下家司二人。束帶。白襲。
舞人持鞭。趁南庭。乘御馬。次第愼駕之。
前駈皆悉立進。
次御出。
唐御車。御車副六人。冠。褐。半比。下重。末濃袴。脛巾。布帶。牛飼冠之外同御車副。
前駈騎馬。御隨身乘移馬。
御後人。家司。　撿非違使。衣冠。壺脛巾。
陪從雜色。長着沓。
扈從上達部駕車追從。
下御社御祓所輕幄。幷舞殿御所御裝束事。下﨟家司一人。下家司出納舍人等奉行。以例文沙汰。裝束使官掌催諸司。次第令勤仕之。藏人所々司。催幣取諸大夫。六位相安。着御輕幄之後。

无障上達部皆悉着御。北上東面。供御禊具。御料一前居土高坏。次公卿衝重。御幣神寶神馬等引列畢。
陰陽師着圓座。掃部寮敷之。次土瓶役下家司俊淸。御祓畢。次着御舞殿。件御裝束在指筵北第二間。敷高麗御座一帖。在筵道也。神寶長櫃一合。舁居中樓欄イ廊西側。開長櫃蓋。小使下家司等。執御幣神寶等。次第傳獻。家司職事御幣神寶安中樓欄イ前案。高机歟。舞殿北也。次社司等舁神寶机二脚。立內寶前。四人舁之。此間金銀御幣取出箱中。夾塗串獻上首家司。家司指笏。執件御幣。直參進被進御前畢。御拜之後。社司二人。禰宜一人。社司一人。次 相分東西直參。給御幣。參寶前祝申。此間神寶長櫃一合。布幣箱二合。敷布鼻栗等。任例付神殿守了。更舁寄祿辛櫃。祝師還祝申畢。次第給之。四位之時賜大褂。禰宜以下。五位之時隨見參給褂。神殿守膳部等絹十二疋。神人中布六十段。下家司給之。 次着御樓欄面イ西御所之間。廻御馬了有舞。社司爲例供粉熟神酒等。舞了着御馬場殿。被馳御馬了。

〔頭書〕社司爲例供粉熟事。

上御社祓戸幷舞殿着到殿御裝束。下御社同之。儀式作法如下社。
舞人陪從祿法。官人以上單重。番長六丈絹。
御前祿。少納言弁大褂一領。史外記褂一領。但六位奉仕之時賜單重。官掌召使疋絹。
還御後。御隨身賜腰差。疋絹十六疋。 請納殿所司給之。御共撿非違使有給御馬事。隨時儀歟。
北政所幷姫御前奉幣。指使〔攝失〕之號賦御幣。
仕丁四人。各二人。褌。
姫御前御幣。保安四年以後被立之。
祭日內侍手振卅二人事。
裝束料。
六丈絹卅七疋。青朽葉。青木古。半臂。下重。袴腰料。
四丈布十六段。末濃袴。
件料侍所司兼日請取。染色裁縫之後付政所。

御車副舍人等。任例勤仕之。

吉田祭事。

御幣神馬使雜事。一如梅宮御奉幣。

社頭事。

御裝束。

屏風二帖。 壁代二帖。 絹幔十帖。
疊十二枚。(高麗三、紫九。) 弘筵六枚。
長筵十枚、 樣手洗。
已上藤氏家司。任所宛令催勤之。
茵一枚。(請納殿。)
大盤四脚。(四人二脚、一脚藏人所、一脚黑漆。御隨身所上﨟、)
已上行事出納請運之。

着到殿裝束。四面引絹幔十帖。敷高麗端帖三枚。其上加茵。 立五尺屏風二帖。引壁代二帖。爲上卿座。立四尺大盤一脚。(朱。) 居四種物。(樣器、饗弁外記史氏人) 諸大夫座敷紫端八枚。(在指莚、東上直面。)弁外記史座。(東上北面、) 立八尺臺盤二脚居饗。(二種。深草盤。) 院別當座。(東面。) 紫端一枚。(在指莚。) 立黑漆四尺大盤一脚。居二種物饗。 三獻汁物。五獻追物菓子。其後起座。上卿召手水。

參着祝座。(上卿弁外記史氏人、)

着到殿。氏人。弁。外記。史。近衞。

已上饗。頭下家司四人各守色數調備之。

內藏寮。 諸宮。 長者殿御幣神馬。

已上御幣列立了給祿。

大褂三領。 納殿。

麻布五十二段。 年預沙汰歟。

已上行事出納。諸預之職事所司等分給之。

姬御前御幣四捧。 納殿。

御神祭事。

御殿。御封米。 近來稷並御庄年貢內。

柏。 山內野口兩御庄。

打敷長櫃。 檜物御庄。

菓子魚物精進物。　御庄々。
件雑事。年預下家司。三月中旬。以長案申成政所下文下知之。御庄々爲例進無懈怠。日時勘文所召陰陽師被申上之。
近江。　攝津。　和泉。
此三ヶ國舍人等進鮮物。爲例不懈。
攝津國主殿所舍人等同之。
件主殿所舍人等。以年預下家司下文。給京番頭等。雖有千万雑事。他下家司不能沙汰。仍不分明歟。
十九日。冷泉院宮御忌日事。
在御庄々相折。
寺社割置米事。
方上御庄。
元慶寺五拾石。　横川眞言堂五拾石。
同觀音堂五十石。　極樂寺五拾石。
鹿田御庄。
山階寺長講料二百石。
大原野二季御祭料百石。
件御庄々以年貢内。爲例奉下之。又年預下家司。前分料六十石。〔元カ〕无有未下歟。

五月

五日。菖蒲事。
淀刀禰卅〔廿イ〕駄。　蓬十駄。　根十荷。
大津御厩廿五駄。　蓬五駄。
垂水東牧卅駄。　同西廿駄。
橘御薗卅駄。
散所百十駄。公種方七十駄。兼弘方四十駄。
件菖蒲者。四月下旬以例文。旬案主成上政所御下文下知之。
菖所々。
當時御所。　東三條殿。　棧敷殿。
一條殿。　堺本殿。　御厩。
執事家司。　宣旨殿。

法成寺。　京極殿御堂。
御所幷東三條殿。四日召檜皮葺木寺等。
共請取葺之。於出納詞訥美（[illegible]）。昌蒲者五日
隨召進之。
御節供事。
朱器御節供。
栗栖野樣器御節供。
別御菓子。　年預下家司勤之。
已上色目雜事子細。同三月三日。
八日。宇治離宮祭事。
御幣一捧。
幣紙一帖。　志良紙八枚。　膝突。
裹布八尺。　仕丁褌。
已上納殿。
串一支。修理所。　裹薦一尺。御庄所。
已上出納申請調備之。
神馬一疋。諸社之。

乘尻四人。御隨身等中。當時無障者勤之。若有障者召本府。
御馬四疋。
件事依藏人所仰勤仕歟。
最勝御八講御出事。
前駈。　移御馬。　君達。　小舍人町。
已上藏人所。但小舍人近年被付政所舍人
歟。
御車。檳榔。　御車副六人。　御牛。
已上政所催之。
近年無儀式御出。召褻御車幷牛等。參於御直
廬。有御裝束歟。御衣櫃仕丁政所催之。
京極殿御懺法事。
北御堂。
米十八石三斗一升六合。
一石二斗。粉佛供十六坏分。
一石五升六合。飯佛供八ケ日料。
七升。燈心油坏直。

一斗。閼伽桶杓折敷六枚直。
五石六斗。僧綱二口〔同上〕。各二石八斗。
八石四斗。凡僧五口料。各二石一斗。
一石五升。預三人料。各三斗五升。
四斗二升。承仕三人。各一斗四升。
四斗二升。花取三人料。各一斗四升。
油一斗三升。
續松百廿把。

南御堂。
米十四石五斗二升四合。
二斗六升四合。飯佛供八ヶ日料。
三斗。粉佛供四坏料。
七升。燈心油坏直。
一斗。閼伽桶杓折敷六枚直。
五石六斗。僧綱二口料。各二石八斗。
六石三斗。凡僧三口料。各二石一斗。
一石五升。預三人。各三斗五升。
四斗二升。承仕三人料。各一斗四升。
四斗二升。花取三人。各一斗四升。
油九升五合。
續松百把。
件御懺法事。僧名本自被定。供僧勾當高俊以僧名申行之。於米者當時見納御庄年貢內歟。油相折內歟。於松者。有年多田御庄。各百廿把可召之由被仰下了。寺家沙汰非政所申上事。又近年被行之期不定歟。

六月
十五日。祇薗御幣神馬事。使五位。
御幣一捧。
志互紙十六枚。　納殿。
紙一帖。　裹布一丈。　串一支。　修理所。
裹薦二尺。　御庄所。
已上於出納任例調備之。
乘尻褶袴布四段。　同龓舍人袴布一段。

仕丁褌布一段。　膝突麻布一段。
已上年預所沙汰。
神馬。　御廐如例。
乘尻。小使。陪膳。　藏人所同之。
陰陽師。小使。下家司。　政所同之。
御禊具。　出納同之。
大治元年各一捧在之。
脇御幣。
北政所三捧。　以御封勤仕之歟。
姫御前三捧。　納殿沙汰歟。
已上仕丁政所催之。
同天神供三箇夜事。
能米拾五石。　油壹斗一升七合。
已上成下文。見自イ納所成所付之。
上品紙卅帖。　淨衣一領。　白絹四丈。
承仕淨衣布一段。　檀敷布一段。
名香。　沉。　丁子。　白檀。　薫陸。　龍腦。

已上納殿。
蘇。　蜜。
已上贄殿。
折敷卅九枚。　長櫃一合。
杓桶各二柄。
已上檜物御庄。兼日申成御下文下知之。又
庄家存而造儲之歟。
五穀四斗五升。(各九斗。)
稻。　大豆。　小豆。　大麥。　小麥。
已上政所出納備進之。
件事兼日以例文殊致清淨沙汰。奉行下家司
皆悉催調。十二日書送文。中少輔殿。御文遣
橋下權別當桓勝房。召請文進覽之。但御鏡二
面奉御之時。鑄物師五人召御倉町。各其身禊
齋。古東三條殿北馬場。掃除敷砂。引廻注連。
寺召清淨銅鑄之。令瑑琢イ瑩之淨衣布五段給之。
饗出納等勤之。

御鏡奉御時。家司下家司一人爲御使。祝師在祿。

廿七日。法興院御八講始事。六月時廿八日始。

割置

米百四拾一石五斗。

諸國百一石五斗。近江卅五石。丹波卅一石。播磨卅五石。

納殿四十石。 諸國別進歟。

絹十五疋。 尾張十疋。 美濃五疋。

麻布百卅段。 信濃五十段。 甲斐七十段。

件事任分配。家司職事所司下家司等勤行之。諸國召物不進濟。云有帳尤實歟。請僧以舊僧名。行事下家司申上之時被定。下僧名之時放清書歟。布施供養無其實之上。歎極之比。皆以辭退。申闕請之間。五ヶ日僧不過二三口歟。又袈裟一具。納殿沙汰歟。

廿八日。二條殿御忌日事。

御佛一鋪。 色紙御經一部。

御誦經卅疋。 布施。

被物一重。

已上納殿。

御時物十二合。折敷。 家司。色目同二月十三日也。

僧前一前。在切机。覆布。 下家司。色目同前。

佛供一前。 出納勤之。

案小莚。 四月三日同之。

件事於京極殿御堂被行之。雜事如四月三日例。行事下家司書御誦經文。申家司判付預。布施被物等。任目錄請取納殿。付御堂後戸。所司共令點之。

晦日。御祓事。

御禊身。

八足供物。居茅輪立小幣。供瓜茄子桃。

麻布。 綿。

折敷供物。
茅人形。　解繩。　散米。　居坏。
折敷一枚居之。在栗栖野高坏。
菅祓三所御料。各置折敷居高坏。三所御料同前。
已上旬出納爲例勤仕之。

陪膳。四位。
役家司職事。
已上衣冠。
御隨身立明。冠褐。
件等役人所司催之。
役下家司。衣冠。
出納等。
進菅祓人形所々。
藏人所。　御臺盤所。副別御料。姬御前御臺盤所同之。
侍所。　政所。
御隨身所。　君達。
已上旬出納爲例備進之。

三所御祓事。
藏人所侍所所司勤催之。政所召仕丁。

七月
七日。
早旦。別御菓子。年預下家司調進之如例。
御節供。
朱器。如例。
樣器。同。
已上所課。家司依所宛役所被勤行也。
陪膳役送。藏人所所司沙汰如常。

乞巧奠。
供物。
薄蚫。作偏盛之。　干鯛。引身器高盛之。　瓜。以白瓜飯鉢盛之。一裹。　茄子。作丸盛之。　大豆。同上。　柹。作丸盛之。　桃。作丸盛之。
大角豆。作枝盛之。
已上各二坏。
供物器黑漆。在御倉町。所課下家司請取備

之。
(呉歟)松葉。(札イ)蓮花。(仕丁採進之。)針。
九燈油三升。(旬出納勤之。)
御火取。御鏡。御琴。名香。(長火舍歟。)
件御物自御所下給。行事職事被申請也。所
司請取供之。
南庭敷弘莚二枚。(方一丈。)立机四脚。燈臺九本。(白木燈胡粉。)終夜別油挑燈。及曉更之時蒔粉。(旬出納儲)
之。下家司出納皆悉參。暢綦隨〔隨字恐衍〕有。今夜如
酬醉集也。
十四日。御盆供事。
白米八石。　御封內。
鹽二石。　鹽飽御庄年貢內。
精進物菓子。　御庄々。
長櫃四十合。　檜物。　八兩。
折敷五百枚。　同。
小莚。

件事。年預下家司。六月中旬副長案。申成御
下文分行之。御庄々存例之上。蒙重下知。無
致遲進也。有御拜之時。所司職事衣冠參從。
下家司同之。御拜御裝束。敷清御座。有御出。
其後御前敷小莚。次莚上置長櫃蓋。次第置飯
菜云々。御拜之後昇立。下家司給之。昇立如
元。入調長櫃副從文。(從文家司加判。)使下家司出納參
向〔于歟〕之調備之所。
十五日。法成寺盂蘭盆講事。
諸國召物。
六丈絹細布。(帷料。)
近江十段。　播磨十段。　伊與十段。
讃岐十段。　備前八段。　土左十段。
已上此中八段机覆料。寺家請之。
上品弘紙。
備中三百帖。　丹波三百帖。
但馬三百帖。　備後二百帖。

件布紙彼國之例進也。國徵下郡鄉所濟。且千(毎イ)
手(年イ)六月下旬之比。行事下家司。以例文申成召
下文下知之。近代仰給御教書歟。催納之間。
七八日之比。於布者行事所司請取裁而(之歟)。次小
舍人等令諸大夫縫(マヽ)健之。當日早旦。令催進御
寺行事所。於紙者。當日以僧名所司催諸司官
人等。令調積之。行事下家司出納分行之。藏
人所雜仕女。預納平裹帷等也。
山內御庄。折敷百枚。
八丈絹。　納殿。次所司請文。
自昨日行事職事所司參勤裝束事。
殿下參御之。(御車檳榔。)上達部以下。家司職事皆參
之。
十六日。天台熟瓜會事。
瓜。
佐保殿卅五駄。　宿院卅五駄。
平田卅五駄。　吉田廿駄。

件事。六月下旬。式日七月十五日可進上之由
雖下知。寄事於質田牢籠并權門寄人對捍。進
三分二之間。依不滿百駄。山所等請取不申行
之。因之行事出納徒於送文。數日經廻叡岳。五
包漬損不能會用之。憶滿本數可被糺行事歟。
十九日。堀川院御忌日料。
御經一部。　被物一重。　布施二裹。(佛布施、導師料。)
已上納殿。
御佛供一前。　政所出納勤之。
件事秉燭參御尊勝寺。有御供養。下家司一人
參。祿納殿。
八月
上丁日。後朝釋奠聽明持參事。(此間有脫文)
四日。北野御幣神馬十列事。(恐衍)如常。
件御幣一捧。如祇薗御之會日。五日可有御奉
幣歟。登日被行之間。巫覡牛飼等各乘[illegible]馬。
偲言語罷猥候。無差別故歟。有祇薗例也。且

舊例云々。近代四日被奉幣。
十日。法性寺御八講被始行事。
饗。
初日料米十一石。　十一石日饗九石。
十二日十一石。　十三石日饗九石。
十四日十一石。
已上土左國御封米所被割置也。預出納
任所付下行之。下家司等勤之。
佛供。僧供。
以例文行事下家司成上御下文。申分配
家司判。觸年預下家司。成所付分行之。
鋪設裝束。　家司所課。
弘莚三枚。　長莚五枚。
疊十四帖。高麗三帖。紫十一帖。
絹幔十帖。　手洗。
任去年御所宛。令催勤分配家司也。
菓子精進物。

平田。宿院。佐保殿。
已上各瓜廿駄。菓子五十合。請進物五十
合。
吉田瓜十五駄。菓子卅合。精進物卅合。
出納一人撿納寺家政所。五ケ日間宛下請
僧。所司等下了。饗追物菓子。兼日以例文。
行事下家司成政所御下文下知之。
請僧事。
行事下家司。以去年僧名申上之間。被定下
僧名。仍成上請書。申御判分行之。兼日沙
汰者。
布施。
一疋。佛布施。　六疋。各三疋絹裹。僧綱三日料。　三疋。絹裹。別
當座主料。　八疋。凡僧八口。各一疋。　裹絹四
疋。行事三綱｜。
紙九枚。一疋別一枚。
件布施。十三日行事出納請取于納殿。十四日

早且參御寺。所司分行歟。
十五日。石淸水神馬事。使五位。
御幣一捧。　色目如祇薗北乃御幣。
雜事如常。
移同春日御馬也。
北政所姫御前同之。
十六日。駒牽分使參。
祿大褂一領。　凡絹一疋。馬料。
藏人所々司請給納殿。
御所宛事。
炊料乃米八石。　御封內。
魚具菓子。御庄々依例調進之。七月下旬申成
政所御下文下知之。年預下家司以長案內申
上旬。
行之。和泉攝津近江國之舍人主殿所等。宛魚
具召之。爲例無令懈怠。年預下家司成下文。
召仰番頭等不令懈之。
諸寺社寄封事。

春日御社十煙。　尾張五煙。　播磨五煙。
石淸水十煙。　安藝五煙。　阿波五煙。
祇薗十煙。　尾張五煙。　美作五煙。
賀茂下十煙。　尾張五煙。　讚岐五煙。
同上御社十煙。　尾張五煙。　備前五煙。
松尾十煙。　尾張五煙。
北野十煙。　備後五煙。（[illegible]）　阿波五煙。
八幡寶塔三昧院。　伊豫百々。
鹿島。鹿取。
件御封等爲例所被寄進也。又社寺司等存而
加催。隨弁濟也。月日雖不定。御所宛以後。成
除催牒歟。
家司下家司間牒事。
天永二年撰吉月。令成上之後。相次下家司
不令成上歟。隨又無沙汰歟。
殿下不異內裏之儀。有例之事尙可被行歟。

九月

一日。御燈御祓事。

御出雜事。

河原御祓諸司幄掃除雜事。

已上三月一日同之。

九日。御節供。

別菓子。　年預下家司勤之如常。

御節供。

北政所御節句。

已上家司御所課如常。

今日法成寺惣社祭。下家司二人衣冠。爲舞。凡(歟イ)參

勤了。

在饗。

季御讀經事。

近年無沙汰。

東北院御八講。

雜事院家沙汰歟。舊年家司爲御所宛役參勤

之。

十月。

亥子御餅事。每亥日勤仕之。料物別三石。

度別六外居。寸法一尺。深八寸。

餅二外居。寸法方弘一寸。水永丸長。

栗二外居。同。柹一外居。

已上外居。加之上品紙八枚。二枚重盛之。

御強飯一合。例折櫃。

五種。

胡麻。　大角豆。　大豆。　小豆。　栗。

深草小春日坏。立紙盛之。居例折櫃。

件事秉燭所課下家司調進。御臺盤所料米。反

別三石。年預申成下文。副廻文取。所課下家

司。奉(傍書)申執行家司了。所課下家司　憂大酌別

歟。優止濫維女。致清淨勤之。

維摩會布施事。

絹十疋。　筑紫絹卷。

綿卅屯。六兩屯。
手作布十段。白紫通用之。舊案見麻布。
已上納殿。若又募別進召諸國歟。近年隨納
殿申狀有沙汰歟。
辛櫃一合。在兩面覆鏁鎰。
申成料物下文。年預下家司勤之。例文在十二
口。下家司一人。出納一人。爲御使參向之。古
川御庄給食。蒔泉木津設酒肴。是爲例也。上
﨟家司被付封之。
廿三日。法勝寺大乘會袈裟一具調進事。
大文薄物。可有緒。　納殿調之。
入御硯蓋。令持赤衣仕丁。下家司一人布衣。爲
御使。令付行事盛俊了。

十一月

春日御祭御幣神馬事。上未日被立之。使五位。
御使小使御禊具陰陽師役下家司饗事。政所如前。
使。　陪膳。　乘尻。　藏人所。同。
神馬。　御厩。同。
　已上藏人所仰勤行之。
近衛使舞人半臂下襲。如春二月例。
職事一人。衣冠。　出納仕丁。如例。
梅宮祭御幣。　神馬雜事。如四月例。使酉日被立之。
七日。高倉殿御忌日事。
等身阿彌陀三尊一鋪。越前。勅使。
法花經七部。
　色紙一部。　素紙四部。　已上海野禍類。
　索紙二部。　苗木遠山。
佛供卅二坏。　岩田。
作花御明油。　近江勅旨。
檀敷上品絹四丈。　御誦經絹廿疋。
布施。
　佛布施絹五疋。　濱使。
　導師卅疋。　讃衆六口。各十疋。　已上田仲。
　被物一重。　仲村。

上品紙三帖。　大幡。
供養米。
導師三石。　讃衆六口。（各一口。）　垂水西。（改近江勅旨。）
阿彌陀護摩七ヶ日料。十二石一斗。
壇供。八石四斗。　人供。三石七斗。
　已上垂水東。　改同西。
同油一斗五合。　近江勅旨。（改倍蓮。遠イ）
浄衣一領。　壇敷等布四段。（已上永岡。）
蘇。　蜜。　　贄殿。
沉。白檀。丁子。薫陸。龍腦。　納殿。
御誦經案一脚。　壇一面。　燈臺四本。
脇机二脚。　禮版一脚。（在半帖。）　桶四口。
杓二柄。（大小。）　長櫃一合。　折敷三枚。
閼伽桶一口。
　已上檜物御庄。
件事去十月下旬。任例可調進之由。如例文放
廻文。隨御庄々。六日相送政所。行事下家司
出納等。守色日請取。中成護摩下文。七日早
旦參向彼實相院勤行之。但案小莚事年預沙
汰歟。
大原野祭事。（中子。使仲親。）
御幣神馬使雜事。（如春二月例。）
社頭饗祿裝束。（同前。）
　件御社祭社頭事。近年中宮職被行之。雜事
　如春二月例。
吉田祭事。（使知範。）
御幣神馬使雜事。（如四月例。）
社頭裝束鋪設饗祿。如四月例。饗料米納殿沙
汰。別進内宛行之歟。年預下家司。家司成下
文。分行所課下家司。於神供物五石下文被付
社歟。
廿七日。日吉御奉幣馬事。（使。）
御幣五捧。
　幣五帖。　裹細布四丈。

膝突麻布五段。
　已上年預下家司勤之。
串五支。修理所。　志互上品紙四十枚。納殿。
褁薦七尺。御座所請之。
件御幣於出納請褁之。
摺袴布四段。加褁二進。　神馬欀舍人請布一段。
褌布一段。二人料。　粉米一斗。給御廐歟。
已上年預下家司勤之。　摺袴布御廐請取摺
摸。進藏人所歟。
使陪膳。藏人所。
乘尻十人。同。
御禊具。陰陽師。小使。役下家司。仕丁。政所如例。
社頭事。
　使乘尻饗十二前。長曾禰。
　御廐舍人屯食十具。檜物御庄。
　葛秣。穴太柵ヰイ束千把。勅旨廿束五百把。
件事被定後。毎年可爲恒例勤之由。下知御庄

庄了。然而令奉行下家司。申成政所御下文令
催之。下家司一人。出納一人參勤之。但乘尻
鋪設无勤處歟。
東三條殿御神樂事。
　御幣二捧。差使。
　　上品紙二帖。　志互紙十六枚。
　　　已上納殿。
　串二支。修理所。
　膝突布二段。年預沙汰歟。〔六字小書歟〕　納殿又有勤歟。
　　件御幣松出納請之調進也。
　召人。移馬六疋。御廐。
　陪從。乘尻六人。御隨身又本府召人次官歟。
　　藏人所定文之後催。
衡重。
　召人廿前。　陪從廿前。
　　下家司任分配勤之。
禄。

褂十二領。　凡絹十二疋。
行事所司請納殿分行之。
件事定之後。家司職事以去年分配行之。但有
御出之時。家司調備上達部殿上人御料。(斎有事也。)
御出御裝束。西藏人所。北上西面。有莚。供
御座。立四尺四條御屏風。殿下北上南面。北
(講イ)西少壁等取除。御隨身立明之。家司職事皆
參。雜役諸大夫。諸司官人。行事所司催之。
法成寺修正精進物菓子下文中家司判下知事。
件下文狀云。來十二月中。可進上御寺行事所
者。行事下家司沙汰。
同御八講佛供乃米三石五斗。(五ケ日料。年預下家司中成下文。下知出納等。)
十一月晦日。　初日。
殿上饗卄前。(料米十八石。知家事。)
黒柿机。栗栖野三寸樣器。二種物。(松。柏。青苔。昆布。瓜。梨子。菜。)
諸大夫饗卄前。(料米八石。案主。)
白木机。(深草三寸盤。二種物。)

十二月
三日。法成寺御八講五卷。
殿上饗卄前。　知家事。
諸大夫卄前。　案主。
四日。同御八講結願。
殿上饗卄前。　知家事。
諸大夫卄前。　案主。
件御八講。兼日被定申僧名。但竪義請別被
仰下歟。每日殿下參御。上達部殿上人家司
職事皆參。行事所司每日進見參。又二日有
御誦經。布百段。行事下家司以舊例文召諸
國。有御誦經文。中上臈家司判。
案。(修理所。)　小莚。(年預。)
同催之。　仕丁同之。
宮咩貢事。(料米三石。上午日。)

供物。　下家司所課。
男女形。　自御臺盤所下給。
織料。　納殿。
已上如正月色目。
八節竹。
硯一果。
斗。
已上旬出納進之。
件事家令着衣冠。以祭文祝申如常。
荷前事。
四丈絹。　細布四丈。　糸一句。
綿一屯。　鴨頭草移花十枚。
虹花少々。　紙一帖十枚。　苧少々。
墨二廷。　筆二管。　蘇芳少々。
已上納殿。
小刀二柄。御倉町。
匣二口。　案二脚。

串二支。
已上修理所。
小莚二枚。　續松廿把。
已上政所。
使。四位束帶。　藏人所。五位勤。
小使。下家司。　衣冠。
件事有御拜之時。有御裝束。敷弘莚。供御座
一帖。衣冠下家司二人。舁案二脚。二度。十立二段。
[置イ]並御座南之後。案一脚各寄立。捧之間。有御
出。御拜了使參仕給之。傳小使下家司。被給
仕丁了。參向木幡淨妙寺。使拜山陵石歟。山
[守イ]寺等令燒云々。
政所厨女請取件雜物。爲例裹調之。
歲末御修法事。
阿闍梨。僧綱　伴僧四口。
米廿二石六斗四升。　油一斗五合。
已上年預沙汰。成下文。

淨衣五領。　布六段二丈。
大幕一帖。　閼伽桶一口。
杓。
件御修法伴僧八口六日也。然而近年減之歟。
僧房裝束。　藏人所。
蘇。　蜜。　贊殿。
沉。　丁子。　白檀。　薰陸。　龍腦。
已上納殿。
件事兼日當時奉行人問陰陽師。召勘文被申事由。遣阿闍梨請書。近年於宿房被行之間。僧房裝束雖不催入。北政所姬御前依被修之。數國可用意之由。被召仰所司了。然而一國許給用途歟。
北政所。年預勤仕之。
姬御前。（米油御祈所沙汰。淨衣檀敷布等納殿。）
三方中。殿下。北政所。是年預沙汰。
姬御前一所。御祈人偏所勤行也。

修正定事。
行事家司職事被定申畢。又行事下家司。成上油折敷鐵等召下文分行了。

日吉大宮冬季大般若御讀經事。
米。油。　大津御厩。　色目如春正月。
請僧。
被問日時之後。僧名召靑蓮阿闍梨。被下政所之時。御祈下家司申請書判。以小舍人等付被房了。或遣舍人於山進之。
布施。（如春正月色目。）　納殿。
第六日遣御社。召成房請文。

慈德寺御八講事。
件御八講自十九日被始也。請僧十六口。以舊僧名十日比申上之間。定僧名被下之時。何案主〔各缺〕成上請書。申御判放遣之。但月迫之比。請僧名以辭退歟。頻關請之。布施絹卅六疋。（十疋誦經）

料。廿六疋塔下布施料。納殿行事出納請之。
　家司下家司出納等參勤之。
廿八日。冷泉院殿御忌日事。
色紙摺經一部。笏賀。
　素紙經五部。
　　二部。　波多野。　二部。　栗倉。
　　一部。　元舍人歟。
被物一重。保田。
布施絹四十四疋。田口。
　御經供養廿六|。アイ　　護摩十八疋。
〔[illegible]〕雝摩。
乃米十石二斗七升二合。五石。五石二斗七升二合。
　餉御薗。
油一斗五合。　芙田。
淨衣絹一疋二丈。　福井。
布四段。　二崎。
　件雜事者爲被御庄役。期日以前。可進上彼殿之御堂之由被仰下畢。隨寺家請取。勾當
　高俊致沙汰歟。
勸學院學生衣服絹卅二疋。　納殿。
同院燒〔尾〕米五石。　年預成下文給之。
雉。　鯉。　菓子。　贄殿。
已上。彼院雜色晦夕參申請也。
內裏召使女官節料米四十三石。七月給歟。
上召使五石。　北陣吉上三石。
主殿女官七石五斗。　掃部女官六石。
內侍所女官三石五斗。　御匣殿三石。
東豎一石。五位申可增之由了。　藥女官二石。
御手水女官三石。　長女御厠人五石。
書司女官一石。
上下御厨子所女官五石。
進物所刀自六斗。
　件事近代絕了歟。隨又女官等不參之歟。七
　月十二月給之云々。

追儺事。
六位職事奉行之。
儺木。　何出納調進之。
振鼓。　御倉町進之。

宮咩奠祭文。
維天治二年歳次乙巳。月々吉日乃良辰ニ金銀乃花開留時。掛毛畏（かしこき）高御魂命。大宮津彦。大宮津姫。大御膳津命。大御膳津姫。五柱乃皇大神乃廣前ニ中立申乃笠間乃大刀自爾申給久前太政大臣從一位藤原朝臣恐畏毛申給久。年乃中爾月遠擇比。月乃中ニ日を擇ヒ。日乃中爾時を擇弖獻給布獻物ハ。御飯御酒綿布津之志與呂比仁。御酒ハ瓶（ミカ）乃邊ヘ高知（シリ）。瓶乃腹滿知雙ナラヒ。山野の物ハ甘菜辛菜。青海の原の物ハ鰭の廣物。鰭物ハ奥（オク）津海藻。邊津海藻仁至天。雜々物を如橫山に置高成天。御服會（ハ後書）衣蓋等を備儲弖進留事を。平久聞食給倍。皇の朝廷仁令奉仕牟事ハ。御飯於於幾良（ラカニ）餅乃持弘女給比。清酒の速に。堅魚の堅仁良加惠ミ慈給比。鯛乃平久。鱸（コノシロノ）魚乃好仁好美。鯔（ナヨシノ）吉名を授給比。鱺乃加支寄て。堅魚乃加知仁加知。鮑乃加太與利仁。鱺乃加木登利給比。鰐乃彌益々に。高榮の高位を授給比。大根乃大奈留幸を授給比。和布の仁支良加仁。蕪乃奈津々々志支。土器乃加和羅加仁。高坏乃彌高々爾。橘乃立榮給比。宮進女に進給比。宮や忿キ仁忿キ給比。常盤堅盤仁伊や高仁伊や廣に。夜乃守日乃守に守令幸女給倍と申。
言別弖申久。大和哥讀申佐牟。
百國乃美乃々白綿安具太都支。但後乃句ハ正一位仁上給良牟時に讀申牟止。

清實朝臣記
寛治七年七月四日壬申。初有此御祭。殿下着御衣冠。御其座。是依被始御祭也。又大盤所

御料。此日同所被始行也。一所料高坏物五前。衝重物一前。衣笠二具。比々奈七人。男形三人。女形三人。召一人。如此之物等所相具也。比々奈七人。於大盤所被調。於衣笠二具。政所雑仕女所調進也。

永久四年十二月十一日丙午。有此儀。無御出於三條殿。於東面妻戸北。先政所立物具。次置硯并斗於簀子上。次予參上讀祭文。畢退出。

次恪勤者取出物具了。

次北政所御料居之。予所讀祭文了。着衣冠勤之。

寛元四八三書之。

右一冊以實敎卿本合書寫數遍加校合了

慶安元年仲冬下旬

御厨子所預　、紀宗直書之

右執政所抄上下二卷借得御厨子所預宗直朝臣書寫之

明和五年九月下旬

内膳奉膳高橋等庭

右以奉膳等庭本謄寫畢

寛政元年閏六月　山城藤原以文

〔以宮内省圖書寮本加一校畢〕

續群書類從卷第二百五十八

公事部十

中山內府元日節會次第

山槐記

仁平二年壬申正月一日丁酉。天陰。時々雨降。節會有出御。內弁右府拜。依雨於殿上廊砌內擬宜陽殿。有此事。

應保二年正月二日己巳。天晴。申剋着闕腋參內。瀧口平季久藤遠經在共。昨日依蝕無節會。仍今日可被行之故也。小朝拜了入御。主上不脫御々裝束。御朝餉。藏人右少弁仰內弁於中宮大夫。雅通。被申咳病無術之由。實非咳病。今日爲欠日。依爲初度聊被申此體。重仰奉仕之。被着陣之後。良久不被奏外任奏。以宰相中將實國朝臣召予。參朝餉。仰云。節會了也。予奏云。只今欲奏外任奏之間也。仰云。御南殿之後如何。予奏云。於御後御覽恒例也。仍有出御。右中將實宗朝臣付劍內侍。予供御草鞋。關白先候御裾給。予付璽內侍。女房相副扈從。殿上人藏人等扶持。次予出南殿。仰陣可引之由。長方奏外任奏。行隆供御靴。予令內侍令置劍璽於東机。藏人置式筥於西机。次出御。左中將兼雅朝臣稱警蹕。居胡床。次內弁着兀子。予出。內侍內弁謝座。次第如恒。御酒勅使參議隆季卿。宣命使宰相中將

實國朝臣。供膳事。藏人弁奉行事（畢）。還御後退出。
同三年（長寬元。）正月一日（壬辰。）小朝拜了。群臣退。主上入御。次撤御裝束。供晝御座。即出御。予付劍内侍。頭弁供御草鞋。長押下不滿莚道。主上被尋仰。頭弁召藏人仰之。良久不持參。仍出御了。右中將家通朝臣付劍内侍。關白殿先是令進給。而只今參會。仍頭弁候御裾。於南殿御後。殿下令取御裾給。予敎内侍。　置御劍於西置物御机。（栖北及西。公卿座在西之故。）次予仰陣可引之由。頭弁藏人大進供御靴。次頭弁進出云。陣已引了歟。可出御也。予答云。外任奏未奏如何。頭弁奏其旨。遂電向陣。即於御後奏之。次着御々倚子。（自東方令着給。先々時自西令着給。是若依爲西禮歟。）次内弁着兀子。予付内侍。次第如恒。別當着端床子。宰相中將欲着。仍別當移着奥座。是末座之人着端可催事之故也。御膳事。藏人大進重方奉行之。國栖立樂事。右府令宰相中將被傳仰。相公下殿催之。御酒勅使四條仰之。右府着陣。取宣命見參目錄。參進奏之。内侍傳奏之間。取落宣命返給。右府復座。召宰相中將給宣命。實者無之。仍給非參議見參。此事令申合大納言殿給歟。次召大宮宰相給目錄。後聞。相公曰。是何物哉。大納言殿令目給。相公下殿了。今日宰相不着祿所。仍不給。而大二條殿爲内弁。召經信卿給之。其時經信申。是何物哉云云。事了主上還御本殿。亥終剋退出。
長寬二年正月一日（丁亥。）朝間晴。午後陰。亥剋許小雨。小朝拜了改御裝束。次藏人皇后宮權大進重方。參進鬼間障子邊。内弁事。伺天氣出陣。奉仰大納言殿。次出御南殿。予付劍内侍。頭弁供御草鞋。關白殿令候御裾給。右中將家通朝臣付璽内侍。雲客候脂燭。女藏人扈從如恒。次内弁召予。被奏外任奏。内弁被奏云、諸司ノ奏候フ。

予於御後奏之歸出。返奏外任奏令結給。予仰云。列ニ。又仰云。諸司奏內侍所爾。次御帳中。令右將曹清經告申內弁。此殿隔立蔀之故也。次內弁令着宜陽殿代兀子給。予書內侍次第如恒。每事內弁下殿令催行給。但一二獻等被傳參議。立樂時令予奏兩儀給。予自御帳後奏之。敕許之後。歸出於軒廊。奏仰聞召由了。內弁以右將曹清經。召裝束司弁右中弁朝方朝臣也。（左中弁親範仰侍間無人加着之由舊年永業宿禰付藏人大進重方奏聞被仰了云々）申不候之由召史。右少史盛職參上。被仰可召裝束使之由。永業宿禰自陣方參上警居。立內弁前。被仰云。兩儀。永業稱退歸。次外記被催樂。西中門北十間有舞樂。了入御。抑御酒敕使隆季卿。宣命使實國卿也。

後日大納言被仰事等。

宜陽殿兀子事。

與柱平頭立之。兩儀如此。晴儀引出壇上立之。今夜平頭立之。召大夫史永業問之。申云。先々如此也。晴雨有差別歟。天喜六年。土御門右府令出立如何。永業其后無申事。令出立了。

押笏紙事。

於敷政門內令押之。然而資房卿記云。押笏紙之間。若職事有來仰者。不持笏奉敕命。似無便。於眼前令押之爲善。仍今夜於宜仁門代外令押之。而外記不跪。雖納言於敷政門內者所跪也。大外記師元仰可跪之由。然而遂不跪。

不問蚫羹供哉否之由事。

內弁問供膳次第於采女。然而蚫羹其名不宜尋問。仍三節ハ供了歟之由問也。羹蚫之後。給件御酒之後。押籠問之。是說也。

召參議事。

御酒敕使之時召之。參議藤原朝臣ホ召者。字多。故宇治左大臣被命。予雖問其說不被

答。先達其音不分明。藤原朝臣許令聞也。其時相構欲聞其詞。秘之不令聞之。只マテ字聞之。又相尋大相國。伊通。此說未明。先達不令聞其音也云々。

寬平法皇令問昭宣公御云。參議ヲバ何ト讀哉。公令答申云。マツリゴトマウチギミト申也ト云々。又北山抄書旨如此。仍今夜付此說召了。源大納言云。已令事切給ツナト所示也。

奏宣命見參事。

此殿儀西禮。於御屛風南妻付內侍。左廻柱下右廻立。不直下襲尻。返給之時。更參進右廻退下。如外記門出立。而此時不知褫也。仍不引直返給之時。以右手取加書幷杖。以文左手取之。杖右手取之。杖加上。頗差チガヘテ持之。出庇之後。杖與文間引放持之。至于庇。頗存懈怠之儀也。故宇治左府被示旨如此。或說文幷杖右手持之。左手取杖中。此儀無理。杖文奏之時儀也云々。然多有存此儀之人歟。

謝座拜事。

夜晝老若相替。夜時向東此殿西禮之故也。拜之。不刷衣裳。刷平緒之間。晴之時似度々揖之故也。晝時若人差優平緒之時。頗向長此ノ殿也。拜之。其後刷衣裳之後揖也。老者立定後無小揖也。

已上被談仰旨如此。爲備忘粗注之。不可

長寬三年正月一日辛亥。天晴。午剋着束帶巡方、魚袋、飾劍。參旨猶見拜禮部。參院。見拜禮部。次參內。小朝拜了。見後部。次右府以下公光。定房。顯長。忠家。資長着之。右府被着移外座之後。實房。予着之。着陣。次頭弁親範。進出仰內弁。次右府被着端座。次召官人令敷軾。卽被仰可召外記之由。官人清經頭也。帶弓箭。敷軾之後更退居。稱唯退出。召外記。大外記師元朝臣參進。被問諸司具否幷奏外任奏候哉之

由。申候之由。內弁被示可持參之由。師元稱唯退出持參之。內弁不被開之。或次第云。必開之云々。可尋。師元退歸。次令官人召頭弁。頭弁參進。被奏外任奏。又被奏曰。諸司奏可付內侍所之由。頭弁奏之。又返下。右府披懸紙。二倍押折置筥內被結。頭弁仰詞。云々如恒。內弁奏整之。返入筥之後。頭弁仰諸司奏可付內侍所之由。聞食ッ御退歸。次召外記。師元朝臣參進下之。次右府被示左衛門督曰。今者可被着外弁歟者。仍金吾以下着外弁。次第如恒。少納言資隆召外弁。諸卿列立。大路一列。可為異位重行。可謝座謝酒了。着堂上座。公光。定房。顯長。俊通。光忠。隆季。宗家。資長。三位中將昇階上。依無座退出。予退出云々。抑左大弁示予曰。大弁為上﨟之時。物居了申上之。隨內弁命下殿催事。猶可為下﨟參議之役歟。予答曰。雖為上﨟大弁。必着端座催事申上歟。大丞曰。此事先日申承大納言殿。被仰云。於雜事者。雖非大弁。可為下﨟參議之役歟者。予然者勿論。但件事未尋申大納言殿者。大丞猶成欝結。於陣後尋申右府。歸來曰。猶大弁下殿可催也者。如予案。可尋申大納言殿。不申也。後聞。餛飩大丞下殿催之。奉內弁仰稱唯云々。此事如何可尋。飯汁事。欲起座。內弁思失。只乍座可仰之由被示云々。國栖內弁下殿催之。御酒勅使光忠卿。宣命使宗家卿云々。彼卿談云。進立內弁後之時。又給宣命之後共不揖。是前內府命也。無程故也。此事有說々。或兩度揖。先日奉尋大納言殿。御答云。故中院右府被教訓云。進立時不揖。給宣命揖者。於予者可用此儀也。

仁安三年正月一日甲子。雨降。秉燭之程參內。攝政出殿上。予祗候。頭弁申云。大臣皆不被參。大納言又不可參歟。內弁事可何樣哉。仰云。中納言有例歟。早可仰遣別當隆季。之許。此間別當參入候殿上。殿下內々令仰此旨。別當右衛門督。實國。

予。藤宰相。成頼。内弁。即着端座。六角宰相。家通。右大弁實綱。着陣。頭弁信範。仰内弁於別當。別當着端令敷膝突。官人近衛也。不帯弓箭。別當召外記被仰云。番長以上節會帶弓箭可候也。官人之體甚別様也。是外記懈怠也。早可遣召也者。召外記問諸司。又召外任奏。此間事六位皆所役也。外任奏付頭中將實家被奏。中將持笏未曾有事也。若被思渡歟返給。内弁結申了。諸司奏可付内侍所云云。又節會裝束可改雨儀之由被仰歟。此事不審。臨期雨降之時仰之。自今朝雨降。裝束司定存知歟可尋。内弁召外記被下之。外記師尚六位參上被下之。内弁示之令結也。出御間引陣。右衛門督。藤相公。右大弁着外弁。予爲見内弁作法。立入便所。六角宰相又不着外弁。内弁起座。於宣仁門外。召外記令押笏紙。別當不相具笏紙。仰外記令書之。不給次第可令書之由。示大外記頼業云々。後日別當云。令書外記神妙之儀之由所存也。是不存知之由也。此事猶可尋。或人云。初度興。請先達云々。外記持參續飯。跪内弁前押之。次出陣後着靴。於陣後着靴之時。可令押笏紙也。又不着靴欲入宣仁門。忽覺悟於陣後着之。着宜陽殿兀子。外弁昇堂上之時。予自軒廊邊密々參進著座。端座。内弁。金吾。予。藤宰相。右大弁。奥座。六角宰相。内膳自南階欲供。予時雨止。内弁示之。自西階令供之。座下掌燈消。内弁尋御殿職事候哉之由。令催掌燈。此間中御門中納言宗家。參上。以内竪申内弁。内弁起座磬折。申云。其詞權中納言――未聞。是間依有勞事。不候列之由歟。但不居物以前。内竪不可昇殿歟。猶自御後付職事可奏歟。難云。又可有御用意昆屯。内弁下階。副南。立壇上階前也。催之還昇。居了内弁伺天氣下箸。又下殿催飯汁。一獻。仰大弁令催之。右大弁被起座。内弁示之。令候座催之。内弁下殿。着巽壇上兀子。催國栖。此間主上入御。諸卿拔箸取笏磬折。中御門中納言稱警蹕。此事猶可尋事也。二獻。大弁催之。御酒勅使藤相公也。内弁先相傳問兼國。人々不覺悟。予問彼人。稱越後權守。内弁召之。其詞不聞。召遣授事猶可尋。又無帶劔人之時上鞘猶可勸宣命使歟。但相公兼内内可被仰宣命使由觸内弁云々。相公拔箸起座前。稱唯

揖。右兩說。參進奉仰立壇上可尋。外記稱唯。大音。內弁被催三獻。予此間退出。不見後事。宣命使六角宰相云々後日示云。載位殊引入置之。仍而柱與平頭宣命使敢。予答云。弁敢立例。大外記賴業云。中納言內弁久範。又有兩說也云々。可勘兼經也。其後不見。

嘉應二季正月一日壬子。天晴。未剋參攝政亭。引奉參院。今案。以上拜皇賞者有別。參內。被議小朝拜有無事。被止。今案。其事猶見後中。此間供御藥。早旦事及夜陰。太不便。今案無儀。仍不及別部歟。內府着陣。被奉內弁。於陣後自帖紙取出笏紙。宛笏賜隨身。官人取之。以續紙飯押之返上。節會大概如恒。外任奏之後。內弁示左大將曰。今ハ外弁ニ。左大將出外弁。出敷政門。弁以下立床子座前。大將相對揖被過之。以下皆揖。右兵衛督。予不揖。第一人之外不可揖之由。有太相國仰。左大將至于烏曹司南口砌下。示大宮大納言曰。只於此邊可着靴。大納言承諾。人々於此所着之。經弁床子北。昇假橋。着兀子。召外記。少外記佐元參上昇橋。大將示之。令立壇下。大將問云。大舍人ハ候哉。外記申候由。即欲稱唯。大將止之。又問云。侍從列ハ候ヤ。外記申云。候。大將曰。國栖ハ候ヤ。外記申云。候。大將曰。令候ヨ。外記唯退出。少納言參進之後。大將以下進左兵衛陣南頭之間。西折所無揖。予獨揖之。供膳間采女入額間。內弁示之。令入西間母屋。同令入西間。餛飩御箸下之後入御。內侍取劍璽之後。人々居之。入御後警蹕。內弁顧面勸左大將。雖有警蹕之音。兩人之間不聞分。此事左大將先日被語六角宰相云々。彼相公云。行幸之時者。左大將可稱警蹕。不可依舊失第。上﨟可稱蹕者。內府者右大將也。是屯之時。傳左大弁被催之。大弁下殿催之。一獻之時。乍座可催之由。內弁示之。三獻之後。內弁下殿催立樂。着陣後。見々參目錄。此間左大將示左衛

門督拜予曰。内弁被見々參了間。樂了者。樂拜事。内弁雖不被示可降立歟。不蒙内弁命。爲之如何。金吾并予不答。左右兩三度被示此旨。將軍覺悟。今夜樂拜ハ不候ナリケリ者。被思渡踏哥歟。御酒勅使六角宰相。宣命使右大弁。不略揖。宣命拜了。右大弁復座。内弁以下進立軒廊。不歸昇。就祿所給祿退出。被略還昇。猶内弁許可被昇歟。

候節會座人々。

内府。雅。左大將。師長。大宮大納言。隆季。供膳間退出。左衞門督。實國。右兵衞督。兼雅。予。修理大夫。成頼。六角宰相。家通。右大弁。宗綱。

承安二年正月一日。庚午。陰晴不定。時々小雨。雪イ未一點參攝政殿。主客再拜。令參七條殿給。中御門花山兩納言、扈從云々。予有女院拜禮。今案、以拜禮儀在歟。次參内。人々被候殿上。有小朝拜事。今案。其儀在別。次有節會。頭中將實宗イ朝臣。仰内弁於内府。内府起座。於陣後令府生重種押笏紙。着端座令敷軾。召外記。師尚頼業不出仕。除夜依妻事也。參上。被問諸司具否。又召外任奏。師尚於敷政門内插笏。取外任奏——披見持參之。内府披見之。此間師尚退歸。付頭中將被奏之。此後左大將以下起座。着外弁。大將雖出敷政門。不着外弁退出。三條大納言爲貫首。平大納言。大宮大納言。於軒廊密々被見内弁作法。予又在此内云々。内弁着兀子。不揖着之由。平大納言被示予。予不見及。謝座之時。予出于宣陽殿見之。當坤角壇練始。當日花門扉南柱左仗南頭練留。乾向拜。右廻迫胡床練歸。不及練始所練留昇殿。供膳之時。釆女入額間庇并母屋。内弁示之。其令入西間。昆屯之後入御。一獻國栖。令左大弁實綱。起座。同下殿。依家禮也。雖也、予爲見參宣命之後作法下殿。内弁陣端座。元座也。懸片尻。左足乍着靴引上。向東被居。下垂尻被添置地上。召内記。内記插宣命於杖持參之。内府取之。内記退歸。内府披見之。被置前疊上。次召外記。外記插見參

持參之。內府取之披見之。相加宣命給外記。外記加插之退立。內府就御所奏聞。被歸立軒廊。西面。開イ北門邊イ南面。外記奏宣命。內府懷中笏拔取之。返給見參於外記。取宣命。了副笏昇殿。此後予退出。後聞。宣命使新宰相。

安元三年正月一日壬寅。天晴。小雪時々飛散。今日不出仕。無節會。依諒闇也。被行平座云々。傳聞。中宮大夫。隆季。藤大納言。實國。新中納言。實綱左宰相中將。實家。右大弁長方。參入。人々先候殿上。相率向陣。未居饌。仍人々俳佪陣腋。閑院儀。居饌了人々着座。大夫不被申事由。直被行云々。節會停止之由。宣下之故歟。但去十月平座。三條大納言實房。被奏歟。可行平座之由云々。一獻。少納言信季。着位袍。二獻。右少弁光雅。着橡袍。傳聞。此人口云。至于二盃者可着位袍。九月并元日者可着橡袍。此事依節會停止不可着位袍者。何有十九兩月之相違哉。抑仍元惟方同二年本也。元日着橡袍。一族內相違無何。不知可。居粉熟。三獻。右中弁經房朝臣。着橡袍。四位弁勸盃之時。若猶自上臈可勸歟。後日相尋彼朝臣之處。無分明之答。此後左中弁重方朝臣。着橡。左少弁兼光。着位袍。雖參入不勤勸盃。權少外記清原良業跪小庭申云。氷樣御曆奏候。上卿日外記退歸。上卿被尋職事歟。左右少弁。及藏人次官等。皆以退出。仍召右中弁經房朝臣。無職事之時。奏事用殿上弁歟。不召六位。被奏曰。氷樣御曆奏令付內侍所候。經〔房〕朝臣奏之歸出仰云。聞。令。先度召之時持笏着軾參御所申此事由歸出之時不持笏。次大夫召外記。被仰可付內侍所之由。次人々退出。今日不奏見參。是諒闇之例也。但為代始之時。諒闇以後初度平座云々。又舊例非代始。或有奏例。或不奏。而近代非代始之時不奏者也。

治承二年正月一日丙申。陰晴不定。申刻以後。時時小雨。午終剋着束帶。飾劔。樋文帶。魚袋。參關白殿。今案行粧等見拜禮。扈從參院。今案已上拜禮之儀在別。拜禮了參皇嘉門院。即退歸。

後開。有小朝拜事。了（今案。其儀在別。）内府等。土御門大納言。花山院中納言。左衛門督退出。次有節會。御靴出來。仍供之。（今案。小朝拜之時。修理未出來。供御草鞋。）中宮大夫内弁。右宰相中將　御酒勅使。新宰相中將　宣命使云々。

治承三年己亥正月一日庚申。陰晴不定。午剋參太政大臣殿。未剋參關白殿。扈從參院。（今案。以上拜禮儀在別。）次參皇嘉門院。退出歸亭。今夜不參内。

後聞。小朝拜節會之時。左大臣大將退出。三條大納言奉内弁初度（參イ）也。或人曰。内弁不尋闈司着否之由。御酒勅使。宣命使六角宰相云々。

右少將隆房朝臣束宮警將也。然垂纓帶野劍引陣云々。左少將時實朝臣同爲警將。不可引陣之由予諷諫。案此事。爲宮司之將佐。從本宮役難准歟。仰可警衛青宮之由被差進了。雖同所。何離彼宮可加本陣哉。至于本宮役。卽爲彼宮中勿論之由所存也。仍示此旨了。愚案如此。凡今日出仕警將佐闕腋如恒。卷纓相具平胡籙。左少弁時實。左兵衛佐盛實。右兵衛佐基範（先日父卿問予。）等如此云々。右少將隆房朝臣垂纓。

予雜色車副牛童衣服。守新制之法。諸人只如例年。近年不及斷之。有法不行。不如無法。已此謂歟。

予歸之後。給酒肴（一瓶。肴盛大土器居折敷。）於看督長火長。

養和二年正月一日。節會事無所見。

元暦二年正月一日乙酉。陰晴不定。未始剋着束帶參攝政亭。（五條南。東洞院西。）前駈四人。（前河内守忠泰。散位左以季。盛房。邦長。）少將兼宗朝臣。右少將忠季在共。予着寢殿南面。拜禮了（今案詞也。但不審其心。）參院。又拜禮了參内。（以上閑院。於河原擧松明。）有小朝拜事。（今案。以上拜禮小朝拜儀在其部矣。）了自上退入。改着淺沓。予以下着陣。或又不着。頭中將（通資、）

來。予向座下居直。中將仰內弁。（其詞曰。內弁ニ候ヘ。故實候字不聞。）予微音稱唯。（其音不聞。）中將退。予如元居直。揖起座。着脊脊端座。直脊召官人。令敷軾。官人退。又召官人。仰云。大外記。（官人敷軾之時可仰也。然者元日內弁爲初度。仍不省略也。去年大嘗會長日。內弁左二退出後行之。於四度節會內弁者。今日始承之。）大外記賴業眞人着軾。予問曰。諸司ハ候ヤ。賴業曰。候。予又問曰。諸司奏ハ候ヤ。申云。候。予曰。令候ヨ。賴業稱唯。（賴業耳不聞。兩三度問之。）予又曰。外任奏持參ヽ。賴業曰。國司不候。仍奏不候。予曰。近代此奏爲流例。猶令奏可官也。賴業退入。此間召官人。令催立明。主殿官人取松明。候北立蔀下。即令權少外記景方進外任奏。入莒。予在莒內披懸紙。立一陪押折（端方在右。左イ）披見之。（不高持笏。）如元卷之置莒內。外記欲取之。予留之。外記退。次召官人。官人來。予仰云。頭中將召之。過簀、此方ニ。（經柱內。）即中將來。予授莒曰。外任奏又諸司奏付內侍所候。中將奏了返下。予披懸紙（如元。）取文。頓於奥座披之。押合於前方。氣色頭中

將。仰云。令候列ヨ、（只列仰之。故實也。令候之字不聞也。）予稱唯。又仰云。諸司奏可付內侍所之由聞食ツ。次予令官人召外記。外記景方跪小庭。予目之。外記稱唯着軾。予給外任奏莒。仰云。列ニ。諸司奏內侍所ニ。外記稱唯退。（先仰外任奏事。外記稱唯。可仰諸司奏事。）此間右大將被起座。外記奉仰之間也。非欲着外弁歟。早速。仍予示權中納言兼房曰。今ハ外弁ニ。納言以下起座。藤中納言。（資能）新中納言。（經房。共不着陣）兩人左大弁兼光。右少弁定長。少納言師廣着外弁。自陣俳佪御殿庇云々。爲見予作法歟。予起座。出宜仁門代外。着靴。（前ニ持參之）又令官人召外記。令押笏紙。（取宛笏紙於笏給下方。外記跪予前。抑笏自懷中取出續互押之返上之。後日忠季曰。見參松殿之次。尋申云押笏紙事。移着座之時歟。又着靴之時歟。被仰云。兩儀也。一條殿ナトハ被移着座之時被押之也。予案此事。兩度不出宜仁門。着靴之間令押之。不餘時剋之儀也。此儀存可宜之由。故花山院左大臣殿御所爲又如此。）歸入宜仁門代。進立中門。主殿寮取松明在前。問引陣哉之由於左曹大石久直。（應頭也。自陣取予裾相從也。予仰云。候軒廊之邊。仰事等可仰次者。）久直進出。尋見之。即歸來曰。南殿御裝束不懸御簾。頭中將忽

驚。尋降職宿禰。宿禰曰。不可有出御之由。未被仰下。仍不懸御簾也者。頭中將曰。依御忌月不可有出御。何今更被仰之哉。降職云。每度可被仰下之由所存也。但御簾所相設也。今日裝束司右中弁光長朝臣不出仕。降職所申無其謂。如此之間良久。仍予召降職。早々可懸之由仰之。暫之依爲便宜所。候小板敷。御簾懸了後。降職來無名門外、御簾懸了之由。予進立中門。近衛引陣。予着宜陽殿代兀子。中門北披第二間。內侍臨東檻。依晴儀不見。令久直見之。久直告示之。予立少磬折。微音稱唯。立直揖。經東對南庭。入軒廊東間。透渡殿板敷。廊有件二間。久直懸予裾於勿。予立歸。出同間謝座。自殿巽進南一許丈之程練始。其所有樹。其南方大略計當御殿路程也。至于左近陣頭。當時胡床南去七許尺。西六許寸云々乍西向揖、右足退。乾再拜。先突左膝、更禮。儀式先二膝、此事中大相國。猶可突一々之由被答仰。但隨被御命云々次一揖。右回至初所練留。後日忠季曰。如何忠季申曰片足ヲヒトシメテ練旨被仰者花山相國如此、又三條大相國上如此被練云々歸入軒廊東間。此間悤息兩將無胡床。依予出退入歟。予昇東階。刷南柱。先左歟。入東戶。着床子。欲入母屋東一間。兀子遁柱無路。仍入二間第二臺盤上方。上官着階下座。予曰。開門ハ仕タルカ。此事或開門仕レ、中前大相國之處被仰云。內弁非可下知事猶寺之詞可宜也者階被仰了。後日忠季此兩說奉問松殿。仰曰。內弁行諸事。開門事內弁何不知之。然者仕レト可仰之、又闈司罷寄レト可仰也者。又曰。右大臣兼被勸內弁之時。於閉陰上方、顧テ仰開門之由申之。松殿被仰云、抑隊也者、非南門之故歟。久直申云、開門仕テ候。中門開之鳴扉。予又曰。闈司罷寄ヌカ。久直曰。闈司罷寄テ候。次予召舍人。二音。中間三息也。又召音トネ開長。ネリ間短。リ字尻上召之。大舍人於中門外稱唯。少納言師廣就版。久直申云。少納言罷寄テ候。予宣曰。大夫達召世。少納言稱唯退。諸卿立標。賴實。定能、經房。兼光等卿也。賴實不參外弁自中門相加之予曰。敷尹、諸卿再拜。造酒授空盞儀如恒、諸卿着座。不立列之人、自軒廊密々相加。右大將權中納言左大弁着南座。左衛門督殿中納言、左兵衛督、藤宰相中將着北座。自餘退出松予朗下殿。催餛飩。此次飯汁物早可居之由。仰內豎歸昇。昇降階間。副南北座之、、昇時副南當時副北。此事宇治左府慥被示之由前大相國所被仰也他人或如此。或雖着南座。降時副北。昆屯居了。左大弁氣色。予以下次第立箸。了取上如食之。次予示左大弁曰。大弁欲起

座。予示曰。只午座。弁召内竪仰之。即居之。伏毘屯箸。内竪撤毘屯居飯也。雖無其人。予命内竪。令居大臣座。是例也。次示左大弁曰。汁。（此事居飯之時。汁早可居之由可仰也。其時不仰。仍仰大弁。）居汁。大弁申上之。箸下。次予示大弁曰。一獻。此後左兵衛督退出。次予伏箸下殿。立軒廊西一間。（與南柱平頭。）令官人（久直本自在軒廊。）召外記。權少外記景方來。跪南砌外。予仰曰。國栖。外記稱唯退催之。有國栖奏。依御忌月不奏笛。此間予昇東階。着座立箸。次傳大弁。催二獻。左衛門督落盃。返尻坑許於内竪。次内竪自臺盤下求出之。次予伏箸取笏。問在座之參議於右大將。召曰。左之於保大輔大ク藤原朝臣。開左字。藤宰相中將欲起座。予示曰。左大弁。仍又右大將被示告。左大弁來予後。予仰云。大夫達爾御酒給江。左大弁左廻下殿。召取交名。進立南簀子。一顧退復座。（可一顧與。）予仰了。即置笏立箸。此間右大將退出。次令大弁催三獻。次予伏箸着陣。（懸片尻。左足踏地。右足引上。）軾爲雜色被引遣柱下。官人取之敷予前。令官人内記宣命可持參仰之。少内記持參（横挿。）跪小庭。予目之。外記稱唯着軾。予以左右手拔取之披見之。（攝政以下見參有懸紙。殿上非侍從見參無懸紙。）外記籠見參二通於懸紙内。縱挿片鳥口。令片鳥口同縱挿宣命退立。予就無名門代外。頭中將出逢。予欲挿笏。懷中取杖。外記跪献之。予取之。見參落文返給令挿之。授頭中將。奏了返給。（先給文。次給杖。不可然。取加可返授之。）予取之。取加文於杖給外記。外記挿之。予取笏。至于寄予前。予挿笏於左膝前方。以左右手拔取宣命。（不拔見參。）副笏昇殿着座。召宣命使曰。左ノ近イ守ノ司ノ大介―藤原朝臣。藤宰相中將來後。予取宣命上三寸許於右手。微々給之。中將取之。右廻復座。予以下々殿。列立左近陣巽邊。（北上西面。）宣命使宣制二段。諸卿拜。（一段再拜。一段拜舞。）宣命使留立軒廊。予至于此所。宰相中將曰。可復座歟。予曰。可然也。仍着座。相次予着座。他

人不昇。予伏箸下殿。爲初度之上。内弁宣命使打任可復座。又後無出御。可隨宜。至予中門下尋祿。召使曰。諸國不濟。仍不候云々。予於中門外着淺履退出。于時子刻。

上臈不被出仕事。

左大臣。經。無殊障。舊年官奏兩夜參陣之間。窮屈無爲術由被命。

右大臣。兼。近年不被出仕。又常有所勞。去年辭状上表也。雖被返給。猶不被出。

内大臣。實。去年十一月所勞被辭申左大將。雖返給猶不被出仕。

源大納言。定房。不知由緒。

皇后宮大夫。實房。不知由緒。

中御門大納言。宗家。不知由緒。

權中納言。兼雅。辭状除夜被下。

後日新中納言經房被來。曰。三日參左府。對面之次。予内弁事何樣ニカ人申旨尋被申。答曰。奈仁志仁加和呂加良牟者。申云。荒凉ニ候。不必然事也。被命云。近代世爾兩三人之内爾被計人也。不可有失也。練樣神妙ナリケリ。但前大相國ニハ不似ケリ。

文治四年正月一日丁酉。陰晴不定。時々小雨。節會内弁右大臣。實。外弁内大臣。良。着座之後。内府。右大將實房。早出。右府被讓内弁於新大納言。實家。此人未勤内弁。

予腰病猶不快。仍不出仕。

建久五年正月一日癸亥。陰晴不定。節會諸卿着陣。依人數多。平中納言。親宗。左衞門督隆房。着端座。後日左大臣實房。被示左大弁定長。由。如仗儀者可然也。今日強無其用。不可着軾者。内弁謝座云々。

後大宮大納言實宗。以下着外弁。少納言親家召諸卿。宣命使新宰相中將。忠宗。御酒勅使。實明。兩人初度役。内弁令左大弁定長。令催國栖。哥笛共奏之。爲御忌日奏哥。不奏笛也。

本ハ
文安五年十月廿五日。申出仙洞御本。加書寫

了。

正三位行權中納言兼右衞門督藤原朝臣(持季卿)

享德元年後八月十一日晚頭。借請權大納言(持季)卿。本。同十三日早朝終寫之功了。但件本有不審事。追可直也。

參議從三位行右大弁藤原朝臣親長

〔以宮內省圖書寮本加一校畢〕

元日宴會次第

當日裝束司奉仕南殿以下御裝束。(其儀見記文。)

中務置宣命版。(尋常版北去一許丈。)

式部立標。(異位重行。)

外記催諸司藏人內侍闈司女官等。

小朝拜了。諸卿參着仗座。(一上直端。)

次職事仰內弁。(一上不仰之。)

次內弁移端座。令官人敷軾。

次內弁召外記。問諸司并諸司奏。(每問外記申候由。)

次問外任奏。(外記申候由。)

次外記持參外任奏。(入筥。)

次內弁召職事。進外任奏。

職事於臺盤所簀子。付內侍奏聞之。(先內覽。)

御覽畢返給。(被仰可候列之由。)

內弁結申之。

次內弁召外記。賜外任奏。(外記結申。)

次諸卿着外弁。

此間　主上着御々裝束。(黃櫨染御袍。)

渡御南殿。

自朝餉北障子戶令出給。經御帳前。自額間出御。

關白褰御簾。取御下襲裾。

藏人頭獻御插鞋。

內侍取劍璽。經朝餉鬼間等。出殿庇。候前後。(近衞次將扶持之。)威儀女房扈從。(六位藏人扶持之。)

藏人持式莒御靴等候御共。臨暗者。殿上侍臣

秉脂燭先行。
降御簀子南行。（諸司敷筵道布單。）經長橋。自御殿北面西妻戶令入給。引陣之間。暫御北庇御倚子。（南面。）此間脫御插鞋。着御々靴。藏人頭獻之。
次近仗引陣。
次出御。
先內侍自御帳東。置劍璽於東置物机退。候御帳艮邊。
藏人自西置式莒於西机上。次着御帳中御倚子。（自西。）藏人頭褰御帳從帷。（後略）
關白帖置御裾退。候御帳東方。
近仗稱警蹕。了立椅居胡床。
次內弁着宜陽殿兀子。
次內侍臨西檻召人。（職事扶持之。）
次內弁謝座。參上着座。
次開門。
次闈司着。
次內弁召舍人。（二音。）
大舍人稱唯。
次少納言着版。
次內弁宣。大夫達召。
少納言稱唯。出召之。
次外弁參列。
諸仗立。
次內弁宣。侍座。
群臣再拜。
次造酒正持空盞。授外弁上首。
群臣再拜。了昇殿着座。此間諸仗居。
次陪膳采女參上。撤御臺盤帊。着草塾。
次供威儀御膳。（八盤。）
內膳司稱警蹕。自南階供之。役送采女等傳取之。次第傳陪膳供之。
此間群臣諸仗起。供了居。遲々時。內膳別當

下殿催之。別當不候者。內弁下殿催之。或仰參議催之。
次供[illegible]四盤。
[illegible]附供之。
[illegible]不起。
[illegible]弁仰職事催之。
次[illegible]飩。
內弁仰參議催之。
居了內弁候　天氣。
次御箸下。
以御扇令鳴馬頭盤御箸給。
臣下應之。
次供蚫羹。便撤素餅。
次供御飯。便撤餛飩。
次供進物所御菜。
次供御厨子所御菜。
次賜臣下飯汁。
內弁仰參議催之。

居了內弁申上如初。
次御箸鳴。
臣下應之。
次供三節御酒。
次賜臣下。
次供一獻。自東階供之。
陪膳采女取御酒盞獻之。
主上自取御。則返給。
次賜臣下一獻。
內弁仰參議催之。
次國栖奏。
內弁下殿催之。歌笛一節了復座。
次二獻。
次賜臣下。
內弁仰參議催之。
次御酒勅使。
內弁奏事由。

主上目御。
內弁召參議仰之。參議下殿。（安殿歟）召名參上。作法了復座。早入御時。不奏直仰之。
次三獻。
次賜臣下。
內弁仰參議催之。
次立樂。
內弁下殿催之。或仰參議催之。
治部雅樂立庭中。各奏二曲。先奏參入音聲。次奏大唐高麗兩曲。
舞了奏退出音聲。退出。
次內弁就陣。見宣命見參。於軒廊取文杖參上。就御屏風南妻奏之。
內侍出迎取之。自御帳西奏聞。
御覽了返給。不挿杖。
內侍歸。出御屏風南妻返給之。內弁取之退下。給見參於外記。取宣命復座。入御時。內弁就弓場殿。付職事奏之。
次內弁召參議。給宣命。
次諸卿下殿。
次宣命拜。
宣制一段。群臣再拜。
又一段。群臣拜舞。
次群臣復座。
次入御。但刻限不定。
群臣警（蹕歟）折起座前。
於御從脫御靴。着御々草鞋。藏人頭獻之。關白候御裾。內侍取劔璽。藏人取式莒。女藏人等供奉儀。如出御時。白地入御之時。不取劔璽。內侍出御屏風。示其由。
次內弁以下々殿。到月華門下。跪芦蓆上給祿。乍居一拜退出。
一條殿冬良公以自筆大寫之者也

慶長十七年十二月廿六日　資胤

【以宮内省圖書寮本加一校畢】

元日節會次第 内弁作法

午刻著束帶參内。魚袋餝劔。有文巡方帶。具笏紙鞋等。

隨身府生束帶。番長以下褐冠。狩袴。左二藍。右蘇木。近衞紅梅袴。無隨身之人ハ具衞府長。番長官人歟。束帶。但大納言之時布衣歟。

著殿上。依可有小朝拜也。大臣入無名門。昇自小板敷。納言入無名門并神仙門。昇自沓脱。奧端相分著座。番長之外。不可入小庭。

次有小朝拜事。

次入宣仁門。著仗座。

一ノ上先於宣仁門外押笏紙。直著端座。已次大臣以下不押笏紙著端座。笏紙有隨身之人。使隨身押之。無隨身之人。召六位外記。於前令押之。上置一寸二三分。豫令持續飯於隨身也。

著陣座作法。執政臣爲左大臣。右大臣行一上事之時。猶可仰内弁。執政左大臣ノ時ハ。其事繁閒右大臣必一上事ヲ沙汰スル也。然間左大臣時内弁別勅タル也。

一ノ上ハ直ニ著端座。若爲右大臣内大臣。蒙一上宣旨可著端也。

其儀經柱内向端座。揖脱沓。懸右膝著座。則直右足。乍西面揖。次直左足。居向座下方。南面也。

以左手樛置裾於板敷端。裾末可垂之故實也。今度クダサンタメ也。見目サマヨキ也。

已次大臣納言先著奧座。承内弁之後。移著端座。

次召官人。二音。不引聲。内弁仰云。軾。此次仰云。沓直。官人不候時。以隨身令置軾。寬治七正十六江記内弁内府。

外任奏トハ諸國守也正月自諸國奏之

外任奏返給。内弁結申。一説不結申。保延五正十六宇治□。但於文者披見不可結歟。職事仰云。令候列ヨ。内弁微唯。卷文如本加禮紙。私案。卷文之時。聊紙端ヲ左手ニ引懸テ可卷之歟。

内弁起座。於宣仁門外著靴。非一上之人勤仕内弁者。此次令押笏紙。以隨身若六位外記令押之。

或承内弁。移著外座之次。著於宣仁門外。押笏紙著外座。此異説也。内弁及座度者可用也。承安五年白馬節會。内弁月輪殿。有此御作法。

内弁謝座。昇殿著座。内侍居階上之間。内弁敬折。隨身在中門ト。不進立云々。此間隨身止

前。近衛上﨟令懸下重裾。見承元四正一玉葉。或番長令懸之了、
其儀立兀子前敬折。微音稱唯揖。自砌上北
行。入軒廊西端。留立西第二間。刷衣裳平緒
等。隨身若官人相從。暫容止。出同間南行。於橘樹坤程
練始。斜東行。スチカヘテ東ヘ練行ハ。退入之時下襲ノ翻也。仍事外南ヘ練出東ヘ練廻。故實也。
到右仗南頭。去南一許丈進東一許尺。□只著□胡床向。或只見許。知足院殿如此。一說與陣平頭立。
承五一二步步退テ立實也留立。東面一揖。立直向艮。引左足於坤方也。再拜。
白］先突左膝起時右膝。一說、右膝。乍向艮一揖。訖兩三步許。同方
サマ爾練出テ。大輪ニ左旋、先右足多進之。次左足頗少進之。兩足進出寸
法不同也。斜練行。於練始所練留。歸入軒廊內東進。此間東面立。刷衣裳。
昇西階。傍南欄。以右足爲先。不歷階。經南廂西面戶。座下足先進也。自
母屋柱外。里內柱內無便宜也。入當間著兀子。北面驗母屋自座下方著之。先立座前揖而
居。計我座著之。大臣南面兀子。納言緣端兀子。大臣ノハ南面也。南面トハ緣物ノ緣也。納言ノハ淺黃緣也。謝
座之間。隨身等在軒廊南庭。練留之後不追
前。歸入之時又追之。或拜了練之間追前。兩
說也。見承安御記。寬元四。白馬退歸之間。衛府長兼
躬東帶。直下重裾。

拜時向方事。揖拜共向艮。雖略說秘說也。揖テ共向東。下品說也。
開門。開承明門。里內西禮開月華門。里ハ或不被開門。依無承明門也。
闈司ハ門守鎰アツカリ也。女官也。
外弁王卿—。王卿ハ親王公卿也。標ハ版也。
一床子。ナカキ床子ハ一間ハカリナレハ。三人
着之。端ノ人著ハ。前ハ臺盤與著人サワル
間。靴ヲ著ナカラ。兀子越テ著也。片膝ヲツ
キ床子ヘノホル。然後前ヘヲルヽ也。
三節御酒了。三盃三度往反。十鈔長曆三正十六。不可及三度。衍觴一度可仕由仰采女云々。
供一獻。內弁每度仰三儀催之。其詞一獻トフ。
賜臣下。兩行唱ニ。內豎唱之。近年ナシ。
御酒勅使。地下ノ樂酒ヲ賜也。
內弁著陣。見宜命見參。立樂三四曲之間起座。
其儀拔笏取笏揖。降西階。出軒廊。著陣端座。
年著靴懸尻於敷端。南面居。令官人置軾。以官人仰內記可持
參宣命之由。置軾之次仰也。次內記插宣命於杖持參。
內弁置笏取文置前了。內記座定。披見了置

前。目内記。内記取空杖出幔外了。次以官人仰外記可持參見參之由。次外記六位。持參之。挿杖。候小庭。内弁目之。弁記稱唯。進著軾奉文。見參二通。元日無祿法。卷一禮紙挿一枚。次侍從參議以上非侍從一通。外記暫候軾。内弁置笏取文置前披見。如本卷之。非侍從見參卷加。次侍從見參、懸紙祿法同卷加云。相加宣命。一度給外記。外記取之。挿一枚。片鳥口縱挿宣命。卷終當合片鳥口也。次以見參等二通卷二禮紙、挿合片鳥口。同縱挿也。指入書二通之間也。卷終當宣命。退候小庭。

次奏聞了復座。

其儀伴外記經小庭。進立軒廊東一間。南面。指笏取杖。挾右腋。兩手間一尺五六寸計。表衣前下程。劒柄上程持之。鳥口當口程也。昇西階南頭。自簀子北行。入西庇南妻北進。入母屋北小間東行。到屏風南妻留立。不到屏風三尺許。内侍出向。内弁取立杖。三步許步寄。藏身於御屏風。以右手付内侍。了兩三步許退。拔笏左廻。至北障子西第二柱下。右廻向東立。或巽面無揖。自母屋西柱第二柱也。御覽了。内侍取加宣命見參於杖進出。内弁參進。不徐步。挿笏如初三步許進寄。以右手取之。又兩步步退。右手ニ取文。以右手取杖文上。頗チカヘサマニ杖取加。以左大指押上杖。右廻經本路。傍西階北欄。立本所。取杖所南面外記豫候。右手持宣命。以左手取加見參與杖。給外記。了取副宣命於笏復座。入御時進弓場。路間[illegible]身[illegible]前[illegible]近衛[illegible]見[illegible]日記付職事奏之。起陣座。出宣仁門。立弓場殿。當無名門北面。職事來向。内弁指笏。取文杖授之。拔笏立。御覽了返給。文與杖取加之。内弁指笏取之。給外記。經本路。外記相從。至軒廊東一間南面。立。外記自西方進書杖。如常挿書。内弁挾笏於左腋取文。披見端許返給。見參了。取副宣命於笏。昇殿著座。

次召參議一人賜宣命。付詞同御酒勅使。但不奏。參議進立内弁後。内弁乍持笏於右手。以左手取宣命。文頭上程。自座下方袖ニ藏樣ニテ。微微給之。以文下爲使方。參議如指笏取之復座。

宣命使下殿就版。尋常版外節會ノ版ヲ置副也。版八筵ノ中央ノシルシナリ。其儀不ノウヘニ宮ノ蓋ノ如ヲオフ也。

雨儀。入御後於弓場以職事可仰之歟。

未始事以前雨降者。內弁於陣座招職事。奏外任奏次有便。奏云。御裝束用雨儀。敕許之後。召裝束司弁仰下之。無裝束司弁者。召他弁仰也。儀始之後雨降者。降立軒廊。招職事奏之。召弁仰也。

近仗在日月華門。

內弁謝座儀。

立兀子前敬折。微音稱唯揖。兀子南兩三步非傍行。留立。兀子南柱南頭。劔不礙柱之程也。柱外壇上也。向東揖。再拜又揖。左廻經軒廊。昇殿著座。保安元正月一日。或說。敬折微唯不揖。南傍行一二步不揖。向艮不揖。再拜了揖。參上。永治元年正月一日。

催開門闈司事。顧座下催之。

外弁公卿不經床子座前。

奏宣命見參事。

入御之時。出宣仁門。立陣座西壁下。招職事奏之。

宣命拜。經軒廊西間宜陽殿壇上。列立同殿東廂柱內。北上東面。下﨟經上﨟後。宣命使自東壇上南行就版。宣制之間。推合左。或右。左廻復座。

供御膳事。自東階供之。諸卿不立。不警蹕。雅樂於月花門壇上奏舞。

續內弁事。降立軒廊。召外記令押笏紙。

一攝關內弁事。

昭宣公。

貞信公。承平三正七。同四正一。同五正一。攝政左大臣。

知足院殿。天仁元。大嘗會辰日。攝政右大臣。

後光明峯寺。建治元。文永十二正七。攝政左大臣。

芬陀利華院。文保三正十六。關白內大臣。

後芬陀華院。曆應二正七。關白左大臣。

後報恩院。延文四正十六。關白左大臣。

是心院。應安三正七。關白右大臣。

後福光園。永德四正七。攝政太政大臣。

故殿下。應永二正十六。關白左大臣。

福照院。　同十七正。　關白內大臣。
後三緣院。　同廿六正一。　關白左大臣。
早出事。　拔箸匕起座。參御所方。或直退出。
天仁元。以奉行職事。賜笏於民部卿。內弁可繼之由仰之。
文永十二。叙位宣命之後早出。
文保三。三獻立樂了早出。
曆應二。白馬渡之後早出。讓內弁於新大納言。公重。
永德四。中納言賜叙位宣命。復座之後早出。
應永二。國栖奏了早出。
應安三。叙位宣命拜以前早出。於臺盤所召職事俊任。被授笏紙於藤中納言。
老拜事。
永久元正。左大臣俊房公謝座幷。只一拜乍居地揖被立云云。八旬之人作法如此歟。
一召少納言作法事。
天治二正一。師時記。下官不著外弁。少納言師清始勤召役。其間事可助成故也。公卿著後。少納言弁著床子。雖下﨟少納言先著。經床子後起面揖居。內弁召大舍人。稱唯畢。少納言起揖。出自幔門。入自中門。頗向坤步。更向乾趍。就版位去一尺許。揖時先示イ巾子當版程也。揖。內弁宣。不聞。左近府生久末告召由。此後敬折逆行。左足。次右足。次左足。與右手等。稱唯又揖。左廻退出。經幔北出東。去幔於三尺許向南。頗敬折。向公卿。自上至三人。向顏右廻入幔中。當中門中央立。劔尻當幔立。揖更又敬折稱唯。未稱之。先外弁引入。仍更歸出。無請揖之儀。不待稱唯進給事。頗失也。別當云。召少納言。召公卿時經幔南云々。
懸御簾出御儀。
近仗稱警蹕。諸司奏付內侍所。
從西階供御膳。卷西第一間御簾。爲供進之道。
御酒敕使經座末。就北簾南端。付內侍奏之。
小却待。宣命見參進同所。付內侍。退立如常。
遲參王卿。內弁令藏人奏。

無出御儀。御忌月。御物忌。萬機旬以前。
御裝束事。其儀見端。懸御簾。
不供御膳。不立御臺盤。
天皇不出御南殿。近仗引陣。直著胡床。御酒
勅使不奏。直仰之。
宣命見參於陣見了。進立弓場奏聞。遲參王卿
令藏人奏聞之。
御忌月時。可止歌笛音奏由。兼被宣下。
諸司奏事。
御暦奏。
延喜中務式云。所司開豐樂儀鸞兩門。其後宮
人率陰陽寮。入自建春門。進七曜御暦。建春門北。朱記云。謂東廊通當北第七門云々。同陰陽式云。凡進暦者云々。其
七曜ノ御暦ハ。正月一日候承明門外。并見儀式。
案之。元日宴。所司開門之後。中務省率陰
陽寮奏之。豐樂門儀見儀式。紫宸殿儀見清涼□（記歟）已下書。
暦者。漢書律暦志曰。黃帝造暦。世本云。容
成造暦。
氷樣腹赤等奏。付出氷并腹赤事。
延喜宮內省式云。凡藏氷之處。收氷多少。及
氷厚薄。每處具錄。元日群臣未喚之前。省輔
已上。將本司人奏。并進氷樣。其詞曰。宮內省
申久。主水司能今年收太留氷合若干處。氷若
干屋。厚若干寸已下。若干寸已上。益自去年
若干室。減自去年若干室。供奉禮留事申給。又
太宰府進禮留腹赤乃御贄一雙。長若干尺。進
樂久乎。申給登申。

〔以宮內省圖書寮本加一校畢〕

齋藤松太郎
大和田五月
藤倉喜代丸
三宅松之允
校

明治四十二年二月十一日印刷
明治四十二年二月十五日發行
昭和十二年九月十五日五版發行
昭和十五年十二月二十日六版發行

發行者　東京市豊島區池袋二丁目一〇〇八
續群書類從完成會代表者
太田藤四郎

印刷者　東京市淀橋區戸塚町一丁目一〇九
永島喜代次郎

印刷所　東京市淀橋區戸塚町一丁目一〇九
新英社印刷所

發行所　東京市豊島區池袋二丁目一〇〇八
續群書類從完成會
振替東京六二六〇七　電話大塚七一一八